新潟県埋蔵文化財調査報告書　第288集

一般国道８号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書18

丘 江 遺 跡 Ⅴ　第７次調査

一般国道17号

浦佐バイパス関係発掘調査報告書３

工　田　遺　跡

２０２０

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道８号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書18

丘江（おかえ）遺跡Ⅴ　第７次調査

一般国道17号

浦佐バイパス関係発掘調査報告書３

工田（たくみだ）遺跡

２０２０

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、2018（平成 30）年に調査した一般国道８号柏崎バイパス関連の丘江遺跡と一般国道 17 号浦佐バイパス関連の工田遺跡の発掘調査報告書です。

丘江遺跡は柏崎平野の中央部西寄りに位置しています。今回の調査は遺跡の南端にあたり、鎌倉から室町時代の集落がみつかりました。溝を巡らせた屋敷地や多数の井戸を検出し、出土品には日用雑器に混じり青磁・白磁といった輸入磁器や茶道具の天目茶碗・茶臼などがあります。当時、この地域を領有していた毛利安田氏の集落造営や人々の生活の様子がうかがえます。

工田遺跡は魚沼市の南部にある三用川右岸の低地に位置しています。調査により複数枚の中世に造営された水田跡がみつかりました。当遺跡は三用川の氾濫原にあたり、洪水による土砂や水辺環境で形成された腐植層が幾重にも厚く堆積しています。調査区でみつかった最も古い水田は鎌倉時代のものと推定され、地表下 1.7 ｍにありました。中世から現在に至るまでの度重なる洪水にもめげず、稲を作り続けた先人の苦労がうかがえます。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解を深める契機となれば幸いです。

この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた柏崎市教育委員会・魚沼市教育委員会並びに地元住民の方々、そして発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

令和２（2020）年３月

新潟県教育委員会

教育長　稲　荷　善　之

例　　言

1　本書は、新潟県柏崎市茨目３丁目に所在する丘江遺跡、魚沼市大浦字工田に所在する工田遺跡の発掘調査記録である。『丘江遺跡Ⅴ』は 2018（平成 30）年に実施した第７次の発掘調査で、丘江遺跡の５冊目の発掘調査報告書である。

2　丘江遺跡の発掘調査は一般国道８号柏崎バイパスの建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。工田遺跡の発掘調査は一般国道 17 号浦佐バイパスの建設に伴い、国交省から県教委が受託したものである。

3　発掘調査は県教委が主体となり、公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社大石組に委託して、2018 年度に発掘調査を実施した。

4　整理及び報告書作成に係る作業は、株式会社大石組に委託して、2019 年度に実施した。

5　出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

6　遺物の注記は、調査年度（2018 年度）の下二桁「18」と丘江遺跡の略称「オカエ」、工田遺跡の略称「タクミ」を頭に付し、出土地点・遺構名・層位などを併記した。

7　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。

8　丘江遺跡の遺構番号は、種別に関係なく通し番号とし、調査年度間での重複を避けるため 16000 番から付した。

9　遺物番号は、丘江遺跡及び工田遺跡でそれぞれ通し番号とした。本文及び挿図・観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

10　引用・参考文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に丘江遺跡・工田遺跡をそれぞれ一括して掲載した。ただし、第Ⅰ章第６節及び第Ⅱ章第６節については各節末に掲載した。

11　作成した図版のうち、既存のものを使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

12　放射性炭素年代測定、樹種同定、種実同定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、骨同定をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

13　石見焼の墨書釈文については、渡部浩二氏をはじめとする新潟県立歴史博物館の方々から、釈文並びに内容について島根県古代文化センターの中安恵一氏、間野大丞氏から御教示いただいた。

14　石製品の石材は、長岡市立科学博物館の加藤正明氏に鑑定を依頼し、鑑定結果を本書で使わせていただいた。

15　本書の執筆は、鈴木俊成（埋文事業団）、南波　守・松井奈緒子（以上、株式会社大石組）、井上智仁・金井慎司・斉藤崇人・田中義文・馬場健司・松元美由紀（以上、パリノ・サーヴェイ株式会社）が以下の分担で行った。編集は南波　守が担当し、鈴木俊成が助言した。

鈴木俊成：第Ⅰ章１Ａ・Ｂ１）・Ｃ・Ｄ、７Ｅ、第Ⅱ章１Ａ・Ｂ１）・Ｃ・Ｄ
南波　守：第Ⅰ章１Ｂ２）、２、３、４、７Ｂ２）・Ｃ・Ｄ、第Ⅱ章１Ｂ２）、２、３、４、７Ｂ
松井奈緒子：第Ⅰ章５、７Ａ・Ｂ１）、第Ⅱ章５、７Ａ
井上智仁：第Ⅱ章６Ｅ　　金井慎司：第Ⅱ章６Ｈ　　斉藤崇人：第Ⅱ章６Ｆ
田中義文：第Ⅰ章６Ａ・Ｂ・Ｃ、第Ⅱ章６Ａ・Ｂ　　馬場健司：第Ⅱ章６Ｇ
松元美由紀：第Ⅰ章６Ｄ、第Ⅱ章６Ｄ

16　図版中の網掛けは、各図版に凡例を示した。

17　調査成果の一部は現地説明会資料（2018 年９月９日）、発掘調査報告会（魚沼市教育委員会主催：2019 年２月 24 日、埋文事業団主催：同年３月 10 日）、新潟県の遺跡 2018 展（2019 年３月５日～３月 17 日）、埋文事業団年報（2018 年度）、広報紙『埋文にいがた』No.104・109 で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。

18　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

19　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚く感謝申し上げる。（敬称略）

浅井勝利　　品田高志　　鶴巻康志　　水澤幸一
魚沼市教育委員会　　柏崎市教育委員会　　柏崎市立博物館　　魚沼市土地改良区　　柏崎土地改良区
柏崎市都市整備部都市政策課八号バイパス事業室
魚沼市大浦地区　　魚沼市虫野地区　　柏崎市茨目町内会　　柏崎市三和町内会

目　　次

第Ⅰ章　丘江遺跡Ⅴ …… 1

1　序　　説 …… 1
A　調査に至る経緯 …… 1
B　調査と整理作業の経過 …… 3
1）試掘確認調査 …… 3　2）本　調　査 …… 4
C　調　査　体　制 …… 6
1）試掘確認調査 …… 6　2）本　調　査 …… 6
D　整理作業と整理体制 …… 7
1）整　理　体　制 …… 7

2　遺跡の位置と環境 …… 7
A　地　理　的　環　境 …… 8
B　歴　史　的　環　境 …… 8

3　調　査　の　概　要 …… 12
A　グリッドの設定 …… 12
B　基　本　層　序 …… 13

4　遺　　構 …… 15
A　遺　構　の　概　要 …… 15
B　記　述　の　方　針 …… 15
C　分　　類 …… 16
D　各　　説 …… 19
1）土　　墨 …… 19　2）掘立柱建物・柵 …… 20
3）井　　戸 …… 24　4）土　　坑 …… 36
5）溝 …… 38　6）性格不明遺構 …… 42
7）ピ　ッ　ト …… 43　8）杭　　列 …… 44

5　遺　　物 …… 44
A　遺　物　の　概　要 …… 44
B　記述にあたって …… 45
C　各　　説 …… 46
1）土器・陶磁器 …… 46　2）石　製　品 …… 52
3）木製品ほか …… 55　4）金　属　製　品 …… 59

6　自然科学分析 …… 59
A　は　じ　め　に …… 59
B　放射性炭素年代測定 …… 59
1）試　　料 …… 59　2）分　析　方　法 …… 59
3）結　　果 …… 60
C　樹　種　同　定 …… 61
1）試　　料 …… 61　2）分　析　方　法 …… 61
3）結　　果 …… 61　4）考　　察 …… 63
D　種　実　同　定 …… 64
1）試　　料 …… 64　2）分　析　方　法 …… 66
3）結　　果 …… 66　4）考　　察 …… 71

7　ま　と　め …… 75
A　遺跡の景観（近世を中心に） …… 75
B　中世の遺物と遺構 …… 76
1）遺　　物 …… 76　2）遺　　構 …… 77
C　集落の構造と変遷 …… 80
D　中世の丘江遺跡とその周辺 …… 82
E　遺跡の評価 …… 82

第Ⅱ章　工田遺跡 …… 84
1　序　　説 …… 84
A　調査に至る経緯 …… 84
B　調査と整理作業の経過 …… 85
1）試掘調査 …… 85　2）本調査 …… 86
C　調査体制 …… 88
1）試掘調査 …… 88　2）本調査 …… 88
D　整理作業と整理体制 …… 89
1）整理体制 …… 89

2　遺跡の位置と環境 …… 89
A　地理的環境 …… 89
B　歴史的環境 …… 93

3　調査の概要 …… 94
A　グリッドの設定 …… 94
B　層　　序 …… 94

4　遺　　構 …… 98
A　遺構の概要 …… 98
B　記述の方針 …… 98
C　分　　類 …… 99
D　各　　説 …… 101
1）北区の遺構 …… 101　2）南区の遺構 …… 107

5　遺　　物 …… 108
A　遺物の概要 …… 108
B　遺構内出土遺物 …… 109
C　遺構外出土遺物 …… 110
D　試掘坑出土遺物 …… 111

6　自然科学分析 …… 111
A　はじめに …… 111
B　放射性炭素年代測定 …… 111
1）試　　料 …… 111　2）分析方法 …… 111
3）結果と考察 …… 112
C　樹種同定 …… 113
1）試　　料 …… 113　2）分析方法 …… 114
3）結　　果 …… 114　4）考　　察 …… 115
D　種実同定 …… 115
1）試　　料 …… 115　2）分析方法 …… 116
3）結　　果 …… 116　4）考　　察 …… 119

E 珪藻分析 …… 120
1）試料 …… 120　2）分析方法 …… 120
3）結果 …… 121　4）考察 …… 121
F 花粉分析 …… 123
1）試料 …… 123　2）分析方法 …… 123
3）結果 …… 123　4）考察 …… 124
G 植物珪酸体分析 …… 125
1）試料 …… 125　2）分析方法 …… 126
3）結果 …… 126　4）考察 …… 128
H 骨同定 …… 129
1）試料 …… 129　2）分析方法 …… 129
3）結果及び考察 …… 129

7 まとめ …… 131
A 杭列について …… 131
1）概要 …… 131　2）西杭列 …… 133
3）中央杭列 …… 133　4）東杭列 …… 133
5）小結 …… 133
B 水田について …… 134
1）県内の中世水田遺跡 …… 134　2）主な水田耕作面の状況 …… 135
3）小結 …… 138

《引用・参考文献》 …… 139
丘江遺跡Ⅴ …… 139
工田遺跡 …… 141

《観察表》 …… 143
丘江遺跡Ⅴ …… 143
遺構観察表 …… 143
遺物観察表 …… 159
工田遺跡 …… 165
遺構観察表 …… 165
遺物観察表 …… 166

挿図目次

第1図 柏崎バイパスと遺跡の位置1 …… 1
第2図 柏崎バイパスと遺跡の位置2 …… 2
第3図 試掘確認調査試掘坑位置図 …… 3
第4図 トレンチ位置図 …… 5
第5図 柏崎周辺の地形 …… 9
第6図 遺跡周辺の地形 …… 10
第7図 周辺の遺跡 …… 11
第8図 グリッド設定図 …… 13
第9図 層序模式図 …… 14
第10図 基本層序と位置図 …… 15
第11図 遺構の平面・断面形態の分類 …… 17
第12図 遺構埋土の堆積形状の分類 …… 17
第13図 掘立柱建物形式分類 …… 17
第14図 掘立柱建物の部位名称
・計測部位・表現方法 …… 17
第15図 土塁断面図 …… 19
第16図 土師質土器皿の分類 …… 45
第17図 木取りの分類 …… 45
第18図 木製品の表現方法 …… 46
第19図 暦年較正結果 …… 61
第20図 木材 …… 65
第21図 種実遺体 …… 70
第22図 近世以降の遺物出土模式図 …… 76
第23図 掘立柱建物及び区画溝の方位 …… 78
第24図 丘江遺跡7次調査における
集落構造と変遷 …… 81

第 25 図　浦佐バイパスと遺跡の位置 …… 84
第 26 図　試掘調査トレンチ位置図 …… 85
第 27 図　魚沼周辺の地形 …… 90
第 28 図　遺跡周辺の地形 …… 91
第 29 図　周辺の遺跡位置図 …… 92
第 30 図　グリッド設定図 …… 94
第 31 図　畦畔・擬似畦畔模式図 …… 99
第 32 図　連続耕作にともなう擬似畦畔Ｂ
タイプ別模式図 …… 100
第 33 図　西杭列断面模式図 …… 103
第 34 図　中央杭列断面模式図 …… 105
第 35 図　試料採取位置 …… 112
第 36 図　暦年較正結果 …… 113
第 37 図　木材 …… 115
第 38 図　種実化石群集 …… 118
第 39 図　大型植物遺体 …… 119
第 40 図　主要珪藻化石群集 …… 122
第 41 図　珪藻化石 …… 122
第 42 図　花粉化石群集 …… 124
第 43 図　花粉化石 …… 125
第 44 図　西壁における植物珪酸体含量の
層位的変化 …… 127
第 45 図　東壁における植物珪酸体含量の
層位的変化 …… 127
第 46 図　植物珪酸体 …… 129
第 47 図　骨 …… 129
第 48 図　主要層別の水田配置 …… 136

表　目　次

第 1 表　周辺の遺跡一覧 …… 11
第 2 表　基本層序一覧 …… 14
第 3 表　放射性炭素年代測定結果 …… 60
第 4 表　樹種同定結果 …… 62
第 5 表　用途別器種構成 …… 64
第 6 表　種実同定結果（1） …… 67
第 7 表　種実同定結果（2） …… 68
第 8 表　井戸分類別埋土色調及び法量 …… 79
第 9 表　特徴的な堆積・出土状況を示す井戸 …… 80
第 10 表　周辺の遺跡一覧 …… 93
第 11 表　層別確認範囲 …… 95
第 12 表　放射性炭素年代測定結果 …… 113
第 13 表　樹種同定結果 …… 114
第 14 表　種実分析結果（1） …… 117
第 15 表　種実分析結果（2） …… 118
第 16 表　珪藻分析結果 …… 121
第 17 表　花粉分析結果 …… 123
第 18 表　西壁の植物珪酸体含量 …… 126
第 19 表　東壁の植物珪酸体含量 …… 127
第 20 表　杭一覧 …… 132
第 21 表　各杭列の木取り …… 133
第 22 表　県内の主な中世水田遺跡 …… 134

図 版 目 次

【図面図版】

図版１　丘江遺跡Ⅴ　上層全体図
図版２　丘江遺跡Ⅴ　土塁断面図
図版３　丘江遺跡Ⅴ　下層全体図
図版４　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（1）
図版５　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（2）
図版６　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（3）
図版７　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（4）
図版８　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（5）
図版９　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（6）
図版10　丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（7）
図版11　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（1）　SB 1
図版12　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（2）　SB 2
図版13　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（3）　SB 3
図版14　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（4）　SB 4
図版15　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（5）　SB 5
図版16　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（6）　SB 6
図版17　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（7）　SB 7
図版18　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（8）　SB 8
図版19　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（9）　SB 9
図版20　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（10）　SB10
図版21　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（11）　SB11
図版22　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（12）　SB12
図版23　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（13）　SB13
図版24　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（14）　SB14
図版25　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（15）　SE 1
図版26　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（16）　SE 2
図版27　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（17）　SE 3
図版28　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（18）　SE 4
図版29　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（19）　SE 5

図版30　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（20）　SE 6
図版31　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（21）　SE 7
図版32　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（22）　SE 8
図版33　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（23）　SE 9
図版34　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（24）　SE10
図版35　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（25）　SE11
図版36　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（26）　SE12・SK 1
図版37　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（27）　SK 2
図版38　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（28）　SK 3・SD 1
図版39　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（29）　SD 2
図版40　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（30）　SD 3・SX 1
図版41　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（31）　SX 2
図版42　丘江遺跡Ⅴ　下層遺構個別図（32）　SX 3・P・杭列
図版43　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（1）
図版44　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（2）
図版45　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（3）
図版46　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（4）
図版47　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（5）
図版48　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（6）
図版49　丘江遺跡Ⅴ　石製品（1）
図版50　丘江遺跡Ⅴ　石製品（2）
図版51　丘江遺跡Ⅴ　石製品（3）
図版52　丘江遺跡Ⅴ　石製品（4）
図版53　丘江遺跡Ⅴ　木製品（1）
図版54　丘江遺跡Ⅴ　木製品（2）
図版55　丘江遺跡Ⅴ　木製品（3）
図版56　丘江遺跡Ⅴ　木製品（4）
図版57　丘江遺跡Ⅴ　木製品（5）
図版58　丘江遺跡Ⅴ　木製品（6）・金属製品
図版59　工田遺跡　全体図
図版60　工田遺跡　上層分割図・畦畔
図版61　工田遺跡　下層分割図（1）
図版62　工田遺跡　下層分割図（2）
図版63　工田遺跡　下層分割図（3）
図版64　工田遺跡　北区断面図（1）
図版65　工田遺跡　北区断面図（2）
図版66　工田遺跡　北区断面図（3）
図版67　工田遺跡　北区断面図（4）
図版68　工田遺跡　北区断面図（5）
図版69　工田遺跡　北区断面図（6）
図版70　工田遺跡　北区断面図（7）
図版71　工田遺跡　北区断面図（8）・水田・SD
図版72　工田遺跡　北区杭・SX
図版73　工田遺跡　南区断面図（1）
図版74　工田遺跡　南区断面図（2）
図版75　工田遺跡　南区断面図（3）・畦畔・SX
図版76　工田遺跡　土器・陶磁器類・木製品（1）
図版77　工田遺跡　木製品（2）
図版78　工田遺跡　木製品（3）

【写真図版】

図版79　丘江遺跡Ⅴ　調査区遠景
図版80　丘江遺跡Ⅴ　調査区全景・上層（土塁）検出
図版81　丘江遺跡Ⅴ　土塁・基本層序
図版82　丘江遺跡Ⅴ　SB16670・16671
図版83　丘江遺跡Ⅴ　SB16671・16672
図版84　丘江遺跡Ⅴ　SB16672・16686・16687・16688
図版85　丘江遺跡Ⅴ　SB16687・16689 ～ 16691・SE16225
図版86　丘江遺跡Ⅴ　SB16691・16692・SA16693
図版87　丘江遺跡Ⅴ　SA16693・SB16694 ～ 16697・SK16646
図版88　丘江遺跡Ⅴ　SB16696・16697
図版89　丘江遺跡Ⅴ　SB16697 ～ 16704
図版90　丘江遺跡Ⅴ　SB16699・16700・16703・SE16436
図版91　丘江遺跡Ⅴ　SB16700 ～ 16702
図版92　丘江遺跡Ⅴ　SB16702 ～ 16704・SK16462
図版93　丘江遺跡Ⅴ　SB16704 ～ 16707・SA16708
図版94　丘江遺跡Ⅴ　SB16705 ～ 16707
図版95　丘江遺跡Ⅴ　SB16707・SA16708
図版96　丘江遺跡Ⅴ　SE16016・16017・16028
図版97　丘江遺跡Ⅴ　SE16028・16031・16037・16051
図版98　丘江遺跡Ⅴ　SE16037・16044・16060・16079・16087
図版99　丘江遺跡Ⅴ　SE16087・16100・16103・16110・16127
図版100　丘江遺跡Ⅴ　SE16127・16129・16157・16164・16175
図版101　丘江遺跡Ⅴ　SE16175・16196・16199・16201・16202
図版102　丘江遺跡Ⅴ　SE16202・16216・16225・16237・16261
図版103　丘江遺跡Ⅴ　SE16264・16272・16287・16295
図版104　丘江遺跡Ⅴ　SE16296・16299・16301・16302・SK16298
図版105　丘江遺跡Ⅴ　SE16311・16314・SK16309・SD16356
図版106　丘江遺跡Ⅴ　SE16315・16319・16333・16340
図版107　丘江遺跡Ⅴ　SE16340・16341・16347・16348・16357・SD16356

図版108　丘江遺跡Ⅴ　SE16357・16372A・B・16376・16396・SD16356
図版109　丘江遺跡Ⅴ　SE16404・16419・16424・16436・16440
図版110　丘江遺跡Ⅴ　SE16440・16442・16443・16444
図版111　丘江遺跡Ⅴ　SE16469・16477・16504・16517
図版112　丘江遺跡Ⅴ　SE16537・16546・16549・16550
図版113　丘江遺跡Ⅴ　SE16549・16550・16558・16561・16563・SX16559
図版114　丘江遺跡Ⅴ　SE16563・16567・16582・16585・SD16586
図版115　丘江遺跡Ⅴ　SE16585・16592・16597・16604・SD16383
図版116　丘江遺跡Ⅴ　SE16608・16612・16620
図版117　丘江遺跡Ⅴ　SE16620・16623・16631
図版118　丘江遺跡Ⅴ　SE16644・16659・16660
図版119　丘江遺跡Ⅴ　SE16660・16661・16676・16677
図版120　丘江遺跡Ⅴ　SE16682・SK16033・16045・16046
図版121　丘江遺跡Ⅴ　SK16052・16113・16278・16343・SD16086
図版122　丘江遺跡Ⅴ　SK16344・16405・16408・SD16356・P16337
図版123　丘江遺跡Ⅴ　SK16408・16462・16495・16542・16591・SB16702-P16461
図版124　丘江遺跡Ⅴ　SK16646・16663・16667・16678・SB16695-P16647
図版125　丘江遺跡Ⅴ　SK16681・SD16047・16048・16077・16078・16084・16085・SX16128
図版126　丘江遺跡Ⅴ　SD16085・16086・16198・16215・16233・16238・16242・16328
図版127　丘江遺跡Ⅴ　SD16356・16383・16587・SX16015・16050
図版128　丘江遺跡Ⅴ　SX16050・16136
図版129　丘江遺跡Ⅴ　SX16136・16258・16339・16458
図版130　丘江遺跡Ⅴ　SX16540・16559・P16055・16206・16228
図版131　丘江遺跡Ⅴ　P16228・16342・16468・16519・16611・杭列・調査風景
図版132　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（1）
図版133　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（2）
図版134　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（3）
図版135　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（4）
図版136　丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類（5）
図版137　丘江遺跡Ⅴ　石製品（1）
図版138　丘江遺跡Ⅴ　石製品（2）
図版139　丘江遺跡Ⅴ　石製品（3）
図版140　丘江遺跡Ⅴ　木製品（1）
図版141　丘江遺跡Ⅴ　木製品（2）
図版142　丘江遺跡Ⅴ　木製品（3）
図版143　丘江遺跡Ⅴ　木製品（4）
図版144　丘江遺跡Ⅴ　木製品（5）・金属製品・籾塊
図版145　工田遺跡　北区　層序（1）
図版146　工田遺跡　北区　層序（2）
図版147　工田遺跡　北区　層序（3）
図版148　工田遺跡　北区　土層マクロ写真・中央杭列
図版149　工田遺跡　南区　層序
図版150　工田遺跡　北区　Ⅹａ層・水田1・2
図版151　工田遺跡　北区　水田5・7・8・北区畦畔1・2・4・SD 4・11
図版152　工田遺跡　北区　水田8・北区畦畔1・5・西杭列
図版153　工田遺跡　北区　西・中央杭列
図版154　工田遺跡　北区　中央杭列
図版155　工田遺跡　北区　中央杭列
図版156　工田遺跡　北区　中央杭列
図版157　工田遺跡　北区　中央・東杭列
図版158　工田遺跡　北区　東杭列・SD4・SX3、南区　Ⅴａ層・南区畦畔1
図版159　工田遺跡　南区　Ⅸａ・ｂ層・南区畦畔3・4・12
図版160　工田遺跡　南区　南区畦畔6～11・SX6
図版161　工田遺跡　土器・陶磁器類・木製品（1）
図版162　工田遺跡　木製品（2）

第Ⅰ章　丘江遺跡Ⅴ

1　序　　説

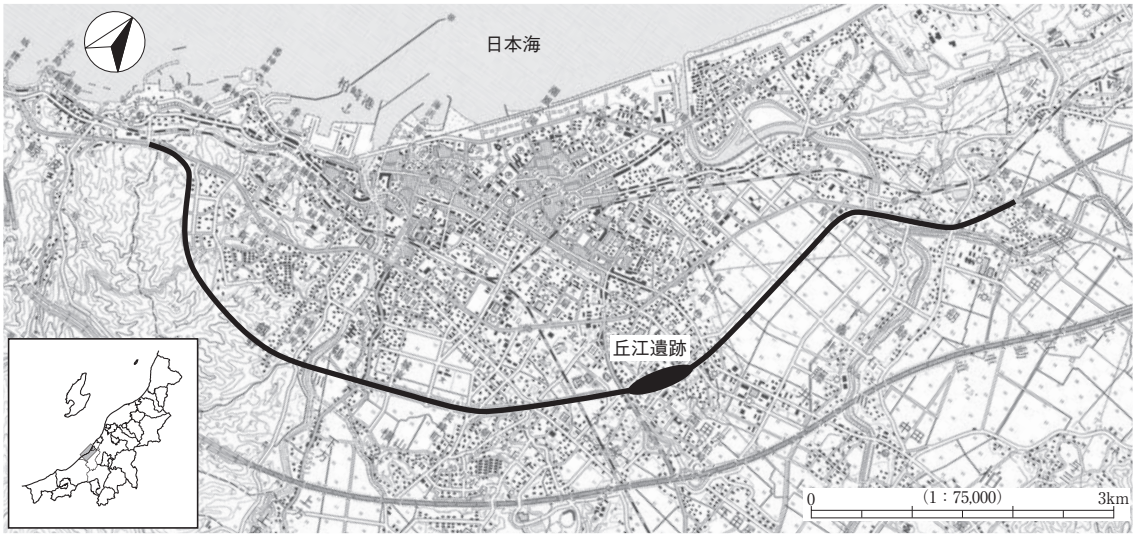
A　調査に至る経緯

一般国道８号柏崎バイパスは、柏崎市長崎を起点に同市鯨波に至る延長 11.0km の幹線道路である。交通混雑の解消、広域地域との交流の促進、都市交通の円滑化、都市機能の活性化などを目的に計画され、1987（昭和 62）年度に事業化された。1991（平成３）年度から用地買収を開始し、1993（平成５）年度からは工事に着手し、現在も整備が進められている。

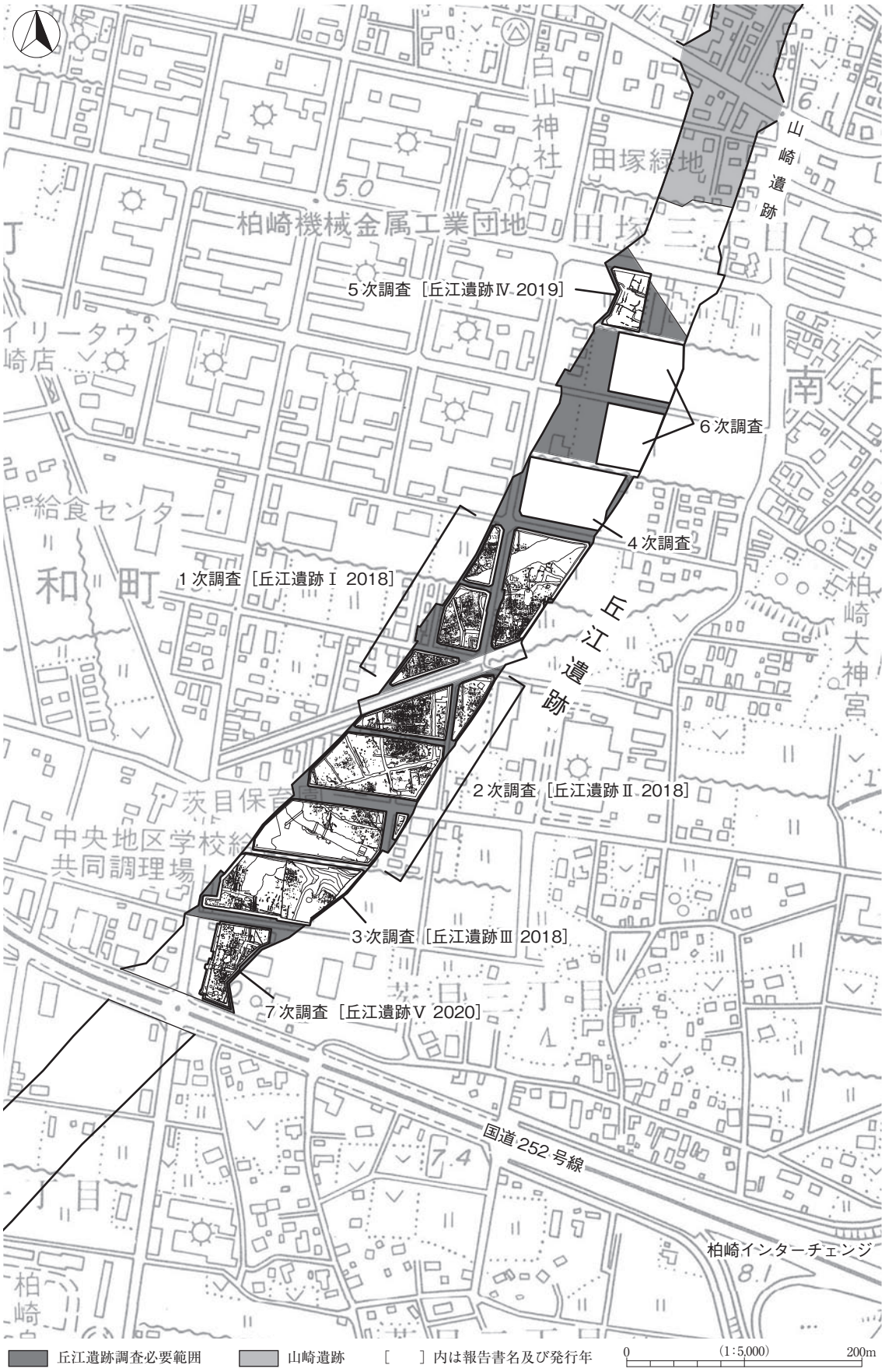
柏崎市東原町（豊田橋左岸）から茨目（国道 252 号）間の埋蔵文化財の分布調査は、新潟県教育委員会（以下、県教委）の委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団、以下、埋文事業団）が 2002（平成 14）年７月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世・近世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のほぼ全域について試掘確認調査が必要であると県教委に報告し、県教委はこのことを国土交通省（以下、国交省）に報告している。

丘江遺跡に係る試掘確認調査は、埋文事業団が 2012（平成 24）年 10・11 月に、県教委が 2013（平成 25）年７・８月と 2014（平成 26）年７月に、計 79,909㎡ を対象に実施した。その結果、下層から弥生時代後期と古墳時代前期の遺構・遺物が、上層から中世の遺構・遺物が検出された［朝岡 2013；（株）古環境研究所 2013；小野本 2014；佐藤 2015］。特に中世の遺構・遺物は多くの試掘坑でみつかっている。丘江遺跡として新規登録し、下層 19,970㎡、上層 54,467㎡、延べ 74,437㎡ について本発掘調査（以下、本調査）が必要となった。本書に係る範囲の試掘確認調査は平成 25 年に実施され、溝や土坑を検出し、珠洲焼、越中瀬戸焼などの中世土器や近世陶磁器が出土した（詳細は後述する）。

丘江遺跡の試掘確認調査の途中段階から、県教委・国交省・埋文事業団は本調査に向けての協議を重ね、2014（平成 26）年度から調査区を分けて本調査を実施することとなった。本調査は 2018 年度までに



第１図　柏崎バイパスと遺跡の位置１（国土地理院発行 平成 19 年「柏崎」「岡野町」１：50,000 原図を縮小して加筆）



第２図　柏崎バイパスと遺跡の位置２（柏崎市発行 平成８年「柏崎全図その４」１：10,000 原図を拡大して加筆）

７次の調査が実施され、すでに丘江遺跡Ⅰ［今井ほか2018a］、丘江遺跡Ⅱ［笹澤ほか2018］、丘江遺跡Ⅲ［今井ほか2018b］、丘江遺跡Ⅳ［春日ほか2019］として１～３・５次調査の報告書が刊行されている。本書に係る調査は「平成30年3月22日付け国北整長計第126号」で国交省から調査依頼を県教委が受け、「平成30年3月28日付け教文第1581号の2」で埋文事業団に平成2018（平成30）年度の本調査の実施を依頼したものである。調査依頼面積は2,180㎡である。本書は丘江遺跡の７次調査にあたり「丘江遺跡Ⅴ」として報告する。なお、柏崎バイパス全体では、これまでに箕輪遺跡［高橋ほか2002；春日ほか2015］、下沖北遺跡［山本ほか2003；山崎ほか2005］、東原町遺跡［山崎ほか2005］、千古作遺跡［石川ほか2011；相羽ほか2012］、香積寺沢遺跡［石川ほか2011］、山崎遺跡［石川ほか2012；継ほか2018］、剣野沢遺跡［石川ほか2014］、宝田遺跡［飯坂ほか2015；秋山ほか2015；加藤ほか2018］、小峯遺跡［春日ほか2015］、天満Ⅳ遺跡［小野塚2001］を調査し報告している。

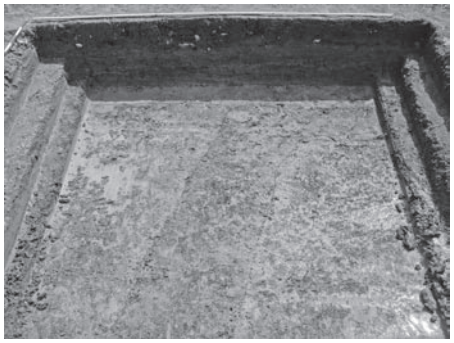
B　調査と整理作業の経過

1）試掘確認調査

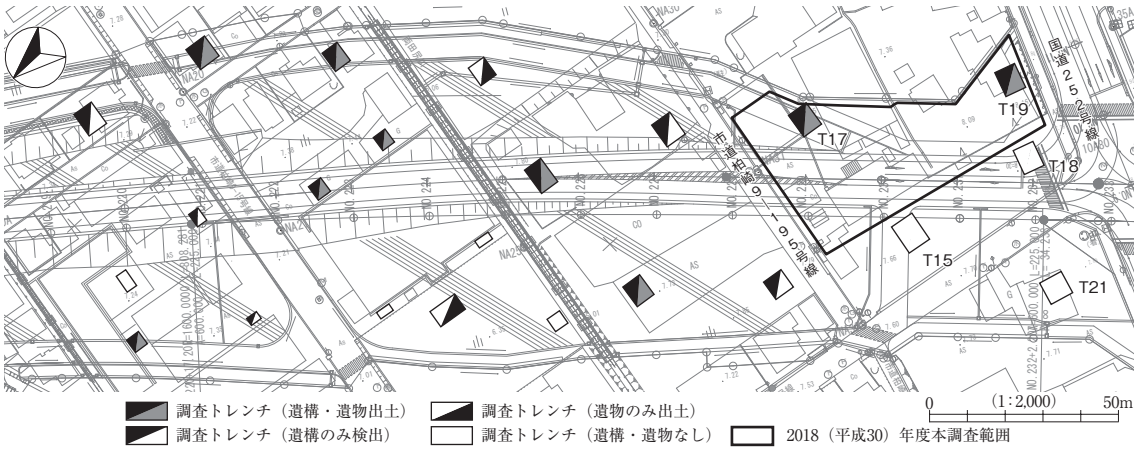
丘江遺跡の試掘確認調査は埋文事業団が①2012（平成24）年10月1～19日・11月12～16日に、県教委が②2013（平成25）年7月25日～8月9日と③2014（平成26）年7月28・29日に実施した。①は調査対象面積53,300㎡、実質調査面積1,130㎡で本調査が必要となった面積は49,337㎡（中世29,367㎡、弥生～古墳時代19,970㎡）、②は調査対象面積20,609㎡、実質調査面積605.5㎡で本調査が必要となった面積は19,100㎡、③は調査対象面積6,000㎡、実質調査面積113㎡で本調査が必要となった面積は6,000㎡である。調査の方法は、対象地内に試掘坑（トレンチ：T）を任意に設定し、重機及び人力で掘削・精査して、土層堆積状況や遺構・遺物の検出状況そしてトレンチの位置などを図面・写真に記録するものである。

本書に係る範囲は国道252号と市道柏崎9－195号線間に

T17遺構検出状況（南から）



T19遺構検出状況（北から）



第３図　試掘確認調査試掘坑位置図（国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所作成地図を使用）

あり、試掘確認調査は 2013 年に実施して５か所の試掘坑（T 15・17 ～ 19・21）を調査している。基本層序は０層が盛土と旧表土（宅地造成前の水田耕土を含む）、Ⅰ層 灰色シルト 水田耕土（標高 6.5 ～ 6.9 m）、Ⅱ①層 灰色シルト（Ⅱ②層に比べ粘性に富み暗い色調）中世中心の遺物包含層、Ⅱ②層 灰色シルト 上面が中世遺構の検出面、以下、砂層や未分解腐植層を部分的に挟む灰色主体のシルト層で２m（標高約 4.5 mまで確認）以上堆積していることを確認している。遺構・遺物を検出した試掘坑は東側のT 17・19 で、遺構はT 17 が土坑１（SE16129）・性格不明遺構１（SD16085）・ピット１、T 19 が溝２（SD16586）・土坑１・ピット２で、すべてⅡ②層上面で検出した（（　）内は本調査遺構番号）。遺物はT 17 Ⅰ層から珠洲焼、T 19 Ⅱ①層から近世陶磁器や越中瀬戸焼が出土した。また、西側のT 15・18・21 からは遺構・遺物の検出はなく、この結果から国道 252 号と市道柏崎９－ 195 号線間では東側一部について本調査が必要となった。

2）本　調　査

本調査は、2018（平成 30）年５月７日に開始し、同年 10 月１日に終了した。調査区南側には築造時期不明の土塁があり、これを上層として調査の対象とした。最終的な調査面積は、上層 799㎡、下層 1,775㎡で合計 2,574㎡である。

調査は上層から開始し、５月 11 日に土塁の検出状況（現況）を撮影した。14 日に平面測量を行った後、重機でトレンチを２本掘削した。トレンチは、土塁と遺跡全体の層位を確認するため、中世の遺構検出面まで掘削した。その結果、土塁盛土直下の層位から 18 世紀代の遺物が出土し、土塁は近世以降に築造されたものと判断した。

土塁調査風景

下層の調査は、上層のトレンチ調査と並行して５月 14 日から重機による表土掘削を開始した。表土掘削は、上層調査に影響のない北側から開始した。過去の本調査及び試掘確認調査の状況から、調査区北側には油分を含む汚染土壌が盛土されている可能性が高く、この土壌の範囲や深さがある程度判明した段階で、県教委・国交省が現地で状況を確認した。そして、汚染土壌については他の排土と分けて、臭いや土壌が流出・飛散しないようシートで覆うことを申し合わせた。24 日からは作業員を投入し、排水用開渠の成形と、調査区壁面の精査・記録を進めた。調査区壁面の記録は、店舗造成等に伴う撹乱の影響がない東壁の 73K グリッドから南側及び南壁について行い、それ以外については目視による確認に留めた。なお、上層調査で設定したトレンチのうち、75L・M グリッドのトレンチをベルトとして東側に延長し、層序の確認を行った。

重機表土掘削風景

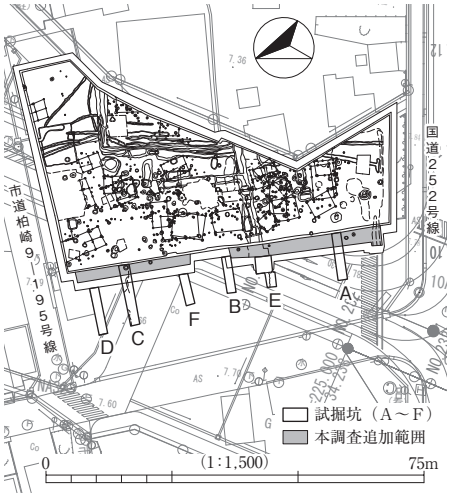
5 月 31 日から遺構精査を開始し、6 月 14 日には精査と並行して遺構の調査を開始した。精査の結果、幅２～４mほど

遺構調査風景

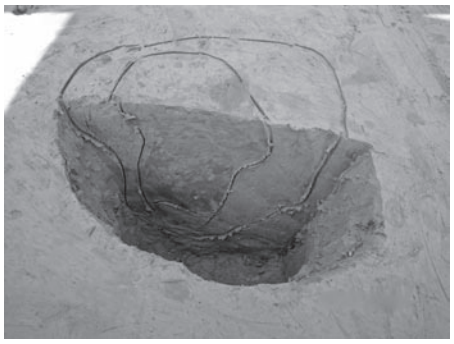
の溝や、井戸・ピット等を多く検出し、特に71～74グリッドにかけて遺構の集中を把握した。73グリッドより北側は、重機による撹乱が多く遺構の一部はその影響により変形しているものが認められた。遺構埋土は、大きく３つのタイプが確認できた。黒褐色（2.5Y3/1～10YR3/1）を基調とし、粘性はあるが少しぼそぼそとした感触のもの（A）。黄灰～褐灰色（2.5Y4/1～10YR4/1）を基調とし、粘性の強いもの（B）。地山に近い灰色（5Y4/1）を基調とするもの（C）である。切り合いは、Aが古くBが新しいが、いずれもCとの新旧関係はわからなかった。また、Bを基調とする埋土は、近世以降の堆積土に似ており、B埋土とした遺構には、近世以降のものが含まれている可能性がある。記録は、断面については原則として半裁、またはベルトを適宜設定し、デジタル一眼レフカメラでの撮影と、手取りによるセクション図の作成としたが、ピットのうち柱痕が認められないものについては、コンパクトデジタルカメラで撮影し、土層のメモに留めた。完掘は、すべてデジタル一眼レフカメラで撮影した。

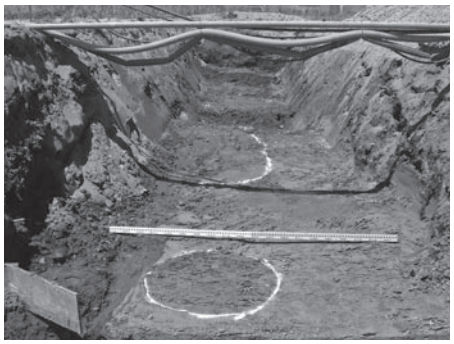
想定を超える遺構の数と、大型のピットもしくは土坑と考えていた遺構の多くが井戸であったことなどから、調査の進捗に遅れが生じてきたため、７月９日から作業員を増員した。また、作業員の増員に伴い、７月23・24日及び８月２日から調査終了まで、調査員を１名増員した。

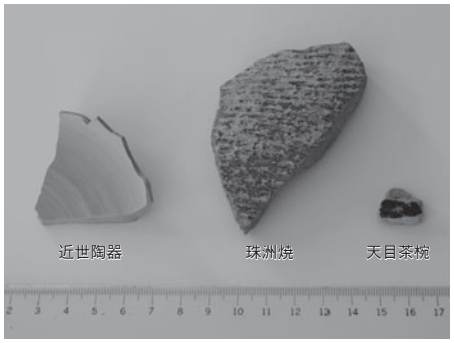
調査の進展に伴い、遺構が調査区外の西側に広がる可能性がでてきたため、この部分に対しトレンチ調査を行い、遺跡の広がりを確認した（第４図）。調査期間は７月30日～８月１日の３日間で、計６本のトレンチ（A～F）を設定した。遺構はAトレンチでピット１基、Cトレンチで井戸１基、Eトレンチで溝１条を検出した。検出位置はEトレンチを除き調査区隣接地にあたり、中世集落西端の遺構と考えられる。Eトレンチで検出した溝はSD16383の延伸で、中世から近世の溝の可能性が高い。また、検出遺構より西側については最近の宅地や店舗造成に伴う撹乱が著しいが、撹乱外でも井戸・ピットなどの遺構は確認していない。そして、中世遺物包含層Ⅱ①層の存在は不明瞭で、Ⅱ②層（地山）の上の旧表土は撹拌状況から水田耕作土と考えられ、存在が推測される中世期以前の水田のみを分離することが不可能であるため、本調査範囲から除外した。したがって西側に２～５m、面積127㎡を本調査追加範囲とし、県教委経由で国交省に追加調



第４図　トレンチ位置図


Aトレンチピット断面


Cトレンチ井戸検出状況



Dトレンチ出土遺物

査の了承を得、調査を実施した。

8月9日には、柏崎市立博物館の博物館実習生及び博物館友の会による発掘調査体験（計7名）を受け入れた。現地説明会は9月9日に開催し、雨天にも関わらず63名の見学者が訪れた。9月20日に、ラジコンヘリコプター及び高所作業車で遺構完掘の写真撮影を行った。翌21日に、県教委が終了確認をした。9月25日からは、深くて完掘できなかった井戸及び撹乱の範囲が大きかったか所などを重機によって掘削した。その後、記録の補完及び撹乱下の遺構の有無などを確認し、28日にすべての調査を終了した。10月1日から、現場の撤収作業及び魚沼市工田遺跡発掘調査の準備に移った。

現地説明会風景

C 調 査 体 制

1）試掘確認調査

調査期間　　2013（平成25）年7月25日～8月9日

調査主体　　新潟県教育委員会（教育長　高井　盛雄）

総　　括　　本田　雄二（文化行政課長）

管　　理　　石津　　敦（文化行政課　課長補佐）

調査指導　　沢田　　敦（文化行政課　埋蔵文化財係長）

調査担当　　小野本　敦（文化行政課　主任調査員）

調 査 員　　工藤　祐大（文化行政課　文化財調査員）

2）本　調　査

調査期間　　2018（平成30）年5月7日～10月1日

調査主体　　新潟県教育委員会（教育長　池田　幸博）

調　　査　　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

総　　括　　清野　一善（事務局長）

管　　理　　松田　　祐（総務課長）

庶　　務　　星野　美奈（総務課班長）

調査総括　　沢田　　敦（調査課長）

監　　理　　鈴木　俊成（調査課班長）

調査組織　　株式会社　大石組

現場代理人　林　　茂夫（土木部工事課　工事係長）

調査担当　　南波　　守（文化財事業部　発掘調査員）

調 査 員　　松井　奈緒子（文化財事業部　発掘調査員）

石坂　圭介（文化財事業部　発掘調査員）7月23・24日

金井　美幸（文化財事業部　発掘調査員）8月2日～9月28日

補 助 員　　榎本　好美　　遠藤　昌代（文化財事業部）

D　整理作業と整理体制

遺物の水洗は現地プレハブで本調査と並行して実施した。丘江遺跡現地調査終了後は魚沼市工田遺跡の調査に着手したため、本格的な整理作業は工田遺跡現地調査終了後の 2018（平成 30）年 12 月 10 日から開始した。整理場は長岡市南町に所在する株式会社大石組文化財事業部南町別館で、作業は 2019（平成 31）年 3 月 31 日まで行った。整理体制は 2018 年度本調査体制と同じである。作業内容は遺構図面の修正や出土品洗浄の残りと注記、そして報告書掲載遺物の選定と実測の一部である。

報告書刊行に向けての整理は 2019（平成 31）年 4 月から引き続き株式会社大石組文化財事業部南町別館で行った。遺構修正は 6 月に終了し、石製品や木製品を中心とする実測も 7 月にほぼ終了した。その後、遺構・遺物のトレース作業を経て各種図版作成に移り、これに並行して観察表の作成や原稿の執筆を行った。編集作業は 12 月から本格化し、2019（令和元）年度末に報告書を印刷した。

遺構図作成作業風景

土器実測作業風景

1）整　理　体　制

調査期間　　2019（平成 31）年 4 月 1 日～ 2020（令和 2）年 3 月 31 日
調査主体　　新潟県教育委員会（教育長　稲荷　善之）
調　　査　　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
　総　　括　　清野　一善（事務局長）
　管　　理　　松田　　祐（総務課長）
　庶　　務　　小野澤　浩嗣（総務課班長）
　調査総括　　沢田　　敦（調査課長）
　監　　理　　鈴木　俊成（調査課班長）
調査組織　　株式会社　大石組
　調査担当　　南波　　守（文化財事業部　発掘調査員）
　作　　業　　浅野　秋子　　榎本　好美　　遠藤　昌代　　神林　康子　　田辺　美子
　　松井　奈緒子　山﨑　聖子（文化財事業部）

2　遺跡の位置と環境

丘江遺跡は 2014（平成 26）年度から継続して本調査を行っており、遺跡の地理的・歴史的な環境については既刊の発掘調査報告書で詳述されている。そこで、ここでは『丘江遺跡Ⅱ』の「第Ⅱ章遺跡の位置と環境」［笹澤 2018a］、『丘江遺跡Ⅲ』の「第Ⅱ章 1 地理的環境」［高柳 2018］と「第Ⅱ章 2 歴史的環境」［今井 2018］を一部改変して引用する。

A　地 理 的 環 境

遺跡の位置　丘江遺跡は、柏崎市茨目・田塚に所在し、2018 年度の調査区は遺跡の最南端、茨目３丁目地内に位置する。現在の柏崎市域は、2005 年５月１日に刈羽郡西山町・高柳町との合併により拡大し、北東を三島郡出雲崎町、東を長岡市、南を十日町市、南西を上越市と接する。市内には、古代北陸道の三嶋駅に関連すると推測されている箕輪遺跡［春日ほか2015］があり、江戸時代には、北国街道と長岡街道の分岐点が隣接の刈羽村に存在するなど、古くから陸上交通の要衝となっている。また、現在の柏崎港周辺は、『梅花無尽蔵』の記述から、遅くとも 15 世紀以降には港町として発展したと考えられており［品田ほか2001；春日ほか2015］、港湾都市として機能していたようである。

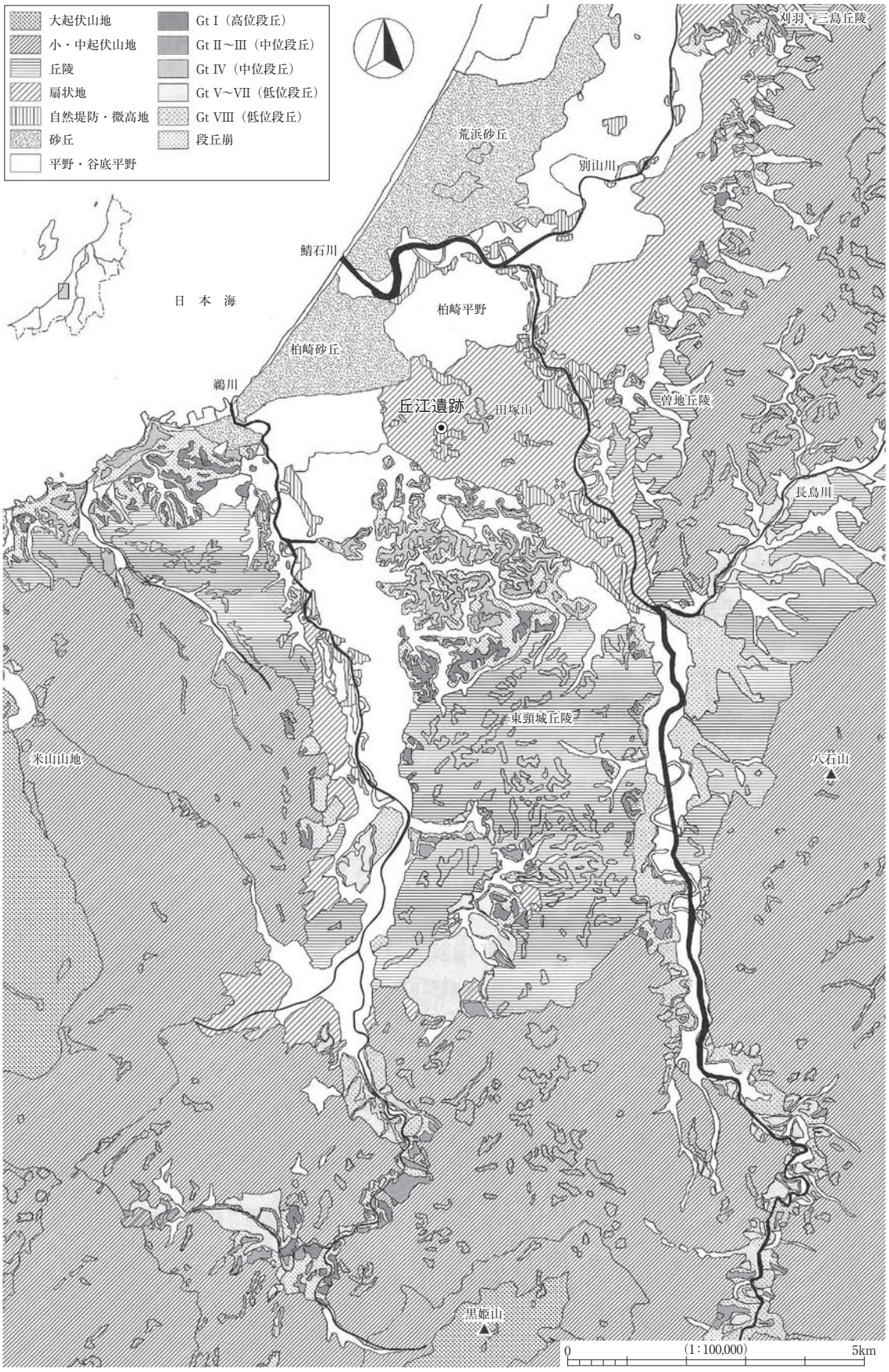
柏崎平野の地勢　遺跡が立地する柏崎平野は、鵜川と鯖石川、鯖石川の支流である別山川によって形成された東西約７km、南北約 18km の臨海沖積平野である（第５図）。東・西・南方を刈羽三山と称される米山（標高 992.6 m）・黒姫山（標高 889.5 m）・八石山（標高 518 m）を頂点とする山地や東頸城丘陵、刈羽・三島丘陵に囲まれ、北西部は日本海に面し、海岸線に沿って荒浜砂丘が延びている。最高峰の米山は、山裾が日本海に突出し、近世以前は越後府中が存在した上郡と以北の下郡とを区別するランドマークとして認識され、現在も上越地方と中越地方との境界になっている。平野の中央部及び南部は、南北に貫流する鵜川と鯖石川の沖積・浸食作用によって幾つかの独立丘陵を造りながら扇状地状の沖積地が形成され、砂丘の背後には後背湿地が広がっている。このように、柏崎市の地形は、平野が主要河川である鵜川と鯖石川によって分割されており、三島丘陵と荒浜砂丘及び刈羽丘陵に囲まれた沖積地からなる東部、鵜川と鯖石川に挟まれた沖積平野の大半と山地に接して広く形成された中位段丘からなる中部、米山を頂点とした傾斜の強い山地が海岸部に張り出し、断崖と低～高位段丘の形成が顕著であるため沖積地がわずかである西部に三区分される［品田 1996；品田ほか2001］。

丘江遺跡周辺の地形　丘江遺跡は、柏崎平野の南西部に位置し、海岸線から約３km 内陸に入った鯖石川左岸の沖積微高地に立地する。標高は、現況で約７ｍである。遺跡の東側を流れる鯖石川は、黒姫山と八石山の間を北流し、平野部に抜けるあたりで蛇行して日本海に注ぐ。1947 年の米軍写真（第６図）にみられる自然堤防や集落の分布、旧流路や氾濫原とみられる水田の区画等からすると、流路を東に移動させながら現流路になったと推測できる。遺跡の東にある田塚山や田尻山といった独立丘陵は、鯖石川の浸食作用により形成され、かつてはこれらの丘陵をつなぐ尾根が存在した可能性が指摘されている［品田 1996］。こうした丘陵が障壁となり、鯖石川が蛇行を繰り返した結果、自然堤防や微高地の間に湿地が複雑に入り組んだ地形が形成されたと考えられる。

現在の集落は、このような南北方向に馬の背状に分布する自然堤防上に造られているが、遺跡は、現集落よりさらに一段低い、中・小河川の氾濫により形成された沖積微高地上に立地している。

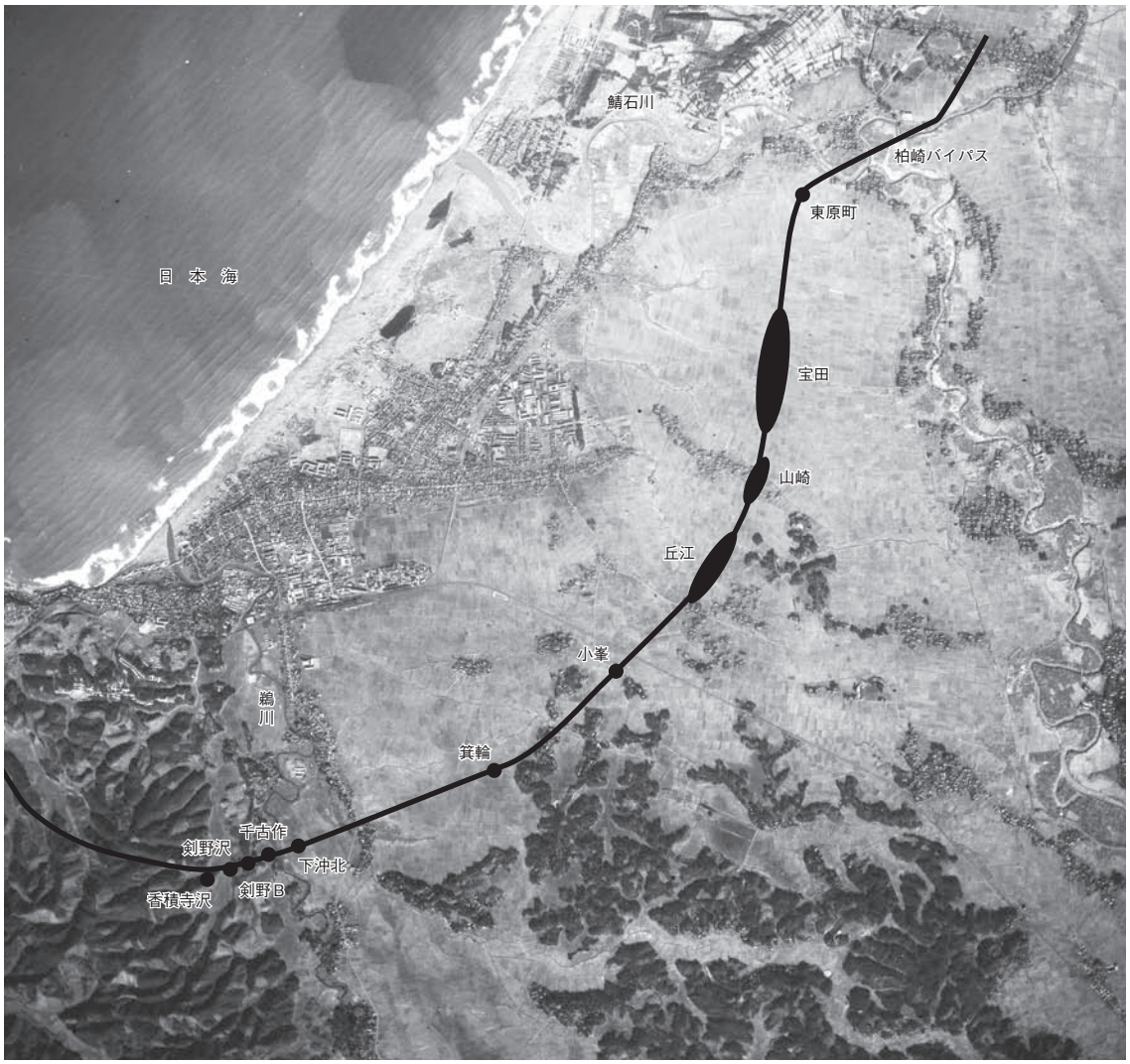
B　歴 史 的 環 境

中世の柏崎　『吾妻鏡』文治２（1186）年３月 12 日条の「三箇国庄々未進注文」には、柏崎平野に所在する荘園として「宇河（鵜川）荘」・「佐橋（鯖石）荘」・「比角荘」の三荘園が記載されている。11 世紀末ころから 12 世紀中葉ころには郡・郷は再編され、寄進地系荘園として、「比角荘」、「佐橋荘」、「宇川（鵜川）荘」が成立したと考えられている［荻野 1986］。また、中世の越後国衙領は、古代の郷名を継承する郷や保が多く、郡単位はほとんど確認できず、保の場合、河川流域や湖沼の周辺に成立した事例が目立



第５図　柏崎周辺の地形

（[鈴木郁夫ほか1988]『土地分類基本調査 岡野町』 新潟県、[鈴木郁夫ほか1989]『土地分類基本調査 柏崎・出雲崎』 新潟県 に加筆）



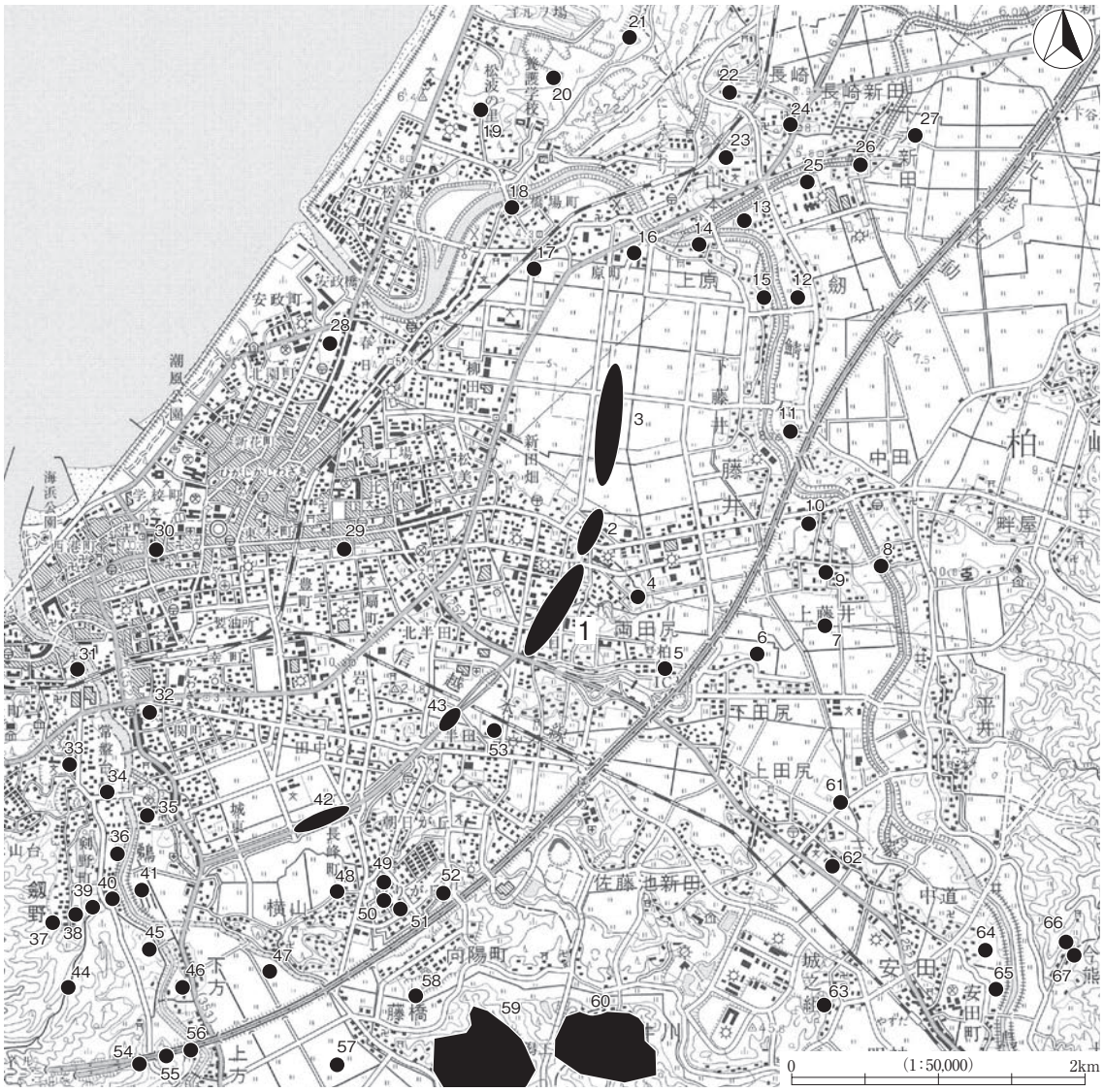
第６図　遺跡周辺の地形（一般社団法人日本地図センター発行 1947（昭和 22）年 11 月 11 日 米軍撮影）

つことを特質としている［田村 1987］。現状では、荘園・国衙領の所在は、鵜河荘などの荘園を柏崎平野南部の鵜川・鯖石川流域に、原田保などの国衙領を主に北部の別山川流域に比定するのが定説化しており［金子 1990］、国衙領については、中世前期には古代の多岐郷を「苅羽郷」として国衙の支配下に治めて、中世後期に５保もしくは７保が成立したと考えられている［品田 1990］。

周辺の遺跡　柏崎平野の中世の遺跡は、集落遺跡が丘陵裾部や自然堤防などの沖積平野に、墳墓などの宗教関連施設が丘陵裾部や中位段丘などの台地上に分布する傾向がある［品田 1996］（第７図）。

丘江遺跡の周辺には、沖積地に東原町遺跡（16）、宝田遺跡（３）、角田遺跡（13）、山崎遺跡（２）、丘陵に田塚山遺跡群（４）、小児石遺跡（５）、海岸部に柏崎町遺跡（30）などがある。これらの遺跡は、先述した荘園の範囲に照らし合わせれば、鵜川荘もしくは比角荘に含まれると考えられる［品田 1996］。

沖積平野は、集落または生産域（水田）として利用されている。これまでの国道８号柏崎バイパス建設に伴う発掘調査の成果では、集落（東原町遺跡北半、山崎遺跡北半、丘江遺跡南半）と水田（東原町遺跡南半、宝田遺跡、山崎遺跡南半、丘江遺跡北半）が発見されており、北から順にみていくと、集落域と生産域が交互に分布している。このことから、東西方向に形成された自然堤防または微高地と低湿地が交互に存在するとみられ、地形的な制約を受けながら、集落と生産域を上手に配置していた状況がみて取れる。



第７図　周辺の遺跡（国土地理院発行 平成 19 年「柏崎」１：50,000 原図に加筆）

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	丘江遺跡	弥生～近世	19	沙鉢山遺跡	平安・中世	37	香積寺沢遺跡	縄文・古代・中世	55	桐山遺跡	縄文・古代・中世
2	山崎遺跡	古代・中世	20	旧荒浜小学校A	古代	38	剣野沢遺跡	縄文・古代・中世	56	鶴巻田遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
3	宝田遺跡	古代・中世	21	旧荒浜小学校B	古代	39	剣野B遺跡	縄文・古代・中世			
4	田塚山遺跡群	縄文・弥生・中世	22	西岩野遺跡	弥生・中世	40	千古作遺跡	中世	57	沢田遺跡	古代
5	小児石遺跡	中世（墓地）	23	宮ノ浦遺跡	古代・中世	41	下沖北遺跡	平安・中世	58	藤橋向山遺跡	古代
6	不退寺遺跡	古代・中世	24	土合殿屋敷跡	中世	42	箕輪遺跡	弥生・平安・中世	59	藤橋東遺跡群	縄文・古代（製鉄関連）・中世
7	前田遺跡	古代・中世	25	下境井西遺跡	古代	43	小峯遺跡	古代・中世			
8	関野遺跡	縄文・古墳～中世	26	下境井遺跡	古墳・平安	44	剣野水上遺跡	製鉄関連	60	軽井川南遺跡群	古代（製鉄関連）
9	藤井城跡	古代・中世・近世	27	下才見遺跡	中世	45	下沖遺跡	古代	61	大新田遺跡	中世
10	中田久保川原遺跡	中世	28	桜木町遺跡	古代	46	嶋屋敷遺跡	中世	62	大坪遺跡	中世
11	中田下川原遺跡	古代	29	四谷遺跡	中世	47	茅原遺跡	古代・中世	63	安田城跡	中世
12	剣下川原遺跡	古墳・古代	30	柏崎町遺跡	中世・近世	48	京田遺跡	古代・中世	64	中道遺跡	古代・中世
13	角田遺跡	古墳・古代・中世	31	大久保東遺跡	古代・中世	49	大沢A遺跡	縄文・平安	65	門田遺跡	中世
14	上原遺跡	古代・中世	32	関町遺跡	中世	50	大宮遺跡	縄文・古代	66	堂の浦遺跡	中世
15	境川原遺跡	中世	33	剣野F遺跡	縄文・古代・中世	51	大沢B遺跡	古代（製鉄関連）	67	今熊薬師堂裏	中世
16	東原町遺跡	古代・中世	34	三島神社	古墳・古代	52	雨池・雨池古窯	縄文・平安			
17	藤元町遺跡	古代	35	琵琶島城	古墳・古代・中世	53	城塚遺跡	古代			
18	開運町遺跡	縄文・弥生・古代	36	渋柿遺跡	縄文・古代	54	西田遺跡	縄文・古代・中世			

第１表　周辺の遺跡一覧

東原町遺跡は、13 世紀後半から 14 世紀が主体で、掘立柱建物 4 棟、井戸 28 基、溝 92 条などが検出され、溝によって居住域と生産域が区画されている。居住域では、鍛冶関連の工房、饗宴に使用された土師器の一括廃棄土坑などが検出され、1 万枚以上の銭貨を埋納した珠洲焼の壺が出土している［山崎ほか 2005］。角田遺跡は、13 世紀後半が主体の集落で、掘立柱建物 13 棟に多数の井戸と土坑が検出され、交通の要衝を押さえる目的で在地小領主が家屋敷を営んだとみられる［品田ほか 1999］。宝田遺跡は、古代から断続的に水田耕作を行った生産遺跡である。多数の水田遺構を検出し、須恵器や土師質土器、珠洲焼のほかに、15 世紀中ころと推定される「おにぎり状炭化米」が出土している［飯坂ほか 2015；秋山ほか 2015；加藤ほか 2018］。山崎遺跡は、13 世紀中ころから 15 世紀後半を主体とし、掘立柱建物 41 棟や井戸 184 基が検出され、土師質土器や珠洲焼のほかに風炉や茶臼が出土している［継ほか 2018］。丘江遺跡は、これまでの調査で 13 世紀から 15 世紀を中心とする集落と、12 世紀から 16 世紀ころの水田がみつかっている。集落では、掘立柱建物 99 棟、井戸 369 基、土坑 334 基のほか、区画溝を含む多数の溝などが検出され、土師質土器や珠洲焼のほか、茶臼や天目茶椀、木・ガラス製の数珠玉、舌長鐙、五輪塔などの特筆すべき遺物も多数出土している［今井ほか 2018a；笹澤ほか 2018；今井ほか 2018b；春日ほか 2019］。

このように各集落は、数棟の建物に多数の井戸・土坑が付随している点で共通し、区画溝や道路とみられる遺構が検出された遺跡もあることから、荘園管理者または在地領主層により計画的に土地開発が進められた状況が推測できる。また、沖積平野よりも高位の丘陵には、12 世紀以降、塚や経塚、仏堂などの宗教施設が多く構築され、日常生活からかけ離れた施設を平野の奥まった場所に配置する意図がうかがえる。

丘江遺跡の東方約 300 ｍに位置する田塚山遺跡群は、12 世紀末から 13 世紀にかけて仏堂及び関連施設が構築された遺跡である。仏堂は、1 間四方の内陣と 3 間四方の外陣からなる規模の大きなもので、その周りを縁側がめぐる。さらに、渡り廊下を介して庫裡とみられる建物と接続しており、『白河風土記』に「七堂伽藍の大地［寺ヵ］」と記載されている不退寺の前身であった可能性が指摘されていて、領主層の氏寺ではなかったかと想定されている［品田 1996］。また、田塚山遺跡群に隣接する小児石遺跡は、中世全般にわたって墓地として機能しており［品田 1991a］、丘江遺跡の東に位置する独立丘陵上の宗教関連施設と、丘江遺跡を含めた近在の集落との間には、密接な結びつきがあったと思われる。

丘江遺跡から西方約 2.7km にある柏崎町遺跡は、鵜川の河口に近い右岸域の砂丘上にあり、現在の市街地と重複するように位置する。中世柏崎において、比角荘域にあたり、15 世紀には既に東本町まで開発が及び、17 世紀には現市街地の原形が形成されていく過程が明らかにされている。中世の柏崎は、町人集団が支配する港湾都市であった可能性が指摘されているが［矢田 1999］、それを示すように青花、青磁、白磁などの輸入陶磁器が、柏崎平野のどの中世遺跡よりも多数出土している［品田ほか 2001］。

3　調 査 の 概 要

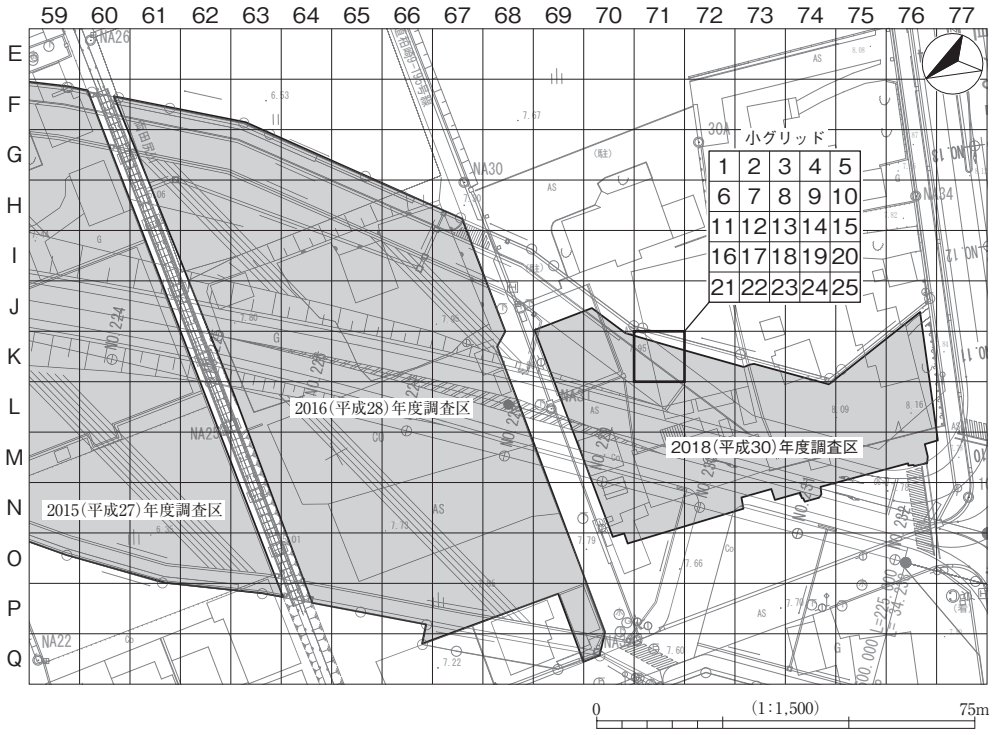
A　グリッドの設定

丘江遺跡は、2014 年度から本調査を開始している。本年度のグリッドは、2014 年度調査時のグリッドを踏襲し（平成 23（2011）年東北地方太平洋沖地震以前の座標値）、道路建設予定地内のセンター杭 2 点を基準とした。基準としたセンター杭は、No.198（X = 151864.004、Y = 7619.877）[1] と No.213（X = 151602.171、Y

1）『丘江遺跡Ⅰ～Ⅲ』における No.198 の座標値は誤記である。

＝7474.344）である。この両センター杭を結んだ直線を横軸とし、それに直交する線を縦軸として設定した。グリッドの基準線方位は、横軸が真北から29度4分2秒東偏している。本年度の発掘調査では、上記のグリッドを南西方向に延長して使用した。

グリッドは、大小の2種を用いて設定した。大グリッドは、東西・南北10ｍ四方とし、南北方向に算用数字、東西方向にアルファベットを用いて、北東隅にある基準線の交点を出発点とし、「1A、1B、1C、1D…」と呼称した。小グリッドは、大グリッドを2ｍ四方で25分割し、北東隅を起点に南西方向へ「1、2、3、4、5…25」と算用数字で表した。グリッド名は、大グリッドと小グリッドを組み合わせて「71K12」などと表記した。



第8図　グリッド設定図（国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所作成地図を使用）

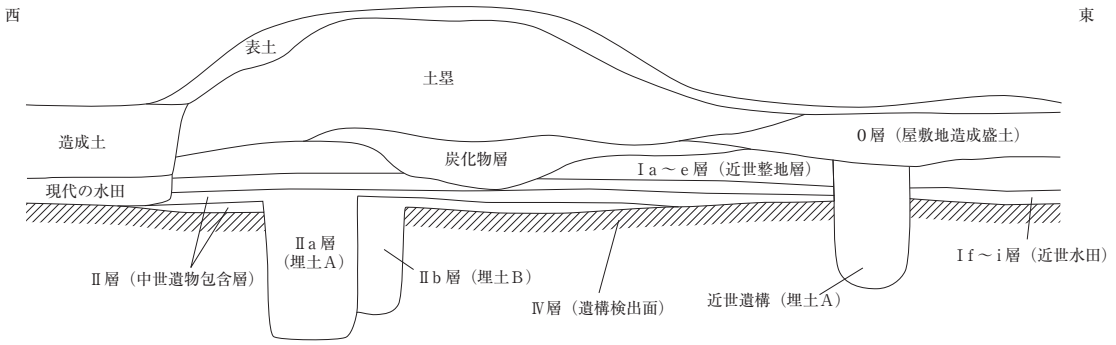
B　基　本　層　序

本年度調査区は、丘江遺跡の南端にあたり、鯖石川左岸の標高約7ｍとなる沖積微高地に立地する。調査区の大部分は、近世以降の水田耕作や、現代の宅地・店舗造成などで削平を受けている。このため、中世の遺物包含層は残りが悪く、地点によっては、表土直下が遺構検出面となる。基本層序は、過去の調査に倣いⅠ～Ⅳ層に大別し、上層で確認した土塁範囲内の盛土を0層として加えた。各層は、堆積状況に応じて細分した（第2表）。

0層は、宅地・店舗造成に伴う現代の盛土とは別に、土塁築造及び屋敷地造成時に整地されたと考えられる盛土層を一括した。堆積状況によって、3層に細分した。Ⅰ層は、近世の遺物包含層または水田耕作土からなる。連続で層序を確認できておらず、本来同一層である層を別々に捉えている可能性もあるが、地点によって10層に細分した。Ⅱ層は、中世の遺物包含層で2層に細分できる。このうち上位のⅡａ層は、遺構埋土タイプ「Ｂ」、下位のⅡｂ層は、埋土タイプ「Ａ」として調査・整理を進めた。なお、Ⅱａ層を埋土とする遺構については、さらに上位のⅠ層に非常に近似した層があり、この層を埋土とする遺構

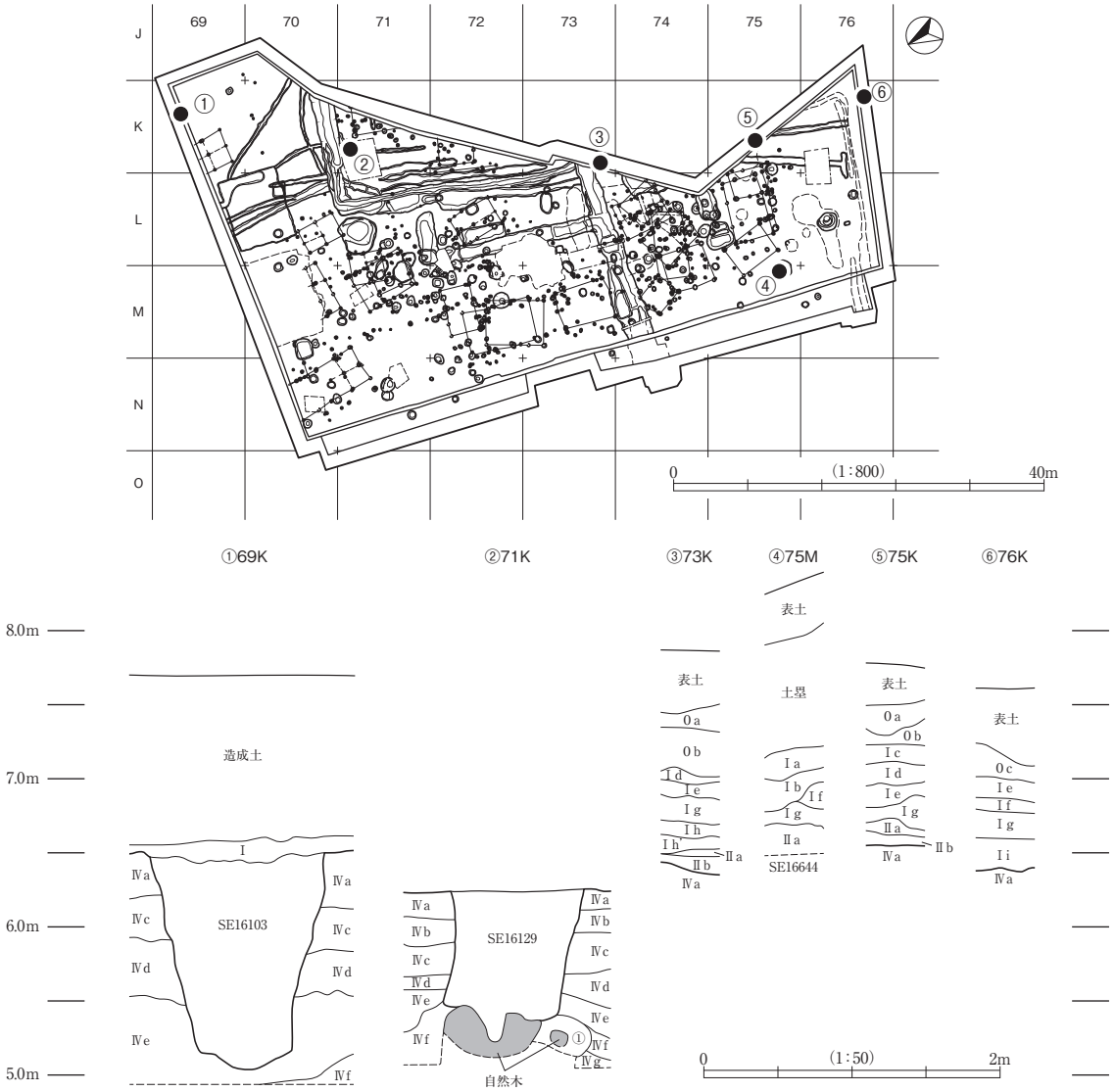
層序	色調・土質	注記等
0a	褐灰色（10YR4/1）シルト	粘性やや強、しまり強。径1～5mm炭化物少量、径2～5mm焼土粒少量、砂利少量、にぶい黄褐色（10YR4/3）ブロック含む。
0b	にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土	粘性やや強、しまり強。径2～10mm炭化物中量、径3～7mm焼土粒少量、砂利少量、0a層ブロック含む。
0c	褐灰色（10YR4/1）シルト	粘性やや強、しまり強。径7～15mm炭化物少量、径5～20mm焼土ブロック少量、径5～30mm明褐色（7.5Y5/6）粘土ブロック（焼土？）多量、0b層ブロック多量含む。
Ⅰa	黄灰色（2.5Y5/1）粘質土	粘性やや強、しまり強。腐植物中量、径2～10mm炭化物少量、径10～20mm大の砂利少量含む。
Ⅰb	黄灰色（2.5Y5/1）粘質土	粘性やや強、しまりやや強。径1～5mm炭化物微量、鉄分多量含む。
Ⅰc	褐灰色（10YR4/1）シルト	粘性やや強、しまり強。径2～7mm炭化物少量、にぶい黄褐色（10YR4/3）ブロック多量含む。
Ⅰd	褐灰色（10YR4/1）シルト	粘性やや強、しまり強。部分的ににぶい黄褐色～褐色（10YR4/3～4/6）砂が厚さ2㎝ほどで堆積する。径3～50mm炭化物少量、径5～10mm灰黄色（2.5Y6/2）ブロック少量含む。
Ⅰe	褐灰色（10YR4/1）粘質土	灰黄褐色（10YR4/2）粘質土、灰黄色（2.5Y6/2）粘質土がブロック状に混ざる。
Ⅰf	黄灰色（2.5Y5/1）粘質土	粘性やや強、しまり強。径1～7mm炭化物少量、褐灰色（10YR4/1）ブロック、マンガン斑少量含む。水田耕作土。
Ⅰg	黄灰色（2.5Y4/1）粘質土	粘性強、しまりやや強。径1～5mm炭化物少量、鉄分、マンガン斑含む。水田耕作土。
Ⅰh	灰色（5Y5/1）粘質土	粘性強、しまり強。径2～5mm炭化物少量、腐植物微量含む。水田耕作土。
Ⅰh'	灰色（5Y4/1）粘質土	粘性強、しまり強。径2～10mm炭化物少量、腐植物少量含む。水田耕作土。
Ⅰi	灰色（5Y4/1）粘質土	粘性強、しまりやや弱。径1～10mm炭化物少量、地山ブロック少量、腐植物微量含む。水田耕作土。
Ⅱa	黄灰色（2.5Y4/1）粘質土	粘性強、しまりやや強。径1～2mm炭化物少量、径1～15mm地山ブロック中量含む。遺構埋土色調「B」。中世遺物包含層。
Ⅱb	黒褐色（10YR3/1）粘質土	粘性やや強、しまりやや強。径1～2mm炭化物少量、径1～15mm地山ブロック少量、マンガン斑含む。遺構埋土色調「A」。中世遺物包含層。
Ⅳa	オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土	粘性やや強、しまり強。鉄分多量含む。
Ⅳb	オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土	粘性強、しまり強。鉄分中量含む。
Ⅳc	灰色（10Y6/1）シルト	粘性やや強、しまり強。鉄分少量、植物由来の灰色ブロック中量含む。
Ⅳd	灰色（10Y6/1）シルト	粘性やや強、しまり強。鉄分中量含む。
Ⅳe	灰色（10Y6/1）粘質土	粘性強、しまり強。鉄分・マンガン斑多量含む。
Ⅳf	灰色（5Y5/1）シルト	粘性やや強、しまりやや弱。やや褐色を帯びる（腐植物由来か）。自然木あり。湧水（少）。
Ⅳg	灰色（5Y5/1）砂質土	粘性弱、しまりやや弱。湧水（多）。

第２表　基本層序一覧



第９図　層序模式図

との区別が困難であった。そのため、埋土タイプ「B」とした遺構には、近世のものが一定数含まれているものと考えられる。Ⅱa・b層が確認できる範囲は74・75グリッド付近に限られ、これよりも北・南側では後世の水田耕作や造成などによる撹乱で削平されている。Ⅱa層は西側ほど残りがよく、東側では不連続な層となる。一方、Ⅱb層は東側を中心に認められた。Ⅲ層は、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層であるが、本年度調査区では確認できなかった。Ⅳ層上面は、遺構検出面である。Ⅳ層は井戸の調査時に、検出面から最大で約２m下まで確認し、地点によって７層に細分した。検出面から１～1.5mほどで湧水が認められるシルト層（Ⅳf）にあたり、約1.5mから下位では、湧水が非常に多い砂層（Ⅳg）が確認できる。



第 10 図　基本層序と位置図

4　遺　　構

A　遺構の概要

検出した遺構は、上層では土塁 1 基、下層では、掘立柱建物 24 棟、柵 2 列、井戸 85 基、土坑 21 基、溝 18 条、性格不明遺構 9 基、ピット 388 基（掘立柱建物・柵を構成する柱穴を除く）、杭列 1 である。遺構の大半は 14 世紀～ 15 世紀代に帰属するが、中には近世以降と考えられる遺構が一定数認められる。また、古代の遺物が出土する遺構が少数あるが、埋土の様相から中世に帰属するものと考えられ、遺物は混入したものと捉えた。

B　記述の方針

遺構の記述は、本文・挿図表・観察表・図面図版・写真図版を用いて行った。記述は、遺構の種別ごとに番号の若い順から行い、特徴的な点や他の遺構との関係を中心に述べ、詳細は観察表に記した。なお、

掘立柱建物・柵を構成する柱穴を除くピットについては、遺物を図化したもののみ記述し、それ以外については観察表への掲載に留めた。

遺構番号

遺構名称は、遺構の種別略号と番号で表記した。略号は、掘立柱建物「SB」、柵「SA」、井戸「SE」、土坑「SK」、溝「SD」、性格不明遺構「SX」、ピット「P」とした。番号は、遺構種別を問わず通し番号とし、略号の後ろに付した。遺構番号は、2014年度調査からの通しとし、2018年度の調査では「16000」番から使用した。また、検出した順に番号を付したが、その後の調査、整理段階で遺構ではないと判断したものは欠番とした。なお、上層で検出した土塁及び下層で検出した杭列については、それぞれ単独の遺構であるため、略号及び通し番号は使用していない。

図　　版

図面図版は、全体図・分割図・個別図で構成している。全体図は、上層を1/200、下層を1/300で表した。分割図は、下層を1/100で7分割して表した。個別図は、平面図・断面図・エレベーション図で構成している。掘立柱建物・柵は、平面図・エレベーション図を1/80で、柱穴の断面図を1/40で表した。溝は、断面図のみを1/40で個別図に表し、断面ポイントは分割図に示した。その他の遺構は、平面図・断面図を1/40で表した。なお、上層の土塁については、断面図のみを1/40で個別図に表し、断面ポイントは全体図に示した。断面図の土層色調は、『新版標準土色帖』［農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所2014］に基づいた。写真図版は、個別図にある遺構について掲載するように努めたが、すべてを網羅してはいない。

観　察　表

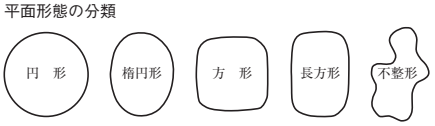
観察表は、位置・形態・規模・方位・埋土状況・出土遺物・切り合い関係などの項目を設定した。規模は、検出面での数値を計測し、遺構の重複や撹乱などで計測が困難なものについては残存値を（　）で表記した。方位は、長軸が真北に対して東西に何度振れているかを計測し、「N－65°－E（W）」などと表記した。主な出土遺物は本文中でも触れたが、詳細は観察表に記した。切り合い関係は、本文中では「切る（新しい）」、「切られる（古い）」と表現し、観察表では記号を用い、「＜」・「＞」・「＝」・「≠」・「≦」・「≧」で表記した。「A＞B」はAがBを切る（Aが新しい）という関係を示し、「A＝B」は同時期、「A≠B」は重複するが新旧が不明なもの、「A≧B」は一定の期間同時存続するが最終的にはAがBを切ることを意味する。

C　分　　類

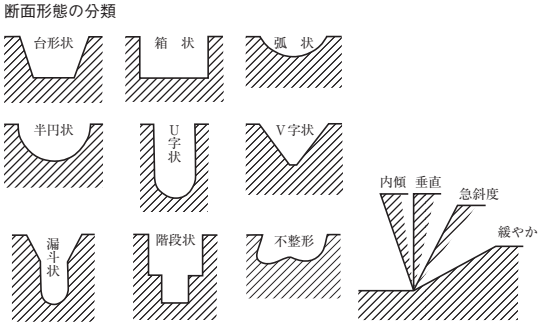
遺構の平面形態・断面形態の分類は［加藤1999］を一部改変して用いた（第11図）。遺構埋土の堆積形状の分類は［荒川2004］を用いたが、ピットの埋土堆積形状については柱痕の有無や形状を加味し、他の遺構で使用する堆積形状とは別に分類した（第12図）。埋土の色調タイプは、第3節で述べたとおりⅡa層由来が「B」、Ⅱb層由来が「A」である。ただし、「B」の中にはⅠ層由来のものが含まれる。

掘立柱建物（SB）

掘立柱建物24棟のうち、発掘調査時に建物として認定したものはSB16670・16671・16672の3棟のみであり、そのほかはすべて整理作業において復元したものである。建物の復元にあたっては、柱穴の配列が矩形となることを優先とし、柱穴の規模、柱痕の有無、埋土状況などを踏まえて作業を行った。重複する遺構や撹乱等で、一部柱穴が検出できていない建物もあるが、先述の柱穴の状況などから建物として認

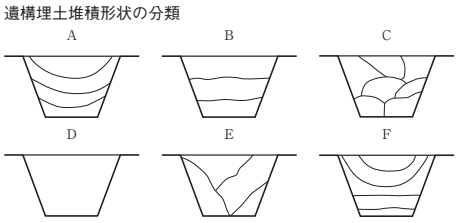


円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

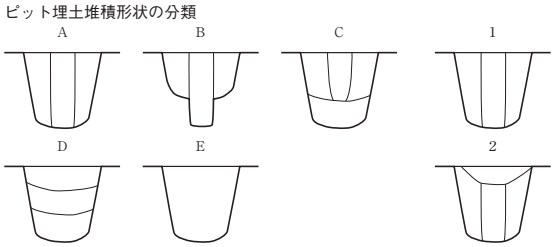


台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	検出面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。
不整形	凸凹で一定の断面形を持たないもの。

第 11 図　遺構の平面・断面形態の分類（[加藤 1999] を改変）

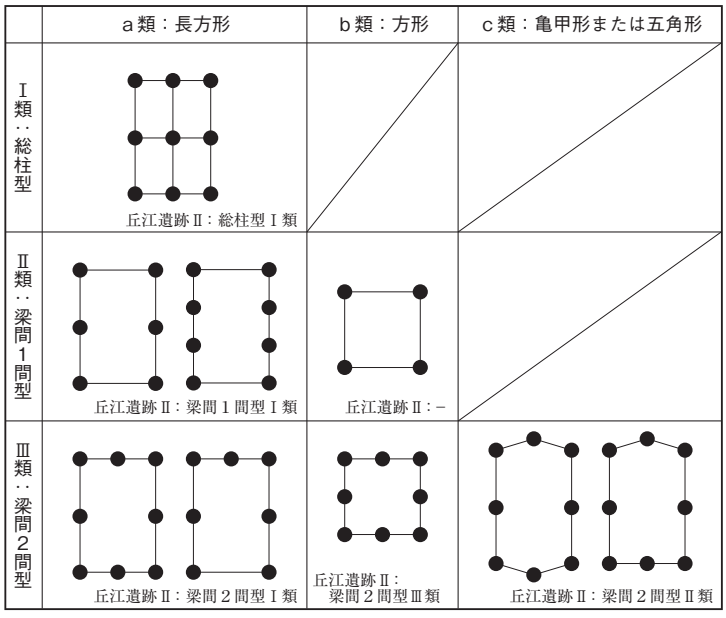


A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数層が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	埋土が単一層のもの。
E 斜位	斜めに堆積するもの。
F 水平レンズ	埋土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

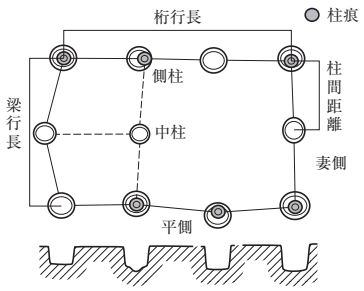


A	柱痕と思われる土層が堆積し、掘方と柱痕の底面がほぼ同じもの。
B	柱痕と思われる土層が堆積し、掘方よりも柱痕の底面が低いもの。
C	柱痕と思われる土層が堆積し、掘方よりも柱痕の底面が高いもの。
D	柱痕と思われる土層が無く、レンズ状に堆積するもの。
E	柱痕と思われる土層が無く、埋土が単一層のもの。
1	A～Cのうち、柱痕が柱穴検出面で検出できるもの。
2	A～Cのうち、柱痕が柱穴検出面で検出できず、レンズ状に堆積した層下で検出できるもの。

第 12 図　遺構埋土の堆積形状の分類（[荒川 2004] を改変）



第 13 図　掘立柱建物形式分類



建物柱穴がエレベーション図のラインから外れるものは、中心を通る位置を合成し、検出面のラインを切って表現した

第 14 図　掘立柱建物の部位名称・計測部位・表現方法

定したものもある。また、建物の柱穴以外にも多数のピットを検出しており、さらに多くの掘立柱建物が存在していたものと考えられる。

掘立柱建物の分類については、［宮本 1999・2002］、［春日 2009］、［不破野 2018］などを参考として、構造と平面形で行った。構造は、総柱建物（Ⅰ類）と側柱建物に大別し、側柱建物は妻側（梁行）の柱間数で梁間１間型（Ⅱ類）と２間型（Ⅲ類）に分けた。平面形は、長方形をａ類、方形をｂ類、亀甲形または五角形をｃ類とし、『丘江遺跡Ⅱ』における掘立柱建物形式分類との対応関係を含めて図示した（第 13 図）。梁間２間型のものについては、妻側面に棟持柱を持つ梁間１間型の可能性も考えられるが、ここではすべて梁間２間型として扱った。なお、掘立柱建物の各部位の名称・計測、図の表現方法については、第 14 図のとおりである。面積は、側柱の柱穴（柱痕があるものは柱痕の中心）を結んだラインの内側を計測した。

柵（SA）

複数の柱穴が直線状に並ぶものを柵とした。２列検出し、いずれも掘立柱建物に付随する施設と考えられる。特に SA16708 は、SB16707 の廂と捉えるべきかもしれないが、柵として扱った。

井戸（SE）

本調査区では、検出面から１～ 1.5 ｍ下で湧水するシルト層（Ⅳｆ）があり、さらに下位で水を豊富に含む砂層（Ⅳｇ）が確認できる。しかし井戸とした遺構で、Ⅳｇ層まで掘り込まれているものはわずかで、Ⅳｆ層を含めてもおおよそ半数である。検出した井戸はすべて素掘りであり、湧水の状況からみてもすべてを井戸と認定するには根拠が乏しいが、ここでは、検出面からの深度が１ｍを超えるもの、上端短径よりも深度が大きいものを、形状や埋土状況などを加味し井戸として扱った。なお、井戸については、平面形態及び断面形態で次のように分類した。平面形が円形基調のものをⅠ類、方形基調のものをⅡ類とし、断面形が箱状やＵ字状などで壁面に段を持たないものをａ類、漏斗状や階段状で壁面に段を持つものをｂ類とした。

土坑（SK）

検出面での上端長径がおおよそ 50cm を超えるものを土坑としたが、井戸との境があいまいなものがある。ここでは調査時に付した遺構種別を優先して使用する。

溝（SD）

細長く掘り込まれた遺構を溝とした。

性格不明遺構（SX）

平面形が不整形のものや、掘り込み深度が極端に浅いものなどを性格不明遺構とした。本来、土坑とすべき遺構も含まれているが、整理時の混乱を避けるため調査時に付した種別を使用することとした。

ピット（P）

検出面での上端長径がおおよそ 50cm 未満のものをピットとしたが、50cm を超えるものも一定数含まれる。これについては、柱痕を有するものについてはピットと認定でき、それ以外のものは土坑として捉えることも可能であるが、性格不明遺構同様、調査時の遺構種別を優先とした。また、ピットについては、遺物を図化したものについて個別で記載し、それ以外については観察表に各項目を記載するに留めた。なお、掘立柱建物や柵を構成する柱穴は、ここに含めていない。

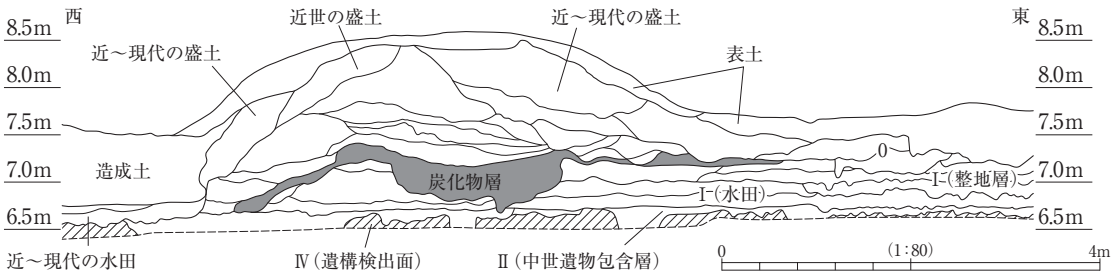
D　各　　説

1）土　　塁（図版1・2・80・81）

73～76L・Mに位置し、調査区東側に隣接する宅地を区画、防風する施設として、現代まで機能していたものと考えられる。本調査区から北へ約0.9Kmに位置する山崎遺跡でも同じような土塁が残っており、調査の結果、古くは15世紀後半～16世紀に構築されたものとされている［継ほか2018］。本調査区の土塁も中世に構築された可能性があったため、調査に先立ち、トレンチを掘削して断面の確認を行った。断面と出土遺物の観察の結果、土塁の構築時期は古くても19世紀初め以降であることがわかり、本遺構についてはトレンチの断面記録及び現況測量のみを行うこととした。なお、下層調査にあたり土塁を重機で掘削する際、出土した土器などの遺物は極力回収に努めたが、すべてを採集できたわけではない。

土塁は、平面形がL字状で、現状の規模は南北方向が長さ31.3 m、幅4.5～6.0 m、高さ0.8～1.2 m、東西方向が長さ8.4 m、幅2.8 m、高さ0.55 mである。南北方向はN－14°－Eを指し、北側で東側に折れて、その先は緩やかに傾斜し終息する。断面観察でも盛土が確認できないことから（後世の造成による撹乱の影響もあるが）、構築当初からここで途切れていた可能性が高い。1947（昭和22）年撮影の航空写真（第6図）でも土塁が確認できるが、当該か所については途切れているようにみえる。また、南側は国道252号線によって壊されている。

断面観察から、土塁はⅠ層堆積後に掘り込まれた炭化物層の上に土を積み上げて構築されていることがわかった（第15図）。炭化物層の範囲は正確に捉えていないが、74Mから75Lグリッドにかけてで、ほぼ土塁と同一方向に延びていた。炭化物層は黄灰色粘質土が主体で、中心部はほぼ炭化物のみで、少量ながら焼土ブロックを含む。遺物は中世から近世のものを含むが、18世紀後半～19世紀の土器（109・110）が多く、土塁はそれ以降に構築されたものと考えられる。盛土は、表土を除いて近世と近～現代の2時期に大別できる。近世の盛土は、にぶい黄褐色シルトが主体となっている。下位では、そのにぶい黄褐色シルトと、やや明るい色調の灰黄褐～にぶい黄褐色シルトを層厚5～22cmで交互に積み上げている。上位では、にぶい黄褐色シルトを層厚50～70cmと下位より厚く積み上げている。遺物は少なく、中世から近世の陶磁器類が出土した。近～現代の盛土は、近世の盛土よりやや黒味の強いにぶい黄褐色シルトが主体で、60cm以下の礫や砂利を多量に含む。近世の盛土脇に層厚30～60cmで積み増しをすることで、高さを変えず幅だけを増した形となっている。遺物は、近世～現代の陶磁器類とガラス片やビニールといった現代のゴミなどが出土した。また、土塁の周囲には、山崎遺跡で検出したような堀は確認できず、盛土に用いられた土は遺跡外から搬入された可能性が高い。なお、土塁との直接的な関係は不明であるが、土塁で区画された屋敷地内の盛土層から、明治時代の所産と考えられる石見焼の甕（116）が出土している。



第15図　土塁断面図

2）掘立柱建物・柵

SB16670（図版6・11・82）

69K に位置する。構成するピットは、P16070・16065・16066・16067・16068・16069 である。北側が調査区外へと延びる、総柱型の建物と考えているが、１間×２間の梁間１間型の側柱建物の可能性も残す。ピットの埋土色調はＢだが、P16068 のみＡである。また、西側の P16065 は深度が非常に浅いが、柱痕らしき層が分層できた。周囲にピットがなく、平面の並びもしっかりとしていることから１つの建物として捉えた。遺物は出土していない。

SB16671（図版6・11・82・83）

71K に位置する。構成するピットは、P16212・16213・16709 である。大部分が調査区外となっているため、建物構造などは不明である。開渠掘削時に同規模のピット（P16709）を検出しており、これを加えた軸線が区画溝である SD16085 と同じことから、建物として認定した。ピットの埋土色調はＡで、SD16085 の古い段階と同時期に存在していた可能性が高い。開渠中のピットを含め、上端長径が 50cm 以上と、ほかの建物のピットに比べ規模が大きい。遺物は出土していない。

SB16672（図版4・12・83・84）

70M・N、71M・N に位置する。構成するピットは、P16042・16040・16106・16013・16012・16014・16027・16006・16008・16005 である。Ⅲａ類で、P16106 が北西角のピットと仮定すれば、桁行４間の建物である。P16005・16008 は中柱で、南西角のピットは検出できなかった。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調の SB16686 と重複するが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。P16106 から礫が１点出土した。

SB16686（図版4・12・84）

70M・N に位置する。構成するピットは、P16038・16002・16115・16004 である。北側は調査区外、東側は撹乱となっていて、建物の構造や規模は不明である。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調の SB16672 との新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SB16687（図版5・13・84・85）

70L・M、71M に位置する。構成するピットは、P16184・16097・16091・16098・16093 である。北側が撹乱となっていて、建物の構造や規模は不明である。総柱または、梁行１間で東側に廂が付随する建物とも考えられる。遺物は出土していない。

SB16688（図版5・13・84）

70・71L に位置する。構成するピットは、P16209・16186・16099・16092・16143・16185 で、Ⅱａ類の建物である。北妻側は２間、南妻側は１間で、中柱（P16185）を持つ。北東角と東平側の中央のピットは検出できなかった。ピットの埋土色調はＢで、南東角の P16209 は SX16136 の底面で検出したが、新旧関係は不明で、深度はほかと比べて深い。遺物は出土していない。

SB16689（図版5・14・85）

71L・M に位置する。構成するピットは、P16226・16166・16149・16211・16177・16181 で、Ⅱｂ類の建物である。P16181 は中柱で、北西角のピットは検出できなかった。P16211 は、SX16136 の底面で検出したが、新旧関係は不明である。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調の SB16690・16691 と重複するが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。P16149 から柱根（163）を検出した。

SB16690（図版５・14・85）

71L・Mに位置する。構成するピットは、P16269・16268・16210・16170・16183・16187・16257・16192で、Ⅲｂ類の建物である。北妻側は２間、南妻側は１間で、中柱（P16192）を持つ。平側の中央ピットは、P16268が大きく、P16187が少し内側に寄る。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調のSB16689・16691と重複するが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。なお、後述するSB16698・16703と軸方向が似ており、それらの遺構の時期を踏まえると今回検出した建物の中で最も新しい時期の可能性が高い。遺物は出土していない。

SB16691（図版５・15・85・86）

71L・Mに位置する。構成するピットは、P16283・16222・16155・16154・16168・16163で、Ⅱａ類の建物である。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調のSB16689・16690と重複するが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SB16692・SA16693（図版８・15・86・87）

72K・Lに位置する。SB16692を構成するピットは、P16265・16252・16248・16236・16260である。東側は調査区外となっていて構造や規模は不明であるが、仮に長軸が東西方向を向く側柱建物とみた場合、西妻側のP16252がやや外に張り出していることからⅢｃ類に分類できる。ピットの埋土色調はＢで、同じ埋土色調であるSD16085の新しい段階やSD16233と本遺構の梁行方向が似ており、同時期に存在していた可能性が高い。P16265から柱根（164）を検出した。

SA16693を構成するピットは、P16282・16304・16250・16232で、直線で並ぶ。ピットの埋土色調はＢである。軸方向は、同じ埋土色調のSB16692の梁行方向とほぼ同じであることから、本遺構は建物に伴う可能性が高い。位置的にみて、建物と溝を仕切る塀のような機能が想定できる。

SB16694（図版８・16・87）

72Lに位置する。構成するピットは、P16320・16334・16313・16284・16288・16289・16316・16291で、Ⅲａ類の建物である。重複する遺構の影響で、南東角と西平側中央のピットは検出できなかった。東平側のピットは２基とも外側に寄っていて、変則的な桁行３間となっている。ピットの埋土色調はＢで、SK16405やSD16356を切っている。遺物は出土していない。

SB16695（図版７・16・87・124）

72Mに位置する。構成するピットは、P16109・16656・16277・16354・16647・16111で、Ⅱａ類の建物である。北東角及び北平側東寄りのピットは検出できなかった。72Mグリッドの西側付近は、後世の造成に伴う撹乱が多くピットをうまく検出できていない可能性がある。埋土色調はＡで、同じ埋土色調のSB16696と重複するが新旧関係は不明である。場合によっては、本遺構とSB16696が一連の建物であった可能性もあるが、推測の域を出ない。遺物は出土していない。

SB16696（図版７・17・87・88）

72M・N、73Mに位置する。構成するピットは、P16598・16674・16104・16072・16088・16119・16150・16362で、Ⅱａ類の建物である。撹乱や重複する遺構の影響で、北東角と東平側の一部のピットは検出できていない。両平側のピットは、並びや柱間距離が不揃いだが、大きくみれば軸は千鳥型である。ピットの埋土色調はＡで、先述のとおりSB16695とは一連の建物であった可能性を残す。重複するSB16697との関係は、P16104がSB16697-P16064に切られれていることから本遺構が古い。P16598からいずれも研磨具に転用した珠洲焼片口鉢（１）と珠洲焼甕（２）が、P16674及びP16072掘方埋土から土

師質土器が1点ずつ出土した。

SB16697（図版7・18・87～89）

72・73Mに位置する。構成するピットは、P16606・16064・16140・16121・16151・16361・16375で、Ⅲc類の建物である。北妻側は2間で、中央のピット（P16140）がわずかに外へ張り出す。南妻側は1間で、P16361を補助的なものと捉えれば、桁行2間の建物とみることもできる。北西角のピットは検出できなかった。ピットの埋土色調はAで、重複するSB16696とは先述の切り合い関係から本遺構の方が新しい。遺物は、P16140の掘方埋土から土師質土器が1点出土した。

SB16698（図版7・19・89）

73・74Mに位置する。構成するピットは、P16610・16622・16358・16386・16390・16427で、Ⅲc類の建物である。両妻側の中央ピット（P16358・16427）が外側へ張り出す。両平側は中間の柱を持たず、柱間距離が長い。P16594を北西角のピットとした場合、P16601を平側の中間の柱として桁行2間の建物とみることもできるが、東平側に対応するピットがないことから桁行1間の建物とした。P16610が、15世紀後半ころの埋没と考えられるSD16383を切っており、後述するSB16703とともに今回の調査で検出した建物のうち最も新しい時期のものと考えられる。P16610の柱抜き取り痕と考えられる埋土から珠洲焼片口鉢が1点出土した。

SB16699（図版9・19・89・90）

74Lに位置する。構成するピットは、P16434・16512・16554・16410で、Ⅲa類の建物である。南西側はSX16458と重複しており、一部検出できなかったピットがある。また、P16410は現地調査時に測量されておらず、整理作業時に航空写真などから復元した。ピットの埋土色調はBである。埋土色調や軸方向が似るSB16701とは同時期の可能性が高い。SB16700も同様であるが、建物同士がかなり近接しており、同時存在の可能性は低いか。このほか、SB16702・16704とも重複するが、直接切り合うピットがないため新旧関係は不明である。ただし、SB16704は埋土色調がAであることから、これよりは新しい可能性が高い。遺物は出土していない。

SB16700（図版9・20・89～91）

74L・Mに位置する。構成するピットは、P16496・16437・16488・16435・16474・16510・16493・16513・16455で、Ⅲc類の建物である。南妻側の中央ピット（P16513）が外側へ大きく張り出し、北妻側は3間となっている。P16455は中柱で、南西角のピットはSE16549のためか検出できなかった。ピットの埋土色調はBで、P16488がSB16704-P16684を切り、SB16703-P16487に切られる。また、P16496がSB16704-P16503を切る。このことから、SB16704→16700→16703の変遷が追える。なお、SB16702とも一部が重複しているが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

SB16701（図版9・21・89・91）

74Mに位置する。構成するピットは、P16638・16636・16617・16639・16451・16459で、Ⅲc類の建物である。北東側のピットは、重複する遺構などで一部検出できなかった。ピットの埋土色調はBで、P16639はSD16383に切られる。SB16703・16704と一部重複するが、埋土色調や軸方向が似るSB16700と同時期と捉えると、SB16704→16701→16703の変遷が推測できる。遺物は、P16639から香炉と考えられる瓦器（3・4）が出土した。

SB16702（図版9・21・89・91・92・123）

73・74Lに位置する。構成するピットは、P16461・16438・16428・16409・16411・16447・16432・

16456で、P16456がやや北に寄るがⅠａ類の建物とした。南東角のピットは、SX16458と重複するため検出できなかった。ピットの埋土色調はBで、SB16699・16700・16704と重複するが、直接切り合うピットがなく新旧関係は不明である。ただし、埋土色調がAのSB16704よりは新しいと考えられる。遺物は出土していない。

SB16703（図版9・22・89・90・92）

74L・M、75L・Mに位置する。構成するピットは、P16627・16616・16669・16487・16499・16535で、Ⅱｂ類の建物である。西平側のP16616がわずかに外側へと張り出し、緩やかな胴張型を呈する。ピットの埋土色調はBで、P16487がSB16700-P16488を切る。先述した建物の切り合い関係から、SB16704→16700・16701→16703の変遷が追え、軸方向の似るSB16698とともに最も新しい時期の建物と考えられる。遺物は出土していない。

SB16704（図版9・23・89・92・93）

74L・Mに位置する。構成するピットは、P16498・16476・16684・16502・16482・16528・16433・16503で、Ⅱａ類の建物である。両平側の柱筋は千鳥型で、想定される柱間は北側が3間、南側が4間となっている。ピットの埋土色調はAで、P16503・16684は、それぞれSB16700-P16496・16488に切られる。このほか、SB16699・16701・16702・16703と重複するが、これらの建物はいずれもピットの埋土色調がBであり、本遺構が最も古い時期であると考えられる。遺物は出土していない。

SB16705（図版10・22・93・94）

75K・Lに位置する。構成するピットは、P16657・16551・16544・16531・16619・16630で、Ⅲｃ類の建物である。南妻側の中央ピット（P16630）が外側へ大きく張り出す。東平側の中央ピットは、撹乱の影響で検出できなかった。西平側の中央ピット（P16551）がわずかに外側へと張り出し、緩やかな胴張型を呈する。ピットの埋土色調はBで、SB16698・16703と軸方向が似ることから、これらと同時期である可能性が高い。このほか、SB16707とも重複するが、こちらは埋土色調がAであることから本遺構の方が新しいと考えられる。遺物は出土していない。

SB16706（図版10・23・93・94）

75L・Mに位置する。構成するピットは、P16579・16543・16574でⅡａ類の建物である。北西角のピットは検出できなかった。ピットの埋土色調はBで、埋土色調がAのSB16707よりは新しいと考えられる。P16543から柱根（165）を検出した。

SB16707・SA16708（図版10・24・93～95）

75K・Lに位置する。SB16707を構成するピットは、P16572・16575・16569・16530・16526・16562・16588で、Ⅱａ類の建物である。西妻側は2間となっているが、P16575が北側にかなり寄っていることから補助的な柱と捉え、基本的な構造は梁行1間の建物とした。また、北平側の中間ピットは検出できなかった。ピットの埋土色調はAで、重複するSB16705・16706が埋土色調Bであることから、これより古い時期の建物と考えられる。P16588の柱痕から、柱根の一部と考えられる木片が1点出土した。

SA16708を構成するピットは、P16533・16633・16577・16590で、千鳥型に並ぶ。SB16707と軸方向が似ることから、これに付随する廂もしくは塀と考えられる。SB16707に近接していること、P16590を除くピットがSB16707の柱筋に近いことなどから、塀というよりは廂の可能性が高い。ちなみに、P16533・16633・16577とSB16707との柱間距離は0.53～0.79ｍである。遺物は出土していない。

3）井　　戸

SE16016（図版4・25・96）

70N10・15、71N6・11に位置する。Ⅰb類で、断面形は緩やかな漏斗状を呈する。埋土は7層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、7層は地山由来の灰色粘質土である。6層は腐植物を含む。底面はシルト層で、湧水は微量である。6層から完形の箸（167）のほか、箸、炭化材、炭化板材、4層から箸、曲物側板（166）が出土した。

SE16017（図版4・25・96）

70N4・9に位置する。Ⅰa類である。埋土は12層に分層し、1～7層はレンズ状に、8～12層は水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、12層は地山由来の灰色粘質土である。8～12層は木製品を中心とした遺物が多く出土し、遺物とともに人為的に埋め戻されものと考えられる。底面はシルト層で、湧水は少量である。12層から曲物底板（185・186）、箸（187・188）のほか部材や自然木など40点以上が出土した。11層からは、長方形曲物底板（180～182）、箸（183・184）のほか土器・木製品・自然木など70点と種子1点が出土した。10層からは、櫛（176）、箸（177・178）、板状木製品（175と接合）、部材（179）のほか土器・礫・自然木など60点以上が出土した。9層からは、曲物側板（168・169）、曲物底板（170）、箸（171～173）、板状木製品（174・175）のほか木製品・礫・自然木など100点以上が出土した。8層からは、土師質土器小皿（5）のほか木製品・自然木など20点以上が出土した。このほか、6層からは軽石1点が、3層からは礫1点が、2層からは土師質土器2点が出土した。また、9・10層からは骨とみられる白色物質が出土した。状態が非常に悪く、細片で土壌化している。

SE16028（図版4・25・96・97）

70N19に位置する。Ⅰa類である。埋土は11層に分層し、1～7層はレンズ状に、8～11層は水平に堆積する。8～10層は遺物とともに人為的に埋め戻されたものと考えられる。また、6層と8層は炭化物を多く含む。埋土色調はAを基調とする粘質土で、7・11層は地山由来の緑灰・灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。10層から刳物匙（189）、箸（193）のほか木製品・加工材・樹皮など20点以上が、9層から杓子形木器（190）、箸（192）、棒状木製品（194）が、8層から箸（191）が、4層から珠洲焼片口鉢（6）が出土した。

SE16031（図版4・25・97）

71N8・9に位置する。Ⅰb類で、断面形は全体が緩やかな漏斗状を呈し、北側上部にテラスを持つ。SE16051と重複し、これを切っている。埋土は9層に分層した。1～7層は自然堆積土でレンズ状に堆積する。8層は炭化物や遺物を多量に含み、遺物の廃棄とともに一括で埋め戻されたものと考えられる。埋土色調はAを基調とする粘質土で、9層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底面はやや粘性の強いシルト層で、湧水はほとんど認められない。9層から箸2点が、8層から糸巻枠木とみられる棒状木製品（195・196）、差下駄歯（197）、杓子形木器（198）、長方形曲物底板とみられる板状木製品（199）、箸（200・201）、棒状木製品（202～204）のほか木製品・礫・自然木など50点以上が、1層から砥石1点が出土した。なお、8層について種実同定を行っており、結果を第6節に記載した。

SE16037（図版4・25・97・98）

72N3・8に位置する。Ⅱb類で、断面形は南側が緩やかな漏斗状を呈する。埋土は6層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調は1～3層がAを基調とする粘質土で、4・5層がBを基調とする粘質土、

６層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。本来、古い層であるＡ埋土が上位に来ているが、地山を含んだブロック状となっており、周辺の井戸などを掘削した際に古い層を巻き込んだ土を埋めたものと理解した。底面はシルト層で、湧水は微量である。５層から曲物側板（205）、２層から板材２点が出土した。

SE16044（図版４・26・98）

70M19・24・25 に位置する。Ⅰａ類で、SK16045 に切られる。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調は１・２層がＡを基調とする粘質土、３・４層は地山由来の灰色粘質土、５層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。１～４層は、地山ブロックを多く含む層と少ない層の互層となっている。底面はシルト層で、湧水は微量である。５層から角材１点が出土した。

SE16051（図版４・25・97）

71N8・9・13・14 に位置する。Ⅰａ類で、北西側はややオーバーハングする。埋土は８層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調は１～５層がＡを基調とする粘質土で、６・７層は灰色粘質土、８層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。７層は地山ブロックを多量に含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。８層から珠洲焼甕（７）が、１層から土師質土器１点、珠洲焼甕１点が出土した。また、８層から骨とみられる白色の物質が出土した。SE16017 同様、遺存状態は悪い。

SE16060（図版４・26・98）

72M21、72N1 に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は漏斗状を呈する。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。５層から青磁皿（９）が、３層から珠洲焼片口鉢（８）が、２層から珠洲焼甕１点が、１層から土師質土器１点が出土した。

SE16079（図版６・26・98）

69K4・5 に位置する。Ⅱａ類で、断面形はＵ字状を呈する。埋土は４層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、底面付近で腐植物がやや多く出土した。底面はシルト質で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16087（図版４・26・98・99）

72M22、72N2 に位置する。Ⅱｂ類で、平面形は不整形であるが、南東側の上端は撹乱の影響で変形していると考えられ、本来は方形と推測する。南側の下位に緩やかな平坦面を持ち、断面形は漏斗状を呈する。埋土は４層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、４層は色調が濃く腐植物を多く含む。底面はシルト層で、湧水は微量である。４層から箸などの木製品・自然木 15 点以上が、３層から箸などの木製品・自然木 20 点以上が出土した。

SE16100（図版５・26・99）

70L24・25 に位置する。Ⅰａ類で、撹乱内で検出したため法量は残存値である。埋土は３層に分層し、上位はレンズ状、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は腐植物を多く含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16103（図版６・26・99）

69K7・12 に位置する。調査区際で検出したため、北側半分ほどが調査区外となっている。Ⅰｂ類で、下部に水溜とみられるくぼみがある。埋土は９層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調は１～７層がＡを基調とする粘質土で、８・９層は灰色粘質土である。７層は腐植物を少量、８層は多く含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。８層から籠（206）、円形曲物（207）、長方形曲物

底板（208・209）、板状木製品（210）などが、７層から珠洲焼片口鉢（11）、珠洲焼甕（12）、５層から土師質土器皿（10）が出土した。このほか、層位不明の礫１点、曲物側板１点が出土した。なお、８・９層について種実同定を行っており、結果を第６節に記載した。

SE16110（図版７・27・99）

72M9・10・14・15 に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は緩やかな漏斗状を呈する。壁面には足を架けた痕跡と考えられるくぼみを複数か所検出した。埋土は 17 層に分層した。おおむねレンズ状に堆積するが、17 層の堆積状況から、16 層中に桶などの水溜め施設の存在を疑わせる。埋土色調はＡとＢを基調とした粘質土が混在し、特に中位では互層となって堆積している。また、壁際は地山ブロックが多く混じる。底面はシルト層で、湧水は少量である。16 層から種子１点、12 層から白磁皿（13）のほか礫、自然木、11 層から磨石もしくは砥石（117）、10 層から円形曲物底板（211）、７・６層から割材が出土した。

SE16127（図版５・27・99・100）

70L17・18 に位置する。Ⅰａ類で、SX16050 に切られる。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調は１層がＡを基調とした粘質土で、２・３層は地山由来の灰色粘質土で黒褐色ブロックを含む。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16129（図版６・27・100）

71K16 に位置する。試掘（T17）調査時に土坑１としたものである。Ⅰａ類で、底面で横倒しになった自然木を検出した。井戸掘削時にこの自然木が支障となったためか、自然木と同じ方向に深く掘り込まれてオーバーハングしている。埋土は５層に分層し、上位は水平に、下位は斜位に堆積する。埋土色調はＡを基調とした粘質土だが、４・５層は自然木の影響のためかやや褐色を帯びる。底面はシルト層で湧水は少量であるが、自然木の下では砂層（Ⅳｇ層）にあたり豊富に湧き出す。５層から珠洲焼片口鉢（14）、４層から不明石製品、礫が出土した。なお、自然木については調査終了後に重機で掘削し全体を掘り出している。全長は約 2.4 ｍ、最大径約 0.5 ｍで、加工痕などは認められなかった。一部をサンプルとして採取し、放射性炭素年代測定を行ったところ紀元前６～８世紀ころの数値が得られた（第６節参照）。また、自然木周辺の土層を確認したが、遺物包含層や埋没河川のような痕跡は認められなった。

SE16157（図版５・27・100）

71M12・13 に位置する。Ⅰａ類で、P16156 に切られる。埋土は４層に分層し、ブロック状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、４層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。深度は浅いが、ほかの井戸にみられるように底面付近に地山由来の粘質土が堆積することと、微量ながら湧水が認められることなどから井戸とした。遺物は出土していない。

SE16164（図版５・27・100）

71M11 に位置する。Ⅱａ類である。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、４層は炭化した腐植物が主体の黒色シルト層である。底面はシルト層で、湧水は少量である。２層から土師質土器皿１点、珠洲焼片口鉢（15）が出土した。

SE16175（図版５・27・100・101）

71M2 に位置する。Ⅰａ類で、P16174 に切られる。埋土は６層に分層し、レンズ状に堆積する。５・６層の堆積状況は、水溜施設の存在を疑わせるが判然としない。埋土色調は、１層がＢを基調とする粘質土、２層が地山由来のオリーブ灰色粘質土で、当初はこれを地山と誤認した。３～５層はＡを基調とする粘質土、６層は灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。５層から珠洲焼片口鉢（16）

が、３層から白磁口禿椀（17）が出土した。

SE16196（図版４・27・101）

70M15・20、71M11・16 に位置する。Ⅰａ類である。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、５層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。４層は炭化物が筋状に混ざり、腐植物を少量含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。４層から砥石（118・119）、３層から珠洲焼甕（18）が出土した。

SE16199（図版５・27・101）

71M8・13 に位置する。Ⅱｂ類で、西側の底面付近にテラスを持つ。撹乱の影響で上端がやや変形しているが、本来は方形を呈していたものと推測できる。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。１層から珠洲焼甕１点が出土した。

SE16201（図版６・28・101）

71K13 に位置する。Ⅰｂ類で、南側の中ほどにテラスを持つ。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16202（図版５・28・101・102）

71L23、71M2・3 に位置する。南東側に浅いくぼ地が広がり、井戸そのものは北西側に寄る。一連の遺構と解釈してⅠｂ類としたが、埋土１・２層は浅く掘り込まれた別の遺構、もしくは自然地形の可能性も残す。深く掘り込まれた北西側のみを井戸とした場合、上端長径 108cm、上端短径 85cm を測る。埋土は６層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、６層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。５層は腐植物を多く、６層は少量含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。６層から砥石（121）、５層から板草履（212）、板材破片、４層から珠洲焼片口鉢（19）、砥石（120）が出土した。

SE16216（図版５・28・102）

71L18・19・23 に位置する。Ⅰｂ類で、北壁の中ほどにテラスを持つ。テラスは、井戸掘削時の足場としての利用、もしくはこのテラスを底面とする別の遺構との重複などが考えられる。埋土は６層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山ブロックが主体である。また、５層は腐植物を少量含む。底面はシルト層で、湧水は少量である。４層から土師質土器皿（灯明皿　20）、珠洲焼片口鉢（21・22）、珠洲焼甕（転用研磨具　23）、礫、２層から土師質土器１点、礫が出土した。

SE16225（図版５・28・85・102）

71M3・4・8 に位置する。Ⅰａ類で、壁面の立ち上がりが一部内傾する。SB16689（P16626）・P16227 に切られる。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土であるが、１～４層は地山ブロックが主体で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。５層は地山由来と考えられる黄灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16237（図版５・28・102）

71M11 に位置する。Ⅰａ類で、上端付近の一部が撹乱で壊されている。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底部はや

や粘性の強いシルト層で、湧水は微量である。深度は浅いが、ほかの井戸にみられるように底面付近に地山由来の粘質土が堆積することと、微量ながら湧水が認められることなどから井戸とした。遺物は出土していない。

SE16261（図版８・28・102）

72L16 に位置する。Ⅱａ類である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。１層は地山ブロックが主体となり、２層も地山ブロックを多く含むことから、これらは埋め戻された層と考えられる。３層は地山由来と考えられる黄灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から砥石（122）、曲物側板とみられる板材１点、２層から珠洲焼片口鉢（転用研磨具　24）、１層から珠洲焼壺１点が出土した。

SE16264（図版５・28・103）

71M9・13・14 に位置する。Ⅰｂ類で、平面形はやや不整な楕円形を呈する。埋土は９層に分層し、レンズ状に堆積する。１～３層はＢを基調とする粘質土で、炭化物や焼土粒子を含む。４・５層もＢを基調とする粘質土で、本遺構を切る別の遺構（ピット）の可能性も考えらえる。１～３層はこの別遺構を切る、さらに新しい時期の遺構とも考えられるが、後世の造成による撹乱の影響を受けた可能性も残す。６・８層は炭化物が主体の黒色シルトで、焼土粒子を含む。７層は地山ブロックが主体で、９層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。８層から土師質土器１点、部材（213）、樹皮（214）、６層から土師質土器１点が出土した。

SE16272（図版５・29・103）

71M5 に位置する。Ⅰａ類で、深度が上端長径よりも小さい。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は黒味が強い。底面はやや粘性の高いシルト層で、湧水はほとんど認められない。規模や埋土状況などから土坑の可能性を残す。遺物は出土していない。

SE16287（図版７・29・103）

72M6 に位置する。Ⅱａ類で、P16318 を切り、P16290 に切られる。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16295（図版８・29・103）

72L7・8・12・13 に位置する。Ⅰａ類で、SD16085 に切られる。埋土は７層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３・５層は腐植物を多く含む暗褐色シルト層だが、特に５層は腐植物が主体となる。これらの層に挟まれる４層と、腐植物主体の５層に遺物が集中する。６層は地山由来と考えられる灰色粘質土、７層は地山由来のオリーブ灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。５層から珠洲焼片口鉢（25）、珠洲焼甕（26）、板状木製品（再加工　215）、板材１点、杭１点、４層から板材２点、炭化した籾塊（254）、３層から礫、板状木製品（216）が出土した。

SE16296（図版８・29・104）

72L6 に位置する。Ⅰａ類で､SD16328 底面で検出したが新旧関係は不明である。埋土は３層に分層し、斜位に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は腐植物を含む。底面はシルト層で、湧水は微量である。２層から木錘（217）が出土した。

SE16299（図版７・29・104）

71L25 に位置する。Ⅰａ類で、SK16298 を切り、SD16242 に切られる。埋土は３層に分層し、水平に堆

積する。埋土色調はAを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から瀬戸美濃焼小天目椀（28）が、２層から土師質土器小皿（27）が出土した。底面付近で出土した小天目椀は、井戸廃絶に際して埋められたものと考えられる。

SE16301（図版８・29・104）

72L16・17に位置する。Ⅰａ類である。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、地山ブロックを多く含むことから人為的に埋め戻されたものと考えられる。底面はシルト層で、湧水は微量である。２層から珠洲焼甕（29）が出土した。

SE16302（図版５・29・104）

71M9・10・14・15に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は緩やかな漏斗状を呈する。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。５層の堆積状況は、井戸側の存在を疑わせるが判然としない。地山とかなり近似した土で、埋土と誤認した可能性もある。埋土色調はAを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体、５層は地山に近い土質である。底面はシルト層で、湧水は微量である。４層から杭、３層から礫、板材が出土した。

SE16311（図版７・30・105）

72M1に位置する。SE16347・SK16309・SD16356及び撹乱に切られ、平面形は不明である。また、SE16340と重複するが新旧関係は不明である。東側の底面付近にテラスを持つ。埋土は７層に分層し、レンズ状に堆積するものと考えられる。埋土色調はAを基調とする粘質土で、黒褐色土と地山由来と考えられる灰色土やオリーブ灰色土が互層となっている。最下層の７層は、地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。７層から曲物側板１点、６層から板材１点、４層から漆器有台椀（218）、１層から土師器１点が出土した。

SE16314（図版７・29・105）

72M1・6に位置する。Ⅱａ類で、深度が２ｍを超える。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、４・５層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面は砂層で、湧水は多い。遺物は出土していない。なお、５層について種実同定を行っており、結果を第６節に記載した。

SE16315（図版８・30・106）

72L14・15に位置する。Ⅰａ類である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積するが、ほぼ一度に埋没したものと推測できる。埋土色調はAを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16319（図版８・30・106）

72L14に位置する。Ⅰａ類である。埋土は４層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土、４層は壁際に堆積した地山と同質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は、３層から土師質土器１点、板状木製品（220）が、２層から漆器皿（219）が出土した。

SE16333（図版８・30・106）

72L17・22に位置する。Ⅰａ類で、SD16356古段階を切り、P16353に切られる。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。２層から土師質土器小皿（30）、青磁皿（31）、板材３点が出土し

た。土師質土器小皿と青磁皿は、２・３層の境付近でいずれも正位で並んで出土した。井戸を埋め戻す際に意図的に据えたものと考えられる。

SE16340（図版７・30・106・107）

72M1 に位置する。SE16311 のテラス面付近で検出した。全体形状や、新旧関係は不明である。残存部の埋土は単層で、埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層だが、重複する SE16311 や撹乱の方が深いためか、現状では湧水は認められない。砥石１点、板状木製品（221）、が出土した。

SE16341（図版８・30・107）

73L7 に位置する。Ⅰａ類である。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は炭化物が主体の黒色シルトである。４層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16347（図版７・30・107）

72M1・2・7 に位置する。Ⅰｂ類で、SE16311 を切る。西壁の中ほどにテラスを持ち、東側の壁面は後世の造成による撹乱の影響で遺構内部に押し出されるように変形している。埋土は６層に分層し、上位は斜位に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体である。５・６層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層だが、重複する SE16311 や撹乱の方が深いためか、現状では湧水は認められない。１層から珠洲焼甕（32）が出土した。

SE16348（図版７・30・107）

72M3・8・9 に位置する。Ⅰａ類で、南東側の断面形はＵ字状を呈する。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２・３層は腐植物を少量含む。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から砥石（123）、２層から青磁椀（33）、円形曲物側板（222）、板状木製品（223）のほか桶側板・部材が出土した。

SE16357（図版７・30・107・108）

72L22、72M2 に位置する。Ⅰｂ類で、SD16356 古段階を切る。西側の上部にテラスを持ち、壁面は凹凸がありやや不整な形状である。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調は１・２層がＢ、３・４層がＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。４層から硯（124）が出土した。

SE16372A・B（図版７・31・108）

72M5、73M1 に位置する。当初単一の遺構と捉えていたが、断面観察の結果、同じ位置で井戸を掘り直しているものと判断した。SE16372A がＢを切る。南東側は撹乱によって壊されている。SE16372A はⅠｂ類で、西側にテラスを持つ。埋土は４（１～４）層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山が主体、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。SE16372B はⅠａ類と考えられる。埋土は３（５～７）層に分層し、水平に堆積する。５層は地山主体で、黒褐色土（Ａ）ブロックを少量含む。６・７層は地山由来と考えられる灰色～オリーブ灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。５層（SE16372B）から箸（224）が出土した。

SE16376（図版８・31・108）

72L23・24 に位置する。SD16356 底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はやや粘性の強いシルト層で、湧水はほとんど認められない。２層から珠洲焼片口鉢（34）が出土した。

SE16396（図版７・31・108）

72M4 に位置する。Ⅰｂ類で、P16422 を切り、P16370 に切られる。北壁にテラスを持ち、断面形は緩やかな漏斗状を呈するが、壁面には凹凸がありやや不整形ともいえる。埋土は９層に分層し、上位（１～６層）はレンズ状、下位（７～９層）は水平に堆積する。７～９層はＡを基調とする粘質土で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。これに対し、１～６層はＢを基調とする粘質土で自然堆積土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。８層から砥石（125）、木錘（225）、竹筆（226）、切断材（227）のほか自然木１点、６層から土師質土器皿（35）、２層から砥石１点が出土した。

SE16404（図版８・31・109）

73L16・17 に位置する。SD16356 底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から炭化木が出土した。

SE16419（図版７・31・109）

73M9 に位置する。Ⅰａ類である。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、１・２層は地山ブロックが主体であり人為的に埋め戻されたものと考えられる。４層は地山由来と考えられる灰色粘質土で、５層は地山とほぼ同じ土質である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16424（図版７・31・109）

73L23、73M3 に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は袋状に近い不整な形状である。南東壁の上部にテラスを持つ。埋土は７層に分層したが、SE16372 のように同じ位置で遺構が重複している可能性も考えられる。埋土色調は１・２層がＢを基調とする粘質土、３・４層がＡを基調とする粘質土である。５層は地山由来と考えられる灰色粘質土、６・７層は地山由来のオリーブ灰色粘質土で、６層には黒褐色土（Ａ）ブロックが混じる。底面はやや粘性の強いシルト層で、湧水は微量である。７層から土師質土器１点、砥石１点、曲物側板１点、４層から白磁皿（36）が出土した。

SE16436（図版８・31・90・109）

74L17・18・22・23 に位置する。Ⅰａ類で、SB16700（P16435）に切られる。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、１層は地山ブロックが主体である。３層は炭化物が主体の黒色シルトで、４層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16440（図版８・31・109・110）

73L25、74L21 に位置する。SD16383 底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。埋土は単層で、地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16442（図版７・32・110）

73M5、74M1 に位置する。SD16383 底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。埋土は３層に分層し、斜位に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。３層から土師質土器皿（37）が出土した。

SE16443（図版９・32・110）

74L13・14・18・19 に位置する。Ⅰｂ類で、P16515 を切る。断面形は漏斗状で、南壁にテラスを持つ。埋土は６層に分層し、上位はレンズ状、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、５

層は地山ブロックが主体である。底面はシルト層で、湧水は微量である。６層から円形曲物底板（228）、５層から礫１点、板材１点、２層から礫１点が出土した。

SE16444（図版９・32・110）

74L18・23 に位置する。Ⅰａ類である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。２層の上位に遺物が集中し、埋め戻しの途中で一括廃棄したものと考えられる。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から板材１点、２層から珠洲焼片口鉢（38）、砥石（126 ～ 128）が出土した。

SE16469（図版９・32・111）

74M4 に位置する。Ⅰａ類である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、１層は地山ブロックが主体である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16477（図版８・32・111）

74L7・8・12・13 に位置する。Ⅰａ類で、P16534 を切り、P16497 に切られる。埋土は３層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から箸（229）が出土した。

SE16504（図版９・32・111）

74L9・14 に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は階段状を呈する。東壁にテラスを持つ。テラスは、井戸掘削時の足場としての利用、もしくはこのテラスを底面とする別の遺構との重複などが考えられる。また、３層の堆積状況からは井戸側の存在も想定できるが判然としない。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面は砂質が強いシルト層で、湧水はやや多い。２層から礫１点が出土した。

SE16517（図版８・32・111）

74L22・23 に位置する。Ⅰａ類で、撹乱内で検出した。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、５層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。なお、本遺構は断面写真撮影後に崩落してしまったため、断面図は写真から推定し復元してある。底面は砂質の強いシルト層で、湧水はやや多い。４層から白磁杯（39）が出土した。

SE16537（図版９・32・112）

75L11 に位置する。SX16540 底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。１層から近世以降と考えられる陶磁器１点、礫１点が出土した。陶磁器は１層上面の出土で、SX16540 のものが混入したと考えられる。本遺構は、埋土色調から中世に帰属するものと推測できる。

SE16546（図版９・33・112）

74L14・15・19・20 に位置する。Ⅰａ類で、P16547 に切られる。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山ブロックが主体である。底面はシルト層で、湧水は微量である。２層から土師質土器１点、礫１点が出土した。

SE16549（図版９・33・112・113）

74L15・20、75L11・16 に位置する。Ⅰａ類で、SE16550 を切る。埋土は６層に分層し、水平に堆積す

る。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。下部には水溜施設として桶を設置していたものと推測できるが、桶そのものはなく、箍のみが残っていた。４・５層は水溜内に堆積した灰色粘質土で、６層は水溜外の埋土と考えらえれる。箍や桶の側板片があることから、桶本体は腐食したのではなく埋め戻しの際に引き抜かれたものと考えられる。底面は砂層で、湧水は非常に多い。４層から箍、桶側板片、３層から近世以降陶磁器と桶側板を含む木製品や礫、２層から桶側板片と杭などが出土した。箍は竹製で、合計４段確認できる。上から１・２段目がほぼ同レベルで、そこから約 23cm 下に３段目が、さらに約 13cm 下に４段目が位置する。ここから想定すると、桶本体は最低でも径約 70cm、高さ約 40cm と推測できる。

SE16550（図版９・33・112・113）

75L16 に位置する。Ⅰａ類で、SE16549、SX16540 に切られる。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。１層は埋土色調Ｂで、土質が SX16540 に似ることから本来はそちらの一部と捉えるべきかもしれない。２～５層は埋土色調Ａを基調とする粘質土で、３層は地山ブロックが主体である。また、５層は炭化物を多く含む黒色シルトである。底面はシルト層で、湧水は少量である。５層から瀬戸美濃焼平椀（41）、曲物側板１点、１層から珠洲焼片口鉢（40）が出土した。41 は SE16585 のものと接合する。

SE16558（図版９・33・113）

74L10、75L6 に位置する。Ⅰａ類で、SX16559 を切る。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＢを基調とし、１層は黄灰色粘質土で炭化物を多く含む。２層は炭化物が主体の黒色シルト、３層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。３層から陶磁器１点、２層から肥前椀（42）、礫１点、１層から陶磁器１点、板材２点、桶側板１点が出土した。

SE16561（図版９・33・113）

74L10・15 に位置する。Ⅰａ類で、SX16559、P16560 に切られる。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。１層は、近世以降の水田耕作の影響（撹乱）と考えられる。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２・３層は地山が主体、５層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はやや砂質の強いシルト層で、湧水はやや多い。５層上位から漆器有台椀（230）が逆位で出土した。

SE16563（図版９・34・113・114）

75L8・9 に位置する。Ⅱａ類である。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、５層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から礫２点が出土した。

SE16567（図版９・34・114）

75L11 に位置する。Ⅰｂ類で、SE16585 を切り、SX16559 に切られる。断面形は緩やかな漏斗状を呈する。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体である。なお、本遺構は断面写真撮影後に崩落してしまったため、断面図は写真から推定し復元してある。底面はシルト層で、湧水は少量である。３層から円形曲物底板（231）、１層から珠洲焼片口鉢１点が出土した。

SE16582（図版 10・34・114）

75K24、75L4 に位置する。Ⅰｂ類で、SD16586 を切る。北東壁にテラスを持つ。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。２・３層は遺物とともに埋め戻されたものと考えられる。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。３層から礫１点、曲物柄杓（232）が、２層から茶臼（129・130）、円形曲物底板（233）のほか礫が出土した。

SE16585（図版９・34・114・115）

74L15、75L11 に位置する。Ⅰａ類で、SE16567、SX16559 に切られる。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は炭化物が主体の黒色シルトである。底面はシルト層で、湧水は少量である。３層から珠洲焼片口鉢（43）、２層から瀬戸美濃焼平椀（41）が出土した。41 は SE16550 のものと接合する。

SE16592（図版７・34・115）

73M20 に位置する。Ⅱａ類で、深度がほかの井戸に比べて浅く、土坑の可能性を残す。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16597（図版 10・34・115）

75L9 に位置する。Ⅰａ類で、断面形はやや不整な形状をなす。埋土は３層に分層したが、下半は調査中に崩落したため不明である。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。底面は砂層で、湧水は非常に多い。崩落土から礫２点、３層から肥前椀（44）、陶磁器１点、２層から礫２点が出土した。

SE16604（図版７・34・115）

74M11・12・16・17 に位置する。Ⅰｂ類で、SD16383 を切る。東側の底面から約 60cm の位置にテラスを持つ。埋土は７層に分層し、レンズ状または水平に堆積する。埋土色調は１～４層がＢを基調とする粘質土、５層がＡを基調とする粘質土である。６層は炭化物が主体の黒色シルトで、７層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。４層から青磁椀（45）、１層から礫１点が出土した。

SE16608（図版４・35・116）

71N14・15・19・20 に位置する。Ⅰａ類である。埋土は９層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、１～５層は層厚が薄く、層界がやや乱れる。７層より下は地山が主体もしくは地山ブロックを含むことから埋め戻されたと考えられる。底面は砂質の強いシルト層で、湧水はやや多い。遺物は出土していない。

SE16612（図版 10・35・116）

76M6・11 に位置する。Ⅰａ類で、ほかの井戸に比べ深度が浅く、土坑の可能性を残す。埋土は５層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、４層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16620（図版９・35・116・117）

75M2・3・7 に位置する。Ⅰａ類で、ほかの井戸に比べ深度が浅く、土坑の可能性を残す。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調は１層がＡを基調とする粘質土で、２層が地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16623（図版９・35・117）

75M7・12 に位置する。Ⅱａ類で、西側の上端は開渠で不明である。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。層厚は厚く、人為的に埋め戻されたものと考えられる。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。２層から円形曲物底板（234）、箸（235）のほか土器片や加工材が、１層から土師質土器１点が出土した。なお、２層について種実同定を行っており、結果を第６節に記載した。

SE16631（図版 10・35・117）

76M6・7 に位置する。Ⅰｂ類で、底面付近に緩やかな段を持つ。埋土は 4 層に分層し、上位は斜位に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２・３層は地山ブロックが主体である。４層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層で、湧水は微量である。遺物は出土していない。

SE16644（図版 10・35・118）

75L24・25、75M4・5 に位置する。Ⅱｂ類で、西側の底面付近にテラスを持つ。埋土は 13 層に分層した。一部レンズ状の堆積部分があるが、全体として水平堆積である。埋土色調は１～３層がＢを基調とする粘質土、４～ 12 層はＡを基調とする粘質土で、６・８～ 12 層は地山が主体である。13 層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面は砂層に達しており、湧水は豊富である。13 層から板状木製品(238)、箸、７層から円形曲物底板（237)、５層から杭（239）のほか曲物側板と礫、４層から漆器有台椀(236)、曲物側板と自然木、３・１層から土師質土器がそれぞれ１点出土した。なお、13 層について種実同定を行っており、結果を第６節に記載した。

SE16659（図版７・35・118）

72M11・16 に位置する。Ⅰａ類としたが、壁面には緩やかな凹凸が認められる。埋土は６層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、４層は炭化物が主体の黒色シルトである。底面はやや粘性の強いシルト層で、湧水は微量である。４層から炭化木が出土した。

SE16660（図版７・35・118・119）

72M11 に位置する。Ⅰｂ類で、断面形は緩やかな漏斗状を呈する。埋土は６層に分層し、上位はレンズ状に、下位は水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。６層から土師質土器皿（46)、５層から砥石が出土した。

SE16661（図版４・36・119）

72N12 に位置する。Ⅰａ類である。埋土上半は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土下半は調査中に崩落したため不明である。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。２層から礫が出土した。

SE16676（図版５・36・119）

70L22、70M2・3 に位置する。撹乱下で検出したため、全体の形状・規模は不明である。残存部の埋土は単層で、埋土はＢを基調とする粘質土である。底面はシルト層で、湧水は少量である。遺物は出土していない。

SE16677（図版５・36・119）

70L23 に位置する。撹乱下で検出したため、全体の形状・規模は不明である。残存部の埋土は７層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、５・７層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。また、６層は黒色の粘質土で炭化物が多く混じる。底面はシルト層で、湧水はやや多い。５層から円形曲物（240）と炭化材など 10 点以上、２層から礫が１点出土した。

SE16682（図版 10・36・120）

76L11・12・17 に位置する。撹乱（近世以降の水田か）下で検出したため、全体の形状・規模は不明である。Ⅰｂ類で、西壁に２段のテラスを持つ。埋土は６層に分層した。おおむねレンズ状に堆積するが、６層の堆積状況は井戸側の存在を疑わせるものの、検出には至っていない。埋土色調はＢを基調とする粘

質土である。１～４・６層は塊状の黒色に変色した腐植物を含み、未分解腐植物特有の腐敗臭がする。底面はシルト層で、湧水は少量である。４層から部材２点、２層から唐津焼擂鉢（47）、１層から肥前皿（48）・鉢（49・50）が出土した。

４）土　　坑

SK16033（図版４・36・120）

72N1・2に位置する。平面形はやや不整な円形である。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが、４層は地山が主体である。形状が井戸に似るが、深度が浅いことから土坑とした。２層から土師質土器皿（51）、碁石もしくは双六子（131）などが出土した。

SK16045（図版４・26・120）

70M18・19・23・24、70N3・4に位置する。SB16686（P16115）・SE16044を切る。平面形は方形で、底面にはやや凹凸がある。埋土は10層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする黄灰色粘質土、やや黒味の強いオリーブ黒色粘質土、地山由来と考えられる灰色粘質土が互層となる。４層はブロック状の炭化物を多く含む。５・４層から砥石（132・133）、１層から珠洲焼甕（52）が出土した。

SK16046（図版４・36・120）

71M17・22に位置する。P16062を切る。平面形はやや不整な楕円形である。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、４層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。底面はシルト層でわずかに湧水が認められ、井戸の可能性を残す。遺物は出土していない。

SK16052（図版４・36・121）

72M17・18・22・23に位置する。平面形はやや丸みを帯びた長方形で、底面には凹凸がある。埋土は４層に分層し、ブロック状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。４層から珠洲焼片口鉢（土器錘　53）、３層から土師質土器片が出土した。

SK16113（図版５・36・121）

70L2・3・7・8に位置する。SD16086・SX16050に切られる。平面形は長方形で、底面にはやや凹凸があり、南壁に緩やかなテラスを持つ。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、２・３層は地山由来と考えられるオリーブ灰色粘質土である。１層から礫が出土した。

SK16278（図版７・37・121）

72M6に位置する。平面形は方形で、底面は平坦である。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体である。底面から礫が出土した。

SK16298（図版８・29・104）

71L25、72L21に位置する。SE16299・SD16242に切られ、南側は撹乱で壊されている。平面形は長方形と考えられ、底面は平坦である。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、１層は地山ブロックをやや多く含む。１層から礫が出土した。当初はSD16356の延長線上に位置することから、これの一部と考えていたが、埋土の様相が異なっており別の遺構とした。

SK16309（図版７・30・105）

72M1に位置する。SE16311・P16310を切り、SD16356に切られる。平面形はやや不整な楕円形で、底面は平坦である。埋土は２層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、地山ブ

ロックを多量に含む。遺物は出土していない。

SK16343（図版８・37・121）

73L2・7に位置する。SD16328底面で検出し、これに切られているため全体の形状・規模は不明である。深度は浅く、底面は平坦である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山が主体である。遺物は出土していない。

SK16344（図版７・37・122）

72M3に位置する。P16337に切られる。平面形は円形で、底面にはやや凹凸があり部分的にオーバーハングする。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山ブロックが主体で埋め戻されたものと考えられる。遺物は出土していない。

SK16405（図版８・37・122）

72L13～15・17～20に位置する。SD16356を切り、SB16694（P16320・16334）・P16300・16335・16407・16412に切られる。長径4.67ｍ、短径1.84ｍの大型の長方形土坑で、深度は0.76ｍである。底面はおおむね平坦で、部分的に凹凸が認められる。側壁は垂直に立ち上がる。埋土は７層に分層し、水平ないしブロック状に堆積する。埋土色調は１～３層はＢを基調とする粘質土で地山ブロックを多く含む。４～７層はＡを基調とする粘質土で、地山ブロックを多く含むか地山が主体となる。堆積状況からみて一度に埋め戻されたものと考えられ、Ａタイプの埋土は、埋め戻しの際古い層を巻き込んだものと推測できる。４層から瀬戸美濃焼合子（54）、２層から土師質土器が出土した。合子は、北西の壁際に正位で底面からやや浮いた位置で出土している。形状から墓壙の可能性が考えられるが、墓壙とするには長大であり、また埋土状況に棺や埋葬物を示す様子は認められなかった。

SK16408（図版８・37・122・123）

73L17・18・22・23に位置する。平面形は方形で、底面は平坦である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。遺物は出土していない。

SK16462（図版９・37・92・123）

74L13・14に位置する。SB16702（P16461）に切られる。埋土は単層で、埋土色調はＡを基調とする粘質土である。珠洲焼甕（55）、焼成粘土塊が出土した。

SK16495（図版８・38・123）

74L17・18に位置する。SB16702（P16438）・P16683に切られる。平面形は楕円形で、底面の中央やや南寄りには浅いくぼみが認められる。本遺構はSB16704のピットと重複している可能性があり、このくぼみがこれに該当するかもしれないが判然としない。埋土は２層に分層したが、１層は後世の撹乱等の影響と考えられる。２層はＡを基調とする粘質土で、地山ブロックを多量に含む。２層から木片が出土したが、調査中に埋土が崩落した際に所在不明となってしまった。

SK16542（図版９・38・123）

75L21、75M1に位置する。平面形は円形で、底面は平坦である。埋土は３層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。遺物は出土していない。形状が井戸に似るが、深度が浅く湧水もほぼ認められないことから土坑とした。

SK16591（図版７・38・123）

74L22、74M2に位置する。平面形は楕円形で、底面付近の南西側に緩やかなテラスを持つ。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、２層は腐植物をわずかに含む。

遺物は出土していない。

SK16646（図版7・38・87・124）

72M8・13に位置する。SB16695（P16647）を切る。平面形は楕円形で、断面が緩やかな漏斗状を呈する。埋土は4層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はBを基調とする粘質土で、4層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。形状や、湧水が少量認められることから、井戸の可能性を残す。遺物は出土していない。

SK16663（図版7・38・124）

73M25に位置する。平面形は円形で、深度は浅い。埋土は3層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はBを基調とする粘質土で、2層は地山ブロックが主体である。遺物は出土していない。

SK16667（図版10・38・124）

76L13に位置する。平面形は長方形で、底面は平坦である。埋土は単層で、Bを基調とする粘質土である。底面の中央から、銭貨6枚（247～252）が漆器小椀（241）に収められた状態で出土した。漆器小椀は横位の状態である。銭貨は最も古いものが開元通寶、新しいものが永樂通寶である。墓壙と考えられるが、非常に小規模である。

SK16678（図版8・38・124）

74L21・22に位置する。P16679と重複するが新旧関係は不明である。埋土は3層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、3層は地山由来と考えられる灰色粘質土である。1層から珠洲焼片口鉢が出土した。

SK16681（図版10・38・125）

76L3・4・8・9に位置する。平面形は円形で、底面の南側にピット状のくぼみがある。埋土は2層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はBを基調とする粘質土で、2層は地山が主体である。1層から礫や自然木を含む板材、角材などが出土した。埋土の様相や出土遺物から近世以降の遺構と考えらえる。

5）溝

SD16047（図版5・38・125）

69～70Lに位置する。SD16048・16086・SX16050に切られる。南北方向で直線状に延びる。北端は調査区外、南端はSD16085と重複する。SD16085との関係は、上層段階に切られるが、下層段階では同時に機能していた可能性がある。また、2016（平成28）年度調査区（以下、丘江遺跡Ⅲとする）［今井ほか2018b］のSD10193と同一溝と考えられる。底面は南から北に向かって緩やかに傾斜する。SD10193のさらに北側には沢状地形（SX10450）が広がっており、本遺構はSD16085からの排水溝としての機能が推測できる。なお、SX10450の上部は水田の可能性もあり、その場合は用水溝としても機能したであろう。埋土は5層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、5層は地山が主体である。1層から土師質土器皿（56・57）が出土した。

SD16048（図版5・38・125）

69・70Lに位置する。SD16047を切り、SD16085上層段階・SX16050に切られる。南北方向で緩やかな弧を描き延びる。北端は調査区外で、南端はSD16085と重複する。70L8でSD16047と重複するが、平面上で検出が困難であり、SD16047と同時に掘削したためここより南側では平面形を追えていない。SD16085との切合を確認する断面にSD16048の埋土を認めたため、ここまでは延びているものと判断

した。底面はほぼ平坦である。丘江遺跡ⅢのSD10192と形状や埋土が似ることから、同一溝と考えられる。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。３層から砥石（134）が出土した。

SD16049（図版５・41）

69Lに位置する。SX16050と重複するが、新旧関係は認められない。SX16050の北東側は一段掘り下がっており、これに接続している。北側は調査区外となる。丘江遺跡ⅢのSD10191または10233と同一溝と考えられ、形状などから前者の可能性が高い。SX16050は近世の掘込田と考えられることから、これの排水溝として機能していたものと推測できる。埋土は２層に分層でき、SX16050の１・２層に同じである。遺物は出土していない。

SD16077（図版６・38・125）

69K・L、70J・Kに位置する。北西－南東方向で直線状に延びる。69L5付近で東側に向きを変える。北西端はSX16050に切られ、南東端は調査区外となる。底面は南東から北西に向かって緩やかに傾斜する。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。２層から土師質土器皿（58）、砥石（135）が出土した。

SD16078（図版６・38・125）

70K・Lに位置する。東西方向で緩やかな弧を描き延びる。西端はSD16086に切られ、東端は調査区外となる。70K19でSD16084と交差する。底面はほぼ平坦である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。２層から珠洲焼甕（59）、１層から土師質土器、近世以降の陶磁器が出土した。陶磁器は、後世の造成による撹乱の影響で混入したものである。

SD16084（図版６・39・125）

70Kに位置する。南北方向で緩やかな弧を描き延びる。北端はSX16050に、南端はSD16085に切られる。70K19でSD16078と交差する。底面は南から北に向かって緩やかに傾斜する。SD16085を挟んで南に位置するSD16215は、形状や埋土状況が似ることから同一溝と考えられる。埋土は単層で、埋土色調はＢを基調とする粘質土である。１層から土師質土器が出土した。

SD16085（図版５・６・８・39・125・126）

70K・L、71・72L、73K・Lに位置する。埋土状況から新段階と古段階の２時期に分けることができる。新段階でSD16048・16084・16086・16233・16328・SE16295を、古段階でSX16128を切る。SD16047は古段階で接続していた可能性が高く、新段階ではこれを切る。平面形はＬ字状で、長軸は北東－南西方向に延びる。71L6付近で約90°折れ、東端は調査区外となり、南端は緩やかに東側へと向きを変えつつ、SD16383に切られる。集落内における区画溝として機能し、本来は方形（長方形）と推測できる。北側の屈曲点付近から南側は両岸にテラスを持つ。埋土状況から、中心の一段掘り下がった部分が古段階に機能していた幅で、新段階で幅を拡張した可能性が考えられる。底面は南から北に向かって緩やかに傾斜する。埋土は５層に分層し、レンズ状に堆積する。１～３層が新段階で、埋土色調はＢを基調とする粘質土である。４・５層が古段階で、埋土色調はＡを基調とする粘質土である。遺物は１・２層を中心に広く出土していて、特定地点に集中する様子は認められない。５層から土師質土器と礫、４層から珠洲焼片口鉢（62）・甕（転用研磨具　70）、敲石（136）、権状錘か（140）、カマド材（141）、砥石（146・147）、２層から土師質土器、珠洲焼片口鉢・壺（66）・甕（転用研磨具含　68・71）、須恵器、碁石もしくは双六子（138）、石臼（139）、砥石（142）のほか礫約15点、１層から土師質土器皿（60）、瓦器外耳鍋（61）、珠洲焼片口鉢

(63 ～ 65)・壺・甕（転用研磨具含　67・69)、青磁椀（72)、越前焼擂鉢（73)、碁石もしくは双六子（137)、砥石（143・145）のほか礫が出土した。また、出土層位不明の砥石（144)、礫がある。

SD16086（図版５・38・121・126）

70K・Ｌに位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。北端はSX16050に切られ、南端はSD16085に切られる。また、SK16113・SD16047・16078を切る。底面はほぼ平坦である。SD16085を挟んで南に位置するSD16238と埋土が似ており、同一溝の可能性が考えられる。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。１層から珠洲焼、焼土塊が出土した。

SD16198（図版６・39・126）

71Kに位置する。北西－南東方向で直線状に延びる。南東端は調査区外で、北西端は自然に途切れる。P16197に切られる。埋土は単層で、埋土色調は地山由来と考えられる灰色粘質土にＡタイプの黒褐色土ブロックが混じる。遺物は出土していない。

SD16215（図版６・８・39・126）

71Kに位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。北東端は試掘トレンチ（T17）のため不明、南西端は自然に途切れる。SD16085を挟んで北側に位置するSD16084は、形状や埋土状況が似ることから同一溝と考えられる。底面は北から南へ向かって緩やかに傾斜する。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。遺物は出土していない。

SD16233（図版６・８・39・126）

71L、72K・L、73K・Ｌに位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。北東端は試掘トレンチ（T17）のため不明、南西端は自然に途切れる。SD16085・16238・P16312に切られる。底面はほぼ平坦である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。１層から土師質土器、珠洲焼片口鉢・甕（転用研磨具　74)、砥石（148・149）が出土した。

SD16238（図版６・８・39・126）

71K・L、72Kに位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。北東端は試掘トレンチ（T17）のため不明、南西端は自然に途切れる。SD16233を切り、SB16692（P16248・16252）に切られる。SD16085を挟んで北に位置するSD16086と埋土が似ており、同一溝の可能性が考えられる。底面は北から南に向かって緩やかに傾斜する。遺物は出土していない。

SD16242（図版８・39・126）

71・72Lに位置する。北西－南東方向で直線状に延びる。両端は自然に途切れる。SE16299・SK16298・P16281を切る。南西の一部が撹乱で壊されており、検出時はその南に続くSD16356と同一の溝と考えていたが、形状や埋土の様相が異なるため、別の遺構と捉えた。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土で、４層は地山が主体である。１層から土師質土器小皿(75)、珠洲焼甕（76)、砥石（150)、礫などが出土した。

SD16328（図版８・39・126）

71 ～ 73Lに位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。SD16085の底面で検出し、これに切られる。そのため本来の形状・規模は不明である。当初はSD16085の一部（テラス）として捉えていたが、72L5付近から南側で２本に分かれることから別の遺構とした。南西端はSD16383に切られる。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調は、１層がＢを基調とする褐灰色粘質土、２層がＡを基調とする黒褐色粘質土で、２時期にわたり機能していた可能性が高い。３層は地山が主体である。１層から珠洲焼

甕（77）、砥石（151）、礫が出土した。

SD16356（図版８・39・105・107・108・122・127）

72L・M、73L に位置する。埋土状況から新段階と古段階の２時期に分けることができる。北東－南西方向で直線状に延びる。撹乱のため判然としないが、72L21・22 付近で北側に折れ、72M1 付近で自然に途切れる。南西端は SD16383 と重複し、新段階と古段階でそれぞれ接続していたものと考えられるが、最終的には SD16383 に切られる。このほか、SE16311・16376・16404・SK16309 を切り、SB16694（P16334）・SE16333・16357・SK16405・P16346 に切られる。底面は部分的に階段状となっている。72L22 付近より北側は一段高くなっており、比高約 20cm を測る。南西側では、73L17 と 73L14 付近で南に向けて階段状に落ち込んでいる。比高はそれぞれ約 35cm、16cm である。埋土は 11 層に分層し、レンズ状に堆積する。１～４層が新段階であり、埋土色調はＢを基調とする黄灰色粘質土で、４層は地山が主体である。５～ 11 層が古段階で、埋土色調はＡを基調とする黒褐色粘質土と地山由来と考えられる灰色粘質土が堆積する。区画溝と考えられる SD16085 と長軸方向が似ており、また SD16383 とは直交して接続することから、本遺構も区画溝として機能していた可能性が高い。遺物は１～３層を中心に出土している。11 層から土師質土器、９層から砥石（155）、３層から土師質土器皿（80）、砥石（154）、２層から珠洲焼片口鉢（81）、１層から土師器、須恵器、土師質土器小皿（78・79）、珠洲焼片口鉢（82）、石臼（152）、硯（153）、凹石（156）のほか礫、草木、鍛冶滓などが出土した。土師器や須恵器は混入品と考えられる。

SD16383（図版７・８・40・115・127）

73K ～ M、74L・M に位置する。東西方向で直線状に延びる。両端は調査区外である。埋土の状況から新段階と古段階の２時期に大きく分けることができる。SB16701（P16639）・SE16440・16442・SD16085・16328 を切り、SB16698（P16610）・SE16604・P16400・16401・16402・16416・16425 に切られる。また、SD16356 の新段階と古段階それぞれと接続するが、最終的にはこれを切る。底面は凹凸が著しく、73L20・25 ではテラス状の平坦面が、74M6・11 では楕円形状の落ち込みが認められる。埋土は８層に分層し、レンズ状に堆積する。溝の西側と東側で、色調や混入物がやや異なる。１・２・６層が新段階で、埋土色調はＢを基調とする黄灰色粘質土である。３～５・８層が古段階で、Ａを基調とする黒褐色粘質土と地山由来と考えられる灰色粘質土が堆積する。SD16356 と直交して接続することから、本遺構も区画溝として機能していた可能性が高い。５層から曲物側板、４層から珠洲焼片口鉢（85）、３層から土師質土器、珠洲焼片口鉢（86）・壺（88）、２層から珠洲焼片口鉢（87）、１層から須恵器甕（転用研磨具　89）、土師質土器皿（83）、珠洲焼片口鉢（84）・甕、砥石（157）、杭などが出土した。このほか、５・８層から板材や自然木が出土した。

SD16586（図版 10・34・114）

75K、76K・L に位置する。SE16582 に切られる。北東－南西方向で直線状に延びる。北東端は調査区外で、南西端は 76K23 でＴ字状に分岐し自然に途切れる。底面は 75K25 付近が高く、両端へ向けて緩やかに傾斜する。埋土は単層で、埋土色調はＡを基調とする粘質土である。１層から礫が出土した。

SD16587（図版 10・40・127）

75・76K に位置する。北東－南西方向で直線状に延びる。北東端は調査区外で、南西端は撹乱に切られる。底面はほぼ平坦である。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山が主体である。遺物は出土していない。

6）性格不明遺構

SX16015（図版4・40・127）

70N10に位置する。埋土は2層に分層し、水平に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土で、2層は地山とほぼ同質土である。遺構ではない可能性もあることから性格不明遺構として扱った。遺物は出土していない。

SX16050（図版5・41・127・128）

69L・70K・70Lに位置する。長径8.02 m×短径6.52 mを測る平面長方形の浅い掘り込みである。SE16127・SK16113・SD16047・16048・16077・16084・16086を切る。北東は一段深く掘り込んでいて、SD16049と接続する。底面は部分的に凹凸が認められる。埋土は3層に分層できる。1層はBを基調とする黄灰色粘質土で、埋土の大部分を占める。2層がブロック状に認められ、3層は北東の一段掘り込んでいる部分で確認できる。底面、特に3層からは多量の樹皮が出土し、これに混じって土師質土器、珠洲焼、肥前猪口（90）・椀（91）、棒状木製品（242）や加工材、銭貨（寛永通寶　253）が出土した。遺構の形状や出土状況から水田の可能性が高く、地盤を積極的に掘り込んで造成した、所謂「掘込田」［能登1996］と考えられる。水田とした場合、SD16049は排水溝の可能性が高い。また、埋土が似るSD16084・16086が導水溝として考えられるが、SD16086は他の遺構との新旧関係からその可能性は低い。ただし、SD16084についても、溝や貯水池などからの導水ではなく、例えば降水時の水を引く程度であろうか。また、底面で出土した樹皮は、自給された肥料もしくは作業足場としての機能が想定される。前者では、三条市上道下西遺跡で検出された古代の水田（掘込田）で、灰状堆積物とした肥料の痕跡がみつかっている［鈴木2014］。ただし、上道下西遺跡の灰状堆積物は、刈敷（草を刈り取って敷き込んだもの）や草木灰（植物を焼いて得たカリ・燐酸などを豊富に含む灰）であり、本遺構のような樹皮そのものが残っているものとは様相が異なる。一方で、樹皮は水田の外周に集中していることから、縁辺部での作業に伴う足場の可能性も考えられよう。なお、本遺構は出土遺物から17～18世紀ころと考えられる。

SX16128（図版6・39・125）

71K11・16に位置する。SD16085に切られ、全体の形状・規模は不明である。埋土は単層で、埋土色調はAを基調とする粘質土である。珠洲焼甕（92）が出土した。

SX16136（図版5・40・128・129）

71L11～13・16～18・21・22に位置する。SB16688（P16209）・SB16689（P16211）・P16208と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整な円形で、南西及び東側に緩やかなテラスを持つ。埋土は7層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はBを基調とする粘質土で、7層は地山が主体である。3・5層は炭化物を多量に含む。5層から砥石や礫、3層から珠洲焼、砥石、礎石？、礫、2層から珠洲焼片口鉢（93）、礫、1層から珠洲焼、砥石、礫が出土した。礫の多さが目立つ。

SX16258（図版5・41・129）

71L24・25、71M3～5に位置する。P16227に切られ、P16267・16270・16271・16275・16293とは重複するが新旧関係は不明である。平面形は不整形で、瓢形を呈する。深度が浅く、自然地形の可能性も考えられる。埋土は3層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はAを基調とする粘質土である。2層から須恵器壺（95）、1層から土師器甕（94）、土師質土器小皿（96）が出土した。

SX16339（図版８・42・129）

73L6・7・12 に位置する。平面形は楕円形で、深度はそれほど深くない。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、２層は地山が主体である。遺物は出土していない。

SX16458（図版９・42・129）

74L1 ～ 3・6 ～ 8 に位置する。東側大部分が調査区外となっており、全体の形状・規模は不明である。残存部では、平面形は不整な楕円形で、南西側にテラスを持つ。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。２層から板材、１層から須恵器、土師質土器、珠洲焼甕（97）、陶器壺（98）が出土した。

SX16540（図版９・33・130）

74L20、75L11・12・16・17・21 に位置する。SE16537・16550 を切る。平面は不整形で、中央部付近にテラス状の高まりを持つ。この高まりを境に、西側と東側に楕円形のくぼみが認められる。埋土は４層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。３層から杭や板、２層から唐津焼椀（99）、肥前椀（100）、１層から陶磁器、漆器有台椀（243）が出土した。出土遺物から近世に帰属すると考えられる。隣接する SE16549 も近世遺構と考えられ、互いを意識した位置に掘り込まれており関連性をうかがわせる。

SX16559（図版９・33・113・130）

74L5・10・15、75L1・6・11 に位置する。SE16561・16567・16585 を切り、SE16558 に切られる。平面形は楕円形で、東側は調査区外となっている。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。３層から珠洲焼片口鉢（101）、礫などが出土した。

７）ピ　ッ　ト

P16055（図版４・42・130）

72N3 に位置する。規模などから土坑の可能性も考えられる。平面は円形で、底面は平坦である。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＢを基調とする粘質土である。３層から珠洲焼片口鉢（102）が出土した。

P16182（図版５）

71M2 に位置する。埋土は単層で、埋土色調はＢを基調とする粘質土である。単層のため、断面図は作成していない。土師質土器皿（103）、珠洲焼甕（104）が出土した。

P16206（図版６・42・130）

71K11・12 に位置する。P16205 を切る。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。１層下面で土師質土器皿（105）が正位で出土した。柱抜き取り後、土器を据えて埋め戻されたものと考えられる。

P16228（図版８・42・130・131）

72K16 に位置する。埋土は３層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土色調はＡを基調とする粘質土で、３層は地山が主体である。１層から石臼（158）、砥石（159）が出土した。遺物の出土状況からみて、廃棄土坑とも考えられる。

P16337（図版７・37・122）

72M3 に位置する。SK16344 を切る。SK16344 の掘削中に検出したため、断面図は作成できていない。

埋土色調はＢを基調とする粘質土である。柱根（244）を検出したが、本遺構を柱穴とする建物は確認できていない。

P16342（図版７・42・131）

72L23、72M3 に位置する。埋土は２層に分層した。抜き取りの影響か、柱根（245）が斜位で出土した。なお、本遺構を柱穴とする建物は検出できていない。

P16468（図版９・42・131）

74L18・23 に位置する。埋土は３層に分層した。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。２層は柱痕で、上位から土師質土器皿（106）が出土した。

P16490（図版９）

74L24 に位置する。埋土は単層で、埋土色調はＢを基調とする粘質土である。単層のため、断面図は作成していない。珠洲焼甕（107）が出土した。

P16519（図版９・42・131）

74L25 に位置する。埋土は２層に分層した。埋土色調はＡを基調とする粘質土である。１層は柱痕で、底面付近から砥石（160）が出土した。

P16611（図版７・42・131）

74M2 に位置する。埋土は単層で、埋土色調はＡを基調とする粘質土である。底面からやや浮いた位置で土師質土器皿（108）が出土した。

８）杭　　列（図版９・42・131）

75L24、75M3 に位置する。表土掘削中に検出した杭列の一部である。上層で検出した土塁の築造時期を調査する目的で、土塁直下にある杭の調査を行った。断面の観察により、杭はⅠ層とⅡ層を切って打ち込まれていることがわかった。なお、杭２（246）について放射性炭素年代測定を行っており（詳細は第６節参照）、２σの値で calAD1438 ～ 1614 の年代値が得られている。Ⅰ層から近世の陶磁器が出土していることも踏まえると、杭列は近世以降の水田耕作に伴うものと考えられる。

5　遺　　物

A　遺物の概要

今回の調査では、土器・陶磁器、石製品、木製品、金属製品など、コンテナ（内寸：長 54cm ×幅 34cm ×高 10cm）51 箱の遺物が出土した。内訳は、土器・陶磁器７箱、石製品 10 箱、木製品 33 箱、金属製品１箱である。土器・陶磁器には、須恵器、土師質土器、珠洲焼、瀬戸美濃焼、瓦器、青磁、白磁、肥前系陶磁器がある。中・近世が主体であり、わずかに古代の遺物を含む。近世の遺物の大半は、上層で検出した調査区南側に位置する土塁下の炭化物層から出土した。下層では遺物包含層からの出土品は極めて少なく、井戸や溝などの遺構出土がほとんどである。石製品は中世に属するものがほとんどで、出土したうち半数以上が砥石で、ほかに石臼や茶臼などがある。溝からの出土が半数を占め、次いで井戸出土が多い。加工痕や調整痕がはっきりと残るものを抽出し、46 点を図化した。木製品は漆器・曲物などの容器や、箸などの食事具が最も多く、ほかに櫛や下駄などの服飾具や杭・柱根などがある。また、籾塊（254）もこの中で記述した。井戸からの出土が最も多く、ほかに掘立柱建物・溝・土坑・ピットなどの遺構からも

出土した。遺存状態の良いものや特徴的な製品を中心に図化した。金属製品では銭貨が出土した。出土量は7点のみで、そのうちの6点はすべて同じ遺構からの出土である。以下、土器・陶磁器→石製品→木製品ほか→金属製品の順で遺構単位ごとに記述する。

B　記述にあたって

土器の分類・年代観について、珠洲焼は［吉岡 1994］、瀬戸美濃焼は［藤澤 2008］、肥前系陶磁器は［大橋 1989］、青磁、白磁は［森田 1982］・［上田 1982］・［横田・森田 1978］、土師質土器皿は［品田 1991b・1999a・b］・［水澤 2005］をそれぞれ参考にした。また、比較的出土数の多い土師質土器皿は器形の違いから以下のA～Cの3つに分類した（第16図）。

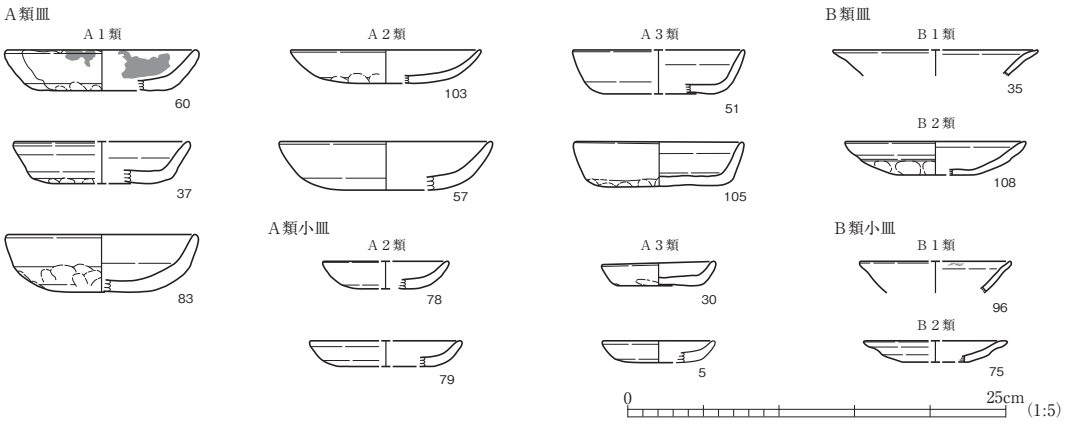
A類　手づくね成形で、全体に器壁が厚く、口縁部をヨコナデするもの。口径11cmを境に、これ以上を皿、未満を小皿とした。また、口縁部と体部の境に稜が付く1類、口縁部が内湾する2類、器形が箱状となる3類に細分した。

B類　手づくね成形で、全体に器壁が薄く、口縁部をヨコナデするもの。口径11cmを境に、これ以上を皿、未満を小皿とした。口縁端部を摘まみ上げる1類、口縁端部に面を持たない2類に分けた。

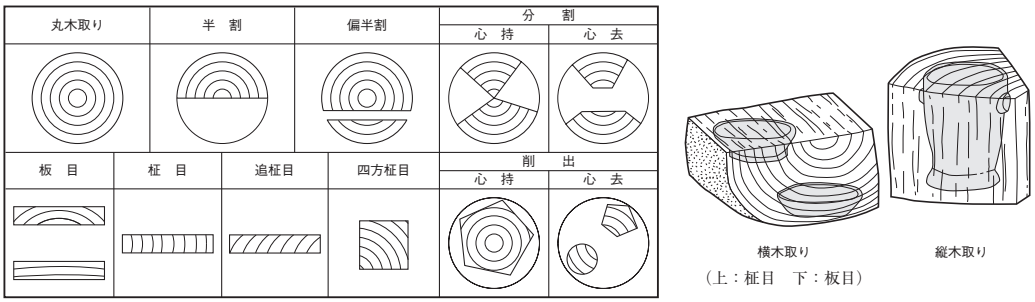
C類　ロクロ成形で、糸切り底のもの。P16468から1点出土したが、細片のため図化せず、写真掲載のみとする（106）。

木製品の分類は『木器集成図録　近畿古代編』・『木器集成図録　近畿原始編』［奈良国立文化財研究所 1985・1993］、木取りなどの用語は『箕輪遺跡Ⅱ』［坂上 2015］を参考にした（第17図）。

なお、土器実測図は、調整がケズリに変わる境目を実線、釉ダレの範囲はフリーハンドの線で表現した。木製品の加工の単位は実線で表現し、その中で刃物が当たり屈曲した部分は破線で表現した（第18図）。



第16図　土師質土器皿の分類



第17図　木取りの分類（［坂上 2015］を改変）

C 各　　説

1）土器・陶磁器

SB16696-P16598（図版 43・132 － 1・2）

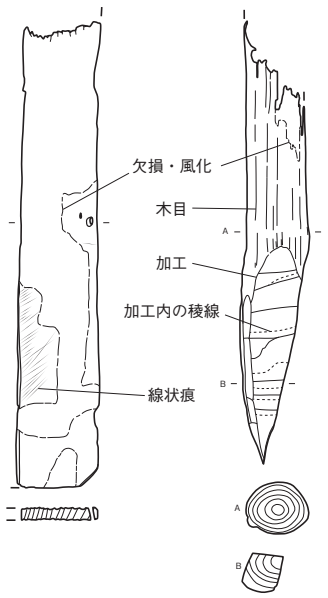
1は珠洲焼片口鉢の底部片を研磨具に転用したものである。外面と破砕面が摩耗している。内面には1条11目の卸目がみられる。2は珠洲焼甕の体部片で、内面に部分的な摩耗痕があることから、転用研磨具と推測する。

SB16701-P16639（図版 43・132 － 3・4）

3・4は同一個体の瓦器の香炉か。張り出しの強い体部外面には2個1対の雷文が2列、半菱形文が1列めぐる。底部は平らで脚部は乳頭状である。

SE16017（図版 43・132 － 5）

5は土師質土器小皿のA3類である。体部は底部から直線的にやや外傾して立ち上がる。13世紀後半から14世紀の所産と考えた。



第18図　木製品の表現方法

SE16028（図版 43・132 － 6）

6は珠洲焼片口鉢である。器形は直線的に外に開く。口縁端部は面を持ち、内側は角張り外側は若干肥厚して挽き出す。Ⅳ期古段階の所産か。

SE16051（図版 43・132 － 7）

7は珠洲焼甕の体部片である。井戸の最下層から出土した。

SE16060（図版 43・132 － 8・9）

8は珠洲焼片口鉢の体部片である。1条10目以上の卸目がみられる。9は青磁で皿と考えた。体部の蓮弁文は不鮮明である。釉全体に細かい貫入が多い。高台は細く尖り気味で、畳付のみ釉を剝ぐ。上田A－Ⅰ類で、13世紀末から14世紀前葉の所産と判断した。

SE16103（図版 43・132 － 10 ～ 12）

10は土師質土器皿のA2類である。体部は内湾しながら伸び、口縁端部は上を向く。器面の風化が著しい。13世紀後半から14世紀の所産と考えた。11・12は珠洲焼である。11は片口鉢の体部片で、1条9目以上の卸目がみられる。12は甕と考えられ、体部外面は格子目状のタタキである。

SE16110（図版 43・132 － 13）

13は白磁皿の底部片である。高台は幅広で、削り出しが少ないため低い作りである。釉は高台内と畳付には掛からない。胎土中に黒色の細粒を若干含む。森田D群と考えた。

SE16129（図版 43・132 － 14）

14は珠洲焼片口鉢である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部で若干肥厚する。口縁端部は水平で外側にわずかに挽き出され、内面には1条11目の卸目がみられる。Ⅳ期の所産と判断した。なお、外面の一部が摩耗することから、研磨具としての二次利用が考えられる。

SE16164（図版 43・132 － 15）

15は珠洲焼片口鉢である。内面に卸目の一部がみられる。

SE16175（図版 43・132 － 16・17）

16 は珠洲焼片口鉢である。内面には１条６目の太い卸目がみられる。17 は白磁口禿椀の口縁部片である。胎土には黒色の細粒を含み、釉は全体に薄緑がかった灰白色を呈する。森田Ａ群で、13 世紀後半から 14 世紀前半の所産と考えた。

SE16196（図版 43・132 － 18）

18 は珠洲焼甕の体部片である。内面は当て具痕の凹凸が目立つ。

SE16202（図版 43・132 － 19）

19 は珠洲焼片口鉢である。体部は直線的に伸びて口縁部で若干肥厚し、端部は水平である。Ⅳ期の所産と考えた。

SE16216（図版 43・132 － 20 ～ 23）

20 は土師質土器皿のＡ１類である。体部は底部付近で指頭圧痕とヨコナデの境が若干くぼむ。内面と口縁端部外面にススが付着する。灯明皿として使用されたか。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。21 ～ 23 は珠洲焼である。21 は片口鉢で、口縁部はやや内湾して立ち上がる。口縁端部は水平であるが外側に小さく挽き出し、内側の角には細かな縦方向の刻みが連続している。内面は使用のため滑らかで、１条 11 目の卸目がみられる。Ⅳ期の所産と考えた。22 は片口鉢で、１条 13 目の卸目がみられる。23 は甕の体部片を利用した研磨具である。外面のタタキ目凸部は摩耗しており滑らかである。

SE16261（図版 44・132 － 24）

24 は珠洲焼片口鉢の体部片を利用した研磨具である。摩耗は破砕面で著しく、外面はロクロ痕の凸部が若干摩耗する程度である。卸目は１条７目、１条の幅が１cm ほどで、ほかの資料に比べて狭い。

SE16295（図版 44・133 － 25・26）

25・26 は珠洲焼で、25 は片口鉢、26 は甕の体部片である。25 は体部が直線的に開き、口縁端部内側は角張り、外側は若干挽き出し丸味を付ける。６の器形に似る。Ⅳ期古段階の所産か。

SE16299（図版 44・133 － 27・28）

27 は土師質土器小皿のＡ３類である。体部は短く直線的に伸びる。底部の内外面は指頭によりややいびつに仕上げている。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。28 は瀬戸美濃焼の小天目椀である。口縁部に一部欠損があるものの、ほぼ完形である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は外側に向けて小さく挽き出す。外面底部付近は露胎で、それ以外は鉄釉が掛かる。古瀬戸の後期様式Ⅰ期で 14 世紀後半の所産となろうか。井戸の最下層から出土した。

SE16301（図版 44・133 － 29）

29 は珠洲焼甕の体部片である。内外面に当て具とタタキの痕跡が明瞭に残る。

SE16333（図版 44・133 － 30・31）

30 は土師質土器小皿のＡ３類である。完形品で、底部の凹凸や口縁部のゆがみが目立つややいびつな仕上がりである。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。31 は青磁の皿で、体部外面には蓮弁文が施される。高台畳付の釉剝ぎ部分が茶褐色を呈する。上田Ａ－Ⅰ類で、13 世紀から 14 世紀前葉の所産と考えた。

SE16347（図版 44・133 － 32）

32 は珠洲焼甕の体部片である。胎土や焼成などから、26 と同一個体の可能性がある。

SE16348（図版 44・133 － 33）

33 は青磁椀の口縁部片である。外面には鎬蓮弁文が施され、全体にオリーブ灰色味を帯びる。上田Ｂ

類で、13 世紀後半から 14 世紀前半の所産か。SE16604 出土の 45 と文様や色調などの雰囲気が似る。

SE16376（図版 44・133 － 34）

34 は珠洲焼片口鉢である。口縁部はほぼ直線的に開き、端部は水平で内側と外側に挽き出す。ほかの珠洲焼片口鉢に比べ若干薄作りで、色調も黄灰色である。

SE16396（図版 44・133 － 35）

35 は土師質土器皿のＢ１類である。口縁部は大きく外反して開き、端部をわずかに上方へ摘まみ上げる。破片資料ではあるが口縁部形状から、京都系で 15 世紀後半から 16 世紀初めころの所産と考えた。

SE16424（図版 44・133 － 36）

36 は白磁皿の口縁部片である。端部は丸く収まり、体部外面下位には縦方向のケズリ痕が残る。全体に重量感のない、軽い作りである。

SE16442（図版 44・133 － 37）

37 は土師質土器皿のＡ１類である。底部と口縁部の境が若干くぼみ、稜線が底部付近にある。内外面は部分的に薄い黒色を呈する。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

SE16444（図版 44・133 － 38）

38 は珠洲焼片口鉢である。底部から湾曲して立ち上がる器形で、体部が約半分残存し１条 11 目の卸目が 11 条みられる。底部内面は使用による摩耗で器面が滑らかである。底部切り離しは静止糸切りで、Ⅳ期の所産と考えられる。石製品の 125 ～ 127 とともに埋土２層中から出土した。

SE16517（図版 44・133 － 39）

39 は白磁の杯である。体部ははじめ内湾し、途中から屈曲して外反する。屈曲部の内面はわずかに段が付く。高台は釉剝ぎで、全体に細かい貫入を多く伴う。森田Ｄ群と考えられる。

SE16550（図版 44・133 － 40）

40 は珠洲焼片口鉢である。口縁部は直線的に伸び、端部が三角形状に突出する。Ⅳ期新段階の所産か。

SE16550・SE16585（図版 44・133 － 41）

41 は瀬戸美濃焼の平椀である。体部は直線的に開き、口縁端部は先細りとなる。内面に目跡が１か所残り、これに漆が付着している。内外面には灰釉が掛かり、外面底部付近の露胎部分に釉ダレがみられる。14 世紀後葉から 15 世紀前葉にあたる古瀬戸の後期様式か。約 10 ｍ離れた２か所の井戸出土品が接合した。

SE16558（図版 44・133 － 42）

42 は肥前磁器の染付の椀である。底部の作りは厚手で、見込み内には焼成時の熔着痕が２か所にみられる。高台には黒色の付着物があり、破砕面にも確認できることから二次的な付着である。18 世紀後半以降の所産と判断した。

SE16585（図版 44・133 － 43）

43 は珠洲焼片口鉢である。表面は酸化焔焼成で、胎土はザラつく質感である。

SE16597（図版 44・133 － 44）

44 は肥前磁器の染付の椀である。外面には草花文が描かれる。19 世紀前半から中ころの所産であろうか。

SE16604（図版 44・133 － 45）

45 は青磁椀の体部片である。体部外面に鎬蓮弁文を施し、色調はオリーブ灰色を呈する。上田Ｂ類で、13 世紀後半から 14 世紀前半の所産と考えた。

SE16660（図版 44・133 － 46）

46 は土師質土器皿のＡ１類である。口縁部と体部の境はわずかに稜が残り、口縁端部は先細りになる。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

SE16682（図版 45・133・134 － 47 ～ 50）

47 は唐津焼の擂鉢と考えられる。口縁部は肥厚し、「く」の字状に外反する。外面口縁部下には貼り付けによる凸帯がめぐる。内外面には鉄釉が掛かる。18 世紀代の所産となろうか。48 ～ 50 は肥前磁器で、48 は皿である。見込み内には円形の中に松と竹のような文様を施し、高台内は蛇ノ目凹形高台となる。18 世紀後半から 19 世紀にかけての所産である。49・50 は同一個体で、染付の皿もしくは鉢と考えられる。内外面に文様が描かれ、内面の文様は龍であろうか。口縁部は先端で内傾する。高台釉剝ぎで、見込み内には「太明成化年製」の裏銘と３か所の目跡が確認できる。18 世紀後半から 19 世紀前半の所産と判断した。

SK16033（図版 45・134 － 51）

51 は土師質土器皿のＡ３類である。全体的に風化しているが底部内外面の指頭圧痕は顕著である。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

SK16045（図版 45・134 － 52）

52 は珠洲焼甕の口縁部片である。頸部は「く」の字で、体部は薄く、口縁部が丸味を帯びる。Ⅳ期の所産と考えた。

SK16052（図版 45・134 － 53）

53 は珠洲焼片口鉢の底部片を利用した土器錘か。破片中央に複数の刻みが連続し溝状にめぐる。転用前の片口鉢内面は摩耗し、底部切り離しは静止糸切りである。

SK16405（図版 45・134 － 54）

54 は瀬戸美濃焼の合子の身である。完形で体部の中位で最大径となり口縁部はすぼまる。外面の口縁部付近には波状文を施し、外面と底部内面には灰釉が掛かる。底部切り離しは回転糸切りである。古瀬戸中期様式の終わりころから後期様式の始めの所産か。

SK16462（図版 45・134 － 55）

55 は珠洲焼甕の体部片である。外面と破砕面に黒色の付着物がある。

SD16047（図版 45・134 － 56・57）

56・57 は土師質土器皿で、56 はＡ１類、57 はＡ２類である。56 の内面と 57 の内外面は薄い黒色を呈する。油煙痕か。どちらも 13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

SD16077（図版 45・134 － 58）

58 は土師質土器皿のＡ１類である。外面の体部下半には明瞭な指頭圧痕が残り、口縁部との境に稜を作る。全体にややいびつな仕上がりである。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

SD16078（図版 45・134 － 59）

59 は珠洲焼甕の体部片である。ほかの珠洲焼に比べて胎土が粗い。

SD16085（図版 45・46・134・135 － 60 ～ 73）

60 は土師質土器皿のＡ１類である。内外面にススが付着することから、灯明皿としての使用が考えられる。13 世紀後半から 14 世紀の所産か。61 は瓦器の外耳鍋と判断した。口縁端部は平坦である。突起側の面は丁寧に調整されるが、反対側は粗く、この面を内面と考えた。62 ～ 71 は珠洲焼である。62 ～ 65 は片口鉢で、62 は１条 21 目の細かい卸目が付き、63 の卸目は太く１条 14 目、底部切り離しは静止糸切りである。64 は口縁部が直線的に開き、端部は緩やかに丸味を帯びて収まる。SD16383 出土の 84・87 とは同一個体の可能性がある。65 は底部から緩やかに内湾する器形で、内面に黒色物が付着している。卸目は１条９目ほどである。66 は壺である。口縁部は外反し、端部の外側は下方に挽き出されている。Ⅳ期の所産と判断した。67・68 は甕である。67 は口縁部が短く「く」の字を呈し、頸部内面には緩やかな稜を持つ。端部は丸味を帯び、肩の張り出しは弱い。Ⅳ期新段階の所産と考えた。68 は体部片である。比較的薄作りである。69 ～ 71 は甕の体部片を利用した研磨具である。外面を利用しているため、タタキの上部のみが擦り減っている。71 は外面のほかに、破砕面にも摩耗痕がある。72 は青磁の椀である。口縁部は外反し端部は丸く収まる。また、口縁部の表面は被熱により発泡している。全体に薄水色で淡い色調を呈する。上田Ｄ類で､14 世紀後半から 15 世紀前半の所産と考えた｡73 は越前焼擂鉢の底部片である。内面には１条 11 目の卸目が残るが、底部付近では摩耗により不鮮明になる。底部外面はススが付着し、棒状の敷物圧痕が残る。16 世紀前半ころから中ころの所産である。62・70 は下層、そのほかは上層から出土した。

SD16233（図版 46・135 － 74）

74 は珠洲焼甕の体部片を利用した研磨具である。外面のタタキ目凸部が擦り減っている。

SD16242（図版 46・135 － 75・76）

75 は土師質土器小皿のＢ２類である。口縁部は段を持ち、大きく外に開き、端部で外側へ水平に挽き出される。胎土中の雲母がほかの土師質土器に比べて多く目立つ。京都系で、15 世紀後半から 16 世紀初めの所産と考えた。76 は珠洲焼甕の体部片である。

SD16328（図版 46・135 － 77）

77 は珠洲焼甕の体部片と考えられる。細片であるが内面の当て具痕は明瞭に残る。

SD16356（図版 46・135 － 78 ～ 82）

78 ～ 80 は土師質土器のＡ２類で、78・79 は小皿、80 は皿である。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。78・79 は内外面に薄い黒色の付着物がある。油煙痕か。81・82 は珠洲焼片口鉢である。82 の注口部は、幅が指１本分ほどで狭く、突出は浅い。Ⅳ期の所産か。

SD16383（図版 47・135 － 83 ～ 89）

83 は土師質土器皿のＡ１類である。外面は体部下半の指頭圧痕を境に口縁部が上方に伸びる。Ａ類の中でも厚手の作りである。13 世紀後半から 14 世紀の所産か。84 ～ 88 は珠洲焼で、84 ～ 87 は片口鉢である。84 には１条 18 目の細かい卸目がみられる。85 は底部が比較的薄い作りで、底部切り離しは静止糸切りである。86・87 は底部内面の摩耗が著しく卸目は不明瞭である。87 は 84 や SD16085 出土の 64 と同一個体の可能性がある。88 はＴ種の壺で、体部に綾杉状のタタキ目が残る。89 は須恵器の甕体部片を利用した研磨具である。外面のタタキ痕と内面の当て具痕の一部は摩耗している。

SX16050（図版 47・135 － 90・91）

90・91 は肥前磁器で、90 は猪口、91 は椀である。90 は口縁部の内面に四方襷文、外面に蛸唐草文が描

かれる。91 は口縁部が内湾し、外面の文様は松である。18 世紀後半から 19 世紀前半の所産と考えた。

SX16128（図版 47・135 － 92）

92 は珠洲焼甕の体部片である。内外面に黒色の付着物がある。ほかの資料に比べて海綿骨針が多く含まれる。

SX16136（図版 47・135 － 93）

93 は珠洲焼片口鉢である。口縁部はほぼ直線的に開く。端部は水平で若干くぼみ、外側に小さく挽き出す。内面には太い卸目が部分的に残る。Ⅳ期の所産か。

SX16258（図版 47・135 － 94 ～ 96）

94 は土師器甕の体部片、95 は須恵器壺の体部片と考えた。しかし、94 はタタキ目や当て具痕そして胎土から、珠洲焼壺の酸化焔焼成したもの、95 は珠洲焼の壺ないしは瓶子の可能性もある。96 は土師質土器小皿のＢ１類である。非常に薄い作りで、口縁部は外傾しながら開き端部を上方に小さく摘み出す。口縁の内外面にススが付着しており、灯明皿の可能性がある。京都系で、15 世紀後半から 16 世紀初めの所産と判断した。

SX16458（図版 47・135 － 97・98）

97 は珠洲焼甕の体部片である。破砕面には黒色の付着物が残る。98 は陶器の壺もしくは甕の頸部と考えられ、外面は灰釉、内面は鉄釉が掛かる。写真のみの掲載である。

SX16540（図版 47・136 － 99・100）

99 は唐津焼の椀底部である。削り出し高台で、底部付近は露胎となり釉ダレがみられる。内外面に灰釉が掛かり、見込み内には鉄絵が描かれる。17 世紀末から 18 世紀初めの所産である。100 は肥前磁器の染付の椀である。底部は厚手で、外面に二重網目文が描かれる。高台釉剝ぎで、見込み内には３か所熔着痕がみられる。18 世紀代の所産と考えた。

SX16559（図版 47・136 － 101）

101 は珠洲焼片口鉢である。底部内面は摩耗が著しく卸目は確認できない。底部切り離しは静止糸切りである。

P16055（図版 47・136 － 102）

102 は珠洲焼片口鉢である。１条 10 目以上の卸目がみられる。

P16182（図版 47・136 － 103・104）

103 は土師質土器皿のＡ２類である。口縁部の立ち上がりは緩やかで、Ａ類の中では身の浅い作りである。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。104 は珠洲焼甕の体部片である。わずかに小礫を含み器面にも飛び出している。

P16206（図版 48・136 － 105）

105 は土師質土器皿のＡ３類である。底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。底部外面は指頭圧痕による凹凸が目立ち、敷物痕と推測される筋状の跡が付く。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

P16468（図版 136 － 106）

106 は土師質土器皿のＣ類である。底部切り離しは回転糸切りである。写真のみ掲載した。

P16490（図版 48・136 － 107）

107 は珠洲焼甕の体部片である。ほかの資料と比べて若干薄い作りである。

P16611（図版 48・136 － 108）

108 は土師質土器皿のＢ２類である。口縁部は緩やかな段を持ち、若干肥厚して外傾する。端部は先細りとなる。13 世紀後半から 14 世紀の所産と考えた。

土塁下炭化物層（図版 48・136 － 109・110）

109・110 は肥前磁器の染付皿で、109 は９単位の輪花皿である。110 は底部がやや厚手で焼成は不良である。どちらも高台釉剝ぎで、高台内に裏銘の一部が残る。18 世紀後半から 19 世紀にかけての所産と考えた。

遺構外（図版 48・136 － 111 ～ 116）

111・112 は珠洲焼である。111 は片口鉢で、口縁部は肥厚して外側に挽き出し、広い口唇部に波状文をめぐらす。Ⅴ期の所産か。112 は壺である。口縁部は外反し、端部は面を持ち外側に小さく挽き出す。口径は 10cm ほどで、内面の当て具痕は明瞭である。Ｋ種の小壺で、Ⅲ～Ⅳ期の所産であろうか。113 は瀬戸美濃焼の小型壺と考えられる。体部外面にはボタン状と棒状の貼り付けがあり、外面と内面下半には鉄釉が掛かる。底部切り離しは回転糸切りである。合子や茶入れの類であろうか。古瀬戸中期様式あたりの所産であろうか。114・115 は青白磁と考える。114 は合子の蓋と判断した。上面には、文様の一部とみられる粒状の突起がわずかに残るが、細片のため判然としない。115 は瓶類の細片であろうか。外面には刷毛目と片切彫りを施す。116 は土塁区画内の盛土層中から出土した石見焼の「はんど」と呼ばれる甕である。胴部から底部にかけての部位は、75K24 グリッドで、正位で据えられた状態で出土した。口縁部破片はそこからやや離れた 75L14 グリッドから出土しており、胎土や施釉の様子から同一個体と捉えた。口径は 51cm、底径は 22.8cm で、復元高 60cm である。やや寸胴な形態で、肩はあまり張らない。［間野 2017］の四斗甕分類で２類にあたり、後述する墨書の内容も踏まえると 19 世紀末から 20 世紀初頭ころの所産と考えられる。ロクロ成型で、底部から 15 ～ 16cm の位置には石見焼の特徴とされる「しのづくり」による継ぎ目や、外面上部に櫛目による直線文が確認できる。内面全体と底部を除く外面には、鉄釉（来待釉）が施釉される。底部は無釉の平底で、布目痕がある。見込みには、目跡が 10 個確認でき、底部外面には重ね焼きの痕跡とみられるくぼみが８個ある。当初は報告しないつもりであったが、底部に残る次の墨書から、明治時代における石見焼の流通を知るうえで重要な資料と考え、報告することとした。底部には、「弐号　四斗入 壱本　五升坪 壱組　三升坪 壱組　壱升□□□（フタ付ヵ） 六本　片口 弐組 （窯印） い仁」と墨書されている。石見焼は「菰包み」と呼ばれる特有の梱包単位で出荷され［阿部 2019］、甕の中に小型の甕や壺、片口などを入れ子状にして梱包される。墨書はその内容を列記したものである。内容が墨書で列記されるのは、江戸末から明治時代の古手の石見焼の特徴である。「弐号」は、梱包されるセットの内容を示すもので、その後に「四斗入」の甕（本資料）、入れ子にする壺や片口の大きさと個数などが記されている。「フタ付ヵ」と読めるものは、蓋付の小型甕（壺）を示していると考えられる。窯印は、傘の下に片仮名で「ト」と書かれており、現在の島根県江津市周辺に所在した「豊田好太」の釜元（1890（明治 23）年開窯、1943（昭和 18）年閉窯）のものと考えられる［阿部 2013］。左下の文字は「い仁」と読めるが、何を意味しているかは不明である。

２）石　製　品

SE16110（図版 49・137 － 117）

117 は扁平円礫の正裏面の中央寄りに摩耗痕が付く磨石ないしは手持ちの砥石である。縁辺には擦痕も

一部確認できる。

SE16196（図版 49・137 － 118・119）

118・119 は大型礫の破片であるが、部分的に摩耗痕が認められることから置き砥石とした。作業面は広く多くの面に確認できるが破砕面にはない。

SE16202（図版 49・137 － 120・121）

120 は片側を欠損する偏平楕円礫で、片面に摩耗痕が付く小型の置き砥石である。破砕面を含めた礫表面にススが付着している。121 は角礫の正面に摩耗痕、左側面に擦痕や線状痕が残る置き砥石である。正面の摩耗は凸部分のみで、側面の擦痕や線状痕は太く深いものと細く浅いものが混在する。縁辺付近に存在する大小の剝離は、砥石形状を整えるために施された可能性があるが、剝離面の観察では人為的剝離と断言できない。最下層から出土した。

SE16261（図版 49・137 － 122）

122 は破砕礫の平滑面（節理面か）を作業面とする手持ち砥石ないしは置き砥石の破砕品であろう。最下層から出土した。

SE16348（図版 49・137 － 123）

123 は正裏面と両側面の 4 面を作業面とする手持ち砥石である。下部を欠損する。最下層から出土した。

SE16357（図版 49・137 － 124）

124 は大部分を欠失しているが、硯の丘側の一部と推測する。摩耗した硯面には部分的に墨が付着し、硯陰には硯成形時の研磨擦痕が残る。

SE16396（図版 49・137 － 125）

125 は破砕した置き砥石で、比較的平らな面を作業面とする。

SE16444（図版 49・137 － 126 ～ 128）

126 ～ 128 は置き砥石で破損品の可能性が高い。すべて 2 層からの出土である。126 は全体が薄い板状で、片面のみを作業面とする。127 は扁平で厚手の亜角礫の正裏面の一部を作業面とする砥石で、一部側面との稜線上も使っている。128 は厚手礫で一面を作業面とする。 3 点とも破砕面に摩耗はみられない。

SE16582（図版 50・137・138 － 129・130）

129 は茶臼の下臼で、受け皿の大半を欠いており全体の半分が残存する。摺り合わせ面は 9 条 1 単位の溝が 3 分画確認でき、全体では 8 分画であったと推定できる。溝は明瞭であるが、摩耗は中心よりも外側で特に強い。130 は全体のおよそ 2/3 が残存する茶臼の上臼である。残存部分は 2 つに割れた状態で出土しており、破砕面には 2 か所の擦痕が確認できたことから、破砕後は砥石として利用されていたことがうかがえる。また全面に付着するススは破砕面にまでおよんでいる。摺り合わせ面は 9 条 1 単位の溝が 4 分画は確認できることから全体では 8 分画であったと推定できる。縁辺は部分的に削られているが、これは使用時に摺り合わせを調整した痕跡であろうか。挽き木打込孔は 1 か所あり、 3 段の菱形の装飾が部分的に残る。孔奥にある複数の並んだくぼみは、成形時の削り痕であろうか。129 と 130 は安山岩製で、摺り合わせ面や芯棒孔の径が合致することなどから、この 2 つは 1 組の茶臼であると考えられる。

SK16033（図版 50・138 － 131）

131 は縦横 2 cm 弱のややいびつな円形を呈し、断面形にも若干の凹凸があるが、SD16085 出土の碁石もしくは双六子（駒）とみられる 137・138 と大きさがほぼ同じであることから、同様のものと考える。

玉髄製で黄褐色を呈す。

SK16045（図版 50・138 － 132・133）

132 は裏面の節理面以外が砥面の手持ち砥石で、稜線上には深く大きな線状痕（刃当て痕か）がある。133 は 6 面を作業面とする手持ち砥石で、細かい擦痕や刃を当てたような大・小の線条痕も付いている。火山岩製で、全体に灰白色を呈し、触ると若干粉っぽい質感である。

SD16048（図版 50・138 － 134）

134 は正裏面と両側面、それに上面が砥面となる手持ちの砥石で、砥面には細かい擦痕が付いている。

SD16077（図版 50・138 － 135）

135 は置き砥石の欠損品とするが手持ち砥石の可能性もある。正面に作業面があり、破砕面には摩耗が確認できない。

SD16085（図版 50・51・138 － 136 ～ 147）

136 は偏平長楕円礫の長軸端部に敲打痕が付く敲石である。137・138 は碁石もしくは双六子（駒）と考えられ、平面はほぼ円形、断面は円盤状で、137 が若干小振りである。137 は灰オリーブ色、138 は暗赤褐色を呈す。石材はどちらも珪質頁岩もしくはチャート製である。139 は摺り合わせ面の溝が滑らかな石臼片である。破片のため上臼か下臼かはわからない。140 は器種不明であるが権状の錘の可能性も考えている。成形時のものとみられる研磨痕や細かい擦痕が、図化していない左側面も含めて全面に認められ、裏面には敲打痕も確認できる。また、上端面には擦切痕もみられる。141 は部分的に被熱したカマド材の一部と考えた。破砕面を除く正面の一部から裏側にかけては、炭素を吸着し黒色となっている。黒く変色していない正面側は火を受けていたのであろうか。凝灰岩の可能性が高く、軟質で表面は粉っぽい。142 ～ 147 は置き砥石の破損品ないしは手持ち砥石である。142 の砥面は非常に平坦で滑らかである。143・144 の作業面は凸部のみ摩耗し、そのほかは礫の自然面がそのまま残る。145・146 は置き砥石の破損品で元の礫はかなり大型である。145 は正裏面に平滑な作業面があり、146 は作業面の一部が残るのみである。147 は手持ち砥石で、正面に擦痕を伴う砥面や左側面の破砕面凸部に部分的な摩耗がみられる。

SD16233（図版 51・138 － 148・149）

148 は偏平礫の中央付近と推測する位置に摩耗痕がみられる置き砥石の破損品である。149 は正裏面に作業面を持つ置き砥石とした。素材は薄い板状礫である。

SD16242（図版 51・138 － 150）

150 は扁平礫の正面と上端面に作業面を持つ置き砥石ないしは手持ち砥石、あるいは両者を兼ねた砥石であろう。

SD16328（図版 51・138 － 151）

151 は大きく破砕した砥石の破片で、表面に部分的な摩耗痕が確認できる。

SD16356（図版 51・138・139 － 152 ～ 156）

152 は全体のおよそ 1/3 が残存する石臼の下臼である。摺り合わせ面は全体に摩耗し、7 条 1 単位が不明瞭ながらも残ることから全体では 7 分割ほどであったと考える。153 は硯で、丘から海に向かって傾斜する部分である。硯面は滑らかで墨痕がある。154・155 は扁平楕円礫の置き砥石である。154 は完形で正裏面に摩耗痕があり、表面には黒色の付着がみられる。155 の礫周囲は欠損するが、正面に広い摩耗範囲がある。156 は長楕円礫の正面中央部にくぼみを持つ凹石である。正裏面にススが付着する。軟質で、触ると細かく崩れる。

SD16383（図版 52・139 － 157）

157 は約半分を欠損する偏平礫で、片面を作業面とする置き砥石である。また、深い横位の線状痕が左側面に確認できる。正面の一部と破砕面にススが付着している。欠損後の付着であろう。

P16228（図版 52・139 － 158・159）

158 は全体の半分強が残存する石臼の下臼である。使い込まれているため摺り合わせ面の溝は明瞭ではないが、おそらく十数条で１単位の溝が６分画ほどであったと推定する。159 は扁平楕円礫の正裏面と側縁に摩耗痕があるほか、裏面中央部分に粗い擦痕や線状痕が付く置き砥石である。表面の一部と破砕面にススが付着する。

P16519（図版 52・139 － 160）

160 は手持ち砥石で、下端面以外が砥面である。当初は下端面が欠損していると考えたが、この面に素材切り出し時の横挽工具痕がみられることから完形となる。

遺構外（図版 52・139 － 161・162）

161 は石臼の上臼である。上面側には部分的に摩耗痕が残る。摺り合わせ面は非常に使い込まれており、面は平らで溝は部分的にのみ確認できる。162 は全体のおよそ半分が残存する茶臼の下臼で、受け皿を欠損する。摺り合わせ面には９～ 10 条で１単位の溝が８分画あったと推定する。面の縁辺部分には使用した際の摩耗が残る。撹乱からの出土である。

３）木 製 品 ほ か

SB16689-P16149（図版 53・140 － 163）

163 は半割の柱根である。上端は欠損し下端は周囲からの加工痕で鈍い尖頭状になる。

SB16692-P16265（図版 53・140 － 164）

164 は丸木取りの柱根である。切断様の加工痕が下端部にみられる。

SB16706-P16543（図版 53・140 － 165）

165 は丸木取りの柱根である。上下端とも欠損しており、加工痕はみられない。

SE16016（図版 53・140 － 166・167）

166 は曲物側板と考えた。２か所に孔があり、内外面に細かい線状痕が残る。右側面は横挽き後に折り取っている。167 は箸である。完形品とみられ上端は横挽き後に折り取っている。

SE16017（図版 53・54・140 － 168 ～ 188）

168・169 は曲物側板で、168 は中央に２本、169 は等間隔にケビキが付く。９層から出土した。170・185・186 は曲物底板としたもので、170 は９層からの出土である。片面に細かい線状痕がみられる。185・186 は 12 層からで、185 は上端の縁に沿った側板設置の圧痕がある。図正面左下の縁は、細かく面取りし弧状に整形している。再利用のための加工と考えられる。171 ～ 173、177・178・183・184・187・188 は箸で、木取りはすべて削出心去である。171 ～ 173 は９層、177・178 は 10 層、183・184 は 11 層、187・188 は 12 層から出土した。184 は完形で上下両端を細く整形し、それ以外はすべて片端を欠損する。174・175 は板状木製品とした。174 は上部の両側縁に抉りが入り、その下方に２個、さらに下に１個の計３個の小孔がみられる。また、下端は欠損するが推定３cm 弱の円形の孔が空けられている。175 は両側縁に切り欠き状の加工が２か所でみられる。上下端面は平らではなく緩い弧状に加工していることから、曲物底板を何かに転用した可能性がある。174 は９層、175 は９層と 10 層から出土した。176 は櫛で、歯

を細かく密に刻んだ横櫛の一部である。10 層から出土した。179 は部材で 4 か所に木釘が残存し、表面と下端は加工が比較的細かく丁寧に整えられている。180 ～ 182 は同一個体と推定する長方形曲物の底板である。残存する縁辺部には小さな段が付き、曲物の内側とする面には細かな線状痕が多くみられる。３点とも木取りは追柾目である。

SE16028（図版 54・141 － 189 ～ 194）

189 は刳物匙である。柄部は欠損し、付け根がわずかに残る。身は平面楕円形を呈し、先端は若干尖らせて汁物を注ぎやすい形状に整えてある。表面には細かな整形痕が顕著に残っている。木取りは削出心持。190 は杓子型木器である。上下端とも直線的に作られており、柄は緩くくびれている。板状で厚みはほぼ均一、柄の一部が炭化している。191 ～ 193 は箸である。192 のみ完形で下端は炭化し、そのほかは片端を欠損する。194 は棒状木製品とした。上端は欠損し、残存部分は下端に向けて湾曲する。表面は加工により丁寧に整えられ断面円形に仕上げている。

SE16031（図版 55・141 － 195 ～ 204）

195・196 は糸巻枠木と推定する。195 は上下端を細くし、端部から 15cm ほどの位置に長方形のくぼみを２か所に作る。断面は蒲鉾状を呈し、くぼみがある面は平坦である。四方柾目の木取りである。196 は全体の半分以上が残存するとみられ、195 と同様に上端を細く作る。木取りは削出心持で、端部から 13cm ほどの位置に長方形のくぼみが１個ある。断面は台形から隅丸長方形を呈す。197 は差下駄の歯と推定する。左側面は断面山形に作られる。198 は杓子形木器である。柄と身の長さはほぼ同じで、身の先端は半円形に作り、柄の端部は直線状であるが、角をわずかに落として丸味を付けている。板状で厚みはほぼ均一である。199 は板状木製品とした。接合点がみつからないが同一個体と考えられる破片を並べて図化した。角を落として整えており、上下端の小口側に上端１個、下端２個の小さな木釘孔がみえる。長方形曲物の底板の可能性がある。200・201 は箸である。200 は完形で、201 は片端を欠損する。202 ～ 204 は棒状木製品とした。３点とも下端は薄く細めにヘラ状に作られる。202 は分割心去、203・204 は半割の木取りで、桟木の可能性がある。

SE16037（図版 55・141 － 205）

205 は曲物側板で、等間隔に縦方向のケビキがみられる。

SE16103（図版 56・142 － 206 ～ 210）

206 は箍、207 は円形曲物で、同一個体と考えられる。207 の側板は２重にまかれ、内面全面に縦方向のケビキがみられる。底板の木取りは追柾目で、内面側に線状痕が残る。208・209 は長方形曲物の底板である。どちらも木取りは追柾目で、208 は板の中心寄りに長方形の孔が２個みられ、内外面は広範囲に線状痕が付く。210 は板状木製品とした。木取りは板目で、上下端の小口面は平坦に作られる。

SE16110（図版 56・142 － 211）

211 は円形曲物の底板である。縁辺部の２か所に、貫通した樺皮の綴じ紐が残存する。木取りは追柾目である。

SE16202（図版 56・142 － 212）

212 は板草履である。大部分は欠損しており、板目の材は２mm ほどで均一である。

SE16264（図版 56・142 － 213・214）

213 は部材とした。上端をホゾ状に加工し、その中央には木釘が残る。材の中央付近の側面にも孔が１か所みられる。214 は樹皮である。巻き取られた塊の状態で脆弱である。曲物の綴じ紐として利用するた

めのものであろうか。

SE16295（図版 56・142・144 － 215・216・254）

215・216 は板状木製品とした。215 は板草履の可能性もあるが、左側面は緩く弧を描き、上端には側板を当てたような縁に沿った圧痕が一部みられることから元は曲物底板と考えられる。再利用のため左側縁中央のＬ字状切込みや右側縁の破砕面に対する調整加工が施されている。正面には太い線状痕や細かな擦痕がみられる。216 は側縁近くに孔が２個みられ、部分的に細かい線状痕が残る。254（写真掲載のみ）は４層から出土した炭化した籾塊である。長さ 5.14cm ×幅 4.25cm ×厚さ 3.97cm で、重量 11.68 ｇを測る。全体が炭化していて、玄米が欠落し籾殻のみが残っている部分もある。

SE16296（図版 56・142 － 217）

217 は木錘である。木取りは半割で、上下端を平坦にそろえている。中央部の両側面に切り込みがみられる。

SE16311（図版 57・143 － 218）

218 は漆器有台椀である。内面に赤色漆、外面は高台内まで黒色漆が塗られている。多数の破片の状態で出土しており、漆の剝落もみられ遺存状態は悪いが、外面には赤色漆で描いた模様の一部がみえる。横木・板目取りである。

SE16319（図版 57・143 － 219・220）

219 は内外面黒色漆塗りの漆器皿である。光沢があり、薄手で非常に軽い作りである。横木・板目取りである。220 は板状木製品である。左側面は欠損し正面には線状痕がみられる。

SE16340（図版 57・143 － 221）

221 は板状木製品とした。表面の節をそのまま残している。上端を尖らせ両側縁に括れを作りだすなど、人形を意識した形状である。

SE16348（図版 57・143 － 222・223）

222 は円形曲物の底板である。左右が欠損しているが、上下端の縁辺部は弧状で元の形状を一部残している。223 は板状木製品とした。側面はすべて加工されており、上端の切れ込みは木釘孔の痕跡であろうか。正面には多数の細かい擦痕や線状痕がみられ、中央左寄りに円形の圧痕が２個付いている。

SE16372B（図版 57・143 － 224）

224 は箸である。下端は細く仕上げており、上端は欠損する。

SE16396（図版 57・143 － 225 ～ 227）

225 は木錘とした。前掲した SE16296 出土の 217 とは異なり、材の片面のみに切り込みを入れてある。樹皮が部分的に残る。226 は筆と考えた。竹製で節が２か所あり、筆先側の節は抜いてある。筆先は削り出し、先端をほぐして穂としている。全体に墨が付着しているが、筆先に近い持ち手部分は若干色調が薄い。全体は炭化している。227 は切断材である。「く」の字状に屈曲し、下端には切断時の加工痕が残る。上端は欠損する。丸木取りで、下半分には節が目立つ。

SE16443（図版 57・143 － 228）

228 は円形曲物である。側板は２重でケビキはみられない。底板の内面には線状痕がみられる。

SE16477（図版 57・143 － 229）

229 は箸である。上下の両端を細く仕上げた完形品である。

SE16561（図版 57・143 － 230）

230 は漆器有台椀である。横木・柾目取りで、内外面は高台内も含めて黒色漆で塗られ、その後、赤色漆で草花文が描かれる。外面の草花文は４か所確認できるが、図正面を除き遺存状態が悪く判然としない。

SE16567（図版 57・143 － 231）

231 は円形曲物の底板である。左側面は２か所に孔があり、底板が割れた際、木釘で連結したものと思われる。

SE16582（図版 57・143 － 232・233）

232 は曲物柄杓である。柄はなく身の部分だけが残る。側板は２重で内面に縦方向のケビキを施す。正面から背面にかけて、柄を差し込む孔が貫通している。綴じ孔は楕円形を呈し、正面側に１列７個と近接して１個確認できる。背面には柄と身を固定したものか、柄を差し込む孔を囲むように上下３か所ずつ計６か所の紐跡が残る。底板内面には加工痕のほか線状痕がみられる。233 は円形曲物の底板である。図の下端に圧痕が付いている。

SE16623（図版 58・144 － 234・235）

234 は円形曲物の底板である。左半分が欠損する。残存する弧状の側面には 16 か所の木釘孔が確認でき、そのうち１つには木釘が残っている。内面には、上方と下方の縁辺部付近の５か所に木釘孔があり、１つは木釘が残る。線状痕は細かく密に付き、なかには引っ掻いたような痕跡もみられる。235 は完形の箸である。上下の両端を細く仕上げている。

SE16644（図版 58・144 － 236 ～ 239）

236 は漆器の有台椀とした。横木・柾目取りで、底部の破片のみであるが内面は赤色漆塗り、外面は黒色漆の上に赤色漆で描かれた模様の一部がみえる。237 は円形曲物の底板である。約半分が欠失しており、残存する側面の９か所に木釘孔がみられる。そのうち２つに木釘が残っている。内外面とも線状痕が付いており、内面右端に孔が１個ある。外面は底板の中心寄りに被熱して焦げた跡が点在する。238 は板状木製品とした。上方縁辺部分に厚みがあり、上端面の角は丸味を帯びている。横長で 57cm ほどを測る。織機の一部であろうか。239 は杭である。下端は若干欠損するが加工痕がみられる。丸木取りで樹皮が全面に残る。

SE16677（図版 58・144 － 240）

240 は円形曲物である。側板は２重で内面にケビキを施す。幅約６mm の綴じ紐を用いて１列内３段綴じで綴じられ、底板とは３か所で樺皮を用いて結合する。

SK16667（図版 58・144 － 241）

241 は漆器小椀である。緩く内湾して立ち上がる口縁部破片である。内面赤色漆塗り、外面は全体に剝落しており、塗りの詳細は不明。

SX16050（図版 58・144 － 242）

242 は棒状木製品とした。上端は欠損し、残存部分で長さは約 99cm を測る。木取りは削出心去で、表面は面取りされ断面は楕円形、下端は扁平に仕上げられている。貫通しない平面長方形の木釘が図下部に２個残っている。

SX16540（図版 58・144 － 243）

243 は高台を欠損した漆器有台椀である。底部から急激に内湾し、口縁部は垂直に立ち上がる。横木・柾目取りで、内外面は赤色漆が塗られる。

P16337（図版 58・144 － 244）

244 は丸木取りの柱根である。遺存状態は悪く上端は欠損し、下端は側面からの加工により尖ってみえるが、加工痕は明瞭ではない。

P16342（図版 58・144 － 245）

245 は丸木取りの柱根である。樹皮が部分的に残る。上端と下端は大部分が欠損しており、下端の加工の様子は観察できない。

杭列（図版 58・144 － 246）

246 は丸木取りの杭である。上端は欠損する。下端は加工の単位や稜線が明瞭で、端部を尖鋭に仕上げている。

4）金　属　製　品

SK16667（図版 58・144 － 247 ～ 252）

247 ～ 252 は、６枚が重なって漆器小椀（241）の中から出土した。上から報告番号順に重なっており、251 のみ背面側が上を向いていた。247 は永樂通寶で、初鋳年は 1408 年である。一部欠損する。248 は熙寧元寶で、初鋳年は 1068 年である。249 は天聖元寶で、初鋳年は 1023 年である。250 は元祐通寶で、初鋳年は 1086 年である。251 は皇宋通寶で、初鋳年は 1038 年である。252 は開元通寶で、初鋳年は 621 年である。横位に径 1.5mm ほどの小さな孔が２個ある。背面左下には月文か。

SX16050（図版 58・144 － 253）

253 は寛永通寶で、新寛永である。

6　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　は　じ　め　に

新潟県柏崎市に所在する丘江遺跡は鯖石川左岸の沖積地に立地し、中世を主体とする集落のほか、古代～近世初頭にかけての水田遺構や、弥生時代後期～中世の川跡などが検出されている。

本分析調査では、自然堆積層及び遺構の年代観を得るために、自然木及び木杭を対象とした放射性炭素年代測定を、中世とされる木製品の木材利用を検討するために樹種同定を実施する。また、中世の井戸から出土した種実について、植物利用及び周辺植生を検討するために種実同定を実施する。

B　放射性炭素年代測定

1）試　　料

試料は、自然木（71K16 グリッドⅣ f 層）及び、木杭（報告番号 246）の計２点である。自然木の樹種はアカガシ亜属、木杭の樹種はクリである。

2）分　析　方　法

汚れた周囲をトリミングして 0.1g 程度に調整する。試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を

除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウムともに 1mol/L である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1 mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。$\delta^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いる較正曲線は Intcal13 ［Reimer et al.,2013］である。

3）結　　果

結果を第 3 表に示す。同位体補正を行った測定値は、自然木（71K16 グリッドⅣ f 層）が 2510 ± 20BP を、木杭（246）が 410 ± 20BP を示す。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近付ける手法である。ソフトウエアは、Oxcal4.3［Bronk,2009］を用いる。本分析対象試料を 2 σの値でみると、自然木（71K16 グリッドⅣ f 層）が calBC785 ～ 546、木杭（246）が calAD1438 ～ 1614 を示す。木杭は暦年較正の時代幅が広くなっているが、これは中世末～近世始めの較正曲線が歪んでいるためである。

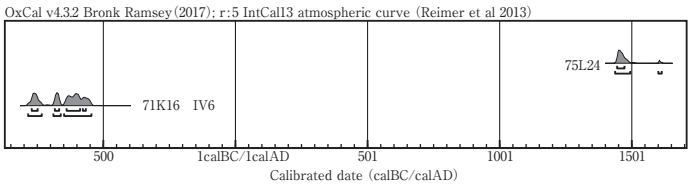
分析調査の結果、暦年較正値で自然木（71K16 グリッドⅣ f 層）がおおよそ縄文時代晩期から弥生時代前期の、木杭（246）が室町時代～江戸時代初頭までの値が得られている。また、木杭（246）については、

報告番号	試料名	方法	補正年代（暦年較正用）BP	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正年代											Code No.	
					年代値										確率%		
–	71K16 Ⅳ6	AAA（1M）	2510 ± 20（2512 ± 20）	-25.20 ± 0.25	σ	cal	BC	772	-	cal	BC	749	2721	-	2698	calBP	16.3	YU-9990	pal-12206
						cal	BC	684	-	cal	BC	668	2633	-	2617	calBP	12.2		
						cal	BC	640	-	cal	BC	589	2589	-	2538	calBP	33.5		
						cal	BC	578	-	cal	BC	567	2527	-	2516	calBP	6.2		
					2σ	cal	BC	785	-	cal	BC	734	2734	-	2683	calBP	24.4		
						cal	BC	690	-	cal	BC	662	2639	-	2611	calBP	15.7		
						cal	BC	649	-	cal	BC	546	2598	-	2495	calBP	55.3		
246	75L24	AAA（1M）	410 ± 20（408 ± 20）	-29.95 ± 0.37	σ	cal	AD	1445	-	cal	AD	1473	505	-	477	calBP	68.2	YU-8005	pal-11314
					2σ	cal	AD	1438	-	cal	AD	1495	513	-	455	calBP	90.4		
						cal	AD	1601	-	cal	AD	1614	349	-	336	calBP	5.0		

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
5）暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
6）暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
7）較正データーセットは、Intcal13を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

第３表　放射性炭素年代測定結果

確率を見ると室町時代に帰属する可能性が高い。今後水田址及びその上位の土塁の年代については、本分析調査の成果に加え、出土遺物などの調査成果を合わせて検討する必要がある。



第 19 図　暦年較正結果

C　樹　種　同　定

1）試　　料

試料は、遺跡出土の木製品 83 点である。複数の部材からなる木製品はそれぞれの部材から試料を採取しているため、観察したプレパラートは 87 点である。試料の詳細は結果表とともに第 4 表に示す。

2）分　析　方　法

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各切片を作成し、ガムクロラールで封入し、プレパラートを作成する。光学顕微鏡で観察し、木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、［島地・伊東 1982；Wheeler ほか 1998；Richter ほか 2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、［林 1991；伊東 1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

3）結　　果

結果を第 4 表に示す。検出された種類は針葉樹 2 種類（スギ、ヒノキ）、広葉樹 9 種類（ブナ属、クリ、ケヤキ、ムクノキ、モクレン属、イスノキ、ヒサカキ属、カエデ属、トチノキ）、タケ亜科の 12 種類である。なお、年代測定に用いた試料はアカガシ亜属であった。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急である。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列で 1～15 細胞高のものと、複合放射組織とがある。

・ブナ属（*Fagus*）　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2 ～ 3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。

報告番号	出土位置			器種	木取り	樹種	備考
	遺構名	グリッド	層位				
163	SB16689-P16149	71L21	1	柱根	半割	カエデ属	
164	SB16692-P16265	72K23	2	柱根	丸木取り	クリ	
165	SB16706-P16543	75L21	1	柱根	丸木取り	クリ	
166	SE16016	70N15	4	曲物側板か	板目	ヒノキ	
167	SE16016	71N11	6	箸	削出芯去	ヒノキ	
168	SE16017	70N9	9	曲物側板	板目	ヒノキ	
169	SE16017	70N9	9	曲物側板	板目	ヒノキ	
170	SE16017	70N9	9	曲物底板	柾目	ヒノキ	
171	SE16017	70N9	9	箸	削出芯去	スギ	
172	SE16017	70N9	9	箸	削出芯去	ヒノキ	
173	SE16017	70N9	9	箸	削出芯去	スギ	
174	SE16017	70N9	9	板状木製品	追柾目	スギ	
175	SE16017	70N9	9・10	板状木製品	柾目	スギ	
176	SE16017	70N9	10	櫛	-	イスノキ	
177	SE16017	70N9	10	箸	削出芯去	スギ	
178	SE16017	70N9	10	箸	削出芯去	ヒノキ	
179	SE16017	70N9	10	部材	四方柾目	スギ	
180	SE16017	70N9	11	長方形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
181	SE16017	70N9	11	長方形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
182	SE16017	70N9	11	長方形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
183	SE16017	70N9	11	箸	削出芯去	スギ	
184	SE16017	70N9	11	箸	削出芯去	ヒノキ	
185	SE16017	70N9	12	曲物底板	板目	スギ	
186	SE16017	70N9	12	曲物底板	追柾目	ヒノキ	
187	SE16017	70N9	12	箸	削出芯去	スギ	
188	SE16017	70N9	12	箸	削出芯去	ヒノキ	
189	SE16028	70N19	10	刳物匙	削出芯持	モクレン属	
190	SE16028	70N19	9	杓子形木器	柾目	ヒノキ	
191	SE16028	70N19	8	箸	削出芯去	ヒノキ	
192	SE16028	70N19	9	箸	削出芯去	ヒノキ	
193	SE16028	70N19	10	箸	削出芯去	ヒノキ	
194	SE16028	70N19	9	棒状木製品	柾目	ヒノキ	
195	SE16031	71N8	8	糸巻枠木か	四方柾目	モクレン属	
196	SE16031	71N8	8	糸巻枠木か	削出芯持	ケヤキ	
197	SE16031	71N8	8	下駄か	柾目	ケヤキ	
198	SE16031	71N8	8	杓子形木器	柾目	ヒノキ	
199	SE16031	71N8	8	板状木製品	柾目	スギ	
200	SE16031	71N8	8	箸	削出芯去	スギ	
201	SE16031	71N8	8	箸	削出芯去	ヒノキ	
202	SE16031	71N8	8	棒状木製品	分割芯去	クリ	
203	SE16031	71N8	8	棒状木製品	半割	クリ	
204	SE16031	71N8	8	棒状木製品	半割	クリ	
205	SE16037	72N8	5	曲物側板	柾目	ヒノキ	
207	SE16103	69K7	8	円形曲物	側板:柾目、底板:追柾目	側板:ヒノキ、底板:ヒノキ	
208	SE16103	69K7	8	長方形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
209	SE16103	69K7	8	長方形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
210	SE16103	69K7	8	板状木製品	板目	ヒノキ	
211	SE16110	72M9	10	円形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
212	SE16202	71M3	5	板草履	板目	スギ	
213	SE16264	71M14	8	部材	柾目	スギ	
214	SE16264	71M14	8	樹皮	-	樹皮	
215	SE16295	72L8	5	板状木製品	板目	スギ	
216	SE16295	72L13	3	板状木製品	柾目	スギ	
217	SE16296	72L6	2	木錘	半割	ヒサカキ属	
218	SE16311	72M1	4	漆器有台椀	横木・板目	トチノキ	
219	SE16319	72L14	2	漆器皿	横木・板目	ケヤキ	
220	SE16319	72L14	3	板状木製品	柾目	スギ	
221	SE16340	72M1	1	板状木製品（人形か）	柾目	トチノキ	
222	SE16348	72M8	2	円形曲物底板	柾目	ヒノキ	
223	SE16348	72M8	2	板状木製品	柾目	スギ	
224	SE16372B	73M1	5	箸	削出芯去	スギ	
225	SE16396	72M4	8	木錘	丸木取り	クリ	
226	SE16396	72M4	8	筆	-	タケ亜科	
227	SE16396	72M4	8	切断材	丸木取り	クリ	
228	SE16443	74L19	6	円形曲物	柾目	側板:ヒノキ、底板:ヒノキ	
229	SE16477	74L7	3	箸	削出芯去	スギ	
230	SE16561	74L15	5	漆器有台椀	横木・柾目	ブナ属	
231	SE16567	75L11	3	円形曲物底板	柾目	ヒノキ	
232	SE16582	75K24	3	曲物柄杓	側板:柾目、底板:追柾目	側板:ヒノキ、底板:ヒノキ	
233	SE16582	75K24	2	円形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
234	SE16623	75M12	2	円形曲物底板	追柾目	ヒノキ	
235	SE16623	75M12	2	箸	削出芯去	ヒノキ	
236	SE16644	75M5	4	漆器有台椀	横木・柾目	ブナ	
237	SE16644	75M4	7	円形曲物底板	柾目	ヒノキ	
238	SE16644	75M4	13	板状木製品	柾目	ヒノキ	
239	SE16644	75M5	5	杭	丸木取り	ブナ属	
240	SE16677	70L23	5	円形曲物	柾目	側板:ヒノキ、底板:ヒノキ	
241	SK16667	76L13	1	漆器小椀	横木・柾目	ブナ	
242	SX16050	69L20	2	棒状木製品	削出芯去	ムクノキ	
243	SX16540	75L16	1	漆器有台椀	横木・柾目	ブナ属	
244	P16337	72M3	1	柱根	丸木取り	クリ	
245	P16342	72M3	2	柱根	丸木取り	クリ	
246	杭列	75L24	−	杭	丸木取り	クリ	放射性炭素年代測定試料

第４表　樹種同定結果

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。

・ムクノキ（*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon）　ニレ科ムクノキ属

散孔材で、横断面では角張った楕円形、単独または２～３個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、１～４細胞幅、１～20細胞高。柔組織は周囲状～ターミナル状。

・モクレン属（*Magnolia*）　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独及び２～４個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、１～２細胞幅、１～40細胞高。

・イスノキ（*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.）　マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、１～３細胞幅、１～20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・ヒサカキ（*Eurya japonica* Thunberg）　ツバキ科ヒサカキ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独または２～３個が複合して散在し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列でまれに２～３列、１～40細胞高。

・カエデ属（*Acer*）　カエデ科

散孔材で管壁は薄い。単独及び２～３個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状。放射組織は同性、２～５細胞幅、１～40細胞高。２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、１～15細胞高で階層状に配列する。

・イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

原生木部の小径の道管の左右に１対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

４）考　　察

用途別の樹種構成を第５表に示す。編み具には、クリやケヤキなど重硬な広葉樹が用いられている。

	編み具		服飾			容器		調理・食事				祭祀	文具	建築			施設		土木
	糸巻	木錘	下駄	板草履	櫛	曲物	漆器	杓子	柄杓	匙	箸	人形	筆	板材	柱材	部材	井戸	棒状	杭
スギ	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	8	-	-	7	-	2	-	-	-
ヒノキ	-	-	-	-	-	20	-	2	1	-	10	-	-	2	-	-	-	1	-
ブナ属	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クリ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	3	1
ケヤキ	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムクノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
モクレン属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イスノキ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒサカキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
トチノキ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第５表　用途別器種構成

［伊東隆夫・山田昌久編 2012］の出土木製品用材データベースによると、編み具には様々な樹種が使われているが、精密さや細工が必要な部材には針葉樹が、強度が必要な部材には、重硬な広葉樹が用いられる傾向にある。

下駄の歯には硬いケヤキが、板草履には軽軟なスギが用いられている。

櫛は硬くて緻密なイスノキが用いられるが、木製品用材データベースをみても櫛はツゲやイスノキが圧倒的に多い。これらは西日本に多く、遺跡周辺ではほとんどみられない樹木であることから、搬入品と思われる。

曲げ物は、ヒノキが多い。ヒノキは耐水性があり、加工しやすく曲げに強いことから曲げ物としては良材である。前掲のデータベースの事例をみても、ヒノキが使用される事例は非常に多い。

漆器は、ブナ属、トチノキ、ケヤキである。ブナ属とトチノキは軟らかい木材で、ろくろを使う挽き物にはよく用いられる木材である。ケヤキはこれらの木材と比べると重硬で、加工は容易ではないが、木目が美しく、耐久性があるので、器具材として好まれる。

調理具は、スギ、ヒノキが多い。軽くて加工しやすく、耐水性もあるため、調理具にはよく使われる樹木である。

人形？はトチノキである。前掲のデータベースの事例をみると、人形など祭祀具はスギやヒノキなど、耐水性があり、細工が容易な樹種が選ばれる傾向にあるが、トチノキは軟らかく加工が容易なので、細工には適している。また、筆の軸は炭化したタケ亜科であった。

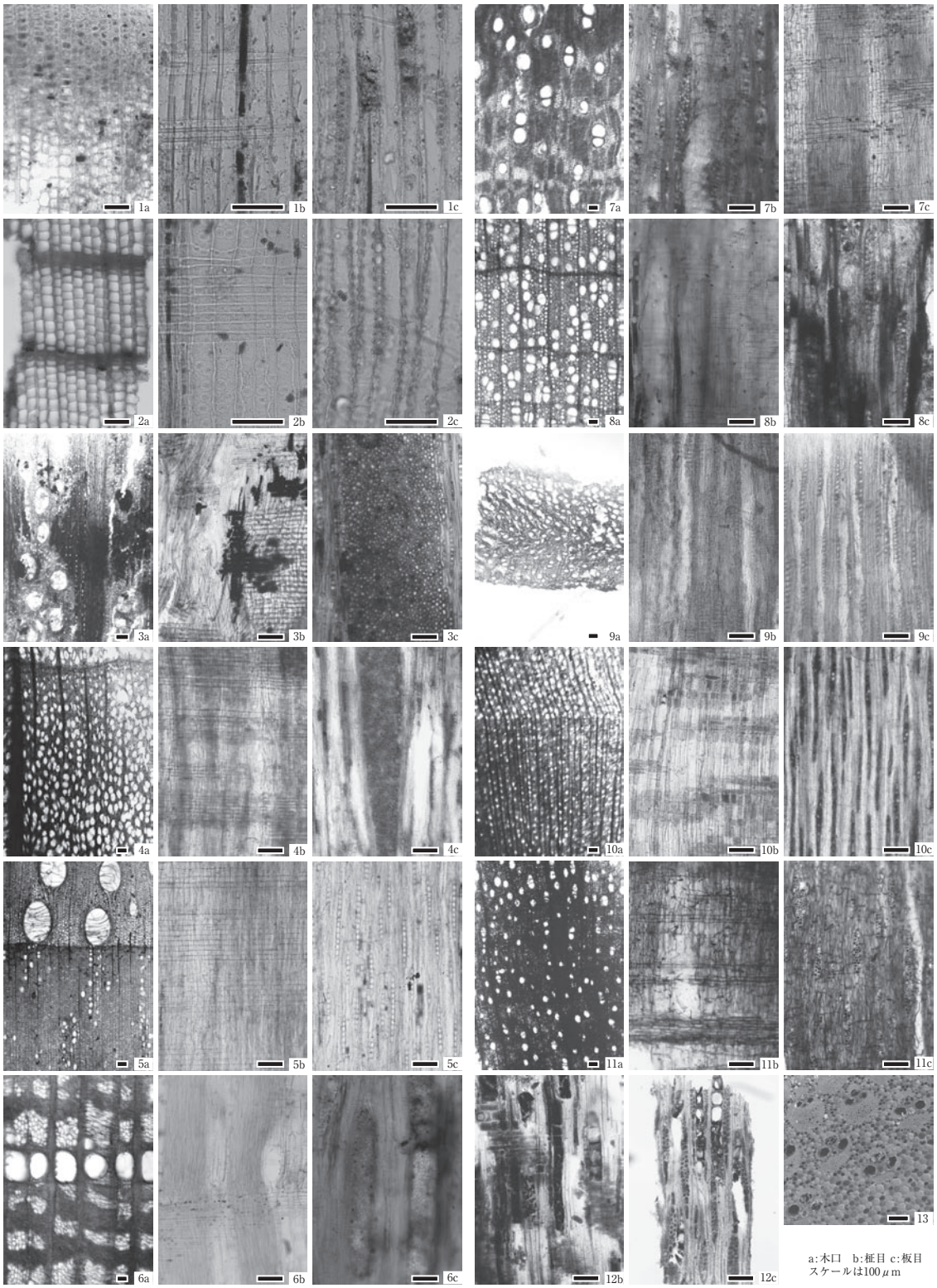
建築材はスギとヒノキが多い。これらは、軽くて強度があり、狂いが少なく、加工しやすい。さらに、水湿や害虫にも強いため、建物の構造材としては良材であり、使用例も多い。広葉樹ではクリが多い。クリは重硬で水湿に強く、かつ加工しやすい木材であることから、柱材に使われることが多い。施設材や土木材もクリが多く、重硬で水湿に強い特徴が生かされている。

丘江遺跡では過去にも樹種同定が実施されているが［パリノ・サーヴェイ株式会社 2018a・b；株式会社パレオ・ラボ 2018］、この結果をみても、挽き物にはブナ属など軟らかい木が、容器や曲げ物には針葉樹が、柱材や杭材にはクリが使われており、本分析調査の結果と同様の傾向がみられる。

D　種　実　同　定

1）試　　料

種実分析は、水洗乾燥済試料４遺構４点 16 袋（SE16031 の８層、SE16314 の５層、SE16623 の２層、SE16644 の 13 層）と、土壌試料１遺構２点（SE16103 の８層、９層）の、計５遺構６点である。水洗乾燥済試料は、４・２・１・0.5mm の粒径別に袋分けされた４袋が存在し、未分別の状態で表面に泥が付着する。



1.スギ(200)　2.ヒノキ(172)　3.アカガシ亜属(自然木)　4.ブナ属(243)　5.クリ(165)　6.ケヤキ(197)　7.ムクノキ(242)　8.モクレン属(195)　9.トチノキ(218)
10.ヒサカキ属(217)　11.カエデ属(176)　12.イスノキ(176)　13.タケ亜科(226)

第 20 図　木材

発掘調査所見によれば、試料は井戸（SE）の最下層または最下層に近い層より採取されている。種実分析は、栽培植物や可食植物等の種類把握を主な目的として実施する。

2）分　析　方　法

水洗乾燥済試料（SE16031 の 8 層、SE16314 の 5 層、SE16623 の 2 層、SE16644 の 13 層）は、試料表面に付着する泥から種実遺体を分離するために、粒径別試料を一括して粒径 0.5mm の篩を通して再水洗する。再水洗後の篩内の試料を 4・2・1・0.5mm の粒径別にシャーレに移して常温乾燥させる。

土壌試料（SE16103 の 8 層、9 層）は、種実遺体を分離・抽出するために、試料 100cc を水に浸し、粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに移す。

粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。SE16103 は、すべての種実遺体を抽出同定対象とする。SE16031、SE16314、SE16623、SE16644 は多量の種実が確認されるため、対象分類群・粒径を制限する。分類群は栽培種、木本、草本の順に優先する。粒径は大きな粒径から優先し、SE16314 が 1 mm まで、SE16031、SE16623、SE16644 が 2 mm までを対象とする。SE16031、SE16623、SE16644 の 1 mm は、状態が良好な栽培種や木本、新たな分類群を対象とする。また、栽培種で多量確認されるイネの籾の破片は、主に基部の果実序柄（小穂軸）が残るものとし、状態が良好な 100 個を上限とする。SE16031 と SE16644 で多量確認されるソバの果実の破片も、状態が良好なものとする。

種実遺体の同定は、現生標本や［笠原 1982；藤下 1984；椿坂 1993；石川 1994；谷城 2007；小畑 2008・2011；中山ほか 2010；小南ほか 2016；鈴木ほか 2018］等を参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表で示し、主な分類群の写真を添付する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、ハイフォンで結んで表示する。状態は、完全な形状から一部欠損、半分超の残存までは完形、半分以下は破片とし、炭化種実は別に記録する。また、一部の種実遺体の大きさをデジタルノギスで計測し、結果を一覧表に併記する。種実遺体以外は、一覧表の下部に定性的な量比をプラス「+」で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。SE1610 出土種実は約 70%のエタノール溶液で液浸保存する。

3）結　　果

結果を第 6・7 表に示す。井戸 5 遺構 6 試料を通じて、裸子植物 2 分類群（針葉樹のスギ、ヒノキ）3 個、被子植物 96 分類群（広葉樹のオニグルミ、クワ属、ヒメコウゾ、サルナシ近似種、マタタビ近似種、ヒサカキ属、ノイバラ節、キイチゴ属、ハギ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、サンショウ、ヤマブドウ、ブドウ属、ブドウ科、クマヤナギ属、イイギリ、キブシ、ミズキ、タラノキ、カキノキ属、ムラサキシキブ属、草本のオモダカ属、サジオモダカ属、オモダカ科、コナギ、ツユクサ、イボクサ、メヒシバ類、ヒエ近似種、イヌビエ属、ヌカキビ近似種、キビ、アワ、エノコログサ属、イネ、オオムギ、コムギ、イネ科（エノコログサ属？・A・他 2 種）、ミクリ属（A・B）、スゲ属、ハリイ類、イヌノハナヒゲ類、マツカサススキ類、ウキヤガラ、フトイ類、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、カンガレイ近似種、ホタルイ類、アサ、クワクサ、ギシギシ属、ミゾソバ、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、サナエタデ近似種、ソバ、ナデシコ科、アカザ属、ヒユ属、ヒツジグサ、クサネム、マメ科（クサネム？）、アズキ亜属、ダイズ属、カタバミ属、エノキグサ、キカラスウリ、雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型、メロン類、ヒョウタン類、ヒシ属、チドメグサ属、セリ科、ガガイモ科、キランソウ属、エゴマ、シソ属 - イヌコウジュ属、トウバナ属、ハダカホオズキ近似種、ナ

分類群	部位	状態	遺構 層位	SE16031 8層	SE16314 5層	SE16623 2層	SE16644 13層	SE16103 8層	SE16103 9層	備考
栽培種(可能性含む)										
木本										
カキノキ属	種子	完形	炭化	-	-	1	-	-	-	長さ12.33mm，幅5.97mm，厚さ4.31mm
草本										
ヒエ近似種	果実	完形	炭化	21	-	1	2	-	-	
イヌビエ属	果実	完形		2	-	-	-	-	-	1個苞穎残存
		破片		-	-	-	-	2	-	
キビ	穎果	完形	炭化	-	-	1	-	-	-	
	果実	完形		1	-	1	-	-	-	
		破片		-	-	-	-	3	1	
アワ	果実	完形	炭化	10	-	4	1	-	-	
		破片	炭化	-	-	1	-	-	-	
アワ?	穎果	完形	炭化	7	-	-	-	-	-	
エノコログサ属(アワ近似種)	果実	完形	炭化	3	-	1	-	-	-	
イネ	籾	完形		7	-	1	-	-	-	
	籾(基部)	破片		50	11	100	100	5	1	SE16623・SE16644：多量，上限100個
	籾	破片		20	30	100	100	56	51	SE16623・SE16644：多量，上限100個
	籾(基部)	破片	炭化	20	2	3	2	-	-	
	籾	破片	炭化	-	-	1	-	2	-	
	籾・玄米	完形	炭化	26	-	-	15	-	-	
		破片	炭化	9	-	-	5	-	-	
	玄米	完形	炭化	286	11	23	86	-	-	SE16031：4個癒着，塊状
		破片	炭化	104	7	15	64	-	-	
オオムギ	穎果	完形	炭化	-	-	3	4	-	-	
		破片	炭化	-	-	1	3	-	-	
オオムギ?	穎果	破片	炭化	-	-	1	-	-	-	
コムギ	穎果	完形	炭化	-	-	-	1	-	-	
		破片	炭化	-	-	-	1	-	-	
アサ	果実	完形		3	3	-	2	-	-	
		破片		10	-	11	17	-	-	
ソバ	果実	完形	炭化	-	1	-	-	-	-	
		完形		38	9	2	18	-	-	
		破片		65	9	4	63	-	-	SE16623・SE16644：多量，状態良好に制限
アズキ亜属	種子	完形	炭化	1	-	-	-	-	-	長さ4.16，幅2.23，厚さ2.22mm，臍僅かに残存
		破片	炭化	-	-	1	-	-	-	半分，長さ5.50，幅3.87，半分厚2.0mm
ダイズ属	種子	完形	炭化	13	-	1	8	-	-	SE16031：5個臍，長さ7.25，幅5.13，厚さ3.77mm
		破片	炭化	17	-	7	10	-	-	
雑草メロン型	種子	完形		2	-	-	-	-	-	長さ5.22mm/5.57mm
マクワ・シロウリ型	種子	完形		6	1	2	2	-	-	長さ6.20～7.97mm(注1)
		破片		-	-	1	-	-	-	長さ7.41mm
モモルディカメロン型	種子	完形		1	-	-	-	-	-	長さ8.15mm
メロン類	種子	破片		5	1	3	4	-	-	
ヒョウタン類	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
エゴマ	果実	完形		-	2	16	-	-	-	長さ1.80mm以上，SE16623：1個食痕
		破片		-	-	5	-	-	-	
シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	炭化	2	-	-	-	-	-	
		完形		50	2	5	1	-	-	長さ1.16～1.66mm
		破片		-	6	-	-	3	-	
ナス	種子	完形		-	-	4	2	-	-	
		破片		-	-	4	-	-	-	
ゴマ	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
その他										
木本										
スギ	種鱗	完形		1	-	-	-	-	-	
ヒノキ	種子	完形	炭化	-	-	-	1	-	-	
		完形		-	-	-	1	-	-	
オニグルミ	核	破片	炭化	-	-	1	-	-	-	利用の可能性
クワ属	核	完形		135	-	4	16	-	-	
ヒメコウゾ	核	完形		-	5	-	-	-	-	
サルナシ近似種	種子	完形		-	2	-	-	-	-	SE16314：2.66mm/2.52mm
マタタビ近似種	種子	完形		2	4	-	-	-	-	SE16314：1.86mm/1.87mm
ヒサカキ属	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
		破片		-	-	1	-	-	-	
ノイバラ節	果実	完形		3	-	-	-	-	-	
キイチゴ属	核	完形		47	-	-	4	-	-	
		破片		-	-	1	-	-	-	
ハギ属	果実	完形	炭化	1	-	-	-	-	-	
		完形		-	2	-	-	-	-	
		破片		-	2	-	-	-	-	
アカメガシワ	種子	完形		-	1	1	-	-	-	
		破片		-	14	2	-	-	-	
カラスザンショウ	種子	完形		-	-	-	3	-	-	
		破片		-	-	1	1	-	-	
イヌザンショウ	種子	完形		-	1	-	-	-	-	
サンショウ	種子	破片		-	-	2	1	-	-	
ヤマブドウ	種子	完形		-	-	-	1	-	-	
		破片		-	1	-	1	-	-	
ブドウ属	種子	完形		-	1	-	-	-	-	SE16314：3.99mm
ブドウ科	種子	破片		-	-	1	1	-	-	
クマヤナギ属	核	完形		2	-	-	-	-	-	
イイギリ	種子	完形		-	14	-	-	-	-	
		破片		-	5	-	-	-	-	
キブシ	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
ミズキ	核	完形		-	1	-	1	-	-	
		破片		-	10	-	-	-	-	
タラノキ	核	完形		-	3	-	-	-	-	
ムラサキシキブ属	核	完形		-	2	-	-	-	-	
草本										
オモダカ属	果実	完形		2	1	-	1	-	-	
サジオモダカ属	果実	完形		1	12	3	1	-	-	
オモダカ科	種子	完形		2	-	-	-	-	-	
コナギ	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
ツユクサ	種子	完形		5	1	1	1	-	-	
イボクサ	種子	完形		1	-	1	-	-	-	
メヒシバ類	果実	完形		-	-	1	-	-	-	
		破片		-	-	-	-	1	-	
ヌカキビ近似種	果実	完形		-	-	1	-	-	-	

第６表　種実同定結果（１）

分類群	部位	状態	遺構層位	SE16031 8層	SE16314 5層	SE16623 2層	SE16644 13層	SE16103 8層	SE16103 9層	備考
エノコログサ属	果実	完形		7	9	4	-	-	-	
		破片		-	6	-	-	-	-	
イネ科(エノコログサ属?)	果実	完形		-	1	-	-	-	-	
		破片		-	2	-	1	-	-	
イネ科A	果実	完形		-	-	-	-	10	4	
		破片		-	-	-	-	-	1	
イネ科	果実	完形	炭化	1	-	-	-	-	-	細身
		完形		1	-	-	-	-	-	
ミクリ属A	果実	完形		-	1	2	-	-	-	大型
ミクリ属B	果実	完形		-	-	2	2	-	-	小型
スゲ属	果実	完形		-	-	1	-	-	-	頂部長く伸び湾曲
ハリイ類	果実	完形		1	-	1	-	-	-	
イヌノハナヒゲ類	果実	完形		8	-	10	10	1	-	
マツカサススキ類	果実	完形		9	-	-	2	-	-	
ウキヤガラ	果実	完形		-	12	-	1	1	-	
		破片		-	1	-	-	-	-	
フトイ類	果実	完形		1	-	-	1	-	-	
イヌホタルイ近似種	果実	完形		2	-	-	1	-	-	果実長>花被長
ホタルイ近似種	果実	完形		-	-	-	2	-	-	果実長=花被長
カンガレイ近似種	果実	完形		8	1	4	3	-	-	果実長<花被長
ホタルイ類	果実	完形		2	-	3	-	-	-	花被欠損または花被長不明
クワクサ	果実	完形		-	9	1	-	-	-	
ギシギシ属	果実	完形		1	-	1	-	-	-	
	果実･花被	完形		3	-	-	3	-	-	
	花被	破片		10	-	-	4	-	-	
ミゾソバ	果実	完形		-	-	-	4	-	-	
イヌタデ近似種	果実	完形		4	10	2	6	-	-	
		破片		-	1	-	-	-	-	
ヤナギタデ近似種	果実	完形	炭化	1	-	-	-	-	-	
		完形		13	47	4	16	-	-	
		破片		2	5	-	3	-	-	
ボントクタデ近似種	果実	完形		-	-	2	-	-	-	1個食痕
		破片		-	2	-	-	-	-	
サナエタデ近似種	果実	完形		2	1	-	-	-	-	
		破片		1	-	-	1	-	-	
ナデシコ科	種子	完形		1	-	7	2	-	-	複数種
アカザ属	種子	完形		2	21	1	1	-	-	
ヒユ属	種子	完形		6	1	6	1	-	-	
ヒツジグサ	種子	完形		-	-	1	-	-	-	
クサネム	果実	破片		94	2	-	100	-	-	
マメ科(クサネム?)	種子	完形	炭化	6	-	-	2	-	-	
カタバミ属	種子	完形		-	3	1	-	-	-	
エノキグサ	種子	完形		3	4	3	4	-	-	
		破片		1	9	-	3	-	-	
キカラスウリ	種子	破片		1	-	1	-	-	-	
ヒシ属	果実	破片		-	-	-	1	-	-	刺
チドメグサ属	果実	完形		-	-	1	-	-	-	
セリ科	果実	完形		-	-	-	1	-	-	
ガガイモ科	種子	完形		-	-	-	1	-	-	ガガイモ,イケマ等に似る
キランソウ属	果実	完形		-	2	-	1	1	-	
トウバナ属	果実	完形		-	-	-	1	-	-	
ハダカホオズキ近似種	種子	完形		-	1	-	-	-	-	
ナス属	種子	完形		5	-	-	8	-	-	複数種
タカサブロウ	果実	完形		-	-	1	3	-	-	
タウコギ	果実	完形		1	-	-	-	-	-	
メナモミ属	果実	完形		2	-	-	1	-	-	
		破片		-	-	-	1	-	-	
アキノノゲシ	果実	完形		-	1	-	-	-	-	
不明種実										
穀類主体		破片	炭化	28	-	8	11	-	-	状態不良,イネ･ダイズ属主体
不明A		完形		1	-	1	-	-	-	腹面に大きな着点
不明B	果実･種子	完形		-	-	-	1	-	-	
	種子	完形		1	-	-	-	-	-	楕円体,網目模様
不明		完形		-	-	1	-	-	-	海綿状,ヒルムシロ属に似る
		破片		-	1	1	-	-	-	
合計										
栽培種(可能性含む)				779	95	326	511	71	53	合計1835個
その他の木本				191	68	16	31	-	-	合計306個
その他の草本				210	166	67	194	14	5	合計656個
不明種実				30	1	11	12	-	-	合計54個
種実合計(不明を除く)				1180	329	409	736	85	58	合計2797個
種実以外										
不明C	不明	完形		4	-	1	2	-	-	海綿状,ミクリ属とは区別
		破片		4	-	4	-	-	-	
シダ類	葉	破片		+	-	+	+	-	-	
スギナ類	地下茎		炭化	-	+	-	-	-	-	
炭化材				+	+	+	+	-	-	
木材				++	++	++	++	+	-	
植物片				+++	+++	+++	+++	+	+	
昆虫類				+	+	+	+	+	+	
動物遺存体				+	-	-	+	-	-	
砂礫類				++	++	++	+	-	-	
主な分析対象粒径				2.0	1.0	2.0	2.0	0.5	0.5	(mm)
分析量				-	-	-	-	100	100	容積(cc)
				-	-	-	-	147	168	湿重(g)
				638	116	245	127	-	-	乾重(g)

注1)計測はデジタルノギスを使用した。
　マクワ･シロウリ型種子長：SE16031：6.48～7.35mm、SE16314：6.20mm、SE16623：6.72mm/7.35mm、SE16644：6.89mm/7.97mm
注2)「+」：少量、「++」：中量、「+++」：多量

第７表　種実同定結果（２）

ス、ナス属、ゴマ、タカサブロウ、タウコギ、メナモミ属、アキノノゲシ）2,794 個、計 2,797 個の種実遺体が同定された。54 個は同定ができなかったが、うち 47 個は炭化穀類主体の破片で、イネやダイズ属などに由来すると考えられる。他、同分類群・部位と考えられる２個を不明Ａ、別の２個を不明Ｂとしている。種

実遺体以外は、多量の植物片の他、不明C（同分類群・部位）15個、シダ類の葉、スギナ類の地下茎、炭化材、木材、昆虫類、動物遺存体、砂礫類などが確認された。

種実遺体の保存状態は良好で、一部炭化している。種実遺体群は、栽培種が多く確認される。栽培種と栽培の可能性を含む分類群は、カキノキ属1個、ヒエ近似種24個、イヌビエ属4個、キビ7個、アワ(27個；疑問符・近似種含む)、イネ籾662個超、玄米（炭化米）651個、オオムギ12個（疑問符含む)、コムギ2個、アサ46個、ソバ209個超、アズキ亜属2個、ダイズ属56個、雑草メロン型2個、マクワ・シロウリ型12個、モモルディカメロン型1個、メロン類13個、ヒョウタン類1個、エゴマ23個、シソ属-イヌコウジュ属69個、ナス10個、ゴマ1個の、計1,835個超が確認される。イネが最も多く、SE16623とSE16644で籾が極めて多いのに対して、SE16031は炭化米が多い。イネに次いでソバが多く、SE16031とSE16644で多い。カキノキ属、ヒエ近似種、アワ、イネ（炭化米)、オオムギ、コムギ、アズキ亜属、ダイズ属の他、一部のキビ、イネ（籾)、ソバ、シソ属-イヌコウジュ属が炭化しており、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、キビ、アワは穎（籾）が残る個体がみられる。以下に試料毎の傾向を述べる。

・SE16031；8層

栽培種のイネ（炭化米）が極めて多く、ソバ、イネ（籾）が次いで多い。炭化米の保存状態は概ね不良で、複数個が癒着した塊状がみられる。表面が明瞭な個体や籾が残る個体は1割程度である。シソ属 - イヌコウジュ属、ダイズ属、ヒエ近似種、アワ、アサもやや多く、キビ、アズキ亜属、雑草メロン型（種子長5.22mm/5.57mm)、マクワ・シロウリ型（種子長6.48～7.35mm)、モモルディカメロン型（種子長8.15mm)、メロン類なども確認される。

アズキ亜属の種子は、長さ4.16mm、幅2.23mm、厚さ2.22mmを測り、簡易楕円体積（長さ/2×幅/2×厚さ/2×4/3×π）は10.78mm^{3}で野生型（30mm^{3}以下）のサイズ範囲［那須ほか2015］に該当する。

ダイズ属の種子は、保存状態が最も良好な個体で長さ7.25mm、幅5.13mm、厚さ3.77mmを測る。簡易楕円体積は73.40 mm^{3}となり、栽培型（70mm^{3}以上）のサイズ範囲［那須ほか2015］に該当する。

シソ属-イヌコウジュ属は、2個炭化している。シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す［新田2001］。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属の果実の大きさの変異も連続的である。［笠原1982］の基準（長さ1.4～1.5mm、幅1.1～1.2mmをシソ、長さ2.0～2.8mm、幅1.8～2.5mmをエゴマ）に基づくと、出土果実の長さは1.16～1.66mmを測り、大型のエゴマとは区別される。シソの範囲を主体とするが、小型のイヌコウジュ属の可能性から大型の雑草型エゴマの可能性まで連続的であるため、両属をハイフォンで結んでいる。

その他、木本は、クワ属が極めて多く、キイチゴ属が次いで多い。スギ、マタタビ近似種、ノイバラ節、ハギ属、クマヤナギ属なども確認され、ハギ属は炭化している。草本は、クサネムが多く、水湿地生植物を主体とする。マメ科（クサネム？）と一部のイネ科、ヤナギタデ近似種は炭化している。

・SE16314；5層

栽培種のイネ（籾）が最も多く、ソバ、炭化米が次いで多い。アサ、マクワ・シロウリ型（種子長6.20mm)、メロン類、エゴマ、シソ属 - イヌコウジュ属なども確認され、ソバ1個が炭化している。

その他、木本は、イイギリが多く、アカメガシワ、ミズキが次いで多い。ヒメコウゾ、サルナシ近似種、マタタビ近似種、ハギ属、イヌザンショウ、ヤマブドウ、ブドウ属、タラノキ、ムラサキシキブ属な

ども確認され、分類群数が５遺構中最も多い。草本は、水湿地生植物を含む人里植物主体で、ウキヤガラがやや多い。

・SE16623；２層

栽培種のイネ（籾）が最も多く、炭化米、エゴマが次いで多い。カキノキ属、ヒエ近似種、キビ、アワ、オオムギ、アサ、ソバ、アズキ亜属、ダイズ属、マクワ・シロウリ型（種子長 6.72mm/7.35mm）、メロン類、ヒョウタン類、シソ属 - イヌコウジュ属、ナス、ゴマなども確認される。

カキノキ属の種子は、長さ 12.33mm、幅 5.97、厚さ 4.31mm を測り、栽培種のカキノキ、マメガキと野生種のトキワガキの種子の大きさの範囲に該当する。常緑小高木のトキワガキの分布は伊豆半島以西であることから［佐竹ほか編 1989］、出土種子はカキノキかマメガキである可能性が高い。丘江遺跡３次調査の SE10321 出土カキノキ種子［株式会社パレオ・ラボ 2018］よりもやや小型で細身である。

アズキ亜属の種子は、SE16031 出土種子よりも大きく、長さ 5.50mm、幅 3.87mm、半分厚 2.0mm を測る。簡易楕円体積は 44.56mm^3 となり、野生型と栽培型（60 ～ 70mm^3 以上）のサイズが重なる中間型のサイズ範囲［那須ほか 2015］に該当する。

その他、木本は、オニグルミ、クワ属、ヒサカキ属、キイチゴ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、サンショウ、ブドウ科、キブシが確認される。炭化したオニグルミ１個が特筆される。草本は、水湿地生植物を含む人里植物主体で、ヒツジグサの種子が確認される。粒径１mm までに極めて多い分類群は認められない。

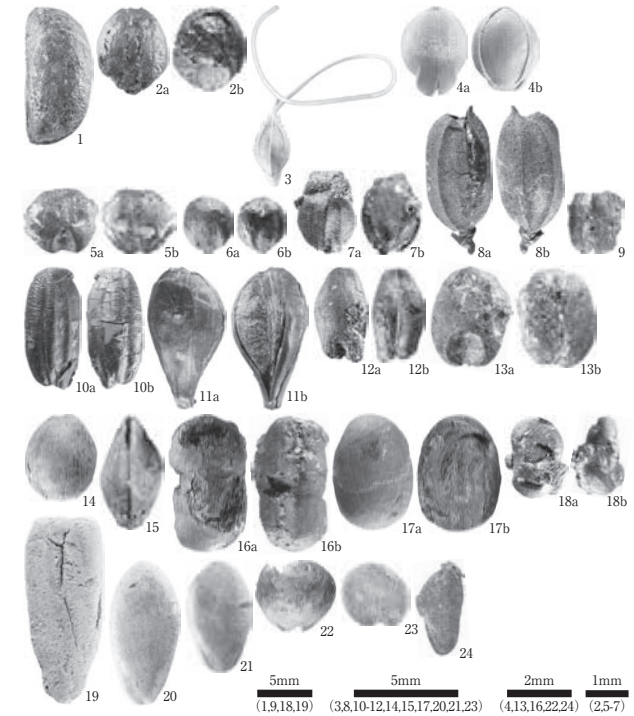
・SE16644；13 層

栽培種のイネ（籾、炭化米）、ソバが多い。アサ、ダイズ属が次いで多く、ヒエ近似種、アワ、オオムギ、コムギ、マクワ・シロウリ型（種子長 6.89mm/7.97mm）、メロン類、ナス、シソ属 - イヌコウジュ属なども確認される。

その他、木本はクワ属がやや多く、ヒノキ、カラスザンショウ、ミズキ、サンショウ、キイチゴ属、ヤマブドウ、ブドウ科が確認される。ヒノキ１個は炭化している。草本は、クサネムが多く、水湿地生植物を主体とする。ヒシ属の果実の刺が確認される。

・SE16103

９層からは、栽培種のイネ籾 52 個、キビ１個の他、草本のイネ科 A5 個の、計 58 個が検出された。８層からは、栽培種のイネ籾 61 個、炭化籾２個、キビ３個、栽培の可能性があるイヌビエ属２個、シソ属 - イヌコウジュ属３個の



1. カキノキ属 種子(SE16623;2層)
2. ヒエ近似種 果実(SE16031;8層)
3. イヌビエ属 果実(SE16031;8層)
4. キビ 果実(SE16031;8層)
5. キビ 穎果(SE16623;2層)
6. アワ 果実(SE16031;8層)
7. アワ 果実(SE16031;8層)
8. イネ 籾・玄米(SE16031;8層)
9. イネ 玄米(塊状)(SE16031;8層)
10. イネ 玄米(SE16031;8層)
11. オオムギ 穎果(SE16623;2層)
12. オオムギ 穎果(SE16644;13層)
13. コムギ 穎果(SE16644;13層)
14. アサ 果実(SE16314;5層)
15. ソバ 果実(SE16031;8層)
16. アズキ亜属 種子(SE16031;8層)
17. アズキ亜属 種子(SE16623;2層)
18. ダイズ属 種子(SE16031;8層)
19. ヒョウタン類 種子(SE16623;2層)
20. マクワ・シロウリ型 種子(SE16031;8層)
21. 雑草メロン型 種子(SE16031;8層)
22. エゴマ 果実(食痕)(SE16623;2層)
23. ナス 種子(SE16623;2層)
24. ゴマ 種子(SE16623;2層)

第 21 図　種実遺体

他、草本のイネ科 A10 個、メヒシバ類、イヌノハナヒゲ類、ウキヤガラ、キランソウ属各１個の、計 85 個が検出された。９層、８層ともに栽培種を含む草本のみから成り、木本は確認されない。

４）考　　察

丘江遺跡７次調査で検出された井戸の最下層または最下層に近い層を対象として、種実分析を実施した結果、栽培種及び栽培の可能性がある果樹のカキノキ属（カキノキまたはマメガキ）、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、イヌビエ属、ヒエ近似種、アワ、エノコログサ属（アワ？）、ソバ、豆類のアズキ亜属（野生型と中間型）、ダイズ属（栽培型を含む）、果菜類のヒョウタン類、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、ナス、繊維植物のアサ、油料植物のエゴマ、シソ属（エゴマ含む）、ゴマが確認され、イネが最も多く、ソバが次いで多い組成が得られた。当時利用された植物質食料と示唆され、井戸内に投棄された食料残滓の可能性がある。このうち、炭化種実は食用前に火を受けたとみなされるが、果皮（籾、穎）が残る穀類は、脱籾（だっぷ；籾殻を取り去る）前の段階で火を受けたと推測される。SE16031 で多産した炭化米は、保存状態が不良なものが多い。

また、各井戸における栽培種の組成についてみると、SE16031 は炭化米が最も多く、ソバが次ぎ、ダイズ属やシソ属 - イヌコウジュ属、炭化雑穀類もやや多い。SE16623 はイネ籾が極めて多い他、分類群数が最も多く、カキノキ属やオオムギ、アズキ亜属、ヒョウタン類、ナス、ゴマなども確認された。SE16644 はイネ籾が極めて多く、炭化米とソバが次ぎ、ダイズ属やムギ、ナスを伴う。SE16103 と SE16314 はイネ籾が多いが、SE16031 や SE16623、SE16644 よりも分類群・個数ともに少ない傾向を示した。このような出土状況の差異は、井戸埋積に関わる人為的行為を反映している可能性があり、調査所見と合わせた検討が望まれる。

一方、栽培種と栽培の可能性を除いた分類群は、草本主体の組成を示す。SE16103 の土壌試料より得られた分類群に木本が確認されない点も考え合わせると、当時の調査区周辺域にまとまった林分は存在せず、開発が進んだ明るく開けた草地環境であったと推測される。

木本は、常緑針葉樹で高木のスギ、ヒノキ、落葉広葉樹で高木のオニグルミ、クワ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、イイギリ、ミズキ、低木のヒメコウゾ、ノイバラ節、キイチゴ属、イヌザンショウ、サンショウ、クマヤナギ属、キブシ、タラノキ、ムラサキシキブ属、籐本のサルナシ近似種、マタタビ近似種、低木または多年草のハギ属、ヤマブドウ、ブドウ属、ブドウ科、常緑広葉樹で小高木～低木のヒサカキ属が確認され、河畔や林縁などの明るく開けた場所に生育する樹種を主体とする。鯖石川流域の森林やその林縁等に生育していたと考えられる。

草本は、人里植物に属する分類群を主体とし、浮葉植物のヒツジグサ、ヒシ属、抽水植物のコナギ、ミクリ属、ハリイ類、ウキヤガラ、フトイ類、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、カンガレイ近似種、ホタルイ類、抽水～湿生植物のサジオモダカ属、オモダカ属、オモダカ科、イボクサ、湿生植物のヌカキビ近似種、イヌノハナヒゲ類、マツカサススキ類、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、クサネム、トウバナ属、タカサブロウ、タウコギなどの水湿地生植物や、中生植物のツユクサ、メヒシバ類、エノコログサ属、イネ科、スゲ属、クワクサ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、ナデシコ科、アカザ属、ヒユ属、カタバミ属、エノキグサ、キカラスウリ、チドメグサ属、セリ科、ガガイモ科、キランソウ属、ハダカホオズキ近似種、ナス属、メナモミ属、アキノノゲシが確認された。遺跡周辺域の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられ、水湿地生植物群落の分布が推測される。水田雑

草や畑雑草に由来する可能性も充分に考えられる。

これらの分類群のうち、SE16031 のハギ属と一部の草本、SE16623 のオニグルミ、SE16644 のヒノキ１個は炭化していることから、上述の炭化穀類とともに火を受けた可能性がある。

植物利用の可能性は、SE16623 のオニグルミ、SE16644 のヒシ属は、果実（核）内部の子葉が食用可能であることから、利用された植物質食料と示唆される。その他、［堀田編 1989］等によれば、クワ属やキイチゴ属をはじめ、ヒメコウゾ、サルナシ、マタタビ、ノイバラ節（一部）、ヤマブドウ、ブドウ属、クマヤナギ属（クマヤナギ）、ミズキは果実が食用可能である。その他、サンショウは香味として、ハギ属、イヌザンショウ、カラスザンショウは薬用として利用可能である。アカザ属やヒユ属、セリ科等には、植物体が食用や薬用などに利用される種を含む。これらの有用植物の出土種実に利用の痕跡は認められないが、当時利用された可能性は充分に考えられる。

丘江遺跡では、これまでも１～３次調査において検出された井戸などの種実同定の他、花粉分析や植物珪酸体分析が実施されている［株式会社パレオ・ラボ 2018；パリノ・サーヴェイ株式会社 2018a・b］。ここでは種実を中心に結果概要を述べる。

１次調査区（13 世紀末～ 14 世紀後半）では、栽培種のブドウ、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、アサ、ソバ、ヒョウタン類、トウガン、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、シソ属（エゴマ）、ナス、ゴマと、栽培の可能性が高いナシ属、アズキ類、ダイズ類、シソ属 - イヌコウジュ属、ゴボウ近似種の他、落葉広葉樹で高木のエノキ属、カラスザンショウ、ヤマボウシ、小高木のエゴノキ、低木のキイチゴ属、イヌザンショウ、サンショウ、キブシ、クサギ、ニワトコ、藤本のサンカクヅル近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、草本で浮葉植物のヒシモドキ、抽水植物のオモダカ属、サジオモダカ属、イボクサ、ミクリ属、ウキヤガラ、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、ホタルイ類、フトイ近似種、サンカクイ近似種、ミツガシワ、湿生植物のアゼスゲ類、スゲ属、ハリイ属、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、クサネム、ゴキヅル、タカサブロウ、中生植物のツユクサ、イヌビエ属、エノコログサ属、イネ科、カナムグラ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ属、ヒユ属、ムラサキケマン型、マメ科、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウグサ、セリ科、ウツボグサ属、ナス属、オナモミ属、メナモミ属、キク科、海浜植物のコウボウムギ近似種、ハマヒルガオなどが確認され、栽培種が全体の約６割を占め、草本が３～４割、木本は１割未満から成る組成が得られた。SE149 はアサ、SE4151 はナス、SE2281 はイネとアサ、SE2546 はアワとシソ属（エゴマ）、SE1518、SE3507 はイネ、SE3726 はイネ（稲穂）、ヒョウタン類が多産する他、現在絶滅危惧種のヒシモドキの出土も特筆された。

花粉分析も種実と同様に草本花粉が高率で、特にイネ属型含むイネ科花粉の多産に特徴づけられた。SE149、SE3726 ではソバ属花粉、SE1048、SE2546、SE2911 ではイネ科由来の微粒炭、SE1518、SE2546、SE3507、SE3704 では集落などの汚染の範囲内と推測される寄生虫卵が検出され、ソバ栽培や人為活動の可能性も指摘された［パリノ・サーヴェイ株式会社 2018a］。

１次調査区に南接する２次調査区（14 世紀末～ 16 世紀初頭）では、栽培種のモモ、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、アワ、アサ、ソバ、トウゴマ、トウガン、ヒョウタン類、メロン類（雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型）、ナス、エゴマ、ゴマ、栽培の可能性があるナシ属、カキノキ属、イヌビエ属、エノコログサ属（アワ？）、アズキ類、ササゲ類？、ダイズ類？、マメ科（エンドウ？）、シソ属、ナス属、ゴボウ近似種の他、常緑針葉樹で高木のマツ属複維管束亜属、常緑広葉樹で高木のヤマモモ、小高木または

低木のヒサカキ属、常緑または落葉広葉樹で高木のコナラ属、落葉広葉樹で高木のクリ、エノキ属、ウワミズザクラ亜属、ネムノキ、アカメガシワ、カラスザンショウ、高木または低木のサンショウ属、ウルシ属、小高木のエゴノキ、低木のノイバラ節、キイチゴ属、イヌザンショウ、サンショウ、キブシ、タラノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、（マルバ）ゴマギ、藤本のサンカクヅル－エビヅル、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科、草本で浮葉植物のジュンサイ、抽水植物のミクリ属、ハリイ近似種、ミツガシワ、ウキヤガラ、ホタルイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ類、フトイ類、抽水～湿生のサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、ハリイ属、湿生植物のアゼスゲ類、コシンジュガヤ、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、ムラサキケマン型、クサネム、スズメウリ、タカサブロウ、湿生または中生植物のアヤメ属、中生植物のツユクサ、メヒシバ類、イネ科、スゲ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ヤマゴボウ類、スベリヒユ、ミドリハコベ近似種、アカザ属、ヒユ属、キンポウゲ属、アオツヅラフジ、キンミズヒキ属、マメ科、カタバミ属、エノキグサ、ヒメミカンソウ、スミレ属、キカラスウリ、アリノトウグサ、セリ科、オカトラノオ属、ヤエムグラ属、キランソウ属、メハジキ属、シソ科、オナモミ属、メナモミ属、キク科、海浜植物のコウボウムギ近似種が確認され、栽培種が全体の 4 割を占め、水湿地生草本主体の組成を示した。炭化穀類のイネ・ヒエの出土状態の差異や、SE5678 のエゴマ、SE6009 のナスの極多産や、SE5069、SE5990 のアサ、SE6413 のエノコログサ属（アワ？）、SE6413 のソバ、SE6708 のマクワ・シロウリ型主体のメロン類、SK4673 のクリ、SE8189 のコナラ属の多産が確認された他、全国的にみても出土例が極めて少ない SE6413、SE7993 のトウゴマが特筆された。

花粉分析も 1 次や種実と同様に草本花粉が高率で、イネ属型含むイネ科の多産に特徴づけられた。SE6001 ではカキノキ属花粉、ソバ属花粉と寄生虫卵、SK8809 ではソバ属花粉とゴマ属花粉の他、高含量の微粒炭、SE5827 ではイネ科由来の微粒炭と寄生虫卵が検出され、カキノキまたはマメガキ栽培、ソバ栽培、ゴマ栽培や人為活動の可能性が指摘された。また、SK8809 ではマツ属複維管亜属花粉の多産より、マツの二次林の増加が指摘された［パリノ・サーヴェイ株式会社 2018b］。

2 次調査区に南接する 3 次調査区（13 世紀～ 15 世紀）では、栽培種のウメ、カキノキ、イネ、ヒエ、アワ、オオムギ、コムギ、アサ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、ソバ、ナス、エゴマ、ゴボウ、栽培種に近い大きさのダイズ属･アズキ亜属の他、落葉広葉樹のコブシ、アオツヅラフジ、ヤマブドウ、キイチゴ属、エノキ属、クワ属、クリ、キブシ、トチノキ、カラスザンショウ、 サンショウ、クサギ、ニワトコ、タラノキ、草本のツユクサ、ヘラオモダカ、ウキヤガラ、スゲ属アゼスゲ節、ハリイ属、テンツキ属、サンカクイ－フトイ、ホタルイ属、ミクリ属、ヒエ属、エノコログサ属、ムラサキケマン、クサネム、カナムグラ、カタバミ属、エノキグサ属、スミレ属、ヤナギタデ、イヌタデ、サナエタデ－オオイヌタデ、ミチヤナギ属、 イヌタデ属 A･B、アリノトウグサ属、アカザ属、キケマン属、 ミドリハコベ、ナス属、キランソウ属、メハジキ属、シソ属、ニガクサ属、タカサブロウ、メナモミ属、オナモミ総苞、オトコエ シ属、セリの種実や、シダ植物のワラビの裂片が確認された。SE10321･SE10339 では大量のイネ（炭化米）、SE9514 ではヘラオモダカ、キイチゴ属、ホタルイ属、シソ属の多産が確認された。

花粉分析や植物珪酸体分析では、沢状地形 SX10450 よりソバ属花粉や水湿地生草本花粉、特に 15 ～ 17 世紀の土層とされる 1b 層でイネ珪酸体の多産したことから、水田稲作とソバ栽培の可能性が指摘された［株式会社パレオ・ラボ 2018］。

今回、 3 次調査区に南接する 7 次調査区（13 世紀後半～ 15 世紀）の結果と比較すると、 1 ～ 3 次と同様

に栽培種が多く占め、木本が少なく、草本主体で水湿地生植物を含む特徴や、一部の遺構で組成や炭化などの状態が異なる傾向が得られた。中世から近世にかけて、丘江遺跡周辺では多くの種類から成る栽培種が普遍的に利用されていたと示唆される。花粉や植物珪酸体分析結果からも、近辺でイネ、ソバ、ゴマ、カキノキまたはマメガキが栽培された可能性や、微粒炭や寄生虫卵の検出から、集落などにおける人為活動の可能性が指摘される。また、いずれの調査区近辺も、開発の進んだ明るく開けた草地環境で水湿地を含み、まとまった林分が存在しなかったと考えられる。２次で指摘された、周辺域におけるマツの二次林の増加も推測される。

一方、今回の７次や３次では、１・２次で検出されたハマヒルガオやコウボウムギ（近似種）などの海浜植物が確認されない。３・７次調査区が１・２次調査区よりも内陸側に位置することに起因する可能性がある。

第６節　自然科学分析　引用文献

石川茂雄　1994　『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会　328p

伊東隆夫　1995　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料 31』 京都大学木質科学研究所　81-181p

伊東隆夫　1996　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料 32』 京都大学木質科学研究所　66-176p

伊東隆夫　1997　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料 33』 京都大学木質科学研究所　83-201p

伊東隆夫　1998　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料 34』 京都大学木質科学研究所　30-166p

伊東隆夫　1999　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ 木材研究・資料 35』 京都大学木質科学研究所　47-216p

伊東隆夫・山田昌久編　2012　『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社　449p

小畑弘己　2008　「マメ科種子同定法」『極東先史古代の雑穀 3』 日本学術振興会平成 16 ～ 19 年度科学研究費補助金（基盤 B-2）（課題番号 16320110）『雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究』研究成果報告書　小畑弘巳編　熊本大学埋蔵文化財調査室　225-252p

小畑弘己　2011　『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』 同成社　309p

笠原安夫　1982　「鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について」『鳥浜貝塚 1980 年度発掘調査概報・研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査２－』 福井県教育委員会　65-87p

株式会社パレオ・ラボ　2018　「第Ⅵ章自然科学分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 274 集 一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書ⅩⅣ 丘江遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　36-53p

小南陽亮・田内裕之・八木橋　勉　2016　『木のタネ検察図鑑－同定・生態・調査法－』 文一総合出版　247p

佐竹義輔・原　寛・亘野俊次・冨成忠夫　1989　『日本の野生植物 木本Ⅱ』 平凡社　305p

島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』 地球社　176p

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文　2018　「草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる 734 種　増補改訂－」『ネイチャーウォッチングガイドブック』 誠文堂新光社　303p

谷城勝弘　2007　『カヤツリグサ科入門図鑑』 全国農村教育協会　247p

椿坂恭代　1993　「アワ・ヒエ・キビの同定」 吉崎昌一先生還暦記念論集『先史学と関連科学』 261-281p

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2010　『日本植物種子図鑑（2010 年改訂版）』 東北大学出版会　678p

那須浩郎・会田　進・佐々木由香・中沢道彦・山田武文・輿石　甫　2015　「炭化種実資料からみた長野県諏訪地域における縄文時代中期のマメの利用」『資源環境と人類 第５号』 明治大学黒耀石研究センター　37-52p

新田みゆき　2001　「シソとエゴマの分化と多様性」『栽培植物の自然史－野生植物と人類の共進化－』 山口裕文・島本義也編　北海道大学図書刊行会　165-175p

林　昭三　1991　『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所

パリノ・サーヴェイ株式会社　2018a　「第Ⅵ章自然科学分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 275 集 一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書ⅩⅤ 丘江遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　43-67p

パリノ・サーヴェイ株式会社　2018b　「第Ⅵ章自然科学分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 276 集 一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書ⅩⅥ 丘江遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　31-63p

藤下典之　　1984　「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』 古文化財編集委員会編　同朋舎　638-654p

堀田　満　　1989　『世界有用植物事典』 平凡社　1499p

Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J.　2013　IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon.55. 1869–1887p

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 海青社　70p［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon.19. 355-363p

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修） 海青社　122p ［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. （1989） IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］

7　ま　と　め

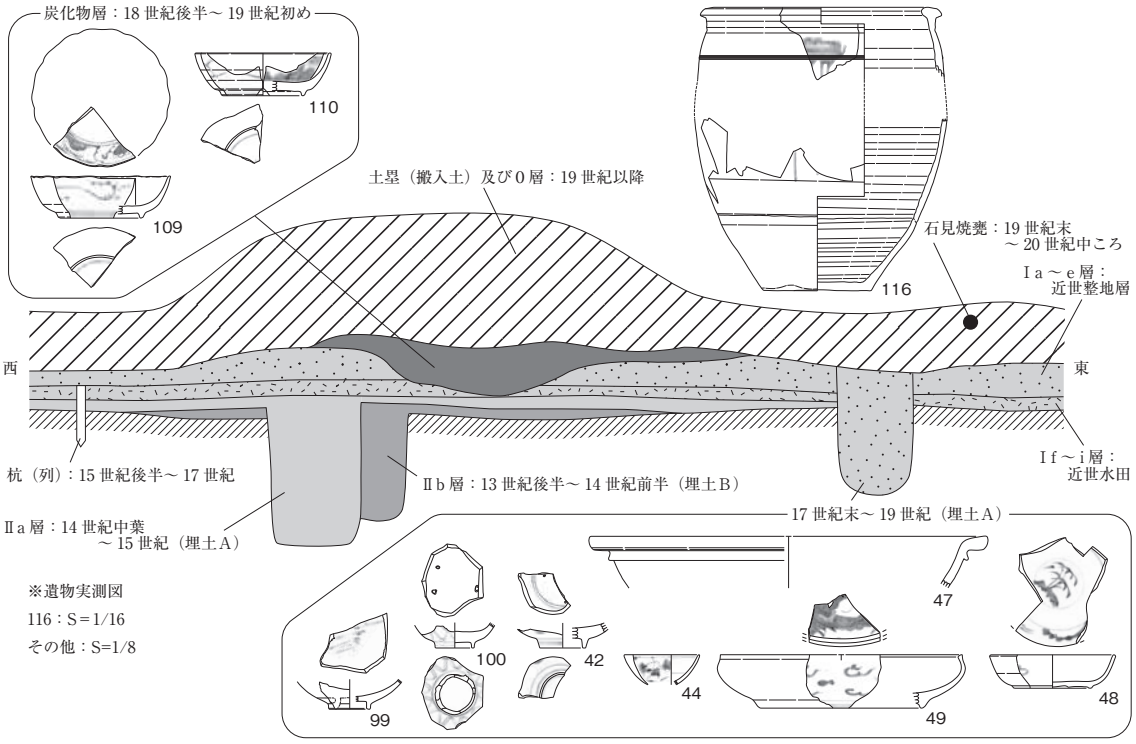
A　遺跡の景観（近世を中心に）

これまでに行われてきた丘江遺跡の発掘調査では、中・近世以外にも弥生時代・古墳時代の包含層や遺物を検出してきた。今回の丘江遺跡７次調査では、調査区北側（71K16 グリッド）のⅣ層から calBC785 ～ 546 の年代が得られた自然木（第Ⅰ章第６節参照）が出土したが、この層準から中世遺構検出面までの間で、遺物はもちろんのこと包含層や耕作に伴う撹拌土なども検出できなかった。このことから、今回の調査区内での活動痕跡は中世以降とすることができる。

中世集落（詳細は後述する）は出土遺物から 13 ～ 15 世紀にかけて造営され、その中心は 13 世紀後半から 14 世紀と 15 世紀後半であったと考えられる。また集落周辺は丘江遺跡Ⅲ［今井ほか2018b］での中世水田の検出や自然科学分析（種実分析・花粉分析）、そして調査区西側（試掘確認調査から）で集落遺構を検出していないことなどを考慮すると、水田を主とする耕作地が広がっていたと想定できる。

中世集落も 15 世紀後半には衰退し始め、その後一帯はⅠｆ～ｉ層を耕作土とする水田化が進む（第 24 図Ⅳ期）。この水田に伴うと考えた杭の放射性炭素年代測定は calAD1438 ～ 1614 を示した。

近世に入ると 74 グリッドより南側の範囲で、搬入土による整地を伴った居住域の造成が始まる（第 24 図Ⅴ期）。整地土はⅠａ～ｅ層を想定しているが、遺構の切込み層位から複数の生活面の存在が推測される。同じ範囲には中世の遺構検出面で調査した近世の井戸なども存在し、これら検出遺構の出土遺物（42・44・47 ～ 49・99・100）から居住域は 17 世紀末から 19 世紀初めにかけての造営となろう。また居住に係る遺構とその範囲については、遺構数が少ないことと東側を除く周辺に関連遺構が延びないことから、単体の屋敷なのか、西側に広がる集落の縁辺に該当するかは不明である。また居住域周辺の様子は、水路の存続や掘込田（SX16050）の検出から引き続き生産域としての利用がうかがえる。



第 22 図　近世以降の遺物出土模式図

19 世紀以降になると、前記居住域内に土塁の構築と土塁区画内の盛土が始まり、土塁を伴う屋敷が造られる（第 24 図Ⅵ期）。本遺跡から約 0.9km 北に位置する山崎遺跡Ⅱ［継ほか 2018］で検出した土塁は、中世段階の土塁を核に近世と近・現代に 2 回の盛上げを行っている。中世と近世には堀を伴うが、近・現代には堀がない。本遺跡でも土塁の周辺に堀が存在せず、土塁は外部からの搬入土で構築したものと考えられる。土塁の構築時期は、土塁下の炭化物層の時期が 19 世紀初めであることと土塁区画内の盛土層中で 19 世紀第 4 四半期の石見焼（116）が出土していることから、19 世紀代と推測するが、石見焼（116）の出土状況（正位で据えられていた）を考えると 19 世紀第 3 四半期以前と考えられる。また、屋敷地の西側を除く調査区周辺は中世から続く水田を主とする生産域が広がっていたと推測され、1947 年の米軍撮影による航空写真（第 6 図）や明治時代の地図（出典：大日本帝國陸地測量部 1912）などからも同様な景観がうかがえる。

B　中世の遺物と遺構

1）遺　　物

中世の土器・陶磁器は、珠洲焼の出土量が最も多く半分弱を占め、次いで土師質土器が多かった。この上位 2 つを合わせると全体量の約 7 割を超え、そこに該期の瓦器、瀬戸美濃焼、越前焼、青磁、白磁、青白磁が加わる。そのほかに土師器・須恵器が出土しているが極めて少量である。

土師質土器は 72 点出土し、報告書に掲載したものは 23 点でそのほかは細片であった。内容は、A 類とした厚手の手づくね成形が 18 点、B 類とした薄手の手づくね成形が 4 点、C 類としたロクロ成形の底部回転糸切りが 1 点である。A 類に共伴する遺物は少ないが、SE16202・16216 の吉岡編年Ⅳ期にあたる珠洲焼片口鉢（19・21）、SE16299 の 14 世紀後半に位置付けられる瀬戸美濃焼の小天目椀（28）がある。越後の土師質土器皿の変遷［品田 1999a・b］によると、A 類とした在地系の土師質土器皿は 13 世紀後半か

ら14世紀に多く確認でき、前述の共伴遺物の時期とも違和感はない。Ｂ類は数が少ないが、薄手の作りや口縁部が開く形状など、15世紀後半から16世紀にかけて広まる京都系の皿と考えた。Ｃ類は関東系とされる15世紀代の皿であるが、本遺跡では106の細片１点のみを確認した。

珠洲焼は合計127点が出土し、器種は甕・壺・片口鉢の３種がそろう。そのほかに、破片を二次利用した転用研磨具８点や土器錘（53）１点も出土した。器種を判別できた破片数は、甕43点、壺５点、片口鉢44点である。器種不明のものは26点であるが、その多くが甕もしくは壺の体部片である可能性が高く、その場合、甕と壺の合計数は70点以上になる。時期を判断する資料のほとんどは片口鉢の口縁部や底部片に頼るところが多かった。図化した比較的残りのよい遺物を中心にみていくと、珠洲焼の時期は吉岡編年のⅢ期やⅤ期をわずかに含むものの、Ⅳ期を主としている。13世紀後半から15世紀前半のなかに収まり、14世紀を主体とする。

その他の国産陶磁器には、瀬戸美濃焼、越前焼などがあり、細片のため器種を判定できないものが多数を占めた。図化したものを中心にみていくと、瀬戸美濃焼では完形の小天目椀（28）と合子（54）、平椀（41）、小型壺（113）、などがある。出土量は少ないが、いずれも14世紀中ころから15世紀前半にかけての所産である。越前焼（73）は16世紀半ばである。

輸入陶磁器は少なく、青磁５点、白磁４点、青白磁２点が出土した。器種は青磁が椀（33・45・72）と皿（９・31）、白磁が皿（13・36）と椀（17）と杯（39）、青白磁が合子蓋（114）と瓶類（115）である。青磁の鎬蓮弁文が施される椀（33・45）・皿（９・31）と白磁の口禿椀（17）は13世紀後半から14世紀初めころで、そのほかは14世紀後半から15世紀代の所産と考えた。

漆器は６点出土し、器種は椀（218・230・236・241・243）と皿（219）である。［四柳1997］によると、身が深く内湾し、径が大きく低い高台を持つ椀が13世紀後半から定型化し、皿は丸底がみられるのがこの時期で、14世紀後半以降は厚手で成形の粗い量産タイプが多くなるという。この特徴を持つものが椀218・230、皿219で13世紀後半から14世紀前半に位置付けられるものと考えられる。また、椀243は内湾するが高台の径が小さくなることから、15世紀前半以降の所産と考えた。236は欠損部分が大きいが高台の径が小さいところから、243と同じ時期に位置付けが可能である。

今回の調査では13世紀後半から14世紀にかけての遺物が最も多く、土師質土器皿のＡ類や、Ⅳ期の珠洲焼が大半を占め、瀬戸美濃焼もすべてこの時期におさまる。ほかに該期の漆器の椀や皿も確認できる。15世紀に入ると遺物は減少し、土師質土器皿は、Ｃ類としたロクロ成形のものを１点確認したのみである。15世紀後半以降になると、土師質土器皿のＢ類が少量ではあるが確認でき、越前焼の擂鉢（73）も１点出土した。最後に下層出土の遺物から中世集落の変遷を概観すれば、集落は14世紀を中心に営まれ、その後、15世紀前半で一度衰退し、15世紀後半には再び集落域となるが、その規模は遺構数や遺物量から前時期のものより小さい。

２）遺　　構

今回の調査で、上層では土塁１基、下層では掘立柱建物24棟をはじめ総数約550基の遺構を検出した。出土遺物から、13世紀後半から現代に至るまで断続的に存続した集落であることが明らかになった。主体となる時期は14世紀から15世紀後半（下層）で、その後は一度全域が生産域となり、再び生活の痕跡が認められるのは17世紀末から（上層）である。さらに19世紀に入ると土塁を伴う屋敷地が造成され、その周囲では水田による稲作が営まれる。ここでは下層で検出した遺構を中心に検討を行い、最後に

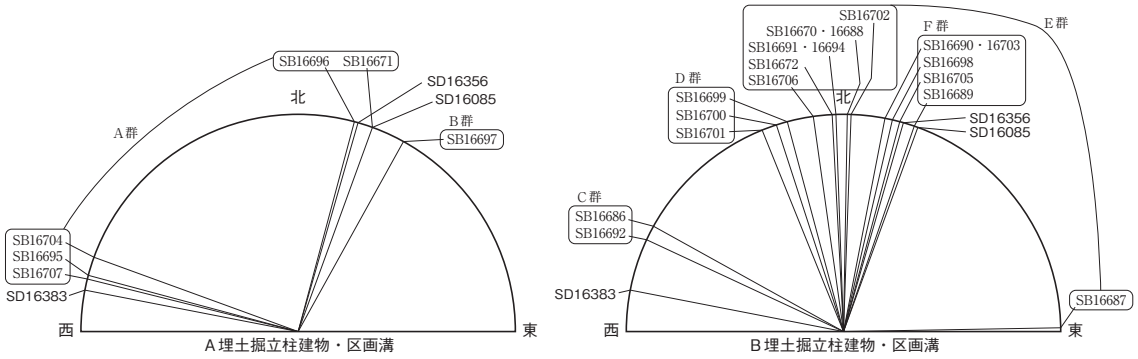
調査区全体の時期的な変遷案を示したい。遺構は、埋土の様子から大きく2時期に分けることができ、これに出土遺物や遺構の切合状況、軸方位などを加味することで、おおよその変遷を捉えることが可能である。埋土について今一度整理すると、色調AとしたものがⅡb層由来で、SE16028・16295・16348などから出土した遺物からおおよそ13世紀後半から14世前半、色調BとしたものがⅡa層由来で、SK16405などの出土遺物から14世紀中葉以降と考えられる。ただし色調Bは、近世以降の遺構埋土と土質が非常に似ており、遺物が出土した遺構を除くと帰属が難しい。また、井戸などの埋戻しが認められる遺構では、色調Aの埋土と地山がブロック状に混じる層から新しい遺物が出土するケース（SE16299・16550など）が複数認められ、単純な新旧関係を示すものではないことに注意する必要がある。

掘立柱建物と区画溝

掘立柱建物は24棟を認定したが、建物を構成する柱穴以外にも多数の柱穴がみつかっており、実際はさらに多くの建物が存在したものと考えられる。建物のうち埋土色調Aが6棟、Bが18棟である。区画溝と認定した溝はSD16085・16356・16383である。断面観察から、いずれの溝も埋土下半が色調A、上半がBで、上半の埋土が下半の埋土を切るように堆積している部分が認められることから、区画溝は一度埋没後に再度掘削され、断続的に機能していたものと考えられる。これらの遺構を、埋土色調及び方位によって分類したものが第23図である。軸方位が近似する遺構は同時期に存在した可能性が高く、遺物が出土していなくても、方位のまとまりから同時性を推定している。なお、方位が東西を基軸とするものは、90度振り直した際に南北を基軸とするものと近似していれば、同じ方位のまとまりとして扱った。

色調Aの建物は、方位でA群とB群に分類できる。A群としたものはSB16671・16695・16696・16704・16707で、東偏14～20度にまとまっており区画溝と似た方位を示す。建物分類ではすべてⅡa類のものである。出土遺物や方位が似る区画溝の時期などを踏まえると、A群の建物は13世紀後半から14世紀前半に比定できる。B群とした建物はSB16697のみで、A群に比べて方位が東偏する。SB16697-P16064がSB16696-P16104を切っており、A群→B群の変遷は確実である。ただし、埋土色調は同じAであることから、時期差はそれほど大きくないものと考えられる。

色調Bの建物方位は大きく4つに分けることできる。C群としたものはSB16686・16692で、いずれも調査区外へとおよんでいるため全体像を把握できないが、南北を基軸と考えた場合、東偏25～29度を示す。時期を決定し得る遺物が出土していないが、SB16686-P16115がSK16045に切られていることから、色調Bの中でも古い段階のものと推定できる。D群としたものはSB16699・16700・16701で、西偏15～22度にまとまる。建物分類はすべてⅢ類のもので、調査区の南側に集中する。新旧関



第23図　掘立柱建物及び区画溝の方位

係では、SB16700-P16488・16496がSB16704-P16684・16503をそれぞれ切っており、またP16488はSB16703-P16487に切られる。このことから、A群→D群→F群の変遷が追える。またSD16383との関係については、SB16701-P16639との切り合いからD群→SD16383新段階となる。D群の時期は、出土遺物や切り合いなどから15世紀代に比定できる。E群としたものはSB16670・16672・16687・16688・16691・16694・16702・16706で、東偏2～西偏8度にまとまる。建物構造はⅠ～Ⅲ類まで認められるが平面形はすべてa類の長方形である。新旧関係ではSB16694がSK16405を切っており、これに後続することは確実である。時代を決定し得る遺物が出土していないが、SK16405に後続すること、出土遺物の主体が14世紀代である中でE群の建物が多いことなどを考えると、14世紀後半を中心とする時期と推定できよう。ただし、同時期に存続したと考えられる各区画溝の新段階とはやや方位が異なっている。F群のものはSB16689・16690・16698・16703・16705で、東偏11～19度にまとまる。建物分類ではⅡb・Ⅲb・c類が確認できる。新旧関係では、先述のとおりD群→F群の変遷が確認でき、さらにSB16698-P16610がSD16383新段階を切っていることから、最も新しい時期に帰属する一群と考えられる。

以上、遺構の方位や新旧関係などをみてきたが、改めて状況をまとめる。まず、埋土色調AのA・B群の建物と各区画溝の古段階が13世紀後半から14世紀前半に展開する。その後区画溝は一度埋没し、そのころに埋土色調Bの古い段階の遺構（C群やSK16405）が続くものと考えられる。再度区画溝が機能する段階では、やや方位が異なるもののE群の建物が併存していたものと推測できる。その後に続くのはD群の建物で、このころ区画溝SD16383は埋没と掘削を比較的短期間で繰り返していた可能性が認められる。最後の建物群はF群で、D群の時期を考えると15世紀の中でも後半に位置付けられる。建物構造と時期の関係については、あまり特徴的な様子がみられないが、最も古い段階はⅡa類のみが存在する。

井　　戸

井戸は総数85基を検出し、平面形態が円形基調をⅠ類、方形基調をⅡ類とし、断面形態が箱状ないしU字状で段を持たないものをa類、漏斗状ないし階段状で段を持つものをb類として分類した。この分類をもとに、規模や埋土状況などの要素を加えてまとめたものが第8表である。規模では、a類よりもb類の方が長径は大きく、深度もわずかではあるが大きいことがわかる。このような傾向は丘江遺跡Ⅱでもみられる。これは、掘削方法を反映しているもので、大型の井戸は、ある程度掘り進めた段階で中に入って足場を固めながら掘り進めた結果としている［笹澤2018b］。ただし、b類としたものには径が比較的小さいものや、段を持つがしっかりとした平坦面を持たないものもあるので、すべてがこの理由によるものではない。しかし、大型で深い井戸ほどb類が多いことは変わりなく、明確な理由は解明できていないが、掘削や使用時の状況の違いを示すものと考えられる。埋土色調はどの分類でもAが多い。これは先述のとおり、埋め戻しの際に古い堆積土が混入した結果と考えられる。そのため、他の遺構のように埋土色調によるおおよその時期差を判別しにくい。また、遺物の出土状況などから時期を詳細に比定できた井戸も少なく、時期差による傾向はつかめなかった。

分類	総数	埋土色調別		法量（cm）			
		A	B（A混在含）	長径	長径平均	深度	深度平均
Ⅰa	41	34	7	50～153	86.5	56～213	112.2
Ⅰb	23	18	5	62～222	120.7	71～168	122.0
Ⅱa	8	6	2	72～117	86.6	76～201	119.0
Ⅱb	4	2	2	69～219	111.3	77～195	122.0

第8表　井戸分類別埋土色調及び法量

遺物の出土状況や埋土状況をみると、次のような特徴が認められる（第９表）。

①：１～数点の遺物が中心部付近で出土するもの。

②：一定の深さに遺物が集中するもの。

③：炭化物や炭化した腐植物を主体とする層が認められるもの。

①は井戸使用時または廃絶に伴う祭祀行為の痕跡と考えられ、13基の井戸で確認した。完形の土師質土器や輸入陶磁器片、石製品、木製品などが確認できる。②は井戸を廃棄場として使用した痕跡もしくは①のように祭祀行為の痕跡と考えられ、６基の井戸で確認した。③についても何らかの祭祀行為を示すものと考えられ、11基の井戸で確認した。井戸中に認められる炭化物・炭化腐植物層について一之口遺跡東地区の例をみると、栽培植物・可食植物が多量に含まれていることから、埋め戻しに際して食物の奉納が行われた可能性が高いとしている［鈴木1994］。今回の調査でみつかった井戸中の炭化物・炭化腐植物層も、一之口遺跡東地区と同様の祭祀行為におけるものと推定できる。なお③については、①・②の状況が伴うケースも認められる。

井戸名	分類	埋土色調	状況	該当層位	該当層位の主な出土遺物
SE16016	Ⅰb	A	②	4・6	曲物側板、箸、炭化材など
SE16017	Ⅰa	A	②	8～12	土師質土器、多量の木製品と自然木など
SE16028	Ⅰa	A	②・③	8～10	刳物匙、杓子形木器、箸など
SE16031	Ⅰb	A	②	8	糸巻枠木？、杓子形木器、箸など
SE16087	Ⅱb	A	②	3・4	箸破片、板材破片など
SE16103	Ⅰb	A	①・③	8	曲物、曲物底板など
SE16164	Ⅱa	A	③	4	－
SE16202	Ⅰb	A	①	6	砥石
SE16264	Ⅰb	A+B	③	8	土師質土器、部材、樹皮
SE16295	Ⅰa	A	③	4・5	珠洲焼片口鉢・甕、板状木製品、板材、杭、籾塊
SE16299	Ⅰa	A	①	3	瀬戸美濃焼小天目椀
SE16311	－	A	①	4	漆器有台椀
SE16333	Ⅰa	A	①	2	土師質土器小皿、青磁皿など
SE16340	Ⅰa	A	①	1	板状木製品、板材
SE16341	Ⅰa	A	③	3	－
SE16396	Ⅰb	A+B	①？	8	砥石、木錘、竹筆、切断材など
SE16436	Ⅰa	A	③	3	－
SE16444	Ⅰa	A	①	2	珠洲焼片口鉢、砥石
SE16517	Ⅰa	B	①	4	白磁杯
SE16550	Ⅰa	A	①・③	5	瀬戸美濃焼平椀、曲物側板
SE16561	Ⅰa	A	①	5	漆器有台椀
SE16585	Ⅰa	A	①・③	2	瀬戸美濃焼平椀
SE16582	Ⅰb	A	①	2・3	茶臼、柄杓、曲物底板、焼礫など
SE16604	Ⅰb	A+B	③	6	－
SE16623	Ⅱa	A	②？	2	土師質土器、曲物底板、箸など
SE16659	Ⅰa	A	③	4	炭化木

第９表　特徴的な堆積・出土状況を示す井戸

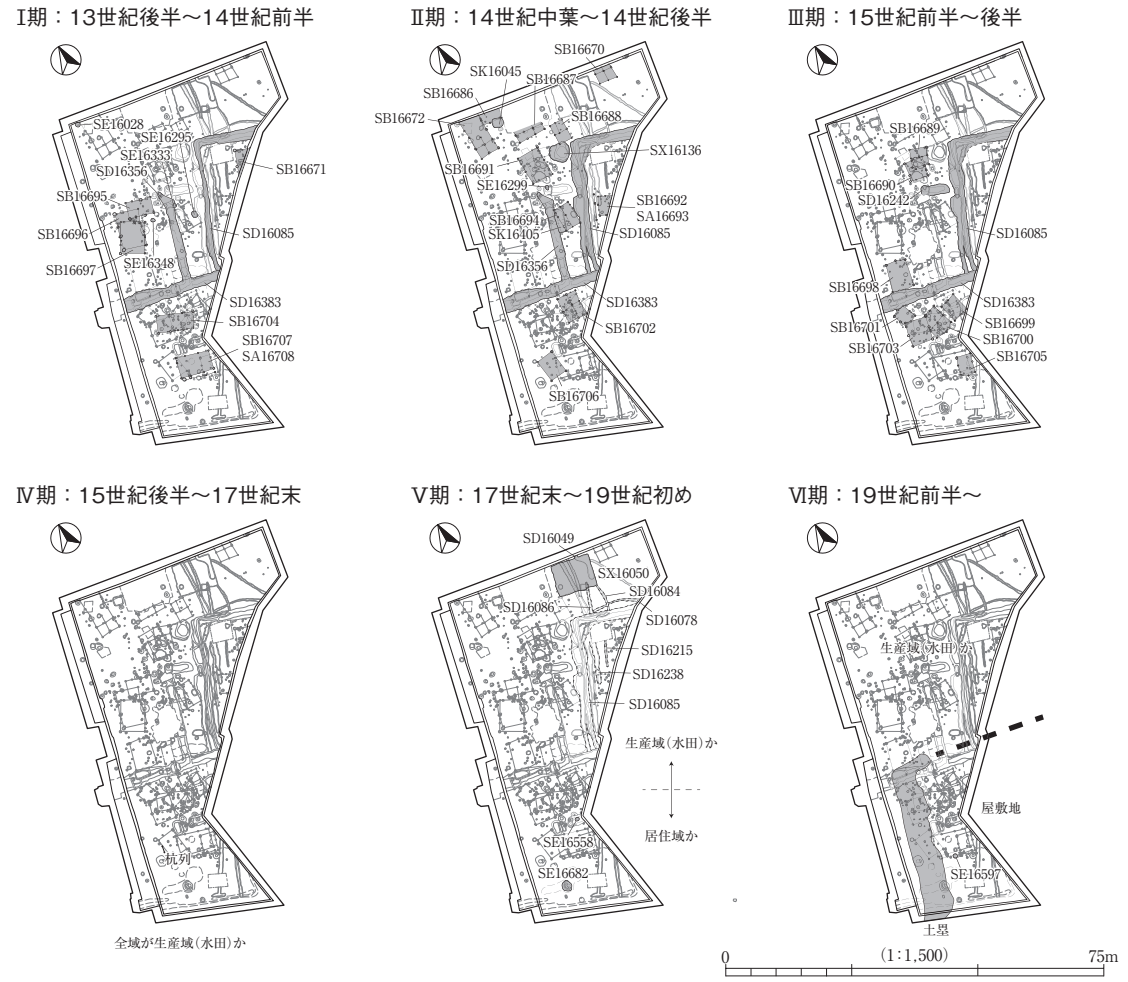
また、今回の調査では複数の井戸堆積物で種実同定を行っている。結果は第６節に詳しいが、同定の結果、アワ、イネ、オオムギ、アサ、ソバ、ダイズ属、メロン類、エゴマ、シソ属、ナスなどの栽培植物が６割を超える。これは、周辺で畑作を行っていたことを示すものである。調査区内ではみつかっていないが、遺構の検出状況からみれば調査区外の北東側や西または南側に耕作地が広がっていた可能性もあるだろう。そうすれば、井戸の中で深度が浅く湧水があまり認められないものについては、畑作に関連して水溜や肥溜めなどの利用も想定できる。

C　集落の構造と変遷

最後に、前項で検討した掘立柱建物と区画溝に帰属時期がわかる遺構を加えて、集落構造と変遷について述べる。時期はⅠ～Ⅵ期に区分した（第24図）。

Ⅰ期　遺構数は多く、掘立柱建物はA群とB群がⅠ期に比定される。また、同じころに各区画溝が掘削され、集落内を溝で区画していた様子がうかがえる。Ⅰ期の遺構は調査区の中央付近に集中しており、北側と南側は閑散とする。区画溝のうちSD16085は方形にめぐる区画溝と考えられ、区画内に位置するSB16671の柱穴は他の掘立柱建物の柱穴に比して径がやや大きい。このことから、区画内が有力者の居住域であった可能性が考えられる。

Ⅱ期　Ⅰ期同様遺構数は多く、出土遺物からみても最も盛行した時期といえる。また、遺構の重複も多



第 24 図　丘江遺跡７次調査における集落構造と変遷

数認められることから、比較的短期間の中で建物の建て替えや、井戸や溝の掘り直しを行っていたものと推測できる。掘立柱建物はＣ群とＥ群があたる。区画溝は一度埋没した後、それほど時間を空けずに同じ位置に掘り直され、Ⅰ期と同様の集落構造をなす。ただし、掘立柱建物は調査区の北側まで展開し、居住域の広がりが認められる。

Ⅲ期　Ⅰ・Ⅱ期に比べ遺構数は減少する。出土遺物や遺構の切り合い状況から、Ｄ群とＦ群の掘立柱建物がⅢ期に比定できる。区画溝は SD16356 が埋没し、SD16085・163838 が引き続き機能していたものと考えられるが、遺構の切合状況からみて SD16383 は埋没と掘削を短い間隔で繰り返していた可能性がある。出土遺物からみてⅢ期の中心は 15 世紀後半であり、建物もここに収まる。建物は SD16383 の南側に多く、Ⅱ期で広がりをみせた調査区北側は衰退する。

Ⅳ期　当該期に比定できる遺構・遺物はごくわずかである。杭列の存在や、遺物が極端に少ないことを踏まえると、調査区の全域が生産域として利用されていた可能性が高い。

Ⅴ期　Ⅴ期になると少数ではあるが、再び遺構・遺物が確認できるようになる。遺構数が少ないため断言はできないが、調査区の北半は水田などの生産域、南半は居住域であった可能性がある（「Ａ遺跡の景観」に詳述）。

Ⅵ期　Ⅵ期に入ると調査区の南側に土塁を構築し、屋敷地を形成する（「Ａ遺跡の景観」に詳述）。

D　中世の丘江遺跡とその周辺

今回の調査では、13 世紀後半から 14 世紀を中心とする集落と、遺構・遺物はやや減るものの 15 世紀後半ころに主体を持つ集落であることがわかった。丘江遺跡の中では集落の縁辺部にあたると考えられ、７次調査でみつかった集落は遅くとも 16 世紀には一度衰退し、次に確認できるのは 17 世紀末以降である。遺跡はこの間、水田などの生産域になっていたと考えられる。

丘江遺跡が位置する柏崎市田塚・茨目地区は、鎌倉から室町時代には鵜川荘安田条の一部で、有力氏族である安田毛利氏が支配する地域であった。毛利氏が佐橋荘の地頭を安堵されたのは 13 世紀後半であり、以降毛利氏の一族が佐橋荘や鵜川荘の統治を進めていく。これに呼応するように丘江遺跡は成立し、方形区画溝をともなった掘立柱建物群が展開する。丘江遺跡Ⅱの報文では、14 世紀前半以降、方形区画に連結構造が採用され、14 世紀末には区画が拡大して溝が大型化するという。これは鎌倉幕府滅亡（1333 年）とそれに続く南北朝の動乱（1336 ～ 1391 年）が契機となった越後国内の動乱による政情不安が背景にあり、防御的な面での対応の可能性を示唆している［笹澤 2018c］。丘江遺跡Ⅱほど顕著ではないものの、今回の調査で見つかった方形区画溝（SD16085）も、連結構造や溝の拡大化がみられる。このように、丘江遺跡は安田毛利氏に関連する遺跡の可能性があり、また社会情勢を反映した集落構造を持っていたことがわかる。出土遺物でみると、国産・輸入陶磁器、茶臼などの優品が認められる。しかしながら出土量は少なく、また掘立柱建物にもそれほど大型のものが認められないことから、安田毛利氏の中心的な位置ではなく、それよりは下位の階層の人々が営んだ集落と考えられる。

E　遺 跡 の 評 価

丘江遺跡は鵜川と鯖石川、そして鯖石川の支流である別山川によって形成された柏崎平野に所在し、海岸線から約３km 内陸に入った鯖石川左岸の沖積微高地（標高は現況で約７m）に立地する。遺跡はこれまでに８次の調査が行われ、縄文時代から近世にかけての遺構や遺物を検出しているが、その中心は中世期である。中世の丘江遺跡をみると遺跡北東側の水田域と南西側の集落に大きく分けることができる。また、北側に隣接する山崎遺跡［継ほか 2018］・宝田遺跡［飯坂ほか 2015；秋山ほか 2015；加藤ほか 2018］・東原町遺跡［山崎ほか 2005］の状況からは、丘陵から海岸方向に延びる自然堤防ないしはそれに準じる微高地上の集落と、微高地間の低地に水田を中心とする生産域が広がる景観がみえてくる。集落の時期は 13 ～ 16 世紀と幅を持つが、集落検出域約 480 m間で場所により隆盛時期が微妙にずれることがわかっている。本書に係る調査区はこの集落域の南端にあたり、西側についても試掘確認調査から集落の端部に位置する。

今回の調査では下層で 13 ～ 15 世紀にかけての集落を、上層で近世以降の居住域（屋敷か）を検出した。下層は遺構の切り合いや出土遺物、そして埋土の識別からⅠ・Ⅱ・Ⅲ期の集落変遷が追え、隆盛時期はⅡ期の中の 14 世紀後半で、Ⅰ期（13 世紀後半から 14 世紀前半）から続く区画溝を伴う屋敷地の一部と多数の小型掘立柱建物を検出した。区画溝が巡る屋敷地は丘江遺跡全体の集落域に広く認められ、当時、当該地区を領有した毛利安田氏の村落構造の一端が明らかになりつつある。出土品には珠洲焼・瀬戸美濃焼・越前焼・瓦器・土師質土器・青磁・白磁・青白磁の土器・陶磁器、椀・皿の漆器、石臼・茶臼・砥石・硯などの石製品、箸・曲物・櫛・筆・匙などの木製品のほか杭や柱根がある。出土品の数は全体的に少ないが、この中でも茶臼や小天目椀（28）、小型壺（113）、合子（54）などの茶道具からは居住者の階層

や喫茶の普及が、筆や硯からは識字者の存在が推測され、多量に出土した砥石の用途を農具の刃砥ぎ道具と想定した場合、集落の生産基盤を知ることができる。また、多数検出した井戸のうち深度が浅く湧水が顕著でないものについては、畑作に関連した水溜や肥溜めを想定している。これについては、丘江遺跡Ⅳ［春日ほか2019］の下層（中世期）検出の畝状小溝と井戸（SE12049）が参考となろう。中世集落全体にいえることだが、畑作栽培種の種実が多数出土している割には畝状小溝の検出は少なく、耕作痕跡の削平や調査区外での展開が推測される。

上述のように出土品に茶道具や筆・硯などの希少品があることから富裕層の存在がうかがえるが、用途を推測した多数の砥石や井戸の存在からは、稲作や畑作といった農業に大きく依存した集落であることがわかる。

上層は15世紀後半以降、中世集落衰退後に一帯が水田化した後、調査区南側に限って水田面上に盛土し居住域としての利用が開始される。時期は遅くとも17世紀末以降で井戸やピットが少数検出できた。この地区は19世紀初めから19世紀第4四半期のある段階でかさ上げされ、土塁を伴う屋敷へと変貌する。なお、土塁区画内の盛土中から石見焼の「はんど」と呼ばれる甕が出土している。同様の甕は柏崎市貞観園をはじめ県内各地で確認されている［阿部2013］。甕の時期は19世紀第4四半期と推測され、島根県石見地方から海上輸送でもたらされたものであろうか。

第Ⅱ章　工　田　遺　跡

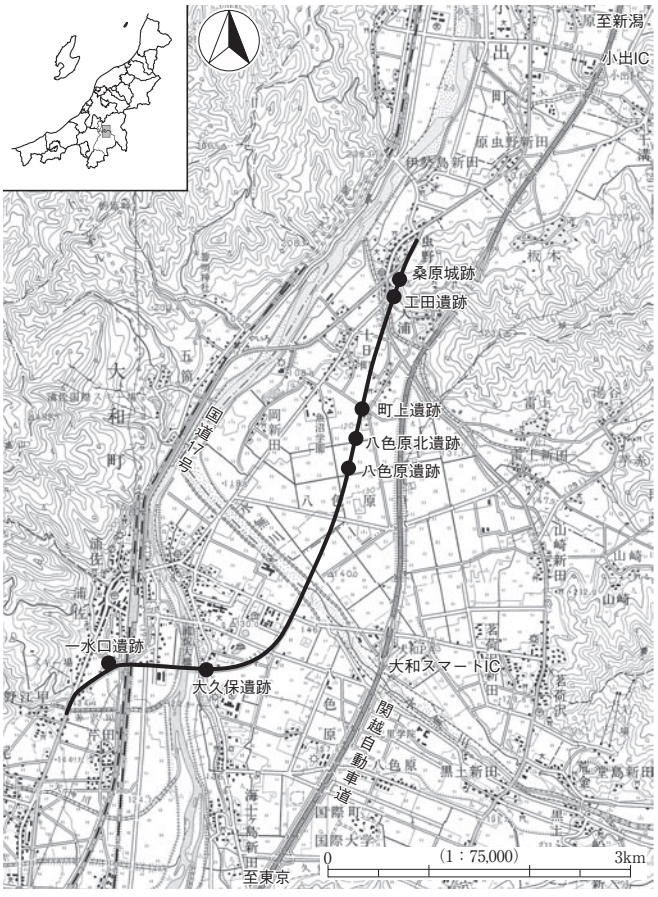
1　序　　説

A　調査に至る経緯

一般国道 17 号は、東京都中央区と新潟県新潟市を結ぶ総延長 431km の主要幹線道路である。南魚沼市（旧大和町）や魚沼市（旧小出町）周辺の国道は、上越新幹線や関越自動車道の利用が伸びるにつれ、交通量が増加している。魚沼地域は日本でも有数の豪雪地帯で、JR 浦佐駅付近は JR 上越線と一級河川の魚野川間の狭いところを国道が通るため、冬期の降雪を路外に飛ばすことができず、ダンプトラックに積み込んで搬出するなど、除雪作業による交通障害が問題となっている。浦佐バイパスはこのような冬期の除雪に伴う交通混雑の緩和や魚野川洪水時の路面冠水及び春先に発生する濃霧区間の回避、そして地域医療の核となる魚沼基幹病院へのアクセス向上などを目的として計画された。起点の南魚沼市野江甲から魚沼市虫野に至る延長 6.6km の道路で、浦佐跨線橋手前で国道 17 号から分岐して魚野川を渡り、水無川扇状地の八色原を横切り、三用川を渡って終点の魚沼市虫野で国道 17 号に合流する。1988（昭和 63）年度に事業化され、1997（平成 9）年度から工事に着手して、これまでに魚野川右岸の塩沢大和線から三用川左岸の十日町地先までの 4 km が開通している［国交省 2015］。

埋蔵文化財の分布調査は 1994（平成 6）年（水無川左岸方面）と 2000（平成 12）年（水無川右岸方面）に実施した。分布調査前のバイパス法線上の周知遺跡は桑原城（中世城館）・町上遺跡（縄文時代）［相羽ほか 2013］、近接遺跡として一水口遺跡（弥生時代）が知られているに過ぎなかったが、分布調査においても新たな遺跡の発見につながる遺物は採取できなかった。

試掘調査は 1998（平成 10）年度から実施し、水無川右岸で大久保遺跡（古墳時代）［尾崎ほか 2001］・八色原遺跡（縄文時代）［寺崎・田中 2006］・八色原北遺跡（縄文時代）［渡邊・朝岡 2013］を新発見した。これらの周知遺跡及び新発見遺跡のうち、桑原城はトンネル通過の計画で、一水口遺跡・八色原遺跡・八色原北遺跡は明瞭な遺構を検出できず、出土品も極めて少ないことから本調査の必要が



第 25 図　浦佐バイパスと遺跡の位置（国土地理院発行 平成 6 年「小千谷」、平成 20 年「十日町」1 ：50,000 原図を縮小して加筆）

ないと判断し、大久保遺跡・町上遺跡・工田遺跡の３遺跡のみ本調査へ移行した。

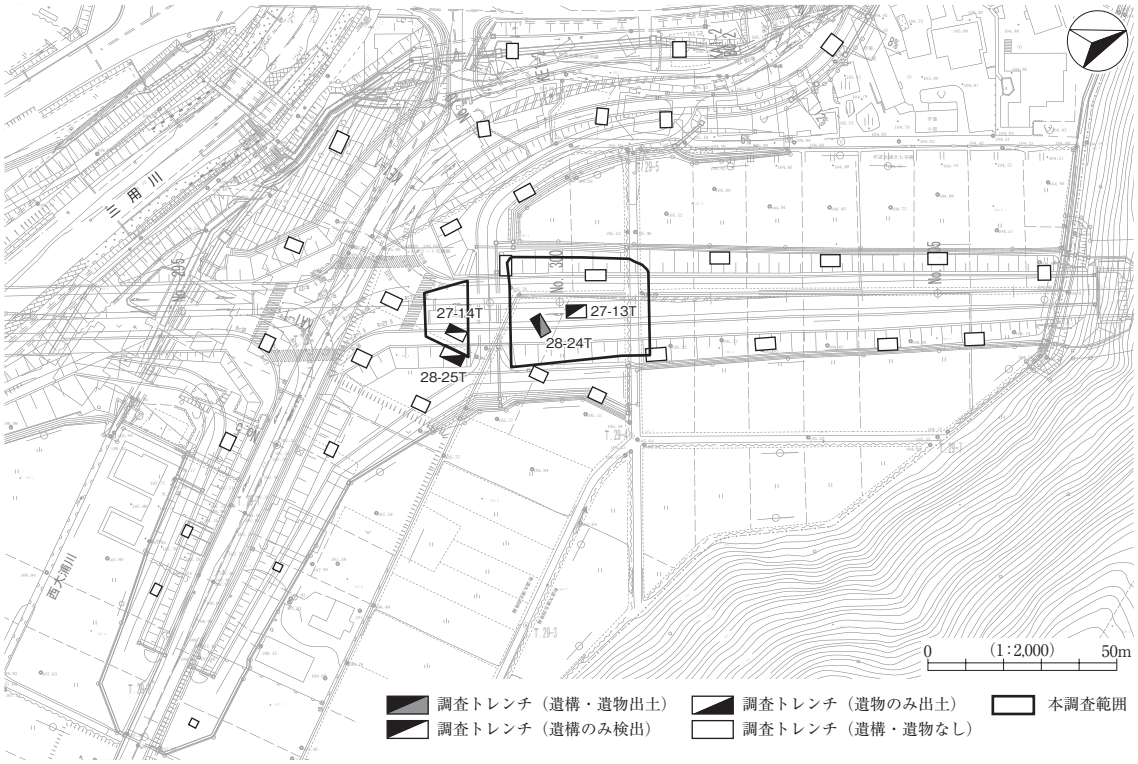
工田遺跡周辺の試掘調査は 2014（平成 26）～ 2016（平成 28）年にかけて実施した（詳細は後述する）。調査では中世の土器１点（珠洲焼）と列をなす複数の杭を検出したが、杭列の構築時期について確証が得られないことから、平成 28 年度の報告（「平成 29 年 3 月 24 日付け教文第 1450 号の 4 」）では、杭の放射性炭素年代測定分析の結果を得てから本調査の要否を判断することとし、この時点では判断保留としている。その後の分析で、中世（鎌倉時代、13 世紀前半ころ）の年代値が得られたことにより、県教委は判断保留内の約 1,055㎡について本調査が必要であることを国交省に報告した（「平成 30 年 1 月 5 日付け教文第 1212 号の 4 」）。そして、新発見遺跡であることから小字名をとり「工田遺跡」として周知した［県教委 2017・2018］。

本書に係る調査は「平成 30 年 3 月 22 日付け国北整長計第 126 号」の国交省からの調査依頼を県教委が受け、「平成 30 年 3 月 28 日付け教文第 1581 号の 2 」で埋文事業団に 2018（平成 30）年度の本調査の実施を依頼したものである。調査依頼面積は前述の「平成 30 年 1 月 5 日付け教文第 1212 号の 4 」に同じ 1,055㎡であるが、「平成 29 年 3 月 24 日付け教文第 1450 号の 4 」での「判断保留」の報告以降、その取扱いについて徹底されず、平成 29 年度に判断保留範囲内の一部に構造物の設置工事が行われたことにより、実際の調査面積は著しく減少した。

B　調査と整理作業の経過

1）試　掘　調　査

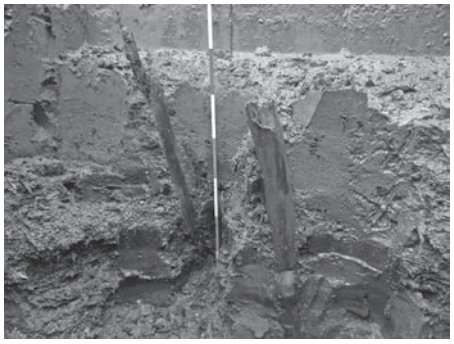
三用川右岸の試掘調査は、県教委が① 2014（平成 26）年 6 月 30 日～ 7 月 1 日、② 2015（平成 27）年 9 月 15 ～ 18 日、③ 2016（平成 28）年 6 月 20 ～ 24・27 日の 3 回に分けて実施した。①は調査対象面積 3,323㎡、実質調査面積 53㎡、②は調査対象面積 8,086㎡、実質調査面積 305㎡、③は調査対象面積 5,700㎡、実



第 26 図　試掘調査トレンチ位置図（国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所 平成 27 年作成地図を使用）

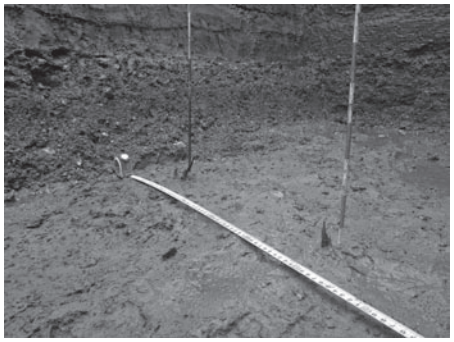
質調査面積 152㎡である。

調査の方法は、対象地内に試掘坑（トレンチ：T）を任意に設定し、重機及び人力で掘削・精査して土層堆積状況や遺構・遺物の検出状況、そしてトレンチの位置などを図面・写真に記録するものである。合計 36 か所の試掘坑（26 － 01 ～ 07T、27 － 01 ～ 19T、28 － 18 ～ 24T）を調査した。調査範囲は東から西に緩く傾斜する斜面地で、地表の標高は 107.8 ～ 104.5 m、調査深度は浅いところで地表下 1.5 m、深いところで地表下 2.7 mである。三用川の影響の大小によって各調査坑内の層序は大きく異なる。調査範囲西側から北側の 28 － 18 ～ 23T、27 － 01・02T、26 － 01・04 ～ 06T 付近では表土下 0.5cm 前後で厚い砂利層となり、三用川河道域と推測される。調査範囲の東側については灰色～褐灰色シルトを基本とし、そこに幾層もの洪水による砂利層やガツボ層（未分解腐植層）が介在するが、各層は水平に堆積し、地盤が比較的安定していた地区である。以下に遺物が出土し遺構を検出した東側地区の層序を示す。Ⅰａ層 灰黄褐色粘質シルト、現耕作土。Ⅰｂ層 褐色シルト、耕作土。Ⅰｃ層 灰白色砂質土、耕作土。Ⅱａ層 褐灰色シルト。Ⅱｂ層 褐灰色シルト、腐植物を含む。Ⅲ層 灰白色シルト、礫を少量含む。Ⅳ層 灰～褐灰色シルト、Ⅴ層の上位堆物と腐植物が混合。Ⅴａ１層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。Ⅴａ２層 灰～褐灰色粘質シルト、腐植物を含む。Ⅴａ３層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。Ⅴａ４層 灰～褐灰色砂礫層。Ⅴａ５層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層。Ⅴａ６層 灰～褐灰色粘質シルトと大砂礫の互層。Ⅴｂ層 暗褐色シルト、腐植物を含む。Ⅴｃ１層 灰～褐灰砂礫。Ⅴｃ２層 灰～褐灰色粘質シルトと砂礫の互層、腐植物を含む。



27-13T　杭出土状況

27-14T　杭出土状況



28-14T　杭頭出土状況

検出遺構及び出土遺物は、27 － 13T のⅤｃ２層上面で７本の杭頭（杭列）、27 － 14T のⅤａ５層中から杭１本、28 － 24T のⅤａ３層から珠洲焼１点、Ⅴｂ層上面で杭の頭（4 本）、28 － 25T のⅤａ２層から曲物底板１点である。調査の結果から杭列について中世以前の可能性があるものの自然科学分析による時期の推測を待って、取り扱いについて判断するとした（教文第 1450 号の４）。その後、放射性炭素年代測定により 27 － 14T 出土の杭が鎌倉時代（13 世紀前半ころ）の年代値を示したため、検出遺構及び出土遺物のあった試掘坑を含む範囲 1,055㎡について本調査が必要である旨を国交省に報告し（平成 30 年１月）、新発見の遺跡であることから「工田遺跡」として周知した。

2）本　調　査

本調査は、2018（平成 30）年 10 月１日に開始し、同年 12 月５日に終了した。調査区は、既設構造物（ボックスカルバート）により南北に分断しており、便宜上構造物より北側を北区、南側を南区として調査

を進めた。南区では、上・下層の２面を調査し、最終的な調査面積は、上層 109㎡、下層 694㎡で合計 803㎡である。なお、以下で示す層名は本書で使用する最終的なもので、試掘調査時の層名とは異なる。

調査は北区から開始した。本遺跡は、試掘確認調査によって杭列のみが検出されていたが、堆積状況の精査などにより水田跡の可能性が考えられた。そのため、10 月１・２日にかけて試掘トレンチ（27-13T）を再掘削し、層序の確認を行った。その結果、地表下約 1.7 ｍで杭頭を確認した。杭頭を確認した層（Ｘｂ層）は、撹拌を受けたシルト層で、水田耕作土と考えた。これより下位は、砂礫層と未分解腐植物層が互層となって続き（Ⅻ～Ⅹ Ⅳ層）、人為的な痕跡は認められなかった。Ｘ層より上位では、撹拌を受けた水田耕作土と考えられる層と砂礫層等の自然堆積層からなり、現代に至るまで水田耕作と、自然堆積を繰り返していた様子が認められた。そのため表土掘削は、Ｘ層上面を目標とし、それより上位の層序では畦畔の有無に注意を払いながら行った。３日より本格的に作業員を投入し、表土掘削と並行して調査区壁面及び遺構の精査を行った。北区の表土掘削を 16 日に終了し、18 日には調査区壁面にて層序の確認を行った。

重機表土掘削風景

遺構調査風景

北区壁面層序の記録は、デジタル一眼レフカメラでの撮影と、状況に応じてコンパクトデジタルカメラでのマクロ撮影を行った。図面は、手取りでの作図を予定していたが、法面高（現地表面から開渠底面）が最大 3.2 ｍで作業の安全が確保できないことと、南区の調査に伴い北区の一部を排土置き場とするため短期間での作図が必要となったことから、調査区の北・西・南面を写真実測（測量）とした。ただし、法面高が低く作業の安全が確保できる東面は手取り実測とした。写真実測は、現地での写真撮影、測量、撮影写真の補正までを、みなみ測量に委託し、11 月１日に現地作業を行った。その後、補正された写真を現地で確認し、トレース作業は整理作業時に行った。

壁面写真測量風景

遺構精査は、壁面精査と並行して 10 月 15 日から開始した。調査区北東の 6・7D グリッドで水田区画を、北西 5C・D グリッドで北西－南東方向の杭列を検出した。23 日からは北東で検出した水田の調査を行い、25 日に終了した。25 日からは、遺構がうまく検出できなかった調査区南側と、杭列を検出した調査区北西側に計４本のサブトレンチを掘削した。その結果、調査区南側で複数の畦畔を検出した。また、杭列は杭頭の標高が高いもの（西杭列）と低いもの（中央杭列）の２列あることが想定された。

自然科学分析試料採取風景

11月5日に、調査区東側について南区の排土置き場とするため、部分的に県教委の終了確認を得た。調査区の西側では、複数枚の水田とそれに伴う畦畔が確認でき、上位のものから順に調査を進めた。15日には、プラント・オパール分析を行うため土壌のサンプリングを行った。現地での試料採取及びその後の分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。27日に、最下層（Ⅹｂ層）の水田耕作土から須恵器甕片が出土した。これにより、最も古い段階の水田は古代に遡る可能性がでてきた。水田の調査がおおむね終了した段階で、杭列の調査を本格的に開始した。西杭列は、畦畔との関連に注意して断面の記録を行った。中央杭列は、杭の数が多いことと調査期間との兼ね合いから一部を重機で掘削し、断面は必要最小限の記録に留めた。すべての調査は12月5日に終了し、その後、撤収作業へ移った。

南区の調査は、11月5日から北区の調査と並行して進めた。北区での調査を踏まえ、南区では上層（Ⅴ・Ⅵ層）の調査を行った。表土掘削を8日に終え、壁面の精査と記録及び遺構の精査を行った。大部分が後世の河川（Ⅳ層）で壊されていたが、西側でⅤａ層期と考えられる畦畔を検出した。また、Ⅴａ及びⅥｂ層の層境付近で近世の陶磁器片が出土し、上層は近世以降の水田と認定した。上層調査を14日に終え、その後2日間にわたって重機での間層除去を行った。19日からは壁面精査を行った。南区では、Ⅹ層をほとんど確認できず、Ⅸ層の畦畔（水田）を複数確認した。21日から遺構精査を行い、検出した畦畔及び水田の調査を行った。なお、南区では試掘調査（27-14T）で杭が出土しているが、これと関連する杭や遺構はみつからなかった。南区の調査は29日に終了し、30日に北区と合わせて県教委から終了の確認を得た。

C　調　査　体　制

1）試　掘　調　査

調査期間　　2014（平成26）年6月30日～7月1月
調査主体　　新潟県教育委員会（教育長　高井　盛雄）
　総　　括　　斎藤　靖則（文化行政課長）
　管　　理　　松本　美奈子（文化行政課　課長補佐）
　調査指導　　沢田　　敦（文化行政課　埋蔵文化財係長）
　調査担当　　佐藤　友子（文化行政課　専門調査員）
　調 査 員　　加藤　元康（文化行政課　文化財調査員）
調査期間　　2015（平成27）年9月15～18日、2016（平成28）年6月20～24・27日
調査主体　　新潟県教育委員会（2015年　教育長　高井　盛雄、2016年　教育長　池田　幸博）
　総　　括　　2015年 文化行政課長　斎藤　靖則、2016年 文化行政課長　午腸　明
　管　　理　　斉藤　　尚（文化行政課　課長補佐）
　調査指導　　滝沢　規朗（文化行政課　埋蔵文化財係長）
　調査担当　　石川　智紀（文化行政課　専門調査員）
　調 査 員　　牧野　耕作（文化行政課　文化財調査員）

2）本　調　査

調査期間　　2018（平成30）年10月1日～12月5日
調査主体　　新潟県教育委員会（教育長　池田　幸博）

調　　査　　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
　総　　括　　清野　一善（事務局長）
　管　　理　　松田　　祐（総務課長）
　庶　　務　　星野　美奈（総務課班長）
　調査総括　　沢田　　敦（調査課長）
　監　　理　　鈴木　俊成（調査課班長）
調査組織　　株式会社　大石組
　現場代理人　林　　茂夫（土木部工事課　工事係長）
　調査担当　　南波　　守（文化財事業部　発掘調査員）
　調 査 員　　松井　奈緒子（文化財事業部　発掘調査員）
　補 助 員　　榎本　好美　　遠藤　昌代（文化財事業部）

D　整理作業と整理体制

遺物の水洗は現地プレハブで本調査と並行して実施した。本格的な整理作業は工田遺跡現地調査終了後の 2018（平成 30）年 12 月 10 日から開始した。整理場は長岡市南町に所在する株式会社大石組文化財事業部南町別館で 2019（平成 31）年 3 月 31 日まで行った。整理体制は 2018 年度本調査と同じである。作業内容は遺構図面の修正や出土品洗浄の残りと注記、そして報告書掲載遺物の選定と実測の一部である。

報告書刊行に向けての整理は 2019（平成 31）年 4 月から引き続き株式会社大石組文化財事業部南町別館で行った。木製品を中心とする実測は 7 月にほぼ終了し、遺構修正も 7 月には終了した。その後、遺構・遺物のトレース作業を経て各種図版作成に移り、これに並行して観察表の作成や原稿の執筆を行った。編集作業は 12 月から本格化し、2019（令和元）年度末に報告書を印刷した。

1）整　理　体　制

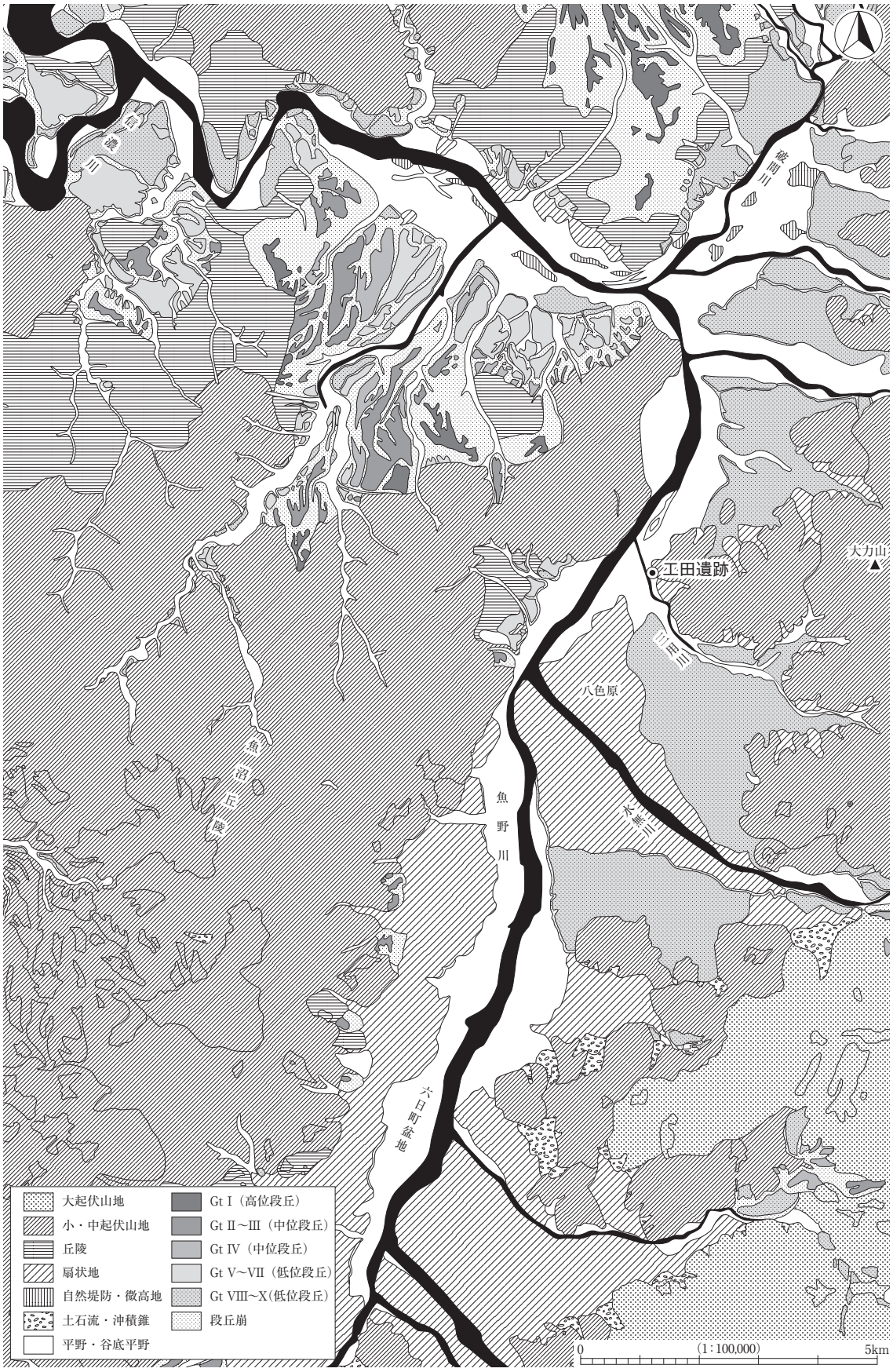
整理期間及び体制は丘江遺跡（第Ⅰ章）と同様である。

2　遺跡の位置と環境

記述にあたり、工田遺跡から南約 1.1km に位置する『町上遺跡』「第Ⅱ章遺跡の位置と環境」［相羽 2013］を一部改変して引用した。

A　地 理 的 環 境

遺跡の位置　工田遺跡は、魚沼市（旧北魚沼郡小出町）大浦地内に所在する。魚沼市は、新潟県南東部に位置し、全国でも有数の豪雪地帯として知られる。現在の市域は、2004 年 11 月 1 日に北魚沼郡に属していた堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村が合併して形成された。市の北を三条市、北西を長岡市、小千谷市、西を十日町市、東を福島県南会津郡只見町、同檜枝岐村、南を南魚沼市、群馬県利根郡みなかみ町、同片品村と隣接する。市内は魚野川が貫流し、これに破間川を始めとする中小の河川が合流する。また、魚野川と並行する旧三国街道（現国道 17 号）と、清水街道（現国道 291 号）や銀山街道（現国道 352 号）の分岐点となるなど、水陸交通の要衝である［渡辺 1986］。

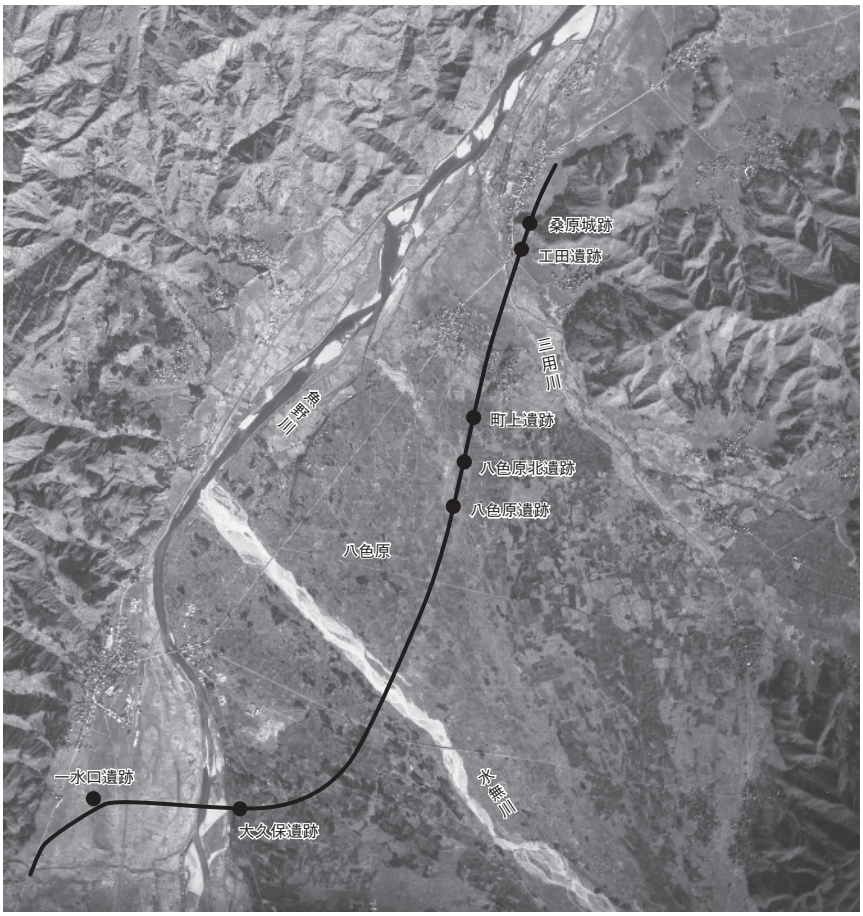


第 27 図　魚沼周辺の地形

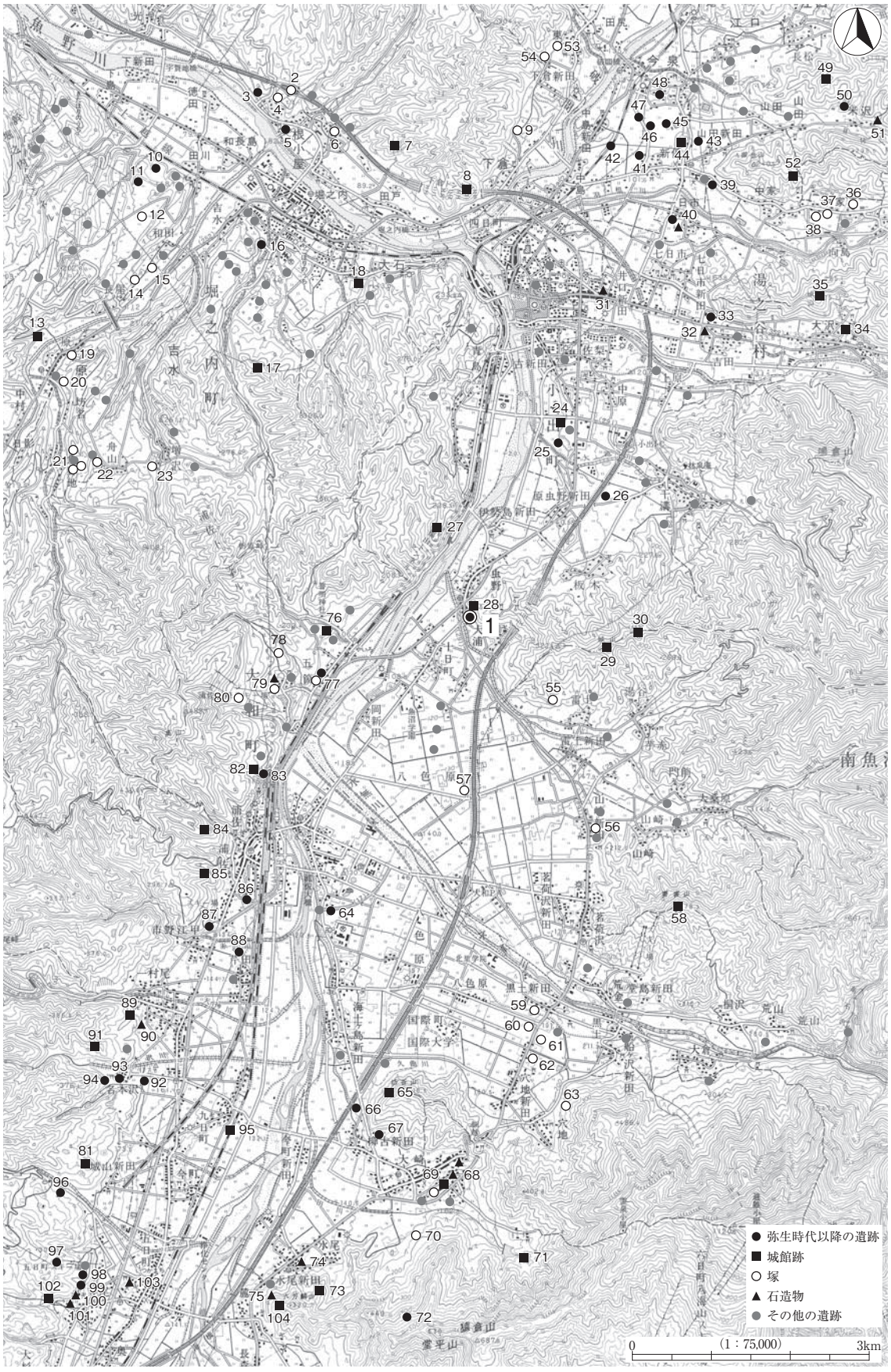
（[鈴木郁夫ほか 1976]『土地分類基本調査 小千谷』 新潟県、[鈴木郁夫ほか 1977]『土地分類基本調査 十日町』 新潟県 に加筆）

遺跡周辺の地勢　遺跡が立地する六日町盆地（魚沼盆地）は、越後山脈と魚沼丘陵に挟まれた南北約45km、東西約５km の盆地で、北部の旧小出町側と南部の旧六日町側の２つの底部を持つ［荒川 1997］。六日町盆地の長軸に沿って魚野川が北流し、東から水無川・三国川・登川といった河川が流入し、それぞれ広大な扇状地を形成している。対して、西からは中小の河川が小規模な扇状地を形成して魚野川に合流している［富永 1996］。遺跡は、越後三山と呼ばれる駒ヶ岳（標高 2,002.7 m）、中ノ岳（標高 2,085.2 m）、八海山（1,778 m）から発する急峻な水無川下流域に形成された扇状地（通称「八色原」）の北端に位置する。八色原は標高約 110 ～ 180 mで、総面積は 3,716ha である。地質的には本来洪積層であるが、水無川の度重なる氾濫により運ばれた砂礫が厚く堆積している。そのため、水無川の上流域では水量が豊富であるが、下流域の砂礫地帯に入ると漏減し、平時では乏水地となる。八色原の東側にある越後山脈は、標高1,500m から 2,000m 級の急峻な山地が連なるのに対し、西側は標高 700m 以下で、小出近辺では 400m 未満の低く平らな魚沼丘陵が広がっている。この八色原を有する六日町盆地と西側の魚沼丘陵との境はほぼ直線的となるが、これは、魚野川に沿って南南西－北北東方向に伸びる新発田－小出構造線の影響によるものである［富永 1996］。

遺跡周辺の地形　工田遺跡は、六日町盆地北部に広がる八色原の北端、魚野川支流の三用川右岸の氾濫原に位置する。三用川は、遺跡の東側に位置する笠倉山に源を発し、笠倉山から大力山を経て西方に突出した城山の丘陵裾に沿って西流し、魚沼市虫野で魚野川に合流する。遺跡周辺は、丘陵から三用川に向けて緩やかに傾斜している。



第 28 図　遺跡周辺の地形（一般社団法人日本地図センター発行　1947（昭和 22）年 11 月 4 日　米軍撮影）



第 29 図　周辺の遺跡位置図

（国土地理院発行 平成 6 年「小千谷」、平成 19 年「須原」「八海山」、平成 20 年「十日町」 1 ：50,000 原図を縮小して加筆）

No	遺跡名	種別	時代	No	遺跡名	種別	時代	No	遺跡名	種別	時代
1	工田	生産跡	中世～江	40	一日市・一日市五輪塔	集落跡・石塔	平・中世	79	岩ノ下宝篋印塔・経塚	石造物・塚	不明
2	清水上	塚	縄、塚（不明）	41	新保家の浦	遺物包含地	縄・古代	80	所平塚	塚	不明
3	古林1～6号墳	古墳	古墳	42	覚屋	遺物包含地	古代	81	櫛山城跡	城館跡	南～戦
4	行人塚	塚	不明	43	板屋敷	散布地	中世	82	下山城跡	城館跡	中世
5	股倉神社古銭出土地	古銭出土地	室	44	館の内館跡	城館跡	室～安	83	下山1～3号墳	古墳	古墳
6	滝沢の塚	塚	不明	45	田代	遺物包含地	平	84	浦佐城跡	城館跡	室～戦
7	根小屋城跡	城館跡	室	46	石曽根	散布地	縄・平	85	上山城跡	城館跡	室～戦
8	下倉山城跡	城館跡	室	47	馬作り	散布地	平	86	一水口	遺物包含地	弥
9	下の原塚	塚	不明	48	佐藤田	散布地	平	87	上山古墳	古墳？	古墳
10	むじな平	遺物包含地	不明	49	琴平山城跡	城館跡	室～安？	88	根島	遺物包含地	平
11	飯盛山B	遺物包含地	中世	50	川久保	遺物包含地	室～戦？	89	一村尾館跡	城館跡	中世
12	稚児塚	塚	不明	51	米沢五輪塔	石塔	鎌～室？	90	庚の板碑	板碑	鎌・室
13	原城跡	城館跡	戦	52	中家城跡	城館跡	室～安	91	ゴッツオシの砦跡	城館跡	中世
14	長屋居平塚群	塚	不明	53	東中塚群	塚	不明	92	前原	遺物包含地	奈・平
15	和田原の塚	塚	不明	54	柄沢１・2号塚	塚	不明	93	水上	集落跡・塚	縄、中世
16	瑠璃光寺	遺物包含地	中世	55	京平塚	塚	不明	94	名木沢古墳	古墳	古墳
17	堀之内城跡	城館跡	室	56	大塚	塚	不明	95	御館	城館跡	南～室
18	大石館跡	城館跡	中世	57	浄源塚	塚	江	96	西蓮寺跡	社寺跡	南
19	原・居平	遺物包含地	縄、平	58	桐沢城跡	城館跡	室～戦	97	天池	遺物包含地	平
20	倉下	塚	縄、塚（不明）	59	神明ノ木1・2号行塚	塚	南	98	六日町北原	遺物包含地	平
21	頭無1～4号塚	塚	不明	60	三ッ塚（穴地１～3 号塚）	塚	南	99	林京	遺物包含地	平
22	谷内1・2号塚	塚	不明	61	上八色塚	塚	南	100	阿弥陀堂板碑	板碑	南
23	増沢の塚	塚	不明	62	宮ノ浦１・2号塚	塚	南	101	寺尾観音堂板碑	板碑	南？
24	佐梨長者原館跡	城館跡	戦	63	向ノ上1～8号塚	塚	南・室	102	黒沢台屋敷跡	城館跡	中世
25	和伍	遺物包含地	平	64	大久保	遺物包含地・古墳	縄・古墳	103	宝蔵寺板碑	板碑	室
26	三本木	遺物包含地	鎌・室	65	大崎城跡	城館跡	南	104	六万騎城跡	城館跡	中世
27	鍬形城跡	城館跡	戦	66	七久保	遺物包含地	縄・平				
28	桑原城跡	城館跡	室	67	寺見堂	遺物包含地	平				
29	板木城跡（雷土城跡）	城館跡	室～戦	68	大崎院板碑	石造物	南				
30	湯ケ谷城跡	城館跡	室～戦	69	権現塚・滝谷寺板碑・大崎館跡	塚・板碑・城館跡	南・室				
31	井口新田の五輪塔	石塔	江	70	百人塚1～4号塚	塚	南				
32	吉田の五輪塔	石塔	江	71	御館城跡	城館跡	南				
33	吉田B	遺物包含地	不明	72	堂平	社寺跡	鎌・南				
34	大沢館跡	城館跡	不明	73	苗場山城跡	城館跡	室～戦				
35	鉢巻山城跡	城館跡	室？	74	道光寺石仏	石仏	南～室				
36	大塚	塚	鎌～室	75	水尾摩崖仏	摩崖仏	不明				
37	経塚１・2号（西塚・東塚）	塚	不明、室	76	境川城跡	城館跡	中世				
38	三つ塚	塚	室	77	カジヤ原	遺物包含地	縄・塚（江）				
39	吉田川原	遺物包含地	平	78	岩ノ下塚	塚	不明				

	縄：縄文時代
	弥：弥生時代
	古墳：古墳時代
古代	奈：奈良時代
	平：平安時代
中世	鎌：鎌倉時代
	室：室町時代
	南：南北朝時代
	戦：戦国時代
	江：江戸時代
	不明：時期不明

第 10 表　周辺の遺跡一覧

B　歴史的環境

魚沼市・南魚沼市は、魚野川とその支流が形成する河岸段丘や大小の扇状地が発達し、そこに多くの遺跡が立地している。古くは旧石器時代から生活の痕跡が認められ、以降現代に至るまで人々の生活が連綿と営まれている地域である。ここでは、工田遺跡が帰属する中世の遺跡を中心に概観する。

工田遺跡が所在する魚沼市大浦は、古代においては『倭名類聚抄』にある伊乎乃郡（魚沼郡）四郷（賀祢・那珂・刺上・千屋）のうち刺上郷にあたるとされる［阿部ほか1986；滝沢 1996］。その後中世に入ると刺上郷は藪神荘となる。その荘域は現在の小千谷市の一部、長岡市の一部、魚沼市、南魚沼市の一部にあたり、北に浅原荘、西に妻有荘、南に上田荘が位置していた。また藪神荘には吉谷郷・上川郷・宇賀地郷・広瀬郷・赤石郷・大巻郷等があり、遺跡が立地する大浦地域は赤石郷に属していたとされる［穴沢 1977］。

工田遺跡周辺の集落遺跡はあまり知られていないが、魚野川沿いの低位段丘及び扇状地を見下ろす高台には城館が数多く築かれる。また、板碑などの石造物や塚、寺院などの信仰遺跡が堀之内地区、広神地区、浦佐（うらさ）地区、五日町（いつかまち）地区、八色原南東部に集中する。水田遺跡は、工田遺跡から南に約 15km にある余川中道（よかわなかみち）遺跡で、古墳時代及び古代の水田がみつかっているに留まる。工田遺跡周辺における中世の水田遺跡は、今回の調査が初例となる。

城館跡のうち、発掘調査が行われたものとして県指定史跡の下倉山城跡（8）がある。捨曲輪の一部が調査されたほか、中世後期～近世の土壙墓、中世後期から近世初頭の塚及び土塁状遺構が検出された［藤巻ほか1985］。苗場山城跡（73）でも調査が行われ、空濠が検出されている［佐藤ほか1985］。御館遺跡（95）は、中世居館で掘立柱建物や水路、井戸などの遺構と、青磁、青花、珠洲焼、漆器などが出土している［池田1992］。このほか、発掘調査は行われていないが、工田遺跡北東の丘陵上には板木城跡（雷土城跡）（29）や湯ヶ谷城跡（30）、雷土城の支城とされる桑原城（虫野城）（28）などが位置している。

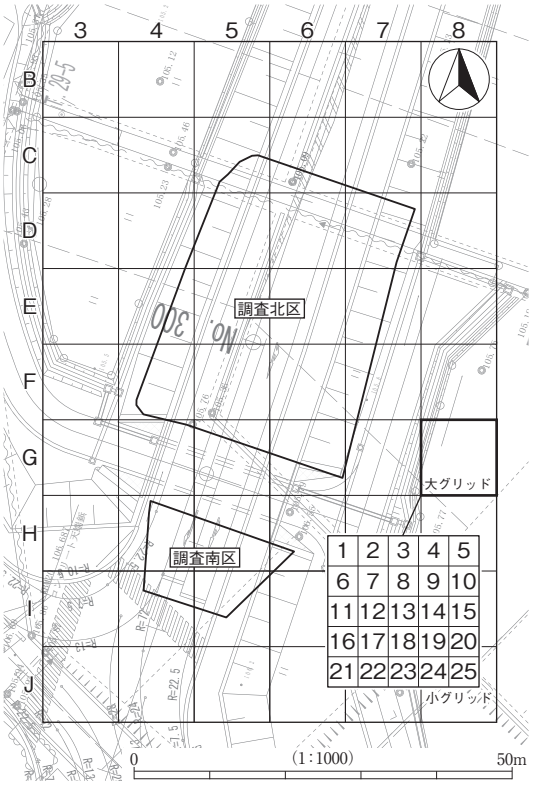
一日市遺跡（40）では、土壙墓群とそれを区画する溝が検出されている。土壙墓群は、北宋銭の出土から中世以降の築造とされ、一部は近世まで下るものを含む。区画溝からは瀬戸美濃焼や白磁などが出土し、14～15世紀に帰属するとされる［高木2009］。水上遺跡（93）では掘立柱建物や井戸、火葬土坑が検出された。一部は近世に下る可能性があるが、14世紀代の珠洲焼や北宋銭などから大部分は中世に帰属するとされる［池田・細矢ほか1990］。

塚は、清水上遺跡（2）［鈴木ほか1996］、居平1号塚（19）［池田ほか1981］、七ッ塚［佐藤ほか1995］、滝沢の塚（6）［佐藤ほか1985］・京平塚（55）［細矢ほか1985］などで発掘調査が行われているが、遺物が出土せず内部施設も持たないことから詳細な時期は不明である。このほかに、周辺地域には塚が多く存在するがいずれも時期は不明であり、中には近世以降に下るものも含まれると考えられる。

3　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

工田遺跡のグリッドは、真北を基準として設定した。そのため、バイパスの法線とは軸線が異なる。グリッドは、大小の2種を用いた。大グリッドは、東西・南北10ｍ四方とし、東西方向に算用数字、南北方向にアルファベットを用いて、北西隅にある基準線の交点を出発点とし、「1A、1B、1C、1D…」と呼称した。小グリッドは、大グリッドを2ｍ四方で25分割し、北西隅を起点に南西方向へ「1、2、3、4、5…25」と算用数字で表した。グリッド名は、大グリッドと小グリッドを組み合わせて「6G10」などと表記した。ちなみに、1A杭の座標値（測地成果2011）は、X＝132730.0000、Y＝40040.0000、調査区内にある6E杭の座標値は、X＝132690.0000、Y＝40090.0000である。



第30図　グリッド設定図（国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所 平成27年作成地図を使用）

B　層　　序（図版64～75）

工田遺跡の基本層序は、盛土など（0層）を除いてⅠ～Ⅻ層に分層したが、本来は基本層序とすべきではない水田耕作土が複数含まれている。

遺跡は、丘陵と三用川に挟まれた狭小な土地に位置する。このためか、調査範囲の中での高低差が顕著で、地点によっては後世の耕作や洪水などで削平を受けて確認できない層もある。遺物の出土状況から、自然堆積層であるⅦ層を境に上層（近世以降）と下層（中世）に分けた。

上層（Ⅵｂ層上面）の標高は、南区で 105.132 ～ 105.047 m、北区で 104.793 ～ 104.402 mを測る。下層（Ⅹｂ層上面）の標高は、南区では確認できず、北区で 104.189 ～ 103.938 mを測る。未調査範囲である北区と南区の間が高く、そこから南北方向へ緩やかに傾斜する。往時は、緩傾斜地に緩やかな高低差を持つ水田を構築したものと推測できる。

以下、各層の特徴について記す。また、各層の確認範囲を第 11 表にまとめた。

Ⅰ層　黄灰色シルトで、色調や混入物によりａ・ｂに細分した。工事盛土の影響で部分的にしか確認できない。現在の水田耕作影響土（床土）と考えられる。

Ⅰａ層　黄灰色（2.5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、最大径 50mm の砂礫を含む。

Ⅰｂ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、最大径 30mm の砂礫を含む。

Ⅱ層　黄褐色（2.5Y5/6）砂　粘性・しまりなし。最大径１mm ほどの砂粒。

Ⅲ層　黄灰色シルトで、近世～現代の水田耕作土と考えられる。撹拌の度合いが強く、均質な土質である。色調や混入物でａ～ｄに細分した。

Ⅲａ層　黄灰色（2. 5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、最大径 5mm の炭化物、最大径 10mm の砂礫を含む。Ⅲｂ層との層界はやや乱れる。南区東壁で、近世以降のものと考えられる磁器片が出土した。

Ⅲｂ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、最大径 3mm の炭化物、最大径７mm の砂礫をそれぞれ少量、最大径 10mm の白色ブロックを中量含む。白色ブロックはシルト質で、由来となる土層は確認できない。Ⅲｃ層との層界はやや乱れる。

Ⅲｃ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄を多量、最大径 10mm の砂礫、腐植物をそれぞれ少量含む。砂礫は地点によって多かったり少なかったりするが、Ⅳ層が直下になる場合は特に多い。また、直下がⅤａ層となる地点では層界の乱れが強い。

Ⅲｄ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄を少量含む。Ⅲｃ層とほぼ同様の

層番号	確認範囲
0a	調査区全域
0b	南区
Ⅰa	南区北・東・南壁
Ⅰb	北区南壁及び南区東・南壁
Ⅱ	北区南壁
Ⅲa	北区南・南西・西壁及び南区
Ⅲb	北区南西側及び南区
Ⅲc	調査区ほぼ全域
Ⅲd	北区北西側及び南区
Ⅳ	北区東・南壁及び南区
Ⅴa	調査区ほぼ全域
Ⅴb	北区北・東・南壁中心
Ⅵa	北区北壁・中央ベルトの一部
Ⅵb	調査区ほぼ全域
Ⅵc	北区南西側を除くほぼ全域及び南区東側
Ⅵd	北区北東側の一部
Ⅶ	北区西・南壁及び南区
Ⅷa	北区西壁
Ⅷb	北区北・西壁の一部
Ⅸa	北区西側及び南区
Ⅸb	北区西側及び南区
Ⅹa	北区西側及び南区の一部
Ⅹb	北区西側
Ⅹc	北区北東側
Ⅹd	北区北東側
Ⅹe	北区西側
Ⅺa	北区北東側
Ⅺb	北区北東側
Ⅺc	調査区ほぼ全域
Ⅻa	調査区ほぼ全域
Ⅻb	北区西側
Ⅻc	北区西側
ⅩⅢa	調査区全域
ⅩⅢb	（北区・杭トレンチ）
ⅩⅣa	調査区ほぼ全域（南区は試掘トレンチで確認）
ⅩⅣb	（北区・杭トレンチ）
ⅩⅤ	（北区・杭トレンチ）

第 11 表　層別確認範囲

土層だが、砂礫（Ⅳ層由来）の混じりが多い。

Ⅳ層　オリーブ灰色（5GY6/1）砂　粘性・しまりなし。地点によって暗灰黄色（2.5Y4/2）のシルト層を介在する。南区では河川状に落ち込み、拳大の礫を多量に含む。北区では、南壁で河川状に落ち込む様子が確認できるが、そのほかは東壁でやや厚く堆積するに留まる。河川状の落ち込み部では、南区南壁で最も標高が低く、調査区北側の丘陵から三用川に向けて流れた河川跡と考えられる。Ⅳ層からは、近世以降と考えられる陶磁器片が出土した。

Ⅴ層　腐植物を多く含む層で、撹拌の強いⅤａ層と、撹拌の弱い、もしくは撹拌を受けていないⅤｂ層に細分した。

Ⅴａ層　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性・しまりやや強。管状酸化鉄、最大径5mmの砂礫、腐植物を含む。南区のⅤａ層上面で、近世とみられる磁器片が出土したことから、当該期の水田耕作土と考えたい。直下のⅤｂ層を撹拌して耕作土としており、撹拌を受けていない部分が畦畔として確認できる。また、地点によっては畦畔の盛り上げが確認できる。

Ⅴｂ層　灰色（2.5Y4/1）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物層が互層となって堆積する。また、地点によって砂礫層を介在する。上位で弱い撹拌を受けている場所が認められるが、これはⅤａ層（水田耕作）の影響によるものと考えられる。

Ⅵ層　自然堆積層であるⅤｂ層とⅦ層の間を一括した。混入物などでａ～ｄ層に細分した。

Ⅵａ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、砂礫をそれぞれ微量に含む。Ⅵｂ層とほぼ同様の層で、砂礫の含有量が比較的少ない。北区北側の一部でのみ確認できる。

Ⅵｂ層　黄灰色（2.5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄、最大径10mmの砂礫、撹拌された腐植物をそれぞれ少量含む。水田耕作土とみられるが、帰属時期は不明である。

Ⅵｃ層　Ⅵｂ層と同様の層で、混入する砂礫の径が大きく量も多い。

Ⅵｄ層　Ⅵｃ層と同様の層で、混入する砂礫の径がさらに大きい。Ⅵｃ及びⅥｄ層は、自然科学分析の結果では、水田耕作の可能性が低いとされる（第６節参照）。しかし、Ⅵｃ層では複数地点で畦畔様の高まりが確認できることから、造営期間や洪水などによる水田表層部の流失などを考慮する必要がある。

Ⅶ層　上位に拳大の礫を含む砂礫が堆積し、下位にはオリーブ灰色（5GY/1）砂と黄灰色（2.5Y4/1）粘質土が互層となる。

Ⅷ層　灰色シルト層で、やや砂質が強い。水田耕作土と考えられ、色調や土質でⅧａ層とⅧｂ層に細分した。腐植物をブロック状に含むが、径が大きく撹拌の度合いは弱い。

Ⅷａ層　灰色（7.5Y5/1）シルト　粘性やや弱、しまりやや強。管状酸化鉄、最大径５mmの砂礫をそれぞれ中量含む。下位のⅧｂ層やⅨａ層との層界はやや乱れる。

Ⅷｂ層　灰色（5Y5/1）砂質土　粘性弱、しまりやや強。管状酸化鉄、腐植物をそれぞれ少量含む。Ⅸａ層との層界はやや乱れ、腐植物をブロック状に巻き込む。

Ⅸ層　元は、暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と黒～暗褐色（10YR2/1～3/3）腐植物が互層となって堆積した層で、これが撹拌されて水田耕作土となっている。色調や混入物でⅨａ層とⅨｂ層に細分した。

Ⅸａ層　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　粘性やや弱、しまり強。管状酸化鉄、腐植物をそれぞれ中量、ブロック状の灰黄色（2.5Y7/2）砂、最大径５mmの砂礫を多量に含む。Ⅸｂ層との層界の乱

れが顕著である。

Ⅸｂ層　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性・しまりやや強。管状・糸根状酸化鉄を中量、腐植物を多量、最大径10mmの砂礫を少量含む。下位の層界との乱れはやや顕著である。撹拌を受けず、互層堆積が明瞭に残るか所や、撹拌の度合いが少ない部分を擬似畦畔Ｂ（後述する）として認識できる。

Ｘ層　Ⅸ層とⅪ層間を一括した。確認できる最も古い段階の水田耕作土である。色調や混入物でａ～ｅに細分した。南区では、ほとんどが上位層で削平され、Ⅸ層畦畔下にわずかに確認できる程度である。

Ｘａ層　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまり強。管状酸化鉄を多量、最大径５mmの白色ブロックを少量、最大径30mmの砂礫を中量含む。Ⅸｂ層の削平を受けていて、畦畔の検出が困難であるが、Ⅸｂ層の畦畔と同位置で畦畔と考えられる盛土が確認できた。Ⅸｂ層とは自然堆積層を間に挟むが、比較的短期間のうちに連続した水田耕作が行われた可能性がある。

Ｘｂ層　灰色（5Y4/1）シルト　粘性・しまりやや強。管状酸化鉄を中量、最大径20mmの砂礫を少量、最大径10mmの白色ブロックを多量に含む。白色ブロックはやや粘性の強いシルト質で、地点によって混じる量にばらつきがある。北区では杭列（西杭列）を伴う畦畔が検出され、畦畔部分は砂礫を多量に含み、酸化の度合が強い。

Ｘｃ層　灰色（7.5Y5/1）砂質土　粘性弱、しまりやや弱。酸化鉄を少量、ブロック状の腐植物、最大径20mmの砂礫をそれぞれ中量含む。水田１の耕作土で、腐植物はＸｄ層の巻き込みである。

Ｘｄ層　暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　粘性やや強、しまりやや弱。酸化鉄を少量、ブロック状の腐植物を多量、最大径10mmの砂礫を少量含む。水田２の耕作土。

Ｘｅ層　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまり強。酸化鉄を中量、ブロック状の腐植物や白色シルトを中量、最大径10mmの砂礫を多量に含む。Ｘｂ層に似るが、腐植物や白色ブロックの混じりが多い。確認できた水田耕作土で最も古い段階にあたる。

Ⅺ層　砂礫を主体とする自然堆積層を一括。砂礫の粒径や土質によってａ～ｃに細分した。当初は、Ⅺ層以下はすべて自然堆積層で、これより下位に人為痕跡はないものと考えていた。しかし、中央杭列の杭頭がⅪ層中から検出され、Ⅺ層よりも下位で人為痕跡の可能性が生じた。だが、杭の断面観察からは積極的に人為痕跡といえる層が確認できず、杭列に伴っていたと考えられる痕跡はすべてⅪ層によって削平され（流され）たものと判断した。そのため、杭列がどのように機能していたかも不明である。なお、北区南側のⅪｃ層上面から土師質土器及び土師器が出土した。

Ⅺａ層　最大で人頭大ほどの礫を含む砂礫層。北区北側で、北西－南東方向で検出した。Ｘ層の一部は、Ⅺａ層の上位を撹拌する形で水田耕作を行っている。

Ⅺｂ層　オリーブ灰色（5GY/1）砂と黄灰色（2.5Y4/1）粘質土が互層となって堆積する。Ⅺｃ層の上位に堆積することが多いが、地点によってはⅪｃ層中や、Ⅺｃ層の下位に堆積する。

Ⅺｃ層　最大で拳大ほどの礫を含む砂礫層。地点によってⅪｂ層が介在する。

Ⅻ層　Ⅺ層とⅫ層の間の、砂やシルトを主体とする層を一括。土質や植物遺体の量でａ～ｃに細分した。当初は単一の層として捉えていたため、調査区壁面では細分できていない。

XⅡa層　灰色（5Y4/1）シルト　粘性・しまりやや強。地点によって、上位では腐植物が、下位では砂粒が互層となって堆積する。炭化した植物遺体を少量含む。

XⅡb層　灰色（5Y4/1）シルト　粘性・しまりやや弱。砂粒の混じりが多く、全体的に砂気が強い。炭化した植物遺体を中量含む。

XⅡc層　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまりやや弱。炭化した植物遺体を多量に含む。

XⅢ層　XⅡ層とXⅣ層の間の、砂礫を主体とする層を一括。最大で拳大の礫を含むXⅢa層と、比較的細かな粒径のXⅢb層に細分できるが、XⅢa層中にXⅢb層が介在する地点もあり、大枠では同一層といえる。

XⅣ層　褐灰～灰黄褐色（10YR4/1～4/2）粘質土と黒～暗褐色（10YR2/1～3/3）腐植物が互層となって堆積する。上位ほど色調が濃い。中位～下位に、最大径10mmほどの砂礫層を挟み、これをXⅣb層とした。

XⅤ層　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。炭化した植物遺体を少量含む。また、地点によって砂粒が互層となって堆積する。

4　遺　　構

A　遺構の概要

北区と南区は、上層及び下層とも調査区全域が水田耕作域と考えられ、検出した遺構のうち性格不明遺構以外はすべて水田耕作に関連するものと考えられる。平面で検出した遺構は、上層では畦畔２条、下層では水田５、畦畔15条、溝５条、杭列３条、性格不明遺構２基である。また、畦畔については調査区壁面や土層観察用ベルトで断面のみを確認したものもある。

B　記述の方針

記述の方針は第Ⅰ章第４節に倣うが、原則として検出したすべての遺構について記述を行う。記述は、水田耕作域であることと、検出した遺構の種別・数が少ないことなどから遺構種別順では行わず、北区と南区で分け、検出層の新しい順（上層→下層）に記述した。遺存状況の悪いⅣ層より上位については、記述は行なわないこととした。また、適宜自然科学分析結果を引用して記述するが、詳細は第Ⅱ章第６節を参照されたい。

遺構番号

遺構名称は、遺構の種別略号と番号で表記したが、水田、畦畔、杭列については略号を用いず、単に「水田１」、「北区畦畔５」、「西杭列」などとした。使用した略号は、溝「SD」、性格不明遺構「SX」である。番号は畦畔、杭列を除いて遺構種別を問わず通し番号とし、北・南区で共通とした。畦畔については、整理段階で認定したものもあり、北区と南区で個別に番号を付した。

図　　版

図面図版は、全体図・分割図・個別図で構成している。全体図は1/300で、上・下層を合わせて表した。分割図のうち平面図は1/100で、上層を１枚、下層は３分割して表した。分割図のうち調査区壁面やトレンチなどの断面図は1/40で表した。個別図は平面図・断面図で構成し、1/40で表した。断面図の土層色調は、『新版標準土色帖』［農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所2014］に

基づいた。写真図版は、個別図にある遺構に加えて、畦畔部分の断面や、各層のマクロ写真を掲載した。

観　察　表

観察表の項目は、第Ⅰ章第４節に倣った。

C　分　　類

遺構の平面形態・断面形態は、第Ⅰ章第４節の第 11・12 図のとおり分類した。

水田・畦畔

平面上で一定の掘り込みや撹拌の範囲を持つもの及び畦畔によって区画されている部分を水田とした。連続した水田耕作により、古い水田区画（畦畔）が壊されている部分が多く、全体像をうかがえる水田区画は検出できていない。畦畔については、平面及び断面の観察から、水田耕作土との相違（土質や混入物）や、畦畔の上下で認められる擬似畦畔の有無などで認定した。記述にあたっては、先述のとおり連続した水田耕作による影響により断面確認のみに留まるものが多く、全体像を把握できるものが少ないことから、形態などによる分類は行わず個別に状況や土質を述べるに留めた。擬似畦畔の認識や名称については、［斎野ほか 1987］を参考とした。斎野による擬似畦畔の説明は以下のとおりである（第 31 図）。

「この模式図ではC_1層が水田土壌であり、C_1層上面において水田耕作が行なわれており他層は自然堆積層である。またC_1層はC層最上部が水田土壌化された層であり、C_2層は水田土壌化されなかったC層である。この場合B層上面の高まりを擬似畦畔A、C_2層上面の高まりを擬似畦畔Bとする。

擬似畦畔A：C_1層水田の畦畔直上に認められる自然堆積層B層上面の畦畔上の高まりをいう。これはB層がC_1層を上面の起伏の影響を受けて堆積した結果形成されたものである。

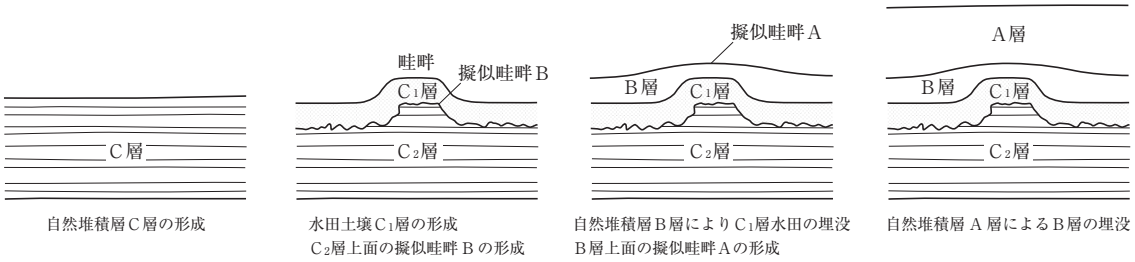
擬似畦畔B：C_1層水田の畦畔直下に認められるC_2層上面の畦畔上の高まりをいう。これはC_1層水田の耕作の影響をさほど受けない畦畔直下においてC_2層上面が畦畔状に残存したものである。この疑似畦畔Bについては、C_1層上面において畦畔が検出されなくともC_2層上面での擬似畦畔Bの検出によりC_1層水田の存在が想定される。

尚、擬似畦畔A・擬似畦畔Bは全ての畦畔に関して認められるものではない。」

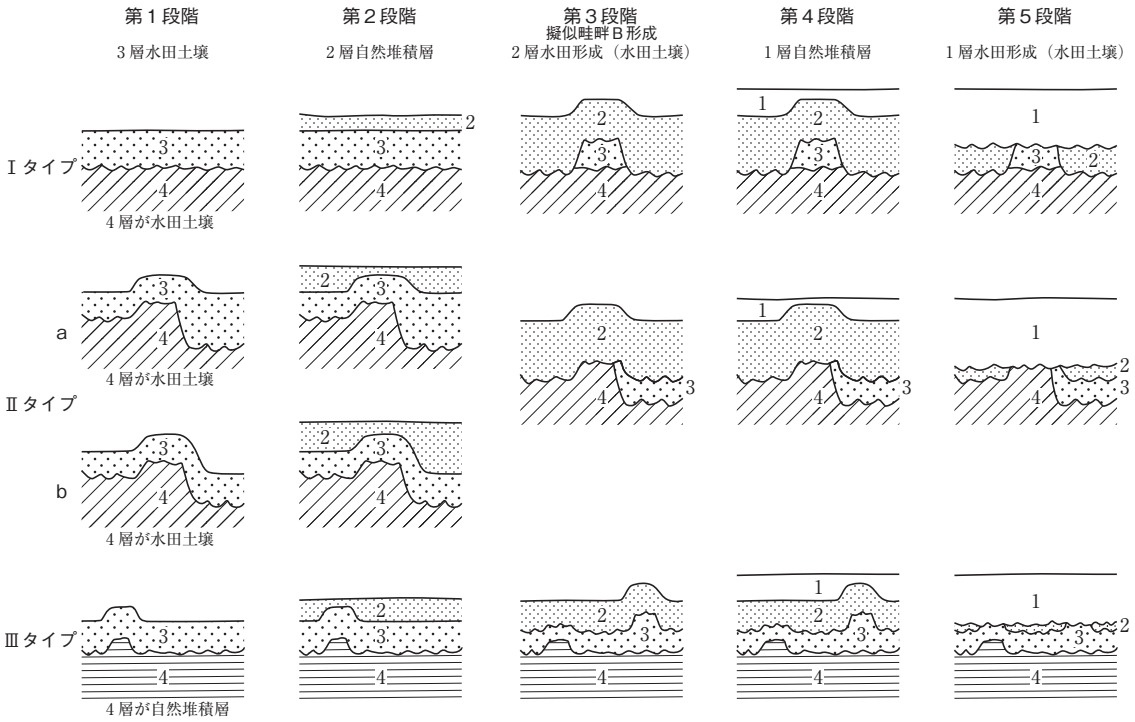
この、斎野の擬似畦畔Bについて佐藤は、「C_2層が自然堆積層であることを前提としている」としたが、「C_2層が自然堆積層ではなく水田土壌である場合、すなわち、水田耕作土の直下層も水田耕作土で、この直下層上面で検出された畦畔状の高まり」についても擬似畦畔Bとして判別が可能とし、次のようにタイプ分けをしている（第 32 図）。

「**Ⅰタイプ：中間の水田土壌が帯状にのみ存在するもの**

２層水田と３層水田との関係で、帯状に残された３層水田土壌が、２層段階の擬似畦畔Bとなる。場合によっては、帯状部分以外にも、薄く断片的に３層水田土壌が残る。２層水田の畦畔が残存する場合に



第 31 図　畦畔・擬似畦畔模式図（［斎野ほか 1987］を改変）



第 32 図　連続耕作にともなう擬似畦畔Ｂタイプ別模式図（［佐藤 1997］を改変）

は、当然、その直下に認められる。

Ⅱタイプ：検出畦畔が、直下層水田土壌との混在層のもの

２層水田と３・４層水田との関係で、３・４層の水田土壌によって形成された畦畔が、２層水田段階の擬似畦畔Ｂとなる。この擬似畦畔の特徴としては、畦畔を境として一方の区画が３層水田土壌、他方の区画が４層水田土壌となる。これは３層水田の耕作深度（第１段階ａ）あるいは、３層水田以前の地形勾配（第１段階ｂ）に起因すると考えられる。２層水田の畦畔が残存する場合には、当然、その直下に認められる。

Ⅲタイプ：複数の検出畦畔が区画を形成しないような位置関係にあり、その内、直下層（自然堆積層）に擬似畦畔Ｂが検出されないもの

２層水田と３層水田との関係で、４層上面に擬似畦畔Ｂが形成されない３層上面の畦畔が、２層水田跡段階の擬似畦畔Ｂとなる。この場合、本来の３層水田跡畦畔と区画を形成しない位置関係であることが、必要不可欠条件となる。」

佐藤は上記のように、擬似畦畔Ｂが自然堆積層のみならず、水田土壌上面にも形成されるとした。その上で、「Ⅰ～Ⅲの３タイプは、ほんの１例に過ぎない。その判別には、該当層の上下層の断面観察のみでは不十分で、それ以上の上下層にわたる断面観察はもとより、各層の成因、地形との関わり、平面的な位置関係、形成過程の把握等の各要素を絡めた総合的な見地の上に立ち、進めていかなければならない」としている［佐藤 1997］。

杭列

複数の杭が列をなして出土したものを杭列とした。北区で検出した３列の杭列のうち、西側に位置するものを「西杭列」、中央に位置するものを「中央杭列」、東側に位置するものを「東杭列」とし、個別に記述した。なお、南区の杭は１本のみの出土で、北区の杭列との関係性も判然としないことから、単独の杭

として記述した。

溝（SD）

細長く掘り込まれたものを溝としたが、すべて水田区画内、もしくは区画内と想定される位置で検出している。いずれも区画の端で畦畔に沿って位置することから、水路などではなく水田耕作に関わる痕跡と考えられる。

性格不明遺構（SX）

上記のいずれにも属さないものを性格不明遺構とした。

D　各　　説

1）北区の遺構（図版 60 ～ 62・64 ～ 72）

上層ではⅤａ、Ⅵｂ～ｄ層、下層ではⅧａ・ｂ、Ⅸａ・ｂ、Ⅹａ～ｅ層が水田耕作土と考えられる層である。このうち、Ⅴａ、Ⅵｂ～ｄ、Ⅷｂ、Ⅸａ・ｂ、Ⅹａ～ｅ層で、畦畔状の高まりもしくは擬似畦畔Ｂと考えられる部分が確認できた。

Ⅴａ層水田耕作土

自然堆積層であるⅤｂを撹拌し、耕作土としている。平面で検出できていないが、調査区壁面において畦畔状の高まり、もしくはⅤｂ層上面に擬似畦畔Ｂを確認した。Ⅴａ層上面の標高は、南から北、東から西へ向かって緩やかに傾斜しており、北区内では北西付近が最も低い。比高差は、南北方向が東壁で 27.0cm、西壁で 15.6cm、東西方向が北壁で 1.0cm、南壁で 10.4cm を測る。調査区東壁南寄りの 6G5 付近ではⅤａ層が認められない地点があり、水田耕作がおよばない何らかの区域があったものと想定できる。

Ⅵｂ層水田耕作土

Ⅴａ層同様、平面での検出はできておらず、調査区壁面で畦畔状の高まり、もしくはⅥｃ層上面に擬似畦畔Ｂを確認した。地点によって洪水や後世の水田耕作（Ⅴａ層）の影響を受けており、水田耕作面の遺存状態は良くない。調査区東壁中央の 7F2 付近では、シルト質土をベースとする畦畔の盛土中に、やや粘性の強いシルト層が層厚 1.5 ～ 4cm ほどで堆積している様子が認められた。Ⅵｂ層上面の標高は、南から北、西から東に向かって緩やかに傾斜していており、北区内では北東付近が最も低い。比高差は、南北方向が東壁で 26.8cm、西壁で 28.7cm、東西方向が北壁で 10.4cm、南壁で 12.3cm を測る。

Ⅵｃ層水田耕作土

平面での検出はできておらず、調査区壁面や土層観察用ベルトで畦畔状の高まり、もしくは直下層上面に擬似畦畔Ｂが確認できる。南壁の 6G から東側と西壁の 5D から南側では、Ⅵｂ層で削平され確認できない。自然科学分析の結果では、イネ属の植物珪酸体が産出が極めて少量で稲作の可能性は考えにくいとされているが、畦畔が認められることから水田耕作を行っていたものとみられる。植物珪酸体が少ない理由としては、水田耕作期間が極端に短かいことや、洪水や後世の水田耕作により水田表層部が流失したことによるものと捉えたい。Ⅵｃ層上面の標高は、南から北、西から東に向けて緩やかに傾斜しており、北区内では北東付近が最も低い。比高差は、南北方向が東壁で 31.4cm、東西方向が北壁で 9.2cm を測る。

Ⅵｄ層水田耕作土

平面での検出はできておらず、調査区壁面でのみ確認した。確認できる範囲は北東の一部に留まる。直下層のⅩｃ・ⅩⅢａ層上面に擬似畦畔Ｂが確認できるが、Ⅵｃ層同様に自然科学分析結果からは稲作の可能性が考えにくいとされている。

Ⅷａ・ｂ層水田耕作土

平面での検出はできておらず、調査区壁面の一部で確認した。確認できる範囲は西部の一部に留まる。Ⅷｂ層では 4E10・5D21 付近で、直下層のⅨａ層上面に擬似畦畔Ｂと考えた高まりを認めた。部分的ではあるが、Ⅷａ層上面の標高は南北でほとんど変化がみられず、Ⅷｂ層では北から南に向かって緩やかに傾斜する様子が認められ、他層とは傾斜方向が異なる。Ⅷｂ層の比高差は、南北方向が西壁で 9.9cm を測る。

Ⅸａ層水田耕作土

平面での検出はできておらず、調査区壁面や土層観察用ベルトで畦畔状の高まり、もしくはⅨｂ層上面に擬似畦畔Ｂを確認した。西壁を中心に確認でき、それよりも東側については部分的に残存するが、後世の水田耕作の影響などによりほとんど確認できなくなる。下位のⅨｂ層と同じ位置に畦畔が確認できることから、両者の間にはそれほど時期差がないものとみられる。Ⅸａ層上面の標高は、わずかに南から北へ向かって傾斜しており、比高差は南北方向が西壁で 6.1cm を測る。

Ⅸｂ層水田耕作土

平面での検出はできておらず、調査区壁面や土層観察用ベルトで畦畔状の高まり、もしくは直下層上面に擬似畦畔Ｂを確認した。Ⅸｂ層が確認できる範囲はⅨａ層とほとんど同じだが、やや広範囲で認められる。Ｘａ層の畦畔と同じ位置に畦畔が確認できる場合と、できない場合がある。また畦畔（擬似畦畔Ｂ）は、もとの粘質土と腐植物が互層のまま残っている部分や、撹拌を受けているもののその度合が弱く腐植物が大きなブロック状となっている部分が認められる。このような畦畔の土質の違いは、Ⅸｂ層の中で一定期間の連続した水田耕作が行われ、その中で畦畔の位置を造り替えた痕跡と考えられる。Ⅸｂ層上面の標高は、南東から北西に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が西壁で 11.7cm、東西方向が北壁で 26.5cm、南壁で 24.7cm を測る。

Ｘａ～ｅ層水田耕作土

平面で検出した遺構は、中央杭列を除いていずれもＸａ～ｅ層のものである。Ⅸ層と同様に西側を中心に確認でき、東側は後世の水田耕作の影響などにより判然としない。また、Ｘｃ～ｅ層についても部分的な確認に留まる。Ｘａ層上面の標高は、南から北に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が西壁で 15.1cm を測る。Ｘｂ層も同様で、比高差は 25.1cm を測る。以下では、遺構種別ごとに記述する。

水田１・２（図版 61・71・150）

6D、7D・E に位置する。検出面はⅪａ層である。水田１（Ｘｃ層）は上位の水田耕作によって、水田２（Ｘｄ層）は水田１の耕作によってそれぞれ切られており、平面で検出できたのは水田１の区画のみである。いずれも耕作面は残っておらず、本来は畦畔を伴った水田区画が存在した可能性が考えられる。北壁 7D3 では擬似畦畔Ｂが確認でき、仮に畦畔が水田１・２の長軸と直交する方向で延びていたと仮定すると、ちょうど水田区画を二分するような位置にあたる。現状は大きな水田区画と捉えているが、本来はもっと小さい区画の水田であった可能性がある。なお自然科学分析結果では、両者からはイネ属の植物珪酸体が産出するものの極めて少ないとされている。また、水田２は砂礫層のⅪａ層を掘り込んで造成されており、かなりの労力を伴ったものと推測できる。なお、遺物は出土していない。

水田５（図版 62・71・150・151）

4・5F に位置する。北区畦畔２～４で区画される。検出した区画はＸａ層段階のものであるが、畦畔の様子からＸｂ層段階の水田区画をそのまま利用したものと推測できる。南側は畦畔が検出できなかった

が、北区畦畔４の位置を考慮すれば、それほど大きな区画ではなかったものと推測できる。Ｘｂ層から板状木製品（７）が出土した。

水田７（図版 62・71・151）

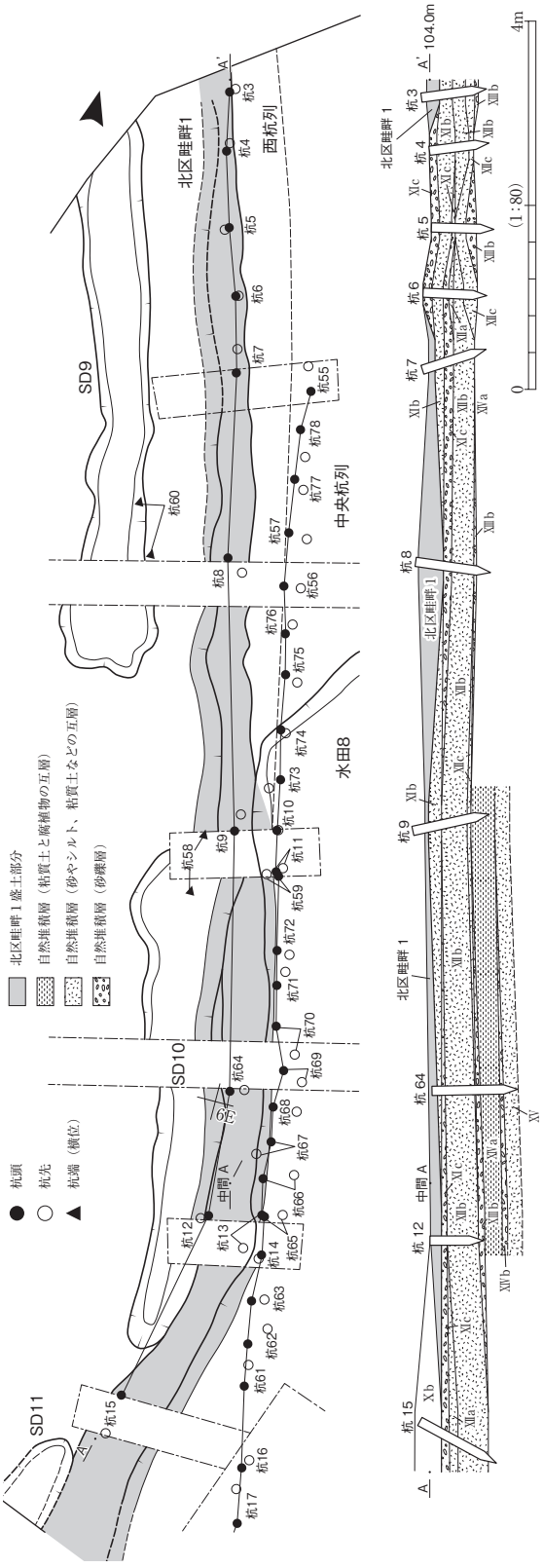
５・6E・Ｆに位置する。検出面はⅪｂ・ｃ層で、水田の一部を検出した。耕作面は残っていない。SD11 やＸｂ層の耕作土に切られる。5E20 で水口と考えられる幅 18cm ほどの溝と接続する。水田７の西側に畦畔を挟んで同時期の水田が存在したものと考えられるが、その痕跡は認められなかった。埋土は２層に分層し、レンズ状に堆積する。埋土はＸｂ層に似た土質で、白色シルトブロックや腐植物をより多く含む。１層から須恵器甕（３）が出土し、その直下から骨が出土した。骨は遺存状態が非常に悪く、種別の同定には至らなかった。本遺構は、周囲の堆積層から中世に帰属するものと考えられ、須恵器は混入したものと捉えた。

水田８（図版 61・70・151・152）

５・6D に位置する。検出面はⅪｂ・ｃ層で、Ｘｅ層が薄く堆積する範囲である。水田７同様、一部を検出したもので、耕作面は残っていない。西側は北区畦畔１で区画されていたものとみられる。遺物は出土していない。

北区畦畔１・西杭列（第 33 図、図版 61・72・146・151・152・153）

5C ～ E、6D・E に位置する。北西－南東方向に延び、6E1 付近で屈曲して南西方向に延びる。この畦畔に沿って西杭列を検出しており、両者は一連の遺構とみることができる。平面で確認できたのは 5E15 付近までで、そこから南西側は不明である。SD11 との関係を考えれば、少なくとも 5F3 付近までは続いていた可能性が高い。畦畔の盛り上げ土はＸｂ層を主体土に砂礫が多量に含まれる。Ｘａ層まで繰り返し使用されたものと考えられる。礫を多く含むことや杭列の存在などから、他の畦畔よりもしっかりと造り込んでいる印象を受ける。この畦畔を境に、東西で水田耕作面の標高が大きく変わっていることから、高低差を



第 33 図　西杭列断面模式図

有する水田を造営するために堅牢な畦畔としたものと推測できる。

西杭列は 10 本の打ち込み杭のほかに、横転して出土した材２本（杭 58・60）を含む。北西側はさらに調査区外へ続くものと考えられる。杭長は 59.0 ～ 95.7cm、平均 76.43cm を測る。杭頭の間隔は 64 ～ 296cm、平均 160cm を測り、北側の杭３～７と杭８以南で間隔が異なる。杭３～７は畦畔の中心軸からやや西側に寄った位置に密に打設される。杭頭の位置は畦畔の盛り上げ土中にあり、地上で機能（柵など）していたものとは考えにくい。杭３～７の東側には礫を中心とするⅪａ層が広がっていて、雨水などで簡単に流出、崩壊するような地盤である。畦畔の西側に広がるＸ層水田は、このⅪａ層の上面を造成し水田としている。また、畦畔はⅪａ層を覆うように盛り付けられていて、杭列は畦畔の補強を図り、流出や崩落を防いだものと考えられる。なお、杭列に伴う横木や粗朶、植物繊維束などの存在は確認できず、畦畔の断面観察でもそれらを示す堆積状況は認められない。横木などを畦畔の盛り付け時に使用するが、その後取り外された可能性も考えられる。そうして、取り外された横木の名残が杭 58・60 とも考えられるが判然としない。

一方、杭８以南は杭３～７に比べて間隔が広く、用途が異なっていた可能性がある。畦畔の中心軸からやや西側に打設されているのは共通するが、杭 15 のように畦畔から外れた耕作土中に打設されているものもある。この付近は礫を中心とするⅪａ層はなく、杭３～７のように畦畔の補強という目的とは考えにくい。畦畔に沿って位置すること、杭頭標高が高いものがあることなどを勘案すると、杭８以南は水田を造成する際に打設された畦畔や水田の位置を決めるための杭としての用途も想定できよう。

北区畦畔２（図版 62・71・150・151）

5F に位置する。平面形はＬ字状で、北区畦畔３を切り、SX3 に切られる。北東－南西方向に延びる部分はⅫａ層、北西－南東方向に延びる部分はＸｂ層が擬似畦畔Ｂとして残り、本来の畦畔部分は残っていない。水田５を区画する畦畔の一部で、Ｘｂ層段階から機能していたものと考えられる。

北区畦畔３（図版 62・150）

5F に位置する。東西方向に直線状に延び、東側は北区畦畔２に切られる。Ｘｂ層の畦畔で、水田５を区画するものである。Ｘａ層の擬似畦畔Ｂとしての可能性も考えられるが判然としない。

北区畦畔４（図版 62・71・150・151）

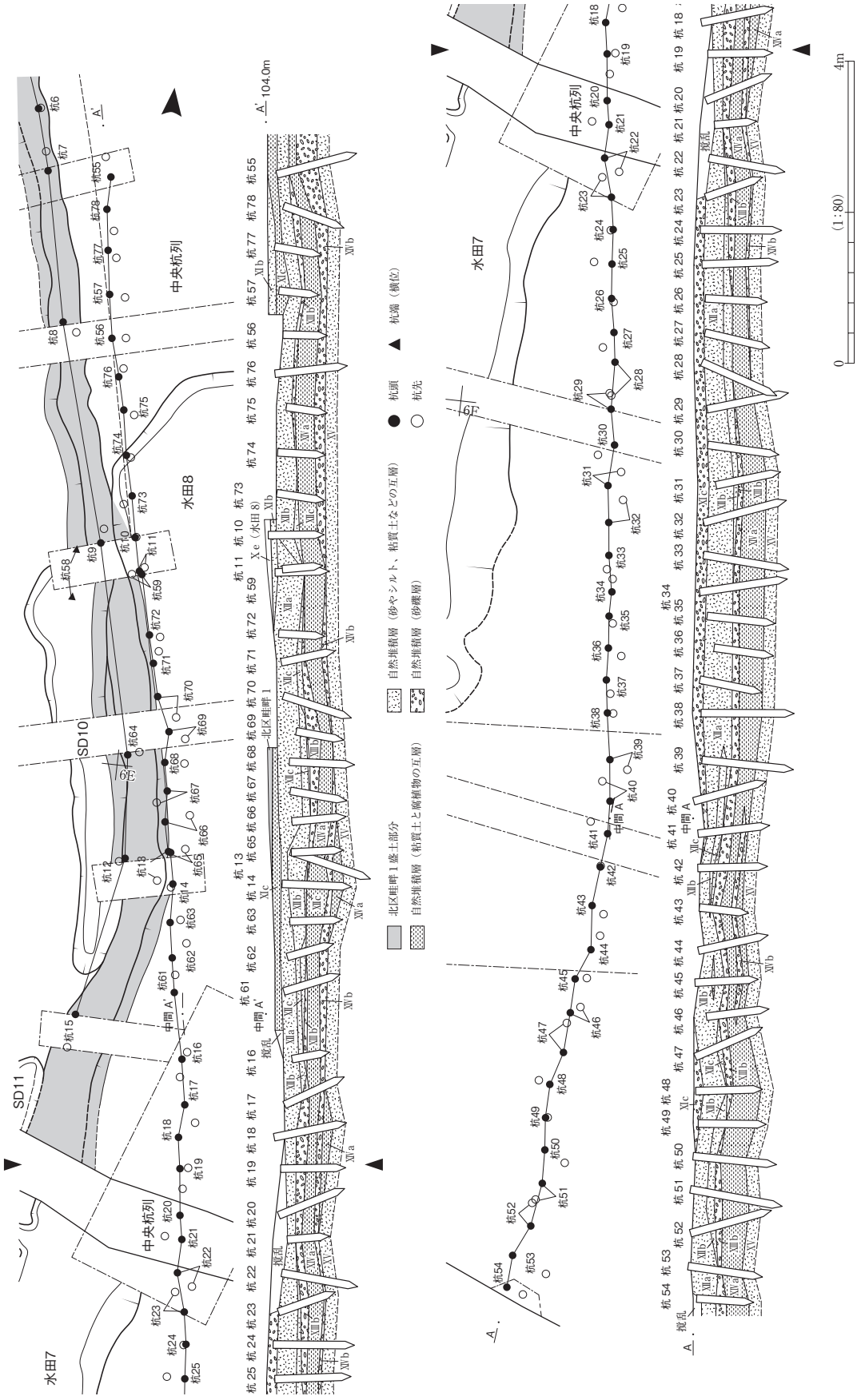
4・5F に位置する。北東－南西方向に直線状に延びる。Ｘａ・ｂ層の畦畔で、水田５を区画するものである。また、Ⅸｂ層の擬似畦畔Ｂでもある。

北区畦畔５（図版 62・150・152）

4・5F に位置する。北西－南東方向に直線状に延び、北西端は調査区外となる。Ｘａ層の擬似畦畔Ｂで、本来の畦畔部分は残っていない。畦畔の両脇には踏み抜き痕とみられる痕跡が認められる。

中央杭列（第 34 図、図版 61・62・72・148・153 ～ 157）

5D、6D ～ G に位置する。北西－南東方向に緩やかな弧を描き延びる。64 本を検出し、杭 55 が北西端で、これよりも北側ではみつかっていない。南端は調査区外となっていて、南区の試掘坑（27-14T）で出土した杭（33）が本杭列の続きにあたる可能性があるが、単独での出土のため判然としない。杭長は 51.7 ～ 125.1cm、平均 90.51cm を測る。杭頭は一部Ｘｂ層やⅫ層中のものがあるが、大半はⅪ層中に位置することからⅪ層が堆積する直前に打設されたものと考えられる。杭頭標高は西杭列よりも平均で約 38cm 低く、杭頭が位置する層序からみても本杭列が西杭列より古いことは確実である。また、Ⅺ層は自然堆積層であることから、本杭列が機能していた層は洪水などで流出してしまったか、杭打設直後になんらかの原



第 34 図　中央杭列断面模式図

因（洪水など）で放棄されてしまった、などの状況が推測できる。そのため、本杭列がどのような機能を果たしていたのかは不明である。可能性としては、西杭列の杭３～７のように畦畔の補強とする用途があげられる。一方で、杭頭標高が高い杭（杭 10・18・40 など）の存在をみると、西杭列の杭８以南のような水田造成に関わる杭の用途も兼ねていた可能性がある。杭頭での間隔は４～ 89cm で、平均 47.2cm を測る。おおむね等間隔であるが、杭 11・59 や 13・65 のように同位置で重なっているものや、杭 59・72 や 61・16 のようにやや間隔が離れているものも確認できる。なお、放射性炭素年代測定では、西杭列のものとそれほど時期差が認められない。中央杭列が何らかの理由で使用されなくなり、その後自然堆積層の形成から西杭列を伴う北区畦畔１の構築までは短期間であったと推測できる。

東杭列（図版 61・62・72・157・158）

6D・E に位置する。中央杭列よりも東側で検出した杭を便宜的に列とした。杭長は 12.1 ～ 94.0cm、平均 55.87cm を測る。最も南側の杭 79 は、横位の状態で出土しており、北側の２本とは関連が薄いかもしれない。北側２本（杭１・２）は、杭先がⅪa 層に打ち込まれてるが、杭頭の層位は不明である。推測の域を出ないが、広めの杭間隔であることをみると、西杭列の杭８以南のような水田造成に関わる杭の用途を想定できる。北側２本の間隔は 3.37 m、杭１から杭 79 の中心までは 9.48 mを測る。杭２の断面（図版 72）や放射性炭素年代測定の結果から、西・中央杭列よりも新しいもので、より上位の層に伴うものと考えられる。

SD4（図版 62・71・151・158）

5F に位置する。北区畦畔２に沿って、北東－南西方向に直線状に延びる。畦畔盛り付ける際の土取り痕跡と考えられる。埋土は単層で、板状木製品（8）が出土した。８は放射性炭素年代測定の結果、古代の所産とされる。しかし、本遺構は堆積状況などから中世の遺構の可能性が高く、８は混入品と捉えた。

SD9（図版 61・70）

5C・D に位置する。北区畦畔１からやや離れた位置で、同一方向（北西－南東）に直線状に延びる。北区畦畔１を盛り付ける際の土取り痕跡と考えられる。畦畔からやや位置が離れているのは、この付近の地盤が崩れやすいⅪa 層でこれを避けたためであろう。遺物は出土していない。

SD10（図版 61・70）

5・6D・E に位置する。北区畦畔１に沿って、北西－南東方向に直線状に延びる。北区畦畔１を盛り付ける際の土取り痕跡と考えられる。SD9 との間に東西方向の畦畔が位置していたと想定できるが、平面・断面の観察ではその痕跡を見いだせなかった。遺物は出土していない。

SD11（図版 62・71・151）

5E・F に位置する。北区畦畔１の延長線上に沿うように、北東－南西方向に直線状に延びる。SD10 と同様に畦畔を盛り付ける際の土取り痕跡と考えられる。水田７の水口を切り、SX3 に切られる。遺物は出土していない。

SD12（図版 62）

5F に位置する。北区畦畔２の延長線上で、北東－南西方向に直線状に延びる。畦畔を盛り付ける際の土取り痕跡と考えられるが、壁面などで明瞭に確認できず判然としない。遺物は出土していない。

SX3（図版 62・72・158）

5F3・4 に位置する。検出面はⅩb 層中で、北区畦畔２、SD4・11 を切る。平面形は不整形で浅い落ち込みである。埋土はⅩa 層に近く、２層に分層でき斜位に堆積する。１層から杭（9）のほか、拳大の礫

が多く出土した。

2）南区の遺構（図版60・63・73～75）

上層ではⅤａ、Ⅵｂ・ｃ層が、下層ではⅨａ・ｂ層が水田耕作土と考えられる層である。これらの層で畦畔状の高まりもしくは擬似畦畔Ｂと考えられる部分を確認した。北区で検出したＸ層は、南区ではほとんど確認できず、Ⅸ層の畦畔直下などにわずかに残存する程度である。また、南区の試掘坑（27-14T）から出土した杭（杭頭がⅪｃ層か）は、北区中央杭列の続きにあたる可能性があるが、これ以外に杭が出土しなかったため判然としない。なお、放射性炭素年代測定の結果では、両者とも近い年代値を示している。

Ⅴａ層水田耕作土

南区畦畔１・２で区画された範囲を水田と捉えるが、南区畦畔２の遺存状態が悪く、調査区壁面でも明瞭に確認できず判然としない。範囲内の4H14から近世陶磁器（２）が出土した。Ⅴａ層上面の標高は、南から北に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が東壁で14.0cm、西壁で6.8cm、東西方向が北壁で1.3cm、南壁で5.9cmを測る。

南区畦畔１（図版60・158）

4Hに位置する。北西－南東方向に直線状に延び、北西端は調査区外となる。直下のⅥｂ層が擬似畦畔Ｂとして確認でき、本来の畦畔は残っていない。南東端で畦畔が途切れ、水口と推定できる。

Ⅵｂ層水田耕作土

平面で検出できていないが、調査区壁面で畦畔状の高まりを確認した。南区畦畔１は、Ⅴａ層の擬似畦畔Ｂであるが、Ⅵｂ層の畦畔である可能性もある。周囲のⅥｂ層に比べて、わずかであるが撹拌度合いが弱く、しまりがやや強い。また、東壁面でⅥｂ・ｃ層段階の畦畔が確認できるが、上位の洪水層（Ⅳ層）の影響のためか平面では検出できなかった。Ⅵｂ層上面の標高は、南から北に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が東壁で2.6cm、西壁で8.5cm、東西方向が北壁で3.8cm、南壁で2.1cmを測る。

Ⅸａ層水田耕作土

平面で南区畦畔３～11を検出した。このうち南区畦畔３・４は、平面上でも比較的明瞭に検出できたが、そのほかはⅨｂ層上面が擬似畦畔Ｂとしてわずかに確認できるに留まる。Ⅸａ層上面の標高は、南から北に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が東壁で6.4cm、西壁で4.0cm、東西方向が北壁で2.8cm、南壁で0.4cmを測る。

南区畦畔３（図版63・75・159）

5H・Ｉに位置する。直下のⅨｂ層またはⅨｂ層畦畔上面が擬似畦畔Ｂとして確認できるもので、本来の畦畔部分は確認できない。北西－南東方向に緩やかな弧を描いて延び、5H12の調査区壁面付近で南区畦畔６と接続するものと推測できる。また、5H23で南区畦畔４と接続する。

南区畦畔４（図版63・75・159）

4I、5H・Ｉに位置する。直下のⅨｂ層またはⅨｂ層畦畔上面が擬似畦畔Ｂとして確認できるもので、本来の畦畔部分は残っていない。北東－南西方向にやや蛇行して延びる。5H23で南区畦畔３と接続する。

南区畦畔５（図版63・159）

5Hに位置する。直下のⅨｂ層上面が擬似畦畔Ｂとして確認できるが、調査区壁面では明瞭に認められず、遺存状態はかなり悪い。南区畦畔３と並行するように、北西－南東方向に延びているものと推測され、この間が水田区画とみられる。

南区畦畔６（図版 63・75・159・160）

4・5H に位置する。直下のⅨｂ層が擬似畦畔Ｂとして確認できるもので、本来の畦畔部分は残っていない。東西方向に直線状に延び、5H12 の調査区壁面付近で南区畦畔３と接続するものと推測できる。畦畔３～５とは軸方向が異なるが、これは地形に制約されたものと考えられ、同時期に機能していたものと推測する。

南区畦畔７～ 11（図版 63・75・159・160）

4H・Ⅰに位置する。直下のⅨｂ層またはⅨｂ層畦畔上面が擬似畦畔Ｂとして確認できるが、本来の畦畔部分は残っておらず擬似畦畔Ｂとしての遺存状態も悪い。ただし、南区畦畔 10 は調査区壁面ではしっかりと確認できており、平面上でうまく検出できていない。また、南区畦畔 10 は 11 と一連のものと推測でき、その場合、南区畦畔３・４・６・10・11 で囲まれた範囲を１つの水田区画として捉えられる。

Ⅸｂ層水田耕作土

平面で南区畦畔 12 を検出したほか、南区畦畔７や 10 でⅨｂ層の畦畔と考えられる部分を確認している。しかし、大半はⅨａ層の水田耕作によって削平されており、全体像の把握には至っていない。Ⅸｂ層上面の標高は、南から北に向けて緩やかに傾斜しており、比高差は南北方向が東壁で 9.5cm、西壁で 5.1cm、東西方向が北壁で 10.2cm、南壁で 5.8cm を測る。

南区畦畔 12（図版 63・75・159）

5H・Ⅰに位置する。Ⅸｂ層の中でも複数回にわたる水田耕作が認められ、平面で確認した畦畔はその中で最も古い時期にあたるⅩａ層が擬似畦畔Ｂとして残るものである。その後も数回にわたり畦畔を積上げているものと考えられるが、後のⅨａ層水田耕作による影響などで判然としない。

SX6（図版 63・75・160）

4H19・20 に位置する。Ⅸｂ層中に掘り込まれ、Ⅸａ層水田耕作に切られている。埋土は単層で、埋土色調及び土質はⅨ層に近い。ごく浅い落ち込みで、遺物は出土していない。

5　遺　　物

A　遺物の概要

今回の調査では、土器と木製品が出土した。土器は古代から近世までのものが 10 点ほどと極めて少ない。すべて細片で、６点（１点は写真のみ）を掲載した。木製品は部材や板状のもののほか、杭列を構成する杭が多数出土した。杭は 85 本検出したうち遺存状態、木取り、加工痕を考慮して、西杭列から 12 本中９本、中央杭列から 64 本中 11 本、東杭列から３本中３本、平成 27 年度試掘調査から１本の、合計 24 本を抽出し掲載した。

遺物図版には土器・陶磁器→木製品（杭を含む）の順で掲載し、説明は遺物量が少ないため種別に関係なく遺構内出土→遺構外出土→試掘抗出土の順で記述する。記述の方針は第Ⅰ章第５節に準じたが、杭の「樹皮下」としたものは樹皮が剝げた面を指し、上端を「杭頭」、下端を「杭先」と称した。また、刃跡があって折り取っているとわかるものは「切断」とし、それ以外は「欠損」とした。

B　遺構内出土遺物

水田（Ｖａ層）（図版 76・161 － 2）

２は肥前磁器の染付皿の口縁部片である。内面には２本の圏線がみえる。南区から出土した。

水田５（図版 76・161 － 7）

7-1、7-2 は板状の木製品で、接合しないが同一個体と考えられる。正面に３mm 前後の孔が合計６か所で貫通している。木釘孔は下側面に 10、7-1 の右側面に３の計 13 か所が存在するが、そのうち 10 か所で木釘が残存（太破線）している。木釘の長さは 2.5cm 前後あり、先細りの形状で、その約 3/4 が板に打ち込まれている。裏面は帯状に被熱し炭化している。7-1 の右側面の一部や、7-2 の左側面の弧を描く形状部分などは元の形を留めている可能性がある。板を木釘で接着した器の部分破片と考えられようか。樹種は板状がケヤキ、木釘がヒノキである。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1167 ～ 1258 の年代値を得た。

水田７（図版 76・161 － 3）

３は須恵器の甕である。外面に平行タタキが重複し、内面には当て具痕が明瞭に残る。

SD4（図版 76・161 － 8）

８は板状木製品とした。上端に径２mm ほどの小孔がある。正面には線状痕が確認でき、上端側の縁辺に沿って幅８mm ほどの部分が端部に向けて薄くなる。裏面上端の縁辺は、汚れていないことから側板などが設置されていた可能性がある。そのほかは広い範囲に黒色の付着物が確認できる。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD901 ～ 1021 の年代値を得た。

SX3（図版 76・161 － 9）

９は杭と考えた。半割で、遺存状態はあまりよくない。両端は欠損している。

西杭列（図版 76・161 － 10 ～ 18）

10 ～ 16 は西列を構成する杭である。10 は最北端で検出した。削出心去で、遺存状態は悪く、杭頭は腐食し、杭先の加工痕がわずかに残る。11 は削出心去で、杭頭と左側面は腐食が進んでいる。杭先は加工痕が１面に確認できる。12 は分割心去で、左側面（樹皮下面）には圧痕がみえる。杭頭は腐食し、杭先は加工痕が明瞭である。13 は分割心去で、杭頭の一部には打込み打撃による潰れが確認できるため、ほぼ完形と考えられる。杭先は１面に加工痕がみえ、先端は丸くなる。14 は分割心去で、杭頭は打撃による潰れが残るため、ほぼ完形である。杭先は全面に加工を施す。打込み時の衝撃により杭頭から 1/4 付近でヒビが入り折れ曲がっている。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1260 ～ 1291 の年代値を得た。15 は分割心持で、長さ約 96cm と西杭列の中では最も長い。杭頭は割面に二次的な縦割れがみえ、樹皮下は腐食している。杭先の先端はわずかに丸くなるが、非常に尖っており、樹皮下の面以外はすべて加工痕が明瞭に残る。西杭列で確認できた杭の中では、最南端に位置する。16 は削出心去で、杭頭付近には横方向の直線的な工具痕がみえ、上端は潰れている。切断痕跡とその後の打込み打撃痕と考えられる。杭先の２面を加工する完形の杭である。17 は 5D9・14、18 は 5D20 に横たわって出土した。出土層位は、17 がＸｂ層を由来とする北区畦畔１、18 がＸｂ層である。西杭列を構成する杭ないしは杭を連結する横木と考えた。どちらも分割心去で、17 の図左端の樹皮下面は腐食し、割面には二次的な縦割れがみえる。右端は加工痕が残り、端部は丸まっている。加工痕や腐食位置から元は杭であった可能性が高い。18 は両端を欠損するが、杭の特徴とする上端部付近の腐食や加工痕がない。

中央杭列（図版 77・78・161・162 － 19 ～ 29）

19 ～ 29 は中央杭列を構成する杭である。19 は分割心去で、杭頭に打込み打撃痕が残り、その表面は潰れてやや硬く、下方向へ圧縮している。付近の樹皮下面は腐食し、割面には二次的な縦割れがみえる。杭先は加工により尖らせ、先端は丸くなる。20 は分割心持で、杭頭は打込み打撃により潰れ、下方向へ圧縮し、それに起因する横位のシワがみえる。杭頭付近の左半分は、杭を打ち込んでいるときに縦方向に割れた部分と考えられ、その際に材が圧縮したような横位のシワがみえる。残りの右半分は腐食している。杭先は尖り、加工面の稜はあれている。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1246 ～ 1288 の年代値を得た。21 は分割心持で、杭頭は打込み打撃により潰れ、平らで硬い。杭先は先端がわずかに丸くなるが、全面に加工があり、削った単位もよくみえる。完形の杭である。22 は分割心去で、杭頭は平らで打撃痕がよく残る。杭先は６面に加工が施され、その単位も明瞭である。先端は平坦で若干ささくれたつ。完形の杭である。23 は丸木取りで、長さは 120cm ほどあり他と比べて長い。杭頭は打込み打撃により潰れ、その周辺は腐食している。杭表面の樹皮は剝がされ、左側面には広範囲の圧痕がみられる。杭先は、斜め方向に１面の加工痕が残る。完形の杭とみられる。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1224 ～ 1285 の年代値を得た。24 は分割心去で、杭先は先端が平坦な三角錐状に５面で加工され整っている。杭頭は腐食して先細りとなる。25 は分割心去で、杭先は整えられ、４面に加工痕がみられる。杭頭は欠損し、その付近の樹皮下面は腐食している。26 は分割心去で、杭頭周辺は樹皮下面が腐食し、その付近の枝は落とされている。杭先は先端が平らでささくれたつが、三角錐状に加工され尖っている。27 は分割心去で、杭頭付近は割面を中心に腐食しているが、上端には打込みの打撃痕がみられる。杭先の加工面は削った単位もよくみえ、先端は平らである。先細りの材を利用した完形品とみられる。28 は分割心去で、杭頭付近は割面を中心に腐食しており、上端は潰れているようにみえるが不明瞭である。杭の残存する長さは 125cm ほどあり、中央杭列の中では最も長い。杭先は２面で加工し尖らせてある。先端はあれている。29 は分割心去で、杭頭は打撃の痕跡はみられず、周辺は樹皮下面のみ腐食し、上端付近は二次的な縦割れがみえる。杭先は多角形に面を整え尖らせてある。先端は平らで若干あれている。

東杭列（図版 78・162 － 30 ～ 32）

30 ～ 32 は、東杭列を構成する杭である。30 は分割心去で、杭頭周辺は腐食し先細りとなる。杭先は部分的に潰れており表面には圧縮による横位のシワがみえる。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1499 ～ 1648 の年代値を得た。31 は杭の上方が欠損し杭先のみが残る。丸木取りで、表面は被熱により炭化している。杭先は表面が炭化後に加工されている。32 は偏半割で、杭頭は欠損し残りも悪い。杭先は多角形に加工し尖らせるが先端は丸まっている。

C　遺構外出土遺物

Ⅳ層（図版 161 － 1）

１は肥前陶器皿の体部片で、外面は透明釉、内面は銅緑釉が掛かる。細片のため、写真のみの掲載とした。17 世紀後半から 18 世紀初頭の所産と考える。南区から出土した。

Ⅺｃ層（図版 76・161 － 4・5）

４は土師器小型甕の体部から頸部の破片と推測するが、細片のためはっきりしない。内外面にはロクロナデの痕跡がみえる。５は土師質土器小皿のＡ３類（第Ⅰ章第５節参照）である。器壁は全体に均一でやや厚手に作られ、口縁部は底部から直線的に外傾する。４・５は北区から出土した。

D　試掘坑出土遺物

27-14T（図版 78・162 － 33）

33 は平成 27 年度の試掘調査時に出土した杭で、全長約 153cm と、今回の調査区内で検出した杭の中では最も長い。偏半割で、杭頭は欠損し周辺の樹皮下面のみ腐食している。杭先は２面を加工し尖らせ、加工面の稜はあれている。先端は平らである。放射性炭素年代測定から、２σの値で calAD1182 ～ 1264 の年代値を得た。杭の上端はⅪｃ層に達するが杭頭は欠損しているため、それより上層から打込まれたものと想定できる。

28-24T（図版 76・161 － 6）

６は珠洲焼の片口鉢である。内面には１条 10 目以上の卸目が密に施される。Ⅸａ層から出土した。

28-25T（図版 78・162 － 34）

34 は円形曲物の底板である。左側に欠損があるがほぼ完形に近い。柾目取りで、丁寧に円形を作りだしている。側面には３か所、小さく裂けたような痕跡があり、木釘痕と推測する。Ⅵｂ層から出土した。

6　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　は　じ　め　に

新潟県魚沼市に所在する工田遺跡は魚野川の支流である三用川右岸の氾濫原に立地する。

これまでの発掘調査では、中世を中心とする遺構・遺物が確認されている。本分析調査では、杭列を構成する杭などの木製品を対象に放射性炭素年代測定を実施し、年代に係る資料を得る。また、杭を中心とした木製品について樹種同定を行い、当時の木材利用について検討する。合わせて基本層序（第 35 図）から採取された土壌について、種実同定、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、稲作の検討、堆積環境、古植生について検討する。また、水田址から出土した骨について同定を行う。

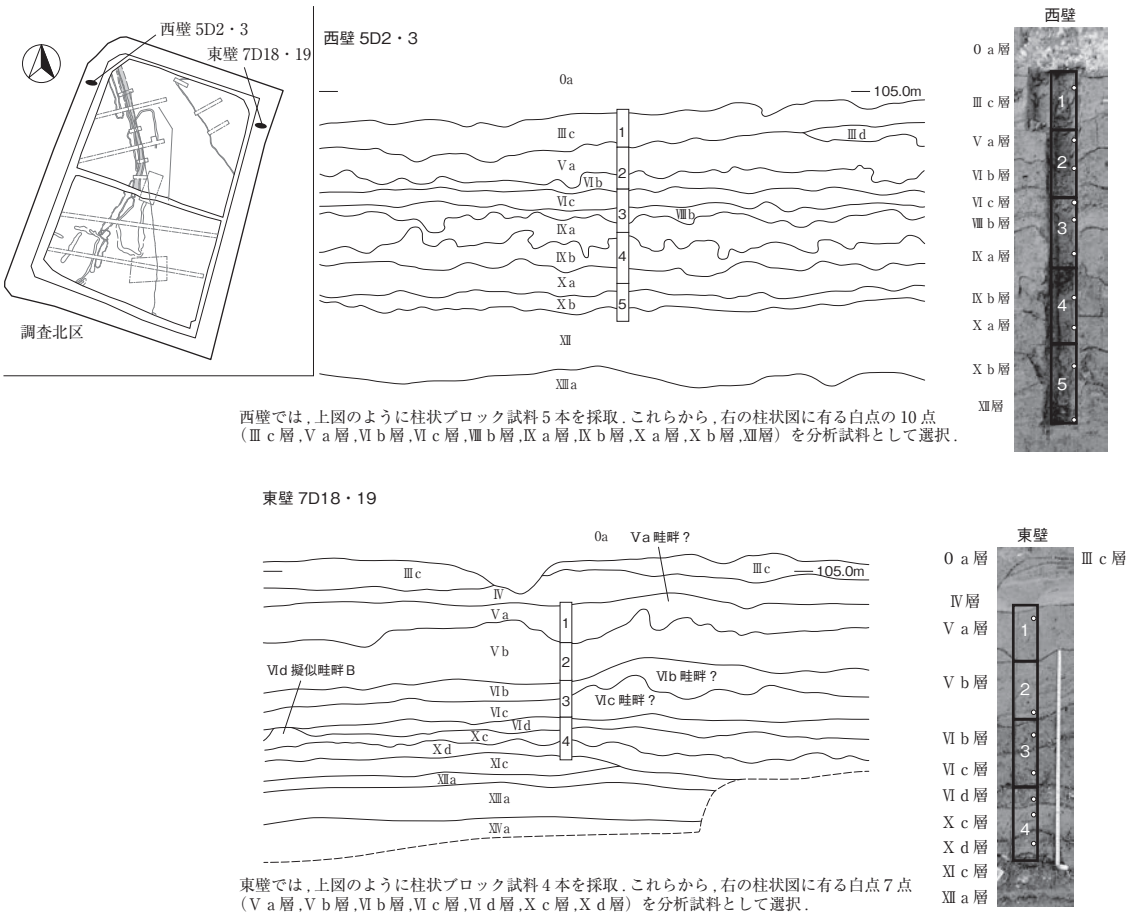
B　放射性炭素年代測定

1）試　　料

試料は、SD4 出土の木製品（報告番号８）、水田５出土の木製品（報告番号７）、西杭列の杭９（報告番号 14）、中央杭列の杭 10（報告番号 20）と杭 13（報告番号 23）、東杭列の杭２（報告番号 30）から採取された計６点の試料である。杭９、杭 13、杭２については樹種同定を同時に行っており、杭９がクリ、杭 13 がヤナギ属、杭２がクリに同定された。

2）分　析　方　法

汚れた周囲をトリミングして 0.1g 程度に調整する。試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウムともに１mol/L である。



西壁では，上図のように柱状ブロック試料５本を採取．これらから，右の柱状図に有る白点の 10 点（Ⅲ c 層，V a 層，Ⅵ b 層，Ⅵ c 層，Ⅷ b 層，Ⅸ a 層，Ⅸ b 層，X a 層，X b 層，Ⅻ層）を分析試料として選択．

東壁では，上図のように柱状ブロック試料４本を採取．これらから，右の柱状図に有る白点７点（V a 層，V b 層，Ⅵ b 層，Ⅵ c 層，Ⅵ d 層，X c 層，X d 層）を分析試料として選択．

第 35 図　試料採取位置

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径１mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。$\delta^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いる較正曲線は Intcal13［Reimer et al.2013］である。

3）結 果 と 考 察

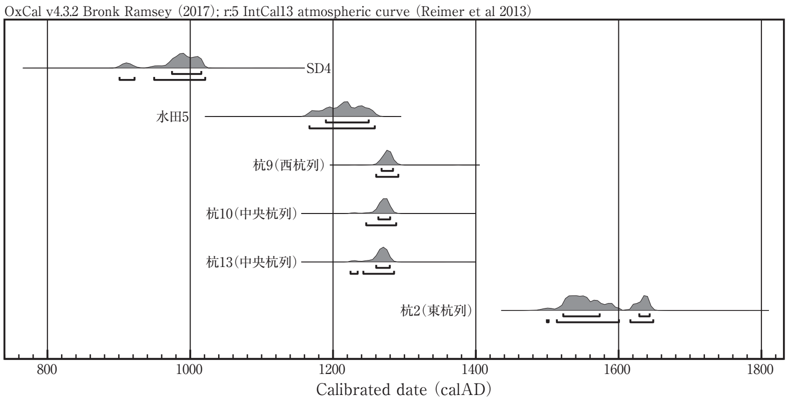
結果を第 12 表、第 36 図に示す。いずれも定法での処理が可能である。同位体補正を行った測定値は、SD4 木製品が 1,065 ± 20BP、水田５木製品が 830 ± 20BP、杭９が 725 ± 20BP、杭 10 が 745 ± 20BP、杭 13 が 750 ± 20BP、杭２が 305 ± 20BP を示す。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の

報告番号	試料	性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正年代				Code No.
							年代値		確率%	
8	SD4	木材 木製品	AAA	1065±20 （1064±23）	-21.08 ±0.18	σ	cal AD 974 - cal AD 1015	976 - 935 calBP	68.2	IAAA-182619
						2σ	cal AD 901 - cal AD 922	1050 - 1029 calBP	11.5	
							cal AD 949 - cal AD 1021	1001 - 930 calBP	83.9	
7	水田5	木材 木製品	AAA	830±20 （830±23）	-27.74 ±0.19	σ	cal AD 1190 - cal AD 1250	761 - 701 calBP	68.2	IAAA-182620
						2σ	cal AD 1167 - cal AD 1258	784 - 692 calBP	95.4	
14	杭9 （西杭列）	木材 クリ	AAA	725±20 （727±21）	-29.59 ±0.22	σ	cal AD 1268 - cal AD 1284	683 - 667 calBP	68.2	IAAA-182621
						2σ	cal AD 1260 - cal AD 1291	690 - 659 calBP	95.4	
20	杭10 （中央杭列）	木材	AAA	745±20 （743±21）	-27.26 ±0.23	σ	cal AD 1263 - cal AD 1280	687 - 671 calBP	68.2	IAAA-182622
						2σ	cal AD 1246 - cal AD 1288	704 - 662 calBP	95.4	
23	杭13 （中央杭列）	木材 ヤナギ属	AAA	750±20 （750±21）	-29.53 ±0.21	σ	cal AD 1260 - cal AD 1279	690 - 671 calBP	68.2	IAAA-182623
						2σ	cal AD 1224 - cal AD 1234	726 - 716 calBP	3.8	
							cal AD 1242 - cal AD 1285	708 - 665 calBP	91.6	
30	杭2 （東杭列）	木材 クリ	AAA （1M）	305±20 （306±20）	-25.78 ±0.36	σ	cal AD 1522 - cal AD 1573	428 - 377 calBP	53.4	YU- 9989
							cal AD 1629 - cal AD 1643	322 - 307 calBP	14.8	
						2σ	cal AD 1499 - cal AD 1502	451 - 449 calBP	0.5	
							cal AD 1513 - cal AD 1600	437 - 350 calBP	71.2	
							cal AD 1616 - cal AD 1648	334 - 302 calBP	23.7	

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68.2%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaAは試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。
5）暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
6）暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
7）較正データーセットは、Intcal13を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である

第12表　放射性炭素年代測定結果



第36図　暦年較正結果

宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後に訂正された半減期（^{14}C の半減期5,730 ± 40年）を較正することによって、暦年代に近付ける手法である。較正用データーセットは、Intcal13 ［Reimer et al.,2013］を用いる。２σの値はSD4木製品がcalAD901 ～ 1,021、水田５木製品がcalAD1,167 ～ 1,258、杭９がcalAD1,260 ～ 1,291、杭10がcalAD1,246 ～ 1,288、杭13がcalAD1,224 ～ 1,285、杭２がcalAD1499 ～ 1648を示す。

年代測定で得られた値からは、SD4木製品が平安時代末、水田５木製品が平安時代末から鎌倉時代初頭、杭９、10、13が鎌倉時代、杭２が戦国時代から安土桃山時代に対比される。主体は鎌倉時代にあるといえるが、SD4はやや古い、杭２は新しい年代値が得られている。各木製品の出土状況等の発掘調査所見を含めた総合的な検討により、遺物の帰属年代を検討することが望まれる。

C　樹　種　同　定

1）試　　料

試料は、遺跡出土の木製品28点である。試料の詳細は結果とともに第13表に示す。なお、報告番号７・８・14・20・23・30の６点については先述の放射性炭素年代測定の対象資料でもある。

2）分　析　方　法

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各切片を作成し、ガムクロラールで封入し、プレパラートを作成する。光学顕微鏡で観察し、木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、［島地・伊東 1982；Wheeler ほか 1998；Richter ほか 2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、［林 1991；伊 東 1995・1996・1997・1998・1999］ を参考にする。

報告番号	出土位置			器種	樹種	備考
	遺構名	グリッド	層位			
7	水田5	5F12	Xb	板状木製品	ケヤキ、ヒノキ（木釘）	放射性炭素年代測定対象資料
8	SD4	5F8	1	板状木製品	ヒノキ	放射性炭素年代測定対象資料
9	SX3	5F3	1	杭か	クリ	
10	杭3	5C24	−	杭	クリ	
11	杭6	5D4・5	−	杭	クリ	
12	杭7	5D10	−	杭	クリ	
13	杭8	5D15	−	杭	クリ	
14	杭9	5D20	−	杭	クリ	放射性炭素年代測定対象資料
15	杭15	5E10	−	杭	クリ	
16	杭12	6E1	−	杭	クリ	
17	杭60	5D9・14	−	横木か	クリ	
18	杭58	5D20	−	横木か	クリ	
19	杭56	5D15	−	杭	クリ	
20	杭10	5D20	−	杭	クリ	放射性炭素年代測定対象資料
21	杭11	5D20・6D16	−	杭	クリ	
22	杭69	6D21	−	杭	クリ	
23	杭13	6E1	−	杭	ヤナギ属	放射性炭素年代測定対象資料
24	杭14	6E1	−	杭	クリ	
25	杭19	6E11	−	杭	クリ	
26	杭20	6E11	−	杭	クリ	
27	杭32	6F2	−	杭	クリ	
28	杭38	6F7	−	杭	クリ	
29	杭41	6F12	−	杭	クリ	
30	杭2	6D12	−	杭	クリ	放射性炭素年代測定対象資料
31	杭1	6D18	−	杭	ヌルデ	
32	杭79	6E17・18	−	杭	クリ	
33	27-14T	5H18	−	杭	クリ	
34	28-25T	5I，6H・I	Ⅵb	曲物底板	スギ	

第 13 表　樹種同定結果

3）結　　果

結果を第 13 表に示す。検出された種類は針葉樹 2 種類（スギ、ヒノキ）、広葉樹 4 種類（クリ、ケヤキ、ヌルデ、ヤナギ属）である。杭はほとんどがクリである。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.） D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急である。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

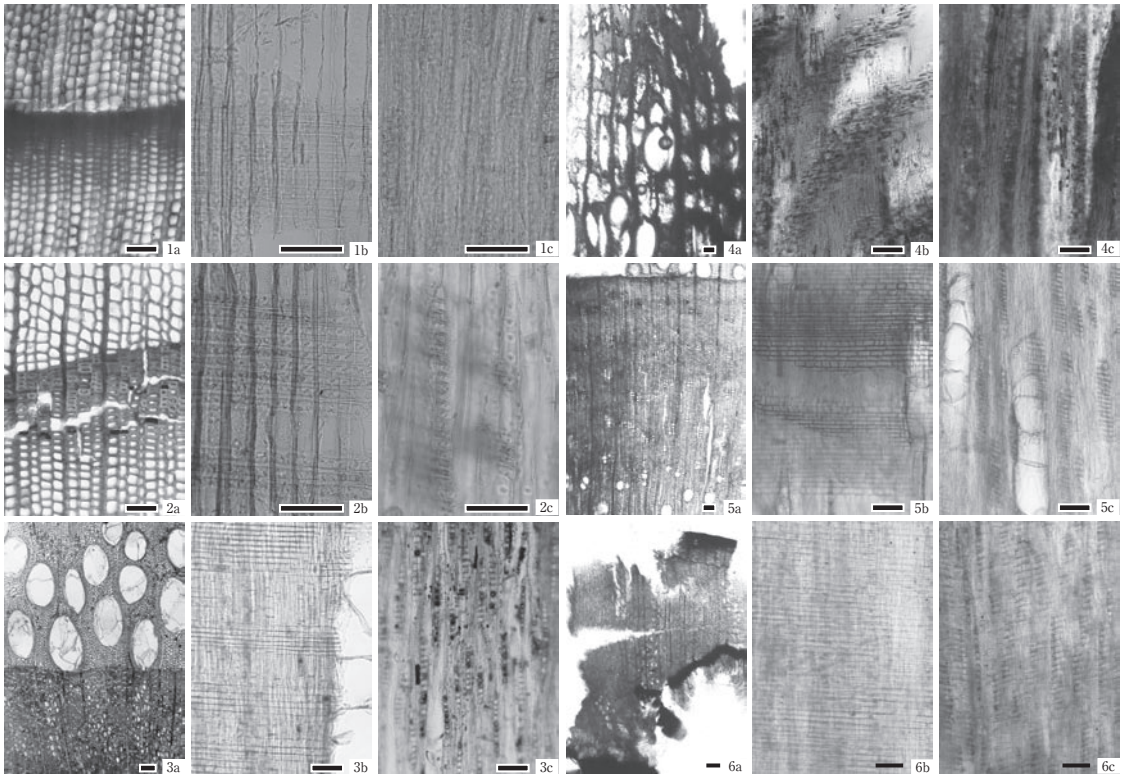
環孔材で、孔圏部は 3 ～ 4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 15 細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.） Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1 ～ 6 細胞幅、1 ～ 50 細胞高。

・ヌルデ（*Rhus javanica* L.）　ウルシ科ウルシ属

環孔材で孔圏部は 4 ～ 5 列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では 2 ～ 5 個が塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1 ～ 4 細胞幅、1 ～ 30 細胞高。



1.スギ(39)　2.ヒノキ(7木釘)　3.クリ(14)　4.ケヤキ(7)　5.ヌルデ(31)　6.ヤナギ属(23)　　a:木口　b:柾目　c:板目　スケールは100μm

第37図　木材

・ヤナギ属（*Salix*）　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または２－３個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、１～15細胞高。

４）考　　察

杭はヌルデ１点、ヤナギ属１点が確認されるものの、ほとんどがクリである。クリは重硬で水湿に強く、割裂性がよいので加工しやすい。また人家近くの里山林に普通に分布することから、土木材として向いている。［伊東隆夫・山田昌久編 2012］の出土木製品用材データベースをみると、県内の杭材はクリが多く、その他の樹種としてヌルデが確認される。その他の木製品にはスギ、ヒノキ、ケヤキが用いられているが、これらは良材で、様々な用途に用いられる。

D　種　実　同　定

１）試　　料

試料は、西壁5D2・3断面の各層から採取された土壌３点（Ⅷｂ層、Ⅸｂ層、Ｘｂ層）、東壁7D18・19断面の各層から採取された土壌２点（Ｘｃ層、Ｘｄ層）の、計５点である。試料の採取位置は第35図に示す。

なお、西壁及び東壁の土壌試料については、後述する珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を合わせて実施している。ここでは、各層の層相について述べる。層序断面図については第35図に示す。

調査区内には、シルトや砂などで構成される土層がみられ、大きく16層（０層～XV層）に区分されている。このうち、Ⅲｃ層は黄灰色のシルト層であり、盛土とⅣ層の間で確認できる水田とされ、管状の酸化鉄が多量にみられる。Ｖａ層は灰黄褐色のシルト層であり、Ｖｂ層の撹拌土とされる水田耕作土層とさ

れる。

Ⅵｂ層は調査区全域で確認される黄灰色のシルト層で、下位で砂や礫を含んで粗粒となり、Ⅵｃ層やⅥｄ層に細分され、水田耕作土の可能性が想定されている。

Ⅸｂ層は主に西側で確認される灰黄褐色のシルト層であり、腐植を含み、管状や糸根状の酸化鉄が見られる。部分的にシルトと腐植の互層が見られ、畦畔と考えられている。酸化鉄や腐植物、砂の含有状況からⅨａ層やⅧｂ層に細分され、水田耕作土層とされている。また、これら層位に伴う杭材が出土している。

Ｘａ層は主に南西側で確認される灰色のシルト層であり、管状の酸化鉄が見られる。酸化鉄や腐植物、砂の含有状況から、Ｘｂ層やＸｃ層に細分され、水田耕作土層とされている。なお、Ｘｂ層に伴う杭列が出土している。

Ⅻ層は、砂と腐植を含むシルトの互層であり、部分的に畦畔状の構造が見られる。また、上位のⅪ層から確認できる杭列が見られる。

これらの層が観察される調査区の西壁と東壁に試料採取場所を設定し、西壁で５本、東壁で４本の柱状ブロック試料を採取した。西壁の５本は 10 層位（Ⅲｃ層、Ｖａ層、Ⅵｂ層、Ⅵｃ層、Ⅷｂ層、Ⅸａ層、Ⅸｂ層、Ｘａ層、Ｘｂ層、Ⅻ層）、東壁の４本は７層位（Ｖａ層、Ｖｂ層、Ⅵｂ層、Ⅵｃ層、Ⅵｄ層、Ｘｃ層、Ｘｄ層）が含まれるように設定し採取した。

２）分　析　方　法

土壌試料から種実遺体を分離・抽出するために、試料 50cc を水に浸し、粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに移して、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体や大胞子などの大型植物遺体を抽出する。大型植物遺体の同定は、現生標本や［笠原 1982；石川 1994；谷城 2007；中山ほか 2010；鈴木ほか 2018］等を参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表と図で示し、主な分類群の写真を添付する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、ハイフォンで結んで表示する。また、一部の種実遺体の大きさをデジタルノギスで計測し、結果を一覧表に併記する。大型植物遺体以外は、一覧表の下部に定性的な量比をプラス「+」で示す。

分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約 70%のエタノール溶液で液浸保存する。

３）結　　果

結果を第 38 図、第 14・15 表に示す。５試料 250cc（417g）を洗い出した結果、被子植物 54 分類群（木本のマタタビ近似種、キイチゴ属、タラノキ、ムラサキシキブ属、タニウツギ属、草本のオモダカ属、サジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、ホッスモ、コナギ、イボクサ、イヌビエ属、イネ、イネ科（Ａ、Ｂ）、スゲ属（２面、３面）、ハリイ属（シカクイ類、ハリイ類）、マツカサススキ類、フトイ類、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、カンガレイ近似種、ホタルイ類、カヤツリグサ属（Ａ、Ｂ）、カヤツリグサ科（Ａ、Ｂ）、クワクサ、カラムシ属、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ナデシコ科（Ａ、Ｂ）、アカザ属、ミズオトギリ、アブラナ科、キジムシロ類Ａ、キジムシロ類、クサネム、ツリフネソウ、スミレ属、ウド、セリ科、オカトラノオ属、シソ属、イヌコウジュ属、シロネ属、イガホオズキ属）1,660 個の種実遺体、シダ植物１分類群（ミズニラ）１個の大胞子の、計 1,661 個の大型植物遺体が同定された。東壁 7D18・19 のＸｃ層より確認された１個は不明としたが、ミズオオバコ属の種子に似る。

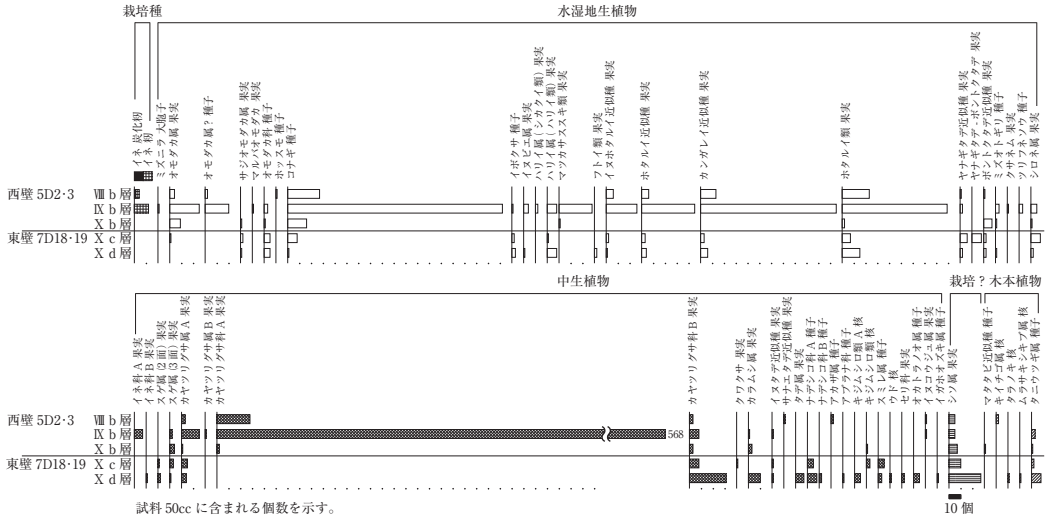
分類群	部位	状態		西壁5D2・3 Ⅷb層	西壁5D2・3 Ⅸb層	西壁5D2・3 Xb層	東壁7D18・19 Xc層	東壁7D18・19 Xd層	備考
木本									
マタタビ近似種	種子	破片		-	-	1	-	-	長さ1.91mm
キイチゴ属	核	破片		2	-	-	-	-	
タラノキ	核	破片		-	-	-	-	1	
ムラサキシキブ属	核	完形		-	-	-	-	1	
タニウツギ属	種子	完形		-	3	1	-	4	
		破片		-	-	-	2	4	
草本									
オモダカ属	果実	完形		3	24	9	1	-	
		破片		1	1	-	-	-	
オモダカ属?	種子	完形		2	20	-	-	-	
サジオモダカ属	果実	完形		-	-	1	2	1	
マルバオモダカ	果実	完形		-	1	-	-	-	
オモダカ科	種子	完形		-	3	1	5	5	
ホッスモ	種子	完形		1	-	-	-	-	
コナギ	種子	完形		27	182	16	8	1	
イボクサ	種子	完形		-	1	-	2	2	
				-	-	-	-	1	
イヌビエ属	果実	完形		-	3	-	-	-	
		破片		-	1	-	-	1	
イネ	籾(基部)	破片	炭化	1	-	-	-	-	
	籾	破片		3	12	-	-	-	
イネ科A	果実	完形		-	2	-	-	-	
		破片		-	5	-	-	-	
イネ科B	果実	完形		-	-	-	-	1	
スゲ属(2面)	果実	完形		-	-	-	1	2	
スゲ属(3面)	果実	完形		-	2	3	2	1	
		破片		-	-	1	1	-	
ハリイ属(シカクイ類)	果実	完形		-	1	-	-	-	
		破片		-	1	-	-	-	
ハリイ属(ハリイ類)	果実	完形		-	8	-	1	7	
		破片		-	-	-	-	1	
マツカサススキ類	果実	完形		-	28	1	-	-	
フトイ類	果実	完形		-	-	-	-	1	
		破片		-	-	-	-	1	
イヌホタルイ近似種	果実	完形		6	25	-	2	1	果実長>花被長
		破片		-	1	-	-	-	
ホタルイ近似種	果実	完形		6	45	-	3	4	果実長=花被長
カンガレイ近似種	果実	完形		13	110	-	3	6	果実長<花被長
		破片		-	5	-	-	-	
ホタルイ類	果実	完形		8	23	1	5	7	花被欠損または花被長不明
		破片		15	66	1	2	8	
カヤツリグサ属A	果実	完形		3	15	1	5	4	倒狭卵体
カヤツリグサ属B	果実	完形		-	1	-	-	-	倒卵体
カヤツリグサ科A	果実	完形		27	518	2	-	-	
		破片		1	50	-	-	-	
カヤツリグサ科B	果実	完形		3	7	2	5	27	ヒメクグ属近似
		破片		-	1	1	3	4	
クワクサ	果実	完形		-	-	-	1	-	
カラムシ属	果実	完形		-	1	3	-	10	
イヌタデ近似種	果実	完形		-	1	-	-	1	
		破片		-	-	-	1	-	
ヤナギタデ近似種	果実	完形		-	-	-	2	-	
		破片		1	2	-	4	2	
ヤナギタデ-ボントクタデ	果実	破片		-	-	-	8	-	
ボントクタデ近似種	果実	完形		1	-	-	-	-	広卵状3面体,網目模様
		破片		-	-	7	2	2	
サナエタデ近似種	果実	完形		1	-	-	-	-	
タデ属(3面平滑)	果実	破片		-	-	-	-	7	イタドリ近似
ナデシコ科A	種子	完形		-	-	-	5	7	小型
		破片		-	-	-	-	1	
ナデシコ科B	種子	破片		-	-	-	-	2	中型
アカザ属	種子	完形		2	-	-	-	-	
ミズオトギリ	種子	完形		-	3	-	-	-	
		破片		-	-	1	-	1	
アブラナ科	種子	完形		-	-	-	-	1	
キジムシロ類A	核	完形		-	-	-	-	5	隆条斜上
キジムシロ類	核	完形		-	-	1	1	-	
		破片		-	-	-	2	-	
クサネム	果実	完形		-	1	-	-	-	節果
ツリフネソウ	種子	破片		-	3	-	-	-	
スミレ属	種子	破片		-	-	-	5	3	
ウド	核	破片		-	-	-	-	1	
セリ科	果実	完形		-	-	-	-	2	別種
オカトラノオ属	種子	完形		-	-	-	-	5	
シソ属	果実	完形		1	3	2	2	10	Ⅷb:長さ1.51mm, Ⅸb:1.42-1.55mm, Xb:1.49-1.54mm, Xc:1.47-
		破片		4	2	5	8	17	1.50mm, Xd:1.40-1.65mm
イヌコウジュ属	果実	完形		1	1	-	-	-	Ⅷb:長さ1.12mm, Ⅸb:1.29mm
シロネ属	果実	完形		-	4	1	8	2	
		破片		-	1	-	-	-	
イガホオズキ属	種子	完形		-	-	-	-	1	

第 14 表　種実分析結果（1）

			西壁5D2・3			東壁7D18・19		
分類群	部位	状態	Ⅷb層	Ⅸb層	Xb層	Xc層	Xd層	備考
不明	種実	完形	-	-	-	1	-	ミズオオバコ属種子?
シダ植物								
ミズニラ	大胞子	完形	-	1	-	-	-	
合計								
木本種実(分類群数)			1	1	2	1	4	
木本種実(個数)			2	3	2	2	10	
草本種実(分類群数)			23	41	20	30	40	
草本種実(個数)			131	1184	60	100	166	
不明種実(個数)			-	-	-	1	-	
シダ植物大胞子(個数)			-	1	-	-	-	
合計(不明除く)			156	1229	82	132	216	
その他								
炭化材			+	+	+	-	-	
木材			+	+	+	-	+	
植物片			+	+++	+++	++	+++	
昆虫類			+	+	+	+	+	
動物遺存体			-	-	-	-	-	
砂礫類			+	++	++	++	+	
分析量			50	50	50	50	50	容積(cc)
			85	69	91	87	85	湿重(g)

注）計測はデジタルノギスを使用した。

第 15 表　種実分析結果（2）



第 38 図　種実化石群集

大型植物遺体以外は、植物片を主体とし、炭化材、木材、昆虫類、動物遺存体、砂礫類なども確認された。

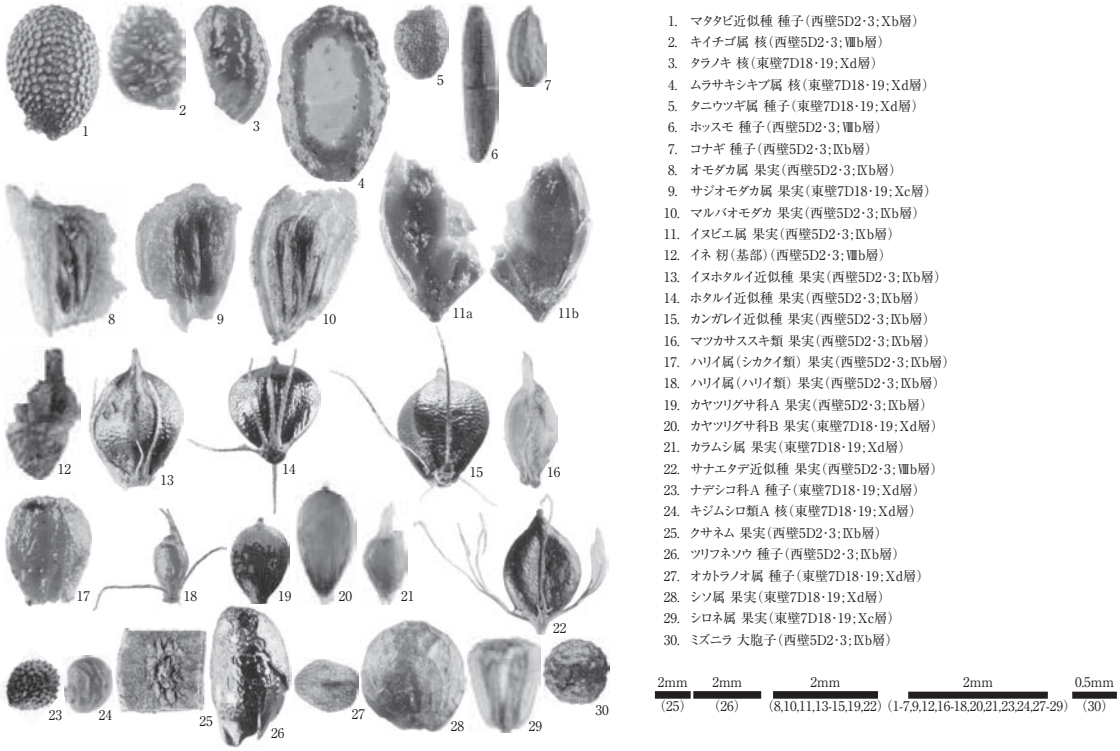
大型植物遺体の保存状態は良好で、イネの籾 1 個のみ炭化している。大型植物遺体群は、木本 5 分類群 19 個、草本 49 分類群 1,641 個、シダ植物 1 個から成り、圧倒的な草本主体の組成を示す。

試料 50cc における出土分類群・個数は、西壁 5D2・3 のⅩｂ層が木本 2 分類群 2 個・草本 16 分類群 60 個の計 78 個、Ⅸｂ層が木本 1 分類群 3 個・草本 30 分類群 1184 個・シダ植物 1 個の計 1218 個、Ⅷｂ層が木本 1 分類群 2 個・草本 18 分類群 131 個の計 151 個、東壁 7D18・19 のＸｄ層が木本 3 分類群 10 個・草本 33 分類群 166 個の計 209 個、Ｘｃ層が木本 1 分類群 2 個・草本 24 分類群 100 個の計 126 個である。

西壁 5D2・3 のⅨｂ層が最も多く、カヤツリグサ科Ａ（568 個）をはじめ、イヌホタルイ近似種やホタルイ近似種、カンガレイ近似種を含むホタルイ類（275 個）、コナギ（182 個）の多産に特徴づけられる。

栽培種は、イネの籾が西壁 5D2・3 のⅧｂ層から 4 個、Ⅸｂ層から 11 個の、計 15 個が確認され、Ⅷｂ層の 1 個が炭化している。イネ以外の分類群は、圧倒的な草本及び水湿地生植物主体の組成を示す。

水湿地生植物は、沈水植物のホッスモ、沈水～湿生植物のミズニラ、オモダカ属、サジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コナギ、イボクサ、フトイ類、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、カン



第 39 図　大型植物遺体

ガレイ近似種、ホタルイ類、湿生植物のイヌビエ属、ハリイ属（シカクイ類、ハリイ類）、マツカサススキ類、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、ミズオトギリ、クサネム、ツリフネソウ、シロネ属などが確認され、分類群・個数ともに西壁 5D2・3 のⅨｂ層で多い。なお、イヌビエ属には栽培種のヒエを含むが、出土果実が比較的小型である点と、多くの水湿地生植物が供伴する点を考慮し、野生種として扱っている。

湿った場所にも乾いた場所にも生育が可能な中生植物は、イネ科、スゲ属、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、クワクサ、カラムシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ属、アブラナ科、キジムシロ類、スミレ属、ウド、セリ科、オカトラノオ属、シソ属、イヌコウジュ属、イガホオズキ属などが確認され、カヤツリグサ科Ａが西壁 5D2・3 のⅨｂ層で突出して多い。

なお、シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す［新田 2001］。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属の果実の大きさの変異も連続的である。今回の出土果実の長さは、最小 1.40 ～最大 1.65mm を測る（Ｘｄ層）。［笠原 1982］の基準（長さ 1.4 ～ 1.5mm、幅 1.1 ～ 1.2mm をシソ、長さ 2.0 ～ 2.8mm、幅 1.8 ～ 2.5mm をエゴマ）に基づくと、シソの大きさの範囲に該当することから、栽培の可能性がある。一方、Ⅷｂ層の長さ 1.12mm、11 層の 1.29mm の小型果実２個は、イヌコウジュ属としている。

本本は、すべて落葉広葉樹で低木のキイチゴ属、タラノキ、ムラサキシキブ属、タニウツギ属、籐本のマタタビ近似種などの、河畔や林縁などの明るく開けた場所に生育する陽樹が確認された。

４）考　　察

工田遺跡の種実分析の結果、栽培種のイネの籾が西壁 5D2・3 のⅧｂ層とⅨｂ層から確認された。イネは当時利用された植物質食糧と示唆され、Ⅷｂ層の炭化籾は火を受けたと推測される。

イネ以外の分類群は、圧倒的な草本及び水湿地生植物主体の組成を示し、特に西壁5D2・3のⅨｂ層で極多産する。木本は、河畔や林縁などの明るく開けた場所に生育する落葉低木のキイチゴ属、タラノキ、ムラサキシキブ属、タニウツギ属、籐本のマタタビ近似種が確認されるのみであった。当時の周辺域にまとまった林分は存在せず、開発が進んだ明るく開けた水湿地環境と考えられる。草本は、沈水植物のホッスモ、沈水～湿生植物のミズニラ、オモダカ属、サジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コナギ、イボクサ、フトイ類、イヌホタルイ近似種、ホタルイ近似種、カンガレイ近似種、ホタルイ類、湿生植物のイヌビエ属、ハリイ属（シカクイ類、ハリイ類）、マツカサススキ類、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、ミズオトギリ、クサネム、ツリフネソウ、シロネ属、中生植物のイネ科、スゲ属、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、クワクサ、カラムシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、アカザ属、アブラナ科、キジムシロ類、スミレ属、ウド、セリ科、オカトラノオ属、シソ属、イヌコウジュ属、イガホオズキ属などが確認され、水湿地生植物を主体とすることから、堆積域は基本的に水深の浅い水湿地と推測される。西壁5D2・3のⅧｂ層とⅨｂ層におけるイネの供伴を考慮すると、水田雑草に由来する可能性も充分に考えられる。

E　珪　藻　分　析

1）試　　料

分析の対象とした試料は、調査区壁面基本層序の各層から採取された土壌試料で、西壁Ⅻ層から1点、東壁Ⅵｂ層から1点の計2点である。試料の採取位置は第35図に示す。

2）分　析　方　法

湿重約5ｇをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数する（化石の少ない場合は、この限りではない）。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、［Lange-Bertalot et. al.2000；Hustedt1930-1966；Krammer & Lange -Bertalot1985-1991；Desikachary1987］などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類し表に示す。

堆積環境の変遷を考察するために、珪藻化石が100個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成する。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示する。

3）結　　果

分析結果を第40図、第16表に示した。東壁Ⅵb層からは200個体以上の珪藻殻が産出したが、西壁Ⅻ層からの産出数は非常に少なかった。

西壁Ⅻ層からは14個体産出した。保存状態は壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみである。産出した種は、淡水生種で止水性種の *Achnanthes crenulata*、淡水生種で流水不明性種の *Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp. 等である。

東壁Ⅵb層からは200個体以上産出した。保存状態は完形も多いが、一部の殻に破損が認められるため、やや不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。本試料の淡水生の群集の特徴について、生態性（珪藻の3つの適応性：水中の塩分・pH・流水に対する適応性）を整理してみた場合、以下のような傾向が認められる。まず、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。次に、pHに対する適応性は、pH不定性種とアルカリ性がそれぞれ40%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、止水性種も20%程度、流水性種も極低率に産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は極低率に産出する。特徴的に産出した種は、淡水性種で流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Cymbella tumida*、*Encyonema silesiacum*、*Fragilaria capucina*、止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* 等である。

種　　類	生態性			環境	西壁	東壁
	塩分	pH	流水	指標種	Ⅻ層	Ⅵb層
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	2	-
Amphora ovalis var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	21
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	3
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	7
Cymbella minuta Hilse ex Rabenhorst	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	2
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	12
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	21
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	7
Encyonema silesiacum (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	22
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	17
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	7
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	5
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	4
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	1	-
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	13
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	2
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	3
Meridion spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	1
Navicula elginensis var. *neglecta* (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	3
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	2
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	2
Pinnularia maior (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ac-il	l-bi	N,O,U	1	-
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	3
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	4
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	3
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lang-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	-	2
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	3
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	-	19
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	4
Staurosira construens Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	9
海水生種					0	0
海水～汽水生種					0	0
汽水生種					0	0
淡水～汽水生種					0	0
淡水生種					14	203
珪藻化石総数					14	203

凡例

塩分：塩分濃度に対する適応性
Euh：海水生種
Euh-Meh：海水生種-汽水生種
Meh：汽水生種
Ogh-Meh：淡水生種-汽水生種
Ogh-hil：貧塩好塩性種
Ogh-ind：貧塩不定性種
Ogh-hob：貧塩嫌塩性種
Ogh-unk：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
al-bi：真アルカリ性種
al-il：好アルカリ性種
ind：pH不定性種
ac-il：好酸性種
ac-bi：真酸性種
unk：pH不明種

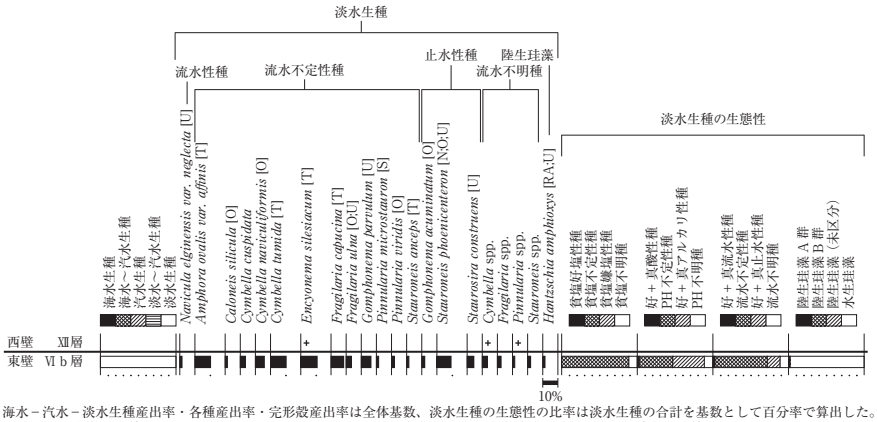
流水：流水に対する適応性
l-bi：真止水性種
l-ph：好止水性種
ind：流水不定性種
r-ph：好流水性種
r-bi：真流水性種
unk：流水不明種

環境指標種
A：外洋指標種　B：内湾指標種　C1：海水藻場指標種　C2：汽水藻場指標種
D1：海水砂質干潟指標種　D2：汽水干潟指標種
E1：海水泥質干潟指標種　E2：汽水泥質干潟指標種　F：淡水底生種群（以上は[小杉,1988]）
G：淡水浮遊生種群　H：河口浮遊性種群　J：上流性河川指標種　K：中～下流性河川指標種
L：最下流性河川指標種群　M：湖沼浮遊性種　N：湖沼沼沢湿地指標種　O：沼沢湿地付着生種
P：高層湿原指標種群　Q：陸域指標種群（以上は[安藤,1990]）
S：好汚濁性種　U：広適応性種　T：好清水性種（以上は[Asai and Watanabe,1995]）
R：陸生珪藻（RA：A群,RB：B群,RI：未区分,[伊藤・堀内,1991]）

第16表　珪藻分析結果

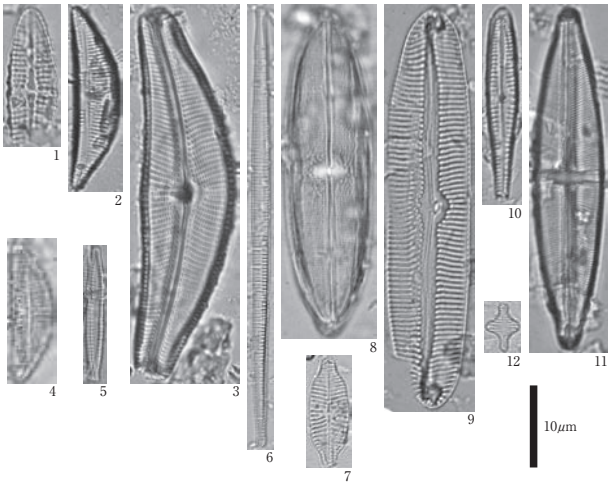
4）考　　察

西壁Ⅻ層から産出した種の生態性について述べると、止水性種の *Achnanthes crenulata* は、貧塩不定、好アルカリ性及び好止水性であるが、貧塩好塩―中塩性とし、淡水層から汽水層に認められるとする報告もある［安藤・南雲 1983］。次に、流水不明性種の *Gomphonema* spp.、*Pinnularia* spp. 等はそれぞれ数種類で構成されるが、これらの属はいずれも湿地に最も特徴的に認められ、主要な構成種になる属で



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。
環境指標種
N:湖沼沼沢湿地指標種　　O:沼沢湿地付着生種(以上は[安藤,1990])
S:好汚濁性種　　T:好清水性種　　U:広適応性種(以上は[Asai & Watanabe,1995])　　RI:陸生珪藻(RA:A群,RB:B群;[伊藤・堀内,1991])

第 40 図　主要珪藻化石群集



1. *Achnanthes crenulata* Grunow（西壁;Ⅻ層）
2. *Amphora ovalis* var. *affinis*（Kuetz.）Van Heurck（東壁;Ⅵb層）
3. *Cymbella tumida*（Breb. ex Kuetz.）Van Heurck（東壁;Ⅵb層）
4. *Encyonema silesiacum*（Bleisch in Rabenh.）D.G.Mann（東壁;Ⅵb層）
5. *Fragilaria capucina* Desmazieres（東壁;Ⅵb層）
6. *Fragilaria ulna*（Nitzsch）Lange-Bertalot（東壁;Ⅵb層）
7. *Navicula elginensis* var. neglecta（Krass.）Patrick（東壁;Ⅵb層）
8. *Neidium ampliatum*（Ehr.）Krammer（東壁;Ⅵb層）
9. *Pinnularia viridis*（Nitz.）Ehrenberg（東壁;Ⅵb層）
10. *Rhoicosphenia abbreviata*（Ag.）Lang-Bertalot（西壁;Ⅻ層）
11. *Stauroneis phoenicenteron*（Nitz.）Ehrenberg（東壁;Ⅵb層）
12. *Staurosira construens* Ehrenberg（東壁;Ⅵb層）

第 41 図　珪藻化石

ある。ただ、産出した珪藻殻は少なかったため、珪藻化石の生態性や群集の生育特性による、直接的な堆積環境の推定は困難である。経験的には、堆積後に好気的環境下で大気に曝されると、短期間に分解消失することがわかっている。次に、珪藻化石を構成するシリカ鉱物は、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度指数が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている［千木良 1995］。本試料の場合、堆積当時は湿地的環境であったと思われるが、大部分の珪藻化石は堆積後に分解・消失した可能性がある。

東壁Ⅵｂ層から特徴的に産出した種について述べると、流水不定性種の、*Amphora ovalis* var.*affinis* は、環境に対する適応能力が高い種であり、淡水のさまざまな環境の水域から認められるが、沼沢地～湿地において多産し、主要種となることが多い種である。また、殻のシリカの沈着が厚く、堆積後も特に化石として残りやすい種である。同じく、流水不定性種の *Cymbella tumida* は、一般に貧塩不定、好アルカリ性種、流水不定の広域頒布種であるが沼沢湿地に普遍的に認められる。また、［Asai and Watanabe1995］によると好清水性種とされる。同じく、流水不定性種の *Encyonema silesiacum* は、沼沢地から湿地等の水域に広く生育する種である。次に、止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* は、比較的、広範に止水域に認められる種であるが、湿地や池沼・湖沼の縁辺等の止水域に安定的に生育する種である。本試料からは湿地性を示す種が多産したことから、基本的に湿地環境であったと考えられる。

F　花　粉　分　析

1）試　　料

試料は、調査区壁面基本層序の各層から採取された土壌試料で、西壁より採取されたⅧｂ層、Ⅸｂ層、Ｘｂ層、東壁より採取されたＸｃ層、Ｘｄ層の、計５点である。試料の採取位置は第 35 図に示す。

2）分　析　方　法

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンゼリーで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するすべての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や［島倉 1973；中村 1980a；藤木・小澤 2007；三好ほか 2011］等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が 100 個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を＋で表示するに留めておく。

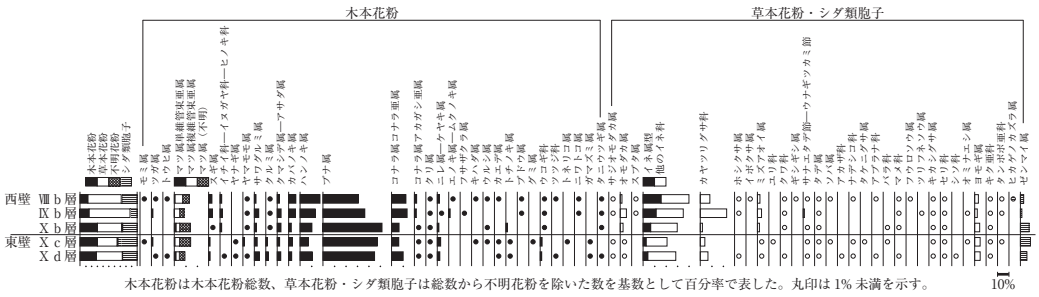
3）結　　果

結果を第 17 表、第 42 図に示す。いずれの試料からも花粉化石が豊富に産出した。保存状態は普通～やや悪い程度である。

西壁の３試料についてみると、Ⅷｂ層、Ⅸｂ層とＸｂ層で花粉群集組成が若干異なる。Ⅷｂ層、Ⅸｂ層では草本花粉が優占し、イネ科とカヤツリグサ科の多産で特徴づけられる。多産するイネ科には、栽培種であるイネ属

種　類	西壁			東壁	
	Ⅷb層	Ⅸb層	Xb層	Xc層	Xd層
木本花粉					
モミ属	1	-	-	2	-
ツガ属	1	3	-	3	2
トウヒ属	1	-	-	-	1
マツ属単維管束亜属	1	-	3	1	3
マツ属複維管束亜属	14	11	7	10	7
マツ属(不明)	12	9	20	23	11
スギ属	6	8	2	3	3
イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科	3	5	3	-	1
ヤナギ属	-	-	-	2	2
ヤマモモ属	2	2	1	3	2
サワグルミ属	3	9	4	6	10
クルミ属	1	2	2	3	5
クマシデ属―アサダ属	4	8	7	5	7
カバノキ属	13	14	5	8	6
ハンノキ属	36	31	22	17	24
ブナ属	64	86	110	113	102
コナラ属コナラ亜属	26	32	14	15	23
コナラ属アカガシ亜属	4	4	2	1	2
クリ属	1	1	1	2	1
ニレ属―ケヤキ属	4	2	3	7	5
エノキ属―ムクノキ属	1	3	-	-	-
フサザクラ属	-	1	-	-	-
キハダ属	1	-	-	2	-
ウルシ属	1	-	1	1	-
カエデ属	1	-	-	2	1
トチノキ属	-	-	3	2	2
ブドウ属	1	1	-	-	-
グミ属	-	-	-	1	-
ウコギ科	1	1	2	4	3
ツツジ科	2	-	-	-	1
トネリコ属	-	-	-	1	-
ニワトコ属	1	1	-	-	-
ガマズミ属	-	-	-	1	1
タニウツギ属	1	1	1	-	1
草本花粉					
サジオモダカ属	1	1	-	7	5
オモダカ属	23	80	17	2	1
スブタ属	1	2	-	-	-
イネ属型	235	167	45	20	32
他のイネ科	367	352	159	142	193
カヤツリグサ科	126	341	13	31	53
ホシクサ属	1	1	-	-	1
イボクサ属	2	-	-	-	-
ミズアオイ属	33	53	12	4	3
ユリ科	-	-	-	1	-
クワ科	5	3	3	-	3
ギシギシ属	1	-	-	-	-
サナエタデ節―ウナギツカミ節	10	16	3	5	6
タデ属	4	1	3	6	2
ソバ属	1	-	-	1	-
アカザ科	-	-	-	-	3
ナデシコ科	1	-	-	1	3
タケニグサ属	-	-	-	1	-
アブラナ科	1	-	-	-	3
バラ科	-	-	1	1	-
マメ科	2	6	2	-	4
フウロソウ属	1	-	-	-	-
ツリフネソウ属	-	1	-	-	-
キカシグサ属	8	2	2	1	1
セリ科	3	5	1	2	4
シソ科	-	-	-	-	1
オミナエシ属	-	1	-	1	-
ヨモギ属	49	34	30	37	38
キク亜科	7	2	2	6	3
タンポポ亜科	4	1	-	1	-
不明花粉					
不明花粉	14	13	13	11	4
シダ類胞子					
ヒカゲノカズラ属	1	-	-	-	-
ゼンマイ属	43	19	52	68	45
他のシダ類胞子	364	154	125	197	157
合　計					
木本花粉	207	235	213	238	226
草本花粉	886	1069	293	270	359
不明花粉	14	13	13	11	4
シダ類胞子	408	173	177	265	202
合計(不明を除く)	1501	1477	683	773	787

第 17 表　花粉分析結果



第 42 図　花粉化石群集

に形態が類似する個体（以下、イネ属型とする）も多く含まれていた。イネ科全体に占めるイネ属型の割合は、Ⅷb層で 39.0%、Ⅸb層で 32.2%であった。イネ属型以外に栽培の可能性があるものでは、Ⅷb層からソバ属も確認された。その他では、サジオモダカ属、オモダカ属、スブタ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属などの水湿地生草本も伴う。木本花粉ではブナ属が最も多く産出し、マツ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。

西壁のXb層では、草本花粉の割合が高いが、前述の２試料ほど顕著ではない。草本花粉はイネ科が最も多く、イネ属型の割合は 22.1%である。その他ではオモダカ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、ヨモギ属などを伴う。木本花粉ではブナ属が最も多く産出し、マツ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ亜属などを伴う。

東壁のXc層、Xd層は、いずれも花粉化石群集が類似しており、草本花粉の割合がやや高い。草本花粉はイネ科が最も多く、イネ属型も含まれる。イネ科に占めるイネ属型の割合は、Xc層で 12.3%、Xd層で 14.2%である。その他ではサジオモダカ属、オモダカ属、カヤツリグサ科、ホシクサ属、ミズアオイ属、ヨモギ属などを伴う。Xc層からはソバ属も確認された。木本花粉ではブナ属が最も多く産出し、マツ属、サワグルミ属、クマシデ属―アサダ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属―ケヤキ属などを伴う。

4）考　　察

東壁のXd層、Xc層、西壁のXb層についてみると、いずれも花粉化石群集が類似し、広域の森林植生を反映する種類では落葉広葉樹のブナ属が最も多く産出し、針葉樹のマツ属、落葉広葉樹のハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。このうち、ブナ属やコナラ亜属などは、本地域の冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成種であることから、ブナ属を主体とした落葉広葉樹林が後背の山地や丘陵に分布したと考えられ、林縁などにはマツ属などの針葉樹も生育していたと推測される。また、ハンノキ属には湿地林構成種が含まれ、サワグルミ属、クマシデ属―アサダ属、ニレ属―ケヤキ属などは渓谷沿いや河畔などに生育することから、周囲の河畔や低湿地などにこれらの木本類が生育していたと考えられる。

草本類では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属など、開けた明るい場所に生育する種を含む分類群が確認された。よって、これらが調査地周辺の草地や林縁林床などを構成していたと考えられる。また、サジオモダカ属、オモダカ属、ホシクサ属、ミズアオイ属など、水湿地生草本に由来する花粉も確認された。多産するイネ科やカヤツリグサ科にも水湿地に生育する種が含まれることから、これらが生育する水湿地も周囲に存在したことが窺える。

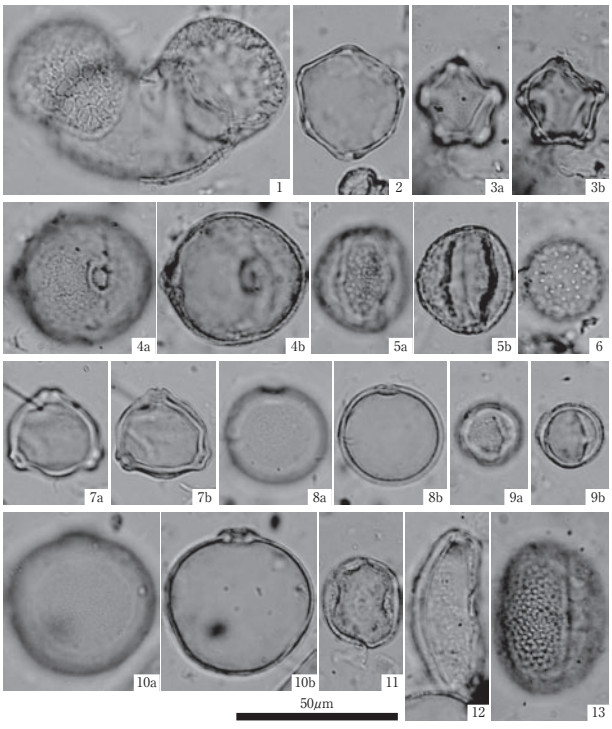
西壁のⅨb層、Ⅷb層をみると、花粉化石群集組成では草本類が圧倒的に多産することから、当時の周

辺では草本類の生育する開けた空間が増加した可能性が指摘される。木本類については前述のⅩｄ層～Ⅹｂ層と同様で、ブナ属が最も多く産出し、マツ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ亜属などを伴う。大きな変化は認められないことから、周辺植生は変わらずブナ属を中心とした落葉広葉樹林が広がっていたと考えられる。なお、Ⅹｄ層～Ⅹｂ層と比較するとハンノキ属やコナラ亜属割合がやや増加する。ハンノキ属は前述のように低湿地林の構成種であり、コナラ亜属は冷温帯性落葉広葉樹林の構成要素であるとともに、河畔などにも生育する種が含まれる。草本類の顕著な多産やこれらの割合が増加したことを踏まえると、より調査地点に近い植生を反映するようになった可能性がある。

草本類ではイネ科とカヤツリグサ科の多産で特徴づけられる。多産するイネ科には、栽培種の可能性があるイネ属型も含まれており、イネ科全体に占めるイネ属型の割合は、Ⅸｂ層で 32.2%、Ⅷｂ層で 39.0%であった。［中村 1980b］によると、現在の水田耕土に含まれるイネ属花粉の割合は 30%以上の比率であることから、イネ属の割合が 30%以上を示す場合、少なくともその付近で現在に近い集約度の稲作が行われていたとみなせると述べている。この結果と比較すると、Ⅸｂ層、Ⅷｂ層の割合が高いことから、これらの層位で稲作が行われていた可能性がある。また、同試料に認められるサジオモダカ属、オモダカ属、スブタ属、ホシクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属などの水湿地生草本は、いずれも水田雑草としても生育することから、これらも水田に由来する可能性が高い。なお、前述した当該期における開けた空間の増加は、稲作地の拡大に由来する可能性も考えられる。

なお、Ⅹｄ層～Ⅹｂ層でもイネ属型は検出されるが、その割合はⅩｄ層で 14.2%、Ⅹｃ層で 12.3%、Ⅹｂ層で 22.1%であり、前述の調査結果と比較すると少ない。過去に実施した植物珪酸体分析でも、少ないながらイネ属に由来する植物珪酸体、珪化組織片などが確認されたことから、当時の本遺跡周辺で稲作が行われており、堆積時にイネ属型花粉が取り込まれた可能性が指摘される。イネ属以外の栽培種としては、Ⅹｃ層、Ⅷｂ層よりソバ属の花粉が確認された。ソバについても、当時の遺跡周辺で栽培・利用されていた可能性がある。

種実の検出状況も花粉化石と同様に草本類が多い組成になっている。種実遺体の結果で草本類が多いのは、局地的な組成を反映していること（花粉は微細なため、遠くから飛来、もしくは水流により運搬される）、化石としての残りやすさなどが影響していると思われる。草本類をみると、重複する種類も多いことから、調和的な結果であり、遺跡周辺の植生を反映しているといえる。



1. マツ属（西壁；Ⅷb層）　2. サワグルミ属（西壁；Ⅸb層）　3. ハンノキ属（西壁；Ⅷb層）
4. ブナ属（西壁；Ⅷb層）　5. コナラ属コナラ亜属（西壁；Ⅷb層）　6. オモダカ属（西壁；Ⅷb層）
7. カバノキ属（西壁；Ⅸb層）　8. イネ科（西壁；Ⅷb層）　9. ヨモギ属（西壁；Ⅷb層）
10. イネ科（イネ属型）（西壁；Ⅷb層）　11. カヤツリグサ科（西壁；Ⅷb層）
12. ミズアオイ属（西壁；Ⅷb層）　13. ソバ属（西壁；Ⅷb層）

第 43 図　花粉化石

G　植物珪酸体分析

1）試　　料

西壁で 10 点（Ⅲｃ層、Ⅴｂ層、Ⅵｂ層、Ⅵｃ

層、Ⅷb層、Ⅸa層、Ⅸb層、Xa層、Xb層、Ⅻ層）、東壁で7点（Va層、Vb層、Ⅵb層、Ⅵc層、Ⅵd層、Xc層、Xd層）を植物珪酸体分析用の試料として選択した。試料の採取位置は第35図に示す。

2）分　析　方　法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、［近藤2010］の分類を参考に同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1ｇあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1ｇあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個体以下は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸める（100単位にする）。また、各分類群の植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

3）結　　果

西壁試料の結果を第18表と第44図、東壁試料の結果を第19表と第45図にそれぞれ示す。それぞれの壁面試料からは植物珪酸体が認められたものの、概ね保存状態が悪い。また植物珪酸体含量は、西壁試料で1,300～21,100個/g、100個/g未満～18,700個/gと、いずれの壁面試料でもばらつきが大きい。

西壁試料では、栽培植物であるイネ属がXb層から出現し、Ⅵc層を除いて上位にかけて連続的に産出する。その含量は、層位的に増減を繰り返す。この中で、産出のピークがXa層（短細胞珪酸体が1,200個/g、機動細胞珪酸体が2,200個/g）とⅧb層（短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がともに1,100個/g）で見られる。

この上位のⅢc層、Va層、Ⅵb層ではイネ属の含量が多く、短細胞珪酸体が1,600～4,500個/g、機

（個/g）

分類群	Ⅲc層	Va層	Ⅵb層	Ⅵc層	Ⅷb層	Ⅸa層	Ⅸb層	Xa層	Xb層	Ⅻ層
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ属	1,600	4,500	1,600	-	300	1,100	700	1,200	200	-
クマザサ属	500	1,000	800	-	-	-	200	700	200	300
タケ亜科	200	-	400	200	500	-	700	600	200	200
ヨシ属	500	1,000	800	-	300	-	1,400	1,200	500	500
ススキ属	500	-	-	-	200	300	200	300	-	-
不明	5,400	4,000	5,300	200	1,800	2,300	1,400	1,000	300	600
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ属	3,300	2,500	1,600	-	300	1,100	500	2,200	200	-
クマザサ属	500	1,500	800	-	200	300	500	900	200	500
タケ亜科	700	1,000	2,800	-	300	-	200	300	300	200
ヨシ属	200	1,000	400	200	-	600	900	1,300	900	800
ススキ属	200	-	-	-	200	-	-	100	-	-
不明	4,200	3,500	6,500	700	800	1,700	2,400	5,300	200	1,700
合　計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	8,600	10,600	8,900	400	3,200	3,700	4,700	5,000	1,400	1,500
イネ科葉身機動細胞珪酸体	9,100	9,600	12,200	900	1,800	3,700	4,500	10,200	1,700	3,000
植物珪酸体含量	17,700	20,200	21,100	1,300	5,000	7,400	9,200	15,200	3,100	4,500
珪化組織片										
イネ属穎珪酸体	＊＊	＊＊	＊	-	＊	＊	＊	＊＊	＊	-
イネ属短細胞列	＊	＊＊	＊	-	＊	＊	＊	＊	＊	-

含量は、10の位で丸めている（100単位にする）
合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている
<100：100個/g未満
－：未検出,＊：含有,＊＊：多い

第18表　西壁の植物珪酸体含量

（個/g）

分類群	Va層	Vb層	Ⅵb層	Ⅵc層	Ⅵd層	Xc層	Xd層
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ属	600	2,200	<100	-	-	200	100
クマザサ属	1,700	1,100	-	-	-	400	-
タケ亜科	900	1,300	-	-	-	200	100
ヨシ属	600	1,100	<100	<100	<100	400	700
ススキ属	500	900	-	-	-	<100	-
不明	4,900	5,800	300	-	-	700	400
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ属	500	1,300	100	-	-	400	300
クマザサ属	1,000	500	-	-	-	500	400
タケ亜科	500	900	-	-	-	200	100
ヨシ属	600	900	-	-	-	300	400
不明	3,200	2,700	300	-	-	700	800
合　計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	9,200	12,400	400	<100	<100	1,900	1,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体	5,900	6,300	400	-	-	2,000	2,100
植物珪酸体含量	15,100	18,700	800	<100	<100	3,900	3,400
珪化組織片							
イネ属穎珪酸体	*	*	-	-	-	-	-
イネ属短細胞列	*	*	*	-	-	*	-

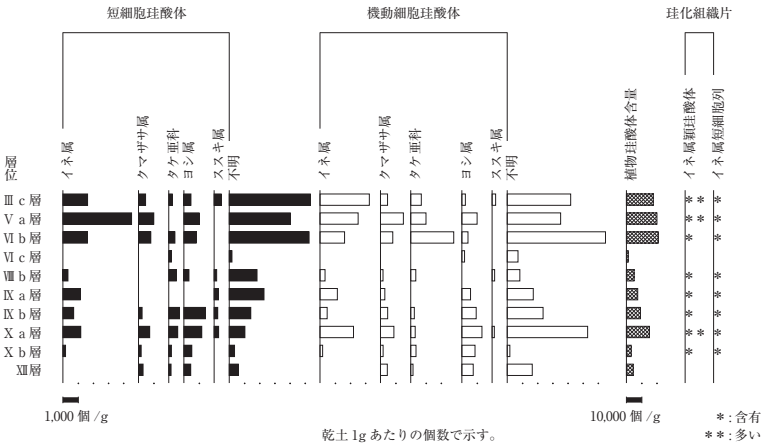
含量は、10の位で丸めている（100単位にする）
合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている
<100：100個/g未満
－：未検出,＊：含有,＊＊：多い

第 19 表　東壁の植物珪酸体含量

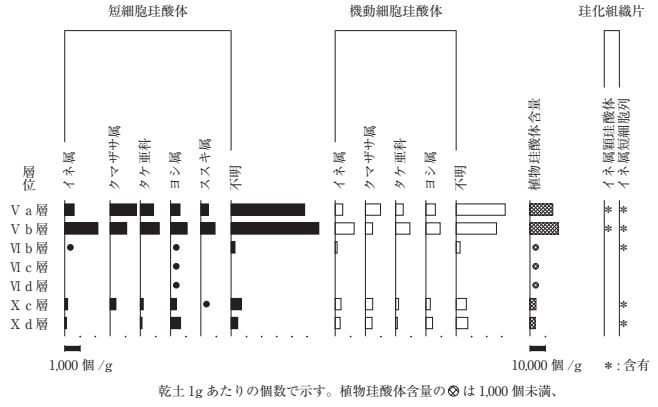
動細胞珪酸体が 1,600 ～ 3,300 個 /g である。珪化組織片として、イネの籾殻（穎）に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列も検出され、Ⅹａ層やⅢｃ層、Ⅴａ層で多い。

この他に、各土層から検出された分類群はクマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などである。その産状には、層位的な変化が見られる。Ⅻ層～Ⅸｂ層ではヨシ属の産出が目立ち、Ⅵｂ層～Ⅲｃ層ではイネ属の産出が目立ち、クマザサ属を含むタケ亜科も多い。

一方、東壁試料ではイネ属がⅩｄ層から出現し、Ⅵｄ層やⅥｃ層を除いてⅥｂ層から上位にかけて連続的に産出する。その含量は、層位的に増減を繰り返す。



第 44 図　西壁における植物珪酸体含量の層位的変化



第 45 図　東壁における植物珪酸体含量の層位的変化

下部のⅩｄ層やⅩｃ層では短細胞珪酸体が 100 ～ 200 個 /g、機動細胞珪酸体が 300 ～ 400 個 /g であるが、その上位のⅥｄ層～Ⅵｃ層では産出せず、Ⅵｄ層で短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が 100 個 /g 前後となり、Ⅴｂ層で短細胞珪酸体が 2,200 個 /g, 機動細胞珪酸体が 1,300 個 /g に増加し、Ⅴａ層で短細胞珪酸体が 600 個 /g, 機動細胞珪酸体が 500 個 /g に減少する。イネの籾殻（穎）に形成される穎珪酸体や葉部

の短細胞列もＸｃ層やⅥｂ層～Ｖａ層で検出される。

この他に、西壁試料と同様にクマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属なども認められる。

4）考　　察

今回の植物珪酸体の産状を見ると、植物珪酸体含量が多い層位は不明も含めたすべての分類群で含量が多い。これは、堆積物中の植物珪酸体の含量変化が堆積機構（タフォノミー）の影響を強く受けたことを反映していると考えられる。つまり、堆積層が安定して形成された場合には生育する植物も多くなって植物珪酸体の供給量も増え、逆に流水などの影響で植物の生育量が少ない場合には植物珪酸体が少なくなることを意味している可能性がある。

西壁Ⅻ層では、植物珪酸体が検出されるものの、含量が少ない。また、イネ属に由来する植物珪酸体も検出されない。珪藻分析の結果では、検出された化石の量が少なく、堆積環境を確定できないが、砂と腐植を含むシルトの互層である点を考慮すると、本地点は河川の流れの影響を受けるような状態であり、稲作が行われていなかった可能性が高い。

水田耕作土とされるＸａ層では、下位や上位と比較してイネ属の含量が多く、珪化組織片の検出も多かった。この点は、イネ属の籾や葉部などの植物体が埋積して植物珪酸体が多く供給されたことを反映すると考えられる。これはＸａ層での稲作を反映し、発掘調査所見を裏付けるものといえる。一方で、その下位にあたるＸｂ層・Ｘｃ層・Ｘｄ層でもイネ属の植物珪酸体や珪化組織片が産出するが、その含量が極めて少ない。おそらくは、Ｘａ層水田の耕作に伴う撹乱等による落ち込みの可能性がある。ただし、植物珪酸体の含量は堆積環境や耕作期間などが反映すると思われ、この時期から稲作が行われていた可能性も否定はできず、堆積環境や他の植物化石（花粉分析や種実同定）を含めてあらためて検討する。

Ⅸｂ層からⅨａ層、Ⅷｂ層にかけては、Ⅸｂ層が撹拌されて上位のⅨａ層やⅧｂ層が形成されている。イネ属がⅨａ層で産出のピークが見られることから、Ⅸａ層での稲作が想定される。Ⅸｂ層やⅧｂ層での水田耕作土の可能性については花粉分析や種実同定を含めてあらためて検討する。

Ⅶ層の砂礫層を挟んで上位のⅥｂ層では下位よりもイネ属の含量が増加しており、稲作の存在を示唆するものと思われる。なお、東壁のⅥｂ層ではイネ属の含量が少なかった。東壁は地形的に高い側に有ることから、西壁側と比べて堆積環境が異なっていた可能性がある。この点は、珪藻分析により堆積環境を調べてあらためて検討する。またⅥｄ層やⅥｃ層ではイネ属が産出しなかった。この産状を見る限り、これらの層位での稲作は考えにくい。

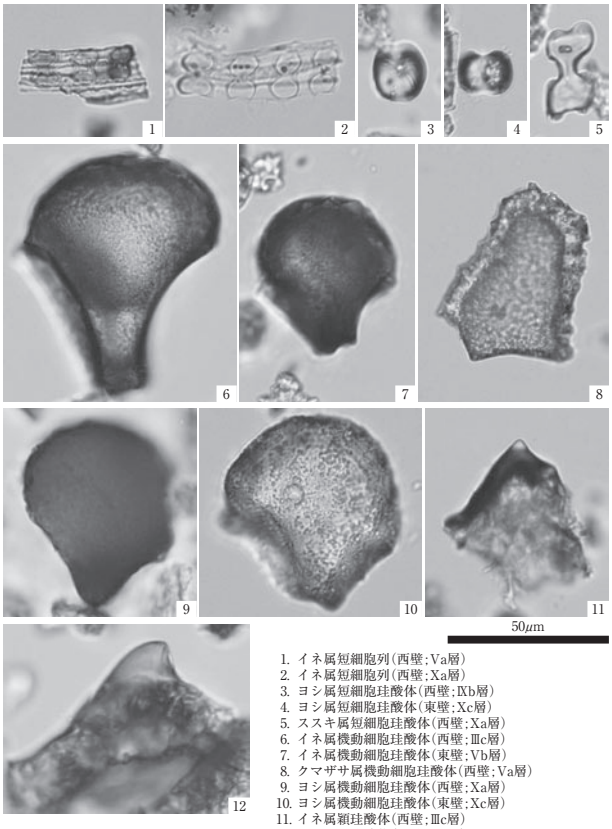
Ｖｂ層でも、イネ属の産出のピークが見られた。Ｖｂ層は畦畔を構成する、腐植とシルトの互層である。今回のイネ属の産状は、畦畔を構築する際に稲作耕土を混ぜ込んでいた可能性を示唆する。

Ｖａ層は、Ｖｂ層を攪拌した水田耕作土層とされる。西壁ではイネ属の産出が多く、Ｖａ層での稲作を反映するものと思われる。一方で東壁ではイネ属の産出が少なかった。上位にⅣ層の砂礫層が見られたことから、流水に伴う削剥の影響を受けて、植物珪酸体の保存が悪かったと考えられる。また、Ⅲｃ層でもイネ属が産出し、Ⅳ層が形成された後に稲作が行われたことを示唆すると考えられる。

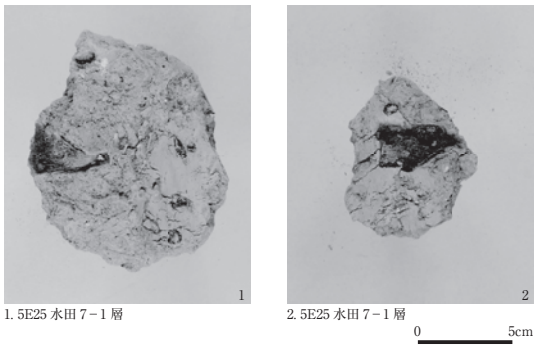
ところで、調査した層位から検出された分類群より、土層が形成される過程でクマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などのイネ科植物が生育していたと思われる。西壁での産状を見ると、Ｘａ層やⅨｂ層が形成される頃はヨシ属などが生育する湿潤な場所であったことが想定される。

最後に、種実同定、花粉分析等の分析結果を踏まえ、各層における稲作の状況を確認する。植物珪酸体

分析の結果、Ⅹａ層、Ⅸａ層、Ⅴａ層において稲作の可能性が示された。そのほかに、東壁のⅩｄ層、Ⅹｃ層では少数ながらイネ属の植物珪酸体が検出されている。種実同定、花粉分析でもイネ属が少数ながら検出されていることから、周辺における稲作や、稲作が行われたが、耕作期間が短かった可能性が指摘される。また、Ⅸａ層では多量のイネ属植物珪酸体が検出されるが、その上下に堆積するⅨｂ層、Ⅷｂ層でも検出量は減じるがある程度のイネ属植物珪酸体が確認されている。これらの層について種実同定、花粉分析の結果を見ると、両者ともにイネ属が検出されている。このことから、Ⅸｂ層、Ⅷｂ層についても稲作が行われていた可能性はあるが、Ⅸａ層に比して検出量が少ない理由として、耕作期間が短かった等の点が考えられる。



第 46 図　植物珪酸体



第 47 図　骨

H　骨　同　定

1）試　　料

試料は 5E25 水田７－１層から出土した骨片１点である。土塊状となっている。

2）分　析　方　法

骨の観察では通常、埋包される母材から分離し、その形状を記録する。しかし、今回の試料では土壌から取り外したことにより骨自体が崩壊する恐れがあるため、そのままの状態で肉眼観察する。

3）結果及び考察

5E25 水田７－１層から出土した骨片は保存状態が極めて悪く、骨の種類や部位などを明らかにすることができない。骨片は青色を呈し、ビビアナイト（藍鉄鉱）が著しく析出していることがうかがえる。ビビアナイトは、骨の主成分であるリン酸が水分中に溶出している鉄分と結合している状態にあり、本来は無色透明であるが、空気に触れて酸化することで暗青色ないし暗緑色に急速に変化する。低湿地から出土する骨によく見受けられる。

第6節　自然科学分析　引用文献

安藤一男　1990「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理 42』 73-88p

安藤一男・南雲　保　1983「埼玉県荒川低地沖積層のケイソウ」『日本歯科大学紀要 1983（12）』 241-249p

石川茂雄　1994　『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会　328p

伊東隆夫　1995　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料 31』 京都大学木質科学研究所　81-181p

伊東隆夫　1996　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料 32』 京都大学木質科学研究所　66-176p

伊東隆夫　1997　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料 33』 京都大学木質科学研究所　83-201p

伊東隆夫　1998　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料 34』 京都大学木質科学研究所　30-166p

伊東隆夫　1999　『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ 木材研究・資料 35』 京都大学木質科学研究所　47-216p

伊東隆夫・山田昌久編　2012　『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社　449p

伊藤良永・堀内誠示　1989「古環境解析からみた陸生珪藻の検討　－陸生珪藻の細分－」『日本珪藻学会第 10 回大会講演要旨集 17』

伊藤良永・堀内誠示　1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『日本珪藻学誌 6』 23-44p

近藤錬三　2010　『プラント・オパール図譜』 北海道大学出版会　387p

笠原安夫　1982　「鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について」『鳥浜貝塚 1980 年度発掘調査概報・研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査２－』 福井県教育委員会　65-87p

小杉正人　1986　「陸生珪藻による古環境の解析とその意義－わが国への導入とその展望－」『植生史研究　1』 9-44p

小杉正人　1988　「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究 27』 1-20p

島倉巳三郎　1973　「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第 5 集』 60p

島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』 地球社　176p

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文　2018　「草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる 734 種　増補改訂－」『ネイチャーウォッチングガイドブック』 誠文堂新光社　303p

田中宏之　1987　「群馬県高崎市北部から発掘された古代水田の珪藻」『群馬県立歴史博物館紀要 8』 1-20p

谷城勝弘　2007　『カヤツリグサ科入門図鑑』 全国農村教育協会　247p

千木良雅弘　1995　『風化と崩壊』 近未来社　204p

中村　純　1980a　「日本産花粉の標徴 Ⅰ Ⅱ（図版）」『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第 12・13 集』 91p

中村　純　1980b　「花粉分析による稲作史の研究」『自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究 －総括報告書－』 文部省科研費特定研究「古文化財」総括班　187-204p

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2010　『日本植物種子図鑑（2010 年改訂版）』 東北大学出版会　678p

新田みゆき　2001　「シソとエゴマの分化と多様性」『栽培植物の自然史－野生植物と人類の共進化－』 山口裕文・島本義也編　北海道大学図書刊行会　165-175p

林　昭三　1991　『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所

藤木利之・小澤智生　2007　『琉球列島産植物花粉図鑑』 アクアコーラル企画　155p

三好教夫・藤木利之・木村裕子　2011　『日本産花粉図鑑』 北海道大学出版会　824p

渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻彰洋・伯耆晶子　2005　『淡水珪藻生態図鑑』 内田老鶴圃　666p

Asai Kazumi and Watanabe Toshiharu　1995　Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10,　35-47p

Bronk RC.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51　337-360p

Desikachary, T. V.　1987　Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation,1-13p Plates　401-621p

Hustedt, F.　1930　Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts

Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1　920p

Hustedt, F.　1937-1938　Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15　131-809p　1-155p　274-349p.

Hustedt, F.　1959　Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2　845p

Hustedt, F.　1961-1966　Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3　816p

Krammer, K. and H. Lange-Bertalot　1985　Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, vol. 9　250p

Krammer, K. & H. Lange-Bertalot　1986　Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa,2（1）　876p

Krammer, K. & H. Lange-Bertalot　1988　Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa,2（2）　596p

Krammer, K. & H. Lange-Bertalot　1990　Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa,2（3）　576p

Krammer, K. & H. Lange-Bertalot　1991　Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa,2（4）　437p

Lange-Bertalot, H., Witowski, A., Metzeltin, D.　2000　ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts ,1　925p

Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J.　2013　IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon.55. 1869–1887p

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）　2006　『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』　伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）　海青社　70p［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon.19. 355-363p

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）　1998　『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』　伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）　海青社　122p　［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）　IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］

7　ま　と　め

A　杭列について

1）概　　要（第 20・21 表）

今回の調査では複数の杭が出土し、北調査区では西杭列・中央杭列・東杭列の３列の杭列が確認できた。平成 27 年度の試掘調査時に出土した杭なども合わせると、杭の総数は 85 本に上る。内訳は西杭列 12 本、中央杭列 64 本、東杭列３本、その他単独出土の杭６本で、中央杭列の本数が圧倒的に多い。整理中、分割杭について接合を試みたが、接合するものを確認できなかった。杭には、打込み時の衝撃で杭頭が潰れ、杭頭周辺がその時の衝撃により圧縮されて表面に横シワがみえるものがある。このような打込み時の痕跡があるもの、もしくは、打込み痕の一部が残っていると判断したものを完形・ほぼ完形とし、39 本を確認した。杭は杭頭近くの樹皮下が腐食し、割面は打込み時の衝撃により二次的に縦割れしたものがあるが、素材は杭頭にあたる上端に向かい先細りとなる形状のものが多い。木取りでは、分割する方法が

凡例（樹種）：（ ）付けは目視で判断したもの

報告番号	出土位置			法量（cm）		標高（m）		状態		遺存	樹種	木取り	備考
	グリッド	遺構名	列	長さ	最大幅	杭頭	杭先	杭頭	杭先				
10	5C24	杭3	西	(73.5)	6.7	−	103.390	欠損	一部欠損	−	クリ	削出心去	
−	5C24，5D4	杭4	西	(68.0)	6.2	104.013	103.364	欠損	尖る、一部欠損	−	(クリ)	削出心去	
−	5D4	杭5	西	(76.0)	4.7	103.985	103.305	欠損	尖る	−	(クリ)	削出心去	
11	5D4・5	杭6	西	(72.1)	(6.0)	−	103.385	欠損	ささくれて平坦	−	クリ	削出心去	
12	5D10	杭7	西	(75.0)	8.6	−	103.399	欠損	ささくれて平坦、横シワ	−	クリ	分割心去	
13	5D15	杭8	西	70.9	6.3	−	103.461	一部打込み打撃痕	ささくれて平坦	ほぼ完形	クリ	分割心去	
14	5D20	杭9	西	91.1	8.4	104.189	103.258	一部打込み打撃痕、横シワ	丸い	ほぼ完形	クリ	分割心去	
16	6E1	杭12	西	59.0	6.6	104.007	103.424	打込み打撃痕	丸い	完形	クリ	削出心去	
15	5E10	杭15	西	(95.7)	6.9	104.113	103.279	欠損	尖る	−	クリ	分割心持	
−	6D21	杭64	西	83.0	5.0	103.979	103.048	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	(クリ)	分割心去	
18	5D20	杭58	西	(62.4)	5.4	北103.916	南103.847	欠損	欠損	−	クリ	分割心去	横位で出土
17	5D9・14	杭60	西	(59.9)	3.6	北103.964	南103.952	欠損	丸い	−	クリ	分割心去	横位で出土
20	5D20	杭10	中央	74.7	4.9	103.970	103.227	打込み打撃痕、横シワ	尖る、横シワ、ささくれ多い	完形	クリ	分割心持	
21	5D20，6D16	杭11	中央	58.1	5.5	103.785	103.247	打込み打撃痕	ささくれて平坦	完形	クリ	分割心持	
23	6E1	杭13	中央	119.8	(5.4)	103.677	102.612	打込み打撃痕、横シワ	丸い	完形	ヤナギ属	丸木取り	
24	6E1	杭14	中央	(93.6)	(5.8)	103.786	102.862	欠損	平坦	−	クリ	分割心去	
−	6E6	杭16	中央	51.7	5.8	103.652	103.151	打込み打撃痕	丸い	完形	(クリ)	分割心持	
−	6E11	杭17	中央	(87.5)	5.3	103.751	102.957	切損	丸い	−	(クリ)	分割心去	
−	6E11	杭18	中央	(100.0)	4.0	103.891	102.933	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心持	
25	6E11	杭19	中央	(87.8)	4.5	103.803	102.946	欠損	尖る	−	クリ	分割心去	
26	6E11	杭20	中央	(95.4)	6.5	103.830	102.952	欠損	尖る、ささくれ多い	−	クリ	分割心去	
−	6E16	杭21	中央	(62.5)	7.3	103.718	103.152	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心持	
−	6E16	杭22	中央	106.0	7.0	103.794	102.788	一部打込み打撃痕、横シワ	平坦	ほぼ完形	(クリ)	半割	
−	6E16	杭23	中央	84.0	6.7	103.836	103.085	打込み打撃痕、横シワ	丸い	完形	(クリ)	分割心去	
−	6E16	杭24	中央	112.5	6.5	103.903	102.823	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	(クリ)	分割心去	
−	6E16・21	杭25	中央	114.0	8.5	103.885	102.873	打込み打撃痕、横シワ	丸い	完形	(クリ)	半割	
−	6E21	杭26	中央	(83.0)	7.5	103.839	103.019	欠損	尖る、加工の稜線あれ	−	(クリ)	分割心去	
−	6E21	杭27	中央	95.0	6.7	103.847	102.984	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	(クリ)	分割心去	
−	6E21・22	杭28	中央	(109.0)	6.5	103.880	102.894	欠損	尖る	−	(クリ)	分割心持	下端一部炭化か
−	6E21・22	杭29	中央	(113.5)	4.8	103.811	102.737	欠損	平坦	−	(クリ)	分割心去	
−	6F2	杭30	中央	(98.0)	5.0	103.804	102.869	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心去	
−	6F2	杭31	中央	90.0	6.8	103.693	102.842	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	(クリ)	分割心去	
27	6F2	杭32	中央	119.3	6.6	103.867	102.751	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	クリ	分割心去	
−	6F2	杭33	中央	116.0	6.5	103.867	102.732	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	半割	
−	6F7	杭34	中央	120.0	6.5	103.911	102.753	打込み打撃痕、横シワ	丸い	完形	(クリ)	分割心持	
−	6F7	杭35	中央	91.0	4.2	103.812	102.914	打込み打撃痕、横シワ	丸い	完形	(クリ)	分割心持	
−	6F7	杭36	中央	(82.5)	5.5	103.720	102.936	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心持	
−	6F7	杭37	中央	86.5	8.5	103.912	103.087	一部打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	ほぼ完形	(クリ)	分割心去	
28	6F7	杭38	中央	(125.1)	5.7	103.896	102.663	欠損	尖る、加工の稜線あれ	−	クリ	分割心去	
−	6F12	杭39	中央	122.0	6.5	103.882	102.671	一部打込み打撃痕、横シワ	尖る、横シワ	ほぼ完形	(クリ)	分割心持	
−	6F12	杭40	中央	(111.0)	6.5	103.996	103.035	欠損	ささくれて平坦	−	(クリ)	分割心去	
29	6F12	杭41	中央	(96.5)	7.5	103.936	102.985	欠損	ささくれて平坦	−	クリ	分割心去	
−	6F12	杭42	中央	(96.0)	5.5	103.940	103.012	切損	尖る	−	(クリ)	分割心持	
−	6F17	杭43	中央	80.0	7.8	103.916	103.262	一部打込み打撃痕、横シワ	平坦	ほぼ完形	(クリ)	分割心去	
−	6F17	杭44	中央	(92.0)	5.0	103.930	103.008	欠損	平坦	−	(クリ)	分割心持	
−	6F17	杭45	中央	86.0	6.7	103.978	103.138	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心去	一部炭化か
−	6F17	杭46	中央	81.5	6.0	103.824	102.996	打込み打撃痕、横シワ	尖る	完形	(クリ)	分割心去	
−	6F22	杭47	中央	(93.0)	5.5	103.972	103.083	欠損	ささくれて平坦	−	(クリ)	分割心持	
−	6F22	杭48	中央	91.0	7.0	103.967	103.083	一部打込み打撃痕、横シワ	尖る	ほぼ完形	(クリ)	分割心持	
−	6F22	杭49	中央	92.0	5.2	103.937	103.032	打込み打撃痕、横シワ	尖る	完形	(クリ)	分割心持	
−	6F22	杭50	中央	(115.0)	5.0	103.991	102.898	欠損	ささくれて平坦、横シワ	−	(クリ)	分割心持	
−	6G2	杭51	中央	114.0	8.0	104.049	102.822	一部打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	ほぼ完形	(クリ)	分割心持	
−	6G2	杭52	中央	112.7	7.5	104.038	102.965	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心去	
−	6G1・2	杭53	中央	113.5	8.5	104.066	103.082	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	(クリ)	偏半割	下端炭化か
−	6G1	杭54	中央	(88.0)	4.5	103.951	103.199	切損	ささくれて平坦	−	(クリ)	分割心去	
−	5D10	杭55	中央	110.0	5.5	103.857	102.801	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心去	
19	5D15	杭56	中央	65.5	8.0	103.773	103.183	打込み打撃痕、横シワ	尖る、横シワ多い	完形	クリ	分割心去	
−	5D10	杭57	中央	57.5	5.5	103.829	103.296	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心去	
−	6D21	杭59	中央	72.5	7.2	103.879	103.164	一部打込み打撃痕、横シワ	尖る、加工面ガサガサにあれ	ほぼ完形		丸木取り	
−	6E6	杭61	中央	79.5	4.7	103.767	103.018	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心去か	
−	6E6	杭62	中央	68.0	6.0	103.720	103.100	一部打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	ほぼ完形	(クリ)	分割心持	
−	6E1・6	杭63	中央	83.0	7.0	103.684	102.981	一部打込み打撃痕、横シワ	尖る	ほぼ完形	(クリ)	分割心持	
−	6E1	杭65	中央	(73.0)	5.0	103.662	102.976	欠損	平坦	−	(クリ)	分割心去	
−	6E1	杭66	中央	79.0	6.5	103.657	102.940	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心持	
−	6E1	杭67	中央	(77.5)	7.0	103.675	102.931	欠損	平坦、横シワ多い	−	(クリ)	分割心去	
−	6D21	杭68	中央	(93.0)	7.2	103.690	102.828	欠損、横シワ	平坦	−	(クリ)	分割心去	
22	6D21	杭69	中央	73.2	6.1	103.660	102.972	打込み打撃痕、横シワ	平坦	完形	クリ	分割心去	
−	6D21	杭70	中央	(102.0)	6.0	103.767	102.859	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心去	
−	6D21	杭71	中央	(75.0)	7.5	103.799	103.084	欠損	尖る、加工面ガサガサにあれ	−	(クリ)	分割心去	
−	6D21	杭72	中央	(64.0)	6.5	103.832	103.220	欠損	尖る、加工面ガサガサにあれ	−	(クリ)	分割心持	
−	5D20	杭73	中央	(74.0)	6.0	103.859	103.217	欠損	尖る、加工面ガサガサにあれ	−	(クリ)	分割心持	
−	5D15	杭74	中央	(75.0)	7.0	103.842	103.204	欠損	ささくれて平坦、横シワ多い、加工面ガサガサにあれ	−	(クリ)	分割心持か	
−	5D15	杭75	中央	60.0	5.5	103.731	103.189	一部打込み打撃痕、横シワ	一部欠損	ほぼ完形	(クリ)	分割心去	
−	5D15	杭76	中央	(99.0)	7.0	103.880	102.925	欠損	平坦	−	(クリ)	分割心持	
−	5D10	杭77	中央	(64.5)	5.0	103.883	103.264	欠損	尖る、加工面ガサガサにあれ	−	(クリ)	分割心持	
−	5D10	杭78	中央	87.5	4.5	103.767	102.968	打込み打撃痕、横シワ	ささくれて平坦	完形	(クリ)	分割心持	
31	6D18	杭1	東	(12.1)	5.5	−	103.923	欠損	欠損	−	ヌルデ	丸木取り	炭化
30	6D12	杭2	東	(61.5)	4.4	−	103.938	欠損	ささくれて平坦、横シワ多い	−	クリ	分割心去	
32	6E17・18	杭79	東	(94.0)	6.5	−	−	欠損	丸い	−	クリ	偏半割	横位で出土 全体的に節を丁寧に落としていない
−	6D17	−	−	(61.0)	6.0	−	−	欠損	欠損	−	(クリ)	分割心去	杭1・2間に出土 Ｘｂ層
−	6E16	−	−	(78.0)	6.0	−	−	欠損	丸い	−	(クリ)	分割心去	杭23・24間に横位で出土
−	5C24	開渠内	−	(80.0)	7.0	−	−	欠損	尖る	−	(クリ)	削出心去	一部炭化か
−	6C23	開渠内	−	(46.0)	5.0	−	−	欠損	尖る	−		丸木取り	
−	6E11	27-13T	−	(72.0)	5.2	−	−	欠損	尖る	−	(クリ)	削出心去	杭中央部に圧痕か
33	5H18	27-14T	−	(152.9)	8.4	−	−	欠損	平坦	−	クリ	偏半割	

第20表　杭一覧

全体の８割を占める。樹種は水湿に強く割裂性が良いクリの分割材が多く、丸木取りでは、ヌルデやヤナギ属といったクリ以外の材を選んで利用していた様子がうかがえる。以下では、遺構各説で推測した用途の違いが、上記の杭の特徴からうかがえるかどうか検討する。

	西杭列（打ち込み杭のみ）		中央杭列	東杭列	計
	杭３～７	杭８以南			
丸木取り			2	1	3
半割			3		3
偏半割			1	1	2
分割心持		1	26		27
分割心去	1	3	32	1	37
削出心去	4	1			5
計	5	5	64	3	77

第 21 表　各杭列の木取り

２）西　杭　列

杭３～７と杭８以南では、杭の用途に違いがあることを遺構各説で述べた（第Ⅱ章第４節）。杭３～７は完形・ほぼ完形の杭がなく、樹種はすべてクリ、木取りは５本中４本が削出心去、１本が分割心去であった。一方杭８以南の５本は、完形・ほぼ完形が４本で、長さは平均 76cm を測る。樹種はすべてクリ、木取りは５本中１本が削出心去、４本が分割の心持と心去であった。放射性炭素年代測定から杭９（西杭列の杭８以南に属する）は calAD1260 ～ 1291 が得られた。杭３～７と杭８以南の２つのグループは、前者が畦畔の補強、後者が水田造成の際の位置の割り出しなどといった用途の違いを想定しているが、杭の遺存状態や木取りにも明らかな偏りがみられた。

３）中　央　杭　列

64 本中、完形・ほぼ完形が 35 本と半数以上を占める。完形・ほぼ完形でみると、杭の長さは最短 51.7cm、最長 119.3cm の平均 90.49cm で、西杭列の杭８以南の最短 59.0cm、最長 91.1cm より平均にして 15cm ほど長い。木取りは丸木取り、半割、偏半割、分割心持、分割心去が確認できた。分割は心持と心去を合わせて 58 本に上り、中央杭列の大半を占める。樹種は丸木取りの２点以外はすべてクリであった。完形・ほぼ完形の上端の腐食範囲は、西杭列の杭８以南が平均 22cm であったが、中央杭列は平均 19cm である。地下水の豊富な地中深くに埋まっている杭は、空気や腐朽菌から遮断され形状を保っていられるが、地表面上及び乾湿を繰り返す地中では腐食が進む。腐食した範囲は打込み後、地中から外に出ていたかそれに近い位置と想定でき、中央杭列より西杭列の杭８以南の杭頭は、より地表近くの常湿でない環境に長期間さらされていた可能性が高い。中央杭列は杭の打設状況から、西杭列３～７と同様の用途（畦畔の補強など）を推測できるが、西杭列全体と比較すると中央杭列の方がより長い杭を多用していた可能性があり、西杭列の杭３～７に多くみられた削出心去は１点も確認できないなど、木取りや材の選び方に違いがみられる。放射性炭素年代測定から杭 10 は calAD1246 ～ 1288、杭 13 は calAD1224 ～ 1285 が得られ、西杭列の杭８以南よりも若干古い可能性がある。

４）東　杭　列

便宜上杭列としたが、列を構成するか否かは不明である。３本とも上端が欠損している。木取りは、丸木取り、分割心去、偏半割と様々で偏りがなく、樹種は、丸木取りがヌルデ、そのほかはクリである。放射性炭素年代測定から杭２は calAD1499 ～ 1648 が得られた。

５）小　　結

西杭列、中央杭列、東杭列をみてきたが、最後に各杭列の特徴などを改めて整理する。西杭列は杭の用

途の違いから、杭３～７と杭８以南の２つのグループに分かれることは先述したが、杭の木取りや遺存状態でも違いをみることができた。また、中央杭列ではいくつかの種類の木取りがみられたが、削り出しはなく、ほとんどが分割しての利用であった。遺存状態は完形・ほぼ完形が半数以上を占め、杭の長さは１m以上のものが約３割と多く、西杭列の杭８以南に比べて長いものが目立つ。一方、東杭列は、杭２の年代や打ち込み層位から、西杭列の杭８以南や中央杭列よりも時期は新しく、木取りに偏りはみられない。

放射性炭素年代測定で得られた年代及び調査所見からは、古い順に、中央杭列→西杭列→東杭列という変遷を想定できるが、杭の特徴からも西杭列と中央杭列間で木取りを中心に違いがみられた。また、畦畔の補強という同じ目的を持つと想定した西杭列の杭３～７と中央杭列では、木取りに違いがあるほか完形品の比率や杭頭近くの腐食範囲に違いがみられた。完形品の比率や腐食範囲の違いは、杭が機能していた期間の長短に関係していると考えられ、中央杭列の機能面は洪水による土壌流失と再堆積により短期でその役割を終えている可能性が高く、腐食を誘発する時間が短く、杭頭も比較的残りやすい環境であったと推測される。逆に西杭列の杭３～７は打設以降、複数の水田面で継続して機能した様子が確認でき、腐食に伴う期間は中央杭列より長かったものと推測される。

以上のように杭の分析からは、西杭列の杭３～７と杭８以南、そして中央杭列でそれぞれ違いが見いだせ、これらの杭のグループがそれぞれ用途の違いや打設時期を異にしているという調査所見に調和的な結果を得た。しかし、用途については想定の域を出ず、それぞれの杭グループでみられた杭の特徴が機能的合理性を持つかについては今回調査できなかった。今後の検討課題である。

B　水田について

今回の調査では、水田、畦畔、溝、杭列などを検出した。最も古い段階は13世紀後半で、その後は現代に至るまで洪水や休耕期を挟みつつ水田耕作を繰り返し行っていた様子が判明した。ここでは、まず県内の中世水田遺跡を概観し、その後今回の調査でみつかった主な水田耕作面について区画や利水状況などを検討してまとめとする。なお、遺構埋土や自然堆積層中から古代の遺物が出土しているが、確実に古代に帰属する遺構はみつかっておらず、これらの遺物は洪水などによって周辺から流れ込んだものと理解した。

１）県内の中世水田遺跡

県内における中世の水田検出例は約20と少なく［佐藤2019］、それらは平野部の平坦地や丘陵裾の微高地などに位置している（第22表）。検出された水田の多くは、周辺の土壌を盛り上げて畦畔としたもので、新潟市小坂居付遺跡［佐藤ほか2012］、三条市上道下西遺跡（中世水田）［鈴木ほか2012］、柏崎市宝田遺跡［飯坂ほか2015；秋山ほか2015；加藤ほか2018］、柏崎市丘江遺跡［春日ほか2019］などが例として挙げられる。また、乏水地帯を50～70cmほど掘りくぼめて水田耕作地を作る掘込田［能登1996］は、阿賀野市鴨深甲遺跡［高橋ほか2006］、新潟市細池遺跡・寺道上

遺跡名	所在	時期
鴨深甲遺跡	阿賀野市	14～15世紀前半
細池遺跡 寺道上遺跡	新潟市秋葉区	中世
沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区	12世紀後半～13世紀後半
小坂居付遺跡	新潟市南区	13世紀後半～14世紀
上道下西遺跡	三条市	14世紀後半
石田遺跡 梅田遺跡	三条市	13～14世紀
大武遺跡	長岡市	14～15世紀
宝田遺跡	柏崎市	13～15世紀
丘江遺跡	柏崎市	12～15世紀
下沖北遺跡	柏崎市	13～14世紀
工田遺跡	魚沼市	13世紀後半～17世紀
池田遺跡	上越市	13世紀中葉～16世紀
用言寺遺跡	上越市	13世紀～14世紀前半
下割遺跡	上越市	14～17世紀前半
清水田遺跡	上越市	中世
岩倉遺跡	糸魚川市	15世紀
山岸遺跡	糸魚川市	13世紀末～14世紀前半

第22表　県内の主な中世水田遺跡

遺跡［小池ほか1994］、三条市石田遺跡・梅田遺跡［髙野ほか2019a・b］などが挙げられる。一方で、過水地帯の一部を溝状などに掘り下げ、その排土を掘り残した部分に盛り上げて水田耕作地を作る掘上田［能登1996］は、県内の発掘調査事例では確認されていない。また、掘上田のように大規模で計画性が強く開墾時や保守管理に協業が必要なものは組織型開発とし、一方で掘込田のような規則性や計画性の少ないものは個別型開発としている［能登1996］。水田形態の選択背景には、このような地域開発における社会的な情勢や労働力の大小なども考慮する必要があろう。

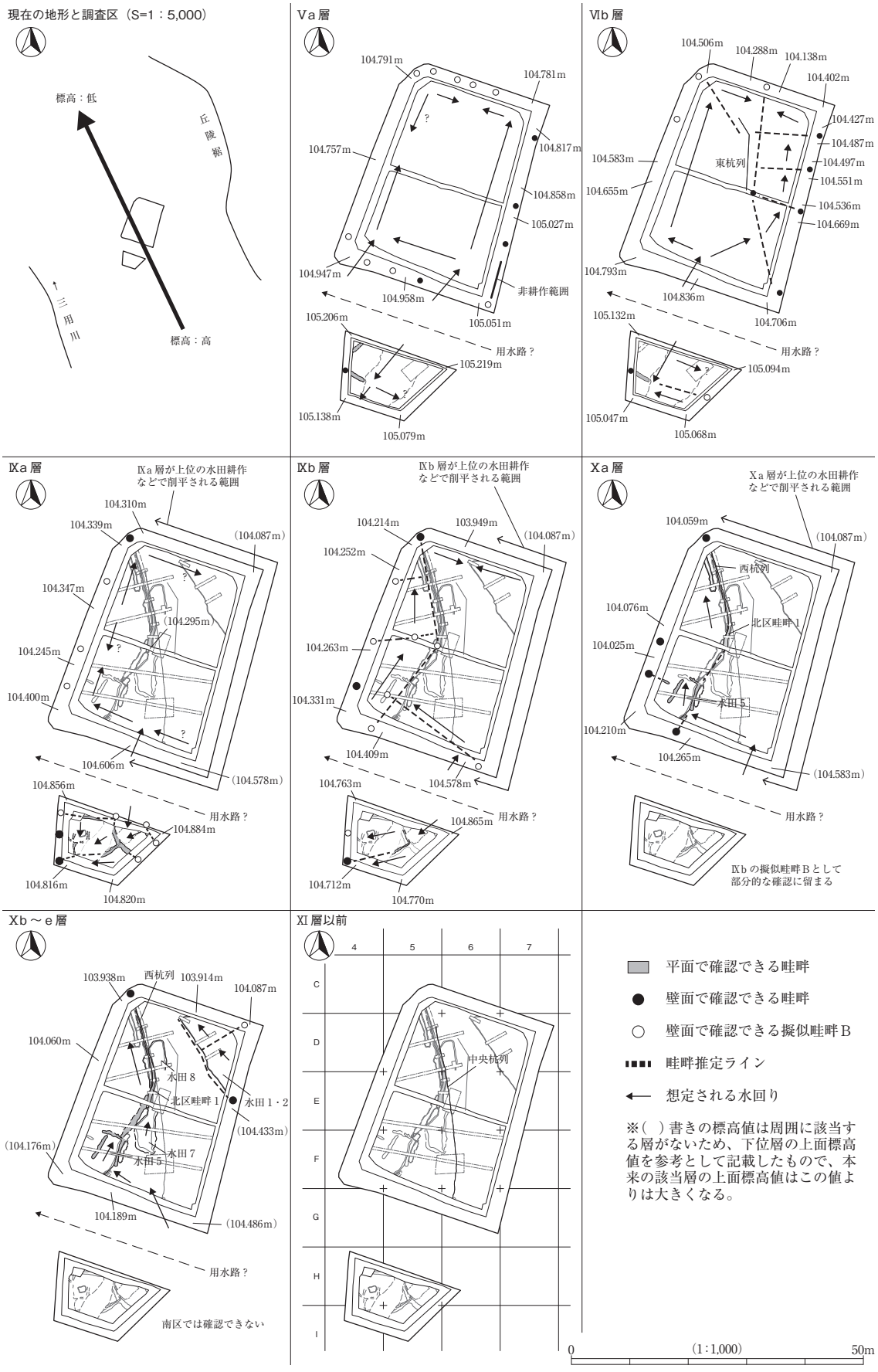
工田遺跡では、三用川左岸の緩傾斜地に畦畔を伴う水田を造成していた様子を確認した。緩傾斜地における水田の例は、時期は異なるものの上越市延命寺遺跡で奈良時代の水田がみつかっている。畦位置や区画方向を工夫することで、最小限の地盤改変で水田を造成した例とされる［鈴木2019］。工田遺跡においても、各水田耕作面によって畦畔や区画方向を細かく改変しながら、緩傾斜地に低い段差を付けた水田を造成したものと推測できる。各水田は水口で接続され、高位水田から低位水田へと田伝いに給水したものと想定できる。調査区内では給水元となる用水路や排水路などは確認できないが、その存在を疑わせる地点が確認できた（次目参照）。なお、水田１枚あたりの面積は、地形の制約により非常に小さい。

２）主な水田耕作面の状況

ここでは、比較的遺存状況が良く、調査区内で広く確認できる水田耕作面について検討を行う。ただし、遺存状況が良いといっても、各層の水田耕作面は後世の水田耕作や洪水などで失われている部分が多い。そのため、あくまで現状での畦畔や層上面の標高（以下、上面標高とする）や、該当層の下面状況などから区画や利水状況を検討するものであることを予め断っておく。検討を行ったのは、Ⅴａ・Ⅵｂ・Ⅸａ・Ⅸｂ・Ⅹａ・Ⅹｂの各層と、Ⅺ層以下（中央杭列）についてである（第48図）。

Ⅴａ層　Ⅴａ層は自然堆積層であるⅤｂ層を撹拌して水田耕作土とした層である。上面標高は、北区は南から北へ、南区は北から南へ緩やかに傾斜し、未調査範囲である両調査区の間が高くなっている。この範囲は水田以外の土地利用、例えば道路や南北水田へ給水するための用水路などの存在を疑わせる。このような上面標高の位置的特徴はⅨｂ層段階から認められ、南区ではほとんど確認できなかったⅩ層段階も同様の景観であったと推測する。北区では東壁を中心に畦畔や擬似畦畔Ｂを確認した。北区南東側6G5・10付近では非耕作範囲（Ⅴｂ層の盛り上がり）が確認でき、この付近が最も上面標高が高い。北壁7D1や東壁7E22などでは畦畔の前後で低いながらも耕作土上面に高低差が認められる。また、西壁では畦畔こそ未確認だが、4E付近で耕作土下面に段差が認められ、畦畔の存在を疑わせる。このように、北区では水田に緩やかな段差を設け、南側の高位水田から北側の低位水田へ田伝いに給水したもとの推測できる。一方南区では、北東－南西、北西－南東方向で畦畔を検出した。水口と考えられる部分もあることから、北区同様田伝いに水を回していたものと想定できる。Ⅴａ層は、出土遺物やⅥｂ層に伴う可能性が高い東杭列の年代などから、帰属時期は17世紀前半以降に比定できる。Ⅴａ層とⅥｂ層は自然堆積層（Ⅴｂ層）を挟んでいるが、畦畔が共通する地点にあることが多く認められることから、それほど時期差はないものと考えられる。

Ⅵｂ層　下位のⅥｃ層から連続する水田耕作層で、Ⅵｃ層の上半を水田耕作土に利用している。Ⅵｂ・ｃ層は細かく撹拌された腐植物ブロックを含むシルト層で、Ⅶ層（洪水層）上に形成された自然堆積層が由来と考えられる。北区東杭列は、杭２杭頭標高からⅥｂ層に伴う可能性が高い。杭列が畦畔に伴うものだと仮定し、壁面で確認した畦畔の位置などを加味すると、北西－南東方向の畦畔やこれに直交する北



第 48 図　主要層別の水田配置

東－南西、もしくは東西方向の畦畔を想定できる。ここから想定される水田１枚あたりの面積は非常に小さく、Ｘａ層で検出した水田５と同等もしくはやや大きい程度の規模と考えられる。東壁 7D・E で確認できる畦畔の前後では、耕作土上面に約５～ 13cm の高低差が認められ、Ｖａ層と同様に南から北に向けて田伝いに給水した様子が推測できる。南区はＶａ層段階と似た傾向を示すが、北東側の上面標高が低い点で異なる。ただし、これが当時の状況を示しているものか、Ｖａ層の水田耕作による影響かは判然としない。なお、Ⅵｂ層の帰属時期は東杭列の杭２の年代から 16 世紀～ 17 世紀前半に比定できる。

Ⅸａ層　下位のⅨｂ層から連続する水田耕作層で、Ⅸｂ層の上半を水田耕作土として利用している。もとは暗灰色粘質土と暗褐色腐植物が互層となる自然堆積層で、Ⅸｂ層に比べⅨａ層の方がより腐植物の撹拌が進んでいる。北区では上位の水田耕作などで遺存状態が悪いが、下位のⅨｂ層と畦畔の位置が共通している地点が多く、Ⅸｂ層と同様の水田区画であった可能性が高い。上面標高はおおむね南から北に向けて傾斜するが、西壁では傾斜方向が一定しない。上位の水田耕作による影響とも考えられる。南区では平面で畦畔を検出しており、畦畔の方向は北区で想定されるものとはやや異なっている。畦畔から想定される水田区画は、平面形が扇形もしくは方形（長方形）であり、１枚あたりの面積は小さい。上面標高は北東が高く、南西に向けて田伝いに水を回したものと想定できる。Ⅸ層からは出土遺物がなく、他の層から推測できる帰属時期は 13 世紀後半から 15 世紀である。Ⅸａ・ｂ層は連続した水田耕作で、両者にはほとんど時期差はないものと推測する。また、下位のＸａ層と畦畔の位置が共通する地点が多いことから、自然堆積層の形成を挟むものの、これらの間にもそれほどの時間経過はないものと想定できる。

Ⅸｂ層　Ⅸａ層同様、北区では遺存状態が悪いが、壁面などで確認した畦畔から次のような状況を復元した。まず、Ⅸｂ層の由来となる腐植物と粘質土の互層が撹拌されずに残っている部分（擬似畦畔Ｂ）を結ぶと、北西壁 5C19 から南東方向に延び、中央付近 5E15 で方向を変え、南壁 4F25 へ続くラインを想定できる。これは、下位のＸ層段階で確認できる北区畦畔１・２とほぼ同位置といえる。このほかに、壁面で確認した畦畔とさきほど想定した畦畔を直交するように結び、おおよその水田区画を復元した。復元した水田区画は他の層で確認した区画よりも規模が大きいが、検出できていない畦畔の存在も考えられ、本来の水田区画はもう少し小さいものであった可能性を残す。上面標高は、他の層と同様で南東が高く北西に向けて緩やかに傾斜する。一方、南区ではⅨａ層の影響が強く平面や壁面で検出できた畦畔は少ない。Ⅸａ層段階と畦畔の位置が共通する地点があり、同じような状況であったと考えられる。なお植物珪酸体分析結果では、Ⅸａ層はイネ属の植物珪酸体の産出が少なかったが、栽培種のイネ属と考えられる花粉化石が多く産出しており、畦畔の存在からみてもⅨｂ層での稲作は確実といえる。

Ｘａ層　下位のＸｂ層から連続する水田耕作層で、Ｘｂ層の上半を水田耕作土として利用している。北区で平面方形の水田区画（水田５）を検出した。これをみると水田１枚あたりの面積は約 15㎡と小さい。畦畔の切れ目が水口にあたると想定でき、標高の高い南東から北西に向けて水を回していたと考えられる。北区北側では畦畔（北区畦畔１）とそれに伴う杭列（西杭列）を確認した。杭列は、打設された状況から、畦畔を補強する目的や水田を造成する際の位置を割り出すために打設されたものと推測した。この畦畔と杭列はＸｂ～ｅ層から継続して使用されており、主要な畦畔といえる。一方、南区では上位の水田耕作によりほとんど確認できず、わずかにⅨｂ層の畦畔部分で確認できるに留まる。Ｘ層は、杭の放射性炭素年代測定から 13 世紀後半に帰属する。

Ｘｂ～ｅ層　土質で細分をしているが、おそらくほとんど同時期の水田耕作層と考えられる。Ｘ層の由来となる自然堆積層は確認できないが、下位ほど白色粘土ブロックや腐植物ブロックを含むことから、

Ⅸ層のような自然堆積層の形成があり、これを耕作土として利用したものと推定できる。Ｘａ層では北区東側の水田が検出できなかったが、ここでは水田耕作が深くおよんだ範囲（水田１・２・７・８）を平面で検出した。ただし、本来の水田耕作面や畦畔などは上位の水田耕作などにより削平されていて確認できない。Ｘａ層同様、南東から北西に向けて水を回していたもの考えられる。

Ⅺ層以下　中央杭列が検出されたのみで、その他の遺構は確認していない。中央杭列の杭頭はⅪ～Ⅻ層中にあり、これはいずれも自然堆積層である。おそらく、Ⅻ層が堆積する以前に打ち込まれ、洪水などで杭列に伴う遺構は流失し、杭列のみが残ったものと考えられる。そのため、杭列がどのような機能を果たしていたかは推測の域を出ないが、北区畦畔１及び西杭列（杭３～７）と方位が似ていること、年代測定結果から西杭列とはほとんど時期差がないことを考えると、やはり畦畔の補強のために打ち込まれた可能性が高い。

３）小　　結

今回の調査では、山間部での傾斜地における水田構造の一端を解明した。上記のように、主な水田耕作面の状況をみてきたが、最後に簡潔にまとめる。各層は若干の差異があるものの、北区は南東から北へ、南区は北東から南西へ傾斜する様子が確認できた。このような緩傾斜地の中で畦畔を伴う水田を造成し、またそれは高低差を設けた水田区画で、１枚あたりの面積は非常に小さいものであることがわかった。水回りでは、北区と南区間の未調査範囲が最も標高が高く、ここに用水路を想定した場合、そこから取水した水は高位水田から低位水田へと田伝いに給水されたものと想定できる。北区で検出した杭列は、推測の域を出ないが畦畔の補強や水田を造成する際の位置を割り出すために打設されたものであろう。

工田遺跡において水田開発が始まったのは、杭の放射性炭素年代測定結果から遅くとも 13 世紀後半以降である。ただし遺跡周辺においては、城跡を除けば当該期の集落や他の生産遺跡はみつかっていない。また、周辺地域の文献資料も乏しく、開発に至る背景などは判然としない。また、今回の調査では明確にできなかった杭列の機能の解明も含めて、調査事例の増加を待って今後の検討課題としたい。

引用・参考文献

【丘江遺跡Ⅴ】

相羽重徳ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第234集 千古作遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

秋山真好ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第264集 宝田遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

朝岡正康 2013 「柏崎市田塚(たつか)地区試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成24年度』 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

阿部志朗 2013 「日本海沿岸地域にある近代の石見焼」『民具研究』第148号 日本民具学会

阿部志朗 2019 「近世～近代に生産された石見地方の窯業製品の分布から見た日本海海運」『歴史地理学』第61巻第1号 歴史地理学会

荒川隆史 2004 「第Ⅳ章 1記述の方法」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第252集 宝田遺跡』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第214集 千古作遺跡・香積寺沢遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第241集 山崎遺跡』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか 2014 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第246集 剣野沢遺跡』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

今井昭俊 2018 「第Ⅱ章 2歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第274集 丘江遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

今井昭俊ほか 2018a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第275集 丘江遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

今井昭俊ほか 2018b 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第274集 丘江遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会

大橋康二 1989 『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社

荻野正博 1986 「荘園と国衙領」『新潟県史』通史編1 原始・古代 新潟県

小野塚徹夫 2001 「天満(てんま)Ⅳ遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成12年度』(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦 2014 「柏崎市茨目(いばらめ)地区試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第255集 平成25年度県内遺跡試掘・確認調査』

春日真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学』Ⅱ 新潟県考古学会

春日真実ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第259集 小峯遺跡』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実ほか 2019 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第283集 丘江遺跡Ⅳ』 新潟県教育委員会・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学 1999 「第Ⅴ章 1．遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・

（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第273集 宝田遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
金子拓男 1990 「原始・古代　第6章　第3節三嶋郡の分立」『柏崎市史』上巻　新潟県柏崎市史編さん委員会
九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
工藤清泰 1989 「Ⅶ浪岡城跡出土の瓦質土器とその考察」『浪岡城跡X』 浪岡町教育委員会
（株）古環境研究所 2013 「柏崎バイパス田塚地区における植物珪酸体分析」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成24年度』 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
坂上有紀 2015 「第Ⅴ章　6木製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
笹澤正史 2018a 「第Ⅱ章遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第276集 丘江遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
笹澤正史 2018b 「第Ⅶ章　4井戸について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第276集 丘江遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
笹澤正史 2018c 「第Ⅶ章　8柏崎市域における丘江遺跡の位置付け」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第276集 丘江遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
笹澤正史ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第276集 丘江遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子 2015 「柏崎市茨目地区・丘江遺跡試掘・確認調査」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第260集 平成26年度県内遺跡試掘・確認調査』 新潟県教育委員会
品田高志 1990 「２歴史的環境と遺跡群」『吉井遺跡群Ⅱ』 柏崎市教育委員会
品田高志 1991a 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第15小児石』 柏崎市教育委員会
品田高志 1991b 「越中の中世土師器」『新潟考古学談話会会報』第8号　新潟考古学談話会
品田高志 1996 「Ⅱ田塚山遺跡群と環境・Ⅸ考察　２田塚山の中世仏堂と墳墓」『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第21集 田塚山遺跡群』 柏崎市教育委員会
品田高志 1997 「第５章　第２節越後国における土師器の変遷と諸相」『中・近世の北陸 －考古学が語る社会史－』 北陸中世土器研究会編
品田高志 1999a 「第５章　第３節　第１項中世土師器」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
品田高志 1999b 「越後における中世後期の土師器Ⅲ －京都系土師器第２派の流入と展開－」『中世土師器の基礎研究』ⅩⅣ　日本中世土器研究会
品田高志ほか 1999 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第32集 角田』 柏崎市教育委員会
品田高志ほか 2001 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第38集 柏崎町』 柏崎市教育委員会
鈴木俊成 1994 「第Ⅵ章　4　B．井戸の祭祀行為について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成 2014 「上道下西遺跡の水田肥料痕跡について」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第15号　新潟県立歴史博物館
高桑　登 2009 「東北の瓦質土器」『中近世土器の基礎研究』22　日本中世土器研究会
高橋　保ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第109集 箕輪遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高柳俊輔 2018 「第Ⅱ章　1地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第274集 丘江遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
田村　裕 1987 「第一章鎌倉武士と荘園　第二章国人と守護」『新潟県史』通史編２　中世編　新潟県
継　実ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第265集 山崎遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鶴巻康史 2004 「土師器から見た中世の小地域圏 －新潟県北部阿賀北地方を中心に－」『中近世土器の基礎研

究』ⅩⅧ　日本中世土器研究会
奈良国立文化財研究所　1985『木器集成図録 近畿原始編』 奈良国立文化財研究所
奈良国立文化財研究所　1993『木器集成図録 近畿古代編』 奈良国立文化財研究所
農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所　2014『新版標準土色帖』
能登　健　1996「中・近世の農業」『考古学による日本歴史２ 産業Ⅰ 狩猟・漁業・農業』 雄山閣
馬場保之　2010「中世城館跡出土資料を中心とした茶道具 －南信州の茶臼・茶湯釜－」『飯田市美術博物館研究紀要』20　飯田市美術博物館
藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
不破野希春　2018「第Ⅳ章　２Ａ掘立柱建物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第276集 丘江遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
間野大丞　2017「第二部　第２章石見焼きの製品について」『島根県古代文化センター研究論集 第17集 近世・近代の石見焼の研究』 島根県古代文化センター
水澤幸一　2001『中条町文化財調査報告 第21集 下町・坊城遺跡Ⅴ（Ｃ地点遺物編・写真図版編）』 中条町教育委員会
水澤幸一　2005「越後の中世土器」『新潟考古』第16号　新潟考古学会
宮本長二郎　1999「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間 －関口欣也先生退官記念論文集』中央公論美術出版
宮本長二郎　2002「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター 研究紀要』第16号　秋田県埋蔵文化財センター
森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2　貿易陶磁研究会
矢田俊文　1999「戦国期越後の守護と守護代－上杉房定と長尾為景－」『中世の越後と佐渡』 高志書院
山崎忠良ほか　2005『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第140集 東原町遺跡・下沖北遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山本　肇ほか　2003『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
横田賢次郎・森田勉　1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について －型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料研究論集』４　九州歴史資料館
吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
四柳嘉章　1997「第６章　第３節北陸の中世漆器」『中・近世の北陸 －考古学が語る社会史－』 北陸中世土器研究会編

【工田遺跡】

相羽重徳　2013「第Ⅱ章遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第240集 町上遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
相羽重徳ほか　2013『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第240集 町上遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
秋山真好ほか　2015『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第264集 宝田遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
穴沢吉太郎編　1977「原始古代の郷土」『大和町史』本編　上巻　新潟県魚沼郡大和町役場
阿部洋輔ほか　1986「越後国」『日本歴史地名大系第15巻 新潟県の地名』 平凡社
荒川勝利　1997「第１章　第１節堀之内町の地形と地質」『堀之内町史』通史編　上巻　堀之内町
飯坂盛泰ほか　2015『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第252集 宝田遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
池田　亨　1992『大和町文化財調査報告 第５号 御館遺跡』 大和町教育委員会
池田　亨・細矢菊治ほか　1990『大和町文化財調査報告 第４号 水上遺跡』 大和町教育委員会

池田　亨ほか 1981　『堀之内町文化財調査報告書 第２輯 原・居平遺跡』 堀之内町教育委員会
尾崎高宏ほか 2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 101 集 大久保遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実ほか 2019　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 283 集 丘江遺跡Ⅳ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか 2018　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 273 集 宝田遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人ほか 1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 59 集 細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
国土交通省北陸地方整備局 長岡国道事務所　2015 『国道 17 号 浦佐バイパス』
斎野裕彦ほか 1987　『仙台市文化財調査報告書 第 98 集 富沢』 宮城県仙台市教育委員会
佐藤雅一ほか 1985　『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書 第 31 瓜ヶ沢遺跡 滝沢の塚 七久保遺跡 苗場山城跡』 新潟県教育委員会
佐藤雅一ほか 1995　「第１編先史・古代と中世の堀之内　第１章堀之内町の考古」『堀之内町史』資料編　上巻　堀之内町
佐藤甲二　1997　『仙台市文化財報告書 第 220 集 富沢・泉崎浦・山口遺跡（10)』 仙台市教育委員会
佐藤友子　2019　「第６章　第４節　第２項水田とハタケ」『新潟県の考古学』Ⅲ　新潟県考古学会
佐藤友子ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 239 集 小坂居付遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成　2019　「第５章　第４節　第２項水田跡」『新潟県の考古学』Ⅲ　新潟県考古学会
鈴木俊成ほか 1996　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 72 集 清水上遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 231 集 上道下西遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
髙木公輔　2009　『魚沼市埋蔵文化財調査報告書 第６集 一日市遺跡』 新潟県魚沼市教育委員会
髙野晶文ほか 2019　『石田遺跡Ⅱ』 三条市教育委員会
髙野晶文ほか 2019　『石田遺跡Ⅲ・梅田遺跡』 三条市教育委員会
高橋保雄ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
滝沢健三郎　1996　「第１編　第２章古代の郷土」『小出町史』上巻　小出町教育委員会
寺崎裕助・田中一穂　2006 「浦佐（うらざ）バイパス（大浦新田（おおうらしんでん）地区）試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 17 年度』 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
富永　弘　1996　「序説小出の風土」『小出町史』上巻　小出町教育委員会
新潟県教育委員会　2017 「魚沼市大浦（おおうら）地区試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 272 集 平成 26・27 年度県内遺跡試掘・確認調査』
新潟県教育委員会　2018 「魚沼市大浦（おおうら）地区・虫野（むしの）地区試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 280 集 平成 28 年度県内遺跡試掘・確認調査』
農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所　2014 『新版標準土色帖』
能登　健　1996　「中・近世の農業」『考古学による日本歴史２ 産業Ⅰ 狩猟・漁業・農業』 雄山閣
藤巻正信ほか 1985　『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書 第 24 下倉山城跡 権現平遺跡 両新田遺跡』 新潟県教育委員会
細矢菊治ほか 1985　『大和町埋蔵文化財調査報告 第１号 京平塚遺跡発掘調査報告書』 大和町教育委員会
渡邊裕之・朝岡正康　2013 「魚沼市十日町地区試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 24 年度』 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
渡辺三省　1986　「北魚沼郡」「南魚沼郡」『日本歴史地名大系第 15 巻 新潟県の地名』 平凡社

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（１）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	
16670	総柱か	－	69K	2	(2)	3.65	(2.20)	N － 2° － W	－	調査外へ延びるか

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16070	69K25	円形	台形状	急斜度	22	21	30	10	6.06	B1	B	P16070-P16065	2.07	－	－	
16065	69K24	方形	台形状	急斜度	25	22	6	15	6.33	A1	B	P16065-P16066	1.79	－	－	
16066	69K18・19・23・24	円形	半円状	急斜度	31	29	23	18	6.15	A1	B	P16066-P16067	1.69	－	－	
16067	69K18	長方形	台形状	急斜度	35	29	26	－	6.11	D	B	P16067-P16068	2.20	－	＞P16133	
16068	69K14	方形	台形状	急斜度	20	20	27	14	6.15	A1	A	P16068-P16069	1.85	－	－	
16069	69K19・20	長方形	U字状	垂直	29	17	33	15	6.03	A1	B	P16069-P16070	1.80	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16671	－	－	71K	(1)	(2)	(3.09)	(3.06)	N － 20° － E	－	調査外へ延びる

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16212	71K13	楕円形	台形状	急斜度	53	44	76	－	5.66	D	A	P16212-P16213	3.06	－	－	
16213	71K11・12・16・17	円形	階段状	急斜度	57	53	64	－	5.83	D	A	P16213-P16709	(3.09)	－	－	
16709	71K6	－	－	－	(43)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	開渠内

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16672	側柱	Ⅲa	70M・N，71M・N	2	(4)	(3.95)	(8.58)	N － 3° － W	－	P16006・16027は廂か

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16042	71N6	楕円形	階段状	急斜度	49	30	16	16	6.16	B1	B	P16042-P16040	2.60	－	－	
16040	70N15	円形	階段状	垂直	35	30	45	24	5.89	B1	B	P16040-P16106	3.76	－	－	
16106	70N19	(円形)	U字状	急斜度	26	(17)	37	－	5.87	D	B	－	－	1層：礫1	－	
16013	70N8・9	円形	台形状	急斜度	35	35	40	18	5.96	A1	B	P16013-P16012	2.08	－	－	
16012	70N4	楕円形	漏斗状	急斜度	51	38	53	17	5.87	A1	B	P16012-P16014	2.18	－	－	
16014	70M25，70N5	円形	漏斗状	急斜度	32	29	20	14	6.17	C1	B	P16014-P16027	2.24	－	－	
16027	71M21	楕円形	台形状	急斜度	45	33	27	17	6.07	B1	B	P16027-P16006	2.13	－	－	
16006	71N2	(楕円形)	台形状	急斜度	(44)	(35)	33	24	6.01	B1	B	P16006-P16008	2.00	－	－	
16008	71N1	円形	台形状	急斜度	33	31	27	－	6.10	E	B	P16008-P16042 P16008-P16014	1.98 1.89	－	－	
16005	70N10	円形	半円状	急斜度	23	23	15	－	6.26	E	B	P16005-P16008	1.62	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16686	－	－	70M・N	(2)	(3)	(1.36)	(3.72)	N － 61° － W	－	

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16038	70N4・9	長方形	台形状	急斜度	35	27	39	－	6.00	E	B	P16038-P16002	1.36	－	－	
16002	70N8	円形	台形状	急斜度	35	33	27	－	6.07	E	B	－	－	－	－	
16115	70M23	(円形)	台形状	急斜度	(55)	(24)	30	(12)	6.05	A1	B	P16115-P16004	2.21	－	＜SK16045	
16004	70N4	円形	半円状	急斜度	34	30	24	－	6.11	D	B	P16004-P16038	1.51	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16687	総柱か	－	70L・M，71M	(2)	3	5.62	(1.73)	N － 89° － E	－	

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16184	71M11	不整形	台形状	急斜度	25	24	25	14	6.16	A1	B	P16184-P16097	1.73	－	－	
16097	70M15	楕円形	U字状	急斜度	33	25	31	13	6.09	A1	B	－	－	－	＞P16096	
16091	70L24	方形	台形状	急斜度	30	29	18	16	6.28	A1	B	P16091-P16098	2.16	－	－	
16098	70M5	方形	半円状	急斜度	29	27	23	12	6.21	A1	B	P16098-P16184	3.46	－	－	
16093	70M4・9	(円形)	U字状	垂直	(30)	31	66	14	5.78	A2	B	P16093-P16098	1.41	－	＜P16095	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16688	側柱	Ⅱa	70・71L	2	2	2.68	4.12	N － 1° － E	(11.00)	南側は梁間1間

遺構番号	グリッド	形態		規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径							
16209	71L16	円形	U字状	急斜度	(29)	(26)	(35)	－	5.75	E	B	P16209-P16186	2.04	－	≠SX16136	
16186	70L20	円形	半円状	急斜度	31	29	22	－	6.22	E	B	P16186-P16099	2.08	－	－	
16099	70L24	方形	半円状	急斜度	31	29	24	－	6.20	D	B	P16099-P16092	1.22	－	－	
16092	70L19	楕円形	台形状	急斜度	26	19	27	－	6.18	E	B	－	－	－	－	
16143	70L15	円形	V字状	急斜度	24	20	14	－	6.31	E	B	P16143-P16209	2.68	－	－	
16185	70L20	円形	U字状	急斜度	26	23	31	－	6.12	E	B	P16185-P16092	2.18	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（２）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16689	側柱	Ⅱb	71L・M	1	2	3.35	3.52	N－19°－E	（11.51）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16226	71M3	円形	階段状	垂直	33	30	57	25	5.79	B1	B	P16226-P16166	1.85	－	＞SE16225	
16166	71M2・7	円形	台形状	急斜度	26	25	16	－	6.23	E	B	P16166-P16181	1.53	－	－	
16149	71L21	円形	階段状	急斜度	47	41	52	14	5.92	A1	B	P16149-P16211	1.68	1層：柱根1（163）	－	
16211	71L22	円形	U字状	垂直	（30）	（29）	46	－	5.99	E	B	P16211-P16177	1.84	－	≠SX16136	
16177	71L23	円形	U字状	急斜度	31	30	36	17	6.07	A1	B	P16177-P16225	3.35	－	－	
16181	71M2	楕円形	半円状	急斜度	34	28	29	27	6.15	A1	B	P16181-P16211	1.73	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16690	側柱	Ⅲb	71L・M	2	2	3.67～3.75	3.73～3.96	N－11°－E	13.77	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16269	71M4・5・9・10	楕円形	台形状	急斜度	40	32	24	－	6.10	E	B	P16269-P16268	1.23	－	－	
16268	71M4・9	円形	半円状	急斜度	48	36	18	－	6.16	E	B	P16268-P16210	2.51	－	－	
16210	71M8	楕円形	弧状	緩やか	44	33	21	－	6.13	E	B	P16210-P16170	1.56	－	－	
16170	71M2・3	円形	弧状	緩やか	30	29	12	－	6.26	E	B	P16170-P16183	2.19	－	－	
16183	71L22	円形	半円状	急斜度	20	20	14	－	6.30	E	B	P16183-P16187	2.70	－	－	
16187	71L23	長方形	階段状	急斜度	（35）	32	40	21	6.03	A1	B	P16187-P16257	1.26	－	＜P16188	
16257	71L24	円形	階段状	急斜度	33	28	16	－	6.28	E	B	P16257-P16269	3.67	－	－	
16192	71M3	円形	台形状	急斜度	28	27	25	－	6.15	E	B	P16192-P16170	1.90	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16691	側柱	Ⅱa	71L・M	1	2	4.29～4.41	5.81～6.07	N－2°－W	25.79	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16283	71M5・10	楕円形	台形状	急斜度	32	26	66	－	5.68	D	B	P16283-P16222	2.81	－	－	
16222	71M8・9	楕円形	階段状	急斜度	36	26	33	－	6.01	（A1）	B	P16222-P16155	3.00	－	－	
16155	71M12	円形	台形状	急斜度	31	28	19	15	6.13	A1	B	P16155-P16154	4.41	－	－	
16154	71M1	長方形	台形状	急斜度	（49）	42	31	18	6.17	A1	B	P16154-P16168	2.82	－	＜P16153	
16168	71L22	円形	U字状	垂直	31	27	39	15	6.06	A1	B	P16168-P16163	3.25	－	－	
16163	71L24	方形	台形状	急斜度	（22）	（21）	（13）	－	6.26	E	B	P16163-P16283	4.29	－	－	撹乱内

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16692	側柱	Ⅲcか	72K・L	2	（2）	3.73	（1.90）	N－65°－W	－	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16265	72K23	楕円形	階段状	垂直	40	32	48	13	5.84	A2	B	P16265-P16252	2.09	2層：柱根1（164）	＞P16266	
16252	72K22	円形	階段状	垂直	30	28	44	17	5.94	B1	B	P16252-P16248	1.64	－	＞SD16238	
16248	72K21	円形	台形状	急斜度	（26）	（25）	（15）	－	6.04	E	B	P16248-P16236	1.43	－	≠SD16238	
16236	72K16	円形	台形状	急斜度	25	22	17	－	6.14	（A1）	B	－	－	－	－	
16260	72K18	円形	台形状	急斜度	34	30	25	－	6.09	D	B	P16260-P16265	1.90	－	－	

SA	構造／分類		グリッド	柱間	長さ（m）	長軸方向	備考
16693	－	－	72K・L	3	6.56	N－22°－E	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16282	72K24	円形	U字状	急斜度	26	24	34	－	6.01	D	B	P16282-P16304	1.48	－	－	
16304	72K23	円形	漏斗状	急斜度	（27）	24	27	13	6.07	A1	B	P16304-P16250	3.22	－	＜P16303	
16250	72K22	楕円形	階段状	垂直	41	32	42	20	5.97	B2	B	P16250-P16232	1.86	－	－	
16232	72K21，72L1	円形	台形状	急斜度	30	29	41	14	5.98	A1	B	－	－	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（３）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16694	側柱	Ⅲ a	72L	2	3	3.22	4.74	N − 2° − W	（15.51）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16320	72L14	方形	U 字状	垂直	27	23	46	−	5.98	D	B	P16320-P16334	4.74	−	＞ SK16405	
16334	72L17・22	円形	半円状	急斜度	（24）	31	27	−	6.14	E	B	P16334-P16313	1.43	−	＜ P16335 ＞ SK16405、SD16356	
16313	72L17	楕円形	階段状	垂直	29	24	37	−	6.05	（B1）	B	P16313-P16284	1.79	−	−	
16284	72L11・12	円形	台形状	急斜度	35	31	20	−	6.22	E	B	P16284-P16288	0.67	−	−	
16288	72L12	円形	台形状	急斜度	22	21	28	−	6.15	E	B	P16288-P16289	0.91	−	−	
16289	72L7・12	円形	半円状	急斜度	31	31	20	−	6.22	E	B	−	−	−	−	
16316	72L14	円形	半円状	急斜度	19	18	22	−	6.19	（A1）	B	P16316-P16320	1.50	−	−	
16291	72L13	円形	半円状	急斜度	34	29	23	−	6.21	E	B	P16291-P16307 P16291-P16316	1.96 2.71	−	−	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16695	側柱	Ⅱ a	72M	1	3	3.25	5.00	N − 75° − W	（15.71）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16109	72M18	円形	漏斗状	急斜度	65	55	46	33	5.86	B2	A			−	＞ P16685	
16656	72M11	方形	台形状	急斜度	52	（37）	52	13	5.81	A2	A	P16656-P16277	1.97	−	＜ P16655	
16277	72M6	楕円形	階段状	垂直	30	23	21	−	6.12	（B2）	A	P16277-P16354	3.25	−	−	
16354	72M2・3・7・8	楕円形	階段状	垂直	46	36	54	−	5.84	B か	A	P16354-P16647	1.65	−	＜ P16330	
16647	72M8	楕円形	階段状	垂直	（56）	36	57	25	5.81	B2	A	P16647-P16111	2.05	−	＜ SK16646	
16111	72M13	円形	半円状	急斜度	40	36	30	15	6.05	A1	A	P16111-P16109	1.30	−	＜ P16112	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16696	側柱	Ⅱ a	72M・N、73M	1	4	4.66	7.29	N − 15° − E	（33.51）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16598	73M16・21	円形	台形状	急斜度	72	64	45	−	5.89	E	A	P16598-P16674	1.85	1 層：珠洲焼片口鉢 1（転用研磨具 1）、珠洲焼甕 1（転用研磨具 2）	＞ P16665	
16674	72M25	楕円形	U 字状	垂直	33	25	39	−	5.96	E	−	P16674-P16104	0.78	1 層：土師質土器片 1	−	
16104	72M25	（円形）	（台形状）	急斜度	（30）	（17）	40	−	5.92	C	A	P16104-P16072	2.04	−	＜ SB16697（P16064）	
16072	72M24	楕円形	台形状	急斜度	49	39	38	15	5.91	C2	A	P16072-P16088	2.62	3 層：土師質土器片 1	＜ P16071	
16088	72M23、72N3	円形	半円状	急斜度	70	63	37	−	5.91	D	A	−	−	−	−	
16119	72M14	方形	台形状	急斜度	35	30	20	−	6.15	E	A	P16119-P16150	2.56	−	−	
16150	72M10	楕円形	半円状	急斜度	32	24	25	−	6.10	E	A	P16150-P16362	1.93	−	−	
16362	73M6	楕円形	半円状	急斜度	39	25	31	18	6.05	B1	A	P16362-P16598	4.66	−	＜ P16360	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16697	側柱	Ⅲ c	72・73M	2	3	4.84	6.12	N − 29° − E	（29.87）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16606	73M22	円形	台形状	急斜度	48	42	38	−	5.93	D	A	P16606-P16064	3.33	−	−	
16064	72M25	楕円形	台形状	急斜度	67	54	46	14	5.87	C2	A	−	−	−	＞ SB16696（P16104）	
16140	72M13・14・18・19	不整形	階段状	急斜度	75	35	52	20	5.83	C1	A	P16140-P16212	2.13	3 層：土師質土器片 1	＞ P16131・P16132 ＜ P16141	
16121	72M8・9	円形	U 字状	垂直	39	（25）	33	（13）	6.00	A2	A	P16121-P16151	2.96	−	＜ P16122	
16151	72M10	楕円形	階段状	垂直	38	25	35	18	6.00	B2	A	P16151-P16361	1.56	−	−	
16361	73M6	円形	U 字状	垂直	27	21	41	22	5.94	C1	A	P16361-P16375	1.60	−	−	
16375	73M7	楕円形	U 字状	垂直	33	27	53	19	5.84	A2	A	P16375-P16606	4.84	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（４）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16698	側柱	Ⅲc	73・74M	2	1	3.98～4.40	5.30～5.59	N－13°－E	24.21	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16610	73M15, 74M11	楕円形	漏斗状	急斜度	47	35	52	13	5.93	A2	B	P16610-P16622	5.59	1層：珠洲焼片口鉢片1	＞SD16383	
16622	73M18	円形	半円状	急斜度	52	42	34	23	5.97	A2	B	P16622-P16358	2.03	－	－	
16358	73M12	円形	半円状	急斜度	37	33	18	13	6.14	A1	B	P16358-P16386	2.00	－	－	
16386	73M7	楕円形	U字状	急斜度	45	28	48	19	5.88	A1	B	P16386-P16390	5.30	－	－	
16390	73M5	円形	U字状	急斜度	39	35	68	28	5.71	A2	B	P16390-P16427	1.86	－	－	
16427	73M10	長方形	階段状	垂直	(23)	(18)	(35)	－	5.92	E	B	P16427-P16610	2.60	－	≠SD16383	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16699	側柱	Ⅲa	74L	2	1	3.37	3.79	N－15°－W	(13.22)	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16434	74L8	円形	箱状	垂直	34	33	30	16	6.23	A1	B	P16434-P16512	3.79	－	－	
16512	74L12	方形	漏斗状	急斜度	32	29	45	15	6.00	A2	B	P16512-P16554	1.81	－	＜P16511	
16554	74L11	円形	階段状	垂直	(31)	(29)	(50)	10	5.86	B1	B	P16554-P16410	1.56	－	－	撹乱内
16410	74L6	円形	半円状	急斜度	(32)	(30)	(30)	－	(6.15)	E	B	－	－	－	－	測量データなし、写真などから復元

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16700	側柱	Ⅲc	74L・M	2	2	4.17	4.73	N－18°－W	(20.48)	北側の梁間３間

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16496	74L19・24	円形	階段状	垂直	(67)	61	45	(24)	6.06	B2	B	P16496-P16437	2.75	－	＞SB16704(P16503)＜P16467	
16437	74L23, 74M3・4	楕円形	漏斗状	急斜度	58	48	65	25	5.82	A2	B	P16437-P16488	1.72	－	－	
16488	74L23	円形	階段状	垂直	44	(33)	61	18	5.82	B2	B	P16488-P16435	1.19	－	＞SB16704(P16684)＜SB16703(P16487)	
16435	74L17・22	楕円形	U字状	垂直	35	27	49	22	5.96	A2	B	P16435-P16474	1.27	－	＞SE16436	
16474	74L17	楕円形	階段状	垂直	41	33	34	－	6.04	D	B	P16474-P16510	2.54	－	＞P16475	
16510	74L13	円形	階段状	垂直	40	36	54	24	5.95	B	-	P16510-P16493	2.19	－	－	
16493	74L8・9・13・14	円形	半円状	急斜度	(35)	(32)	(22)	14	6.18	A1	B	P16493-P16513	2.11	－	－	撹乱内
16513	74L14	楕円形	箱状	垂直	(39)	(28)	(20)	21	6.33	A1	B	P16513-P16455	2.55	－	－	撹乱内
16455	74L18・19	楕円形	U字状	急斜度	38	24	45	－	6.02	D	B	P16455-P16496 P16455-P16510	2.11 1.89	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16701	側柱	Ⅲc	74M	2	2	2.77	3.11	N－22°－W	(9.39)	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16638	74M9	方形	階段状	垂直	45	44	79	24	5.70	B2	B	P16638-P16636	1.43	－	－	
16636	74M8・9・13・14	方形	U字状	垂直	45	45	60	25	5.87	A2	B	P16636-P16617	1.68	－	－	
16617	74M13	楕円形	漏斗状	急斜度	47	38	53	21	5.96	B1	B	P16617-P16639	1.56	－	＞P16618	
16639	74M12	(方形)	台形状	急斜度	(55)	(43)	35	－	6.09	D	B	－	－	1層：瓦器香炉か2（3・4）	＞P16640＜SD16383	
16451	74M3	円形	U字状	垂直	31	28	57	20	5.87	A1	B	P16451-P16459	1.45	－	－	
16459	74M3・4・8	方形	台形状	急斜度	36	35	48	－	5.95	E	B	P16459-P16638	1.32	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（５）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16702	総柱	Ⅰa	73・74L	2	2	4.01	5.25	N－2°－E	(20.30)	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16461	74L13・14	楕円形	U字状	垂直	28	21	44	14	5.93	B1	B	P16461-P16438	2.38	－	＞SK16462	撹乱内
16438	74L12・13・17・18	円形	漏斗状	急斜度	45	39	40	23	6.07	B2	B	P16438-P16428	2.87	－	＜SK16495	
16428	74L16	方形	台形状	急斜度	34	32	37	13	6.05	A1	B	P16428-P16409	2.03	－	－	
16409	74L11	円形	漏斗状	急斜度	42	37	61	－	5.89	(B2)	B	P16409-P16411 P16409-P16456	1.98 2.31	－	－	
16411	73L10	円形	漏斗状	垂直	27	23	52	19	5.94	B2	B	P16411-P16447	2.25	－	－	
16447	74L6	円形	階段状	垂直	(26)	(22)	(28)	15	6.03	B2	B	P16447-P16456	1.59	－	－	撹乱内
16432	74L8	円形	U字状	急斜度	32	30	45	－	6.07	E	B	P16432-P16461 P16432-P16456	2.08 2.86	－	－	
16456	74L12	円形	半円状	急斜度	(29)	(28)	(15)	12	6.03	A1	B	P16456-P16438	2.27	－	＞P16457	撹乱内

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16703	側柱	Ⅱb	74L・M，75L・M	1	2	4.08～4.23	4.58～4.94	N－11°－E	20.57	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16627	75M1	楕円形	階段状	垂直	47	33	68	21	5.89	B2	B	P16627-P16616	2.35	－	－	
16616	74M10	円形	台形状	急斜度	47	44	43	－	6.12	E	B	P16616-P16669	2.59	－	－	
16669	74M8・9	楕円形	漏斗状	急斜度	45	34	68	24	5.80	B1	B	P16669-P16487	4.23	－	＜P16651	
16487	74L23	楕円形	漏斗状	急斜度	44	33	46	10	5.99	B1	B	P16487-P16535	2.06	－	＞SB16700（P16488）	
16499	74L24	楕円形	台形状	急斜度	53	41	40	－	6.06	E	C	P16499-P16535	2.52	－	－	
16535	74L20	円形	台形状	急斜度	47	46	79	－	5.82	D	B	P16535-P16627	4.08	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16704	側柱	Ⅱa	74L・M	1	3	3.22～3.33	7.00～7.39	N－70°－W	24.16	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16498	74M4・5	円形	階段状	垂直	45	41	43	25	6.07	B2	A	P16498-P16476	3.33	－	－	
16476	74M3	楕円形	半円状	垂直	43	(25)	52	－	5.94	(B？)	A	P16476-P16684	2.74	－	＜P16449	
16684	74L23	(円形)	半円状	急斜度	20	(10)	12	－	6.30	E	A	P16684-P16502	4.65	－	＜SB16700（P16488）	
16502	74L7・12・13	楕円形	階段状	垂直	(48)	(47)	(56)	17	5.85	B2	A	P16502-P16482	3.22	－	＜P16501	撹乱内
16482	74L14	(楕円形)	漏斗状	急斜度	(55)	(22)	(24)	23	6.17	B2	A	P16482-P16528	2.03	－	－	撹乱内
16528	74L19	円形	階段状	垂直	34	(23)	45	15	6.01	B1	A	P16528-P16433	1.03	－	＜P16507・P16527	
16433	74L19	円形	箱状	急斜度	27	26	31	15	6.17	A1	A	P16433-P16503	1.52	－	－	
16503	74L24	円形	U字状	垂直	41	(37)	51	－	6.02	D	A	P16503-P16498	2.42	－	＜SB16700（P16496）	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16705	側柱	Ⅲc	75K・L	2	2	2.81	3.56～3.77	N－15°－E	11.12	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16657	75L4・9	円形	半円状	急斜度	31	(27)	21	12	6.31	C1	B	P16657-P16551	1.90	－	＜P16632・16635	
16551	75L8	円形	U字状	垂直	31	27	45	18	6.05	A1	B	P16551-P16544	1.66	－	－	
16544	75L7	楕円形	箱状	垂直	54	45	50	16	6.00	A1	B	P16544-P16531	2.81	－	－	
16531	75K22，75L1・2	円形	半円状	急斜度	33	28	26	17	6.26	A1	B	P16531-P16619	3.77	－	－	
16619	75K23	方形	台形状	急斜度	34	31	36	－	6.22	D	B	P16619-P16630	1.47	－	－	
16630	75L4	円形	半円状	急斜度	28	25	20	18	6.37	C1	B	P16630-P16657	1.50	－	－	

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16706	側柱	Ⅱa	75L・M	1	1	3.47	4.75	N－8°－W	(16.48)	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16579	75L24	円形	箱状	垂直	39	34	55	11	5.90	A1	B	－	－	－	－	
16543	75L21・22	円形	漏斗状	急斜度	49	47	65	14	5.87	A1	B	P16543-P16574	4.75	1層：柱根1（165）	－	
16574	75L13	円形	階段状	垂直	38	37	41	20	6.11	B2	B	P16574-P16579	3.47	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　掘立柱建物（SB）・柵（SA）観察表（6）

SB	構造／分類		グリッド	梁間	桁間	梁行（m）	桁行（m）	長軸方向	面積（㎡）	備考
16707	側柱	Ⅱa	75K・L	1	3	3.67 ～ 4.15	6.66 ～ 6.73	N － 76° -W	（26.55）	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16572	75L19	円形	半円状	急斜度	31	30	16	18	6.31	A1	A	P16572-P16575	3.11	－	－	
16575	75L17・18	円形	U字状	垂直	33	33	45	18	6.01	A1	A	P16575-P16569	1.04	－	－	
16569	75L17	円形	階段状	垂直	35	32	43	13	6.08	A1	A	P16569-P16530	6.73	－	＜ P16568	
16530	75L1	円形	半円状	急斜度	32	29	18	－	6.32	E	A	P16530-P16526	3.67	－	－	
16526	75K23, 75L3	円形	階段状	垂直	42	42	32	－	6.25	D	A	P16526-P16562	2.08	－	－	
16562	75L3・8	方形	半円状	急斜度	36	32	31	－	6.22	E	A	P16562-P16588	2.64	－	－	
16588	75L14	円形	U字状	垂直	35	32	54	21	6.01	A1	A	P16588-P16572	1.94	1層：柱根か1	＞ SA16708（P16577）	

SA	構造／分類		グリッド	柱間	長さ（m）	長軸方向	備考
16708	－	－	75K・L	3	6.15	N － 77° － W	

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	柱間距離（m）		出土遺物	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径								
16533	75K23, 75L3	円形	階段状	垂直	33	31	58	18	5.99	B1	A	P16533-P16633	1.90	－	－	
16633	75L4	円形	U字状	垂直	25	24	26	18	6.29	A1	A	P16633-P16577	3.01	－	＜ P16632	
16577	75L14	楕円形	階段状	垂直	（69）	53	47	28	6.01	B1	A	P16577-P16590	1.26	－	＜ SB16707（P16588）・P16576	
16590	75L14・19	楕円形	漏斗状	急斜度	71	63	70	14	5.82	A1	A	－	－	－	＜ P16600	

丘江遺跡Ⅴ　井戸（SE）観察表（1）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	分類	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度							
16016	70N10・15, 71N6・11	円形	漏斗状	急斜度	106	91	53	46	134	5.03	N-82° -W	Ⅰb	B	A	－	
	出土遺物　6層：箸1（167）、箸片4、炭化材1、炭化板材1／4層：箸片1、曲物側板か1（166）															
16017	70N4・9	円形	箱状	垂直	87	87	63	60	156	4.84	N-79° -W	Ⅰa	F	A	－	
	出土遺物　12層：曲物底板2（185・186）、箸7（187・188）、部材1、板状破片5、自然木その他約30／11層：土師質土器片1、長方形曲物底板3（180 ～ 182）、曲物側板2、箸6（183・184）、板状木製品1、板状破片11、部分炭化材3、自然木約50、種子1／10層：土師質土器片1、焼礫1、櫛1（176）、箸13（177・178）、板状木製品1（175）、部材1（179）、板状破片23、部分炭化材7、自然木その他約20、骨片／9層：礫1、曲物側板9（168・169）、曲物底板1（170）、箸26（171 ～ 173）、板状木製品2（174・175）、板材破片29、部分炭化材15、自然木その他約30、骨片／8層：土師質土器小皿2（5）、曲物底板破片1、箸破片3、割材破片3、自然木約15／6層：軽石1／3層：礫1／2層：土師質土器片2															
16028	70N19	円形	U字状	垂直	91	89	42	36	162	4.68	N-58° -W	Ⅰa	F	A	－	
	出土遺物　10層：刳物匙1（189）、箸4（193）、加工材8、樹皮その他8／9層：杓子形木器1（190）、箸1（192）、棒状木製品1（194）、自然木4／8層：箸1（191）、自然木その他2／4層：珠洲焼片口鉢1（6）															
16031	71N8・9	（円形）	漏斗状	急斜度	（159）	145	71	56	116	5.16	N-38° -W	Ⅰb	F	A	＞ SE16051	
	出土遺物　9層：箸破片2／8層：礫2、糸巻枠木か2（195・196）、下駄か1（197）、杓子形木器1（198）、板状木製品1（199）、箸18（200・201）、板状木製品1、棒状木製品4（202 ～ 204）、部分炭化材1、自然木約30／1層：砥石1															
16037	72N3・8	方形	漏斗状	急斜度	87	80	40	32	88	5.37	N-25° -E	Ⅱb	A	A+B	－	
	出土遺物　5層：曲物側板1（205）／2層：板材2															
16044	70M19・24・25	楕円形	U字状	垂直	90	（71）	36	34	118	5.21	N-76° -W	Ⅰa	B	A	＜ SK16045	
	出土遺物　5層：角材1															
16051	71N8・9・13・14	（楕円形）	半円状	内傾	124	（101）	104	77	133	4.92	N-50° -E	Ⅰa	A	A	＜ SE16031	
	出土遺物　8層：珠洲焼甕1（7）、礫1、骨片／1層：土師質土器片1、珠洲焼甕片1															
16060	72M21，72N1	楕円形	漏斗状	急斜度	122	88	53	47	113	5.13	N-82° -E	Ⅰb	A	A	－	
	出土遺物　5層：青磁皿か1（9）／3層：珠洲焼片口鉢1（8）／2層：珠洲焼甕片1／1層：土師質土器片1															
16079	69K4・5	長方形	U字状	垂直	73	63	32	26	130	5.20	N-7° -W	Ⅱa	F	A	－	
	出土遺物　－															
16087	72M22，72N2	（方形）	漏斗状	垂直	69	66	21	19	128	4.98	N-30° -E	Ⅱb	B	A	－	南側の上端が撹乱の影響で変形する
	出土遺物　4層：箸破片1、板材破片3、自然木約10／3層：箸破片1、板材破片1、自然木約20															
16100	70L24・25	楕円形	箱状	垂直	（71）	（58）	53	46	（128）	5.17	N-16° -E	Ⅰa	F	A	－	撹乱内
	出土遺物　－															
16103	69K7・12	（円形）	階段状	急斜度	（126）	（59）	28	（16）	131	5.12	N-83° -W	Ⅰb	F	A	－	
	出土遺物　8層：籠1（206）、円形曲物1（207）、曲物側板2、長方形曲物底板2（208・209）、板状木製品1（210）／7層：珠洲焼片口鉢1（11）、珠洲焼甕か1（12）、焼礫1／5層：土師質土器皿1（10）／一括：焼礫1、曲物側板1															
16110	72M9・10・14・15	円形	漏斗状	急斜度	173	170	62	59	137	5.01	N-30° -E	Ⅰb	A	A+B	－	
	出土遺物　16層：種子1／12層：白磁皿1（13）、焼礫1、礫1、自然木2／11層：磨石か砥石1（117）／10層：円形曲物底板1（211）／7層：割材破片か1／6層：割材5															
16127	70L17・18	円形	台形状	急斜度	（98）	（87）	68	67	（100）	5.24	N-12° -E	Ⅰa	B	A	＜ SX16050	
	出土遺物　－															
16129	71K16	円形	箱状	垂直	（88）	（77）	109	77	（103）	5.22	N-68° -W	Ⅰa	B+E	A	－	T17内で検出，底面に自然木あり
	出土遺物　5層：珠洲焼片口鉢1（14）／4層：不明石製品1、焼礫1															
16157	71M12・13	円形	台形状	急斜度	70	66	41	40	69	5.64	N-19° -W	Ⅰa	C	B	＞ P16156	
	出土遺物　－															
16164	71M11	方形	U字状	急斜度	72	64	44	32	107	5.28	N-43° -E	Ⅱa	A	A	－	
	出土遺物　2層：土師質土器皿片1、珠洲焼片口鉢1（15）															

丘江遺跡Ⅴ　井戸（SE）観察表（2）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	分類	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度							
16175	71M2	円形	台形状	急斜度	70	(66)	66	64	91	5.53	N-27° -E	Ⅰa	A	A+B	＜P16174	
	出土遺物　5層：珠洲焼片口鉢1（16）／3層：白磁口禿椀1（17）															
16196	70M15・20, 71M11・16	楕円形	U字状	急斜度	99	79	73	54	109	5.28	N-25° -E	Ⅰa	B	B	−	
	出土遺物　4層：砥石2（118・119）／3層：珠洲焼甕1（18）															
16199	71M8・13	方形	階段状	急斜度	70	63	38	30	77	5.58	N-78° -W	Ⅱb	A	A	−	撹乱の影響で上端やや変形
	出土遺物　1層：珠洲焼甕片1															
16201	71K13	円形	階段状	急斜度	62	53	23	21	71	5.67	N-34° -E	Ⅰb	A	A	−	
	出土遺物　−															
16202	71L23，71M2・3	楕円形	階段状	垂直	222	123	87	70	128	5.18	N-35° -W	Ⅰb	F	A	−	井戸本体108×85cm
	出土遺物　6層：砥石1（121）／5層：板草履1（212）、板材破片1／4層：珠洲焼片口鉢1（19）、砥石1（120）															
16216	71L18・19・23	楕円形	階段状	垂直	143	103	54	51	147	4.99	N-10° -E	Ⅰb	F	A	−	
	出土遺物　4層：土師質土器皿（灯明皿）1（20）、珠洲焼片口鉢2（21・22）、珠洲焼甕1（転用砥磨具　23）、焼礫2／2層：土師質土器片1、焼礫1															
16225	71M3・4・8	円形	U字状	内傾	103	102	77	61	106	5.32	N-75° -W	Ⅰa	B	A	＜SB16689（P16226），P16227	
	出土遺物　−															
16237	71M11	円形	台形状	急斜度	83	71	50	49	79	5.62	N-47° -E	Ⅰa	B	A	−	
	出土遺物　−															
16261	72L16	方形	台形状	急斜度	107	91	67	52	114	5.27	N-53° -W	Ⅱa	A	A	−	
	出土遺物　3層：砥石1（122）、板材破片（曲物側板か）1／2層：珠洲焼片口鉢1（転用砥磨具　24）／1層：珠洲焼壺片1															
16264	71M9・13・14	楕円形	階段状	急斜度	118	95	43	27	100	5.33	N-65° -W	Ⅰb	A	A+B	−	複数遺構か 炭化物層あり
	出土遺物　8層：土師質土器片1、部材1（213）、樹皮1（214）／6層：土師質土器片1															
16272	71M5	楕円形	U字状	急斜度	89	72	30	30	73	5.61	N-16° -W	Ⅰa	A	A	−	土坑か
	出土遺物　−															
16287	72M6	方形	U字状	急斜度	87	79	38	30	106	5.28	N-24° -E	Ⅱa	A	A	＞P16318 ＜P16290	
	出土遺物　−															
16295	72L7・8・12・13	楕円形	箱状	垂直	133	(108)	104	93	142	5.00	N-2° -W	Ⅰa	A	A	＜SD16085	
	出土遺物　5層：珠洲焼片口鉢1（25）、珠洲焼甕1（26）、板状木製品1（215）、板材（曲物側板か）1、杭1／4層：板材（加工痕あり）2、籾塊1（254）／3層：焼礫2、板状木製品3（216）															
16296	72L6	円形	U字状	垂直	77	66	49	48	(99)	5.18	N-34° -E	Ⅰa	E	A	≠SD16328	
	出土遺物　2層：木錘1（217）															
16299	71L25	楕円形	台形状	急斜度	92	72	48	36	99	5.35	N-15° -E	Ⅰa	B	A	＞SK16298 ＜SD16242	
	出土遺物　3層：瀬戸美濃焼小天目椀1（28）／2層：土師質土器小皿1（27）															
16301	72L16・17	円形	箱状	垂直	75	69	57	52	99	5.4	N-21° -E	Ⅰa	B	A	−	
	出土遺物　2層：珠洲焼甕1（29）															
16302	71M9・10・14・15	円形	漏斗状	急斜度	103	86	40	38	105	5.28	N-57° -W	Ⅰb	A	A	−	
	出土遺物　4層：杭1／3層：焼礫1、礫1、板材破片1															
16311	72M1	−	階段状	急斜度	−	−	30	20	139	4.97	−	−	A	A	＜SE16347，SK16309，SD16356 ≠SE16340	
	出土遺物　7層：曲物側板1／6層：板材（加工痕あり）1／4層：漆器有台椀1（218）／1層：土師器片1															
16314	72M1・6	長方形	U字状	急斜度	117	94	57	57	201	4.36	N-36° -E	Ⅱa	A	A	−	
	出土遺物　−															
16315	72L14・15	円形	箱状	垂直	50	47	43	36	83	5.62	N-57° -W	Ⅰa	A	A	−	
	出土遺物　−															
16319	72L14	円形	箱状	垂直	61	56	56	48	103	5.40	N-76° -W	Ⅰa	B	A	−	
	出土遺物　3層：土師質土器片1、板状木製品1（220）／2層：漆器皿1（219）															
16333	72L17・22	円形	箱状	垂直	78	73	55	53	104	5.33	N-21° -E	Ⅰa	B	A	＞SD16356 ＜P16353	
	出土遺物　2層：土師質土器小皿1（30）、青磁皿1（31）、板材2、板材（曲物側板か）1															
16340	72M1	(円形)	箱状	垂直	49	41	42	22	(58)	5.2	N-49° -W	−	D	A	≠SE16311	
	出土遺物　1層：板状木製品1（221）、板材（加工痕あり）1／一括：砥石1															
16341	73L7	円形	箱状	垂直	70	69	54	39	94	5.52	N-59° -E	Ⅰa	A	A	−	炭化物層あり
	出土遺物　−															
16347	72M1・2・7	楕円形	階段状	垂直	(143)	94	29	24	130	5.07	N-61° -W	Ⅰb	B+E	A	＞SE16311	東側壁面撹乱による圧力で変形
	出土遺物　1層：珠洲焼甕1（32）															
16348	72M3・8・9	円形	U字状	垂直	85	74	45	39	143	4.98	N-46° -W	Ⅰa	B	A	−	
	出土遺物　3層：砥石1（123）／2層：青磁椀1（33）、円形曲物底板1（222）、桶側板か1、板状木製品（加工痕あり）1（223）、部材2															
16357	72L22，72M2	楕円形	漏斗状	急斜度	117	89	50	33	168	4.71	N-52° -E	Ⅰb	B	A+B	＞SD16356	
	出土遺物　4層：硯1（124）															
16372A	72M5，73M1	楕円形	階段状	急斜度	(89)	(67)	47	40	94	5.45	N-48° -E	Ⅰb	B	A	＞SE16372B	
	出土遺物　−															
16372B	72M5，73M1	楕円形	台形状	急斜度	(89)	(67)	63	61	100	5.39	N-48° -E	Ⅰa	B	A	＜SE16372A	
	出土遺物　5層：箸1（224）															
16376	72L23・24	円形	半円状	急斜度	79	71	37	35	(78)	5.47	N-37° -W	−	A	A	＜SD16356	
	出土遺物　2層：珠洲焼片口鉢1（34）															

丘江遺跡Ⅴ　井戸（SE）観察表（3）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	分類	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度							
16396	72M4	円形	漏斗状	急斜度	141	137	33	26	158	4.83	N-31° -W	Ⅰb	F	A+B	＞P16422 ＜P16370	
	出土遺物　8層：砥石1（125）、木錘1（225）、筆1（226）、切断材1（227）、自然木1／6層：土師質土器皿1（35）／2層：砥石1															
16404	73L16・17	楕円形	U字状	垂直	75	62	49	48	(53)	5.52	N-7° -W	－	A	A	＜SD16356	
	出土遺物　3層：炭化木2															
16419	73M9	円形	箱状	垂直	85	78	76	61	90	5.45	N-71° -W	Ⅰa	A	B	－	
	出土遺物　－															
16424	73L23，73M3	楕円形	不整形	内傾	141	93	123	73	94	5.43	N-72° -E	Ⅰb	F	A+B	－	一部掘り直しか
	出土遺物　7層：土師質土器片1、砥石1、曲物側板1／4層：白磁皿1（36）															
16436	74L17・18・22・23	円形	U字状	急斜度	84	77	31	27	74	5.68	N-36° -W	Ⅰa	A	A	＜SB16700（P16435）	炭化物層あり
	出土遺物　－															
16440	73L25，74L21	（楕円形）	半円状	急斜度	(85)	(57)	58	39	(48)	5.12	N-69° -W	－	D	C	＜SD16383	
	出土遺物　－															
16442	73M5，74M1	（円形）	台形状	急斜度	(93)	(90)	64	63	(93)	5.00	N-20° -E	－	E	A	＜SD16383	
	出土遺物　3層：土師質土器皿1（37）															
16443	74L13・14・18・19	円形	漏斗状	急斜度	86	77	32	26	95	5.54	N-73° -E	Ⅰb	F	A	＞P16515	
	出土遺物　6層：円形曲物底板1（228）／5層：礫1、板材1／2層：礫1															
16444	74L18・23	円形	箱状	垂直	72	68	62	49	78	5.66	N-41° -E	Ⅰa	A	A	－	
	出土遺物　3層：板材1／2層：珠洲焼片口鉢1（38）、砥石3（126～128）															
16469	74M4	円形	台形状	急斜度	69	66	29	28	86	5.64	N-84° -W	Ⅰa	A	A	－	
	出土遺物　－															
16477	74L7・8・12・13	円形	箱状	垂直	72	(69)	64	62	79	5.69	N-64° -E	Ⅰa	F	A	＞P16534 ＜P16497	
	出土遺物　3層：箸1（229）															
16504	74L9・14	楕円形	階段状	垂直	115	92	50	48	144	5.03	N-68° -E	Ⅰb	A	A	－	
	出土遺物　2層：礫1															
16517	74L22・23	円形	台形状	急斜度	(110)	98	60	58	134	5.08	N-29° -W	Ⅰa	B	B	－	
	出土遺物　4層：白磁杯1（39）															
16537	75L11	（楕円形）	U字状	急斜度	(79)	(56)	36	22	(57)	5.62	N-47° -E	－	A	A	＜SX16540	
	出土遺物　1層：近世以降陶磁器片1、礫1															
16546	74L14・15・19・20	円形	箱状	垂直	88	83	57	53	103	5.51	N-54° -E	Ⅰa	B	A	＜P16547	
	出土遺物　2層：土師質土器片1、礫1															
16549	74L15・20， 75L11・16	楕円形	台形状	急斜度	153	119	60	59	213	4.41	N-31° -W	Ⅰa	B	B	＞SE16550	
	出土遺物　4層：籠4組、桶側板1、桶側板材破片15／3層：近世以降陶磁器片2、礫1、杭1、板材3、桶底板1、桶側板材破片5、自然木2／2層：板材4、桶側板1、桶側板材破片5、杭1															
16550	75L16	円形	台形状	急斜度	(71)	(61)	52	51	(63)	5.62	N-81° -W	Ⅰa	A	A	＜SE16549，SX16540	炭化物層あり
	出土遺物　5層：瀬戸美濃焼平椀1（41）、曲物側板1／1層：珠洲焼片口鉢2（40）															
16558	74L10，75L6	楕円形	台形状	急斜度	85	66	45	43	109	5.43	N-88° -W	Ⅰa	B	B	＞SX16599	
	出土遺物　3層：近世以降陶磁器片1／2層：肥前椀1（42）、陶磁器片1、礫1／1層：近世以降陶磁器片1、板材（加工痕あり）1、板材1、桶側板（釘付き）1															
16561	74L10・15	（楕円形）	箱状	垂直	126	(72)	61	54	163	4.90	N-56° -W	Ⅰa	B	A	＜SX16559，P16560	
	出土遺物　5層：漆器有台椀1（230）															
16563	75L8・9	方形	台形状	急斜度	73	66	51	42	87	5.71	N-19° -E	Ⅱa	A	A	－	
	出土遺物　3層：礫2															
16567	75L11	円形	漏斗状	急斜度	(107)	(100)	45	41	(135)	5.11	N-20° -E	Ⅰb	A	A	＞SE16585 ＜SX16559	
	出土遺物　3層：円形曲物底板1（231）／1層：珠洲焼片口鉢片1															
16582	75K24，75L4	円形	漏斗状	急斜度	132	131	55	40	127	5.32	N-28° -E	Ⅰb	B	A	＞SD16586	
	出土遺物　3層：礫1、曲物柄杓1（232）／2層：茶臼2（129・130）、焼礫1、礫1、円形曲物底板1（233）															
16585	74L15，75L11	円形	U字状	急斜度	(89)	(80)	32	32	159	4.87	N-66° -W	Ⅰa	B	A	＜SE16567，SX16559	炭化物層あり
	出土遺物　3層：珠洲焼片口鉢1（43）／2層：瀬戸美濃焼平椀1（41）															
16592	73M20	方形	箱状	垂直	77	70	59	51	76	5.69	N-80° -W	Ⅱa	B	B	－	土坑か
	出土遺物　－															
16597	75L9	円形	箱状	垂直	86	84	80	77	189	4.70	N-61° -W	Ⅰa	A	B	－	
	出土遺物　3層：肥前椀1（44）、近世以降陶磁器片1／2層：礫2／崩落土：礫2															
16604	74M11・12・16・17	（円形）	漏斗状	垂直	(60)	67	49	38	167	4.79	N-86° -W	Ⅰb	A+B	A+B	＞SD16383	炭化物層あり
	出土遺物　4層：青磁椀1（45）／1層：礫1															
16608	71N14・15・19・20	円形	U字状	垂直	94	88	61	58	154	4.80	N-76° -W	Ⅰa	B	A	－	
	出土遺物　－															
16612	76M6・11	円形	台形状	急斜度	77	64	53	51	61	5.87	N-24° -E	Ⅰa	B	A	－	土坑か
	出土遺物　－															
16620	75M2・3・7	円形	箱状	垂直	78	74	63	62	56	5.93	N-82° -E	Ⅰa	B	A	－	土坑か
	出土遺物　－															
16623	75M7・12	（長方形）	U字状	垂直	(70)	(63)	58	48	131	5.20	N-82° -W	Ⅱa	B	A	－	
	出土遺物　2層：土師質土器片1、円形曲物底板1（234）、箸1（235）、箸破片1、板材破片1、加工材1、炭化木1／1層：土師質土器片1															
16631	76M6・7	円形	漏斗状	急斜度	66	59	26	22	73	5.73	N-74° -E	Ⅰb	B+E	A	－	
	出土遺物　－															
16644	75L24・25， 75M4・5	長方形	階段状	急斜度	219	177	78	65	195	4.50	N-2° -E	Ⅱb	B	A+B	－	
	出土遺物　13層：板状木製品1（238）、箸破片2／7層：円形曲物底板1（237）／5層：礫1、曲物側板4、杭1（239）／4層：漆器有台椀1（236）、曲物側板1、自然木2／3層：土師質土器片1／1層：土師質土器片1															

丘江遺跡Ⅴ　井戸（SE）観察表（4）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	分類	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度							
16659	72M11・16	楕円形	U字状	急斜度	73	59	44	32	89	5.43	N-17° -E	Ⅰa	A	A	−	炭化物層あり
	出土遺物　4層：炭化木1															
16660	72M11	円形	漏斗状	急斜度	84	73	31	29	130	5.04	N-50° -W	Ⅰb	F	A	＞P16658	
	出土遺物　6層：土師質土器皿1（46）／5層：砥石1															
16661	72N12	円形	台形状	急斜度	71	66	46	45	138	4.97	N-51° -W	Ⅰa	（A）	A	−	
	出土遺物　2層：焼礫1															
16676	70L22，70M2・3	（円形）	弧状	緩やか	（100）	（94）	59	57	（30）	4.86	N-30° -W	−	D	B	−	撹乱下で検出
	出土遺物　−															
16677	70L23	（楕円形）	半円状	緩やか	（114）	（97）	52	26	（46）	4.66	N-1° -W	−	A	A	−	撹乱下で検出
	出土遺物　5層：円形曲物1（240）、炭化木12、炭化材2／2層：礫1															
16682	76L11・12・17	（円形）	階段状	急斜度	（221）	（191）	62	53	（133）	4.85	N-3° -W	Ⅰb	A	B	−	撹乱下で検出
	出土遺物　4層：部材2／2層：唐津焼擂鉢か1（47）／1層：肥前皿1（48）、肥前鉢3（49・50）															

丘江遺跡Ⅴ　土坑（SK）観察表

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
16033	72N1・2	円形	半円状	急斜度	78	70	53	39	42	5.83	N-5° -W	A	A	−	
	出土遺物　2層：土師質土器皿1（51）、土師質土器片1、碁石か双六子1（131）														
16045	70M18・19・23・24，70N3・4	方形	台形状	急斜度	223	188	174	161	69	5.69	N-69° -W	A	B	>SB16686（P16115），SE16044	
	出土遺物　5層：砥石1（132）／4層：砥石1（133）／1層：珠洲焼甕1（52）														
16046	71M17・22	楕円形	U字状	急斜度	69	51	36	35	66	5.66	N-33° -E	A	A	>P16062	
	出土遺物　−														
16052	72M17・18・22・23	長方形	不整形	急斜度	76	62	49	31	31	5.97	N-47° -W	C	B	−	
	出土遺物　4層：珠洲焼片口鉢1（土器錘か　53）／3層：土師質土器片1														
16113	70L2・3・7・8	長方形	台形状	急斜度	166	131	132	101	45	5.96	N-60° -W	A	B	＜SD16086，SX16050	
	出土遺物　1層：礫1														
16278	72M6	方形	箱状	垂直	55	48	47	44	43	5.91	N-59° -W	B	A	−	
	出土遺物　2層：礫2														
16298	71L25，72L21	（長方形）	台形状	急斜度	（199）	166	（178）	138	46	5.88	N-30° -E	B	A	＞P16281 ＜SE16299，SD16242	
	出土遺物　1層：礫1														
16309	72M1	楕円形	箱状	垂直	（83）	（69）	57	45	63	5.73	N-83° -E	B	A	＞SE16311，P16310 ＜SD16356	
	出土遺物　−														
16343	73L2・7	円形	弧状	緩やか	（68）	（61）	47	42	（31）	6.09	N-19° -E	A	A	＜SD16328	
	出土遺物　−														
16344	72M3	円形	箱状	垂直	（90）	88	83	（71）	64	5.75	N-9° -E	A	A	＜P16337	
	出土遺物　−														
16405	72L13 ～ 15・17 ～ 20	長方形	箱状	垂直	467	184	417	142	76	5.72	N-16° -E	B+C	A+B	＞SD16356 ＜SB16694（P16320・16334），P16300・16335・16407・16412	
	出土遺物　4層：瀬戸美濃焼合子1（54）／2層：土師質土器片1														
16408	73L17・18・22・23	方形	箱状	垂直	77	75	66	66	32	6.11	N-20° -E	A	B	−	
	出土遺物　−														
16462	74L13・14	円形	半円状	急斜度	（62）	57	35	30	39	6.00	N-79° -W	D	A	＜SB16702（P16461）	
	出土遺物　1層：珠洲焼甕1（55）、焼成粘土塊1														
16495	74L17・18	楕円形	U字状	垂直	82	42	53	30	57	5.92	N-6° -E	A	A	＜SB16702（P16438），P16683	
	出土遺物　2層：木片1														
16542	75L21，75M1	円形	箱状	垂直	76	67	61	48	61	5.94	N-82° -E	B	A	−	
	出土遺物　−														
16591	74L22，74M2	楕円形	台形状	急斜度	107	88	48	39	51	5.86	N-60° -E	A	B	−	
	出土遺物　−														
16646	72M8・13	楕円形	漏斗状	急斜度	77	54	55	29	66	5.72	N-63° -E	A	B	＞SB16695（P16647）	
	出土遺物　−														
16663	73M25	円形	半円状	急斜度	64	57	33	33	34	6.04	N-29° -W	A	B	−	
	出土遺物　−														
16667	76L13	長方形	箱状	急斜度	64	36	49	31	22	6.27	N-13° -E	D	B	−	
	出土遺物　1層：漆器小椀1（241）、永樂通寶1（247）、熙寧元寶1（248）、天聖元寶1（249）、元祐通寶1（250）、皇宋通寶1（251）、開元通寶1（252）														
16678	74L21・22	円形	箱状	垂直	88	82	64	62	36	5.84	N-53° -E	A	A	≠P16679	
	出土遺物　1層：珠洲焼片口鉢片1														
16681	76L3・4・8・9	円形	弧状	緩やか	105	97	64	51	23	5.91	N-15° -E	A	B	−	
	出土遺物　1層：礫1、板材1、角材1、加工材・削りくず・その他約30														

丘江遺跡Ⅴ　溝（SD）観察表

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	方位	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	長さ	上端幅	下端幅	深度						
16047	69 ～ 70L	直線状	台形状	急斜度	（1173）	65 ～ 127	37 ～ 68	54 ～ 69	5.79 ～ 5.85	N-2° -E	A	A	＜ SD16048・16086，SX16050 ≦ SD16085	
	出土遺物　1層：土師質土器Ⅲ2（56・57）													
16048	69・70L	弧状	台形状	急斜度	（791）	49 ～ 64	16 ～ 37	45	5.91 ～ 6.01	N-5 ～ 12° -E	A	B	＞ SD16047 ＜ SD16085，SX16050	
	出土遺物　3層：砥石1（134）													
16049	69L	直線状	弧状	緩やか	（52）	69	55	14	－	N-8° -E	A	B	＝ SX16050	
	出土遺物　－													
16077	69K・L，70J・K	直線状	弧状	緩やか	（1289）	35 ～ 65	14 ～ 44	12 ～ 19	6.21 ～ 6.34	N-28° -W	A	A	＜ SX16050	
	出土遺物　2層：土師質土器Ⅲ1（58）、砥石1（135）													
16078	70K・L	弧状	弧状	緩やか	（993）	18 ～ 86	8 ～ 61	10 ～ 15	6.35 ～ 6.40	N-57 ～ 87° -W	A	B	＜ SD16086 ＝ SD16084	
	出土遺物　2層：珠洲焼甕1（59）／1層：土師質土器片1、近世以降陶磁器片1													
16084	70K	弧状	弧状	緩やか	（569）	28 ～ 60	17 ～ 29	3 ～ 17	6.29 ～ 6.43	N-7° -W ～ N-20° -E	D	B	＜ SD16085，SX16050 ＝ SD16078	
	出土遺物　1層：土師質土器片1													
16085	70K・L，71・72L，73K・L	（方形）	台形状～弧状	急斜度～緩やか	南北（2640）東西（1356）	南北 72 ～ 317 東西 238	南北 18 ～ 51 東西 25 ～ 96	南北 24 ～ 40 東西 44 ～ 67	南北 5.95 ～ 6.08 東西 5.83 ～ 6.03	南北 N-20° -E 東西 N-72° -W	A	A+B	＞ SD16048・16084・16086・16233・16328，SE16295，SX16128 ＜ SD16383 ≠ P16247・16249・16251 ≧ SD16047	（方形）区画溝
	出土遺物　5層：土師質土器片1、礫1／4層：珠洲焼片口鉢1（62）、珠洲焼甕1（転用研磨具　70）、珠洲焼片1、敲石1（136）、権状錘か1（140）、カマド材か1（141）、砥石2（146・147）／2層：土師質土器片2、珠洲焼片口鉢片1、珠洲焼壺1（66）、珠洲焼甕（転用研磨具1含む）10（68・71）、珠洲焼片2、須恵器片1、碁石か双六子1（138）、石臼1（139）、砥石1（142）、砥石か1、焼礫2、焼礫か1、礫11／1層：土師質土器Ⅲ1（60）、土師質土器片3、瓦器外耳鍋1（61）、珠洲焼片口鉢8（63 ～ 65）、珠洲焼壺片1、珠洲焼甕（転用研磨具1含む）18（67・69）、珠洲焼片3、青磁椀1（72）、越前焼擂鉢1（73）、碁石か双六子1（137）、砥石2（143・145）、焼礫1、礫1／一括：砥石1（144）、礫1													
16086	70K・L	直線状	弧状	緩やか	（644）	41 ～ 75	24 ～ 47	13 ～ 19	6.25 ～ 6.27	N-20° -E	A	B	＞ SD16047・16078，SK16113 ＜ SD16085，SX16050	
	出土遺物　1層：焼土塊1、珠洲焼片1													
16198	71K	直線状	弧状	緩やか	（128）	49	28	11	6.30	N-68° -W	D	A か	＜ P16197	
	出土遺物　－													
16215	71K	直線状	弧状	緩やか	（531）	29 ～ 46	10 ～ 22	10 ～ 13	6.21 ～ 6.32	N-25° -E	A	B	≠ P16220	
	出土遺物　－													
16233	71L，72K・L，73K・L	直線状	弧状	緩やか	（1785）	67 ～ 119	23 ～ 94	11 ～ 24	6.19 ～ 6.23	N-23° -E	A	B	＜ SD16085・16238，P16312 ≠ P16322	
	出土遺物　1層：土師質土器片1、珠洲焼片口鉢片1、珠洲焼甕1（転用研磨具　74）、砥石2（148・149）													
16238	71K・L，72K	直線状	弧状	緩やか	（828）	61 ～ 118	33 ～ 89	15 ～ 20	6.13 ～ 6.28	N-20° -E	A	B	＞ SD16233 ＜ SB16692（P16248・16252） ≠ P16245・16246	
	出土遺物　－													
16242	71・72L	直線状	弧状	緩やか	561	185 ～ 197	88 ～ 120	23 ～ 29	6.08 ～ 6.11	N-66° -W	A	B	＞ SE16299，SK16298，P16281	
	出土遺物　1層：土師質土器小皿1（75）、珠洲焼甕1（76）、砥石1（150）、砥石か1、礫1													
16328	71 ～ 73L	直線状	弧状	緩やか	（1729）	72 ～ 221	36 ～ 160	10 ～ 18	6.15 ～ 6.23	N-22° -E	A	A+B	＜ SD16085・16383 ≠ SE16296，SK16343	
	出土遺物　1層：珠洲焼甕か1（77）、砥石1（151）、焼礫1													
16356	72L・M，73L	直線状	台形状	急斜度	（1868）	94 ～ 178	52 ～ 149	55 ～ 90	5.51 ～ 5.88	N-16° -E	A	A+B	＞ SE16311・16376・16404，SK16309 ＜ SB16694（P16334），SE16333・16357，SK16405，P16346 ≦ SD16383	区画溝
	出土遺物　11層：土師質土器片1／9層：砥石1（155）、自然木1／3層：土師質土器Ⅲ1（80）、砥石1（154）、礫1／2層：珠洲焼片口鉢1（81）、礫1／1層：土師器片1、須恵器片1、土師質土器小皿2（78・79）土師質土器片4、珠洲焼片口鉢2（82）、珠洲焼片1、石臼1（152）、硯1（153）、凹石1（156）、礫1、草木1、鍛冶滓か1													
16383	73K ～ M，74L・M	直線状	台形状～階段状	急斜度	（1971）	165 ～ 348	51 ～ 147	43 ～ 94	5.31 ～ 5.97	N-79° W	A	A+B	＞ SB16701（P16639），SE16440・16442，SD16085・16328 ＜ SB16698（P16610），SE16604，P16400・16401・16402・16416・16425 ≧ SD16356 ≠ P16680	区画溝
	出土遺物　8層：板材1、自然木1／5層：曲物側板1、自然木約20／4層：珠洲焼片口鉢1（85）、板材5、種子1／3層：土師質土器片1、珠洲焼片口鉢1（86）、珠洲焼壺1（88）／2層：珠洲焼片口鉢1（87）、板材1／1層：須恵器甕1（転用研磨具　89）、土師質土器Ⅲ2（83）、土師質土器片2、珠洲焼片口鉢2（84）、珠洲焼甕片1、砥石1（157）、杭1													
16586	75K，76K・L	直線状	弧状	緩やか	（1143）	58 ～ 90	45 ～ 75	6 ～ 13	6.37 ～ 6.50	N-32° -E	D	A	＜ SE16582 ≠ P16609	南側Ｔ字状に分岐する
	出土遺物　1層：礫1													
16587	75・76K	直線状	弧状	緩やか	（834）	51 ～ 74	17 ～ 52	6 ～ 17	6.43 ～ 6.48	N-22° -E	A	A	－	南側撹乱に切られる
	出土遺物　－													

丘江遺跡Ⅴ　性格不明遺構（SX）観察表

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）					底面標高（m）	長軸方向	埋土堆積	埋土色調	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
16015	70N10	楕円形	弧状	緩やか	86	71	67	54	21	6.20	N-37° -E	B	A	−	
	出土遺物　−														
16050	69L，70K・L	長方形	台形状	急斜度	802	652	775	624	14 ～ 22	6.22 ～ 6.27	N-81° -W	B	B	＞ SE16127，SK16113，SD16047・16048・16077・16084・16086 ＝ SD16049	
	出土遺物　3 層：樹皮多量／2 層：土師質土器片 3、近世以降陶磁器片 3 ／ 2 層（北西ブロック）：曲物側板か 1、加工材 1、板材 2、不明木製品 1、棒状木製品 1（242）、樹皮多量／2 層（北東ブロック）：自然木 13、板材（加工痕あり）3、割材 3、種子 4、樹皮多量／2 層（南西ブロック）：炭化木 1、自然木 1、樹皮多量／2 層（南東ブロック）：割材 2、板材 2、種子 1、樹皮多量／1 層：土師質土器片 1、珠洲焼壺片 1、珠洲焼片 4、近世以降陶磁器片 21、肥前猪口 1（90）、肥前椀 1（91）、杭先か 2、樹皮多量／一括：寛永通寶 1（253）														
16128	71K11・16	（楕円形）	弧状	緩やか	（118）	（55）	（101）	（33）	21	6.27	N-66° -W	D	A	＜ SD16085	
	出土遺物　1 層：珠洲焼甕 2（92）														
16136	71L11 ～ 13・16 ～ 18・21・22	円形	弧状	緩やか	410	409	232	205	66	5.80	N-42° -E	A	B	≠ SB16688（P16209）・SB16689（P16211），P16208	
	出土遺物　5 層：砥石か 1、焼礫 1、礫 3 ／ 3 層：珠洲焼片 1、砥石 2、礎石か 1、礫 5 ／ 2 層：珠洲焼片口鉢 1（93）、礫 1 ／ 1 層：珠洲焼片 1、砥石 1、礫 8														
16258	71L24・25，71M3 ～ 5	不整形	弧状	緩やか	340	228	212	190	16	6.26	N-35° -W	A	A	＜ P16227・≠ P16267・16270・16271・16275・16293	自然地形か
	出土遺物　2 層：須恵器壺 1（95）／ 1 層：土師器甕 1（94）、土師質土器小皿 1（96）														
16339	73L6・7・12	楕円形	弧状	緩やか	222	126	196	104	21	6.26	N-60° -W	A	A	−	
	出土遺物　−														
16458	74L1 ～ 3・6 ～ 8	（楕円形）	弧状	緩やか	（510）	（174）	（335）	（108）	59	5.86	N-45° -E	A	B	−	
	出土遺物　2 層：板材 2 ／ 1 層：須恵器片 1、土師質土器片 1、珠洲焼甕 1（97）、陶器壺・甕類 1（98）														
16540	74L20，75L11・12・16・17・21	不整形	台形状	緩やか	294	293	西 211 東 155	西 99 東 66	西 41 東 45	西 6.14 東 6.10	N-15° -E	A	B	＞ SE16537・16550	底面に楕円形のくぼみを 2 か所持つ
	出土遺物　3 層：杭 1、板 1 ／ 2 層：唐津焼椀 1（99）、肥前椀 1（100）／ 1 層：近世以降陶磁器片 3、漆器有台椀 1（243）														
16559	74L5・10・15，75L1・6・11	（楕円形）	弧状	緩やか	（327）	210	（287）	114	27	6.24	N-75° -W	A	A	＞ SE16561・16567・16585 ＜ SE16558	
	出土遺物　3 層：珠洲焼片口鉢 1（101）、珠洲焼片 1、礫 1														

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（1）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16000	70M25	円形	台形状	急斜度	31	30	14	20	6.26	A1	B	−	−	
16001	70N3	円形	台形状	急斜度	22	22	14	−	6.18	E	B	−	−	
16003	70N4	円形	階段状	急斜度	33	30	26	−	6.10	E	B	−	−	
16007	71N1・6	円形	台形状	急斜度	26	25	22	−	6.15	E	B	−	−	
16009	71N11	楕円形	台形状	急斜度	39	32	21	18	6.16	A1	A	−	−	
16010	71M21	円形	台形状	急斜度	24	24	14	−	6.20	E	B	−	−	
16011	70M25	円形	半円状	急斜度	24	21	23	16	6.16	A1	B	−	−	
16018	70N5，71N1	円形	弧状	緩やか	28	24	16	−	6.20	D	B	−	−	
16019	71N7・8	円形	半円状	急斜度	56	50	34	21	5.97	A1	A	−	−	
16020	70M25	円形	台形状	急斜度	31	29	20	−	6.18	E	B	−	−	
16021	70N20	楕円形	弧状	緩やか	25	20	13	−	6.20	（B1）	B	−	−	
16022	70M20，71M16	円形	台形状	急斜度	35	31	21	14	6.16	A1	B	−	−	
16023	71M21，71N1	円形	弧状	緩やか	22	21	6	−	6.28	（C1）	B	−	−	
16024	71N11	円形	半円状	急斜度	28	27	12	−	6.26	D	B	−	−	
16025	71N10，72N6	円形	台形状	急斜度	41	35	15	−	6.14	E	C	−	−	
16026	71M16	円形	半円状	急斜度	21	19	10	−	6.24	E	B	−	−	
16029	70N15・20	円形	弧状	急斜度	19	（17）	5	−	6.29	（B1）	B	−	＜ P16030	
16030	70N15・20	円形	V 字状	急斜度	34	33	27	−	6.12	（A1）	B	−	＞ P16029	
16032	72N3	楕円形	階段状	急斜度	51	34	19	23	6.08	（A1）	B	−	−	
16034	71M18	楕円形	台形状	急斜度	28	21	19	15	6.14	A1	B	−	−	
16035	71M18	楕円形	半円状	急斜度	22	16	12	−	6.21	（C1）	B	−	−	
16036	72N4	楕円形	U 字状	垂直	28	22	31	12	5.97	A1	A	−	−	
16039	70N4・9	円形	台形状	急斜度	24	24	25	−	6.13	E	B	−	−	
16041	71M17・18	円形	台形状	急斜度	33	32	15	16	6.18	C1	B	−	−	
16043	70N4	円形	半円状	急斜度	21	18	18	−	6.20	E	B	−	−	
16053	72M23・24	楕円形	半円状	急斜度	49	37	24	18	6.03	C1	B	−	−	
16054	72M18・19・23・24	楕円形	漏斗状	急斜度	42	35	33	11	5.96	B2	B	−	−	
16055	72N3	円形	台形状	急斜度	70	63	34	−	5.92	D	B	3 層：珠洲焼片口鉢 1（102）	−	土坑か
16056	72M23	円形	半円状	急斜度	24	21	20	17	6.09	C1	B	−	−	
16057	72N4	楕円形	台形状	急斜度	30	23	9	13	6.19	A1	A	−	−	
16058	72M24・25	円形	半円状	急斜度	25	23	16	12	6.14	A1	B	−	−	
16059	72N3	楕円形	漏斗状	急斜度	22	17	22	10	6.05	A1	B	−	−	
16061	71M17	円形	弧状	緩やか	30	28	15	12	6.15	A1	A	−	−	
16062	71M17	楕円形	台形状	急斜度	（36）	28	19	−	6.13	C1	B	−	＜ SK16046	
16063	72M22	長方形	U 字状	垂直	34	27	42	−	5.85	E	A	−	−	
16071	72M24	楕円形	U 字状	内傾	（17）	（13）	28	17	5.99	C1	B	1 層：柱根 1	＞ SB16696（P16072），P16108	
16073	70K16	方形	U 字状	垂直	22	20	36	13	6.03	A1	B	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（2）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16074	69J25	円形	半円状	急斜度	21	21	20	−	6.29	E	B	−	−	
16075	70K6	楕円形	U字状	急斜度	29	24	41	−	5.98	E	B	−	−	
16076	70K6・11	長方形	U字状	急斜度	24	18	29	−	6.09	E	B	−	−	
16080	70L14	方形	U字状	急斜度	32	32	48	20	5.97	A1	B	−	−	
16081	70K1	円形	U字状	急斜度	21	21	24	−	6.25	E	B	−	−	
16082	70L18	方形	U字状	急斜度	26	24	33	14	6.13	A1	B	−	−	
16083	70L18	円形	台形状	急斜度	22	19	22	−	6.22	E	B	−	−	
16089	70L14	円形	U字状	急斜度	16	15	23	−	6.26	E	B	−	−	
16090	72N4	楕円形	台形状	急斜度	24	21	15	8	6.11	A1	A	−	−	
16095	70M4・9	円形	漏斗状	急斜度	37	33	62	17	5.82	B1	B	−	＞SB16687（P16093）	
16096	70M15	円形	半円状	急斜度	(18)	18	18	9	6.22	A1	B	−	＞SB16687（P16097）	
16101	70L19	円形	U字状	急斜度	22	19	43	−	6.04	E	B	−	−	
16102	70M5	方形	台形状	急斜度	20	19	15	−	6.30	E	B	−	−	
16105	70M10	方形	弧状	緩やか	24	22	10	−	6.34	D	B	−	−	
16107	70M15	円形	半円状	急斜度	51	43	37	19	6.09	A1	A	−	−	
16108	72M24	(円形)	弧状	緩やか	33	(28)	20	−	6.09	D	B	−	＜P16071	
16112	72M13	円形	U字状	急斜度	30	30	31	22	6.03	C1	A	−	＞SB16695（P16111）	
16114	72M23	楕円形	半円状	急斜度	38	29	27	−	6.02	E	B	−	−	
16116	72M13	方形	漏斗状	急斜度	27	26	24	18	6.14	A1	A	−	−	
16117	72M13・14	楕円形	弧状	緩やか	52	36	37	−	6.09	E	B	1層：土師質土器片1	−	
16118	72M14	円形	弧状	緩やか	24	21	9	−	6.27	E	B	1層：割材1	−	
16120	72M22	楕円形	漏斗状	急斜度	50	37	48	−	5.80	−	−	−	−	崩落のため断面記録なし
16122	72M9・14	楕円形	U字状	急斜度	46	31	42	26	5.94	C1	B	−	＞SB16697（P16121）	
16123	72M13	円形	階段状	垂直	35	33	33	14	6.03	B2	B	−	−	
16124	71M19・20	円形	U字状	垂直	46	43	59	18	5.71	A1	B	−	−	
16125	72M24	楕円形	U字状	急斜度	33	25	35	23	5.93	A1	B	3層：加工材1	−	
16126	72M24	楕円形	階段状	急斜度	46	37	28	−	5.98	D	B	−	−	
16130	72M9	長方形	台形状	急斜度	35	27	32	14	6.06	A1	B	−	−	
16131	72M13・18	円形	漏斗状	急斜度	(41)	39	58	−	5.76	D	A	−	＞P16132・P16178 ＜SB16697（P16140），P16141	
16132	72M13・14	(円形)	漏斗状	垂直	(38)	(30)	64	−	5.69	D	A	−	＞P16138 ＜SB16697（P16140），P16131・P16141	
16133	69K18	(楕円形)	U字状	垂直	(29)	(16)	29	−	6.08	A	A	−	＜SB16670（P16067）	
16134	70L19	方形	U字状	垂直	23	22	41	12	6.08	A1	B	−	−	
16135	72M14	(円形)	台形状	急斜度	(48)	(20)	35	−	5.98	E	B	−	−	
16137	70K10，71K6	円形	台形状	急斜度	31	30	38	−	6.13	E	B	−	＜SD16085	
16138	72M13	円形	半円状	急斜度	25	(15)	17	−	6.17	B	−	−	＜P16132	
16139	70L10	円形	半円状	急斜度	21	20	17	−	6.30	E	B	−	−	
16141	72M13	円形	U字状	急斜度	17	16	25	−	6.10	D	A	−	＞SB16697（P16140），P16131・P16132	
16142	70L15	円形	U字状	急斜度	24	21	21	−	6.26	−	−	−	−	
16144	70L15	長方形	不整形	緩やか	36	25	19	−	6.30	E	B	−	−	
16145	71L13・14	楕円形	台形状	急斜度	24	19	24	−	6.19	E	A	−	−	
16146	71L13	長方形	半円状	急斜度	27	22	25	−	6.20	E	B	−	−	
16147	71L19	楕円形	半円状	急斜度	25	19	20	−	6.23	E	B	−	−	
16148	71L19	円形	弧状	急斜度	27	26	13	−	6.28	D	A	−	−	
16152	71M1	円形	台形状	急斜度	33	33	20	−	6.24	D	B	−	−	
16153	71M1	方形	半円状	急斜度	34	30	22	21	6.23	C1	B	−	＞SB16691（P16154）	
16156	71M13	(円形)	台形状	急斜度	31	(26)	21	20	6.14	A1	A	−	＜SE16157	
16158	71L19	円形	不整形	急斜度	31	27	19	−	6.26	E	B	−	−	
16159	71M1・2	円形	階段状	急斜度	41	38	26	20	6.19	C1	B	−	＞P16160	
16160	71M1・2	円形	半円状	急斜度	(28)	32	19	−	6.25	E	B	−	＜P16159	
16161	71L21	円形	V字状	急斜度	(32)	31	28	−	6.16	(B1)	B	−	＜P16162	
16162	71L21	円形	台形状	急斜度	24	21	29	−	6.15	E	B	−	＞P16161	
16165	72M10・15	円形	U字状	垂直	30	27	36	16	6.01	A1	B	−	−	
16167	71M11	円形	半円状	急斜度	29	28	16	−	6.20	D	A	−	−	
16169	71M2	円形	半円状	急斜度	28	27	24	−	6.21	E	B	−	−	
16171	71M8	楕円形	半円状	急斜度	28	23	25	−	6.09	E	B	−	−	
16172	71M8	円形	台形状	急斜度	29	29	16	−	6.18	E	B	−	−	
16173	71M23	方形	弧状	緩やか	40	39	20	−	6.24	D	A	−	−	
16174	71M2	円形	半円状	急斜度	31	29	13	16	6.28	A1	B	−	＞SE16175	
16176	72M14・19	円形	V字状	急斜度	25	24	30	−	6.02	E	A	−	−	
16178	72M13・18	(円形)	U字状	垂直	44	(19)	55	−	5.79	−	−	−	＜P16131	
16179	71L23・24	楕円形	台形状	急斜度	34	23	26	−	6.18	E	B	−	−	
16180	71L23	円形	半円状	急斜度	31	30	15	−	6.29	D	A	−	−	
16182	71M2	楕円形	台形状	急斜度	38	29	38	−	6.07	E	B	1層：土師質土器皿1(103)，珠洲焼甕1(104)	−	
16188	71L23	楕円形	台形状	急斜度	34	28	19	−	6.22	E	B	−	＞SB16690（P16187）	
16189	70L25	円形	半円状	急斜度	21	20	16	−	6.30	D	B	−	−	
16190	71L23	円形	台形状	急斜度	26	24	19	−	6.25	E	B	−	−	
16191	71M8	円形	U字状	急斜度	18	18	25	−	6.09	E	B	−	−	
16193	71M8	円形	台形状	急斜度	41	36	29	20	6.06	B2	A	−	−	
16194	71M13・14	方形	台形状	急斜度	28	28	39	12	5.95	A1	B	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（3）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16195	71K16	方形	漏斗状	急斜度	29	25	30	9	6.18	B2	B	−	−	
16197	71K12	円形	U字状	急斜度	18	17	19	−	6.14	E	A	−	＞SD16198	
16200	71K6	楕円形	階段状	急斜度	29	26	32	20	6.16	B2	B	−	−	
16203	70K15，71K11	楕円形	U字状	垂直	33	26	48	15	6.01	A2	A	−	−	
16204	71K12・13	円形	半円状	急斜度	30	27	24	−	6.17	D	A	−	−	
16205	71K11・12	円形	階段状	垂直	47	(41)	72	21	5.74	B2	A	−	＜P16206	
16206	71K11・12	円形	U字状	垂直	50	45	71	−	5.76	D	A	1層：土師質土器皿1（105）	＞P16205	
16207	71K11	円形	階段状	垂直	30	29	44	16	6.03	B2	A	−	−	
16208	71L21・22	円形	台形状	急斜度	(20)	(18)	(17)	−	6.09	E	B	−	≠SX16136	
16214	71K19	楕円形	弧状	緩やか	47	37	21	−	6.18	D	A	−	−	
16217	71K12	方形	U字状	垂直	31	27	31	15	6.13	A1	A	−	−	
16218	71K12	長方形	U字状	急斜度	36	27	51	21	5.93	A1	A	−	−	
16219	71K14	円形	台形状	急斜度	19	18	25	−	6.13	E	A	−	−	
16220	71K18	円形	台形状	急斜度	21	20	(31)	−	6.07	E	B	−	≠SD16215	
16221	71K19	方形	漏斗状	垂直	29	27	39	−	6.01	E	C	−	−	
16223	71K11	円形	台形状	急斜度	20	20	22	−	6.26	E	A	−	−	
16224	71K14・15・19・20	円形	U字状	急斜度	44	40	47	−	5.91	D	A	−	−	
16227	71M3・4	円形	半円状	急斜度	42	38	24	23	6.11	C1	B	−	＞SE16225，SX16258	
16228	72K16	円形	箱状	垂直	43	41	28	−	6.02	D	A	1層：石臼1（158）、砥石2（159）	−	土坑か
16229	72K16	楕円形	半円状	急斜度	33	24	22	14	6.08	A2	B	−	−	
16230	71K13・14・18・19	楕円形	台形状	急斜度	61	49	68	27	5.71	A2	A	−	−	
16231	71L14	方形	台形状	急斜度	22	20	24	−	6.18	E	A	−	−	
16234	71K25	円形	台形状	急斜度	21	20	21	−	6.19	E	A	−	−	
16235	72K21	円形	台形状	急斜度	27	26	31	−	6.03	E	B	−	−	
16239	71K11	円形	U字状	急斜度	35	34	50	15	5.98	B1	A	−	−	
16240	71L19	円形	台形状	急斜度	63	62	23	−	6.21	E	C	−	−	
16241	72K16	方形	U字状	急斜度	33	30	42	9	5.89	A2	A	−	−	
16243	72K22	円形	U字状	垂直	22	22	37	−	5.96	E	A	−	−	
16244	71L20・25	方形	半円状	急斜度	34	30	25	−	6.15	D	A	−	−	
16245	71K25，72K21	円形	台形状	急斜度	(21)	(19)	(19)	−	6.01	E	B	−	≠SD16238	
16246	72K21	楕円形	台形状	急斜度	(22)	(14)	(19)	−	6.01	E	A	−	≠SD16238	
16247	71L8	楕円形	U字状	急斜度	(24)	(20)	(32)	−	5.89	E	B	−	≠SD16085	
16249	71L8・9	円形	U字状	急斜度	(29)	(28)	(36)	−	5.81	D	B	−	≠SD16085	
16251	71L10	円形	U字状	急斜度	17	16	31	−	6.07	E	B	−	≠SD16085	
16253	72K16・17	円形	U字状	垂直	30	27	35	−	5.95	E	B	−	−	
16254	72K21	円形	U字状	急斜度	25	25	31	−	6.03	(B1)	B	−	＞SD16238	
16255	72K17	楕円形	階段状	急斜度	37	28	51	−	5.77	E	B	−	−	
16256	71L24	方形	階段状	急斜度	32	30	34	−	6.06	E	B	−	−	
16259	72K22・23	円形	弧状	緩やか	58	54	19	−	6.11	D	B	−	−	
16262	71M9	円形	台形状	急斜度	20	19	18	−	6.12	E	B	−	−	
16263	71M9	楕円形	階段状	急斜度	48	33	32	19	5.99	B2	B	−	−	
16266	72K23	円形	U字状	垂直	18	(16)	19	−	6.14	E	A	−	＜SB16692（P16265）	
16267	71M4	方形	台形状	急斜度	(29)	(29)	(9)	14	6.14	A1	B	−	≠SX16258	
16270	71L24	円形	U字状	急斜度	(19)	(16)	47	−	5.91	E	B	−	≠SX16258	
16271	71L24	楕円形	弧状	緩やか	(16)	(11)	11	−	6.25	E	B	−	≠SX16258	
16273	72K24	円形	U字状	急斜度	16	16	25	−	6.08	E	A	−	−	
16274	71M15	円形	漏斗状	急斜度	40	35	41	15	5.88	B2	A	−	−	
16275	71L24	円形	半円状	急斜度	17	16	(14)	−	6.15	E	B	−	≠SX16258	
16276	71M10・15	楕円形	U字状	垂直	44	31	55	−	5.78	D	A	−	−	
16279	71M5	円形	U字状	急斜度	24	23	25	−	6.09	D	B	−	−	
16280	72L11・16	方形	台形状	急斜度	26	22	14	−	6.23	E	B	−	−	
16281	71L25	楕円形	半円状	急斜度	(46)	(30)	39	−	5.97	D	B	−	＜SD16242	
16285	71M10	円形	階段状	垂直	41	36	78	20	5.56	B 2	A	−	−	
16286	71M10	円形	漏斗状	急斜度	32	27	28	−	6.07	E	B	−	−	
16290	72M6	円形	階段状	垂直	20	19	65	12	5.67	B 1	A	−	＞SE16287	
16292	71M10・15	楕円形	階段状	垂直	38	26	39	16	5.95	B 1	B	−	−	
16293	71L24	円形	台形状	急斜度	(28)	(28)	(27)	−	6.00	E	B	−	≠SX16258	
16294	72L12・17	方形	U字状	急斜度	21	19	30	−	6.11	E	B	−	−	
16297	72L13・14	方形	台形状	急斜度	30	27	31	−	6.13	E	B	−	−	
16300	72L12・17	方形	U字状	垂直	27	25	43	−	5.98	E	B	−	＞SK16405	
16303	72K23	円形	U字状	急斜度	22	20	37	−	5.97	E	B	−	＞SA16693（P16304）	
16305	72L9	円形	半円状	急斜度	26	26	21	−	6.19	E	B	−	−	
16306	72L13・14	円形	半円状	急斜度	21	20	22	−	6.21	E	B	−	−	
16307	72L17	方形	台形状	急斜度	23	24	12	−	6.29	(A1)	B	−	−	
16310	71M5，72M1	楕円形	台形状	急斜度	(31)	34	24	−	6.11	D	A	−	＜SK16309，SD16356	
16312	72K23	楕円形	U字状	垂直	28	23	36	−	5.99	E	B	−	＞SD16322	
16317	72L10	方形	台形状	急斜度	19	17	30	−	6.12	E	A	−	−	
16318	72M6・11	長方形	箱状	垂直	(38)	46	23	−	6.11	D	A	−	＜SE16287	
16321	72L17	円形	台形状	急斜度	40	35	39	−	6.02	E	A	−	−	
16322	72K24	円形	漏斗状	急斜度	26	23	33	−	5.93	E	B	−	＞SD16233	
16323	72L17	円形	半円状	急斜度	24	23	23	11	6.17	A1	B	−	−	
16324	72L15	方形	台形状	急斜度	27	25	29	−	6.16	E	B	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（４）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16325	72M2	円形	U字状	急斜度	20	20	34	−	6.05	E	A	−	−	
16326	72M7・8	円形	台形状	急斜度	43	38	23	−	6.13	D	B	−	−	
16327	72L14・15	円形	半円状	急斜度	27	27	27	−	6.18	E	B	−	−	
16329	72M2	円形	U字状	垂直	17	17	28	−	6.11	E	B	−	−	
16330	72M2・3・7・8	楕円形	半円状	急斜度	39	30	32	−	6.06	D	B	−	＞SB16695（P16354）	
16331	72L23，72M3	楕円形	U字状	垂直	32	24	40	20	6.01	B2	B	−	＞P16332	
16332	72M3	円形	U字状	垂直	19	(17)	23	−	6.18	E	B	−	＜P16331	
16335	72L17	円形	台形状	急斜度	26	23	31	−	6.09	D	B	−	＞SB16694（P16334），SK16405	
16336	72L15	円形	半円状	急斜度	26	22	25	−	6.21	E	B	−	−	
16337	72M3	楕円形	U字状	垂直	36	26	87	−	5.53	−	B	1層：柱根1（244）	＞SK16344	
16338	72L14・15	円形	階段状	垂直	30	28	38	13	6.06	B1	B	−	−	
16342	72L23，72M3	楕円形	U字状	垂直	33	22	60	−	5.80	C2	B	2層：柱根1（245）	−	
16345	72M3・4	方形	台形状	急斜度	30	27	23	17	6.20	A1	A	−	−	
16346	72L23	円形	台形状	急斜度	26	23	29	−	6.14	E	B	−	＞SD16356	
16349	71L24，72M4	楕円形	階段状	垂直	41	32	44	18	5.98	B2	B	−	＞P16355・P16367	
16350	72L23	方形	U字状	急斜度	30	29	50	−	5.93	D	B	1層：土師質土器片1	−	
16351	72L20	円形	台形状	急斜度	26	26	16	−	6.30	E	B	−	−	
16352	72L23，72M3	円形	弧状	緩やか	51	50	23	−	6.20	D	B	−	−	
16353	72L17	楕円形	U字状	垂直	28	22	44	−	5.96	E	A	−	＞SE16333	
16355	72M4	円形	U字状	垂直	21	20	28	13	6.13	A1	A	−	＞P16423，＜P13649	
16359	73M6	楕円形	V字状	急斜度	34	27	39	−	5.98	E	B	−	−	
16360	73M6	楕円形	U字状	垂直	28	16	49	−	5.85	E	A	−	＞SB16696（P16362）	
16363	72L24	楕円形	半円状	急斜度	28	21	23	−	6.20	E	B	−	＞P16374	
16364	73M7	円形	弧状	緩やか	35	30	21	−	6.15	E	B	−	−	
16365	73M7	楕円形	弧状	緩やか	36	29	17	19	6.19	A1	B	−	−	
16366	73M8・13	方形	階段状	垂直	38	36	35	21	5.99	B2	B	−	−	
16367	72M4	(方形)	階段状	急斜度	(48)	(44)	36	16	6.04	B2	A	−	＜P16349・P16422	
16368	73M7・12	円形	半円状	急斜度	33	29	16	−	6.22	E	B	−	＞P16369	
16369	73M7・12	円形	階段状	急斜度	32	(19)	19	12	6.17	B1	B	−	＜P16368	
16370	72M4	(円形)	(弧状)	(緩やか)	(18)	(18)	17	−	6.22	E	B	−	＞SE16396	
16371	73M2・3・7・8	楕円形	U字状	垂直	29	24	49	−	5.88	D	B	−	−	
16373	73M8	円形	階段状	垂直	27	25	29	13	6.08	B1	B	−	−	
16374	72L23・24	(方形)	階段状	急斜度	(46)	38	38	13	6.05	B2	B	−	−	
16377	73M8	円形	半円状	急斜度	30	27	25	22	6.13	C1	A	−	−	
16378	73M7	楕円形	階段状	急斜度	63	44	50	−	5.87	D	A	−	−	
16379	73M7・8	方形	箱状	急斜度	40	35	37	−	6.00	D	B	−	−	
16380	73M8	円形	階段状	急斜度	28	25	37	−	5.96	(B2)	B	−	−	
16381	73M8	長方形	半円状	急斜度	34	27	22	−	6.13	D	B	−	−	
16382	73M8	円形	半円状	急斜度	24	21	20	−	6.17	E	B	−	−	
16385	73M3	円形	階段状	垂直	26	24	41	15	5.91	B2	B	−	＞P16421	
16387	73M9	円形	弧状	緩やか	36	34	20	−	6.13	E	B	−	−	
16388	73L24	円形	U字状	垂直	(23)	(21)	(34)	14	5.88	A1	A	−	−	トレンチ内
16389	73M10	楕円形	弧状	緩やか	44	35	22	−	6.15	E	B	−	−	
16391	73M4	楕円形	漏斗状	急斜度	33	27	38	−	5.96	D	B	−	−	
16392	73M5	円形	漏斗状	急斜度	30	28	42	14	5.94	B2	B	3層：珠洲焼片口鉢片1	−	
16393	73M9・10	円形	階段状	垂直	31	28	35	18	6.01	B1	A	−	−	
16394	73M4	楕円形	台形状	急斜度	38	28	32	−	6.07	D	B	−	−	
16395	73M5	楕円形	漏斗状	急斜度	29	20	25	12	6.13	B1	B	−	−	
16397	73L25	円形	U字状	垂直	(33)	(33)	41	17	5.93	A1	B	−	−	トレンチ内
16398	73M4	楕円形	U字状	急斜度	28	20	31	11	6.05	A1	B	−	−	
16399	73M4・5	円形	U字状	垂直	27	27	47	11	5.91	A2	B	−	−	
16400	73L20，74L16	楕円形	漏斗状	垂直	52	42	51	22	5.92	B2	B	−	＞SD16383	
16401	73L20	楕円形	U字状	垂直	32	26	42	−	6.04	C2	B	−	＞SD16383	
16402	74L16	円形	漏斗状	急斜度	53	48	62	−	5.81	(B2)	B	−	＞SD16383	
16403	73L11	方形	U字状	急斜度	19	14	25	−	6.21	E	B	−	−	
16406	73L17	方形	漏斗状	垂直	32	27	44	17	5.98	A2	B	−	−	
16407	72L14	円形	台形状	急斜度	32	30	29	−	6.16	E	A	−	＞SK16405	
16412	72L14・19	円形	箱状	垂直	51	51	44	−	6.01	D	B	−	＞SK16405	
16413	74L11	円形	U字状	垂直	(24)	(21)	(29)	−	6.04	D	B	−	−	撹乱内
16414	73L23	方形	台形状	急斜度	28	28	22	−	6.20	D	B	−	−	
16415	73M3・4	円形	U字状	垂直	38	36	59	24	5.75	A1	B	−	−	
16416	74M6	円形	漏斗状	急斜度	30	29	30	19	6.12	B1	B	−	＞SD16383	
16417	73M10	楕円形	階段状	垂直	35	25	48	16	5.91	B1	B	−	−	
16418	73L25	円形	U字状	垂直	(27)	(25)	(38)	12	5.86	A2	B	−	−	トレンチ内
16421	73M3	方形	階段状	垂直	42	(36)	67	17	5.70	B2	B	−	＜P16385	
16422	72M4	円形	階段状	垂直	(17)	(30)	62	20	5.77	B2	A	−	＞P16367，＜SE16396	
16423	72L24，72M4	円形	弧状	緩やか	44	39	27	−	6.14	D	A	−	＜P16355	
16425	74M7	円形	階段状	垂直	41	47	74	−	5.75	B2	B	−	＞SD16383	
16426	74M2	円形	半円状	急斜度	30	29	20	−	6.15	E	B	−	−	
16429	74L9	楕円形	半円状	急斜度	32	26	21	−	6.25	D	B	−	−	
16430	74L14	円形	半円状	急斜度	39	33	37	−	6.15	E	B	−	−	
16431	74L19	円形	半円状	急斜度	26	25	18	−	6.33	E	B	−	−	
16439	74L24，74M4	円形	半円状	急斜度	34	32	22	−	5.29	E	B	−	−	
16441	74L18	円形	階段状	垂直	37	34	40	17	6.02	B2	B	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（5）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物 （ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16445	74L24，74M4	円形	U字状	垂直	25	24	43	15	6.06	A1	A	−	−	
16446	74L7	（円形）	半円状	垂直	（30）	（11）	−	（7）	−	A1	A	−	−	完掘前に崩落
16448	74L11	円形	U字状	垂直	（22）	（19）	−	−	−	E	B	−	−	撹乱内
16449	74M3	方形	台形状	急斜度	32	31	28	−	6.18	E	B	−	＞SB16704（P16476）	
16450	74L6・7	楕円形	半円状	急斜度	23	18	16	−	6.21	E	B	−	−	撹乱内
16452	74L19	楕円形	U字状	垂直	26	19	21	−	6.25	E	B	−	−	
16453	74M2	円形	半円状	急斜度	28	26	19	−	6.19	E	B	−	−	
16454	74M2	円形	半円状	急斜度	40	36	24	−	6.17	E	B	−	−	
16457	74L12	円形	U字状	急斜度	（26）	（35）	（68）	22	5.65	B2	A	−	＜SB16702（P16456）	撹乱内
16460	74L12	楕円形	U字状	急斜度	39	31	52	−	5.98	E	B	−	−	
16463	74M2・3	円形	U字状	垂直	25	22	45	13	5.94	（A1）	A	−	−	
16464	74L13	円形	半円状	急斜度	（31）	（27）	（28）	−	6.11	E	B	−	−	撹乱内
16465	74L8・13	楕円形	半円状	急斜度	58	46	44	−	6.07	E	B	−	−	撹乱内
16466	74L19・24	楕円形	U字状	垂直	30	25	37	−	6.15	E	B	−	−	
16467	74L19・24	円形	漏斗状	急斜度	34	34	38	−	6.11	E	B	−	＞SB16700（P16496）	
16468	74L18・23	楕円形	階段状	垂直	59	40	97	17	5.47	B2	A	2層：土師質土器皿1（106）	−	
16470	74L24	円形	半円状	急斜度	29	29	26	−	6.25	D	B	−	−	
16471	74L7	（楕円形）	半円状	急斜度	（20）	（22）	（22）	−	6.11	E	B	−	−	撹乱内
16472	74M7・8	楕円形	台形状	急斜度	50	39	50	−	5.91	E	B	−	−	
16473	74L24	円形	U字状	垂直	25	25	33	−	6.17	E	B	−	−	
16475	74L17	長方形	箱状	垂直	（39）	38	37	13	6.03	A1	A	−	＜SB16700（P16474）	
16478	74M4	楕円形	半円状	急斜度	53	37	31	−	6.17	E	B	−	−	
16479	74L23	（楕円形）	半円状	急斜度	（28）	（22）	15	−	6.29	E	A	−	−	
16480	74L17	楕円形	U字状	垂直	37	30	−	−	−	E	B	−	−	
16481	74L25	方形	U字状	垂直	28	24	49	−	6.02	A2	A	−	−	
16483	74L18	楕円形	半円状	急斜度	33	27	33	−	6.08	E	C	−	＞P16484	
16484	74L18	円形	U字状	垂直	30	（23）	41	11	6.02	A1	A	−	＜P16483	
16485	74L10	円形	U字状	急斜度	（23）	（14）	33	−	6.14	E	B	−	＞P16486	
16486	74L10	円形	U字状	垂直	（29）	（11）	39	−	6.08	D	B	−	＜P16485	
16489	74L24・25	楕円形	半円状	急斜度	35	29	28	−	6.12	E	B	−	−	
16490	74L24	円形	半円状	急斜度	26	25	13	−	6.27	E	B	1層：珠洲焼甕1（107）	−	
16491	74M5	楕円形	U字状	垂直	24	19	40	−	6.11	E	B	−	−	
16492	74M5	円形	U字状	垂直	47	42	46	16	6.02	A2	B	−	−	
16494	74L12・17	円形	U字状	垂直	23	22	30	−	6.10	E	B	−	−	
16497	74L8	方形	半円状	急斜度	38	38	30	−	6.22	E	B	−	＞SE16477	
16500	74L12	楕円形	U字状	垂直	22	18	56	11	5.93	A1	A	−	−	
16501	74L12	楕円形	U字状	垂直	（42）	（32）	（79）	−	5.55	A	A	−	＞SB16704（P16502）	撹乱内
16505	74L11・12	円形	階段状	垂直	44	41	70	17	5.81	B2	A	−	−	
16506	74L11・12	円形	階段状	垂直	44	41	62	22	5.85	B2	A	−	−	
16507	74L14・19	長方形	半円状	急斜度	55	41	34	21	6.15	A1	B	−	＞SB16704（P16528）	
16508	74L14	円形	階段状	垂直	31	28	35	9	6.17	A2	A	−	−	
16509	73L15，74L11	円形	V字状	急斜度	22	21	24	−	6.24	E	B	−	−	
16511	74L12	円形	U字状	垂直	20	（16）	38	−	6.07	D	B	−	＞SB16699（P16512）	
16514	74L11・16	楕円形	U字状	垂直	37	31	37	11	6.11	C1	B	−	−	
16515	74L19	楕円形	半円状	急斜度	37	31	−	−	−	−	−	−	＜SE16443	
16516	74M3	円形	半円状	急斜度	39	34	27	−	6.15	D	A	−	−	
16518	74L16	円形	台形状	急斜度	31	27	18	−	6.24	E	B	−	−	
16519	74L25	円形	U字状	垂直	32	30	38	22	6.17	A1	A	1層：砥石1（160）	−	
16520	75L1	（円形）	半円状	急斜度	37	（20）	35	−	6.16	E	B	−	−	
16521	74M5	楕円形	U字状	垂直	25	18	24	−	6.31	E	B	−	−	
16522	74L25，74M5	楕円形	V字状	急斜度	26	16	31	−	6.26	E	B	−	−	
16523	74L13・18	楕円形	半円状	急斜度	45	37	41	−	6.09	−	−	−	−	
16524	74L25	円形	半円状	急斜度	35	32	28	−	6.28	E	B	−	−	
16525	75L18	円形	半円状	急斜度	33	33	30	−	6.16	E	B	−	−	
16527	74L19	円形	半円状	急斜度	51	43	35	−	6.13	E	B	−	＞SB16704（P16528），P16547	
16529	74M4・5	円形	台形状	急斜度	57	53	55	−	5.97	E	A	−	−	
16532	75L21	円形	V字状	急斜度	25	25	34	−	6.20	E	B	−	−	
16534	74L7	楕円形	U字状	垂直	（26）	（26）	39	15	5.98	A1	A	−	＜SE16477	撹乱内
16536	75L3	円形	半円状	急斜度	32	30	25	16	6.27	A1	B	−	−	
16538	74L20	楕円形	U字状	垂直	32	24	51	−	6.07	E	B	−	−	
16541	75L1	円形	半円状	急斜度	27	25	23	10	6.24	A1	B	−	−	
16545	74L1・6	円形	U字状	内傾	（26）	（22）	（48）	−	5.80	E	B	−	−	撹乱内
16547	74L19・20	円形	半円状	急斜度	44	41	28	−	6.25	E	A	−	＞SE16546・P16548 ＜P16527	
16548	74L19・20	（円形）	半円状	急斜度	25	（22）	26	−	6.27	E	A	−	＜P16547	
16552	75L23	楕円形	台形状	急斜度	34	27	43	−	6.04	E	B	−	−	
16553	74L11	円形	半円状	急斜度	28	28	23	−	6.14	E	B	−	−	撹乱内
16555	75L2	円形	台形状	急斜度	44	38	26	−	6.26	E	B	−	−	
16556	75L18	円形	U字状	垂直	28	25	43	−	6.02	E	B	−	−	
16557	75L17	楕円形	U字状	垂直	27	22	22	−	6.25	E	A	−	−	
16560	74L10	円形	U字状	垂直	13	13	53	10	5.97	C2	B	−	＜SE16561	
16564	75L13	円形	半円状	急斜度	29	29	28	−	6.24	E	B	−	−	
16565	75L13	円形	U字状	急斜度	25	22	27	−	6.26	E	A	−	−	

丘江遺跡Ⅴ　ピット（P）観察表（6）

遺構番号	グリッド	形態			規模（cm）				底面標高（m）	埋土堆積	埋土色調	出土遺物 （ ）内は報告番号	切り合い	備考
		平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径						
16566	75L12	円形	漏斗状	急斜度	36	34	44	−	6.03	(B2)	B	−	−	
16568	75L17	円形	半円状	急斜度	27	24	21	−	6.28	D	A	−	＞SB16707（P16569）	
16570	75L22・23	楕円形	U字状	急斜度	47	36	49	−	6.02	E	A	−	−	
16571	75L8	円形	半円状	急斜度	29	24	30	−	6.25	E	A	−	−	
16573	75L24	円形	U字状	垂直	44	38	49	−	5.95	D	B	−	−	
16576	75L13・14	楕円形	漏斗状	急斜度	59	50	30	33	6.23	B2	A	2層：礫1	＞SA16708（P16577）	
16578	73L10，74L6	楕円形	U字状	垂直	(28)	(19)	(40)	−	5.87	E	B	−	−	撹乱内
16580	75K25	円形	U字状	垂直	25	22	29	−	6.28	E	B	−	−	
16581	75K25	楕円形	階段状	垂直	49	40	51	24	6.05	B2	B	−	−	
16583	75K22	円形	U字状	垂直	(24)	(23)	(26)	16	6.21	A1	A	−	−	撹乱内
16584	75K19	円形	半円状	急斜度	32	32	24	20	6.25	A1	A	−	−	
16589	75L4	円形	弧状	緩やか	37	35	18	20	6.38	C1	B	−	−	
16593	73M20，74M16	方形	階段状	垂直	36	33	33	−	6.11	E	B	−	−	
16594	73M18	円形	U字状	垂直	41	35	38	17	5.92	A1	B	−	−	
16595	73M18	方形	U字状	内傾	29	28	42	10	5.89	A1	B	−	−	
16596	74L20	円形	U字状	垂直	25	22	40	−	6.13	E	A	−	−	
16599	73M20	円形	半円状	急斜度	32	31	27	12	6.14	A2	A	−	−	
16600	75L19	円形	弧状	緩やか	19	18	14	−	6.33	E	B	−	＞SA16708（P16590）	
16601	73M19	円形	弧状	緩やか	28	27	19	−	6.17	E	B	−	−	
16602	73M17	円形	U字状	内傾	24	23	23	13	6.03	A1	A	−	−	
16603	73M19	楕円形	弧状	緩やか	43	26	19	−	6.12	E	B	−	−	
16605	73M13・14・18・19	円形	半円状	急斜度	30	30	28	−	6.06	E	A	−	−	
16607	73M17	方形	半円状	急斜度	41	40	21	21	6.10	A1	A	−	−	
16609	75K24	楕円形	階段状	急斜度	36	29	48	−	6.09	D	B	−	＞SD16586	
16611	74M2	円形	U字状	垂直	30	30	41	−	5.96	E	A	1層：土師質土器皿1（108）	−	
16613	75L1・6	円形	U字状	垂直	33	(27)	38	18	6.12	A1	A	−	＜SX16659	
16614	74L15	円形	U字状	垂直	27	22	32	−	6.23	E	B	−	＞P16615	
16615	74L14・15	方形	U字状	垂直	27	26	33	14	6.22	A1	A	−	＜P16614	
16618	74M13	(円形)	半円状	急斜度	(33)	(13)	35	16	6.14	A1	B	−	＜SB16701（P16617）	
16621	75L9・14	円形	U字状	垂直	40	35	51	−	6.07	D	B	−	−	
16624	75L4	円形	V字状	急斜度	21	21	37	−	6.18	E	B	−	−	
16625	74M13・14	楕円形	U字状	垂直	40	30	41	20	6.08	A1	B	−	−	
16626	75L3・4	円形	U字状	垂直	30	29	49	19	6.08	A2	B	−	−	
16628	74M5	円形	半円状	急斜度	29	26	25	−	6.33	E	B	−	−	
16629	75M2	円形	U字状	垂直	27	24	29	−	6.29	E	B	−	−	
16632	75L4	円形	半円状	急斜度	25	22	22	−	6.34	D	B	−	＞SB16705（P16657）・SA16708（P16633）	
16634	75M3	円形	台形状	急斜度	49	46	33	−	6.21	E	B	−	−	
16635	75L4・9	円形	階段状	垂直	62	54	71	18	5.87	B2	B	−	−	
16637	74M9	円形	V字状	急斜度	24	24	52	−	5.93	E	B	−	−	
16640	74M12	(円形)	半円状	急斜度	26	(12)	17	−	6.28	E	B	2層：礫1	＜SB16701（P16639）	
16641	75L9	円形	半円状	急斜度	25	21	21	10	6.35	C1	B	−	−	
16642	75L4	円形	半円状	急斜度	(31)	30	22	−	6.33	E	B	−	＜P16635	
16643	74M12・13	円形	U字状	垂直	24	23	36	−	6.13	E	B	−	−	
16645	74M9	円形	台形状	急斜度	40	37	28	−	6.17	D	B	−	−	
16648	72M7・8	円形	階段状	垂直	26	22	51	−	5.86	E	B	−	−	
16649	72M12	円形	U字状	垂直	27	24	26	−	6.09	D	B	−	−	
16650	74M8・9	円形	U字状	垂直	32	29	50	−	5.90	E	B	−	＞P16651	
16651	74M9	楕円形	U字状	垂直	(42)	30	55	−	5.90	D	B	2層：珠洲焼片1	＞SB16703（P16669）＜P16650	
16652	71M15・72M11	円形	U字状	垂直	26	25	27	−	6.06	D	B	−	−	
16653	71M15	楕円形	半円状	急斜度	30	22	19	−	6.12	E	B	−	−	
16654	72M7・12	楕円形	U字状	垂直	41	31	35	25	6.00	A1	B	−	−	
16655	72M11・12	楕円形	弧状	緩やか	47	33	12	−	6.23	E	A	−	＞SB16695（P16656）	
16658	72M11	円形	U字状	垂直	40	37	59	−	5.74	D	A	−	＜SE16660	
16662	74M18・23	円形	台形状	急斜度	37	35	35	−	6.13	E	B	−	−	
16664	72M15・73M11	楕円形	半円状	急斜度	41	32	35	23	6.01	A1	A	−	−	
16665	73M16	(楕円形)	半円状	急斜度	(31)	26	30	−	6.04	E	A	−	＜SB16698（P16598）	
16666	75L9	円形	半円状	急斜度	−	−	−	−	−	E	B	−	−	測量データなし
16668	75L17・22	円形	半円状	急斜度	25	23	21	−	6.26	E	B	−	−	
16673	74M13	円形	U字状	垂直	25	24	29	10	6.21	A1	B	−	−	
16675	73M13	円形	半円状	急斜度	33	29	29	−	6.07	E	B	−	−	
16679	74L22	(楕円形)	(U字状)	(垂直)	(24)	(19)	(53)	−	5.67	−	−	−	＝SK16678	
16680	74L21	方形	階段状	垂直	23	22	38	−	6.20	D	B	−	＝SD16383	
16683	74L18	円形	V字状	急斜度	11	10	49	−	6.01	D	B	−	＞SK16495	近世以降か
16685	72M18	(円形)	漏斗状	急斜度	(46)	(23)	53	23	5.81	(B2)	−	−	＜SB16695（P16109）	

丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類観察表（１）

凡例（含有物）　石：石英　長：長石　雲：雲母　チ：チャート　黒：黒色粒子　赤：赤色粒子　白：白色粒子　角：角閃石　海：海綿骨針　砂：砂粒　礫：小礫

報告番号	出土位置			時代	種別	器種	分類	法量（cm）			径高指数	底径指数	胎土	含有物	色調		焼成	成形技法			遺存率（/36）		備考
	グリッド	遺構名	層位					口径	底径	器高					外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	
1	73M16	SB16696 -P16598	1	中世	珠洲焼	転用研磨具		－	(13.0)	(4.9)	－	－	普通	石・黒・白	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	ロクロナデ 指頭圧痕	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	－	8	外面・破面が砥面
2	73M16	SB16696 -P16598	1	中世	珠洲焼	転用研磨具か		－	－	－	－	－	普通	石・赤・白・海	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	
3	74M12	SB16701 -P16639	1	近世	瓦器	香炉か		－	－	(3.8)	－	－	普通	石・赤・白	10YR7/4 にぶい黄橙色	2.5Y2/1 黒色	良	ロクロナデか ミガキ	ロクロナデか	－	－	－	外面雷文・半菱形、4 と同一個体か
4	74M12	SB16701 -P16639	1	近世	瓦器	香炉か		－	－	(3.4)	－	－	普通	石・赤・白	2.5Y3/1 黒褐色	2.5Y4/2 暗灰黄色	良	ミガキ	ミガキ	－	－	－	3 と同一個体か
5	70N9	SE16017	8	中世	土師質土器	小皿	A3 類	7.4	5.7	1.5	20.3	77.0	普通	石・白・砂	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕	6	10	
6	70N19	SE16028	4	中世	珠洲焼	片口鉢		32.0	－	(5.4)	－	－	普通	石・白・海	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	4	－	
7	71N13	SE16051	8	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	5Y4/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	
8	72M21	SE16060	3	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	
9	72N1	SE16060	5	中世	青磁	皿か		－	(11.0)	(2.6)	－	－	精	－	5G7/1 明緑灰色	5G7/1 明緑灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	－	2	畳付釉剝ぎ
10	69K7	SE16103	5	中世	土師質土器	皿	A2 類	13.0	－	(3.0)	－	－	普通	石・赤・白	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	－	5	－	内外面摩耗
11	69K7	SE16103	7	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・赤・白	10Y5/1 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	
12	69K7	SE16103	7	中世	珠洲焼	甕か		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	良	タタキ	ロクロナデ	－	－	－	
13	72M9	SE16110	12	中世	白磁	皿		－	3.8	(1.7)	－	－	精	－	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	良	ケズリ	ロクロナデ	削り出し高台	－	10	高台内・畳付釉剝ぎ
14	71K16	SE16129	5	中世	珠洲焼	片口鉢		(34.2)	－	(6.1)	－	－	普通	黒・白・海	N6/ 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	1	－	外面一部摩耗
15	71M11	SE16164	2	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・赤・白	10Y5/1 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	
16	71M2	SE16175	5	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	
17	71M2	SE16175	3	中世	白磁	椀		－	－	(1.8)	－	－	精	－	10Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	口禿
18	71M11	SE16196	3	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・赤・白・海	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	
19	71M3	SE16202	4	中世	珠洲焼	片口鉢		(29.8)	－	(4.8)	－	－	普通	石・白・海・砂	10Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	3	－	
20	71L18	SE16216	4	中世	土師質土器	皿	A1 類	(12.3)	－	(2.7)	－	－	精	石・赤・白・砂	7.5YR6/4 にぶい橙色	5Y2/1 黒色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	－	3	－	内外面口唇部付近にスス付着、灯明皿
21	71L18	SE16216	4	中世	珠洲焼	片口鉢		27.7	－	(9.2)	－	－	普通	石・黒・白・海・礫	5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	5	－	
22	71L18	SE16216	4	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	(8.7)	－	－	粗	石・赤・白・海・砂	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	不良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	外面黒色付着物あり（スス？汚れ？）
23	71L18	SE16216	4	中世	珠洲焼	転用研磨具		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	7.5Y5/1 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	外面砥面
24	72L16	SE16261	2	中世	珠洲焼	転用研磨具		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	N6/ 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	外面・破面摩耗
25	72L8	SE16295	5	中世	珠洲焼	片口鉢		30.8	－	(8.2)	－	－	普通	石・黒・白・海	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	4	－	
26	72L8	SE16295	5	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	32 と同一個体か
27	71L25	SE16299	2	中世	土師質土器	小皿	A3 類	8.4	7.0	1.6	19.0	83.3	普通	石・長・黒・赤・白	2.5Y7/3 浅黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭圧痕	指頭圧痕	7	12	内外面棒状工具痕？多数あり
28	71L25	SE16299	3	中世	瀬戸美濃焼	小天目椀		8.9	3.7	4.5	50.6	41.6	精	白・砂	10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	良	ロクロナデ ケズリ	ロクロナデ	削り出し高台	26	36	鉄釉
29	72L17	SE16301	2	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	7.5Y4/1 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類観察表（2）

報告番号	出土位置			時代	種別	器種	分類	法量（cm）			径高指数	底径指数	胎土	含有物	色調		焼成	成形技法			遺存率（/36）		備考
	グリッド	遺構名	層位					口径	底径	器高					外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	
30	72L17	SE16333	2	中世	土師質土器	小皿	A3 類	7.4	5.4	1.6	21.6	73.0	普通	石・黒・赤・白・砂	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ 指頭圧痕	指頭圧痕	36	36	完形
31	72L17	SE16333	2	中世	青磁	皿		－	(11.6)	(2.9)	－	－	精	－	10GY7/1 明緑灰色	10GY7/1 明緑灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	－	3	外面蓮弁文、畳付釉剝ぎ
32	72M2	SE16347	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	精	石・黒・白・海	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	26 と同一個体か
33	72M8	SE16348	2	中世	青磁	椀		－	－	(3.7)	－	－	精	－	2.5GY6/1 オリーブ灰色	2.5GY6/1 オリーブ灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	1	－	外面鎬蓮弁文
34	72L24	SE16376	2	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	(5.1)	－	－	普通	石・白	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/1 黄灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	1	－	
35	72M4	SE16396	6	中世	土師質土器	皿	B1 類	(13.4)	－	(1.7)	－	－	普通	石・雲・白	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	－	2	－	
36	73M3	SE16424	4	近世	白磁	皿		(9.2)	－	(1.5)	－	－	精	－	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	良	ロクロナデ カンナケズリ	ロクロナデ	－	2	－	
37	74M1	SE16442	3	中世	土師質土器	皿	A1 類	(11.4)	9.1	2.8	(20.2)	(79.8)	普通	石・赤・白・砂	10YR4/2 灰黄褐色	7.5YR6/6 橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕	1	7	内外面薄く黒色
38	74L23	SE16444	2	中世	珠洲焼	片口鉢		－	14.0	(9.2)	－	－	普通	石・黒・白・海	5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	－	12	
39	74L22	SE16517	4	中世	白磁	杯		(9.8)	(4.3)	(3.8)	(38.8)	(43.9)	精	－	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	1	－	高台釉剝ぎ
40	75L16	SE16550	1	中世	珠洲焼	片口鉢		(31.6)	－	(7.3)	－	－	普通	黒・白・海	10Y5/1 灰色	10Y4/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	3	－	内外面工具痕？あり
41	75L16 74L15	SE16550 SE16585	5 2	中世	瀬戸美濃焼	平椀		15.4	－	(5.3)	－	－	精	－	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	良	ロクロナデ ケズリ	ロクロナデ	－	11	－	内面目跡残る、溶着あり、灰釉
42	74L10	SE16558	1	近世	肥前	椀		－	4.8	(2.7)	－	－	普通	－	2.5GY8/1 灰白色	2.5GY8/1 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	－	9	
43	74L15	SE16585	3	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	粗	石・チ・白	7.5YR5/2 灰褐色	10YR5/1 褐灰色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 卸目	－	－	－	
44	75L9	SE16597	3	近世	肥前	椀		7.9	－	(3.2)	－	－	精	－	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	6	－	
45	74M16	SE16604	4	中世	青磁	椀		－	－	－	－	－	精	－	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	2.5GY6/2 オリーブ灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	外面鎬蓮弁文
46	72M11	SE16660	6	中世	土師質土器	皿	A1 類	13.6	－	(2.4)	－	－	普通	石・雲・赤	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	－	3	－	
47	76L12	SE16682	2	近世	唐津焼	擂鉢か		(41.8)	－	(5.5)	－	－	精	白	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/1 褐灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ		3	－	鉄釉
48	76L2	SE16682	1	近世	肥前	皿		13.0	8.2	3.5	26.9	63.0	精	－	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	蛇ノ目凹高台	6	25	
49	76L12	SE16682	1	近世	肥前	鉢		(25.5)	17.4	5.6	(22.0)	(68.2)	精	－	10GY8/1 明緑灰色	10GY8/1 明緑灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	3	9	50 と同一個体
50	76L12	SE16682	1	近世	肥前	鉢		－	－	－	－	－	精	－	10GY8/1 明緑灰色	10GY8/1 明緑灰色	良	－	ロクロナデ	－	－	－	49 と同一個体
51	72N2	SK16033	2	中世	土師質土器	皿	A3 類	(11.2)	8.6	2.9	(25.9)	(76.8)	普通	石・雲・チ・赤・白	7.5YR6/6 橙色	5YR5/6 明赤褐色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭圧痕	指頭圧痕	2	8	
52	70M24	SK16045	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良	タタキ	ロクロナデ 当て具	－	－	－	
53	72M23	SK16052	4	中世	珠洲焼	土器錘か		長さ 5.4	幅 3.5	厚さ 2.8	－	－	普通	石・黒・赤・白・海	正面：5Y6/2 灰オリーブ色	裏面：5Y6/2 灰オリーブ色	良	－	卸目	静止糸切り	－	－	重量 32.4 g、片口鉢底部片を二次利用か
54	72L18	SK16405	4	中世	瀬戸美濃焼	合子		2.2	3.0	3.0	136.4	136.4	精	－	5Y8/1 灰白色	5Y6/2 灰オリーブ色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	34	36	完形、外面波状文
55	74L14	SK16462	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	黒色付着物あり
56	70L8	SD16047	1	中世	土師質土器	皿	A1 類	13.0	－	(2.4)	－	－	普通	石・赤・白・砂	7.5YR7/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	－	5	－	内面薄く黒色の部分あり、油煙痕か
57	70L11	SD16047	1	中世	土師質土器	皿	A2 類	14.0	9.0	3.2	26.7	64.3	普通	石・赤・白	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕か	2	5	内外面薄く黒色の部分あり、油煙痕か
58	69K20	SD16077	2	中世	土師質土器	皿	A1 類	14.4	－	(3.4)	－	－	普通	石・赤・白・砂	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭圧痕	－	6	－	口唇部内面に黒色付着物あり、油煙痕か
59	70K19	SD16078	2	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	粗	石・黒・赤・白	5Y4/1 灰色	2.5Y5/1 黄灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	

丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類観察表（3）

報告番号	出土位置			時代	種別	器種	分類	法量（cm）			径高指数	底径指数	胎土	含有物	色調		焼成	成形技法			遺存率（/36）		備考
	グリッド	遺構名	層位					口径	底径	器高					外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	
60	72L6	SD16085	1	中世	土師質土器	皿	A1類	(12.6)	8.4	2.7	(21.4)	(66.7)	普通	石・雲・赤・白・砂	5YR6/6 橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ 指頭圧痕	指頭圧痕	3	6	内外面スス付着、灯明皿か
61	71L8	SD16085	1	近世	瓦器	鍋		−	−	−	−	−	普通	石・赤・白	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR7/2 明褐灰色	良	指頭圧痕	ヨコナデ 指頭圧痕	−	1	−	外耳
62	71L8	SD16085	4	中世	珠洲焼	片口鉢		−	−	−	−	−	普通	石・黒・赤・白	7.5Y5/1 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	−	−	−	
63	71L5	SD16085	1	中世	珠洲焼	片口鉢		−	13.0	(7.7)	−	−	普通	石・黒・白・海・礫	5Y6/1 灰色	N6/ 灰色	良	ロクロナデ 指頭圧痕	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	−	4	
64	73L1	SD16085	1	中世	珠洲焼	片口鉢		(32.1)	−	(4.0)	−	−	普通	石・黒・白	2.5Y6/1 黄灰色	7.5YR6/2 灰褐色	不良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	−	1	−	84・87 と同一個体か
65	72L5	SD16085	1	中世	珠洲焼	片口鉢		−	(16.2)	(6.7)	−	−	普通	石・白	7.5Y5/1 灰色	2.5Y5/1 黄灰色	不良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	−	3	内面黒色付着物あり
66	70K25	SD16085	2	中世	珠洲焼	壺		(15.8)	−	(4.9)	−	−	普通	石・黒・白	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	−	1	−	口縁部降灰
67	70K25	SD16085	1	中世	珠洲焼	甕		−	−	(9.4)	−	−	普通	石・黒・白・海	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	タタキ	当て具 ナデ	−	1	−	
68	73L1	SD16085	2	中世	珠洲焼	甕		−	−	−	−	−	普通	黒・白・海	7.5Y5/1 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	−	−	−	外面自然釉付着か
69	70L10	SD16085	1	中世	珠洲焼	転用研磨具		−	−	−	−	−	普通	石・黒・白・海	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	タタキ	ロクロナデ	−	−	−	外面砥面、海綿骨針多量
70	72L5	SD16085	4	中世	珠洲焼	転用研磨具		−	−	−	−	−	精	石・黒・白・海	10YR6/2 灰黄褐色	5Y5/1 灰色	不良	タタキ	ロクロナデ 当て具	−	−	−	外面砥面
71	70K20	SD16085	2	中世	珠洲焼	転用研磨具		−	−	−	−	−	普通	石・黒・白	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	−	−	−	外面・破面が砥面
72	70K10	SD16085	1	中世	青磁	椀		(15.0)	−	(2.9)	−	−	精	−	7.5GY7/1 明緑灰色	7.5GY7/1 明緑灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	−	3	−	口縁部被熱発泡
73	72L1	SD16085	1	中世	越前焼	擂鉢		−	14.6	(6.3)	−	−	普通	赤・白・角・砂	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 卸目	−	−	6	底部外面スス付着か、棒状の痕跡
74	71L5	SD16233	1	中世	珠洲焼	転用研磨具		−	−	−	−	−	普通	石・黒・白・海	10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	還元	タタキ	ロクロナデ 当て具	−	−	−	外面砥面
75	72L21	SD16242	1	中世	土師質土器	小皿	B2類	(9.5)	4.4	1.4	(14.7)	(46.3)	普通	雲・赤・白	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	−	1	5	雲母多く含む
76	71L20	SD16242	1	中世	珠洲焼	甕		−	−	−	−	−	普通	石・黒・海	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	タタキ	当て具	−	−	−	
77	73L1	SD16328	1	中世	珠洲焼	甕か		−	−	−	−	−	普通	石・黒・白	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	−	−	−	
78	72L20	SD16356	1	中世	土師質土器	小皿	A2類	(8.4)	4.4	1.8	(21.4)	(52.4)	普通	石・赤・白・砂	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕	1	8	内外面薄く黒色付着、油煙痕か
79	72L20	SD16356	1	中世	土師質土器	小皿	A2類	(10.0)	6.3	1.7	(17.0)	(63.0)	普通	石・長・雲・赤・砂	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭圧痕	指頭圧痕	1	5	内外面薄く黒色付着、油煙痕か
80	73L18	SD16356	3	中世	土師質土器	皿	A2類	(12.0)	−	(2.0)	−	−	普通	石・赤・白	5YR6/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	−	3	−	
81	72L22	SD16356	2	中世	珠洲焼	片口鉢		−	−	−	−	−	粗	石・黒・赤・白	7.5Y4/1 灰色	7.5Y4/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	−	−	−	
82	72L23	SD16356	1	中世	珠洲焼	片口鉢		−	−	(8.7)	−	−	普通	石・黒・海	7.5Y6/1 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	−	1	−	
83	74L21	SD16383	1	中世	土師質土器	皿	A1類	12.4	6.0	3.8	30.6	48.4	普通	石・雲・黒・白	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭圧痕	10	9	
84	74M12	SD16383	1	中世	珠洲焼	片口鉢		−	−	−	−	−	粗	石・黒・白・海	7.5YR5/1 灰色	7.5YR5/3 にぶい褐色	不良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	−	−	−	64・87 と同一個体か
85	74M12	SD16383	4	中世	珠洲焼	片口鉢		−	(10.0)	(3.9)	−	−	普通	石・白	7.5Y4/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	−	8	輪積み痕あり
86	74M12	SD16383	3	中世	珠洲焼	片口鉢		−	12.0	(3.3)	−	−	普通	石・チ・赤・白・海	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ 指頭圧痕	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	−	9	内面摩耗
87	74M1	SD16383	2	中世	珠洲焼	片口鉢		−	13.8	(4.8)	−	−	普通	石・赤・白・海・砂	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	良	ロクロナデ 指頭圧痕	卸目	静止糸切り	−	34	内面摩耗、底面に棒状の圧痕 64・84 と同一個体か
88	73L20	SD16383	3	中世	珠洲焼	壺		−	−	−	−	−	普通	石・黒・白・海・礫	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	タタキ	当て具	−	−	−	
89	73L5	SD16383	1	古代	須恵器	転用研磨具		−	−	−	−	−	普通	黒・白	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	良	タタキ	当て具	−	−	−	内外面砥面

丘江遺跡Ⅴ　土器・陶磁器類観察表（4）

報告番号	出土位置			時代	種別	器種	分類	法量（cm）			径高指数	底径指数	胎土	含有物	色調		焼成	成形技法			遺存率（/36）		備考
	グリッド	遺構名	層位					口径	底径	器高					外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	
90	70L18	SX16050	1	近世	肥前	猪口		(8.9)	－	(2.0)	－	－	精	－	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	2	－	
91	70L17	SX16050	1	近世	肥前	椀		(10.6)	－	(2.7)	－	－	精	－	10Y8/1 灰白色	N8/ 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	3	－	
92	71K11	SX16128	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	精	石・黒・海	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	内外面黒色付着物あり、海綿骨針多量
93	71L16	SX16136	2	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	(6.8)	－	－	普通	石・黒・白・海・礫	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	1	－	
94	71M4	SX16258	1	古代	土師器	甕		－	－	－	－	－	普通	石・赤・白・海	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色	還元	タタキ		－	－	－	
95	71M4	SX16258	2	古代	須恵器	壺		－	－	(2.7)	－	－	普通	黒・白	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	
96	71L24	SX16258	1	中世	土師質土器	小皿	B1 類	(10.0)	－	(2.1)	－	－	普通	石・赤・白	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	－	3	－	口縁部内面スス？付着、灯明皿か
97	74L8	SX16458	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・海	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	破面に黒色付着物あり
98	74L8	SX16458	1	近世	陶器	壺・甕類		－	－	－	－	－	普通	石・長・黒	5Y4/2 灰オリーブ色	7.5YR3/2 黒褐色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	写真掲載のみ
99	75L11	SX16540	2	近世	唐津焼	椀		－	4.1	(3.2)	－	－	精	－	2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/3 にぶい黄色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	－	15	見込み内に鉄絵、灰釉
100	75L11	SX16540	2	近世	肥前	椀		－	4.0	(2.7)	－	－	精	－	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	－	7	
101	75L6	SX16559	3	中世	珠洲焼	片口鉢		－	11.4	(3.5)	－	－	普通	石・白・海	10Y4/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ 指頭圧痕	ロクロナデ 卸目	静止糸切り	－	9	内面摩耗激しい
102	72N3	P16055	3	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・黒・赤・海	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目	－	－	－	
103	71M2	P16182	1	中世	土師質土器	皿	A2 類	12.4	9.0	2.2	17.7	72.6	普通	石・赤・白	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕	5	11	
104	71M2	P16182	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白・礫	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	
105	71K12	P16206	1	中世	土師質土器	皿	A3 類	11.0	8.6	3.0	27.3	78.2	普通	石・赤・白・海	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/6 橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	指頭圧痕	32	36	ほぼ完形、内外面黒斑あり、底部敷物痕？あり
106	74L23	P16468	2	中世	土師質土器	皿	C 類	－	－	－	－	－	普通	雲・白	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	－	－	回転糸切り	－	－	写真掲載のみ
107	74L24	P16490	1	中世	珠洲焼	甕		－	－	－	－	－	普通	石・黒・白	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	
108	74M2	P16611	1	中世	土師質土器	皿	B2 類	11.8	5.6	2.2	18.6	47.5	普通	石・黒・白	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	ヨコナデ 指頭圧痕	ヨコナデ	指頭圧痕	10	11	
109	74M3	土墨下炭化物層	①	近世	肥前	皿		14.6	8.5	4.5	33.1	55.1	精	－	5GY8/1 灰白色	5GY8/1 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	7	7	裏銘あり、輪花（9 単位）
110	74M3	土墨下炭化物層	①	近世	肥前	皿		(14.2)	8.4	4.5	(31.7)	(59.2)	精	－	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	不良	ロクロナデ	ロクロナデ	削り出し高台	1	5	裏銘あり、波佐見産か
111	74L7	－	I	中世	珠洲焼	片口鉢		(38.6)	－	(4.2)	－	－	普通	石・白・海	N4/ 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	ロクロナデ 口縁部内端面波状文	ロクロナデ 卸目	－	2	－	
112	76L17	－	撹乱	中世	珠洲焼	壺		10.0	－	(5.5)	－	－	普通	石・黒・白	N7/ 灰白色	N6/ 灰色	良	ロクロナデ	ヘラナデか 当て具	－	12	－	口縁部内外面降灰
113	72L7	－	0	中世	瀬戸美濃焼	小型壺		－	5.0	(3.7)	－	－	精	－	10YR3/1 黒褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	－	36	鉄釉
114	69K10	－	0	中世	青白磁	合子蓋		－	－	(0.7)	－	－	精	－	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	5	合子蓋か
115	72L22	－	撹乱	中世	青白磁	瓶類か		－	－	－	－	－	精	－	5G7/1 明緑灰色	2.5Y7/2 灰黄色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	外面刷毛目・片切彫り
116	75K25, 75L14	－	0	近世	石見焼	甕		51.0	22.8	(60.0)	－	－	精	黒・白	7.5YR4/6 褐色	7.5YR4/6 褐色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	布目痕	4	36	しの造り 内外面鉄釉（来待釉） 底部外面墨書

丘江遺跡Ⅴ　石製品観察表

報告番号	出土位置			器種	石材	法量			重量（g）	遺存状況	備考
	グリッド	遺構名	層位			長さ	幅	厚さ			
117	72M9	SE16110	11	磨石か砥石	安山岩	6.2	5.9	3.7	196.6	完形	手持ち砥石か
118	71M11	SE16196	4	砥石	安山岩	(17.4)	(8.8)	(8.1)	889.9	大部分欠	外面一部スス付着、置き砥石
119	71M11	SE16196	4	砥石	角閃石安山岩	(15.0)	(13.9)	(8.4)	1381.0	大部分欠	外面一部スス付着、置き砥石
120	71M3	SE16202	4	砥石	角閃石安山岩	15.7	(9.9)	4.9	1163.6	片側欠	破面を含む全面スス付着、置き砥石
121	71M3	SE16202	6	砥石	安山岩	(25.6)	(17.7)	(17.1)	9450.0	大部分欠	線状痕、置き砥石
122	72L16	SE16261	3	砥石	角閃石安山岩	(10.5)	(5.2)	(5.7)	319.1	大部分欠	手持ち砥石もしくは置き砥石か
123	72M8	SE16348	3	砥石	流紋岩	(9.6)	3.5	2.5	98.0	下部欠	手持ち砥石
124	72L22	SE16357	4	硯	粘板岩か頁岩	(10.2)	(5.3)	(2.1)	114.4	大部分欠	
125	72M4	SE16396	8	砥石	安山岩	(16.6)	(12.4)	7.6	1302.9	大部分欠	置き砥石
126	74L23	SE16444	2	砥石	安山岩	(13.4)	(10.8)	(2.5)	425.9	大部分欠	置き砥石
127	74L23	SE16444	2	砥石	安山岩	(24.7)	(26.9)	10.1	7820.0	大部分欠	置き砥石
128	74L23	SE16444	2	砥石	角閃石安山岩	(8.9)	(8.9)	(8.1)	988.1	大部分欠	破面を含む側面スス付着、置き砥石
129	75K24	SE16582	2	茶臼（下臼）	安山岩	(16.8)	(29.9)	10.4	5400.0	1/2 欠損	
130	75K24	SE16582	2	茶臼（上臼）	安山岩	(17.4)	18.6	12.5	3980.0	1/3 欠損	破面を含む全面スス付着
131	72N2	SK16033	2	碁石か双六子	玉髄	1.8	1.9	0.8	4.0	完形	
132	70M24	SK16045	5	砥石	流紋岩	8.4	4.1	3.6	103.0	完形	節理面あり、手持ち砥石
133	70M24	SK16045	4	砥石	火山岩	8.9	7.3	5.0	251.5	完形	手持ち砥石
134	70L5	SD16048	3	砥石	珪長質凝灰岩	(6.5)	4.2	2.9	100.3	下部欠	手持ち砥石
135	69K20	SD16077	2	砥石	輝石角閃石安山岩	(7.1)	(5.3)	(6.0)	252.2	大部分欠	手持ち砥石もしくは置き砥石
136	71L7	SD16085	4	敲石	黒雲母角閃石安山岩	11.9	5.9	(3.9)	364.5	正面一部欠	
137	70K15	SD16085	1	碁石か双六子	珪質頁岩かチャート	1.6	1.7	0.5	2.2	完形	
138	72L1	SD16085	2	碁石か双六子	珪質頁岩かチャート	1.9	2.0	0.6	3.5	完形	
139	70K25	SD16085	2	石臼	角閃石安山岩	(8.4)	(6.3)	(2.0)	137.1	大部分欠	
140	70L10	SD16085	4	権状錘か	頁岩か凝灰岩	6.5	4.9	2.5	82.2	完形	
141	72L6	SD16085	4	カマド材か	凝灰岩か	(5.5)	6.7	5.3	169.9	下部欠	正面から裏面の一部スス付着
142	72L2	SD16085	2	砥石	角閃石輝石安山岩	(7.9)	(5.8)	(3.7)	271.8	大部分欠	置き砥石もしくは手持ち砥石
143	72L1	SD16085	1	砥石	角閃石輝石安山岩	(9.5)	(7.0)	(6.4)	473.0	大部分欠	置き砥石もしくは手持ち砥石
144	70K20	SD16085	一括	砥石	角閃石安山岩	(8.4)	(4.9)	(7.3)	352.1	大部分欠	置き砥石もしくは手持ち砥石
145	70K10	SD16085	1	砥石	角閃石安山岩	(9.8)	(11.0)	(8.4)	810.2	大部分欠	置き砥石
146	71L4	SD16085	4	砥石	安山岩	(13.9)	(12.2)	(5.7)	840.0	大部分欠	置き砥石
147	72L7	SD16085	4	砥石	凝灰岩か	(3.6)	3.4	(4.2)	41.6	大部分欠	手持ち砥石
148	71L5	SD16233	1	砥石	安山岩	(7.2)	(4.5)	(4.3)	125.8	大部分欠	置き砥石
149	71L5	SD16233	1	砥石	輝石安山岩	(10.8)	(7.8)	2.7	351.6	大部分欠	置き砥石
150	72L21	SD16242	1	砥石	（輝石）安山岩	(9.1)	(8.3)	3.5	413.8	大部分欠	置き砥石もしくは手持ち砥石・あるいは兼用か
151	72L2	SD16328	1	砥石	安山岩	(9.2)	(2.2)	(9.2)	211.1	大部分欠	
152	72L18	SD16356	1	石臼（下臼）	角閃石安山岩	(23.1)	(12.6)	9.3	3190.0	2/3 欠損	直径約 31.2cm
153	73L18	SD16356	1	硯	頁岩	(7.7)	(3.5)	(1.3)	36.6	大部分欠	正面墨痕あり
154	73L16	SD16356	3	砥石	輝石安山岩	17.1	12.7	6.6	2034.5	完形	置き砥石
155	72L18	SD16356	9	砥石	角閃石安山岩	(23.3)	(17.6)	(8.2)	5300.0	大部分欠	置き砥石
156	73L18	SD16356	1	凹石	角閃石安山岩	10.9	6.5	5.3	362.7	完形	正裏面スス付着
157	74L21	SD16383	1	砥石	閃緑岩	(14.6)	(10.0)	5.3	1206.6	1/2 欠損	正面一部・破面スス付着、置き砥石
158	72K16	P16228	1	石臼（下臼）	安山岩	(20.2)	29.4	7.5	4750.0	1/2 欠損	
159	72K16	P16228	1	砥石	安山岩	14.6	(12.1)	4.9	1322.3	1/2 欠損	破面を含む裏面の一部スス付着、置き砥石
160	74L25	P16519	1	砥石	流紋岩	8.4	3.9	3.1	92.8	完形	手持ち砥石
161	76L6	−	撹乱	石臼（上臼）	角閃石安山岩	(18.7)	(18.0)	7.1	2690.0	3/4 欠損	
162	71M4	−	撹乱	茶臼（下臼）	安山岩	(18.9)	(18.6)	12.6	3380.0	1/2 欠損	

丘江遺跡Ⅴ　木製品観察表（1）

凡例（法量－容器を除く木製品）幅：横幅の最大値　厚さ：幅に直行する奥行きの最大値
（樹種）（ ）：目視で判断したもの

報告番号	出土位置			器種	法量（cm）				木取り	樹種	備考
	グリッド	遺構名	層位		長さ 口径	幅 底径	厚さ 器高	器厚			
163	71L21	SB16689 -P16149	1	柱根	(34.9)	9.0	6.7	−	半割	カエデ属	上端欠損、下端加工痕
164	72K23	SB16692 -P16265	2	柱根	(12.4)	5.6	5.9	−	丸木取り	クリ	上端欠損、下端加工痕
165	75L21	SB16706 -P16543	1	柱根	(51.6)	(10.5)	(9.0)	−	丸木取り	クリ	上端欠損、下端大部分欠損
166	70N15	SE16016	4	曲物側板か	(7.6)	−	(2.1)	0.4	板目	ヒノキ	孔 2、内外面線状痕、右側面横挽き後折り取り
167	71N11	SE16016	6	箸	23.0	0.5	0.5	−	削出心去	ヒノキ	上端横挽き後折り取り、完形
168	70N9	SE16017	9	曲物側板	(44.9)	(3.4)	−	0.7	板目	ヒノキ	籠か
169	70N9	SE16017	9	曲物側板	(10.5)	(1.7)	−	0.5	板目	ヒノキ	籠か
170	70N9	SE16017	9	曲物底板	(28.6)	(4.4)	−	0.9	柾目	ヒノキ	
171	70N9	SE16017	9	箸	(13.6)	0.7	0.5	−	削出心去	スギ	上端欠損
172	70N9	SE16017	9	箸	(15.6)	0.5	(0.7)	−	削出心去	ヒノキ	上端欠損
173	70N9	SE16017	9	箸	(19.5)	0.5	0.45	−	削出心去	スギ	上端欠損
174	70N9	SE16017	9	板状木製品	(19.1)	4.8	1.0	−	追柾目	スギ	孔 3、正裏面線状痕、下半欠損
175	70N9	SE16017	9・10	板状木製品	32.3	6.9	0.7	−	柾目	スギ	側面切り欠き状の加工か
176	70N9	SE16017	10	栓	(4.0)	(2.3)	0.9	−	−	イスノキ	
177	70N9	SE16017	10	箸	(20.6)	0.65	0.45	−	削出心去	スギ	上端欠損
178	70N9	SE16017	10	箸	(15.8)	0.75	0.45	−	削出心去	ヒノキ	上端欠損
179	70N9	SE16017	10	部材	(15.7)	1.8	1.4	−	四方柾目	スギ	上端欠損、木釘孔 4（すべて木釘残存）
180	70N9	SE16017	11	長方形曲物底板	(8.3)	(3.1)	−	0.9	追柾目	ヒノキ	内面線状痕、 181・182 と同一個体か
181	70N9	SE16017	11	長方形曲物底板	(4.8)	(6.3)	−	1.0	追柾目	ヒノキ	内面線状痕、 180・182 と同一個体か
182	70N9	SE16017	11	長方形曲物底板	20.6	(10.0)	−	1.1	追柾目	ヒノキ	内外面線状痕、 180・181 と同一個体か
183	70N9	SE16017	11	箸	(10.3)	0.45	0.4	−	削出心去	スギ	上端欠損
184	70N9	SE16017	11	箸	21.5	0.7	0.6	−	削出心去	ヒノキ	完形
185	70N9	SE16017	12	曲物底板	(27.8)	(5.1)	−	0.7	板目	スギ	
186	70N9	SE16017	12	曲物底板	22.0	(4.3)	−	0.5	追柾目	ヒノキ	内面線状痕
187	70N9	SE16017	12	箸	(16.1)	0.7	0.6	−	削出心去	スギ	上端欠損

丘江遺跡Ⅴ　木製品観察表（2）

報告番号	出土位置			器種	法量（cm）				木取り	樹種	備考
	グリッド	遺構名	層位		長さ 口径	幅 底径	厚さ 器高	器厚			
188	70N9	SE16017	12	箸	(6.5)	0.5	0.4	−	削出心去	ヒノキ	上端欠損
189	70N19	SE16028	10	刳物匙	(13.2)	6.4	(4.0)	−	削出心持	モクレン属	柄部欠損
190	70N19	SE16028	9	杓子形木器	23.7	6.5	0.7	−	柾目	ヒノキ	正面一部炭化
191	70N19	SE16028	8	箸	(10.2)	0.7	0.5	−	削出心去	ヒノキ	上端欠損
192	70N19	SE16028	9	箸	17.2	0.6	0.4	−	削出心去	ヒノキ	下端炭化、完形
193	70N19	SE16028	10	箸	(18.6)	0.6	0.5	−	削出心去	ヒノキ	上端欠損
194	70N19	SE16028	9	棒状木製品	(68.6)	1.7	1.7	−	柾目	ヒノキ	上端欠損
195	71N8	SE16031	8	糸巻枠木か	66.4	4.1	3.9	−	四方柾目	モクレン属	両端折り取り後面取り加工、 左側面圧痕
196	71N8	SE16031	8	糸巻枠木か	(35.2)	3.6	2.9	−	削出心持	ケヤキ	下半欠損、 上端折り取り後面取り加工
197	71N8	SE16031	8	下駄か	(10.4)	(6.7)	2.9	−	柾目	ケヤキ	差下駄歯か
198	71N8	SE16031	8	杓子形木器	27.2	6.6	0.6	−	柾目	ヒノキ	
199	71N8	SE16031	8	板状木製品	14.3	(5.9)	0.8	−	柾目	スギ	上下端面木釘孔あり、 長方形曲物底板か
200	71N8	SE16031	8	箸	18.5	0.6	0.4	−	削出心去	スギ	完形
201	71N8	SE16031	8	箸	(19.6)	0.6	0.5	−	削出心去	ヒノキ	下端欠損
202	71N8	SE16031	8	棒状木製品	(34.2)	3.9	3.4	−	分割心去	クリ	上端欠損、桟木か
203	71N8	SE16031	8	棒状木製品	(18.0)	3.9	3.1	−	半割	クリ	上端欠損、桟木か
204	71N8	SE16031	8	棒状木製品	(23.0)	3.7	2.4	−	半割	クリ	上端欠損、桟木か
205	72N8	SE16037	5	曲物側板	(14.0)	−	4.8	0.4	柾目	ヒノキ	内面ケビキ
206	69K7	SE16103	8	籠	(17.6)	−	(2.1)	(0.2)	柾目	（ヒノキ）	207 とセットか
207	69K7	SE16103	8	円形曲物	側板 17.3 底板 16.5	底板 16.5	器高（7.7） 身高（7.1）	側板 0.2 底板 0.9	側板：柾目 底板：追柾目	側板：ヒノキ 底板：ヒノキ	側板：2 重、内面ケビキ、 底板：内面線状痕、206 とセットか
208	69K7	SE16103	8	長方形曲物底板	27.2	(9.3)	−	0.5	追柾目	ヒノキ	孔 2、内外面線状痕
209	69K7	SE16103	8	長方形曲物底板	28.2	(9.7)	−	0.7	追柾目	ヒノキ	外面線状痕
210	69K7	SE16103	8	板状木製品	34.8	(8.2)	1.1	−	板目	ヒノキ	
211	72M9	SE16110	10	円形曲物底板	8.7	8.9	0.4	−	追柾目	ヒノキ	皮綴じ紐 2 か所残存
212	71M3	SE16202	5	板草履	(9.4)	(4.1)	0.2	−	板目	スギ	
213	71M14	SE16264	8	部材	25.0	1.7	1.2	−	柾目	スギ	上端：正裏削りホゾ状に加工、孔 2（うち上端側木釘残存）
214	71M14	SE16264	8	樹皮	3.8	2.3	1.1	−	−	樹皮	
215	72L8	SE16295	5	板状木製品	23.6	5.0	0.3	−	板目	スギ	板草履か
216	72L13	SE16295	3	板状木製品	(23.1)	(4.0)	0.6	−	柾目	スギ	正面線状痕、孔 2
217	72L6	SE16296	2	木錘	22.6	5.7	3.4	−	半割	ヒサカキ属	中央部両側面切込み
218	72M1	SE16311	4	漆器有台椀	21.2	13.1	10.0	−	横木・板目	トチノキ	外面黒色漆、模様赤色漆、 内面赤色漆
219	72L14	SE16319	2	漆器皿	6.8	4.5	1.4	−	横木・板目	ケヤキ	内外面黒色漆
220	72L14	SE16319	3	板状木製品	15.7	(8.5)	0.4	−	柾目	スギ	正面線状痕
221	72M1	SE16340	1	板状木製品	15.2	7.6	1.8	−	柾目	トチノキ	人形か
222	72M8	SE16348	2	円形曲物底板	17.2	(4.4)	−	0.8	柾目	ヒノキ	
223	72M8	SE16348	2	板状木製品	30.7	5.6	0.7	−	柾目	スギ	側面木釘孔？ 1、正面線状痕、中央付近円形の圧痕 2
224	73M1	SE16372B	5	箸	(16.9)	0.6	0.5	−	削出心去	スギ	上端欠損
225	72M4	SE16396	8	木錘	13.5	3.8	3.0	−	丸木取り	クリ	片面のみ切込み
226	72M4	SE16396	8	筆	18.8	1.1	1.1	−	−	タケ亜科	下端一部欠損、持ち手付近色調薄い
227	72M4	SE16396	8	切断材	(52.9)	6.6	6.5	−	丸木取り	クリ	上端欠損
228	74L19	SE16443	6	円形曲物	底板 8.8	底板（8.2）	器高 5.0 身高 4.7	側板 0.2 底板 0.4	側板：柾目 底板：柾目	側板：ヒノキ 底板：ヒノキ	側板：2 重、 底板：内面線状痕
229	74L7	SE16477	3	箸	21.5	0.6	0.4	−	削出心去	スギ	完形
230	74L15	SE16561	5	漆器有台椀	15.3	7.6	4.5	−	横木・柾目	ブナ属	内外面黒色漆、模様赤色漆
231	75L11	SE16567	3	円形曲物底板	13.8	(9.0)	−	1.0	柾目	ヒノキ	割れ面孔 2（補修痕か）
232	75K24	SE16582	3	曲物枘杓	側板 9.0 底板 8.5	底板 8.4	器高 8.5 身高 7.7	側板 0.1 底板 0.8	側板：柾目 底板：追柾目	側板：ヒノキ 底板：ヒノキ	側板：2 重、内面ケビキ、紐痕、外面加工痕、綴じ孔 8、底板：内面線状痕、身部
233	75K24	SE16582	2	円形曲物底板	18.3	18.3	−	0.7	追柾目	ヒノキ	
234	75M12	SE16623	2	円形曲物底板	(50.5)	(22.1)	−	1.0	追柾目	ヒノキ	内面線状痕、外縁付近に木釘孔 5（うち木釘残存 2）、側面木釘孔 16（うち木釘残存 1）
235	75M12	SE16623	2	箸	18.6	0.6	0.4	−	削出心去	ヒノキ	完形
236	75M5	SE16644	4	漆器有台椀	−	−	−	−	横木・柾目	ブナ	外面黒色漆、模様赤色漆、内面赤色漆
237	75M4	SE16644	7	円形曲物底板	21.7	(8.8)	−	1.0	柾目	ヒノキ	内外面線状痕、外面被熱痕点在、側面木釘孔 9（うち木釘残存 2）
238	75M4	SE16644	13	板状木製品	57.3	(10.1)	2.1	−	柾目	ヒノキ	織機の一部（綜打具）か
239	75M5	SE16644	5	杭	(45.1)	3.4	3.0	−	丸木取り	ブナ属	下端欠損
240	70L23	SE16677	5	円形曲物	側板 18.6 底板 8.3	底板 8.2	器高 8.0 身高 7.5	側板 0.1 底板 0.4	側板：柾目 底板：柾目	側板：ヒノキ 底板：ヒノキ	法量は底板除き復元値 側板：2 重、内面ケビキ、綴じ：1 列内 3 段綴じ、底板との綴じ 3 か所
241	76L13	SK16667	1	漆器小椀	(9.1)	−	(2.2)	−	横木・柾目	ブナ	外面剝落で塗り不明、内面赤色漆
242	69L20	SX16050	2	棒状木製品	(98.9)	4.6	3.6	−	削出心去	ムクノキ	上端欠損、木釘 2
243	75L16	SX16540	1	漆器有台椀	12.2	−	(6.1)	−	横木・柾目	ブナ属	内外面赤色漆、高台欠損
244	72M3	P16337	1	柱根	(37.1)	6.3	5.3	−	丸木取り	クリ	上端欠損
245	72M3	P16342	2	柱根	(39.8)	5.8	(4.7)	−	丸木取り	クリ	上端欠損
246	75L24	杭列	I	杭	(43.9)	6.2	5.2	−	丸木取り	クリ	上端欠損、放射性炭素年代測定試料

丘江遺跡Ⅴ　銭貨観察表

報告番号	出土位置			銭種	法量（mm）						重量（g）	王朝	初鋳年	備考
	グリッド	遺構名	層位		外縁外径	外縁内径	内郭外径	内郭内径	外縁厚	文字面厚				
247	76L13	SK16667	1	永樂通寶	(24.23)	21.20	7.14	5.54	1.25	0.61	2.69	明	1408	
248	76L13	SK16667	1	熙寧元寶	24.24	20.25	8.28	6.82	1.21	0.96	4.42	北宋	1068	真書
249	76L13	SK16667	1	天聖元寶	24.70	20.51	8.72	7.01	0.95	0.61	3.33	北宋	1023	篆書
250	76L13	SK16667	1	元祐通寶	23.75	19.02	8.21	6.36	1.41	1.09	4.67	北宋	1086	篆書
251	76L13	SK16667	1	皇宋通寶	24.63	20.52	9.18	6.77	1.22	1.06	4.72	北宋	1038	篆書
252	76L13	SK16667	1	開元通寶	24.87	20.75	7.65	6.55	1.23	0.54	3.50	唐	621	横位に小孔 2、背面左下に月文か
253	70L6	SX16050	一括	寛永通寶	24.94	20.17	7.33	5.93	1.24	0.78	4.26	江戸		新寛永

工田遺跡　水田観察表

遺構番号	地区	グリッド	検出層位	平面形態	検出面での規模（cm）			底面標高(m)	長軸方向	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
					長径	短径	深度					
1	北	6D，7D・E	Ⅺa	（方形）	（1462）	（618）	（10）	103.75	N-37° -E	－	＞水田2	
2	北	6D，7D・E	Ⅺa	－	－	－	－	－	－	－	＜水田1	
5	北	4・5F	Ⅹa	長方形	（524）	346	（4）	104.12	N-27° -E	板状木製品（7）	－	
7	北	5・6E・F	Ⅺb・c	（不整形）	（763）	（385）	（11）	103.90	N-16° -E	1層：須恵器甕(3)、骨片	＜北区畦畔1，SD11	
8	北	5・6D	Ⅺb・c	（長方形）	（525）	（280）	（5）	104.00	N-9° -W	－	－	

工田遺跡　畦畔観察表

遺構番号	地区	グリッド	検出層位	平面形態	検出面での規模（cm）		方位	切り合い	備考
					長さ	幅			
北1	北	5C～E，6D・E	Ⅺa～c	弧状	（1645）	29～57	N-15° -E～N-15° -W	＞水田7	西杭列を伴う
北2	北	5F	Ⅹa，Ⅻa	L字状	667	22～59	南北 N-17° -E 東西 N-56° -W	＞北区畦畔3 ＜SX3	
北3	北	5F	Ⅹa	直線状	（278）	40～54	N-73° -W	＜北区畦畔2	
北4	北	4・5F	Ⅹa	直線状	467	40～61	N-23° -E	－	
北5	北	4・5F	Ⅹa	直線状	（135）	28～35	N-65° -W	－	
南1	南	4H	Ⅴa	直線状	（261）	62～68	N-58° -W	－	
南2	南	4H	Ⅴa	直線状	（231）	48～62	N-52° -E	－	
南3	南	5H・I	Ⅸa	弧状	（551）	55～89	N-22～44° -W	＝南区畦畔4・6	
南4	南	4I，5H・I	Ⅸa	蛇行	（729）	48～70	N-58～88° -E	＝南区畦畔3	
南5	南	5H	Ⅸa	直線状	（66）	－	N-34° -W	－	
南6	南	4・5H	Ⅸa	直線状	（350）	39～47	N-86° -W	＝南区畦畔3	
南7	南	4H	Ⅸa	直線状	（137）	28～38	N-7° -E	－	
南8	南	4H	Ⅸa	直線状	（55）	19	N-86° -E	－	
南9	南	4H	Ⅸa	直線状	（96）	23～37	N-18° -E	－	
南10	南	4H	Ⅸa	直線状	（70）	25～27	N-48° -W	＝南区畦畔11か	
南11	南	4H・I	Ⅸa	直線状	（223）	13～36	N-8° -W	＝南区畦畔10か	
南12	南	5H・I	Ⅸb	L字状	222	126	N-60° -W	－	

工田遺跡　杭列観察表

遺構番号	地区	グリッド	杭頭検出層位	検出数（本）	平面形態	検出距離（cm）	杭頭間隔（cm）			方位	備考
							最小	最大	平均		
西	北	5C～E，6D・E	Ⅹb（北区畦畔1）	12	弧状	1442	64	296	160.0	N-12° -E～N-14° -W	北区畦畔1に伴う
中央	北	5D，6D～G	Ⅹe，Ⅺb・c，Ⅻa・b	64	弧状	2964	4	89	47.2	N-6° -E～N-11° -W	
東	北	6D・E	（Ⅵb）	3	弧状	1285	337	948	642.5	N-3° -E～N-32° -W	杭79は別か

工田遺跡　溝（SD）観察表

遺構番号	地区	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）				底面標高(m)	方位	埋土堆積	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
				平面	断面	立上がり	長さ	上端幅	下端幅	深度						
4	北	5F	Ⅻa	直線状	弧状	緩やか	386	65～78	43～69	5～7	104.04～104.06	N-13° -E	D	1層：板状木製品（8）	＜SX3	北区畦畔2伴う
9	北	5C・D	Ⅹb・Ⅻa	直線状	弧状	緩やか	610	48～103	33～83	1～6	103.83～103.94	N-15° -W	D	－	－	北区畦畔1に伴う，SD10・11と一連か
10	北	5・6D・E	Ⅻa	直線状	弧状	緩やか	542	46～110	18～77	18～24	103.77～103.82	N-9° -W	D	－	－	北区畦畔1に伴う，SD9・11と一連か
11	北	5E・F	Ⅺc・Ⅻa	直線状	弧状	緩やか	864	70～111	49～91	6	103.84	N-20～25° -E	D	－	＞水田7水口 ＜SX3	北区畦畔1に伴う，SD9・10と一連か
12	北	5F	Ⅻa	直線状	弧状	緩やか	（110）	65	26	5	104.11	N-45° -E	D	－	－	

工田遺跡　性格不明遺構（SX）観察表

遺構番号	地区	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高(m)	長軸方向	埋土堆積	出土遺物（ ）内は報告番号	切り合い	備考
				平面	断面	立上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
3	北	5F3・4	Ⅹb	不整形	弧状	緩やか	133	121	118	108	14	103.97	N-12° -E	E	1層：杭（9）、礫	＞北区畦畔2，SD4・11	
6	南	4H19・20	Ⅸb	長方形	台形状	急斜度	139	101	126	87	12	104.49	N-82° -E	D	－	－	

工田遺跡　土器・陶磁器類観察表

凡例（含有物） 石：石英　黒：黒色粒子　赤：赤色粒子　白：白色粒子　海：海綿骨針　砂：砂粒

報告番号	出土位置			時代	種別	器種	分類	法量（cm）			径高指数	底径指数	胎土	含有物	色調		焼成	成形技法			遺存率（/36）		備考
	グリッド	遺構名	層位					口径	底径	器高					外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	
1	5H16	－	Ⅳ	近世	肥前陶器	Ⅲ		－	－	－	－	－	精	－	10YR6/2灰黄褐色	5Y4/2灰オリーブ色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	南区写真掲載のみ
2	4H14	－	Ⅴa	近世	肥前磁器	Ⅲ		－	－	－	－	－	精	－	5Y7/2灰白色	5Y7/1灰白色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	1	－	南区
3	5E25	水田7	1	古代	須恵器	甕		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	2.5Y5/1黄灰色	5Y5/1灰色	良	タタキ	当て具	－	－	－	北区
4	6F	－	Ⅺc	古代	土師器	小型甕か		－	－	－	－	－	普通	石・赤・白・砂	5Y7/6橙色	5Y7/6橙色	良	ロクロナデ	ロクロナデ	－	－	－	北区
5	6F7	－	Ⅺc	中世	土師質土器	小皿	A3類	(7.8)	5.4	1.5	19.2	69.2	普通	石・黒・白	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	良	ヨコナデ	ヨコナデ	指頭圧痕	1	7	北区
6	5・6F	28-24T	Ⅸa	中世	珠洲焼	片口鉢		－	－	－	－	－	普通	石・白・海	5Y5/1灰色	5Y5/1灰色	良	ロクロナデ	ロクロナデ卸目	－	－	－	北区

工田遺跡　木製品観察表

凡例（法量－容器を除く木製品） 幅：横幅の最大値　厚さ：幅に直行する奥行きの最大値

報告番号	出土位置			器種	法量（cm）				木取り	樹種	備考
	グリッド	遺構名	層位		長さ 口径	幅 底径	厚さ 器高	器厚			
7-1	5F12	水田5	Ⅹb	板状木製品	6.7	(14.8)	0.65	－	柾目	板：ケヤキ 木釘：ヒノキ	正面孔（貫通）4、下側面木釘4、右側木釘2
7-2	5F12	水田5	Ⅹb	板状木製品	6.5	(13.7)	0.65	－	柾目	板：ケヤキ 木釘：ヒノキ	正面孔（貫通）2、下側面木釘6
8	5F8	SD4	1	板状木製品	(23.3)	(4.7)	0.8	－	追柾目	ヒノキ	正面孔（貫通）1
9	5F3	SX3	1	杭か	(28.8)	6.2	(3.5)	－	半割	クリ	
10	5C24	杭3	－	杭	(73.5)	6.7	(3.7)	－	削出心去	クリ	西杭列
11	5D4・5	杭6	－	杭	(72.1)	(4.6)	(6.0)	－	削出心去	クリ	西杭列
12	5D10	杭7	－	杭	(75.0)	8.6	4.8	－	分割心去	クリ	西杭列
13	5D15	杭8	－	杭	70.9	4.4	6.3	－	分割心去	クリ	西杭列
14	5D20	杭9	－	杭	91.1	6.2	8.4	－	分割心去	クリ	西杭列
15	5E10	杭15	－	杭	(95.7)	6.9	4.9	－	分割心持	クリ	西杭列
16	6E1	杭12	－	杭	59.0	5.5	6.6	－	削出心去	クリ	西杭列
17	5D9・14	杭60	－	横木か	(59.9)	3.6	3.2	－	分割心去	クリ	西杭列
18	5D20	杭58	－	横木か	(62.4)	5.4	2.9	－	分割心去	クリ	西杭列
19	5D15	杭56	－	杭	65.5	8.0	6.8	－	分割心去	クリ	中央杭列
20	5D20	杭10	－	杭	74.7	4.9	4.6	－	分割心持	クリ	中央杭列
21	5D20・6D16	杭11	－	杭	58.1	4.6	5.5	－	分割心持	クリ	中央杭列
22	6D21	杭69	－	杭	73.2	6.0	6.1	－	分割心去	クリ	中央杭列
23	6E1	杭13	－	杭	119.8	(5.4)	(5.0)	－	丸木取り	ヤナギ属	中央杭列
24	6E1	杭14	－	杭	(93.6)	(5.8)	4.4	－	分割心去	クリ	中央杭列
25	6E11	杭19	－	杭	(87.8)	4.4	4.5	－	分割心去	クリ	中央杭列
26	6E11	杭20	－	杭	(95.4)	5.5	6.5	－	分割心去	クリ	中央杭列
27	6F2	杭32	－	杭	119.3	5.8	6.6	－	分割心去	クリ	中央杭列
28	6F7	杭38	－	杭	(125.1)	5.7	5.6	－	分割心去	クリ	中央杭列
29	6F12	杭41	－	杭	(96.5)	5.7	7.5	－	分割心去	クリ	中央杭列
30	6D12	杭2	－	杭	(61.5)	4.4	4.2	－	分割心去	クリ	東杭列
31	6D18	杭1	－	杭	(12.1)	5.5	5.2	－	丸木取り	ヌルデ	東杭列
32	6E17・18	杭79	－	杭	(94.0)	6.5	(3.9)	－	偏半割	クリ	東杭列、横位で出土
33	5H18	27-14T	(Ⅺc)	杭	(152.9)	8.4	4.1	－	偏半割	クリ	
34	5I・6H・I	28-25T	Ⅵb	曲物底板	7.1	(7.0)	－	0.6	柾目	スギ	左側縁欠損、側面木釘孔？3

図　　版

凡　例

1　遺構図版中の ⊏⊐ は試掘トレンチ又はサブトレンチを、⊏⊐ は撹乱範囲を表す。

2　遺構分割図中のコンターライン上の数値は標高（m）を表す。

3　遺構個別図中で掘立柱建物のエレベーションラインから外れるピットは、測量値から復元した落ち込み形を見通して合成した。この場合、該当ピットの落ち込み前後は欠線とした。

4　遺構図版中の平面図におけるピット内のスクリーントーンは柱痕を表す。

5　遺構図版中の ◯ は掘立柱建物の対応ピット位置を示すが、調査では未検出である。

6　遺構断面図中のｐは土器・陶磁器類、ｓは石製品・礫、ｗは木製品・自然木を表す。

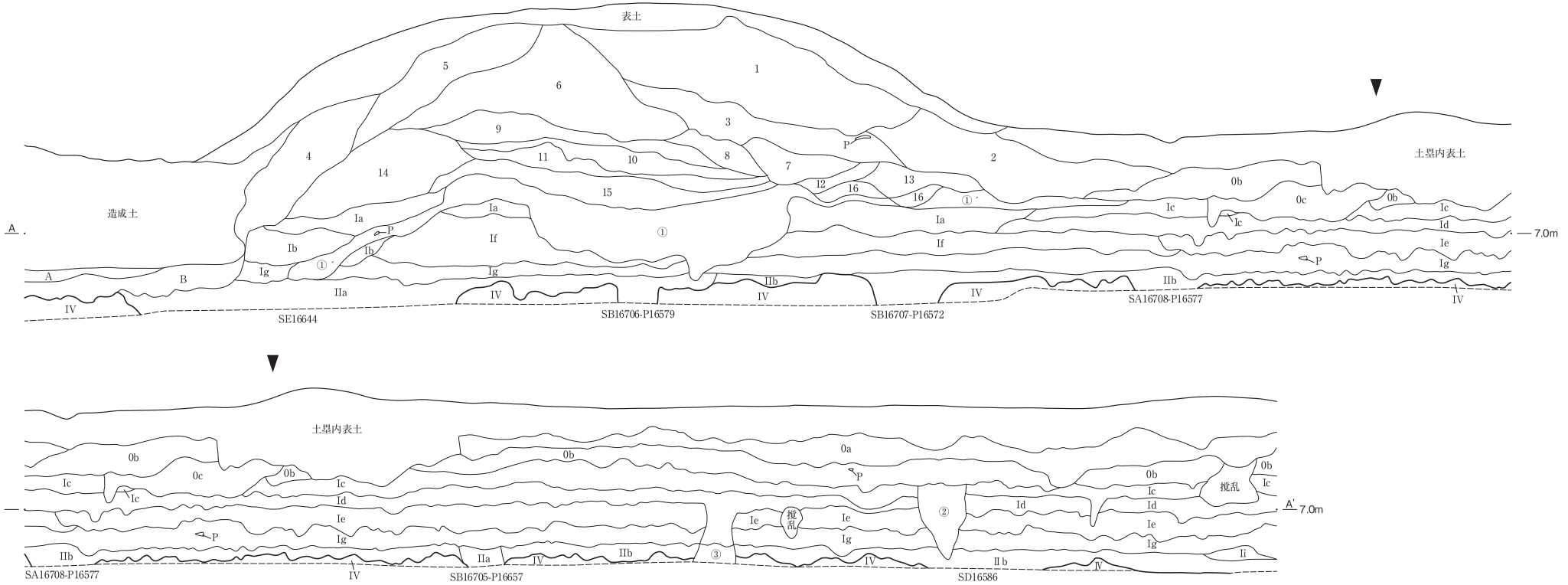
7　土器・陶磁器類の実測図中で、断面が黒塗りのものは須恵器、白抜きのものはそれ以外を表す。

8　土器・陶磁器類の実測図中で、中心線の両端が切れているものは径の残存率が 3/36 以下を表す。

9　木製品の実測図中で、断面の木目は木取りを表現したもので、実際の年輪幅とは異なる。

10　上記以外のスクリーントーンなどは、図版ごとに凡例を示した。

N
M
L
K
J
72
73
74
75
76
77
B
B'
A
A'
丘江遺跡
国道252号線
0
(1:5,000)
200m
［柏崎市発行 平成８年「柏崎全図その４」
1：10,000原図を拡大して加筆］
0
(1:200)
10m



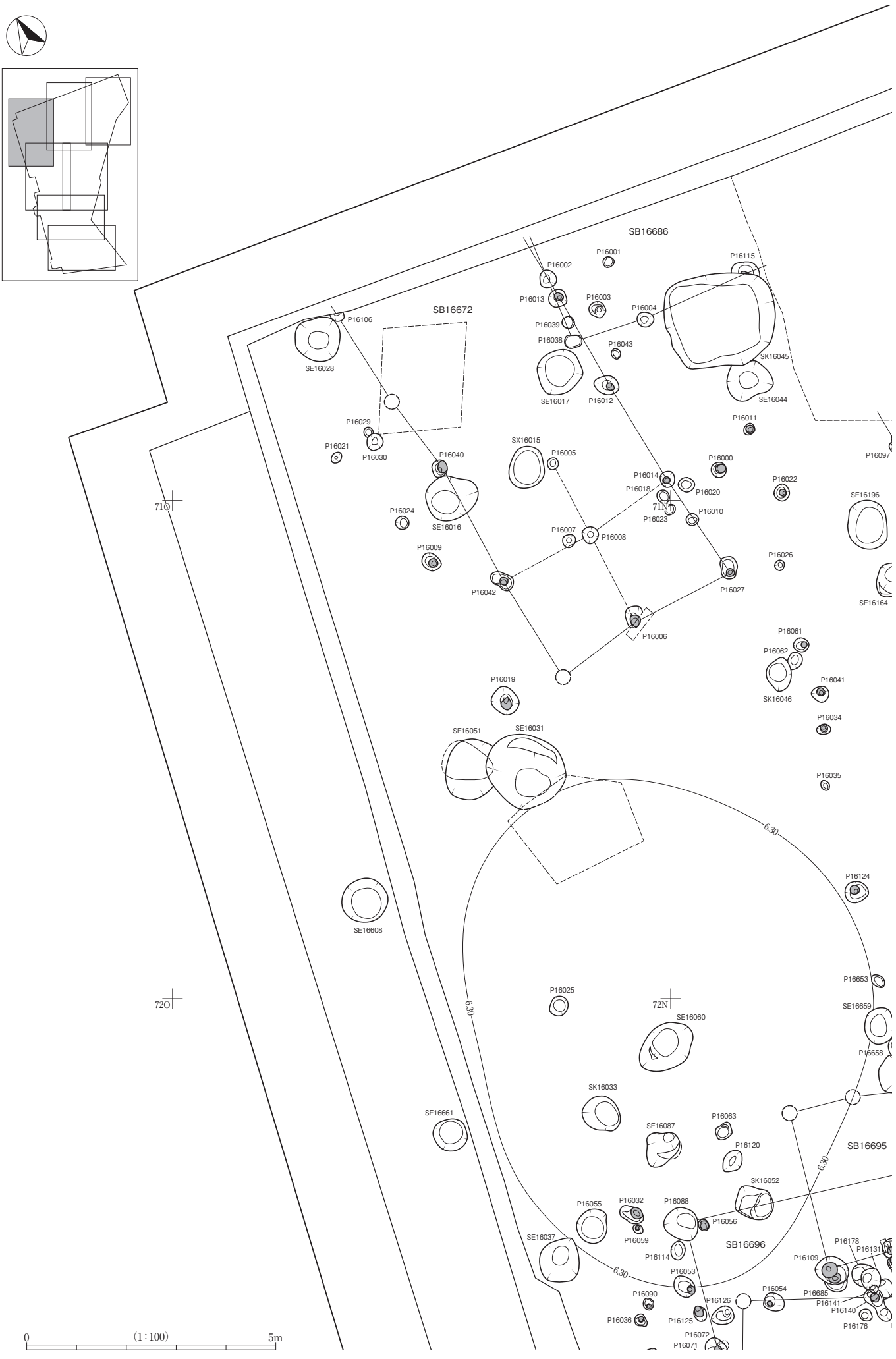
表土　暗褐色（10YR2/3）シルト　最大10㎝の礫、砂利、空缶など現代のゴミを含む。
土塁内表土　暗褐色（10YR5/1）シルト　砂利、焼土粒、ガラスなど現代のゴミを含む。
造成土　暗褐色（10YR3/1～3/2）砂　コンクリート、鉄屑を含み、土壌に油が混じる。現代の宅地・店舗造成に伴うもの。

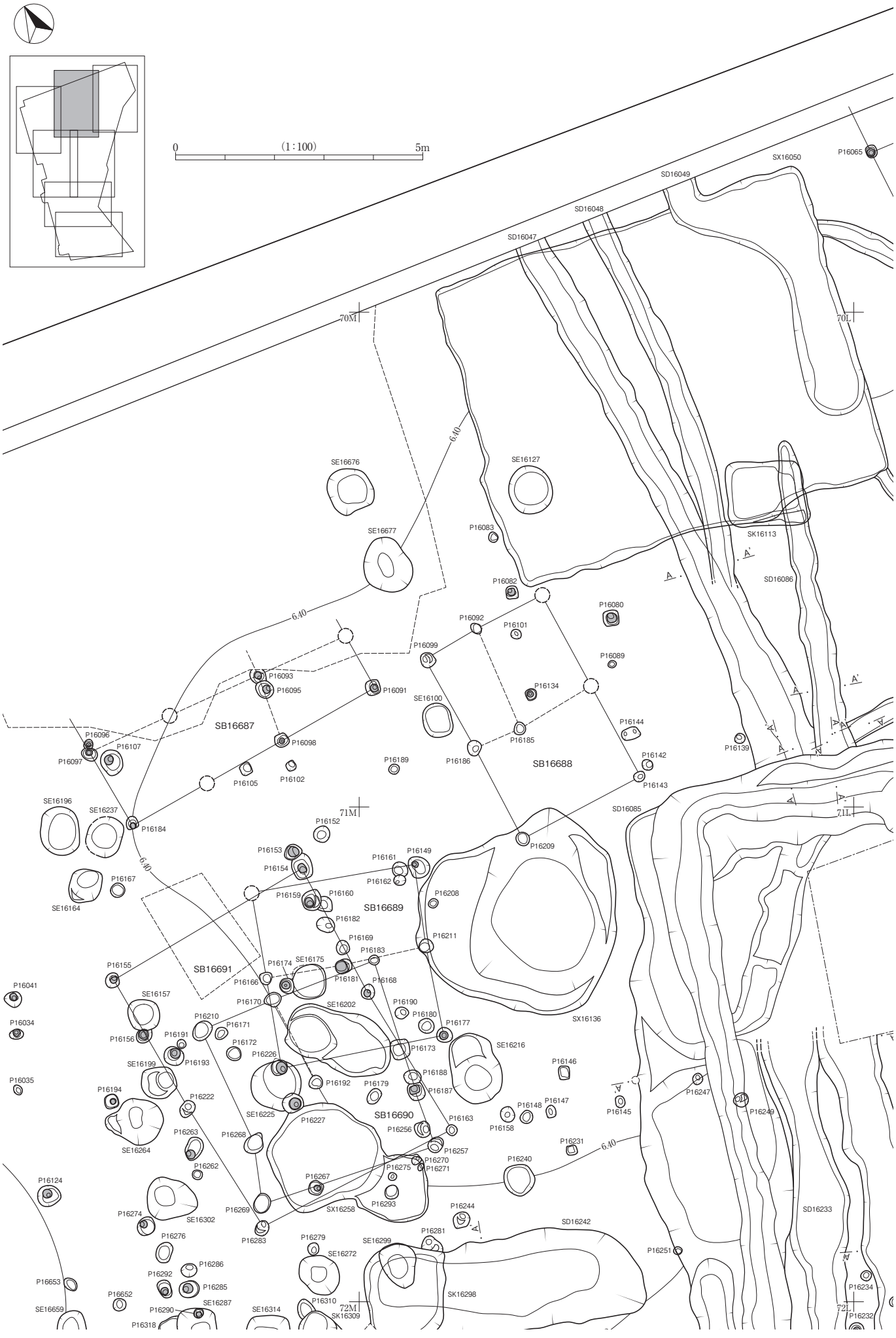
A　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。腐植物多量含む。
B　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。腐植物中量、径1～3mm炭化物少量、径5～20mm地山ブロック少量含む。
B'　B層がブロック状にⅣ層に混じる。水田耕作の影響によるもの。

1　にぶい黄褐色（5YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径3～20mm炭化物少量、径30～60mm砂利多量、ガラス片等を含む。近世～現代の陶磁器が出土。
2　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　粘性やや強、しまり強。腐植物中量、径2～10mm炭化物少量、径10～20mm砂利少量含む。
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　粘性やや強、しまり強。径2～20mm炭化物多量、径10～20mm砂利を含む。近世～現代の陶磁器が出土。
4　にぶい赤褐色（10YR4/3）砂　粘性なし、しまりやや弱。褐色土（10YR4/4）ブロック多量、径5～30mm砂利多量含む。
5　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱、しまりやや弱。径2～5mm炭化物微量、径5～15mm砂利少量含む。
6　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径2～7mm炭化物少量、径5～15mm砂利中量含む。
7　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径2～15mm炭化物中量、径5～10mm砂利少量含む。
8　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径5mm炭化物微量含む。
9　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや弱、しまりやや弱。径3～35mm炭化物少量、径10～20mmにぶい黄褐色土（10YR4/3）ブロック少量含む。
10　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　粘性やや強、しまり強。径2～7mm炭化物少量含む。
11　灰黄褐色（10YR5/2）粘質土　粘性強、しまり強。径1～2mm炭化物微量、径10～40mm鉄分多量、径10～20mmにぶい黄褐色土（10YR4/3）ブロック少量含む。
12　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径3～15mm炭化物中量、径5～10mm鉄分、径10mmの11層ブロック中量、浅黄色土（2.5Y7/4）ブロック少量含む。
13　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまり強。径2～7mm炭化物少量、径5～20mm浅黄色土（2.5Y7/4）ブロック少量含む。
14　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　粘性やや強、しまりやや強。径2～7mm炭化物少量、径5mm砂利少量含む。
15　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　粘性やや強、しまり強。径1～10mm炭化物多量、径5～20mmの11層ブロック少量含む。
16　灰黄褐色（10YR5/2）粘質土　粘性強、しまり強。径1～2mm炭化物微量、径10～40mm鉄分多量、径10～20mmにぶい黄褐色土（10YR4/3）ブロック少量含む。

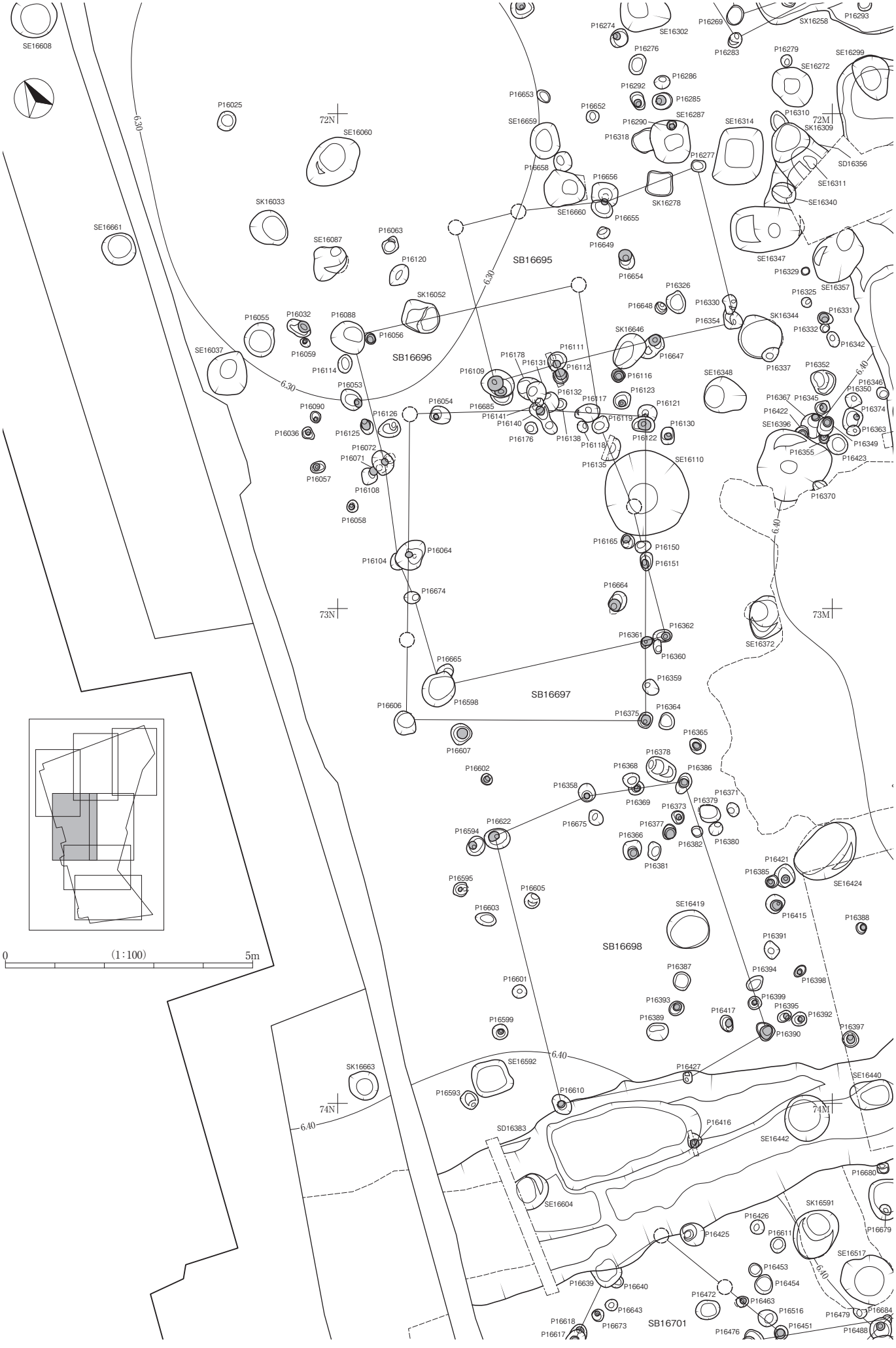
①　炭化物が主体となる層で、水分を多量に含む。径25～100mm黄灰色（2.5Y5/1）粘土ブロック少量、　径1～30mm焼土ブロック少量、近世陶磁器が出土。
①'　黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径5～20mm炭化物多量、径5～30mm褐灰色（10YR5/1）粘土ブロック多量含む。部分的に古い層へ貫入する（木の根などの影響か）。
②　灰黄色（2.5Y7/2）粘土　粘性強、しまり強。褐灰色土ブロック少量含む。近世以降のピットか。
③　基質はIg層。鉄分少量含む。近世のピットか。
④　Ⅰf層に近い。褐灰色ブロックをあまり含まず、全体がやや酸化した土壌で粘性が弱い。

O
N
M
L
K
J
69
70
71
72
73
74
75
76
0
(1:300)
15m


SB16686
SB16672
SB16695
SB16696
P16001
P16002
P16115
P16013
P16003
P16004
P16106
P16039
P16038
P16043
SE16028
SE16017
P16012
SK16045
SE16044
P16029
P16011
P16021
P16030
SX16015
P16005
P16040
P16000
P16097
P16014
P16018
P16020
P16022
710
711
P16024
SE16016
P16023
P16010
SE16196
P16007
P16008
P16009
P16026
P16042
P16027
SE16164
P16006
P16061
P16062
P16019
P16041
SK16046
P16034
SE16051
SE16031
P16035
6.30
P16124
SE16608
P16653
P16025
720
72N
SE16659
SE16060
P16658
SK16033
SE16661
P16063
SE16087
P16120
SK16052
P16055
P16032
P16088
P16056
P16059
SE16037
P16114
P16178
P16131
P16109
P16053
P16054
P16685
P16090
P16126
P16141
P16140
P16036
P16125
P16176
P16072
P16071
0
(1:100)
5m


0
(1:100)
5m
70M
70L
71M
71L
72M
72L
6.40
SX16050
SD16049
SD16048
SD16047
P16065
SE16676
SE16127
SE16677
P16083
SK16113
SD16086
P16082
P16080
P16092
P16101
P16099
P16089
P16093
P16095
P16091
P16134
SE16100
SB16687
P16096
P16107
P16097
P16098
P16185
P16144
P16139
P16189
P16186
SB16688
P16142
P16105
P16102
P16143
SE16196
SE16237
P16184
SD16085
P16152
P16209
P16153
P16154
P16161
P16149
P16162
P16167
SE16164
P16159
P16160
SB16689
P16208
P16182
P16169
P16211
P16183
P16155
SB16691
P16174
SE16175
P16166
P16181
P16168
P16041
SE16157
P16170
SE16202
P16190
P16180
P16177
SX16136
P16034
P16210
P16171
P16156
P16191
P16172
P16173
SE16216
P16226
P16146
SE16199
P16193
P16188
P16035
P16192
P16179
P16187
P16194
P16222
P16247
P16148
P16147
P16145
P16249
SE16225
P16227
SB16690
P16163
P16158
P16263
P16268
P16256
P16231
SE16264
P16257
P16262
P16270
P16271
P16275
P16240
P16124
P16267
P16293
P16269
SX16258
P16244
SD16233
P16274
SE16302
P16276
P16283
P16279
SE16299
P16281
SD16242
P16251
SE16272
P16286
P16292
P16285
P16653
P16652
SE16287
SK16298
P16234
SE16659
P16290
SE16314
P16310
SK16309
P16232
P16318

SE16103
P16133
P16067
P16066
P16065
SX16050
SB16670
P16068
P16069
P16070
SE16079
P16074
70L
70K
P16075
P16076
SD16077
P16081
P16073
SD16084
SK16113
SD16086
SD16078
SD16085
P16139
71L
71K
P16137
P16203
P16223
SE16129
SX16128
P16195
P16200
P16709
P16213
P16205
P16239
P16207
P16206
P16217
SB16671
P16218
P16197
SD16198
P16204
P16220
P16212
SE16201
P16230
P16214
P16221
P16219
P16249
P16224
SD16233
SD16238
SD16215
6.40
0
(1:100)
5m

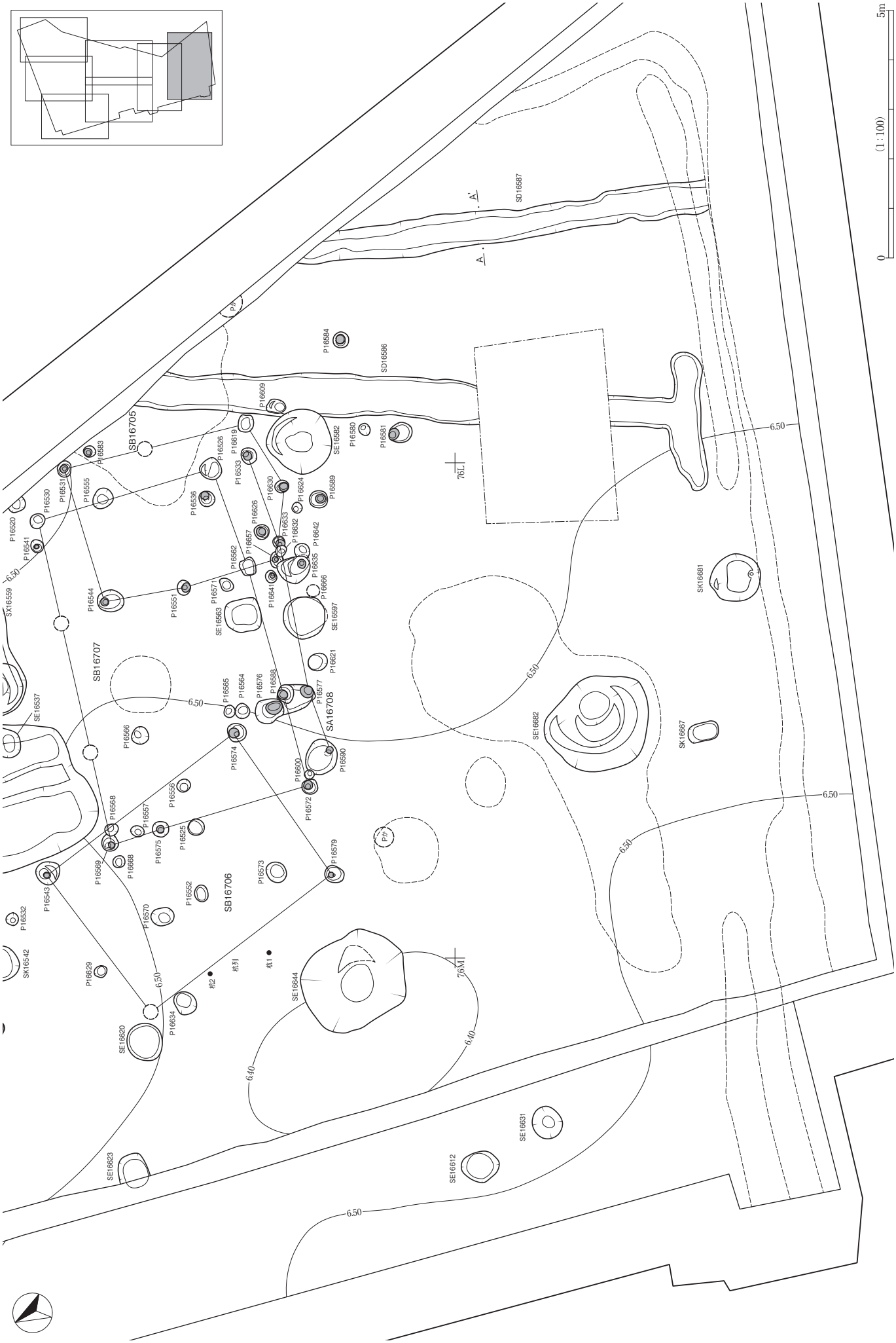

SE16608
P16025
72N
SE16060
SK16033
SE16661
SE16087
P16063
P16120
SK16052
P16055
P16032
P16088
P16056
P16059
SE16037
P16114
P16053
P16090
P16036
P16125
P16126
P16054
P16072
P16071
P16057
P16108
P16058
6.30
SB16695
SB16696
P16653
P16652
SE16659
P16658
P16656
SE16660
P16655
P16649
P16654
SK16278
P16274
SE16302
P16276
P16292
P16286
P16285
SE16287
P16290
P16318
P16277
P16269
P16283
SX16258
P16293
P16279
SE16299
SE16272
P16310
SE16314
72M
SK16309
SD16356
SE16311
SE16340
SE16347
P16329
SE16357
P16325
P16326
P16648
P16330
P16354
P16331
SK16344
P16332
P16342
P16337
SK16646
P16647
P16178
P16131
P16111
P16112
P16109
P16116
P16132
P16123
P16117
P16121
P16685
P16141
P16140
P16176
P16138
P16119
P16122
P16130
P16118
P16135
SE16110
SE16348
P16352
P16346
P16350
P16345
P16367
P16422
P16374
SE16396
P16363
P16349
P16355
P16423
P16370
6.40
P16165
P16150
P16151
P16104
P16064
P16674
P16664
73N
73M
P16361
P16362
P16360
SE16372
P16665
P16598
P16359
P16606
P16364
P16375
P16607
P16365
P16378
P16602
P16368
P16386
P16358
P16369
P16371
P16379
P16373
P16622
P16675
P16377
P16594
P16366
P16382
P16380
P16381
P16421
P16385
SE16424
P16595
P16605
P16603
SE16419
P16415
P16388
SB16698
P16391
P16387
P16394
P16398
P16601
P16399
P16393
P16395
P16392
P16417
P16389
P16390
P16397
P16599
SK16663
SE16592
P16427
SE16440
P16593
P16610
74N
74M
P16416
SD16383
SE16442
P16680
SE16604
SK16591
P16426
P16679
P16425
P16611
SE16517
P16453
P16639
P16640
P16454
P16472
P16463
P16643
P16516
P16684
P16618
P16673
SB16701
P16479
P16617
P16476
P16451
P16488
0
(1:100)
5m

丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（5）

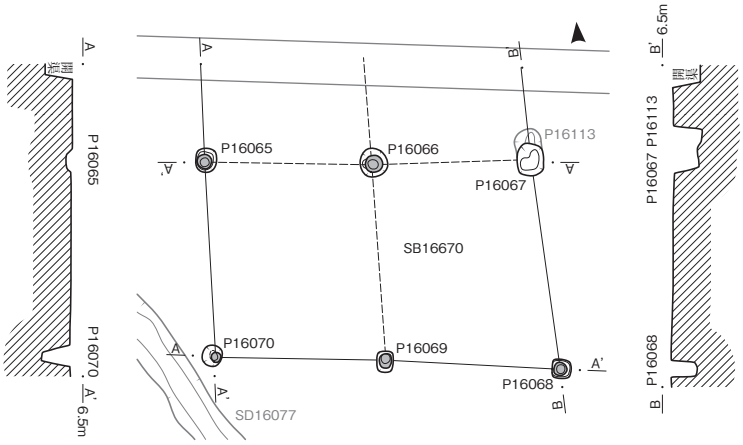
0
5m
(1:100)
SB16699
SB16702
SB16700
SB16704
SB16703
SB16701
SB16705
SB16707
SB16706
74L
75L
74M
75M
74N
75N
6.40
6.50

図 版 10

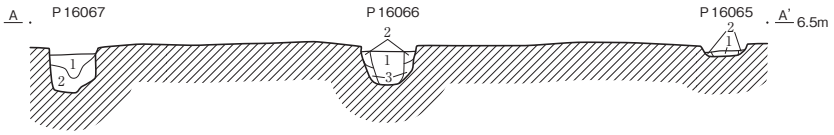
丘江遺跡Ⅴ　下層分割図（7）



SB16670



P16065・P16066・P16067

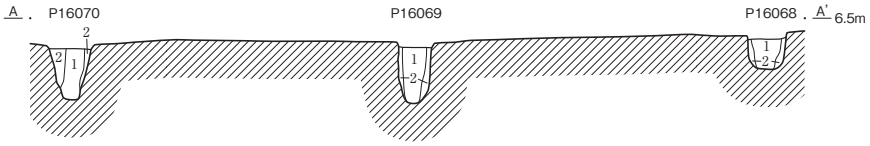


P16067
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。

P16066
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 黄灰色土ブロック微量含む。

P16065
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。柱痕か。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック微量含む。

P16068・P16069・P16070

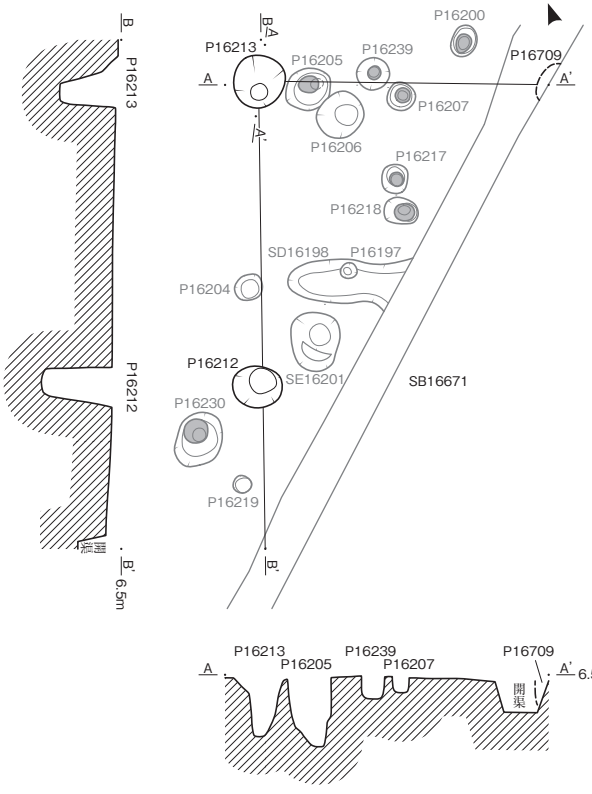


P16070
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

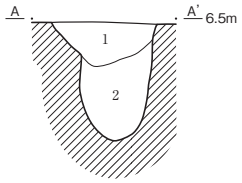
P16069
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。B 埋土。径 2 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

P16068
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SB16671



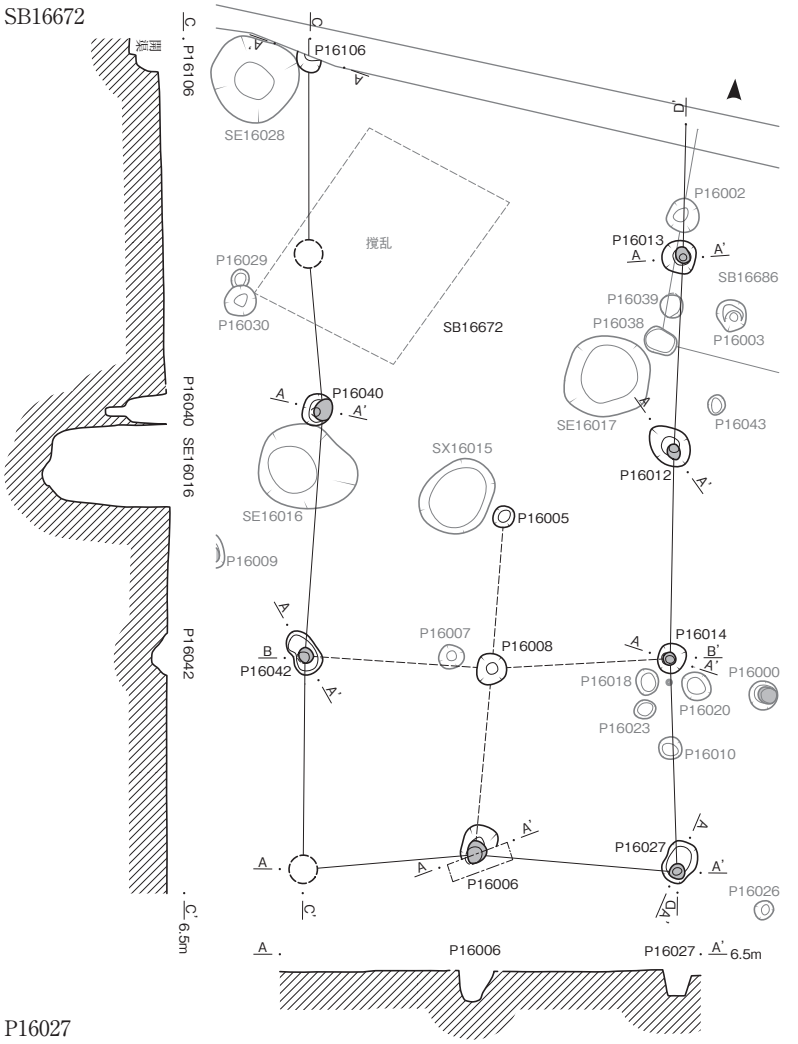
P16213



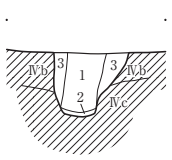
P16213
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。

0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m
0　断面図（1:40）　2m

SB16672

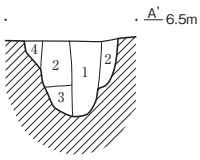


P16006



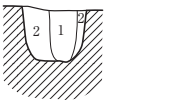
P16006
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物中量、径 10 ～ 40mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。グライ化により変色。柱の当たりか。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 3 ～ 10mm の 1 層ブロック少量含む。

P16012



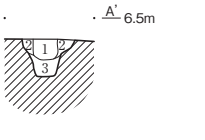
P16012
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物中量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土粘性強、しまり強。径 1 ～ 3mm 灰色土ブロック少量含む。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土粘性強、しまり強。径 20mm 灰色土ブロック少量含む。

P16013



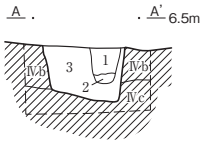
P16013
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物多量、径 2 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

P16014

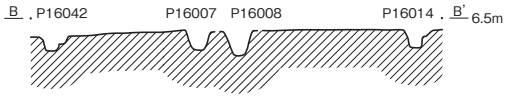


P16014
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5mm 地山ブロック少量、径 2 ～ 10mm 炭化物少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5mm 地山ブロック多量含む。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 20 ～ 30mm 黒褐色土（A 埋土）ブロック中量、径 5mm 地山ブロック微量、径 5mm 炭化物微量含む。

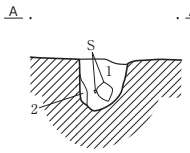
P16027



P16027
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物少量、径 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 2 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色(5GY6/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10mm1 層ブロック少量含む。グライ化により変色。柱痕。
3 オリーブ灰色(5GY6/1)粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1mm 炭化物微量、径 10 ～ 40mm1 層ブロック少量含む。

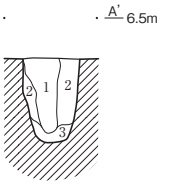


P16106



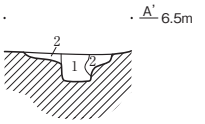
P16106
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。

P16040



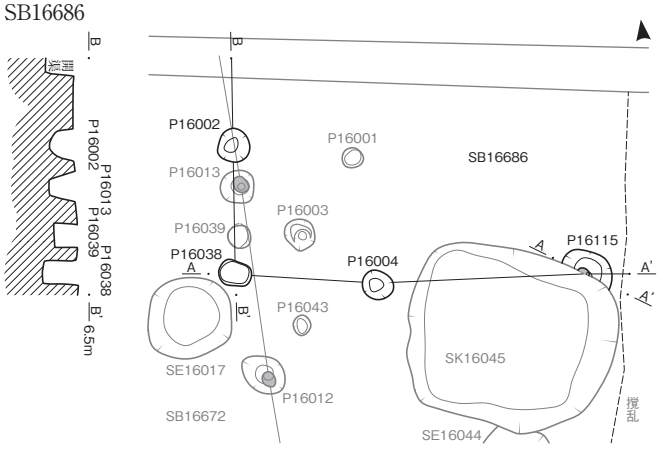
P16040
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 2 ～ 7mm 地山ブロック中量、径 1mm 炭化物微量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量、径 1mm 炭化物微量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。柱の当たりか。

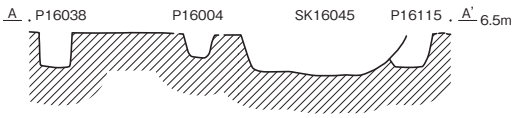
P16042



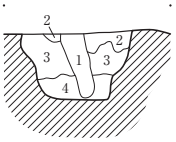
P16042
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 3 ～ 10mm 地山ブロック多量、径 2 ～ 30mm 炭化物多量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 15 ～ 40mm 地山ブロック多量、径 1mm 炭化物微量含む。

SB16686





P16115

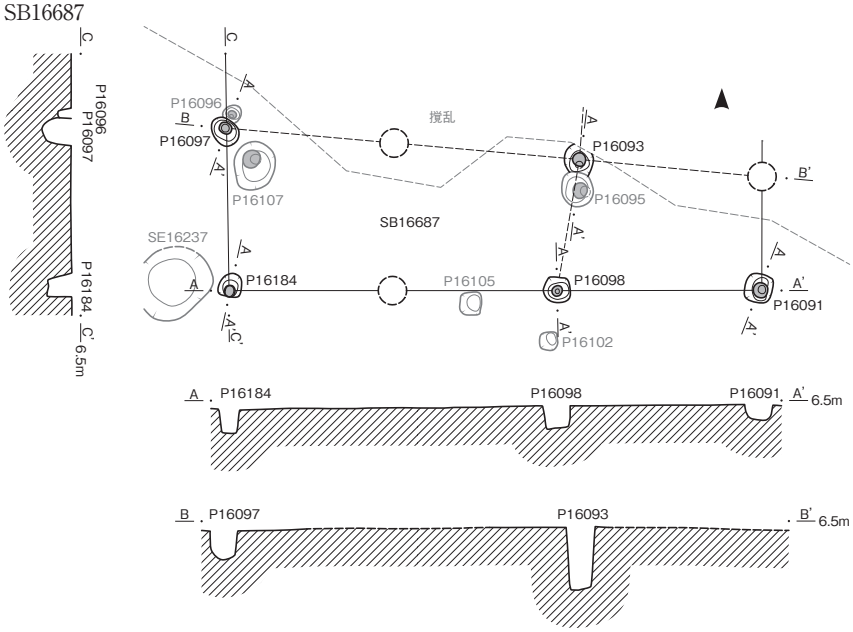


P16115
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物少量、径 2 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック多量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 3 ～ 5mm の 1 層ブロック中量含む。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 2 ～ 5mm の 1 層ブロック多量含む。

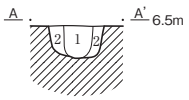
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16687

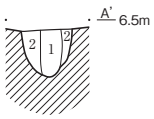


P16091



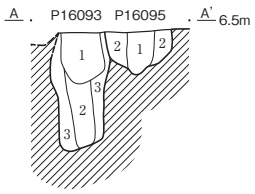
P16091
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

P16098



P16098
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

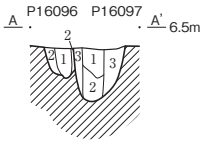
P16093・P16095



P16093
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

P16095
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 3 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 3 ～ 15mm 黄灰色土ブロック多量含む。

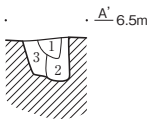
P16096・P16097



P16096
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 3 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。

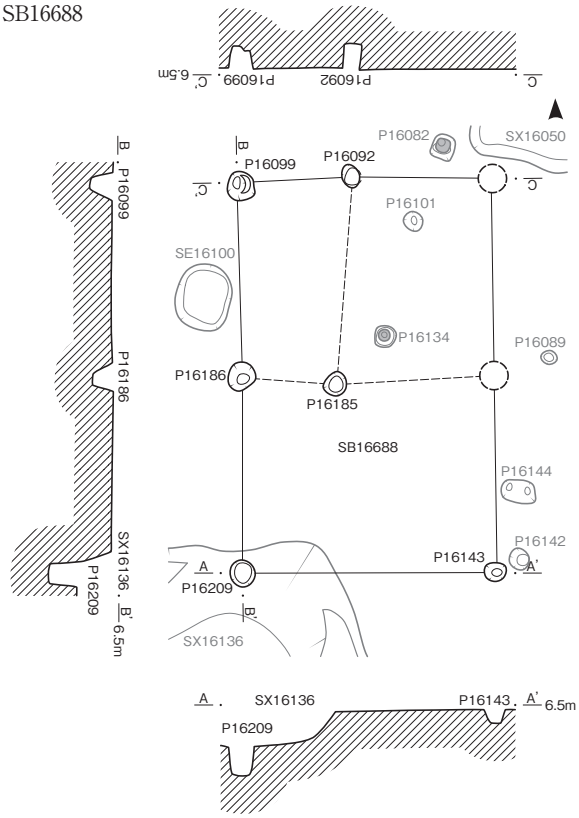
P16097
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 15 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 50mm 黄灰色土ブロック中量含む。

P16184



P16184
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。攪乱か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。

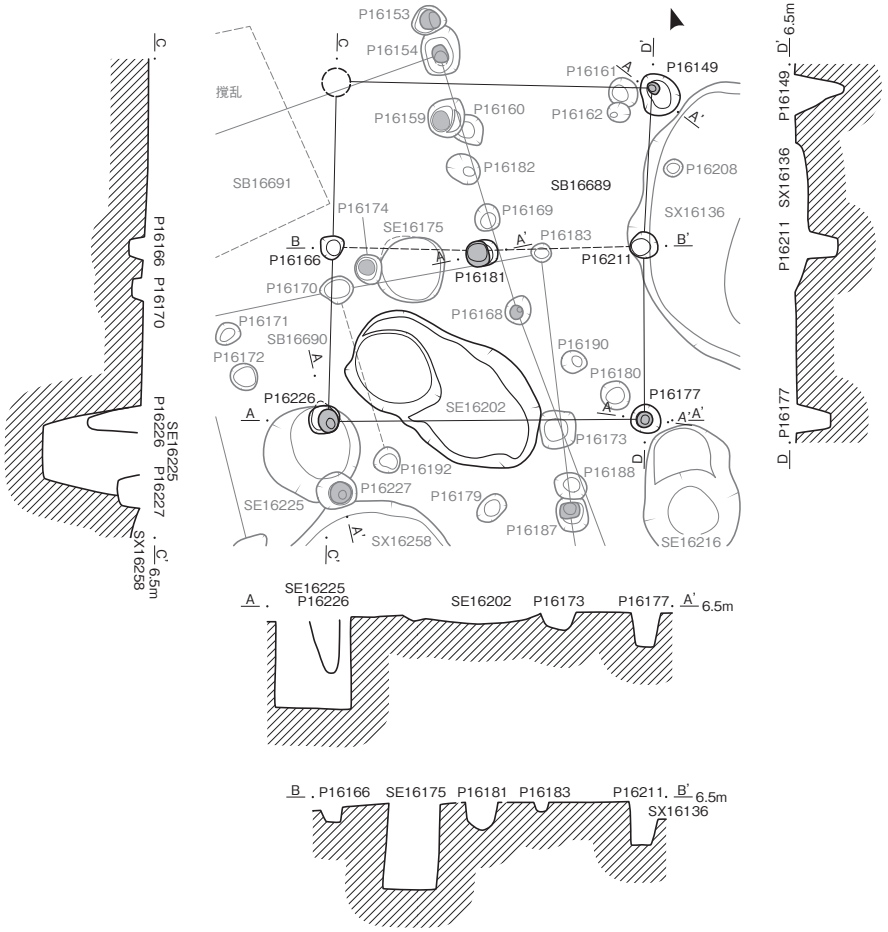
SB16688



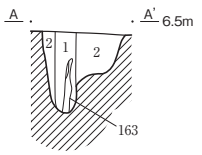
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16689

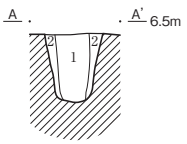


P16149



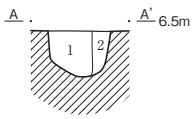
P16149
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱根（163）検出。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

P16177



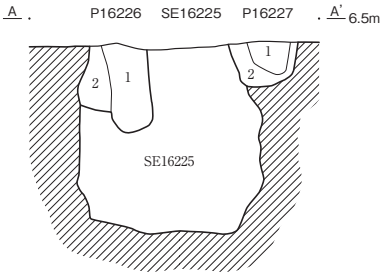
P16177
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16181



P16181
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。柱痕か。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量含む。

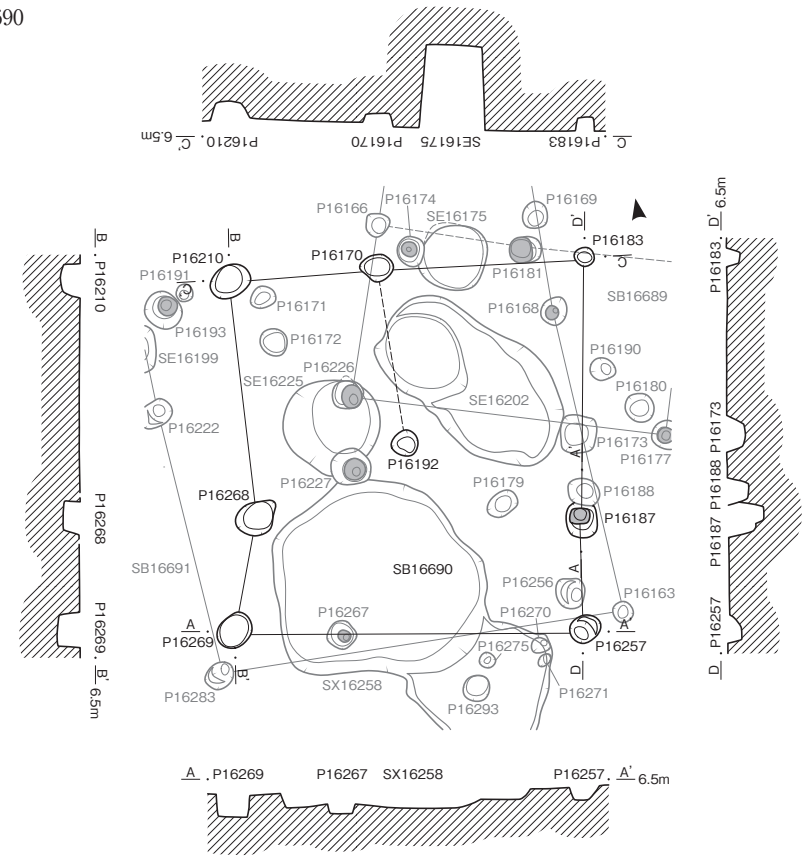
P16226・P16227



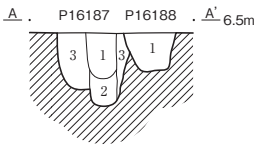
P16226
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。

P16227
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 3 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 50mm 地山ブロック多量含む。

SB16690



P16187・P16188



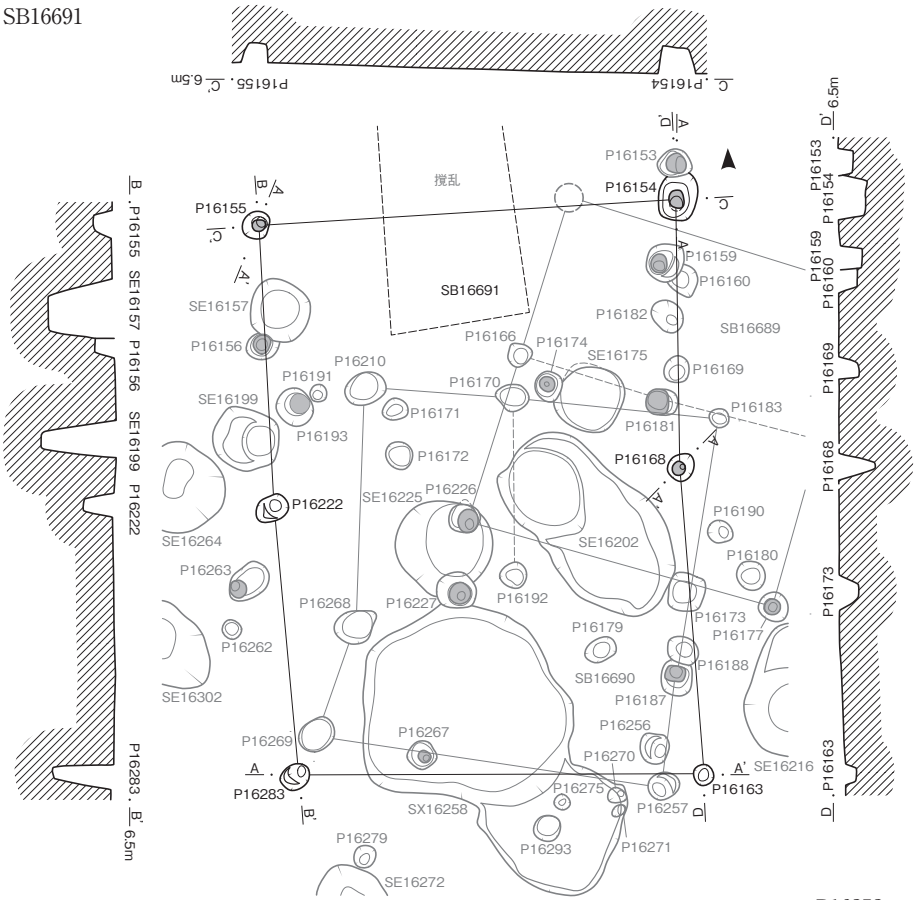
P16187
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16188
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

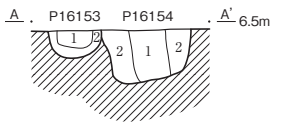
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16691



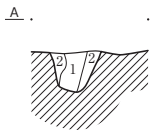
P16153・P16154



P16153
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 3 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量含む。

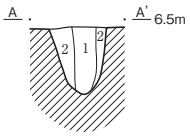
P16154
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 3 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 2 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16155



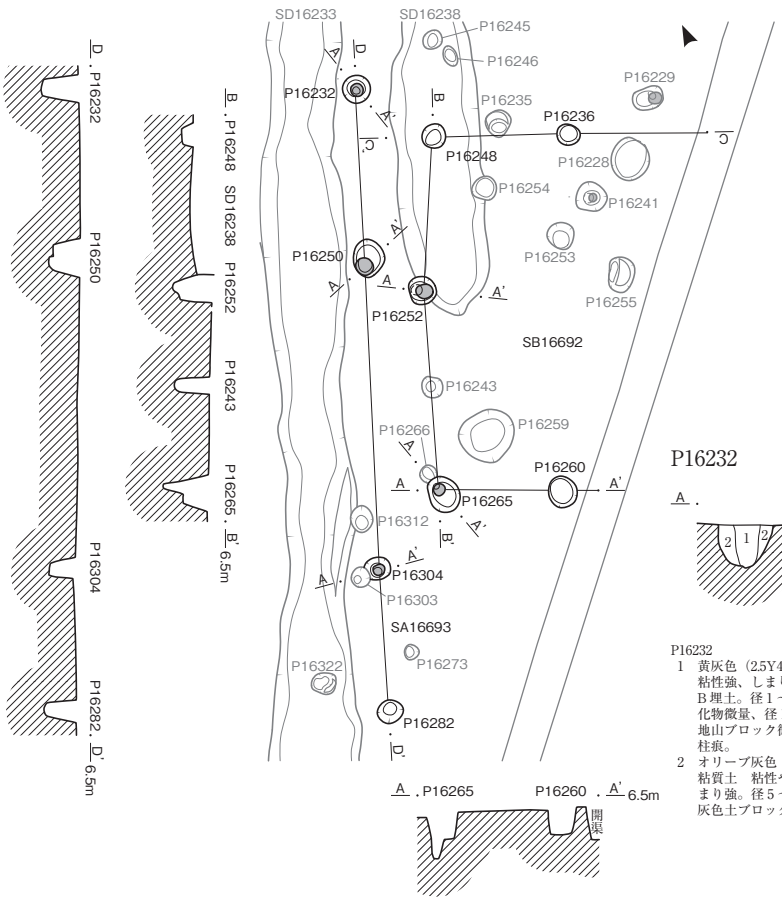
P16155
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。黄灰色土ブロック（腐植物）含む。

P16168

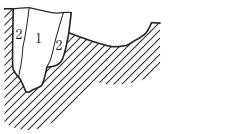


P16168
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量含む。

SB16692・SA16693

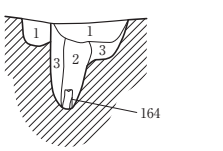


P16252



P16252
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量含む。

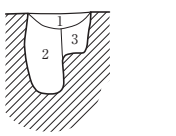
P16265・P16266



P16265
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱根（164）検出。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量含む。

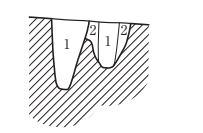
P16266
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。

P16250



P16250
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量含む。

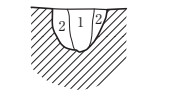
P16303・P16304



P16303
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

P16304
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量含む。

P16232

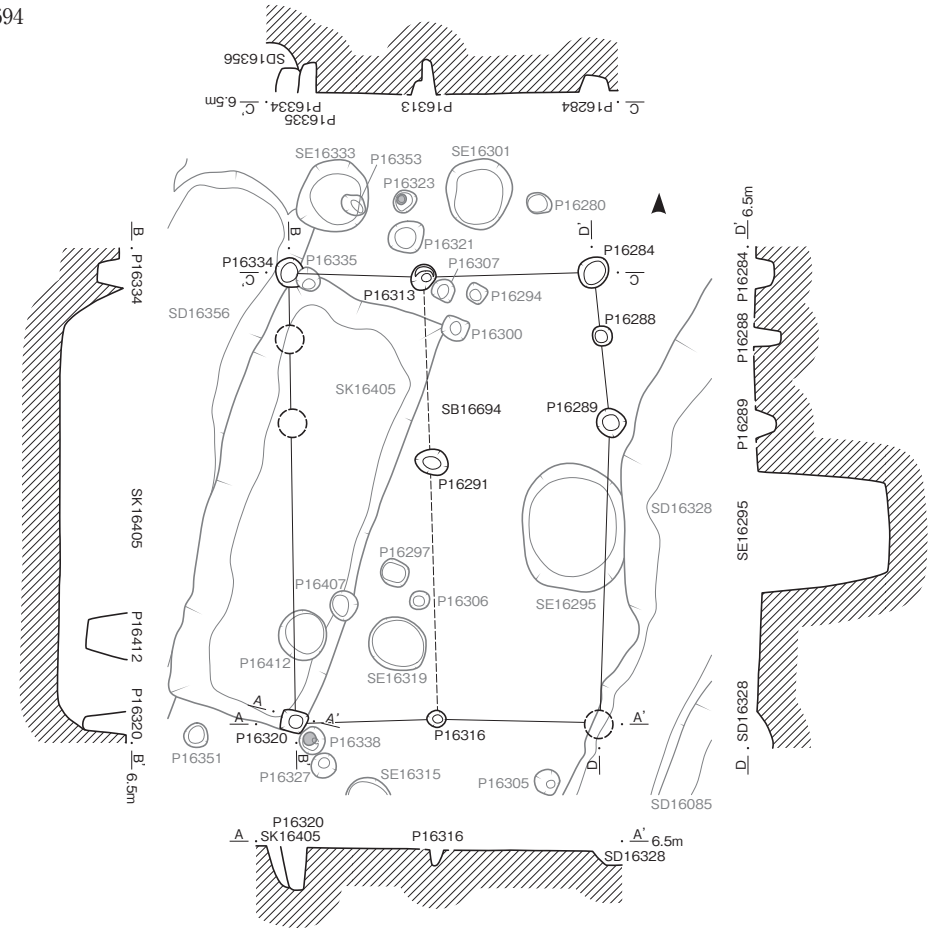


P16232
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黄灰色土ブロック多量含む。

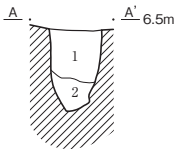
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16694

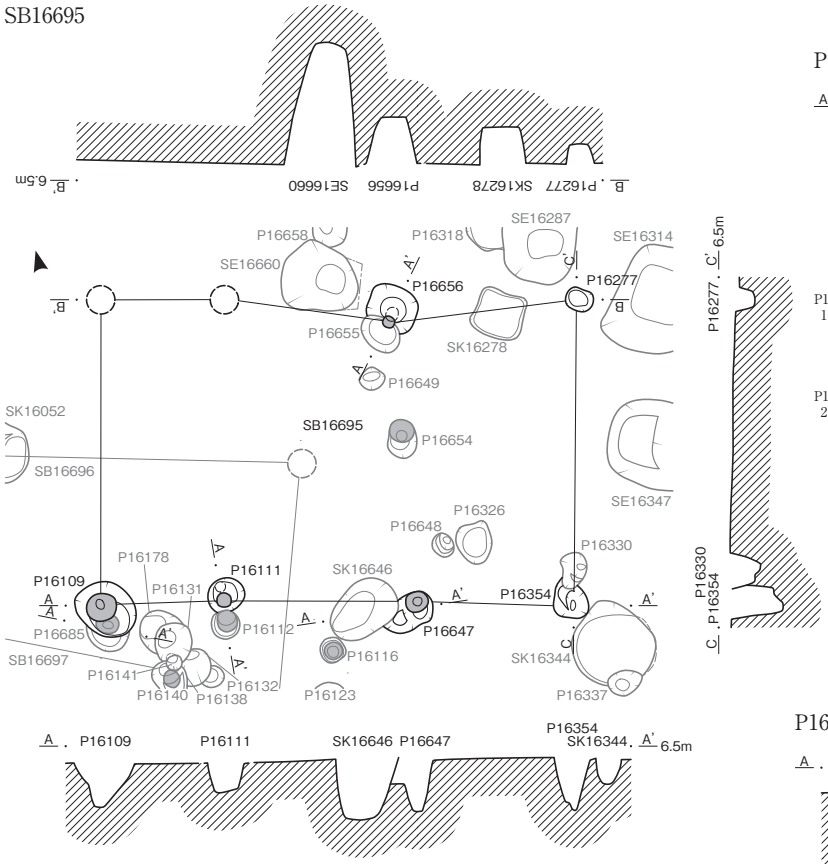


P16320

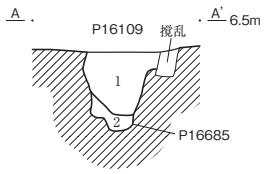


P16320
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック中量含む。

SB16695



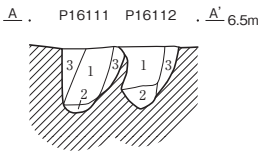
P16109・P16685



P16109
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

P16685
2　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 3 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。

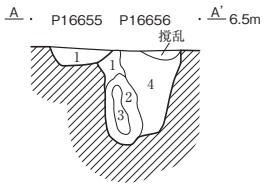
P16111・P16112



P16111
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 3mm の 1 層ブロック少量含む。柱痕グライ化か。
3　褐灰色（10YR5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 3 ～ 10mm の 1 層ブロック多量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

P16112
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 2 ～ 5mm の 1 層ブロック少量、鉄分多量含む。
3　褐灰色（10YR5/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 2 ～ 5mm の 1 層ブロック少量、鉄分多量含む。

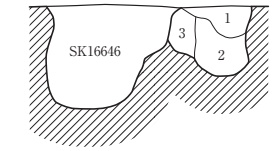
P16655・P16656



P16655
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16656
1　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。柱痕か。
2　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分少量含む。柱痕か。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。柱痕か。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量、鉄分多量含む。

P16647

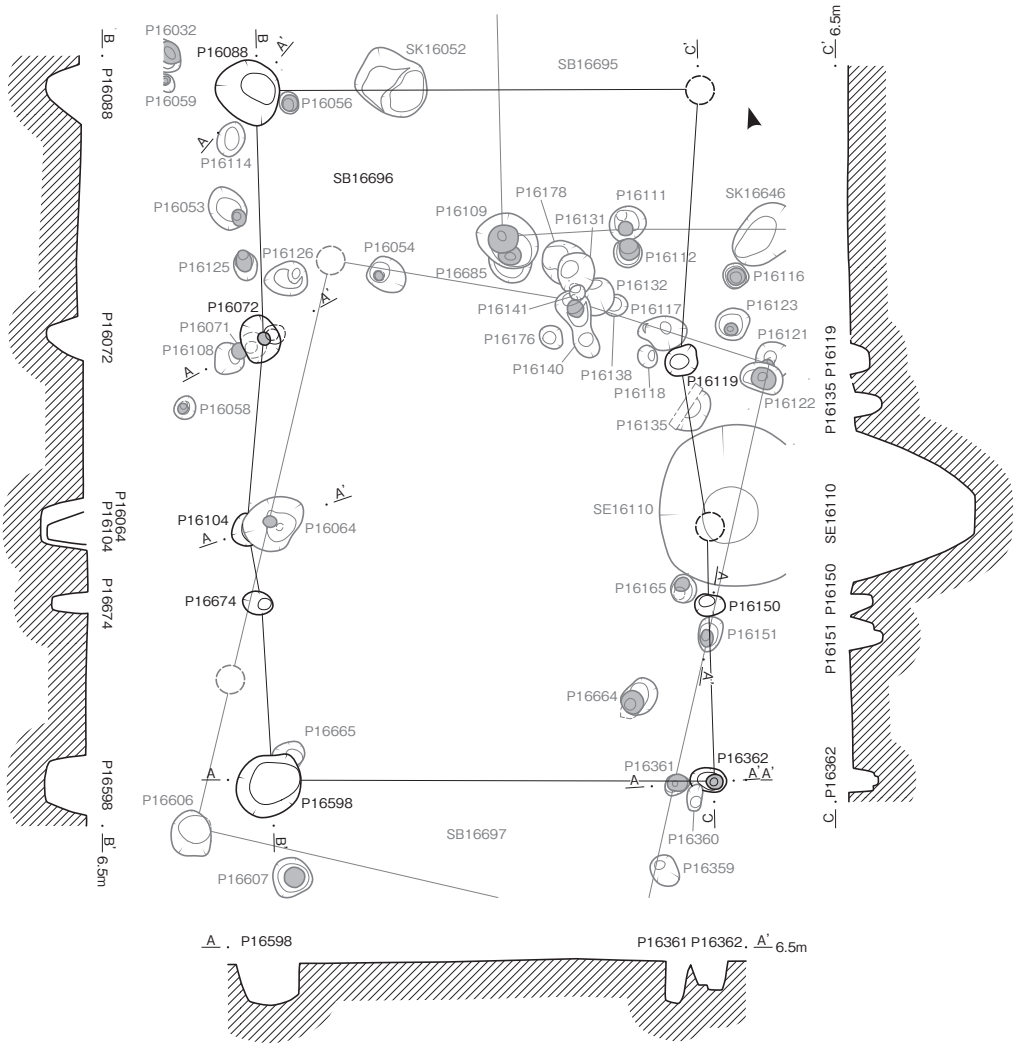


P16647
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分多量含む。

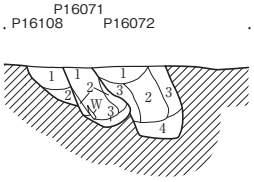
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16696



P16071・P16072・P16108

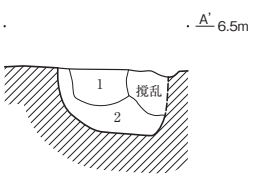


P16108
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック中量、径 1mm 炭化物微量、鉄分多量含む。
2　灰色（7.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 2 ～ 3mm の 1 層ブロック中量、径 10mm 地山ブロック多量含む。

P16071
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2　灰色（7.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10mm 地山ブロック多量、径 2 ～ 5mm の 1 層ブロック少量含む。掘方埋土。
3　灰色（7.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10mm 地山ブロック多量含む。

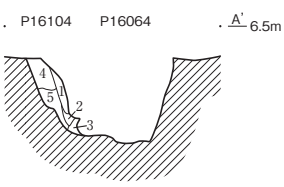
P16072
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。抜き取り痕か。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量、径 1mm 炭化物微量、鉄分多量含む。柱痕。
3　灰色（7.5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 2 ～ 5mm 地山ブロック多量、径 3 ～ 5mm の 1 層ブロック少量、鉄分多量含む。
4　灰色（7.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 3mm の 1 層ブロック中量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

P16088



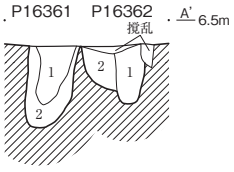
P16088
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3mm 炭化物少量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。

P16104・P16064



P16104
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 2mm 地山ブロック少量、鉄分多量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm の 1 層ブロック少量、鉄分多量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
4　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 3mm 地山ブロック中量、鉄分多量含む。
5　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 2 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。

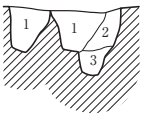
P16361・P16362



P16361
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量含む。

P16362
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量含む。

P16150・P16151



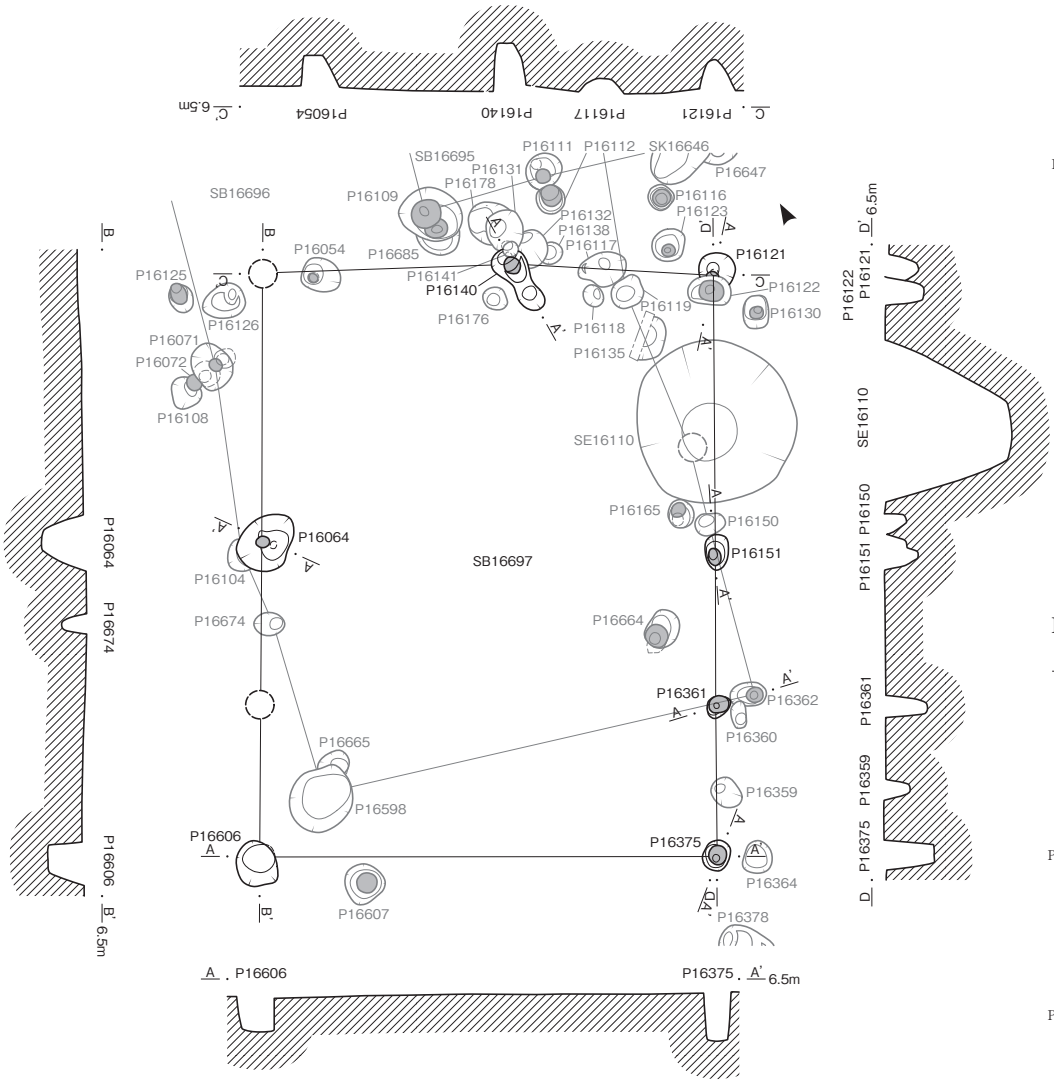
P16150
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 5mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

P16151
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3mm 炭化物少量、径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。柱痕。径 1 ～ 2mm 地山ブロック少量含む。

0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

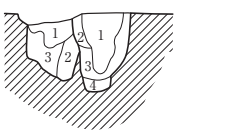
SB16697



P16064

P16064
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 5mm 炭化物微量、径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10mm の 1 層ブロック微量含む。
4 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 3 ～ 5mm の 1 層ブロック少量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
5 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 2mm の 1 層ブロック少量含む。
6 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 2 ～ 3mm の 1 層ブロック少量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
7 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。
8 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 50mm の 1 層ブロック少量含む。

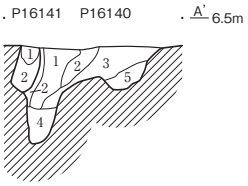
P16121・P16122



P16121
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。攪乱か。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック多量、鉄分中量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm の 1 層ブロック少量含む。

P16122
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5mm 炭化物少量、径 3 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分多量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 3 ～ 10mm の 1 層ブロック少量、鉄分多量含む。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。鉄分多量含む。

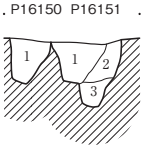
P16140・P16141



P16140
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 7mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
3 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
4 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
5 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。別のピットか。

P16141
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。

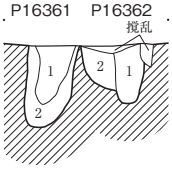
P16150・P16151



P16150
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 5mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

P16151
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3mm 炭化物少量、径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。
3 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。柱痕。径 1 ～ 2mm 地山ブロック少量含む。

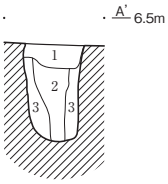
P16361・P16362



P16361
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量含む。

P16362
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量含む。

P16375

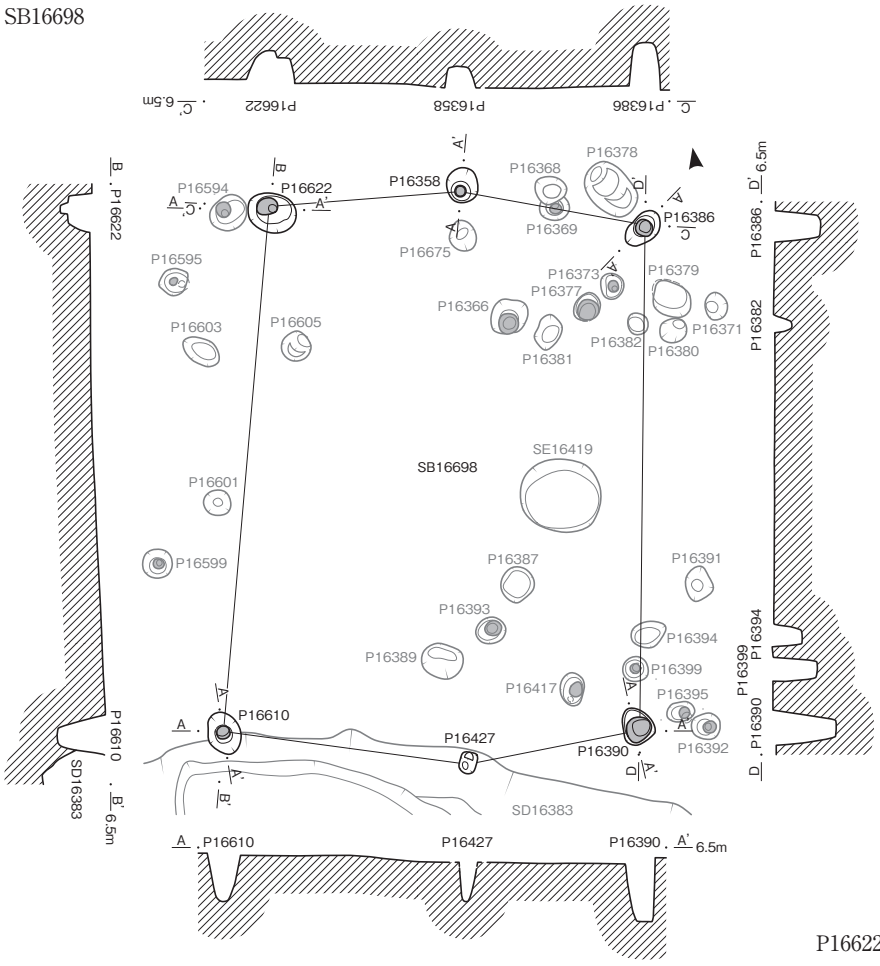


P16375
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。

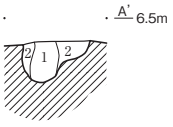
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16698

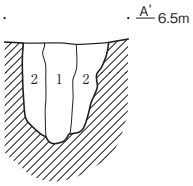


P16358



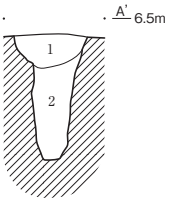
P16358
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック中量含む。

P16386



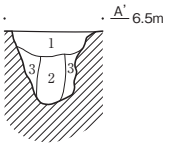
P16386
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

P16390



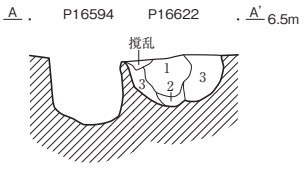
P16390
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。柱痕。

P16610



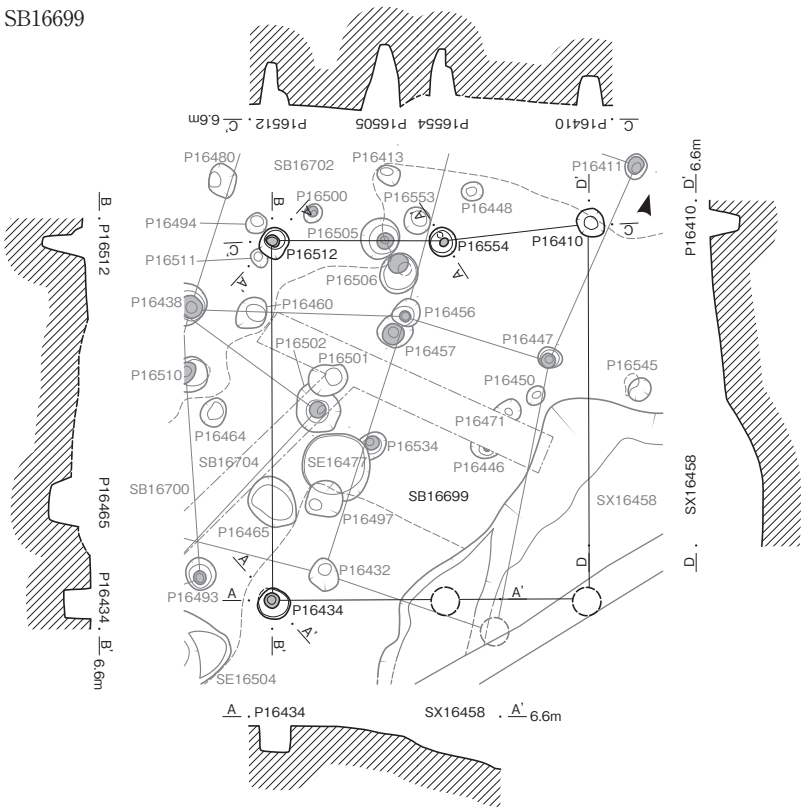
P16610
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16622

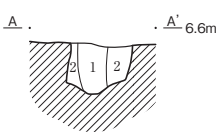


P16622
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。柱痕か。
2 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黄灰色ブロック少量含む。
3 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量、径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。

SB16699

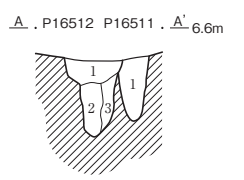


P16434



P16434
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黄灰色ブロック少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

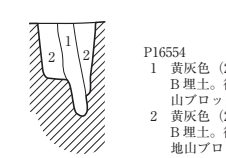
P16511・P16512



P16511
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

P16512
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 3 ～ 7mm 炭化物微量、径 10 ～ 50mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

P16554

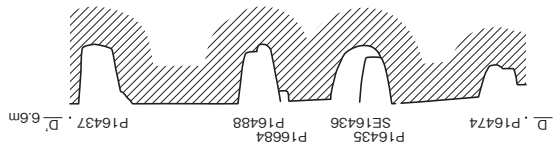


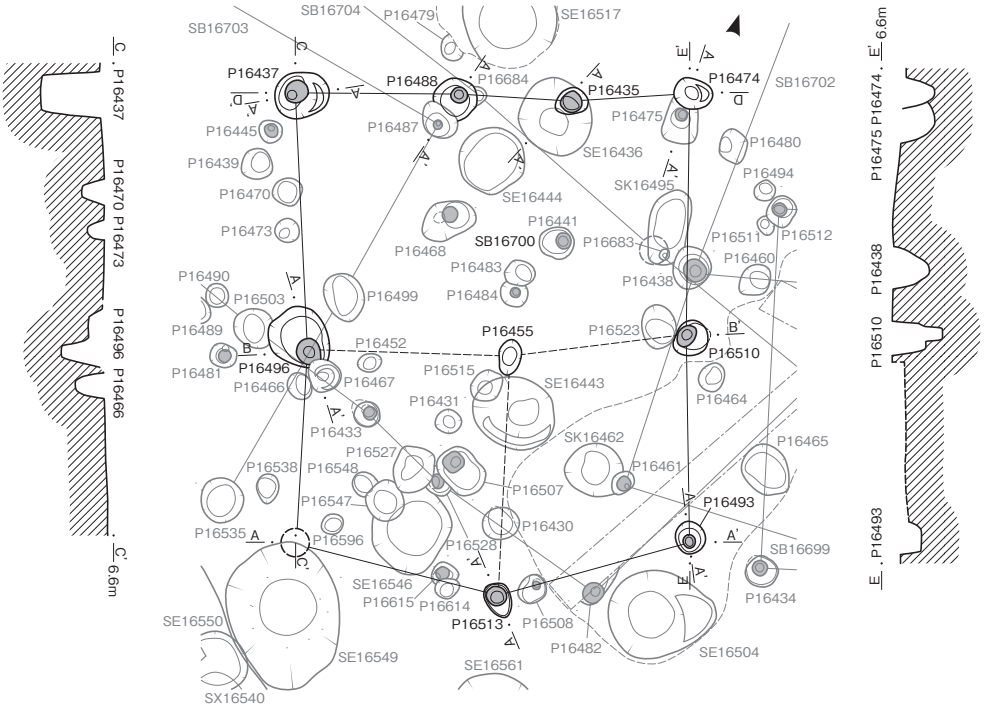
P16554
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。

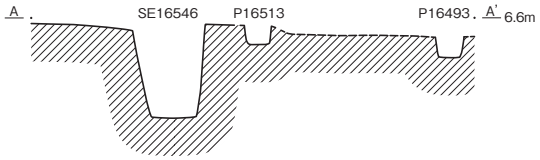
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

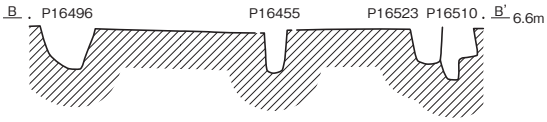
0　断面図（1:40）　2m

SB16700

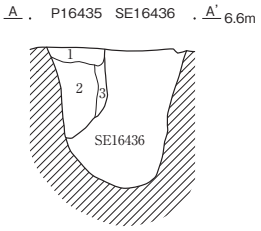






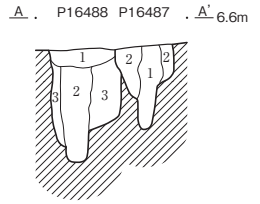


P16435



P16435
1 褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分・マンガン多量含む。
2 褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
3 褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

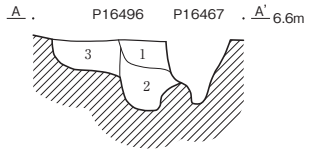
P16487・P16488



P16487
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

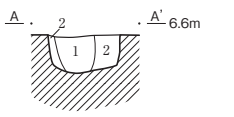
P16488
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 10cm 地山ブロック少量、鉄分含む。

P16496・P16467



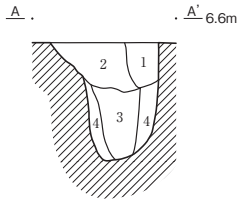
P16496
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 15 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分含む。抜き取り痕か。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量含む。抜き取り痕か。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 3 ～ 7mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。

P16513



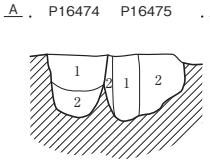
P16513
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。

P16437



P16437
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量含む。別のピットか。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。抜き取り痕か。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
4 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。

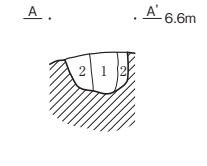
P16474・P16475



P16474
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
2 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。

P16475
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

P16493

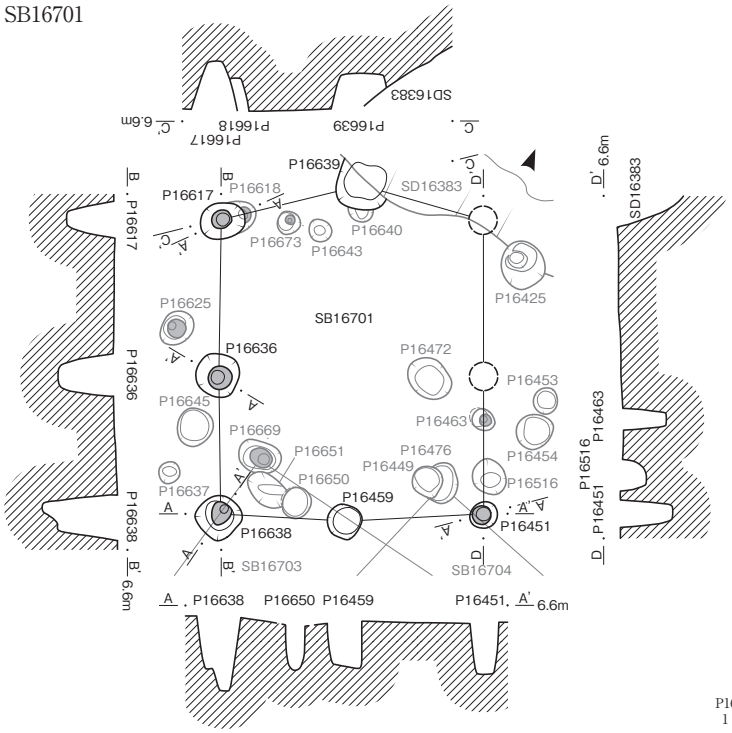


P16493
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 灰色土ブロック中量含む。柱痕。
2 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

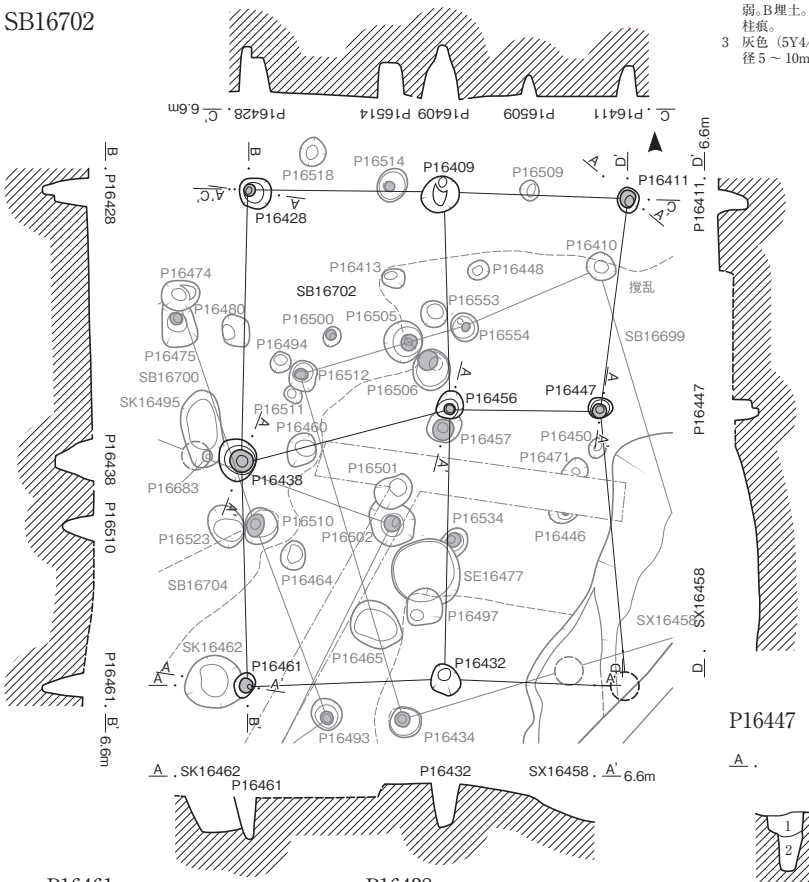
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

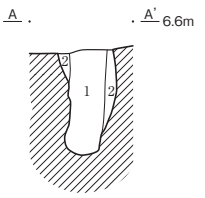
SB16701



SB16702

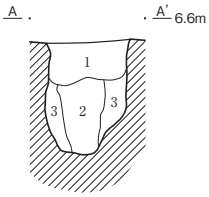


P16451



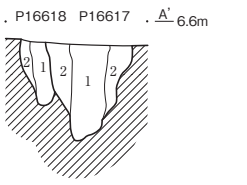
P16451
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16636



P16636
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B埋土。径5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

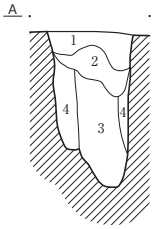
P16617・P16618



P16617
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。

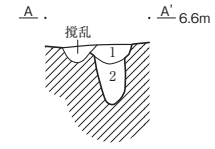
P16618
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16638



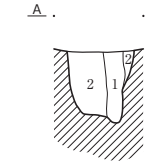
P16638
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B埋土。径1～7mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
4 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。

P16411



P16411
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。鉄分含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。柱痕。

P16428

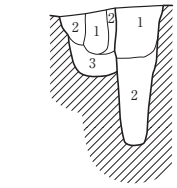


P16428
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 10 ～ 50mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

P16447

P16447
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。

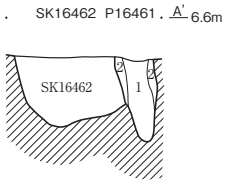
P16456・P16457



P16456
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量含む。
3 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。鉄分含む。

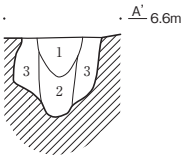
P16457
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。柱痕。

P16461



P16461
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

P16438

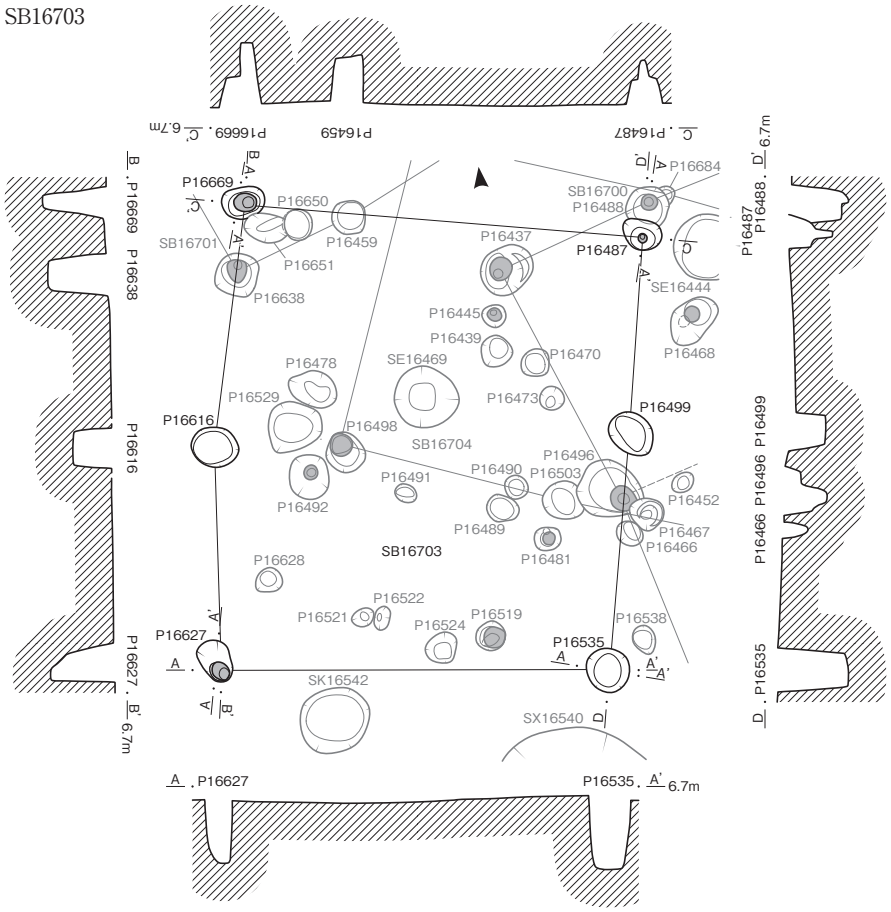


P16438
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量含む。

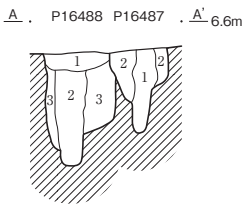
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16703



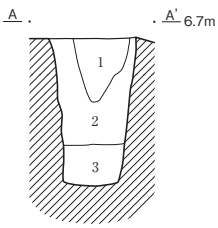
P16487・P16488



P16487
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

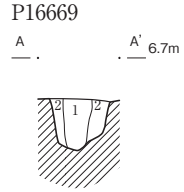
P16488
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 10cm 地山ブロック少量、鉄分含む。

P16535



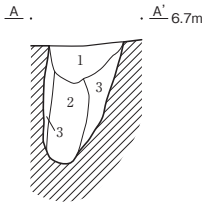
P16535
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
2　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。

P16669



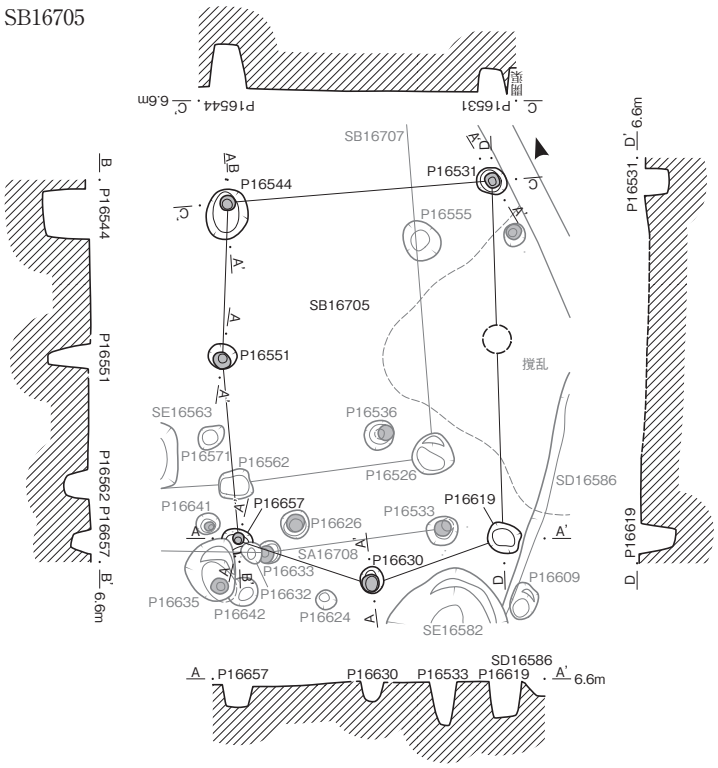
P16669
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16627

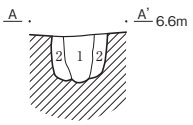


P16627
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。柱痕。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SB16705

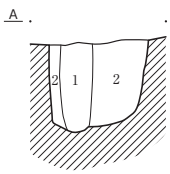


P16531



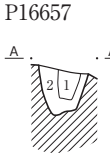
P16531
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）シルト　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量、径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

P16544



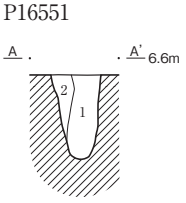
P16544
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、径 10 ～ 50mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

P16657



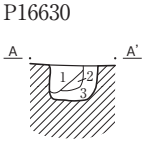
P16657
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量、鉄分含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16551



P16551
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分含む。

P16630

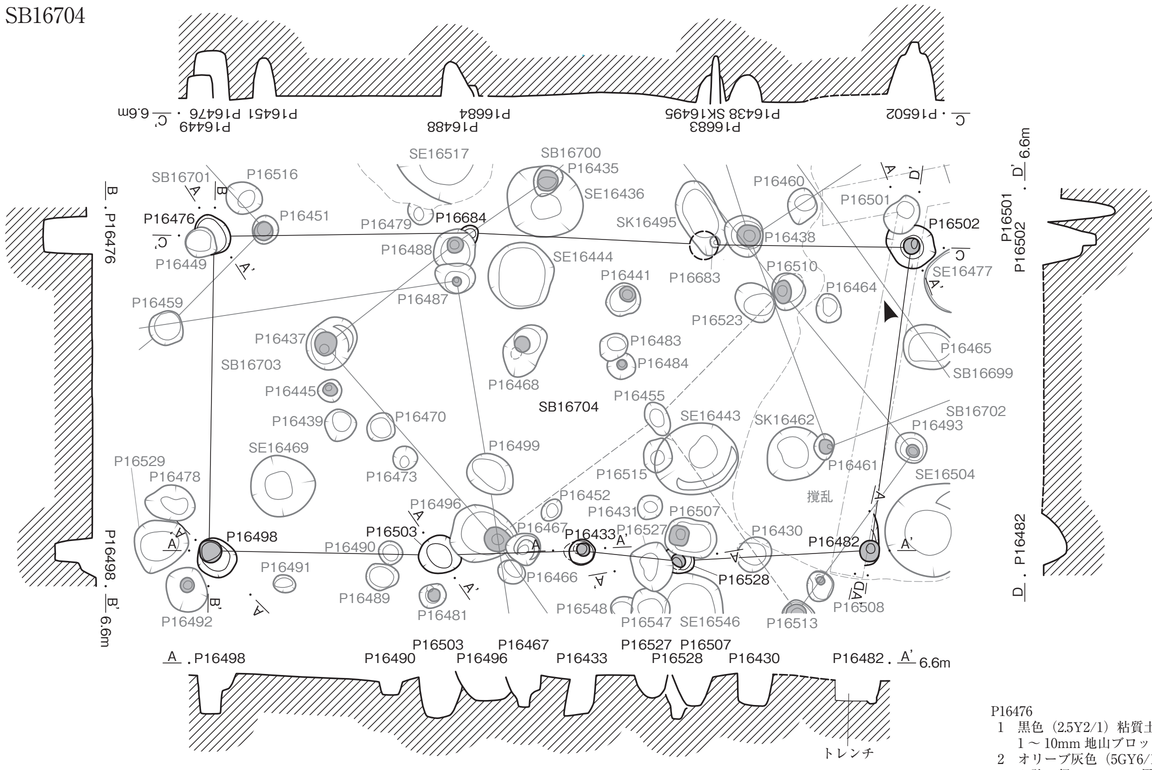


P16630
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量含む。

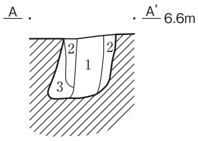
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

SB16704

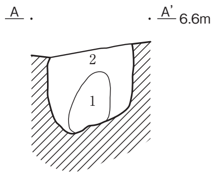


P16433



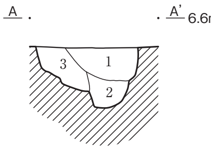
P16433
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 20mm 灰色土ブロック少量含む。

P16476



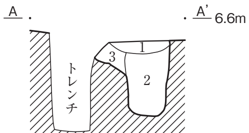
P16476
1　黒色（2.5Y2/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕か。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量、鉄分含む。

P16482



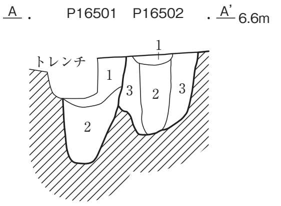
P16482
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分含む。抜き取り痕か。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。

P16498



P16498
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量、鉄分含む。撹乱か。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。

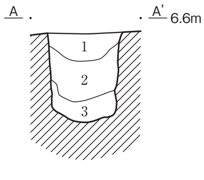
P16501・P16502



P16501
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。

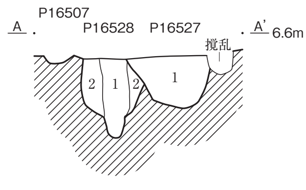
P16502
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。撹乱か。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

P16503



P16503
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 30mm 黄灰色土ブロック多量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

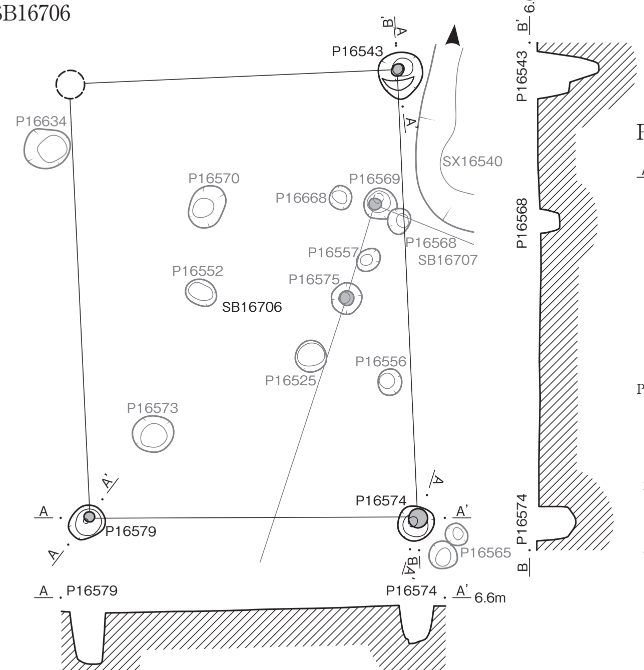
P16527・P16528



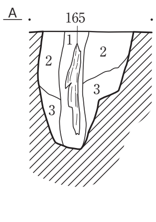
P16527
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物微量、径 5 ～ 50mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

P16528
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

SB16706

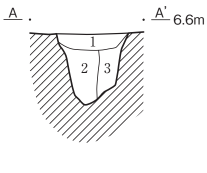


P16543



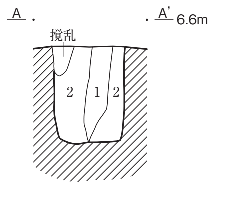
P16543
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱根（165）検出。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 7mm 黒褐色土ブロック微量含む。

P16574



P16574
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分含む。抜き取り痕か。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 10mm 黒色土ブロック微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 3 ～ 10mm 黒色土ブロック少量、鉄分含む。

P16579

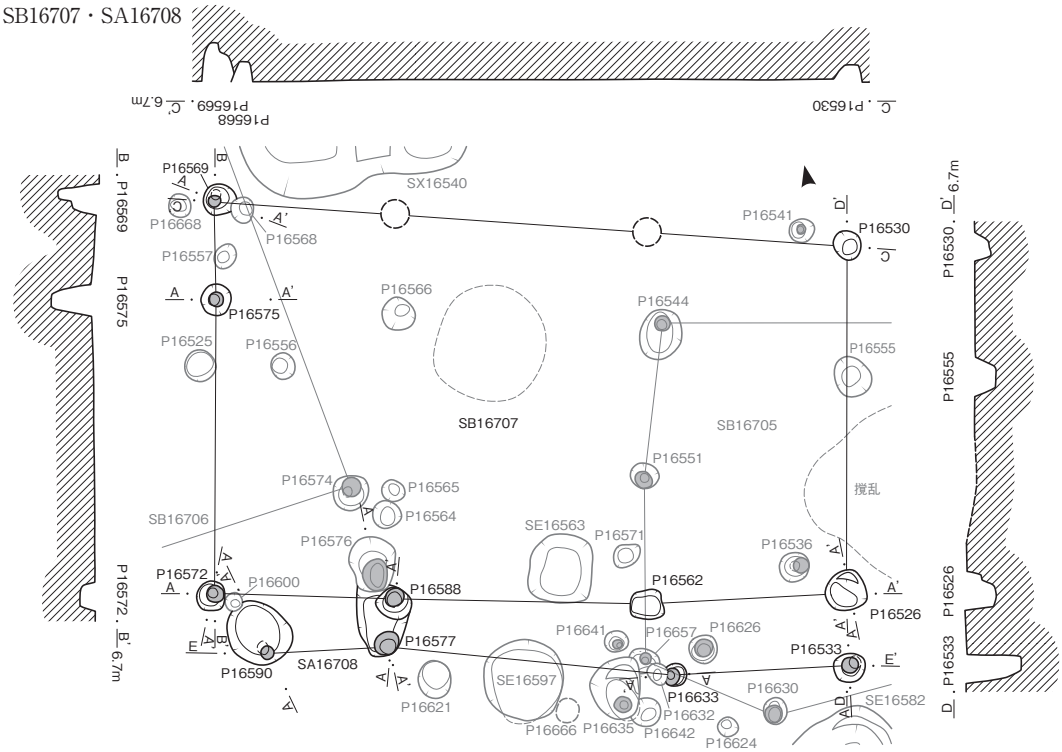


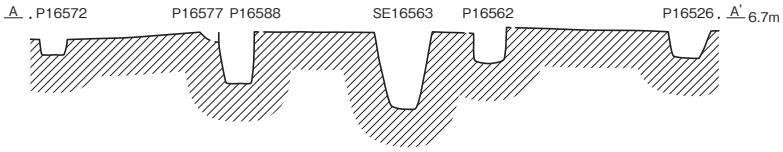
P16579
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量含む。柱痕。
2　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 黄灰色土ブロック少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。

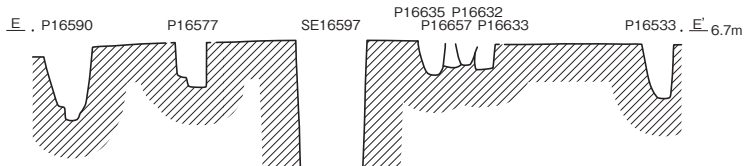
0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

0　断面図（1:40）　2m

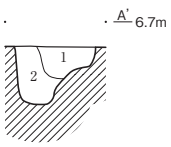
SB16707・SA16708





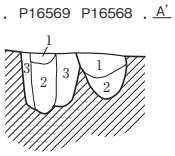


P16526



P16526
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分多量含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分多量含む。

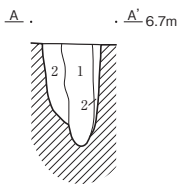
P16568・P16569



P16568
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量含む。

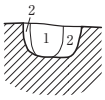
P16569
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 黒色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
3 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 15 ～ 30mm 黄灰色土ブロック中量、径 1 ～ 10mm 黒色土ブロック少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

P16533



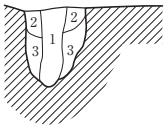
P16533
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）シルト　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

P16572



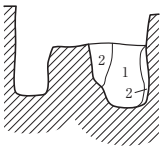
P16572
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

P16575



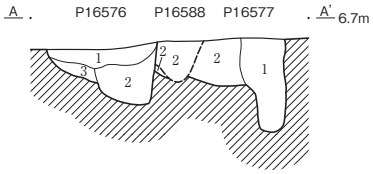
P16575
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量、鉄分含む。柱痕。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
3 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。

P16577・P16588



P16588
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。

P16576・P16577・P16588

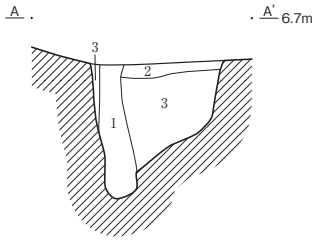


P16576
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。

P16577
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量、鉄分含む。

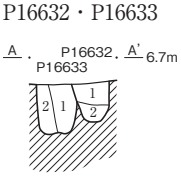
P16588
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。

P16590



P16590
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量、径 10 ～ 20mm 黒色土ブロック少量、鉄分含む。

P16632・P16633



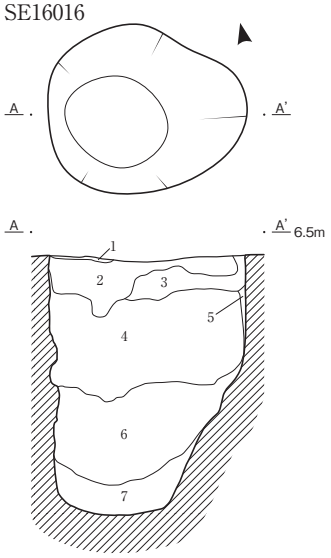
P16632
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック中量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

P16633
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分含む。柱痕。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

0　平面図・エレベーション図（1:80）　4m

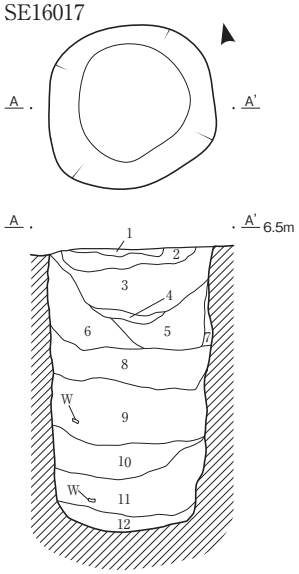
0　断面図（1:40）　2m

SE16016



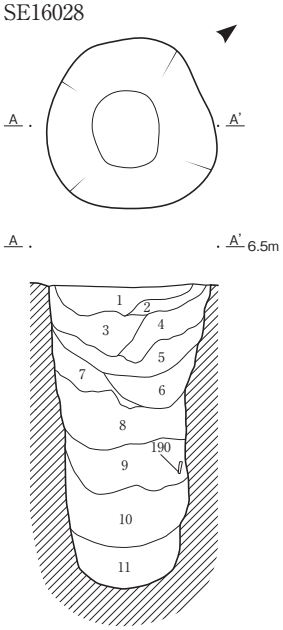
SE16016
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 15mm 地山ブロック少量、径 1 ～ 3mm 炭化物微量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 20 ～ 50mm 地山ブロック多量、径 5 ～ 10mm 炭化物少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 地山ブロック多量、径 3 ～ 5mm 炭化物微量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 3 ～ 10mm 地山ブロック中量、径 1 ～ 3mm 炭化物少量含む。木製品出土。
5　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。腐植物含む。木製品出土。
7　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 炭化物微量含む。

SE16017



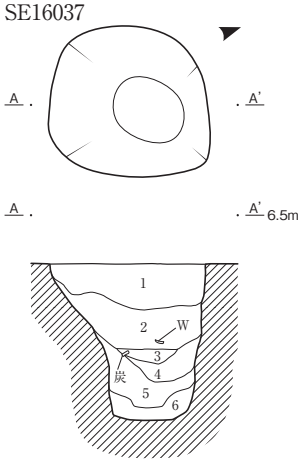
SE16017
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 20mm 炭化物多量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 2 ～ 10mm 炭化物少量、径 10 ～ 80mm 地山ブロック多量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物少量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。炭化物多量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。
7　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
8　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。径 50 ～ 70mm 地山ブロック少量含む。木製品少量出土。
9　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量、腐植物中量含む。木製品多量出土。
10　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。径 10 ～ 100mm 地山ブロック多量含む。木製品多量出土。
11　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。木製品多量出土。
12　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。黒褐色土ブロック少量含む。

SE16028



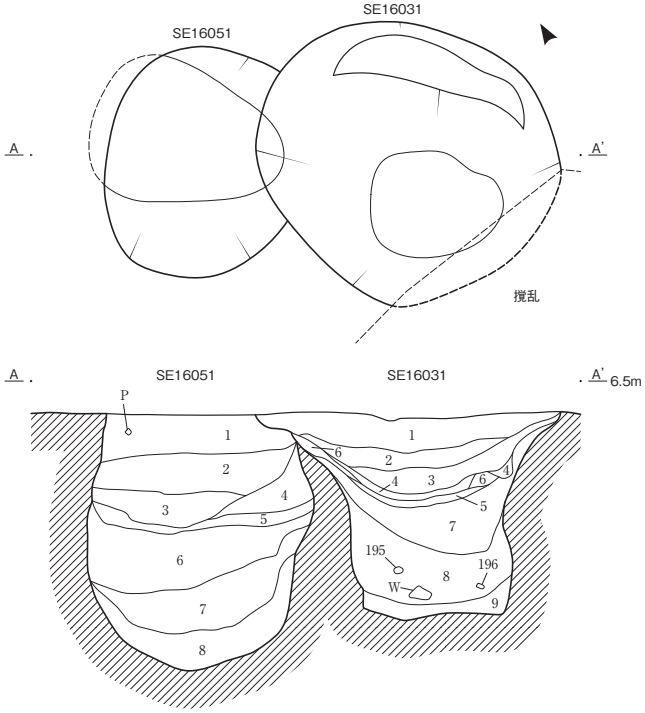
SE16028
1　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 3 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。
2　灰オリーブ色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 灰色土ブロック少量、鉄分多量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 2 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 2 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。炭化物多量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。炭化物多量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
7　緑灰色（10GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量含む。
8　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。炭化物多量、径 10 ～ 80mm 地山ブロック多量含む。
9　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。炭化物中量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物多量含む。木製品出土。
10　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量、腐植物中量含む。木製品出土。
11　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。黒褐色土ブロック少量含む。

SE16037



SE16037
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 20mm 地山ブロック中量、径 2 ～ 5mm 炭化物少量、鉄分多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 2 ～ 30mm 地山ブロック多量、径 2 ～ 5mm 炭化物中量含む。木製品含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 3mm 地山ブロック少量、径 1mm 炭化物微量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 3 ～ 5mm 地山ブロック中量、径 5mm 黒褐色土ブロック少量含む。
5　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量、径 2 ～ 5mm 黒褐色土ブロック中量含む。木製品含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 2mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SE16031・SE16051

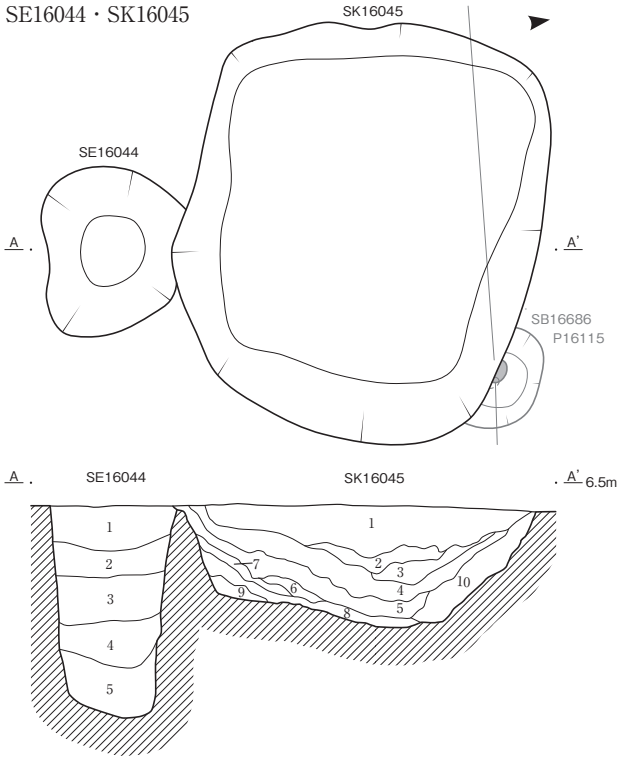


SE16051
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 7mm 炭化物微量、鉄分少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 7mm 炭化物微量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）シルト　粘性やや強、しまりやや強。黒褐色土筋状にまざる。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 7mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
6　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり弱。壁際径 50mm 大の地山ブロックまざる。
7　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 炭化物中量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
8　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。灰色土ブロック中量含む。

SE16031
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物多量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 5mm 炭化物多量含む。
4　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。径 2 ～ 5mm 炭化物多量含む。
5　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土　粘性やや弱、しまりやや弱。径 3mm 地山ブロック少量含む。木片出土。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 3mm 炭化物微量含む。
7　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや弱、しまり弱。A 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
8　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや弱、しまり弱。A 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物多量、径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
9　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。ほぼ地山土だが、周囲の地山に比べ粘性が高い。

0　(1:40)　2m

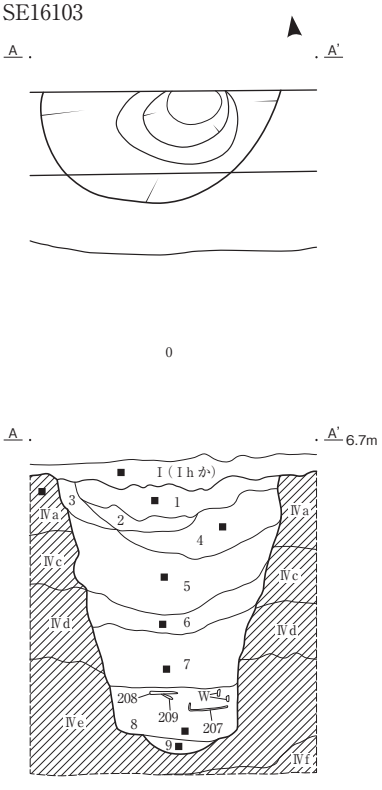
SE16044・SK16045



SE16044
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 5mm 炭化物少量、径 3 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。径 20 ～ 40mm 地山ブロック多量含む。非常にボロボロとしまりのない土。
4　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 10mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 30 ～ 50mm の 4 層ブロック少量含む。

SK16045
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 20mm 地山ブロック多量、鉄分多量、径 2mm 炭化物少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 2 ～ 3mm 地山ブロック少量、径 5mm の 4 層ブロック多量含む。
3　灰色（7.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 10 ～ 20mm の 4 層ブロック少量含む。
4　オリーブ黒色（5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 2 ～ 10mm 炭化物多量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分少量含む。
5　オリーブ黒色（5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量、径 2 ～ 3mm 炭化物少量含む。
6　オリーブ黒色（5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 2 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
7　灰色（7.5Y4/1）粘質土　粘性やや弱、しまりやや弱。径 10 ～ 30mm の 6 層ブロック少量含む。
8　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや弱、しまり弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物少量、径 2 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
9　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや弱、しまりやや弱。B 埋土。径 10mm の 8 層ブロック少量、径 5mm 地山ブロック少量含む。
10　灰色（7.5Y4/1）粘質土　粘性やや弱、しまりやや強。径 3 ～ 5mm 地山ブロック多量、径 1 ～ 2mm 炭化物微量含む。

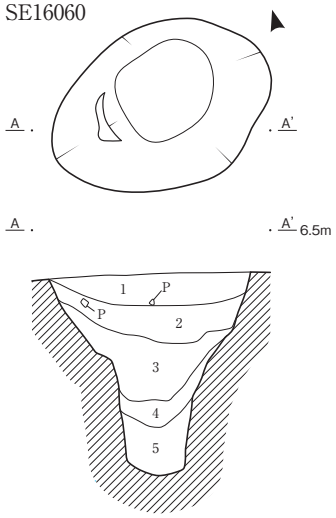
SE16103



SE16103
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック中量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 15 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。土器出土。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分多量含む。
7　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。土器出土。
8　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。腐植物多量含む。木製品多量出土。
9　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。

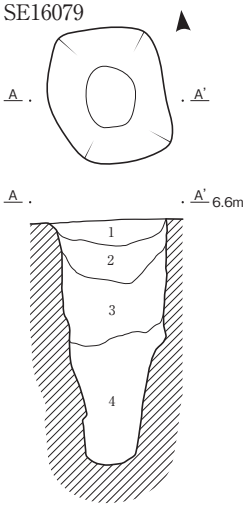
■ 土壌サンプル採取か所

SE16060



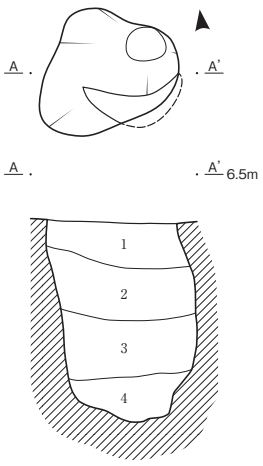
SE16060
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 15mm 炭化物少量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 2mm 炭化物少量、径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分多量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量、径 3 ～ 5mm 炭化物中量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 30 ～ 50mm 地山ブロック多量、径 3mm 炭化物少量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 10mm 地山ブロック少量含む。

SE16079



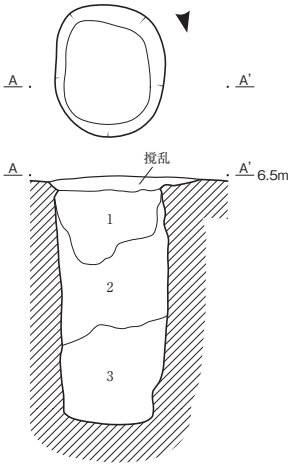
SE16079
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 炭化物少量、径 3 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 10 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。底面付近腐植物中量含む。

SE16087



SE16087
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量含む、径 1 ～ 3mm 地山ブロック中量、鉄分多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック中量、径 2 ～ 3mm 炭化物少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
4　黒色（10YR2/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 5mm 地山ブロック中量含む。植物遺体多量含む。

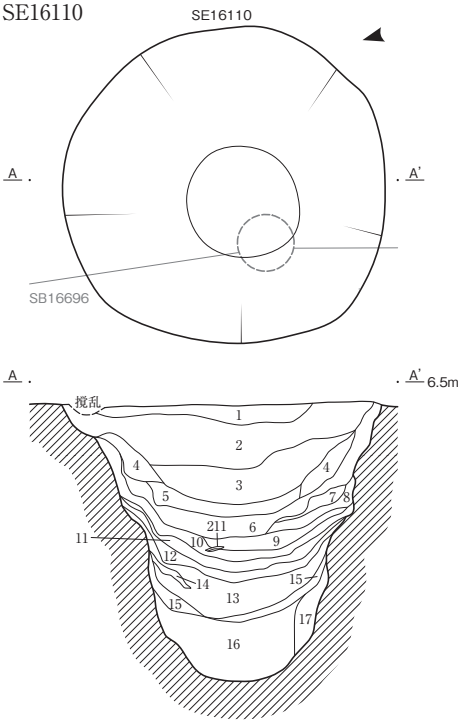
SE16100



SE16100
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや弱、しまりやや弱。A 埋土。厚 15 ～ 20mm 地山土筋状にまざる。腐植物多量含む。

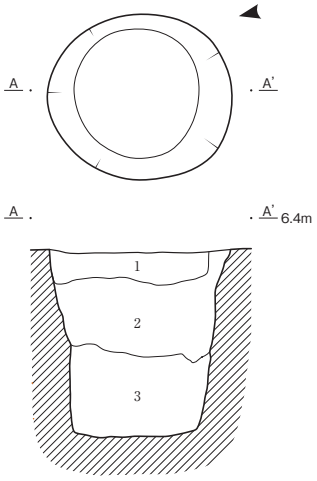
0　(1:40)　2m

SE16110



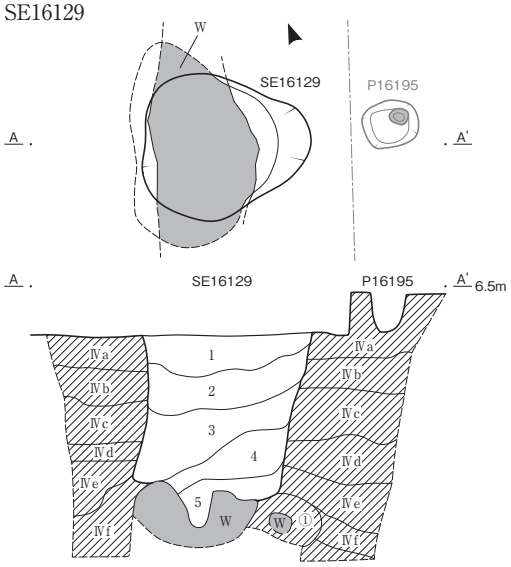
SE16110
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む、鉄分多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 5mm 炭化物少量、径 2 ～ 3mm 地山ブロック微量、鉄分多量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 5mm 炭化物少量含む（1・2 と土色同じだが、土質はしっとりしている）。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 10mm 地山ブロック多量、鉄分中量含む。
5　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 3mm 炭化物微量、径 2 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
6　褐灰色(10YR4/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 2 ～ 30mm 地山ブロック多量、径 2mm 炭化物微量、径 3 ～ 5mm の 3 層ブロック中量含む。
7　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量、径 2mm 炭化物微量含む。
8　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 10mm 地山ブロック多量、径 5mm の 3 層ブロック中量含む。
9　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
10　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 3 ～ 10mm の 3 層ブロック少量含む。
11　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。径 2 ～ 5mm 地山ブロック少量、径 2 ～ 3mm の 3 層ブロック少量含む。
12　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。径 10mm 地山ブロック多量、径 3mm の 3 層ブロック少量含む。
13　黒褐色(10YR3/1)粘質土　粘性やや弱、しまり弱。A 埋土。径 5mm 地山ブロック微量含む。
14　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 3mm の 13 層ブロック少量含む。
15　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや弱、しまり弱。径 3 ～ 5mm の 13 層ブロック少量含む。
16　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや弱、しまり弱。B 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
17　オリーブ灰色(5GY6/1)粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5mm の 16 層ブロック少量含む。

SE16127



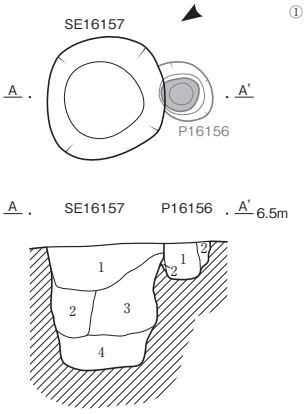
SE16127
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 2 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 2 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 3 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SE16129



SE16129
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
4　黒褐色（10YR3/2）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。腐植物層。石製品出土。
5　黒褐色（10YR3/2）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
①　灰黄色(2.5Y6/2)粘質土　粘性強、しまりやや弱。周囲の地山に似るが、自然木の腐食の影響のためか、やや褐色を帯びる。

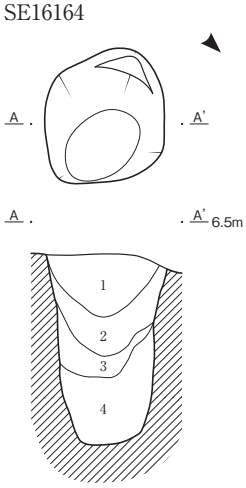
SE16157



SE16157
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 褐灰色土ブロック少量含む。

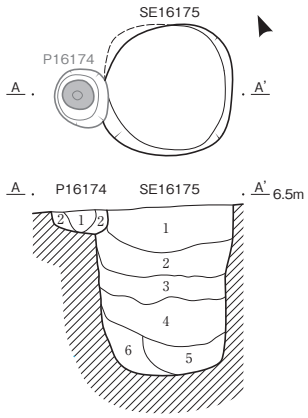
P16156
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物多量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。掘方。

SE16164



SE16164
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
4　黒色（10YR2/1）シルト　粘性やや弱、しまり弱。A 埋土。炭化した腐植物層。

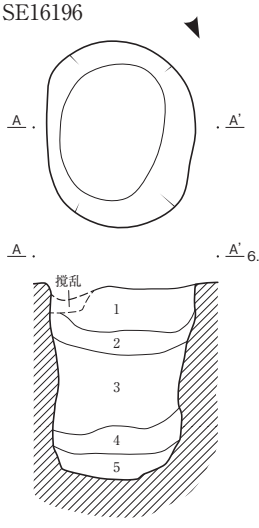
SE16175



SE16175
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分多量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり弱。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック微量、腐植物多量含む。
6　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。

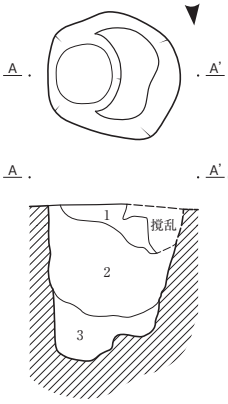
P16174
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。

SE16196



SE16196
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 5 ～ 30mm 黄灰色土ブロック多量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物筋状に少量、腐植物少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック中量含む。

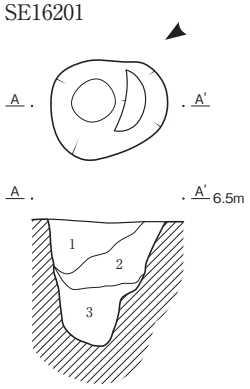
SE16199



SE16199
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

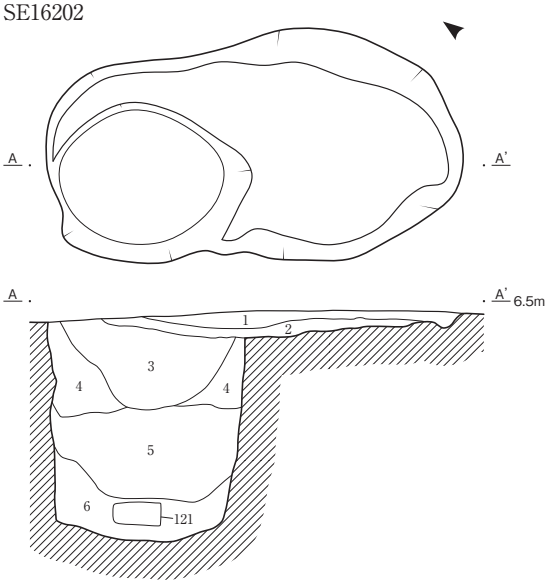
0　(1:40)　2m

SE16201



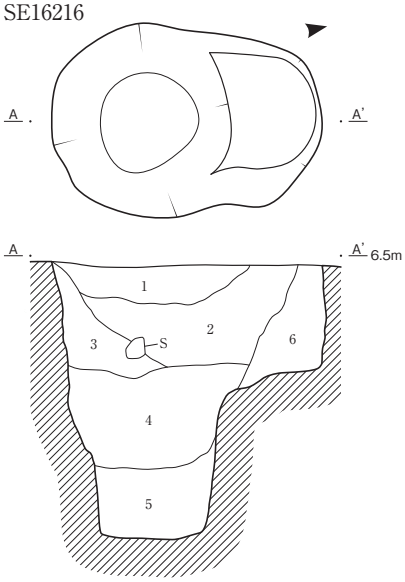
SE16201
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 15 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量含む。

SE16202



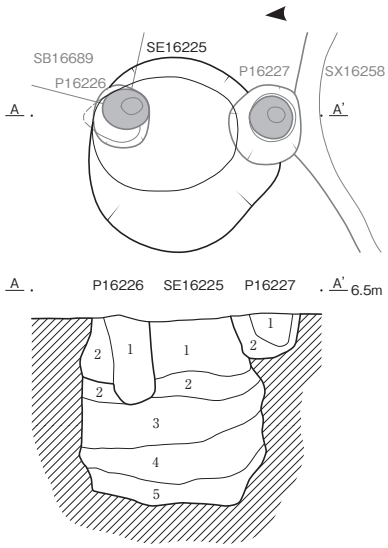
SE16202
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。やや砂っぽい。径 1 ～ 10mm 炭化物中量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量、10YR4/3 ～ 3/3 暗褐色土ブロック、白～褐色砂含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
5　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 20 ～ 60mm 地山ブロック中量、腐植物多量含む。木製品出土。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量、腐植物少量含む。

SE16216



SE16216
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 3 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 15 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 15 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
5　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。
6　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

SE16225

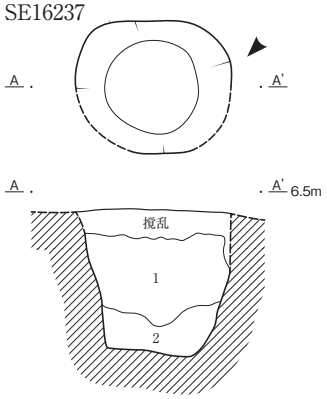


P16226
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック中量含む。柱痕。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。

SE16225
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック中量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 20 ～ 50mm 黒褐色土ブロック多量含む。
5　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 30 ～ 50mm 黒褐色土ブロック少量、径 20 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。

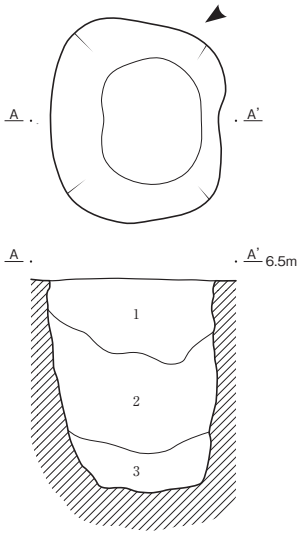
P16227
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 3 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 50mm 地山ブロック多量含む。

SE16237



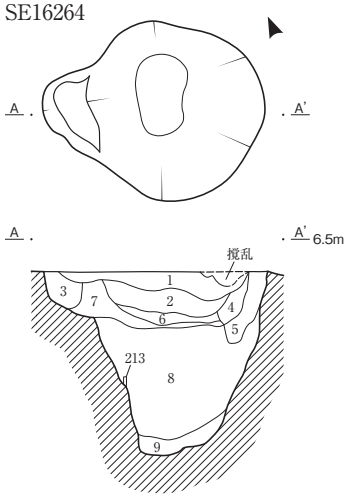
SE16237
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。

SE16261



SE16261
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 50mm 黒褐色土ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 5 ～ 70mm 地山ブロック多量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

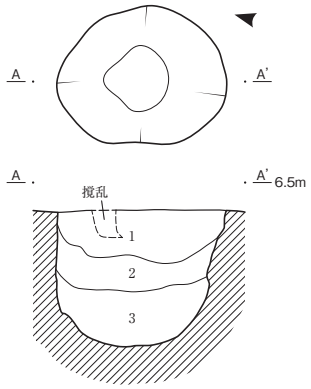
SE16264



SE16264
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。撹乱または別遺構か。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。別遺構か。
3　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。焼土粒微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック微量含む。撹乱またはピットか。
4　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。ピットか。
5　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。ピットか。
6　黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。焼土粒、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
7　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 20mm 褐灰色土ブロック少量含む。
8　黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。焼土粒、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
9　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり弱。

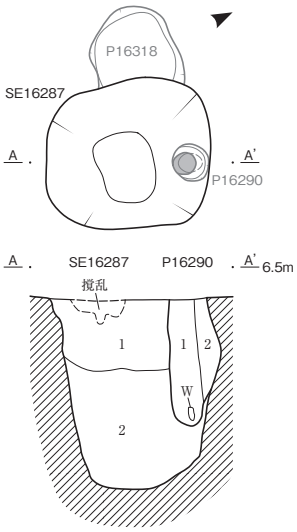
0　(1:40)　2m

SE16272



SE16272
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量、鉄分、マンガン斑多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量、鉄分、マンガン斑含む。
3　黒色（10YR2/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量、鉄分少量含む。

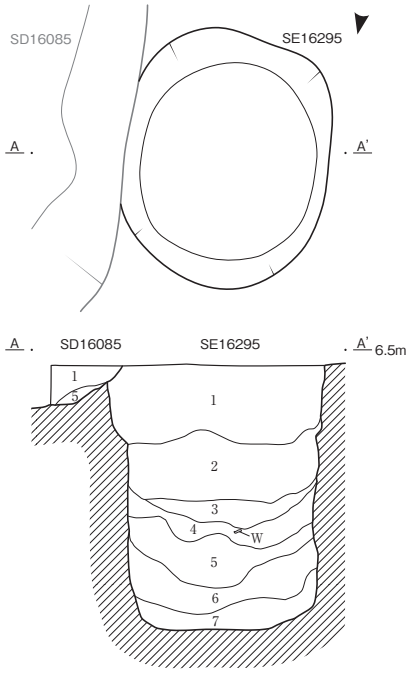
SE16287



SE16287
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16290
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。柱材の一部と思われる木片出土。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量含む。

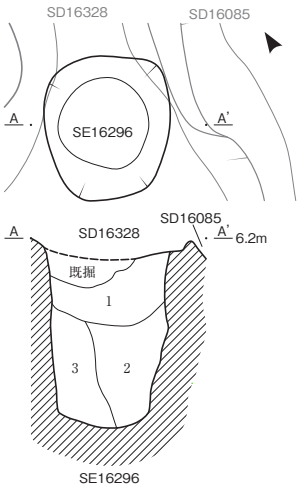
SE16295



SE16295
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物中量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
3　暗褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱、しまり弱。腐植物多量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 30 ～ 60mm 地山ブロック中量含む。木製品出土。
5　暗褐色（10YR3/2）シルト　粘性やや弱、しまり弱。腐植物多量含む。
6　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
7　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 灰色土ブロック少量含む。

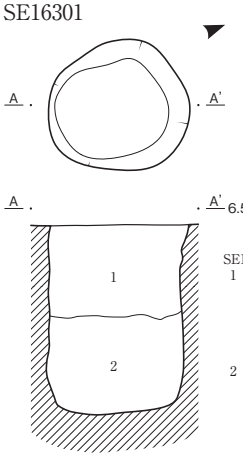
SD16085
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、微細な砂粒、鉄分含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量含む。

SE16296



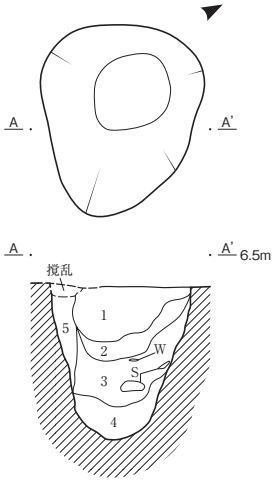
SE16296
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量、腐植物含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。

SE16301



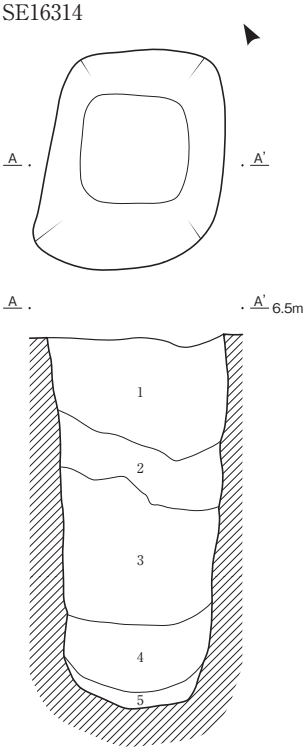
SE16301
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 40mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。

SE16302



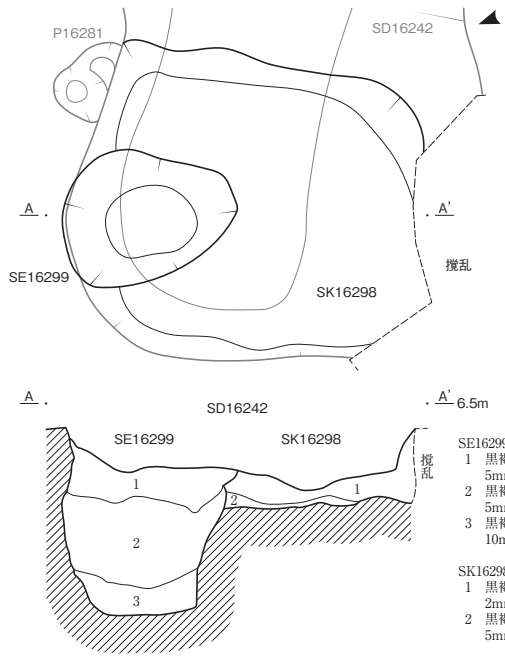
SE16302
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。炭化物筋状、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物多量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。石、木製品出土。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SE16314



SE16314
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。
4　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。
5　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。

SE16299・SK16298

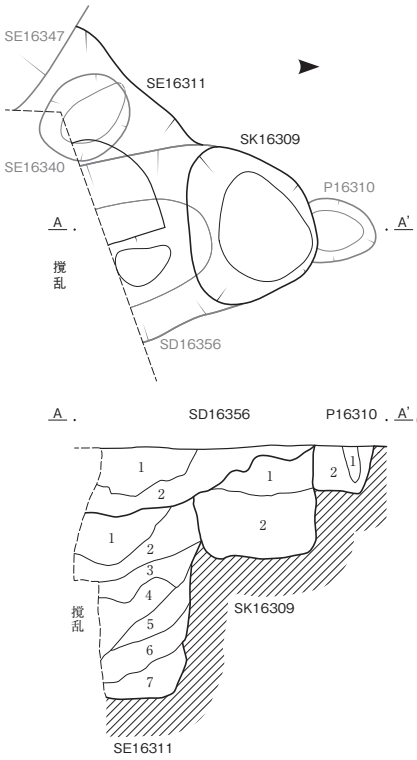


SE16299
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm の炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。

SK16298
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。

0　(1:40)　2m

SE16311・SK16309



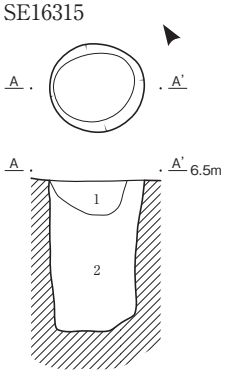
SE16311
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。
4 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 灰色土ブロック多量含む。
5 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。
6 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 灰色土ブロック多量含む。
7 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 10mm 褐色土ブロック少量含む。

SK16309
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

P16310
1 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土　粘性強、しまり弱。B埋土。撹乱または柱痕か。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック多量、鉄分含む。

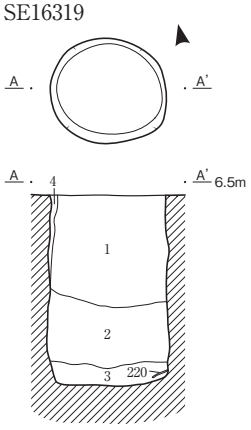
SD16356
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量、径 1 ～ 20mm 炭化物微量含む。SD16383 の 2 層に同じ。

SE16315



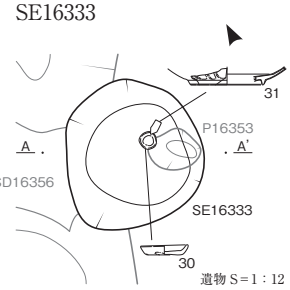
SE16315
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。

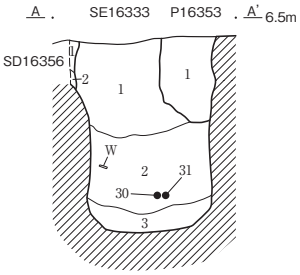
SE16319



SE16319
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック微量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 20 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。木製品出土。
3 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。木製品出土。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量含む。

SE16333

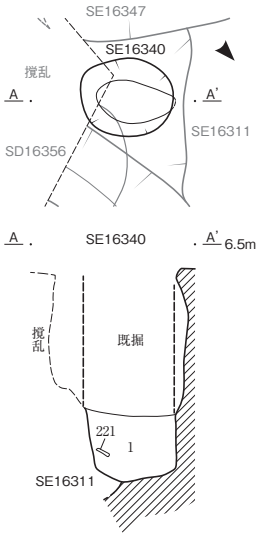




P16353
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。

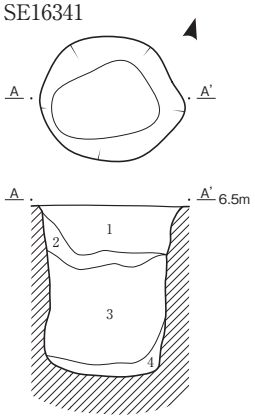
SE16333
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 10 ～ 60mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。土師質土器（30）、青磁（31）が同じレベルで出土。木製品出土。
3 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 30 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。

SE16340



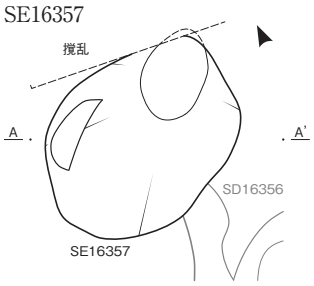
SE16340
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。木製品出土。

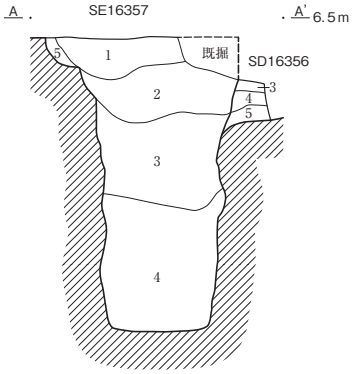
SE16341



SE16341
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。炭化物多量（一部筋状）、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3 黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。
4 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

SE16357

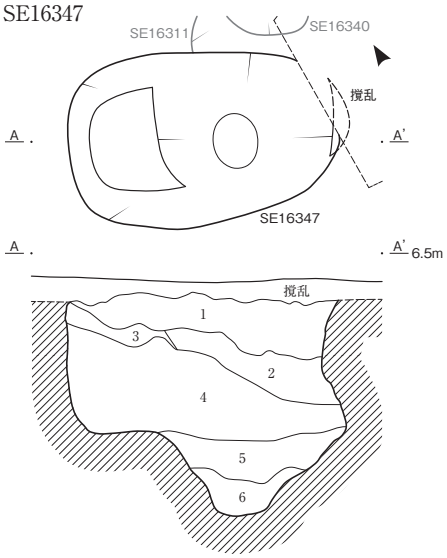




SE16357
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
3 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。
4 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

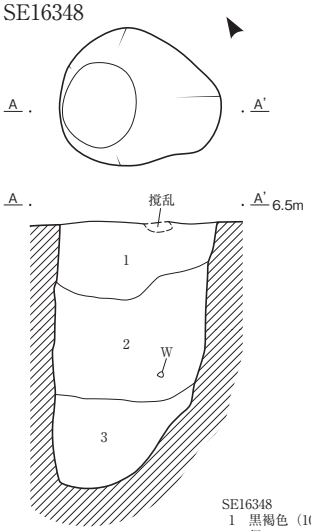
SD16356
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分多量含む。
5 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。SD16383 の 3 層に同じ。

SE16347



SE16347
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。
3 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
4 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
5 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
6 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。

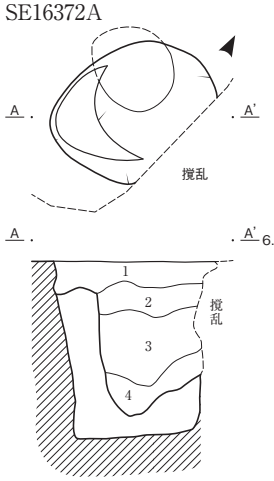
SE16348



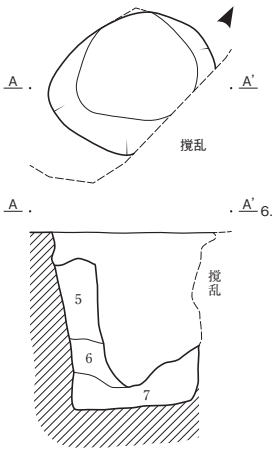
SE16348
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。
3 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。

0　(1:40)　2m

SE16372A



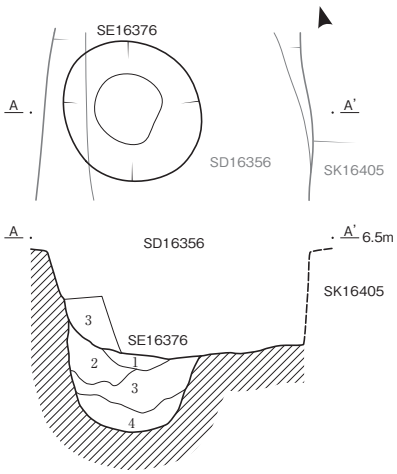
SE16372B



SE16372A
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10cm 大の黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。鉄分含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 灰色土ブロック少量含む。

SE16372B
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量含む。
6　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
7　オリーブ灰色(5GY6/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。径1～10mm灰色土ブロック少量含む。

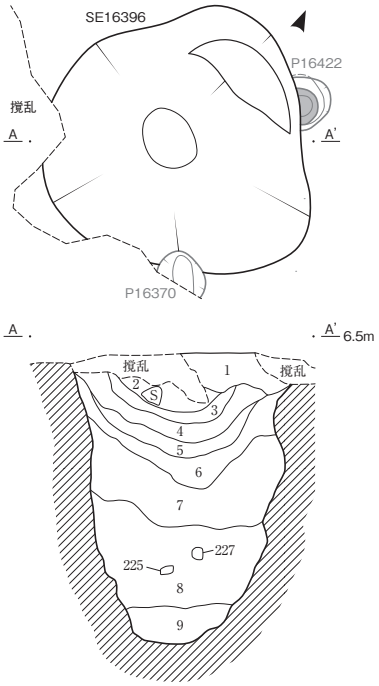
SE16376



SE16376
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

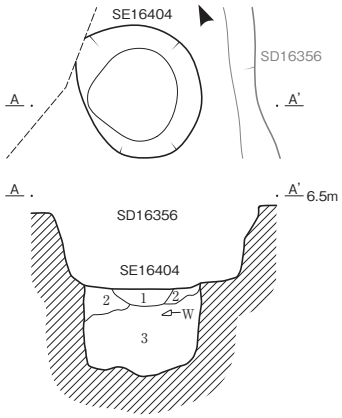
SD16356
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SE16396



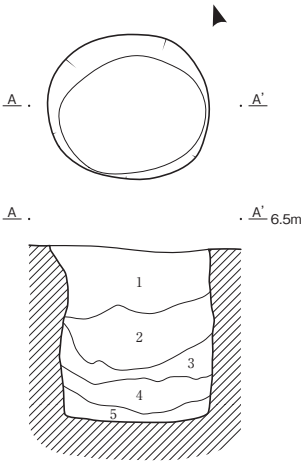
SE16396
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、焼土粒？微量含む。撹乱の影響あり。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、礫含む。撹乱の影響あり。
3　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物多量含む。
4　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック微量含む。
5　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物中量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
6　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。
7　黒褐色(10YR3/1)粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。
8　黒褐色(10YR3/1)粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。石、木製品出土。
9　黒褐色(10YR3/1)粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

SE16404



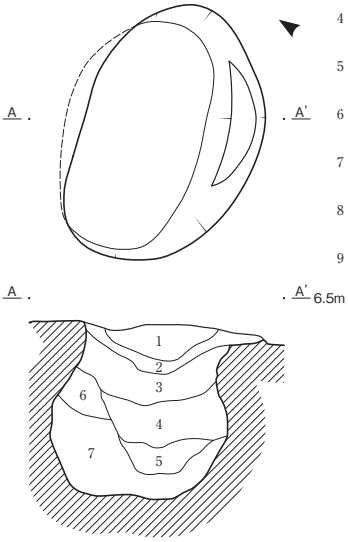
SE16404
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

SE16419



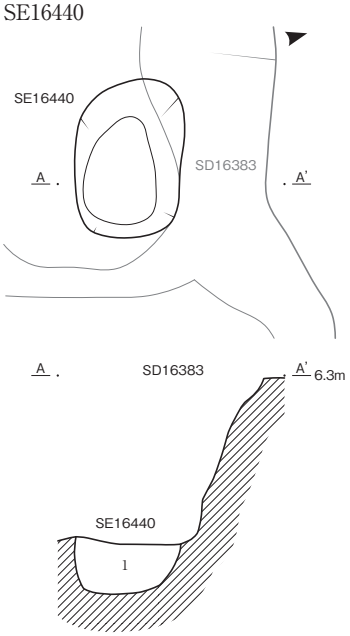
SE16419
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 30mm 黄灰色土ブロック中量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
4　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 灰色土ブロック少量含む。

SE16424



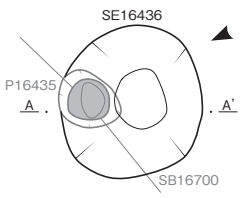
SE16424
1　褐灰色(10YR4/1)粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
2　褐灰色(10YR4/1)粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
5　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 50mm 黒褐色土ブロック中量含む。
7　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 灰色土ブロック少量含む。

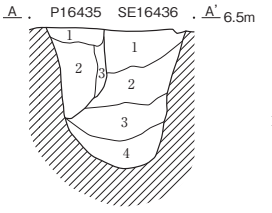
SE16440



SE16440
1　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

SE16436



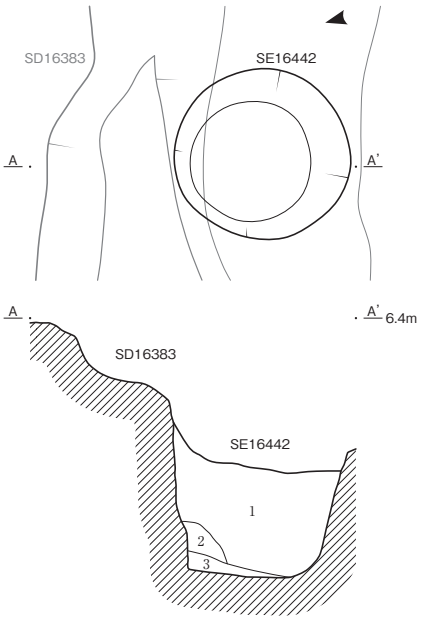


SE16436
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。炭化物多量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
3　黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。
4　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16435
1　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分・マンガン多量含む。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
3　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

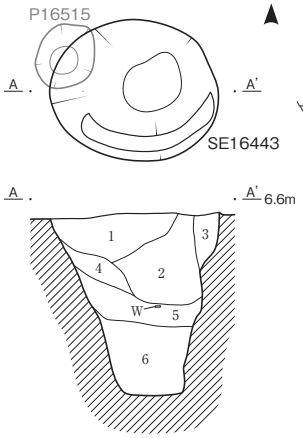
0　(1:40)　2m

SE16442



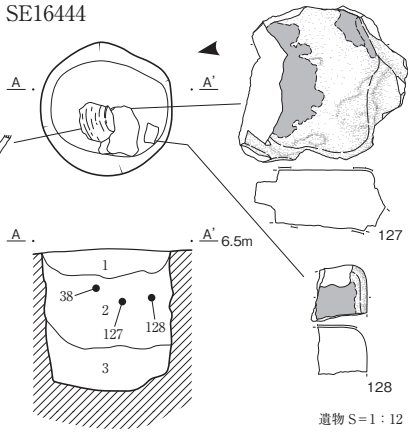
SE16442
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SE16443



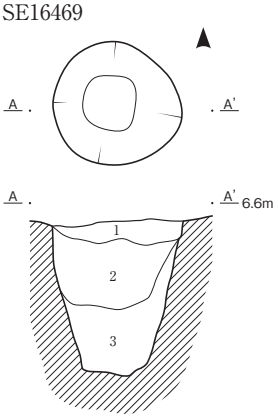
SE16443
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量含む。木製品出土。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SE16444



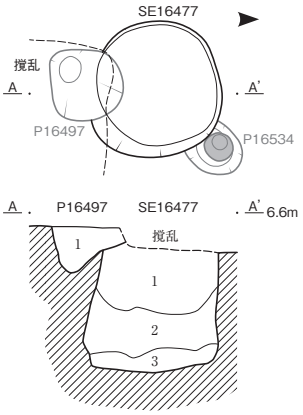
SE16444
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量、マンガン斑・鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。

SE16469



SE16469
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量、マンガン斑多量・鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

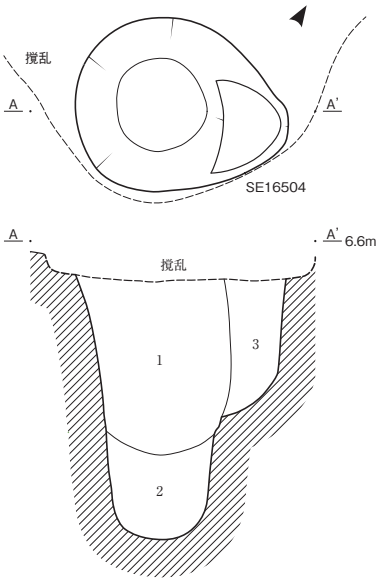
SE16477



SE16477
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。

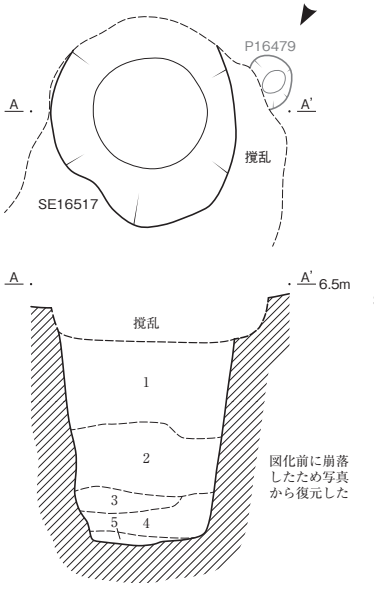
P16497
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm の炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。

SE16504



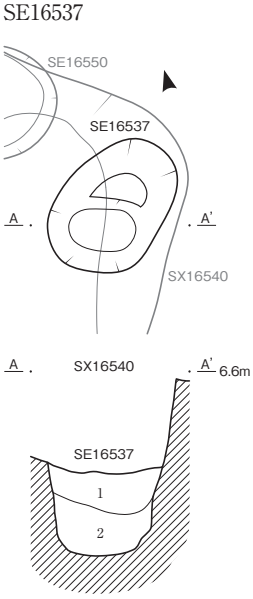
SE16504
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。

SE16517



SE16517
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物筋状に多量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。

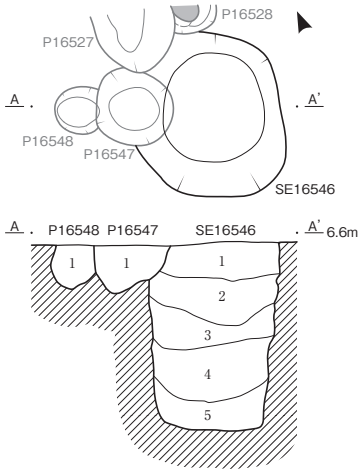
SE16537



SE16537
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 70mm 地山ブロック中量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

0　(1:40)　2m

SE16546

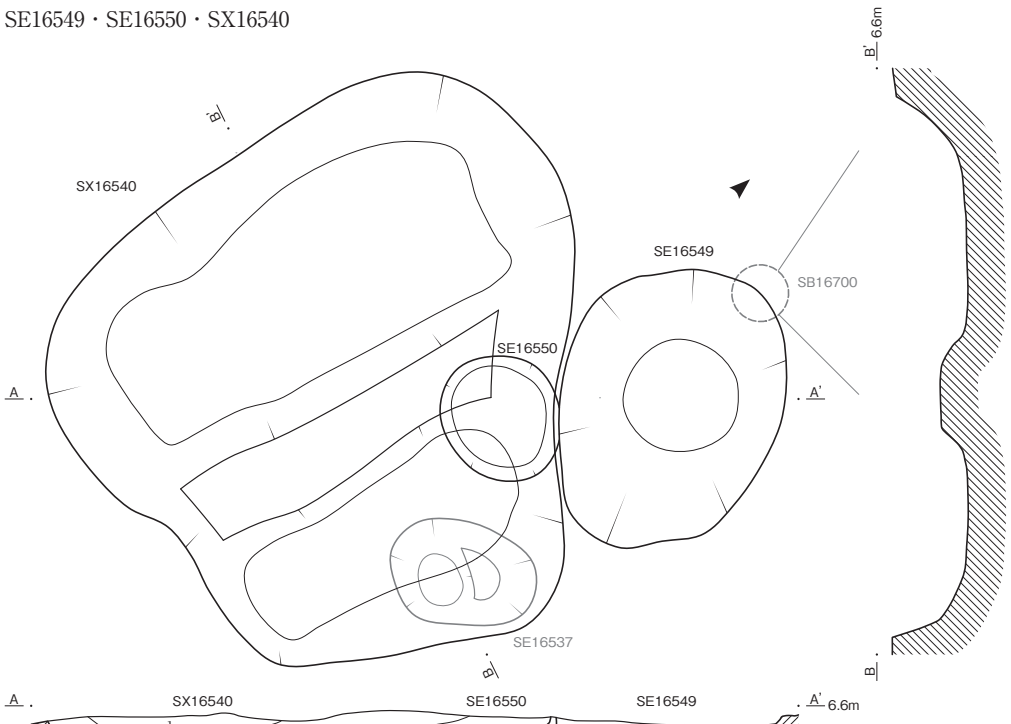


SE16546
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量、マンガン斑・鉄分含む。
2 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径5～50mm黒褐色土ブロック多量､鉄分含む。
4 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16547
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。

P16548
1 黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

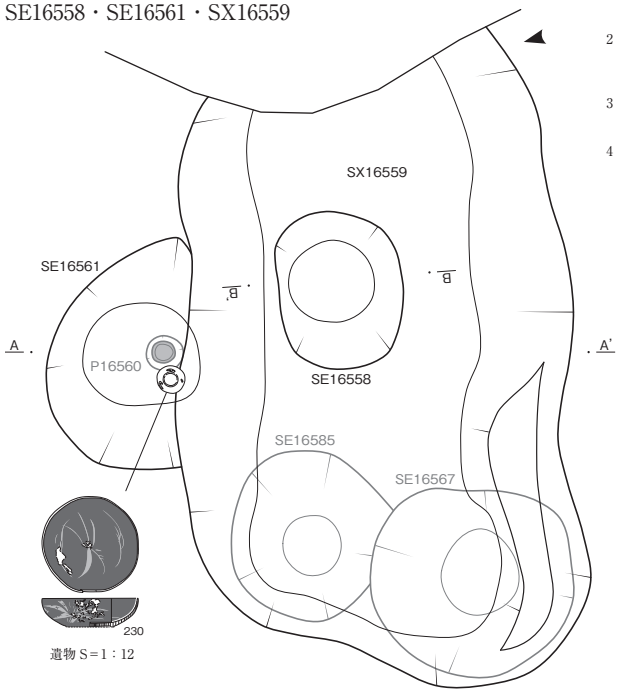
SE16549・SE16550・SX16540



SX16540
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量、鉄分少量含む。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、杭出土。
4 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。

SE16549
1 黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む、木製品出土。
3 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 15mm 炭化物少量含む。木製品出土。
4 灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 10 ～ 15mm 黄灰色土ブロック少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。
5 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。径 1 ～ 5mm 炭化物少量含む。
6 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。

SE16558・SE16561・SX16559

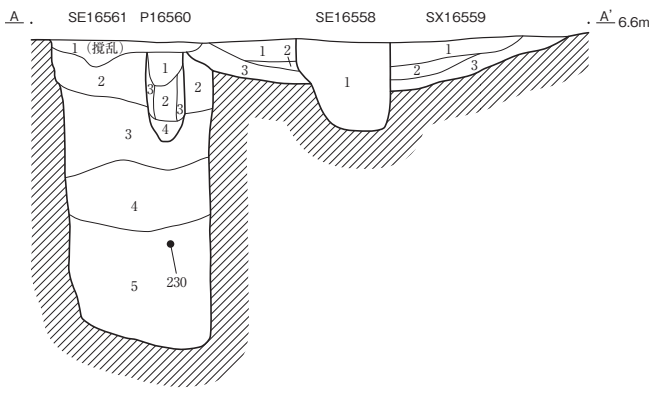


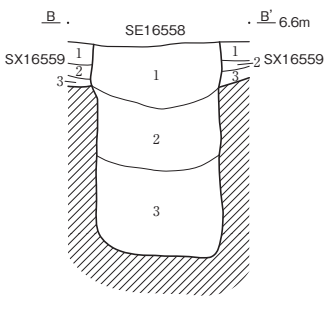
遺物 S＝1：12

SE16550
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。SX16540 の一部か。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 炭化物多量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック多量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 10 ～ 50mm 黒褐色土ブロック多量含む。
4 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。
5 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。径 1 ～ 15mm 地山ブロック微量含む。

SE16558
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物多量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、腐植物少量含む。
2 黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。炭化物層　径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、腐植物中量含む。
3 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SE16561
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。撹乱土。
2 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 50mm 黄灰色土ブロック少量（壁に沿って筋状）、鉄分少量含む。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 40mm 黒褐色土ブロック中量、鉄分多量含む。
4 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10cm 大の地山ブロック多量含む。
5 灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。漆器椀（230）出土。



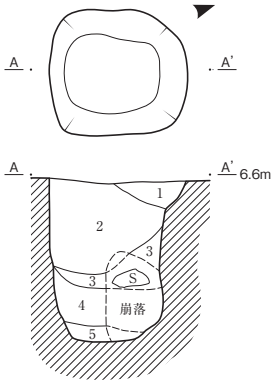


SX16559
1 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
2 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

P16560
1 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
3 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック多量含む。
4 オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

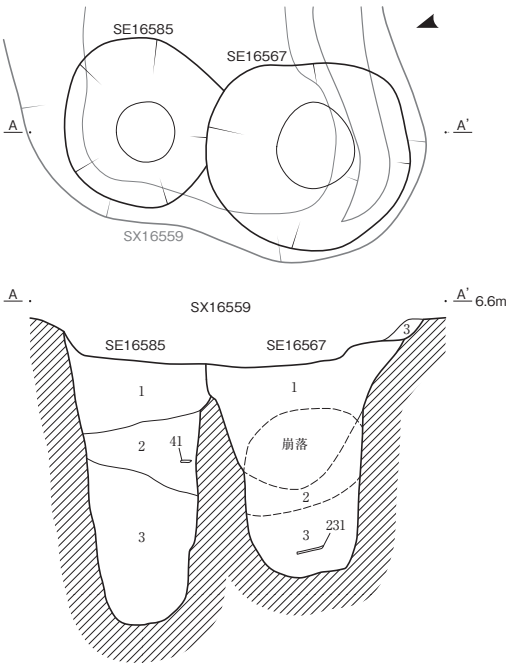
0　(1:40)　2m

SE16563



SE16563
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量、マンガン斑・鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量、マンガン斑・鉄分含む。礫出土。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
5　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。

SE16567・SE16585

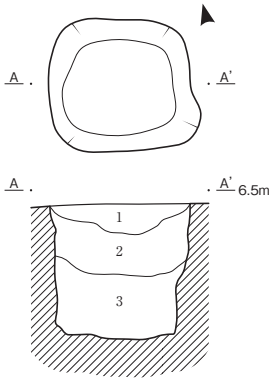


SE16567
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック中量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。木製品出土。

SE16585
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒色（10YR2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。炭化物層。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。

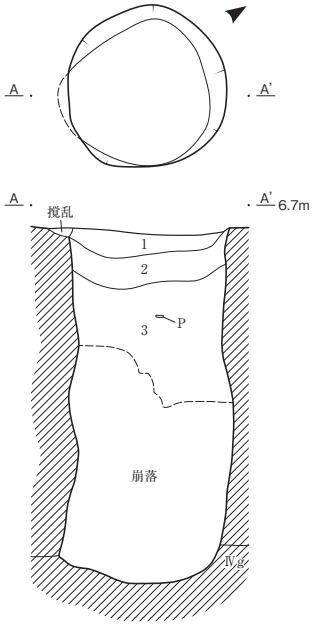
SX16559
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

SE16592



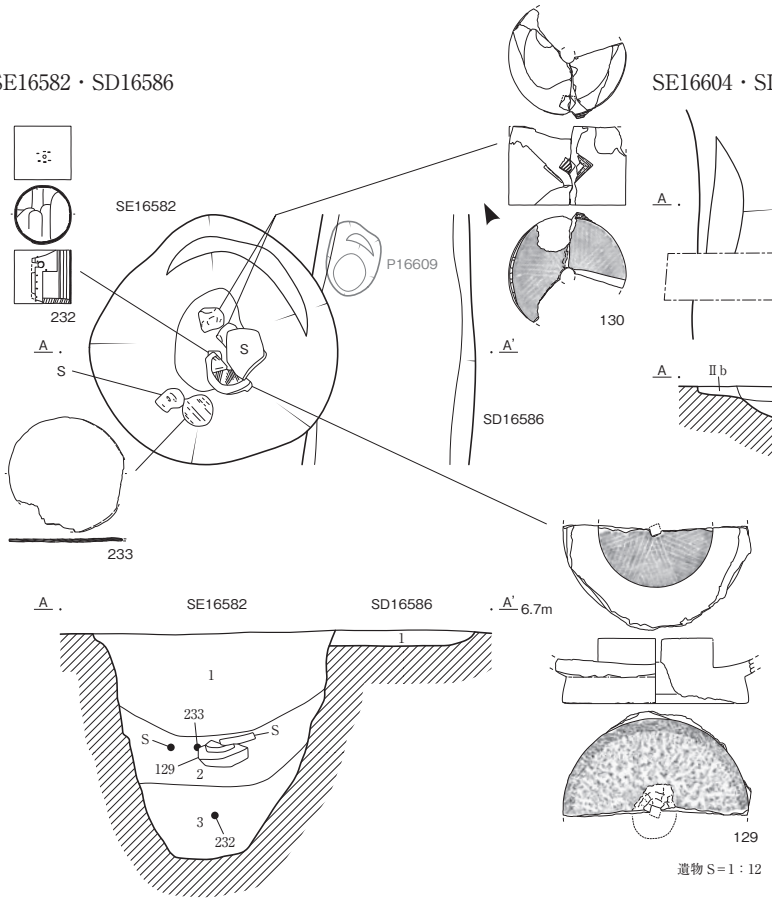
SE16592
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量、鉄分含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック微量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。B 埋土。炭化物塊状に少量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

SE16597



SE16597
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

SE16582・SD16586

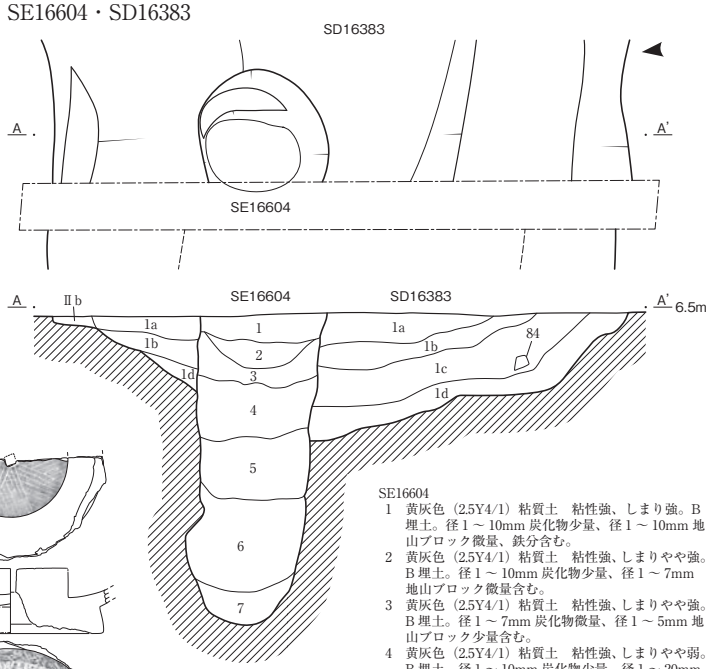


遺物 S＝1：12

SE16582
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。茶臼（129・130）、曲物（233）など出土。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック微量含む。曲物柄杓（232）出土。

SD16586
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量、鉄分含む。

SE16604・SD16383

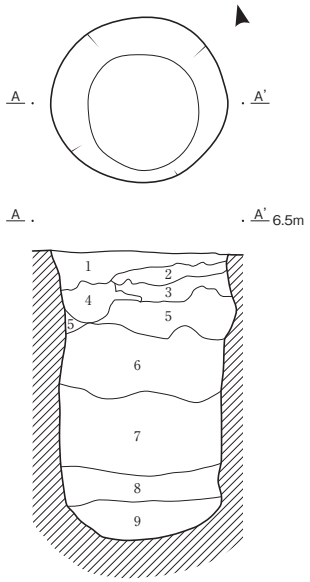


SE16604
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量、鉄分含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
6　黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
7　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 炭化物中量含む。

SD16383
東側の層序と異なる。
1a　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 5 mm 炭化物微量、鉄分含む。SD16383 東側の 1 層に近い。
1b　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 地山ブロック微量含む。
1c　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。
1d　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 40mm 地山ブロック少量含む。SD16383 東側の 7 層に近い。

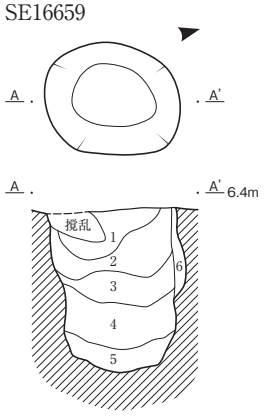
0　(1:40)　2m

SE16608



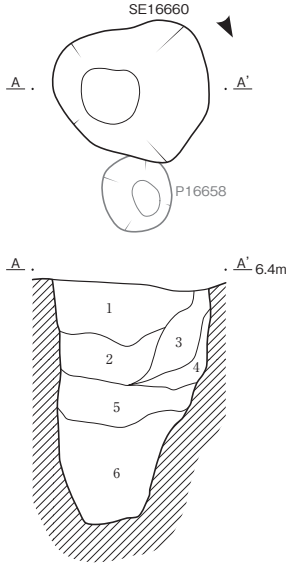
SE16608
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 灰色土ブロック中量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 50mm 黒褐色土ブロック多量、鉄分含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック（一部筋状）中量、鉄分含む。
7　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。
8　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。
9　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。

SE16659



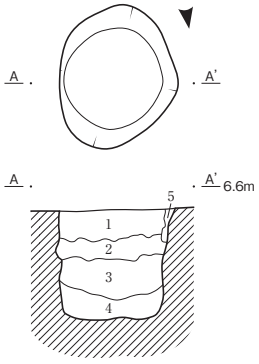
SE16659
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 15mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
4　黒色（2.5Y2/1）シルト　粘性弱、しまり弱。A 埋土。炭化物層。径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 2 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。

SE16660



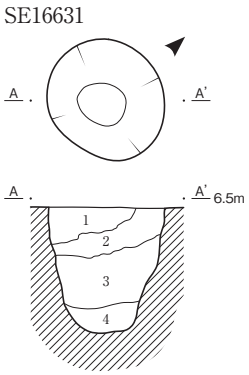
SE16660
1　黒褐色(2.5Y3/1)粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。
3　黒褐色(2.5Y3/1)粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。
5　黒褐色(2.5Y3/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
6　黒褐色(2.5Y3/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 灰色土ブロック中量含む。

SE16612



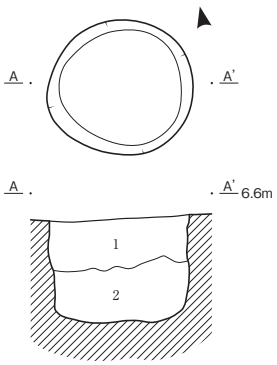
SE16612
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 30mm 黒色土ブロック多量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　黒色（2.5Y2/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
4　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量含む。

SE16631



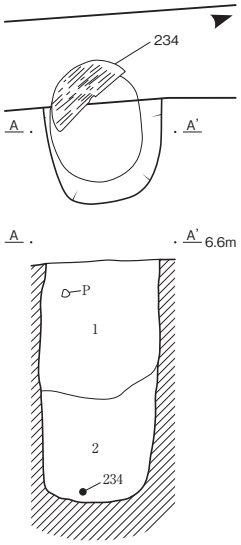
SE16631
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック中量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。
4　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。

SE16620



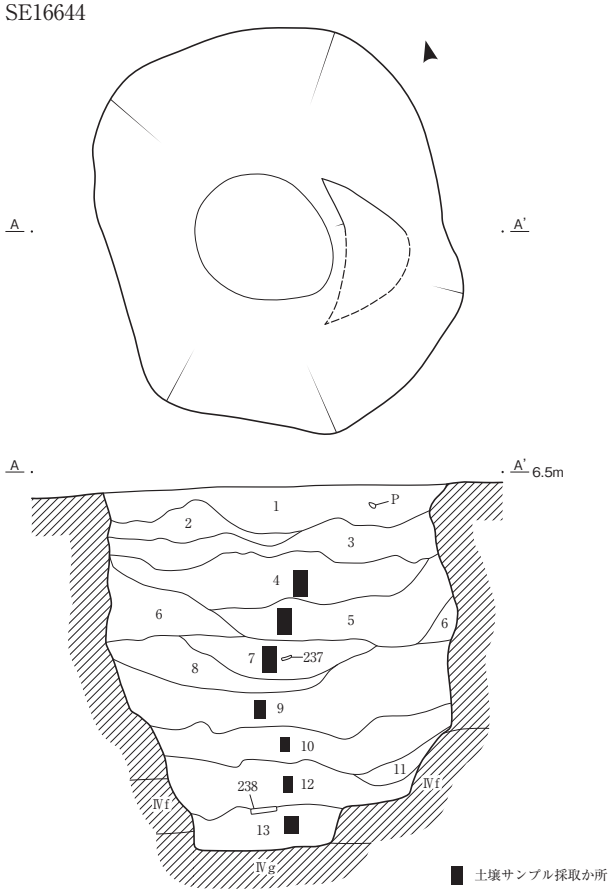
SE16620
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。
2　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

SE16623



SE16623
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。土器出土。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。底面付近から曲物底板（234）出土。

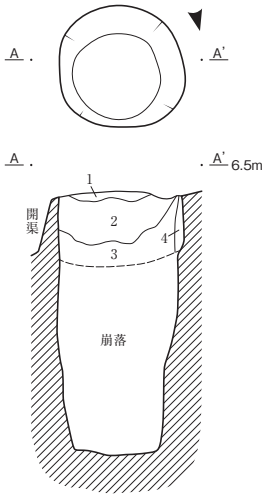
SE16644



SE1644
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。土器出土。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。B 埋土。径 7 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック微量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 50mm 地山ブロック中量含む。土器出土。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。木製品出土。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。黒褐色土ブロック筋状に含む。
7　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。木製品出土。
8　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量含む。
9　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 30 ～ 60mm 黒褐色土ブロック中量含む。
10　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。黒褐色土ブロック筋状に含む。
11　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。
12　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 30 ～ 50mm 黒褐色土ブロック中量含む。
13　灰色(5Y4/1)粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 20 ～ 40mm 地山ブロック少量含む。木製品出土。

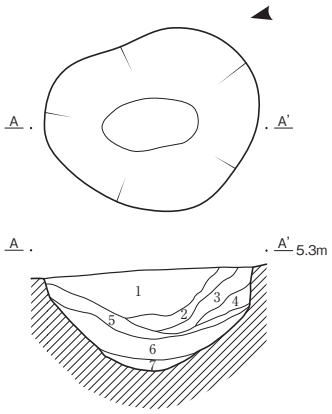
0　(1:40)　2m

SE16661



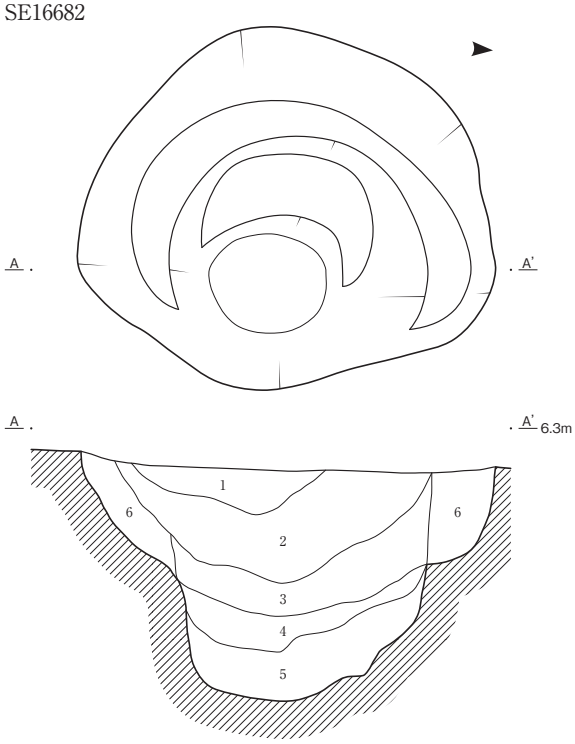
SE16661
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。A 埋土。

SE16677



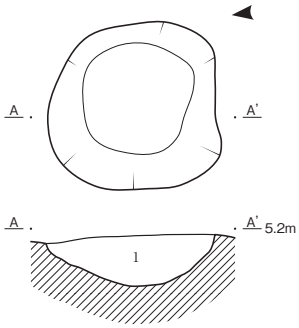
SE16677
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量、腐植物少量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物多量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
5　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 15mm 地山少量含む。
6　黒色（2.5Y2/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。炭化物筋状に多量含む、木製品出土。
7　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 5mm 炭化物少量含む。

SE16682



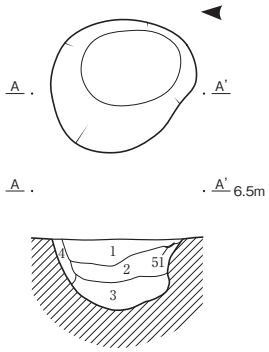
SE16682
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物塊状で多量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物塊状で少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物塊状で多量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物塊状で少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
5　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
6　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物塊状で少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SE16676



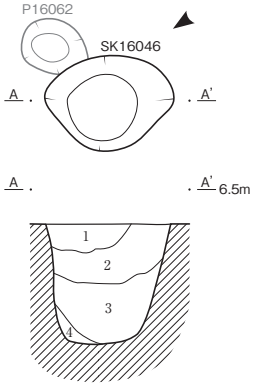
SE16676
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 10mm の炭化物中量、径 15 ～ 30mm 地山ブロック中量含む。

SK16033



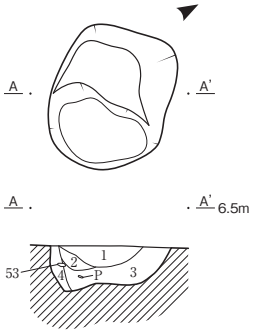
SK16033
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 10 ～ 30mm 地山ブロック少量含む、径 1 ～ 3mm 地山ブロック少量含む、径 2mm 炭化物少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm の 1 層ブロック中量含む。土器出土。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 20mm 地山ブロック少量含む、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む、径 2 ～ 5mm 炭化物微量含む。碁石出土。1 層と同じ土だがしまりのない土。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 3 ～ 5mm の 1 層ブロック微量含む。

SK16046



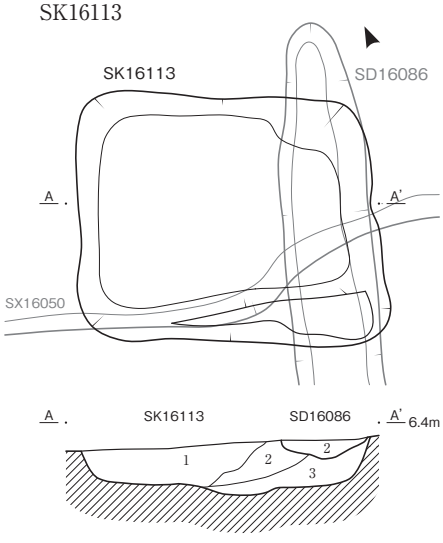
SK16046
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 10 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、腐植物少量含む。
4　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 黒褐色土ブロック微量含む。

SK16052



SK16052
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 30mm 地山ブロック多量含む、径 1mm 炭化物微量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 5mm 地山ブロック少量含む、鉄分多量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 50 ～ 100mm 地山ブロック多量含む、径 2mm 炭化物微量含む、鉄分中量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 10mm 地山ブロック多量含む。

SK16113

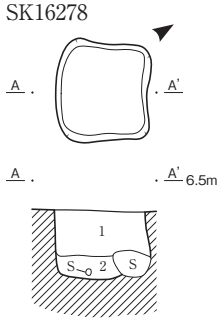


SK16113
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。黄灰色土ブロック筋状に含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量含む。

SD16086
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

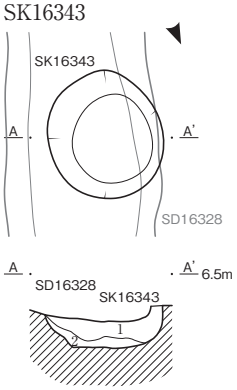
0　(1:40)　2m

SK16278



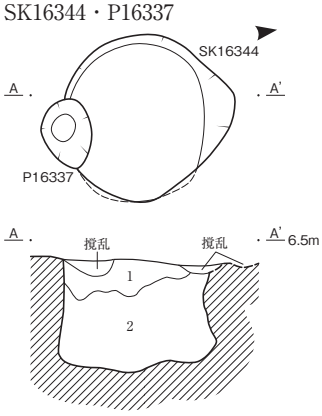
SK16278
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SK16343



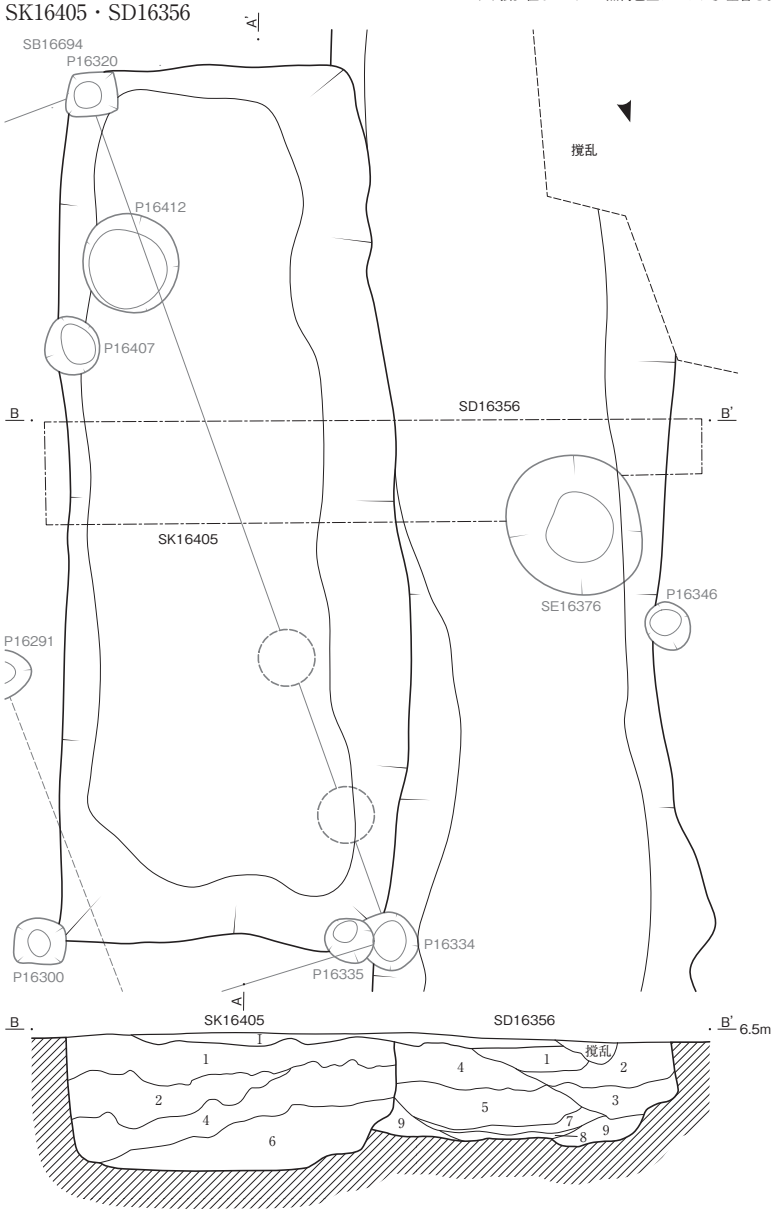
SK16343
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SK16344・P16337



SK16344
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 50mm 黒褐色土ブロック中量、一部筋状に含む。

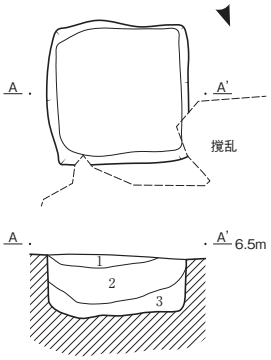
SK16405・SD16356



SK16405
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物微量、径 1 ～ 70mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 50mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 30mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 50mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。
7　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 15mm 炭化物少量、径 5 ～ 30mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、鉄分含む。

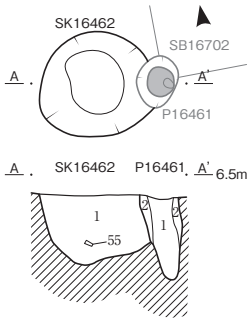
SD16356
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量、径 1 ～ 20mm 炭化物微量含む。SD16383 の 2 層に同じ。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分多量含む。
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。SD16383 の 3 層に同じ。
6　（図版 39 参照）
7　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。SD16383 の 5 層に同じ。
8　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。炭化物筋状に少量含む。
9　灰色（5Y6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 炭化物微量含む。

SK16408



SK16408
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SK16462

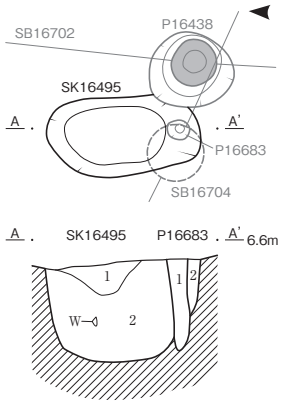


SK16462
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物中量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

P16461
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

0　(1:40)　2m

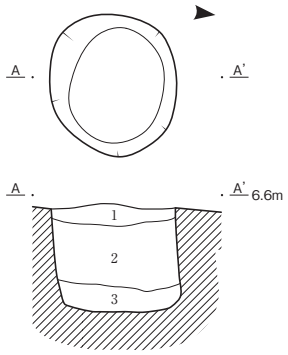
SK16495



SK16495
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 3 ～ 10mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。図中の木片、取り上げ前に崩落→完掘の過程で所在不明となる。板状の製品であった可能性もあるが詳細不明。

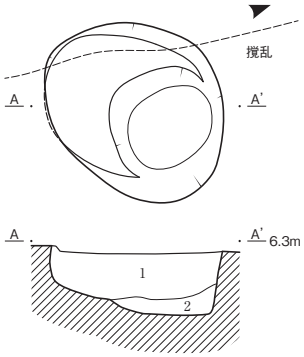
P16683
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量含む。杭痕か。近世以降の遺構か。

SK16542



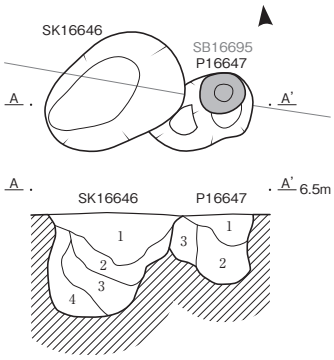
SK16542
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量含む。

SK16591



SK16591
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量、腐植物微量含む。

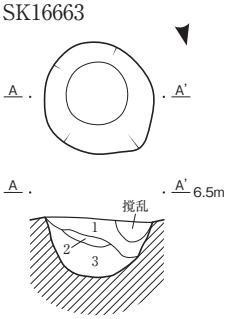
SK16646・P16647



SK16646
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 50mm 黒色土ブロック（炭化物由来か）多量含む。
4　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 5 ～ 20mm 黒色土ブロック（炭化物由来か）中量含む。

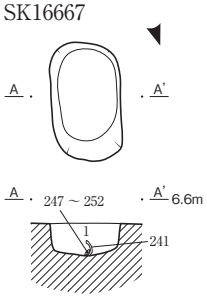
P16647
1　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、鉄分少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック少量、鉄分多量含む。

SK16663



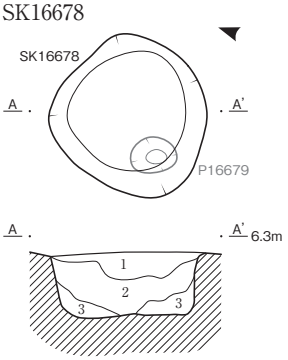
SK16663
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。　径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック中量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

SK16667



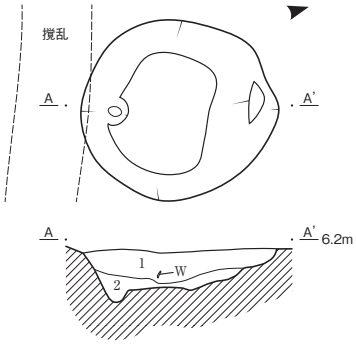
SK16667
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。

SK16678



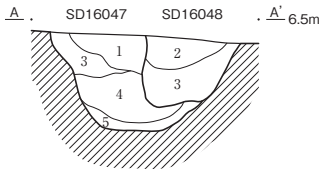
SK16678
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック中量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 5 ～ 30mm 黄灰色土ブロック中量含む。
3　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SK16681

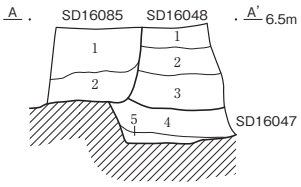


SK16681
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック微量、腐植物少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黄灰色土ブロック少量含む。

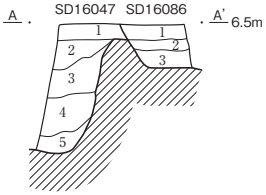
SD16047・SD16048



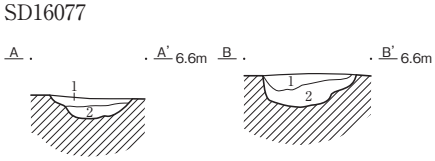
SD16047・SD16048・SD16085



SD16047・SD16086



SD16077



SD16047
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 3 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強　径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック多量含む。

SD16048
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量含む。
2　黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
3　黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性やや強　しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

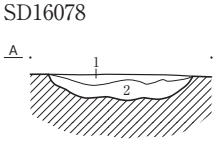
SD16077
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 2 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SD16078
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

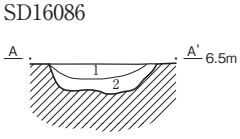
SD16085
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、微細な砂粒、鉄分含む。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量、鉄分含む。
3　（図版 39 参照）
4　（図版 39 参照）
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 1 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量含む。

SD16086
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 3 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。

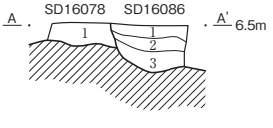
SD16078



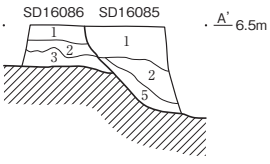
SD16086

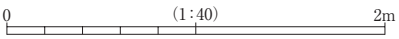


SD16078・SD16086

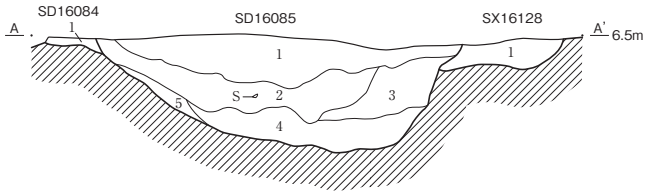


SD16085・SD16086

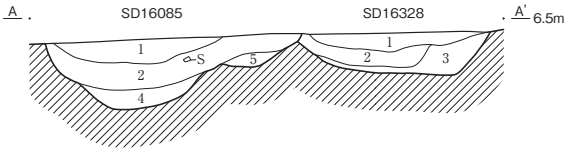




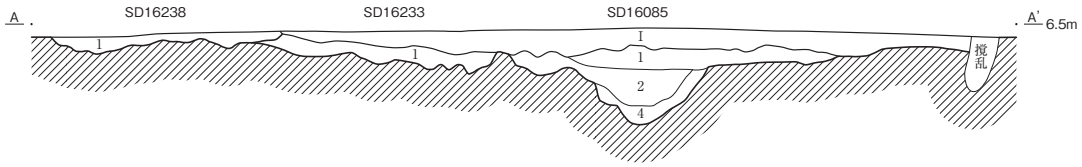
SD16084・SD16085・SX16128



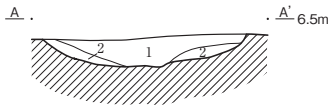
SD16085・SD16328



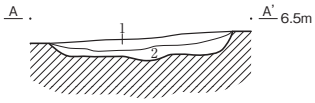
SD16085・SD16233・SD16238



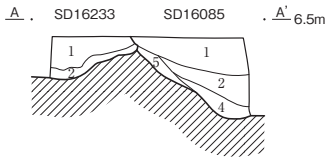
SD16233



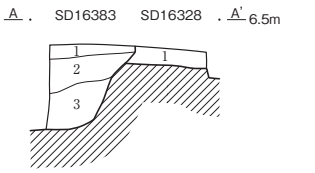
SD16238



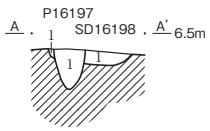
SD16233・SD16085



SD16383・SD16328



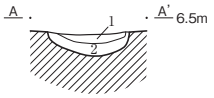
SD16198・P16197



SD16198
1　灰色（2.5Y6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径5～10mm黒褐色土ブロック少量含む。

P16197
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A埋土。径1～5mm地山ブロック少量含む。

SD16215



SD16215
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～5mm炭化物微量、径5～10mm黒褐色土ブロック少量、径5～20mm地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径10～30mm黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

SD16084
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径10～20mm黒褐色土ブロック少量、径5～20mm地山ブロック多量含む。

SD16085
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。B埋土。径1～5mm炭化物少量、径微細な砂粒、鉄分含む。
2　褐灰色（10YR4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～5mmの炭化物微量、径1～5mm地山ブロック微量、鉄分含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A埋土。径1～3mm炭化物微量、径5～30mm地山ブロック多量、鉄分多量含む。
4　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A埋土。径1～2mm炭化物微量、径1～20mm地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径1～15mm黒褐色土ブロック中量含む。

SD16233
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～3mm炭化物微量、径1～20mm地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径5～15mm黄灰色土ブロック少量含む。

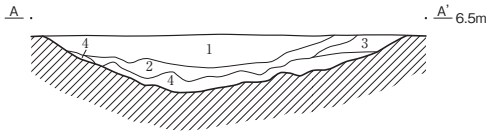
SD16238
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～2mm炭化物微量、径1～10mm地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径5～15mm黄灰色土ブロック少量含む。

SD16328
1　褐灰色（10YR4/1）シルト　粘性やや強、しまり強。B埋土。径1～10mm炭化物微量、径5～20mm地山ブロック少量、鉄分、微細砂粒含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A埋土。径1～5mm炭化物少量、径5～30mm地山ブロック中量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径5～10mm黒褐色土ブロック微量、鉄分含む。

SD16383
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～5mm地山ブロック微量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径5～20mm黒褐色土ブロック多量、径10～50mm地山ブロック多量、鉄分含む。SD16356の2層に同じ。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A埋土。径1～5mm炭化物微量、径10～50mm地山ブロック多量含む。SD16356の5層に同じ。

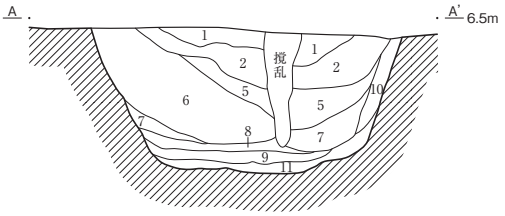
SX16128
1　黒褐色（10YR3/1）　粘質土　粘性強、しまり強。A埋土。径5～50mm地山ブロック多量含む。

SD16242

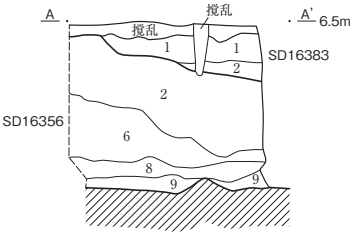


SD16242
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～2mm炭化物少量、径1～5mm地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B埋土。径1～5mm炭化物中量（一部筋状）、径1～20mm地山ブロック少量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B埋土。径1～10mm地山ブロック少量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径5～15mm黄灰色土ブロック少量、鉄分含む。

SD16356



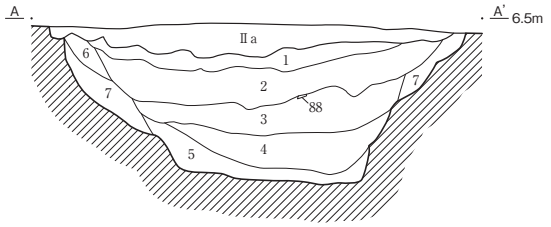
SD16356・SD16383



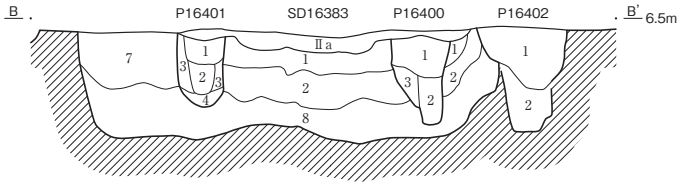
SD16356
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径1～3mm炭化物微量、径1～10mm地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B埋土。径5～20mm黒褐色土ブロック多量、径10～50mm地山ブロック多量、径1～20mm炭化物微量含む。SD16383の2層に同じ。
3　（図版37参照）
4　（図版37参照）
5　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A埋土。径1～5mm炭化物微量、径10～50mm地山ブロック多量含む。SD16383の3層に同じ。
6　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A埋土。径1～10mm炭化物少量、径5～20mm地山ブロック少量含む。SD16383の4層に同じ。
7　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径1～10mm炭化物少量、径5～20mm地山ブロック多量含む。SD16383の5層に同じ。
8　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。炭化物筋状に少量含む。
9　灰色（5Y6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径1～5mm炭化物微量含む。
10　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径5～30mm黒褐色土ブロック多量含む。
11　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。ほぼ地山。炭化物、灰色土ごくわずかに含む。

0　(1:40)　2m

SD16383



SD16383
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック多量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量、鉄分含む。SD16356 の 2 層に同じ。
3　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。SD16356 の 5 層に同じ。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。SD16356 の 6 層に同じ。
5　灰色（5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。SD16356 の 7 層に同じ。
6　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
7　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 10 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量、鉄分含む。
8　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量、鉄分含む。

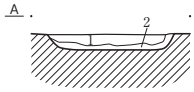


P16400
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック少量。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量含む。柱痕。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。

P16401
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック中量含む。
4　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 1 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

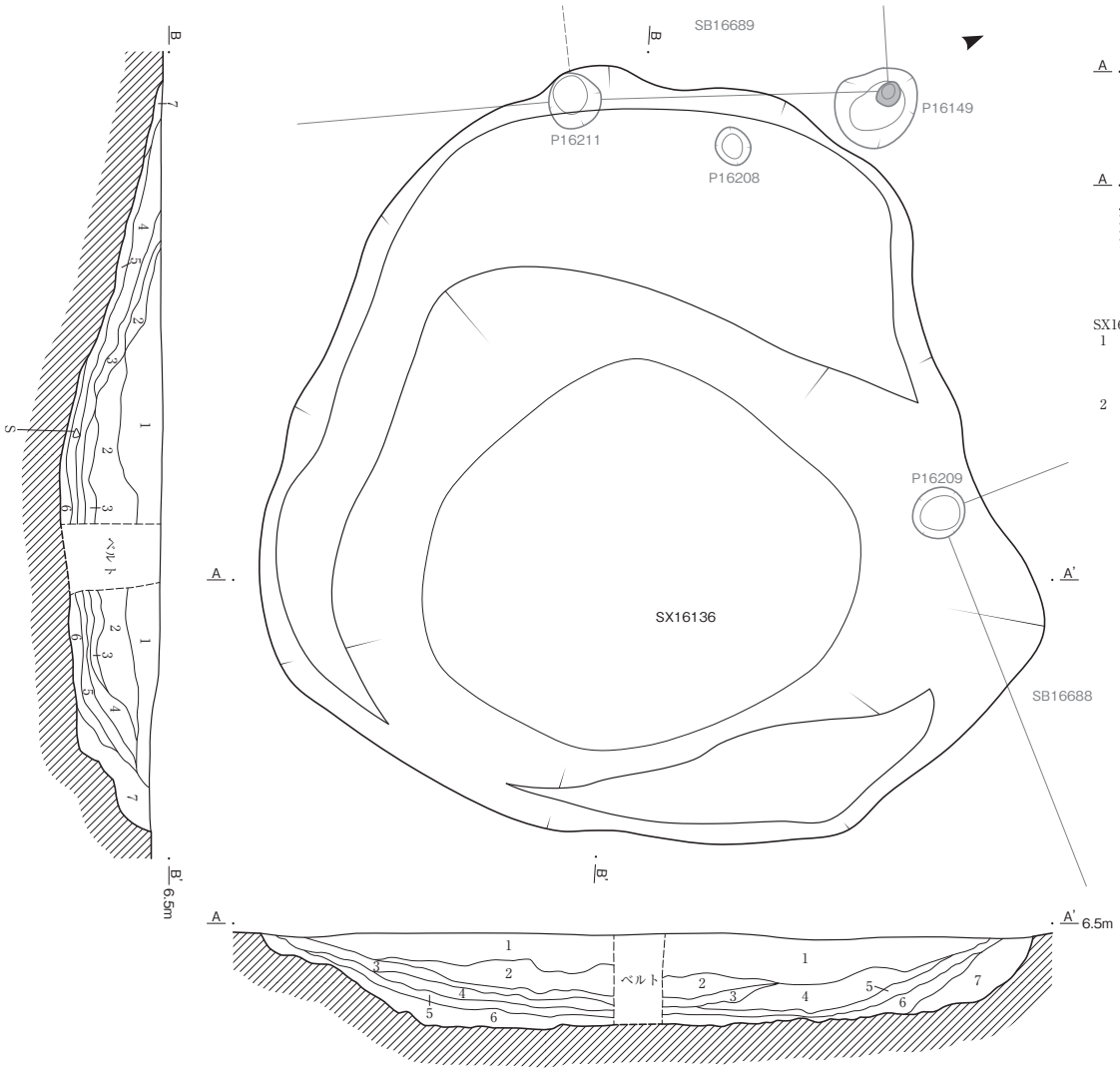
P16402
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 40mm 黒褐色土ブロック少量、径 10 ～ 50mm 地山ブロック中量、鉄分含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。

SD16587

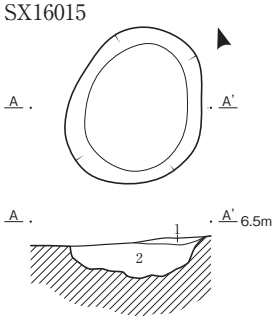


SD16587
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック中量、径 10 ～ 30mm 黒色土ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。

SX16136

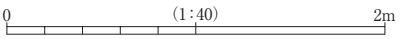


SX16015

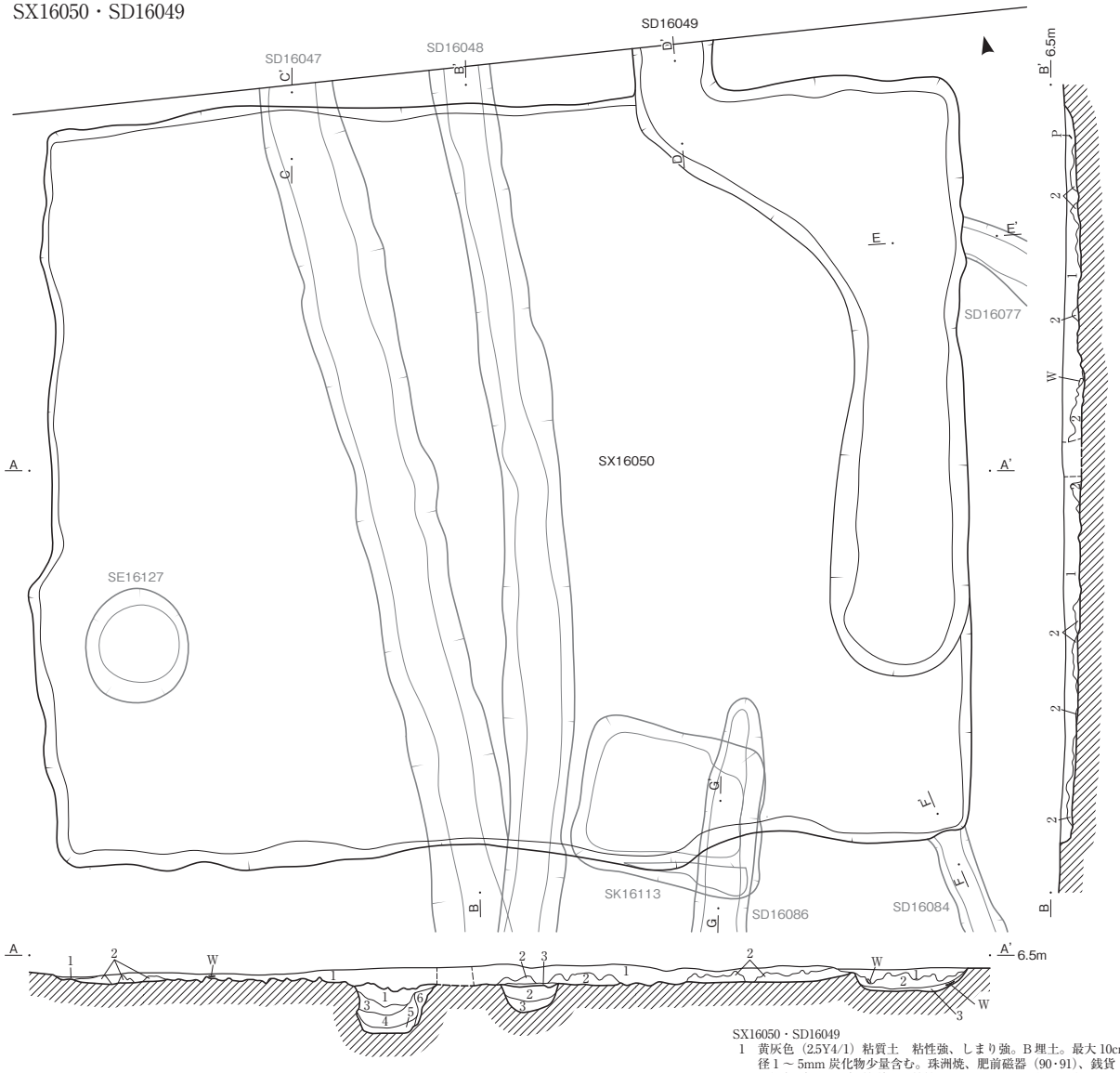


SX16015
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 10 ～ 15mm 黄灰色土ブロック中量含む、径 2 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10mm 黄灰色土ブロック中量含む。地山との境が難しいが、地山に比して粘性高い。緑色の粒子が全体に入る。径 1 ～ 3mm 黒褐色土ブロック微量含む。

SX16136
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。
2　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、一部筋状、径 1 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物多量含む。
4　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
5　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。炭化物多量含む。
6　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。
7　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 1 ～ 20mm 灰色土ブロック多量含む。

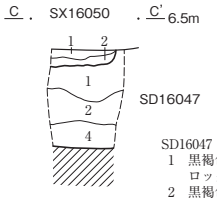


SX16050・SD16049

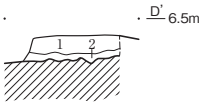


SX16050・SD16049
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。最大 10cm 大の地山ブロック中量、径 1 ～ 5mm 炭化物少量含む。珠洲焼、肥前磁器（90・91）、銭貨（寛永通寶 253）など出土。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量、小礫少量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。底面で樹皮出土。肥料か。

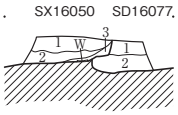
SX16050・SD16047



SX16050・SD16049

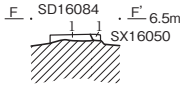


SX16050・SD16077

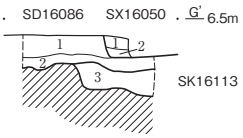


SD16047
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 7mm 炭化物少量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 3 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。
4　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
5　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 5mm 黒褐色土ブロック多量含む。
6　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量含む。

SX16050・SD16084



SX16050・SD16086



SD16048
1　（図版 38 参照）
2　黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
3　黄灰色（2.5Y5/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや弱。B 埋土。径 5 ～ 15mm 地山ブロック少量含む。

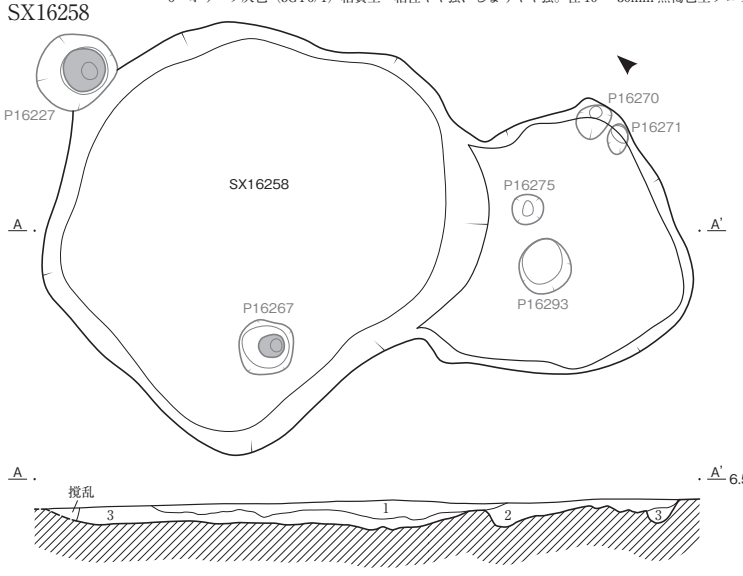
SD16077
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 2 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

SD16084
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 20mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 20mm 地山ブロック多量含む。

SD16086
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 3 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。B 埋土。径 5 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。

SK16113
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまりやや強。径 1 ～ 20mm 黄灰色土ブロック中量含む。

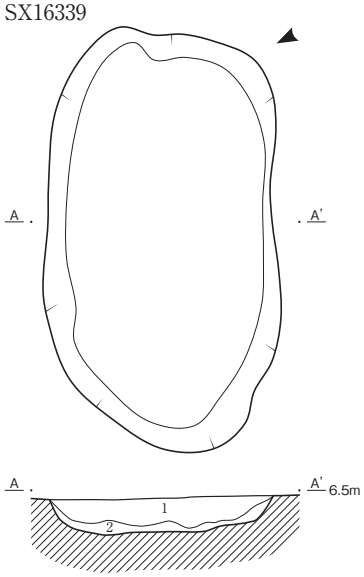
SX16258



SX16258
1　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物微量、径 1 ～ 15mm 地山ブロック微量含む。
2　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック中量含む。
3　黒褐色（10YR3/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。A 埋土。径 3 ～ 5mm 炭化物微量、径 10 ～ 20mm 地山ブロック少量含む。

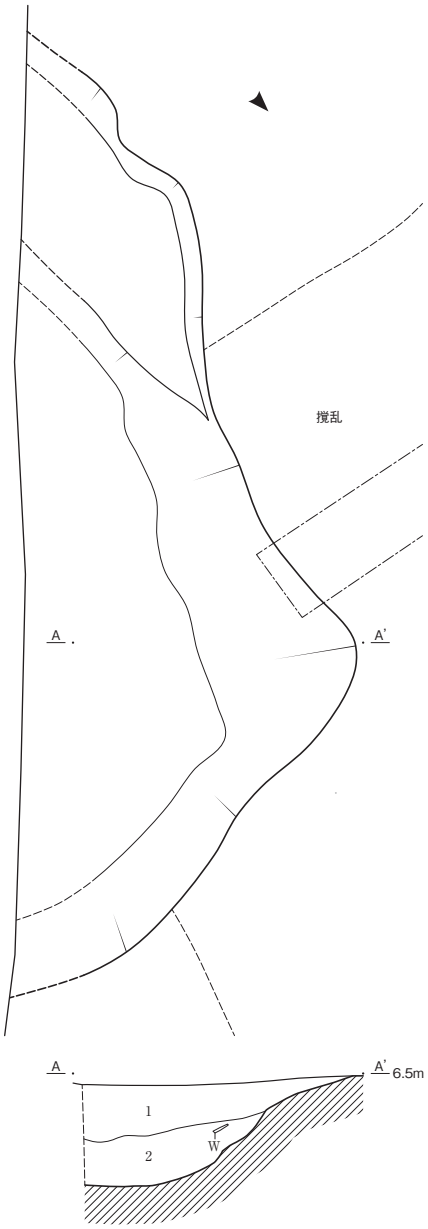
0　SX16050平面図・断面図（1:60）　3m
0　その他（1:40）　2m

SX16339



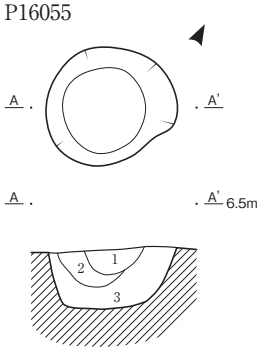
SX16339
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。　径 1 ～ 2mm 炭化物微量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック中量含む。

SX16458



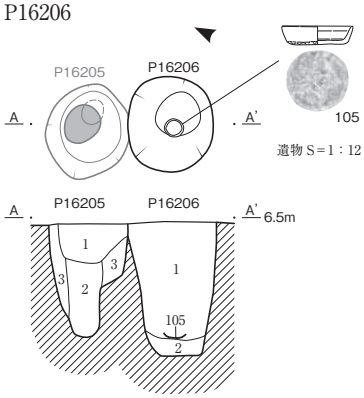
SX16458
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック微量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物微量、径 5 ～ 20mm 黒褐色土ブロック中量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。

P16055



P16055
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 2 ～ 3mm 地山ブロック少量含む。
2　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。B 埋土。径 1 ～ 5mm 地山ブロック多量含む、径 1 ～ 2mm 炭化物微量、鉄分多く含む。
3　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。B 埋土。径 3 ～ 30mm 地山ブロック多量、鉄分多量含む。

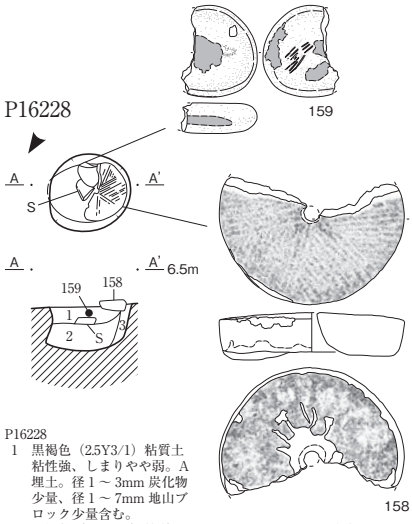
P16206



P16205
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり強。A 埋土。径 1 ～ 7mm の炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック少量含む。抜き取り痕か。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。柱痕。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック中量含む。

P16206
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 5mm 炭化物少量、径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黒褐色土ブロック少量含む。

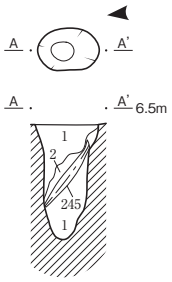
P16228



P16228
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 3mm 炭化物少量、径 1 ～ 7mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまり弱。A 埋土。径 1 ～ 5mm の炭化物多量含む。
3　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック多量含む。

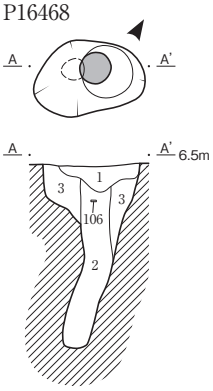
遺物 S＝1：12

P16342



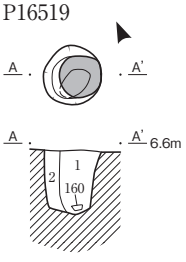
P16342
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。
2　暗褐色（10YR3/3）粘質土　粘性強、しまり弱。木質由来。

P16468



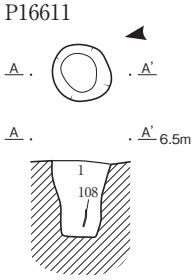
P16468
1　黄灰色（2.5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。B 埋土。径 10 ～ 30mm 黒褐色土ブロック少量、径 5 ～ 50mm 地山ブロック少量含む。
2　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 15mm の地山ブロック少量含む。柱痕。
3　灰色（5Y4/1）粘質土　粘性強、しまり強。径 5 ～ 15mm 黒褐色土ブロック少量含む。

P16519



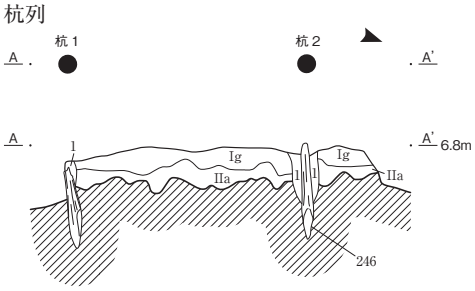
P16519
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや強。A 埋土。径 1 ～ 10mm 炭化物少量、径 1 ～ 5mm 地山ブロック微量含む。柱痕。
2　オリーブ灰色（5GY6/1）粘質土　粘性やや強、しまり強。径 5 ～ 10mm 黄灰色土ブロック少量含む。

P16611



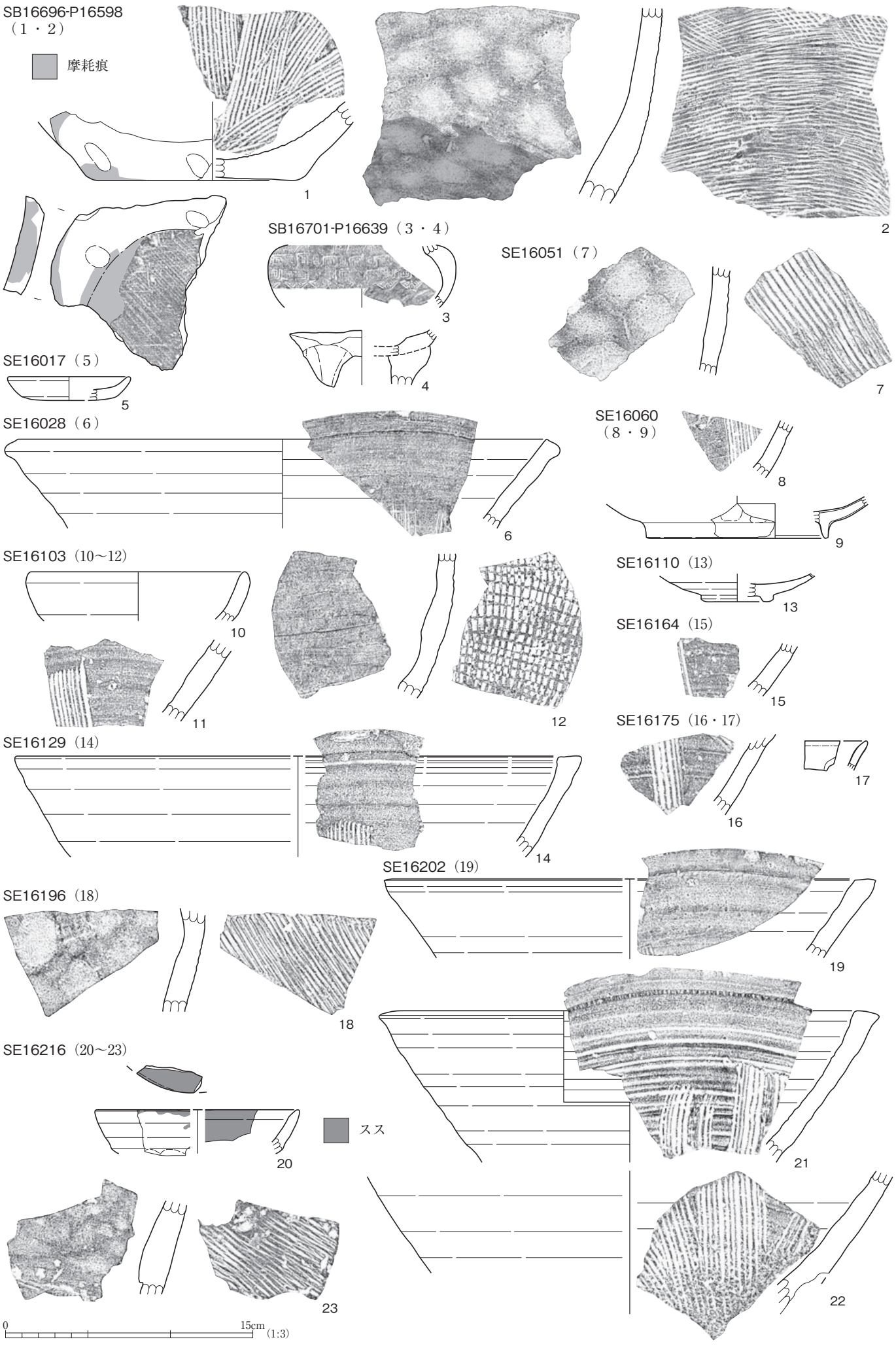
P16611
1　黒褐色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強、しまりやや弱。A 埋土。径 1 ～ 10mm 地山ブロック少量含む。土器出土。

杭列

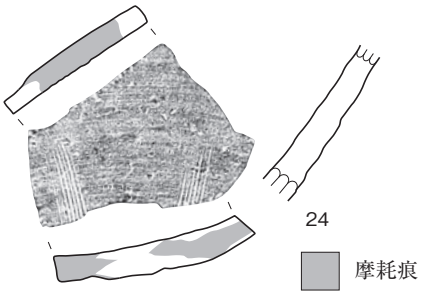


杭列
1　黄灰色（2.5Y3/1）粘質土　粘性強　しまりやや弱　径 1 ～ 50mm 地山ブロック多量含む。

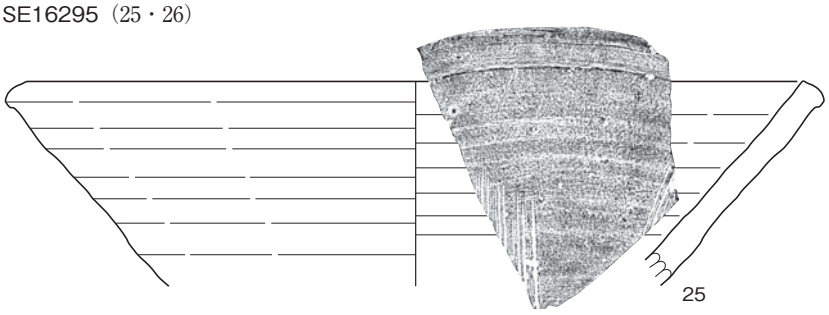
0　(1:40)　2m


SB16696-P16598
（1・2）
摩耗痕
1
2
SB16701-P16639（3・4）
3
4
SE16051（7）
7
SE16017（5）
5
SE16028（6）
6
SE16060
（8・9）
8
9
SE16103（10～12）
10
11
12
SE16110（13）
13
SE16164（15）
15
SE16129（14）
14
SE16175（16・17）
16
17
SE16202（19）
19
SE16196（18）
18
SE16216（20～23）
20
スス
21
22
23
0
15cm
(1:3)

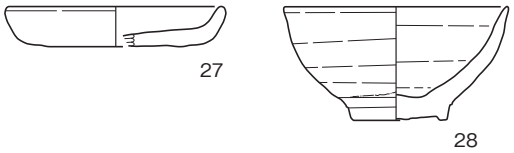
SE16261（24）

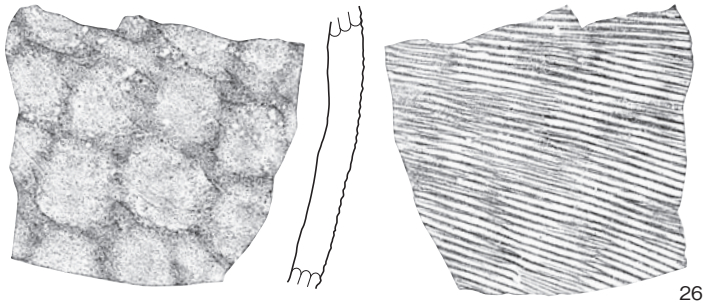


SE16295（25・26）

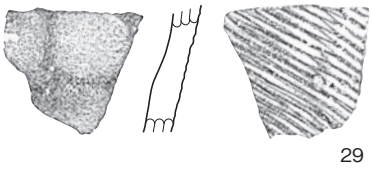


SE16299（27・28）

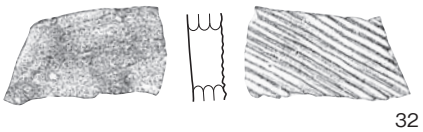




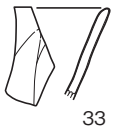
SE16301（29）



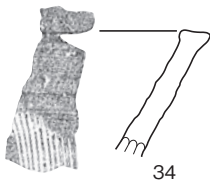
SE16347（32）



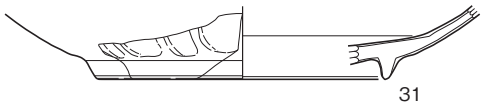
SE16348（33）



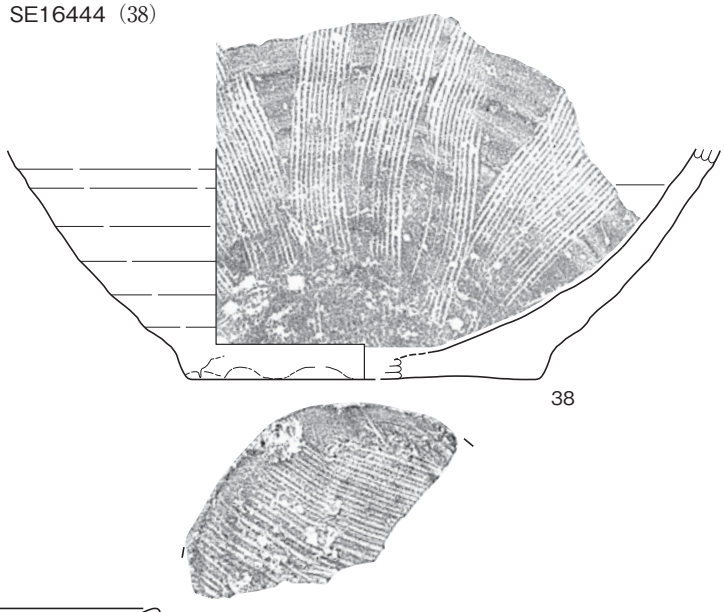
SE16376（34）



SE16333（30・31）



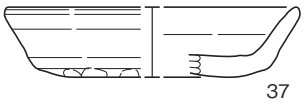
SE16444（38）



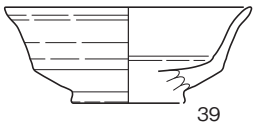
SE16396（35）

SE16424（36）

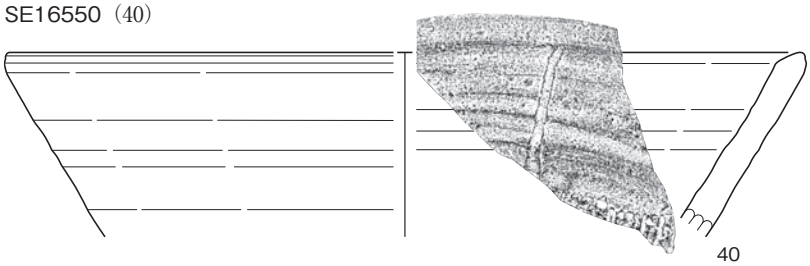
SE16442（37）



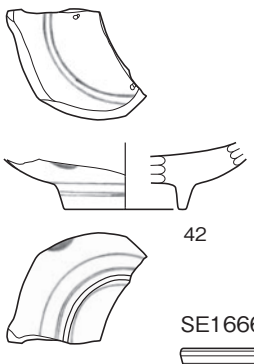
SE16517（39）



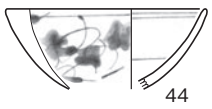
SE16550（40）



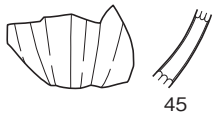
SE16558（42）



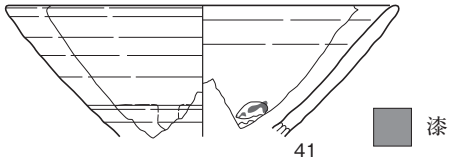
SE16597（44）



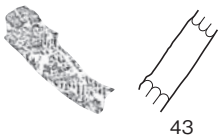
SE16604（45）



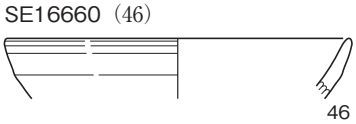
SE16550・16585（41）



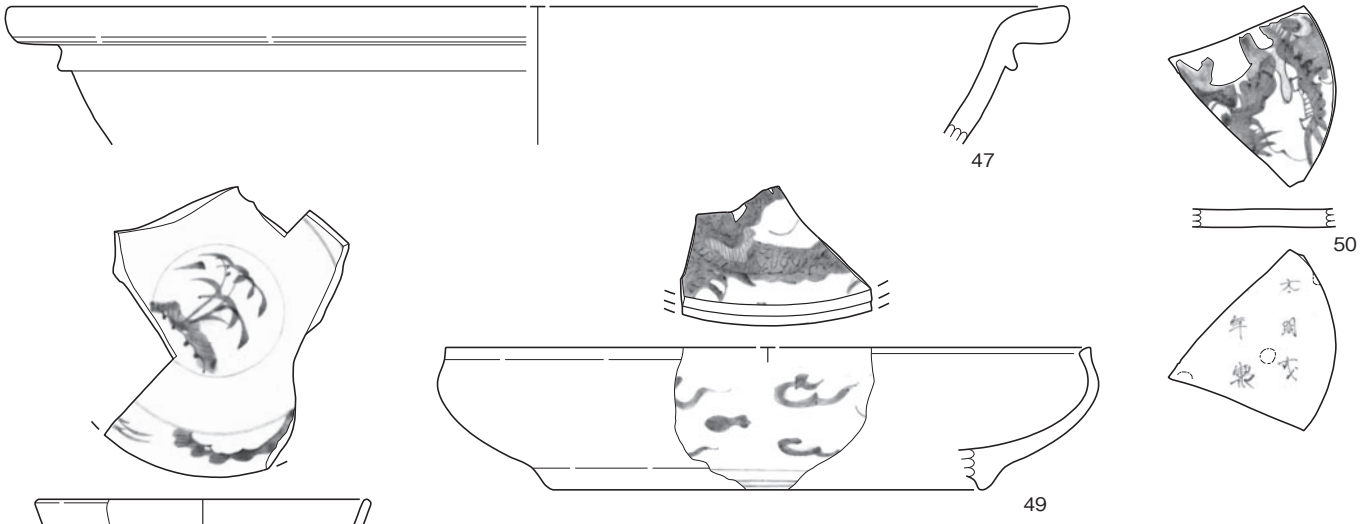
SE16585（43）



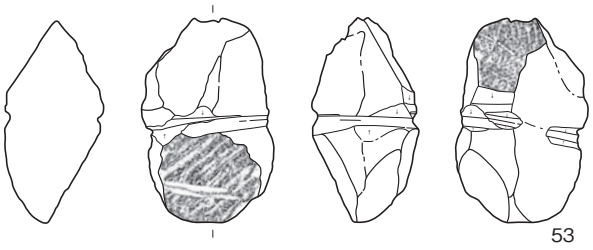
SE16660（46）



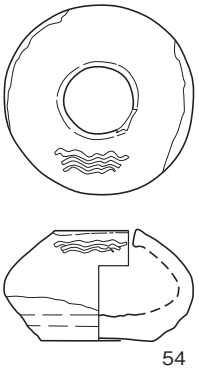
SE16682（47～50）



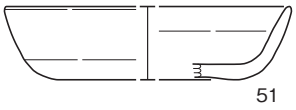
SK16052（53）



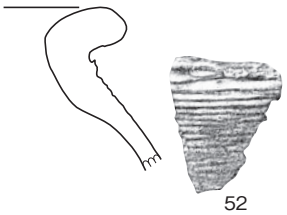
SK16405（54）



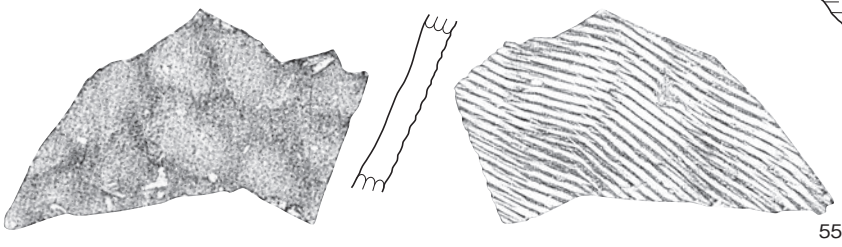
SK16033（51）



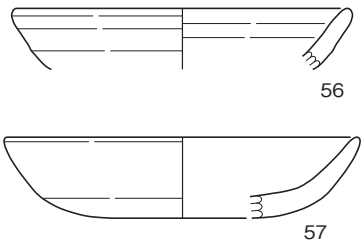
SK16045（52）



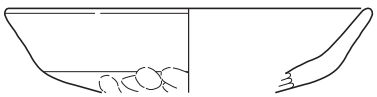
SK16462（55）



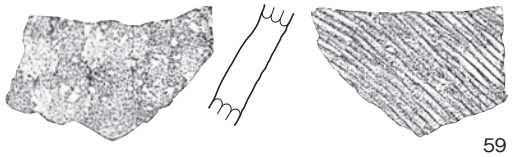
SD16047（56・57）



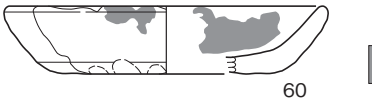
SD16077（58）



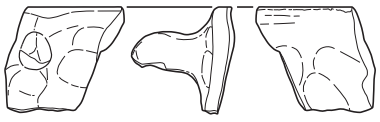
SD16078（59）

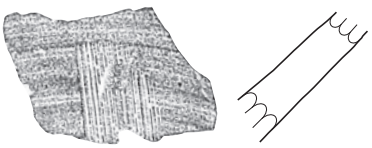


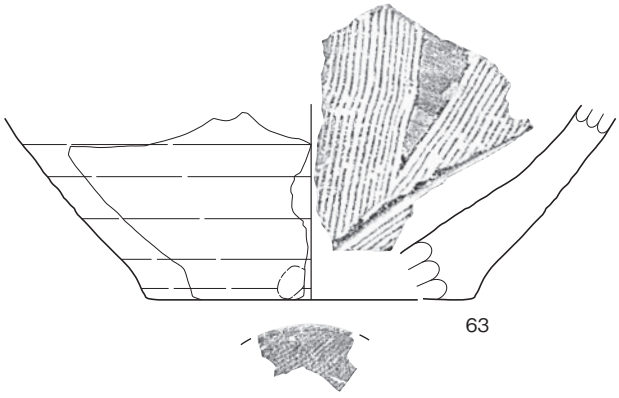
SD16085（60～64）

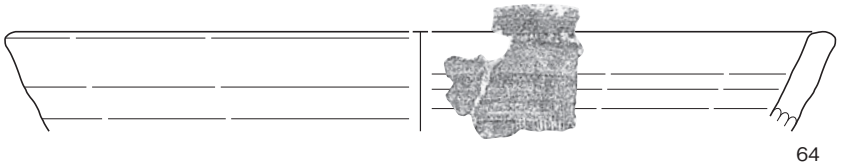


スス



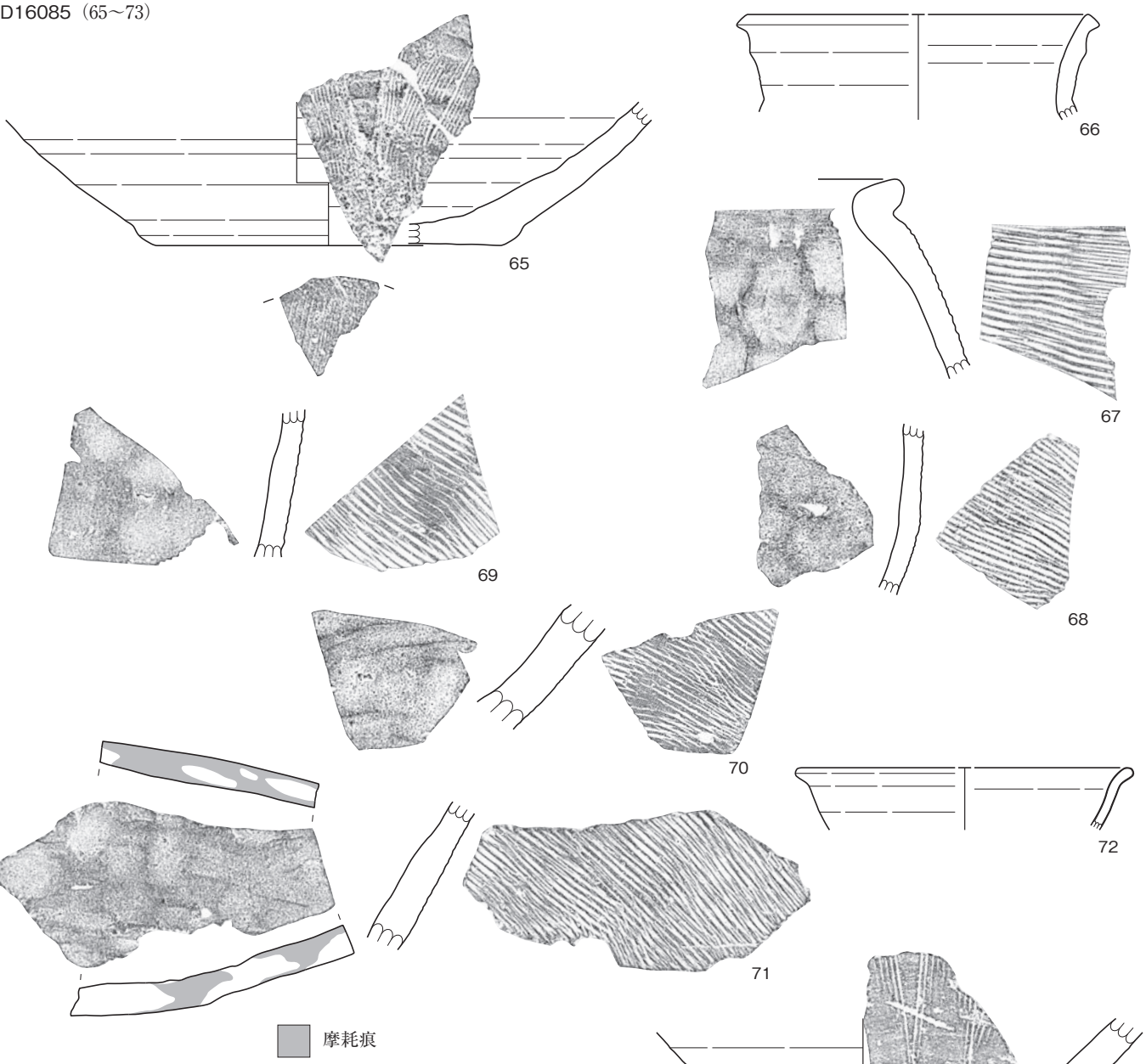




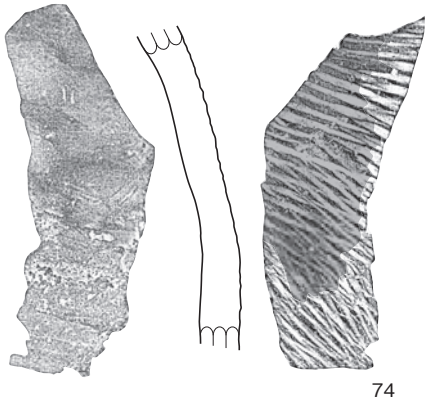


0　(53・54)　10cm (1:2)　　0　(その他)　15cm (1:3)

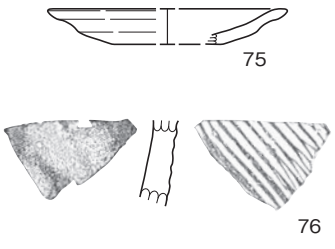
SD16085（65～73）



SD16233（74）

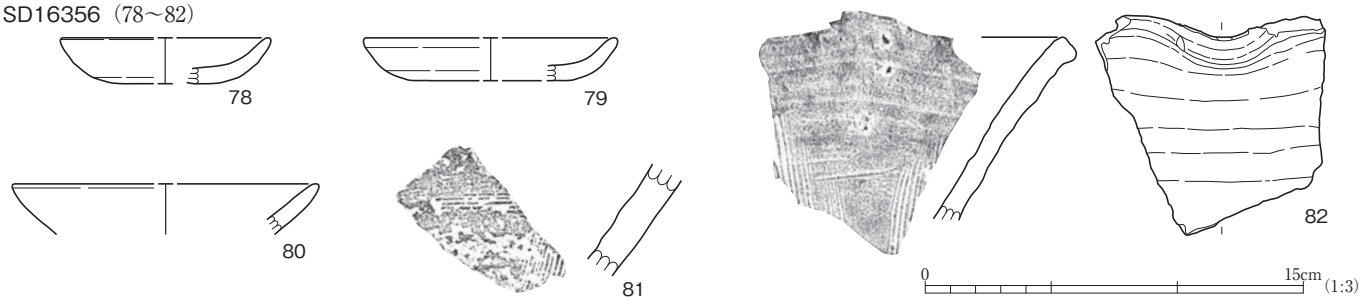


SD16242（75・76）

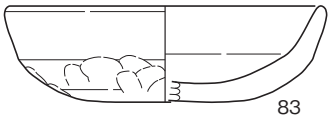


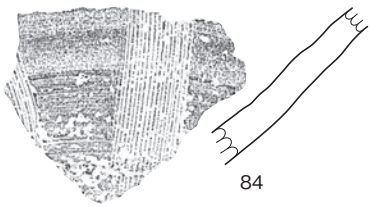
SD16328（77）

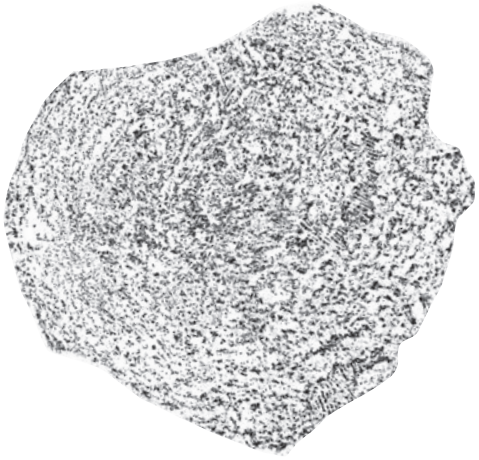
SD16356（78～82）

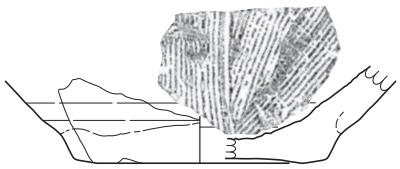


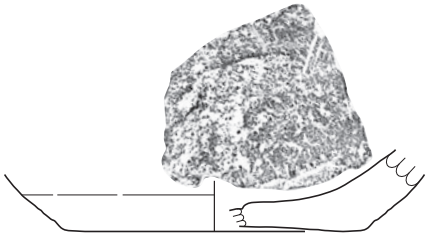
SD16383（83～89）

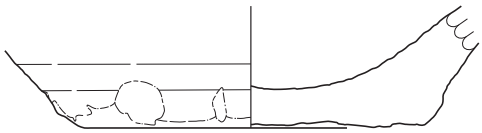

83

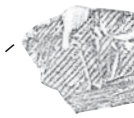

84

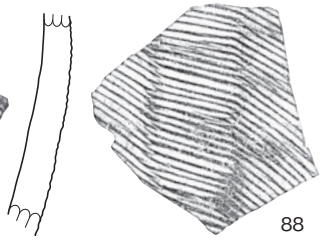


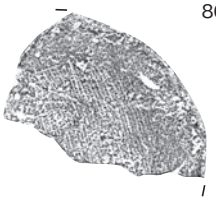

85


86


87




88



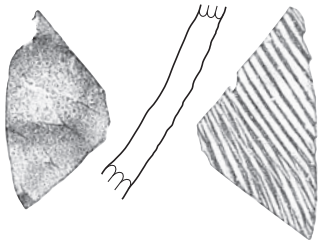
89

SX16050（90・91）

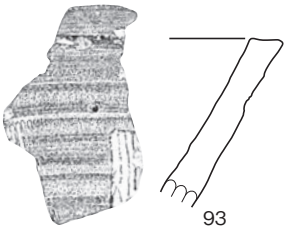
90

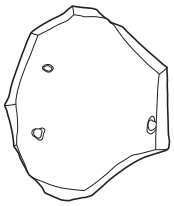
91

SX16128（92）


92

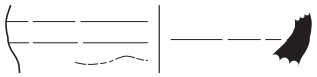
SX16136（93）


93



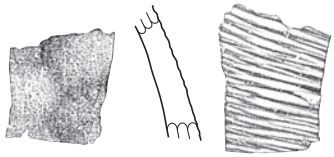
SX16258（94～96）

94


95

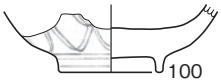
96

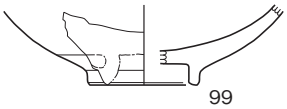
SX16458（97・98）

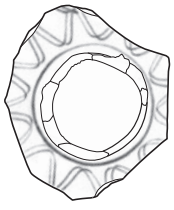

97

98　写真掲載

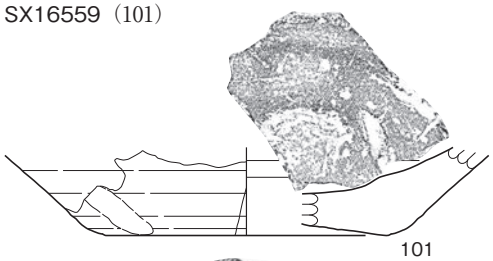
SX16540（99・100）

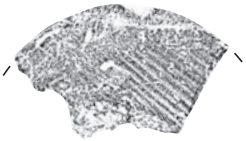

100


99

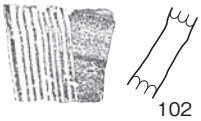


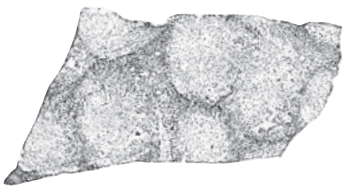
SX16559（101）


101

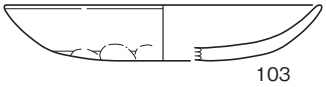


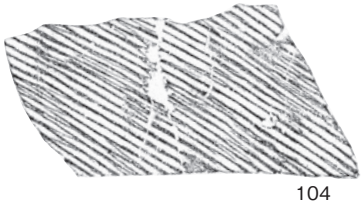
P16055（102）


102



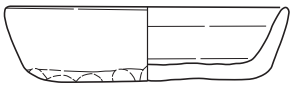
P16182（103・104）


103

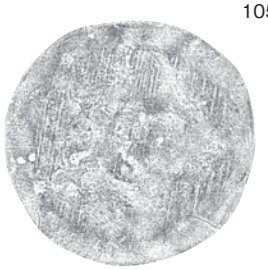

104

0　15cm　(1:3)

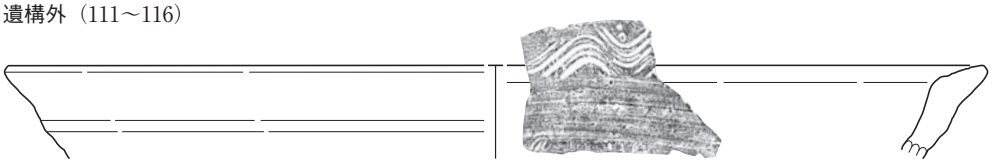
P16206（105）



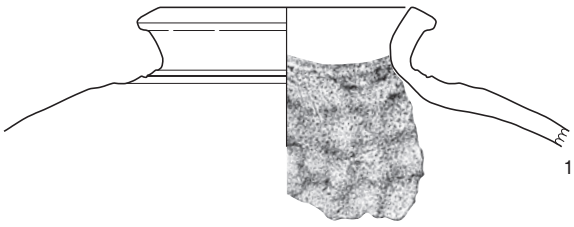
105



遺構外（111～116）



111

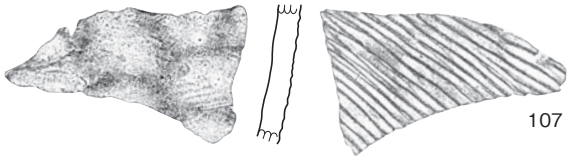


112

P16468（106）

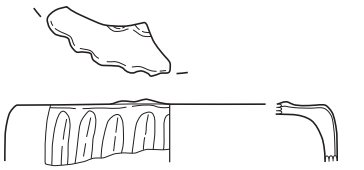
106　写真掲載

P16490（107）

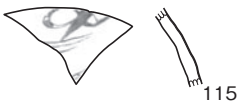


107

113

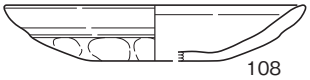


114



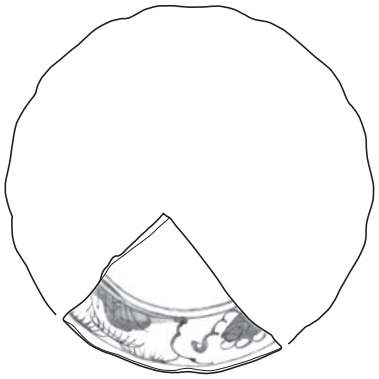
115

P16611（108）

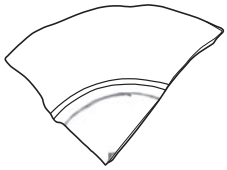


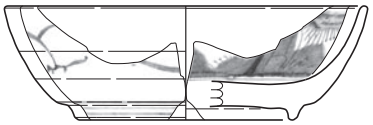
108

土塁下炭化物層（109・110）

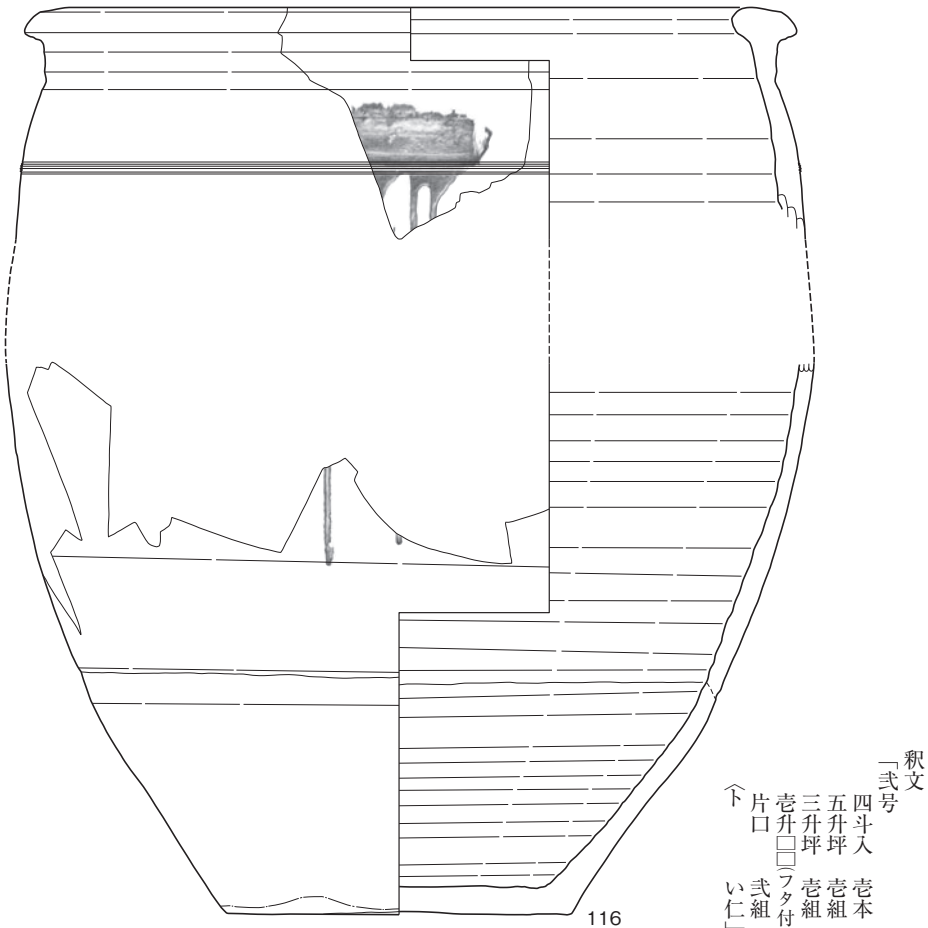


109



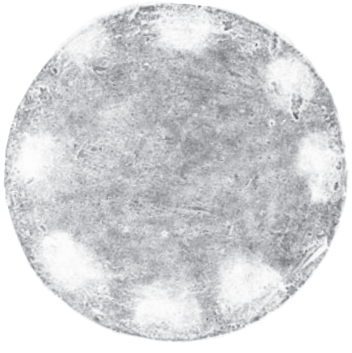


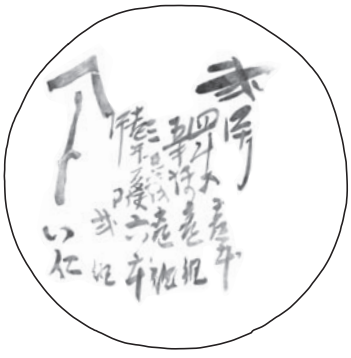
110



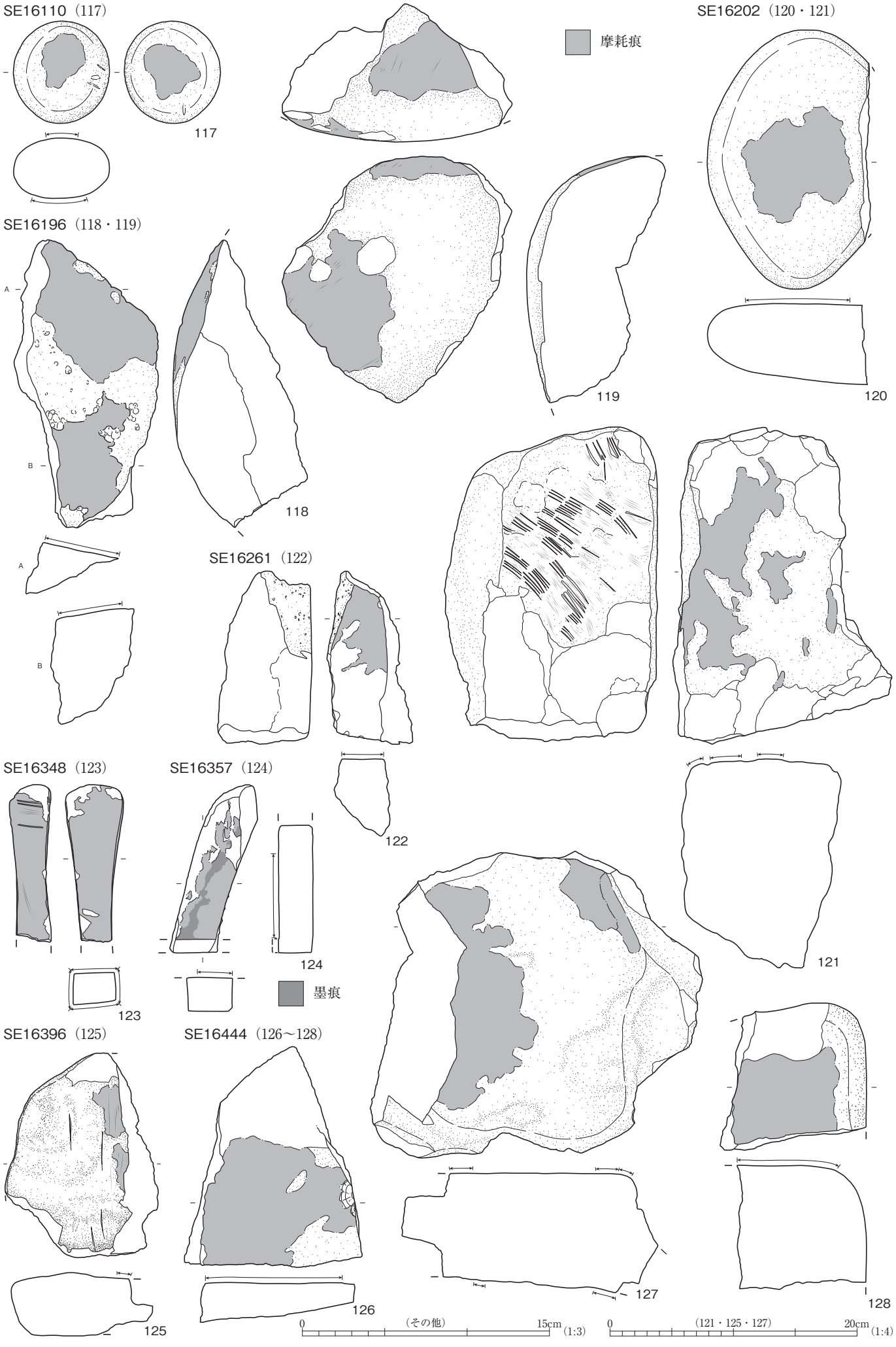
116

釈文
「弐号
四斗入　壱本
五升坪　壱組
三升坪　壱組
壱升□□（フタ付カ）六本
片口　弐組
〈下〉
い仁」

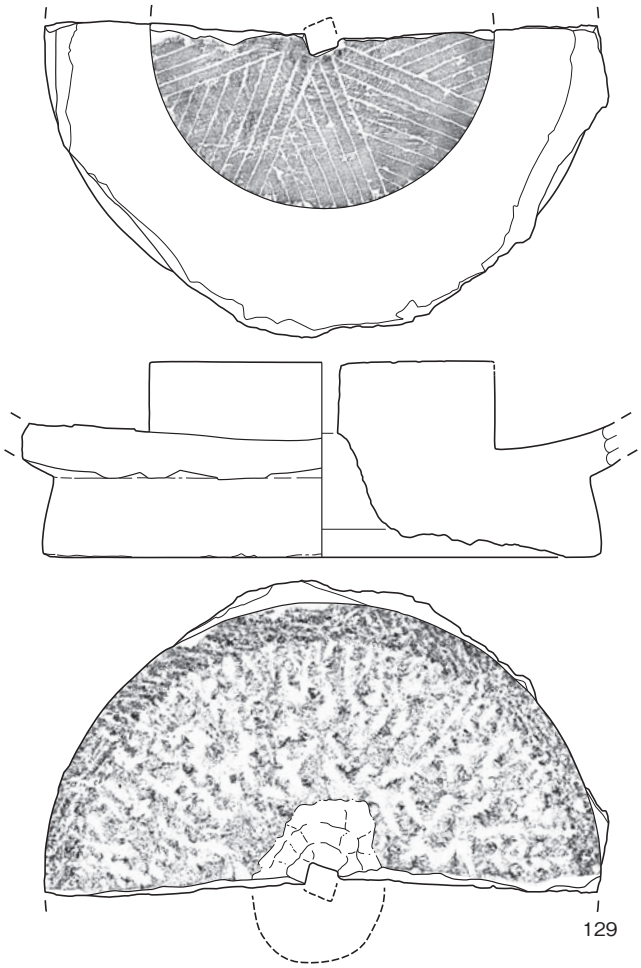


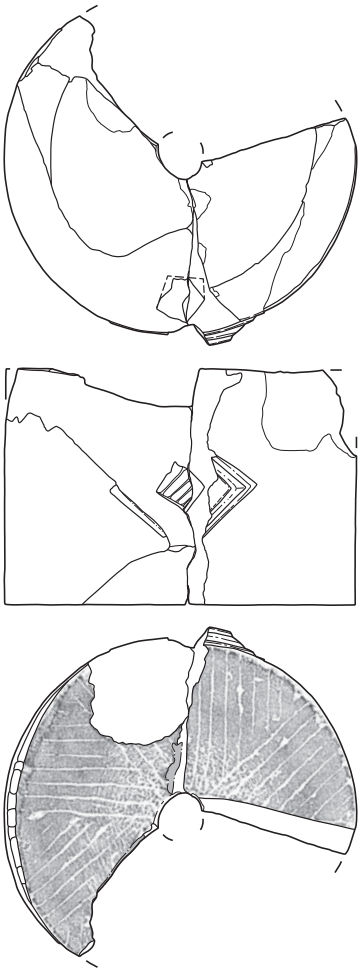


0　(114)　5cm　(1:1)
0　(113・115)　10cm　(1:2)
0　(その他)　15cm　(1:3)
0　(116)　25cm　(1:5)

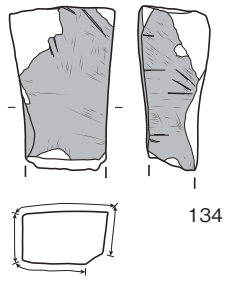

SE16110（117）
117
SE16202（120・121）
摩耗痕
SE16196（118・119）
A
B
118
119
120
SE16261（122）
122
SE16348（123）
123
SE16357（124）
124
墨痕
121
SE16396（125）
125
SE16444（126～128）
126
127
128
0
（その他）
15cm
(1:3)
0
(121・125・127)
20cm
(1:4)

SE16582（129・130）

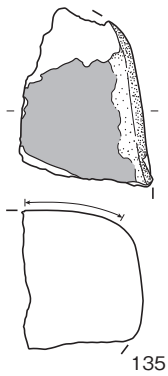




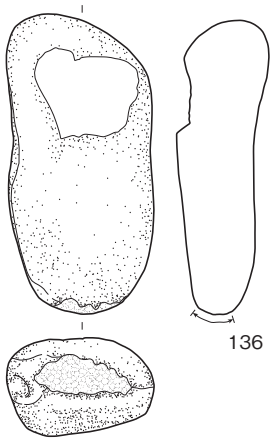
SD16048（134）



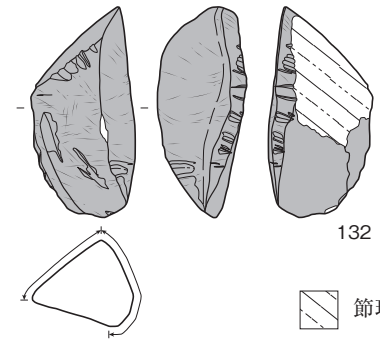
SD16077（135）



SD16085（136～141）

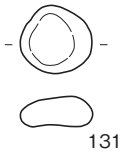


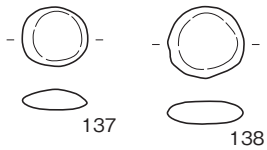
SK16045（132・133）

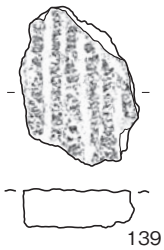


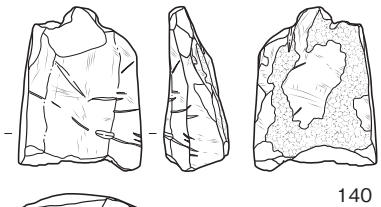
節理面

SK16033（131）

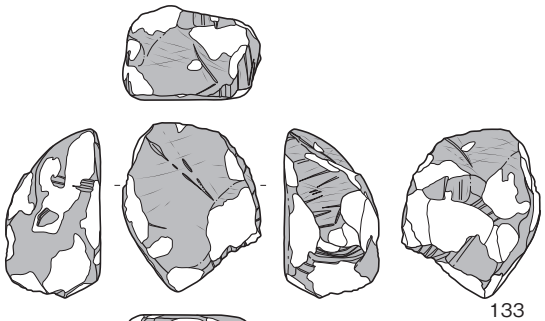




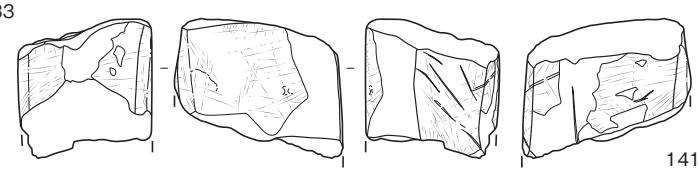


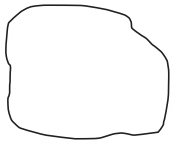


敲打痕



摩耗痕



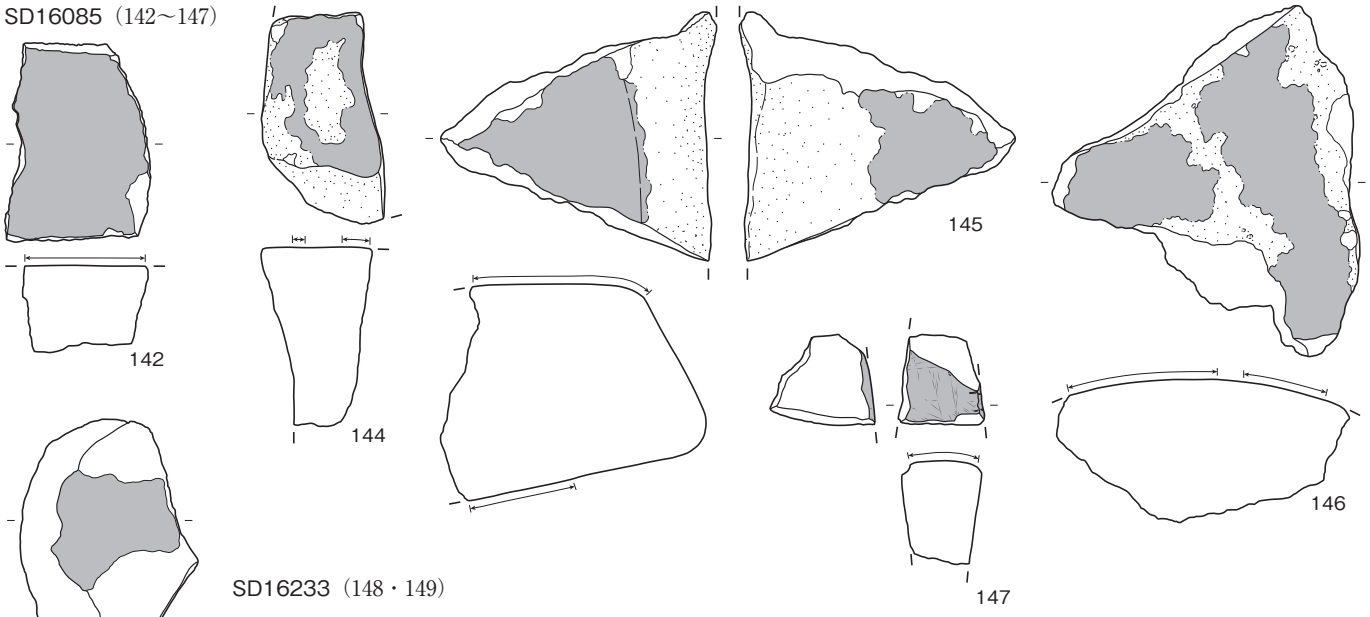


0　（131・137・138）　10cm　(1:2)

0　（その他）　15cm　(1:3)

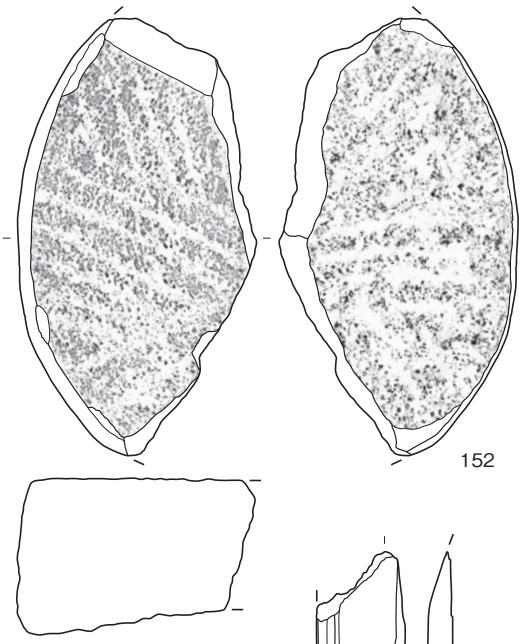
0　（129・130・133）　20cm　(1:4)

SD16085（142～147）

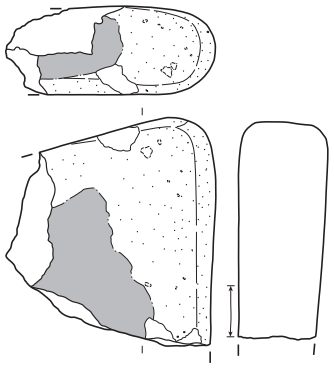


SD16233（148・149）

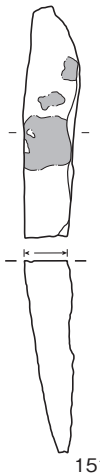
SD16356（152～156）

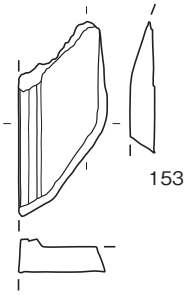


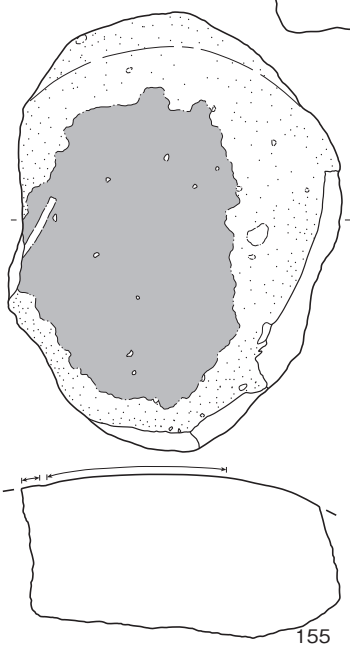
SD16242（150）

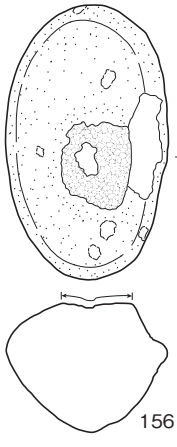


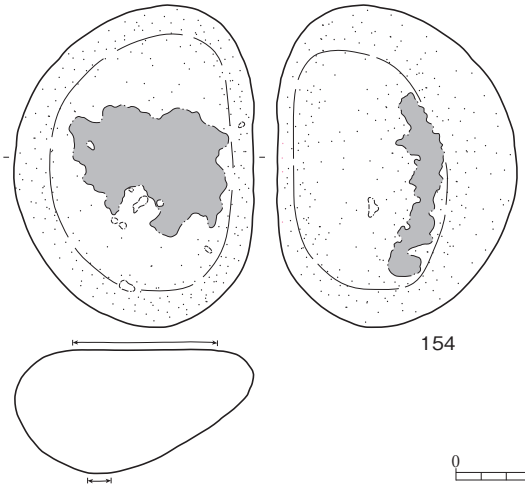
SD16328（151）

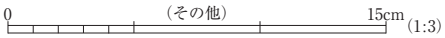


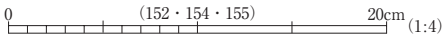




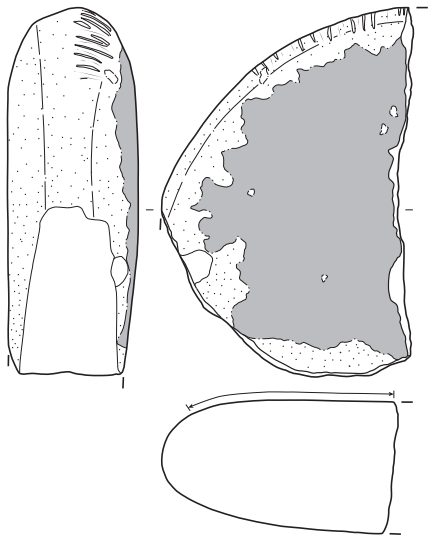






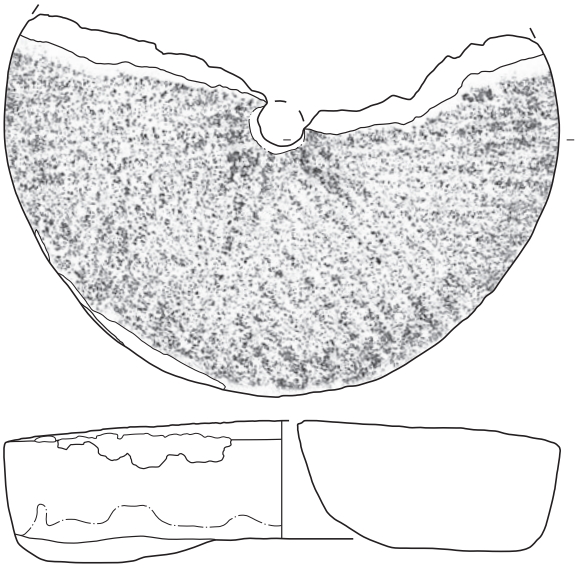


SD16383（157）

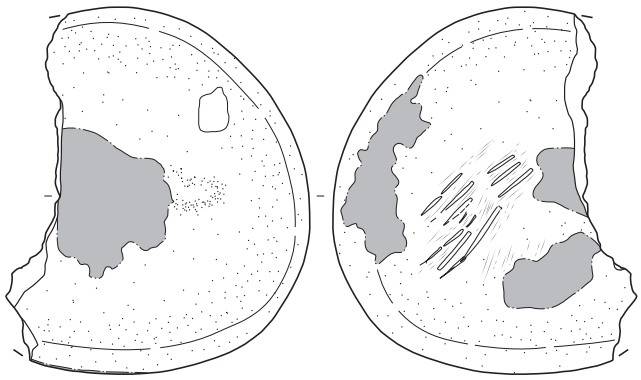


157

P16228（158・159）

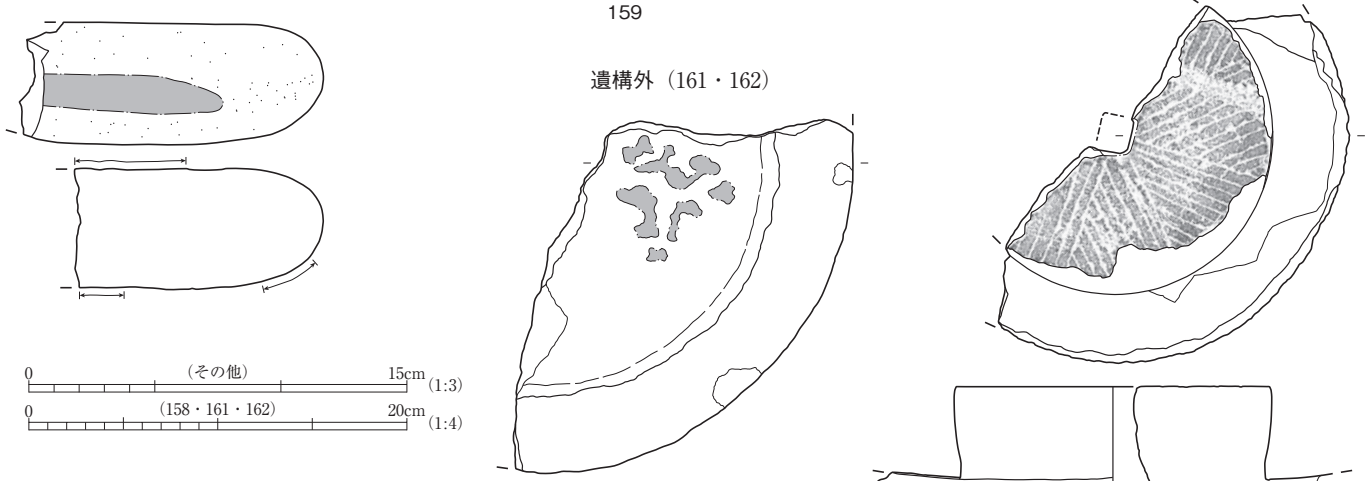


158



159

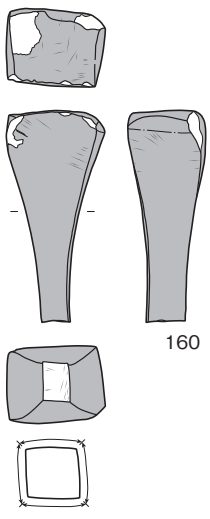
遺構外（161・162）



0　（その他）　15cm　(1:3)

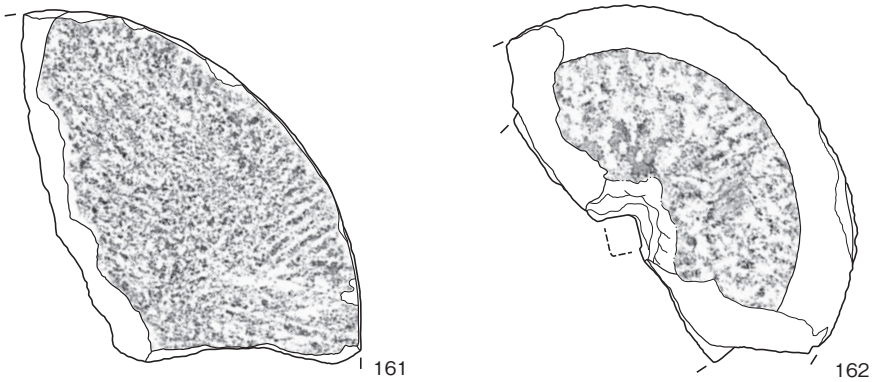
0　（158・161・162）　20cm　(1:4)

P16519（160）



160

摩耗痕

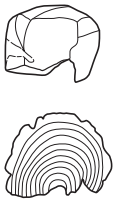


161

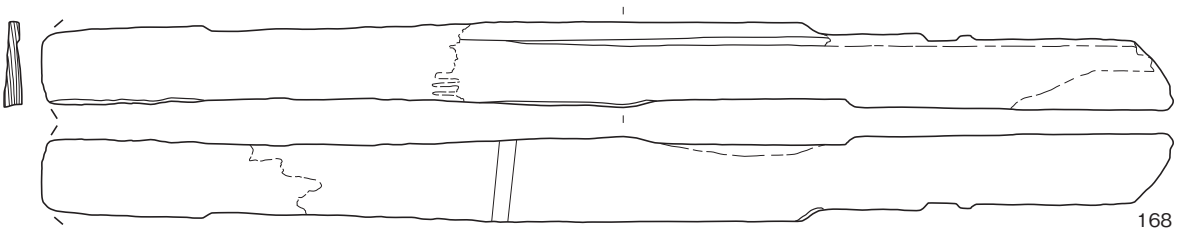
162

SB16689-P16149　SE16017-9層（168～175）

（163）

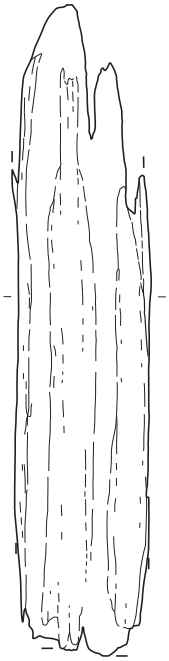


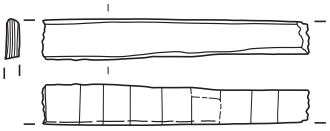
163



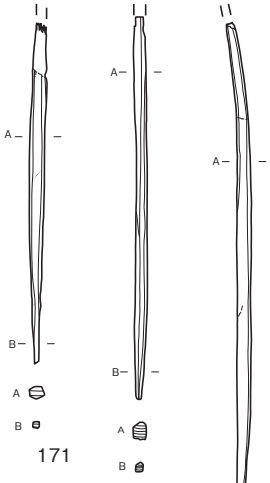
168

SB16706-P16543（165）

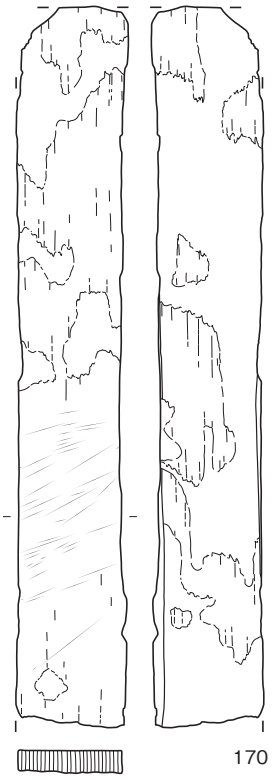




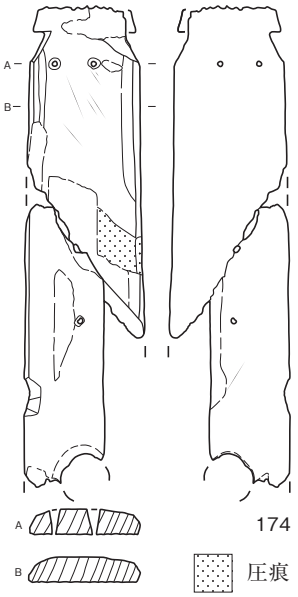
169



171　172　173



170

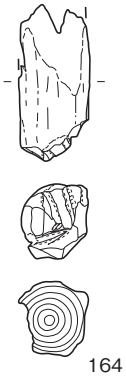


174

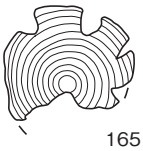
圧痕

SB16692-P16265

（164）

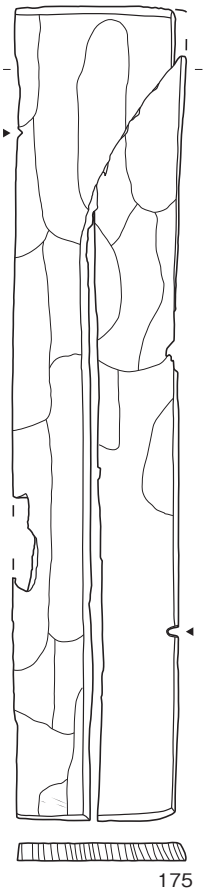


164



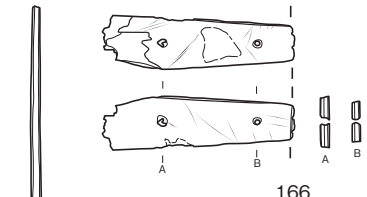
165

▶ 切り欠き



175

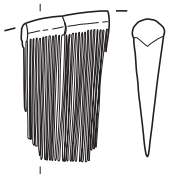
SE16016（166・167）



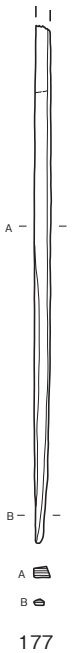
166

167

SE16017-10層（176～179）

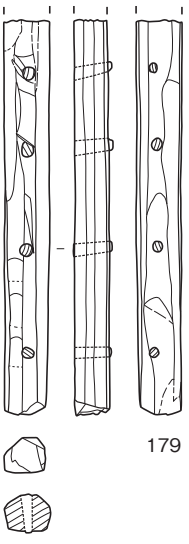


176



177

178



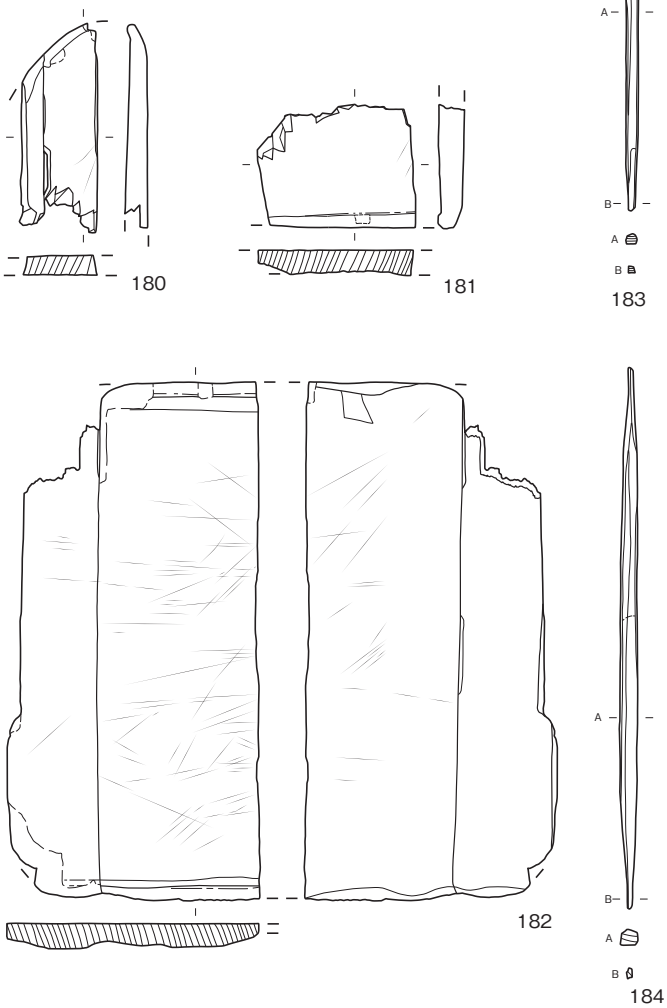
179

0　(176)　10cm　(1:2)

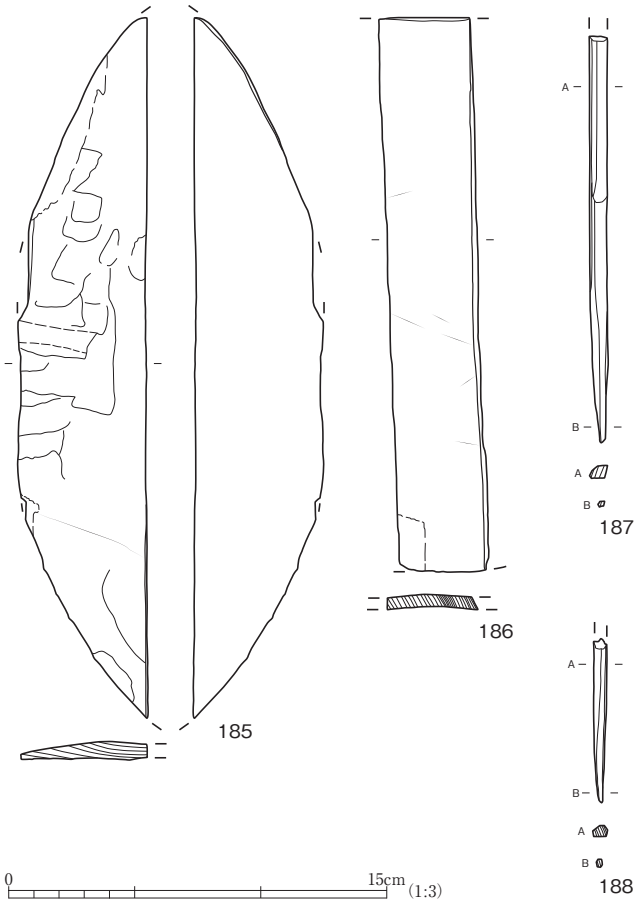
0　(その他)　15cm　(1:3)

0　(163～165)　30cm　(1:6)

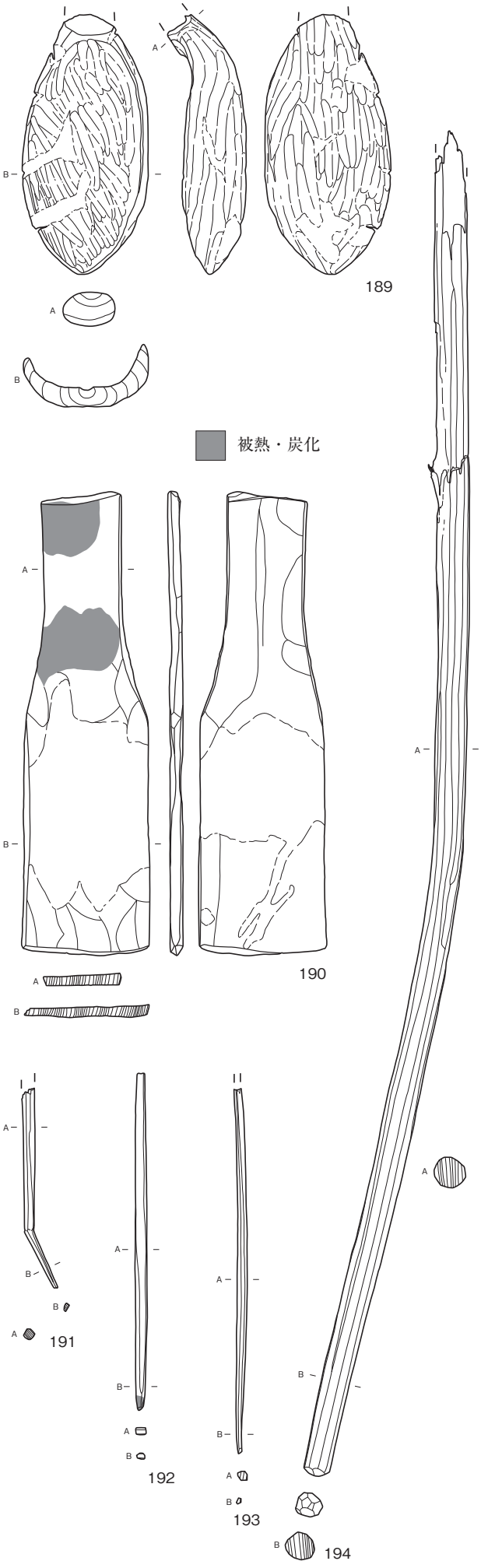
SE16017-11層（180～184）



SE16017-12層（185～188）

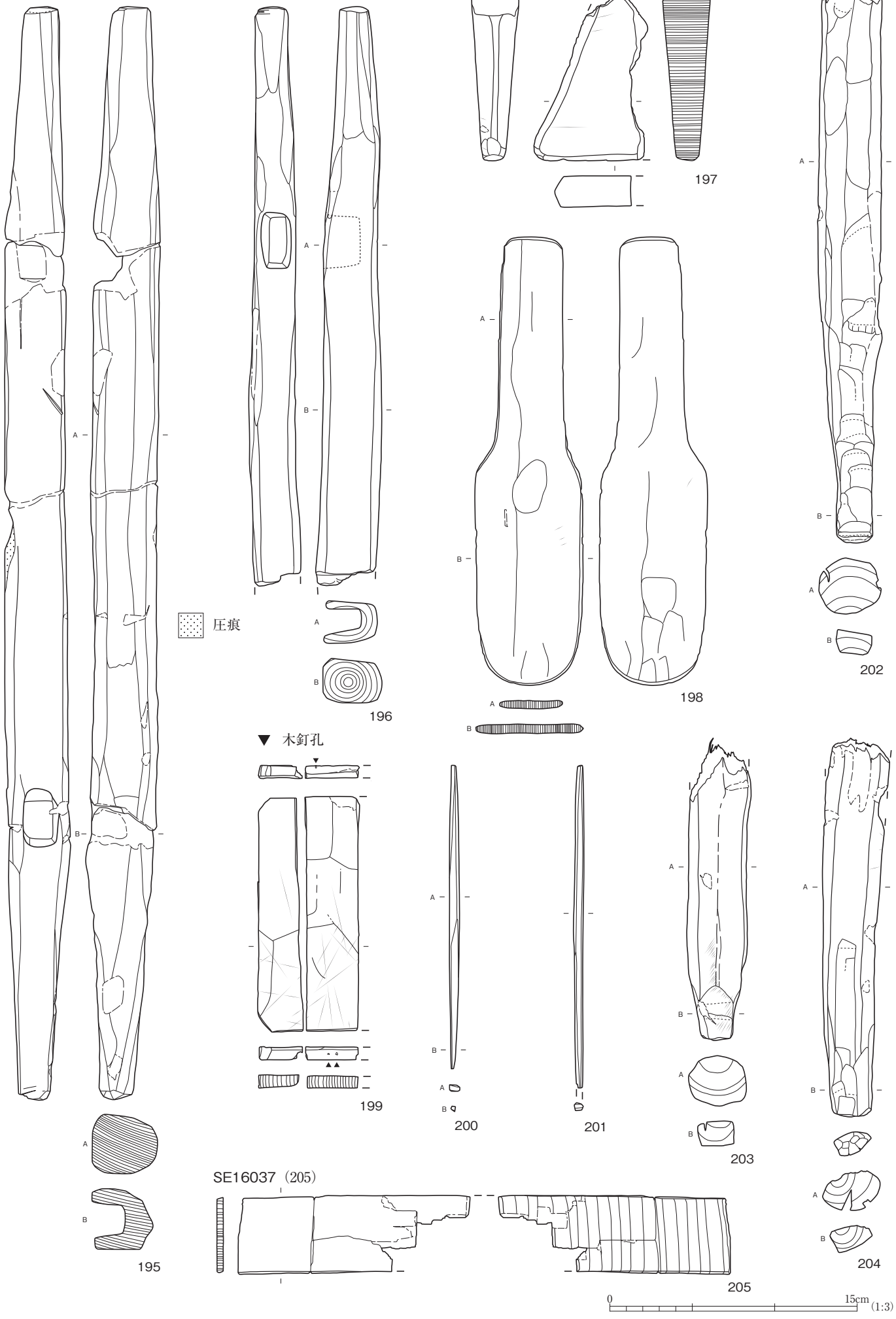


SE16028（189～194）

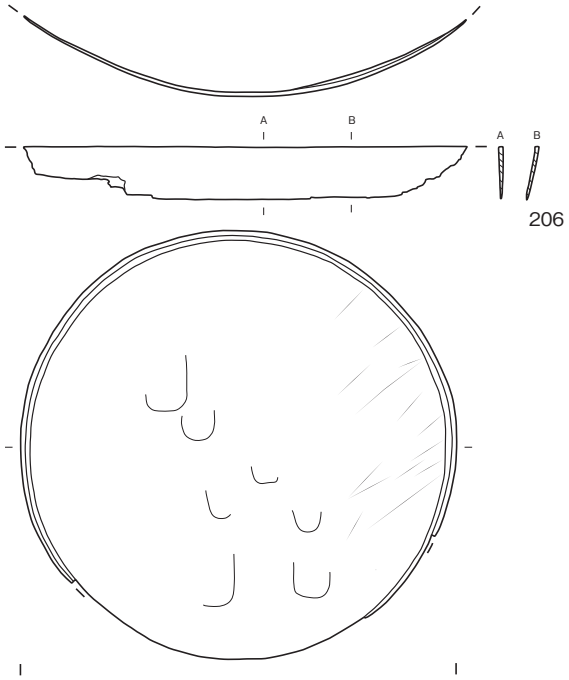


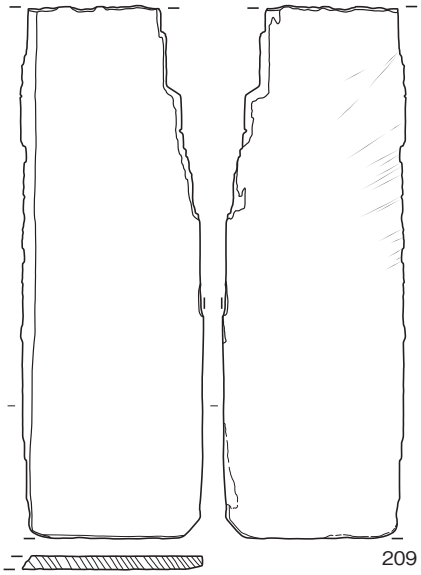
0　15cm（1:3）

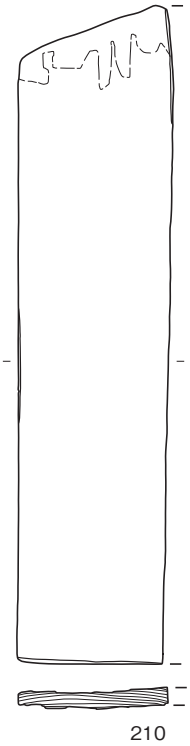
SE16031（195～204）



SE16103（206～210）

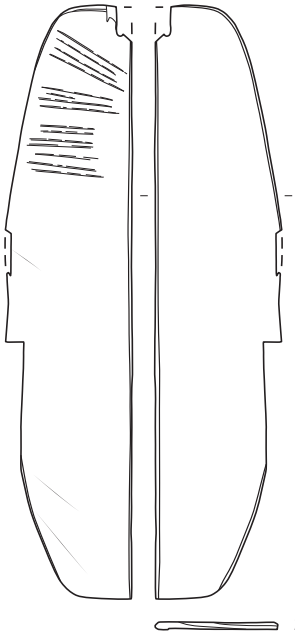




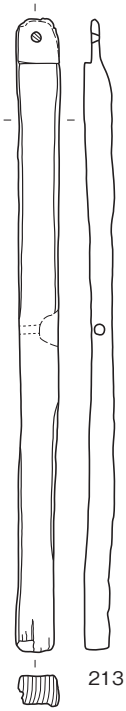


SE16202（212）

SE16295（215・216）



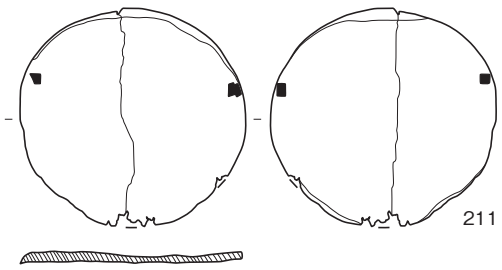
SE16264（213・214）



SE16296（217）

■ 樺皮

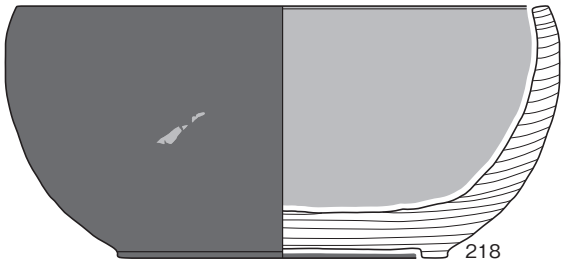
SE16110（211）



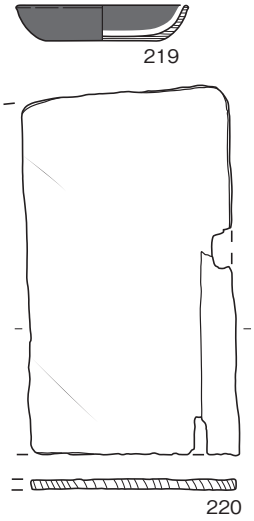
0　（209・210）　20cm　(1:4)

0　（その他）　15cm　(1:3)

SE16311（218）

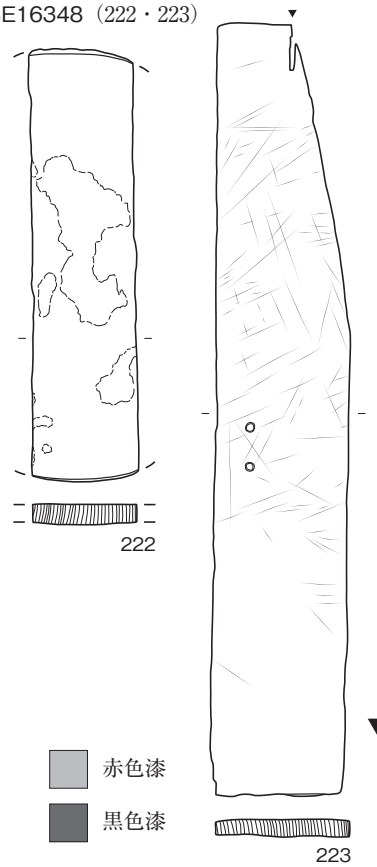


SE16319（219・220）

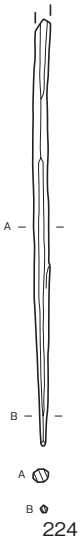


SE16340（221）

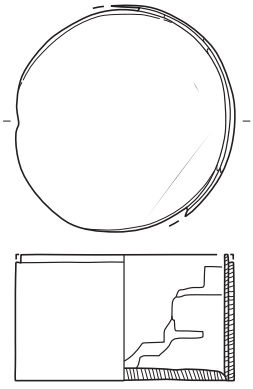
SE16348（222・223）



SE16372B（224）



SE16443（228）

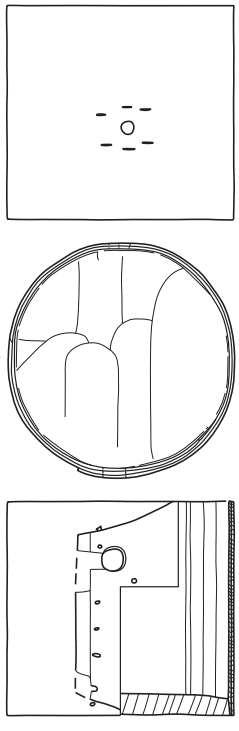


▼ 木釘孔か

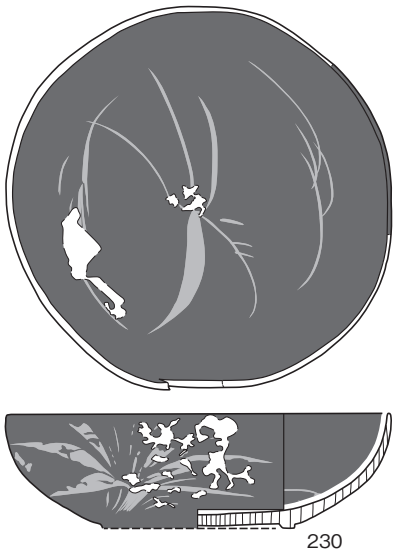
赤色漆

黒色漆

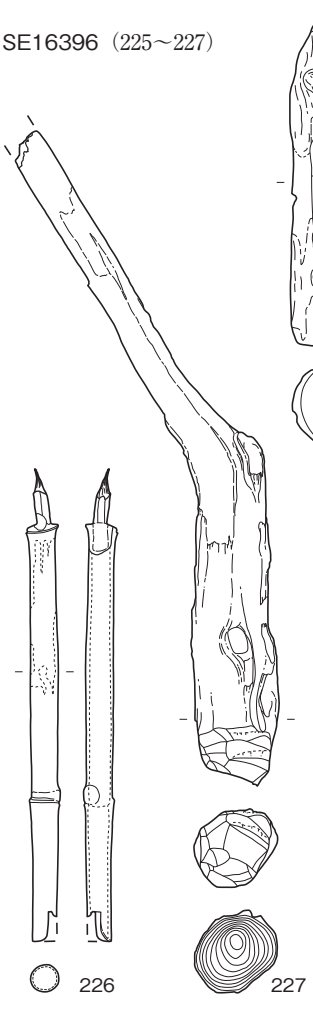
SE16582（232・233）



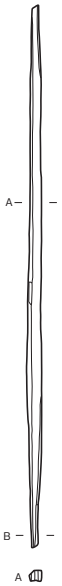
SE16561（230）



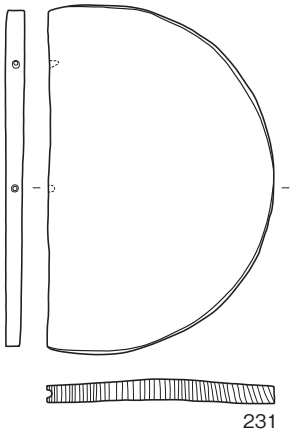
SE16396（225～227）

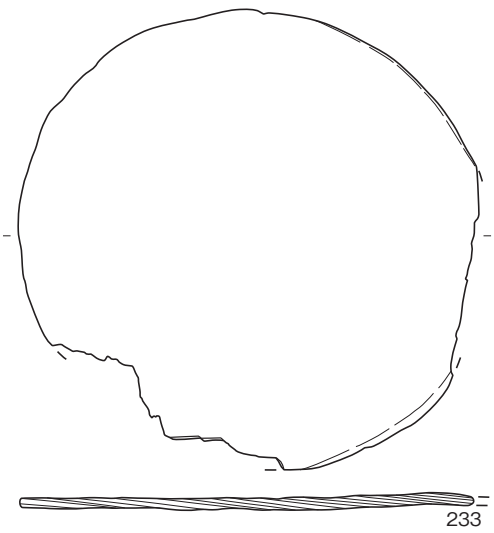


SE16477（229）



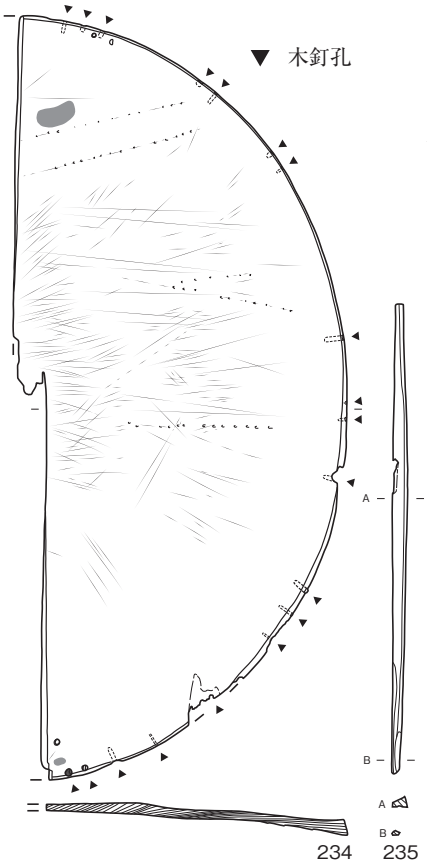
SE16567（231）



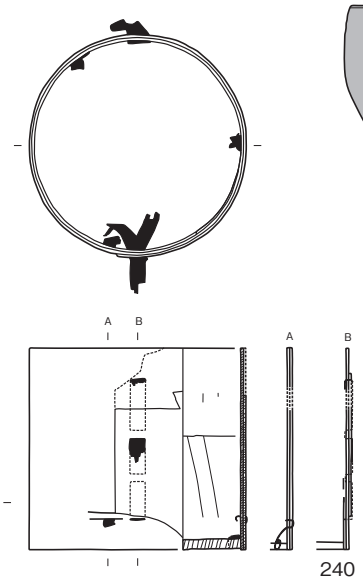


0　（その他）　15cm（1:3）　　0　（227）　30cm（1:6）

SE16623（234・235）

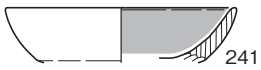


SE16677（240）

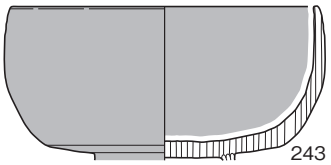


赤色漆　被熱・炭化
黒色漆　樺皮

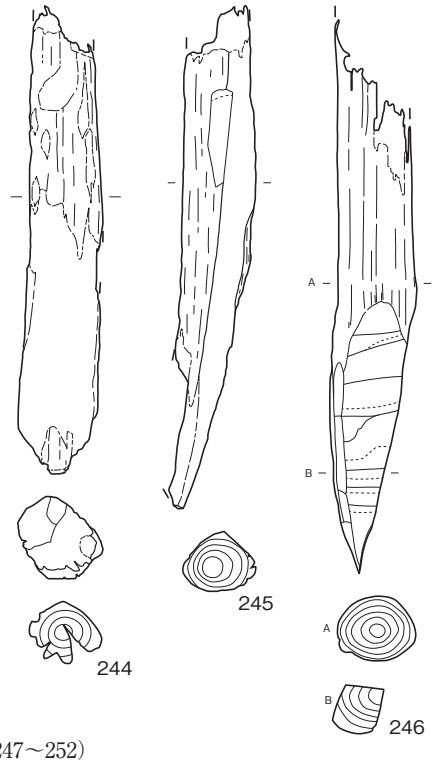
SK16667（241）



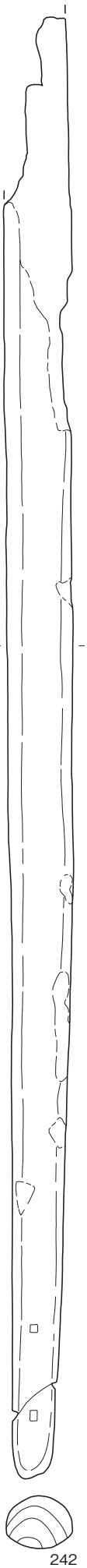
SX16540（243）



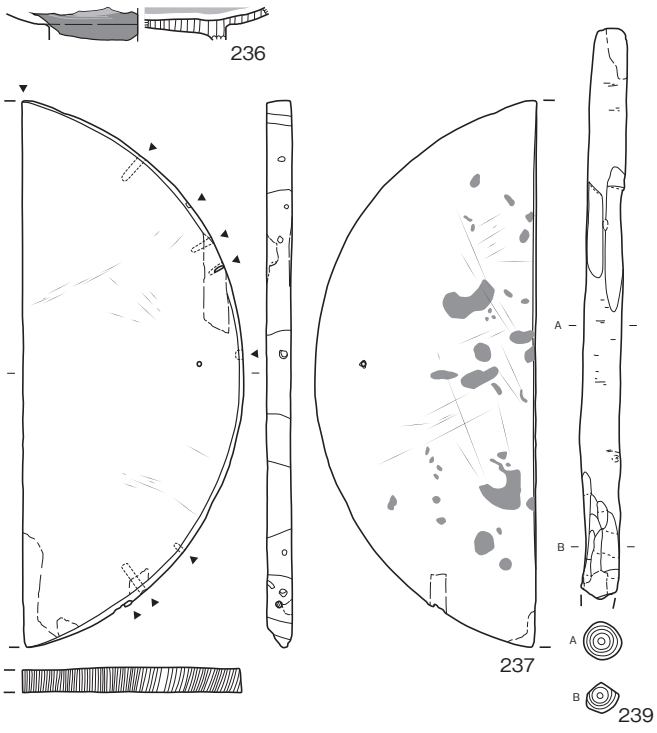
P16337（244）　P16342（245）　杭列（246）



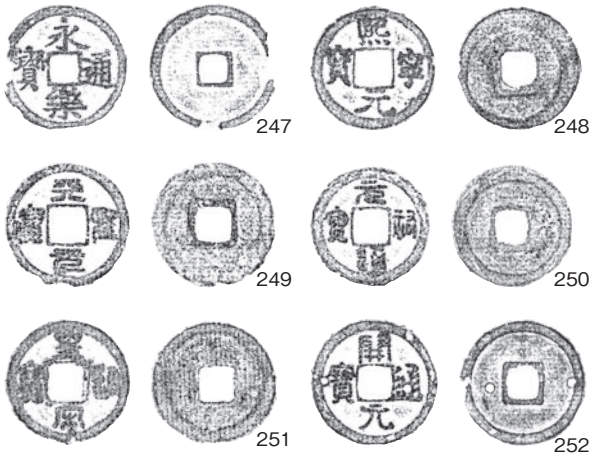
SX16050（242）



SE16644（236～239）



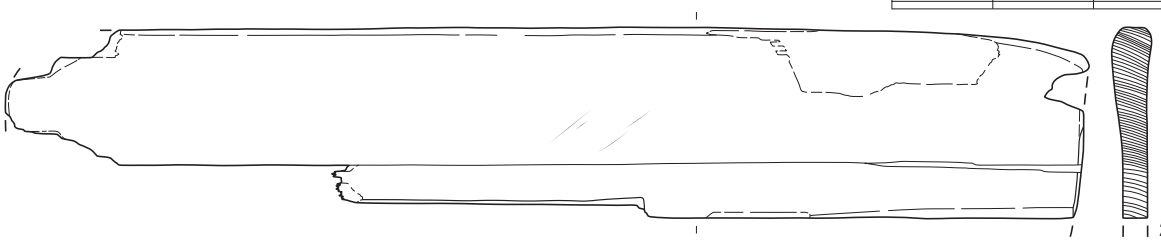
SK16667（247～252）



SX16050（253）

SE16295（254）

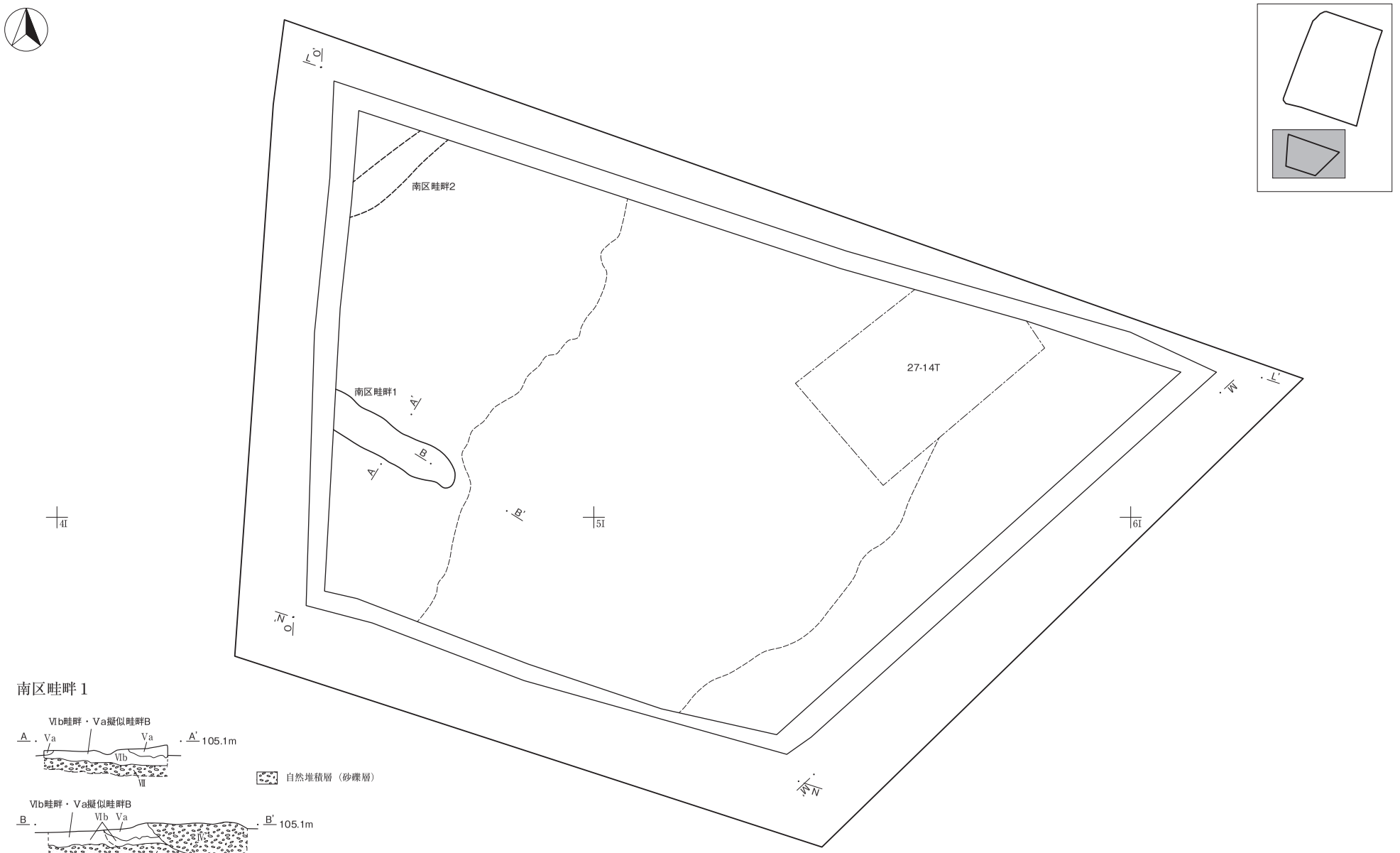
254　写真掲載



0　(247～253)　6cm　(2:3)

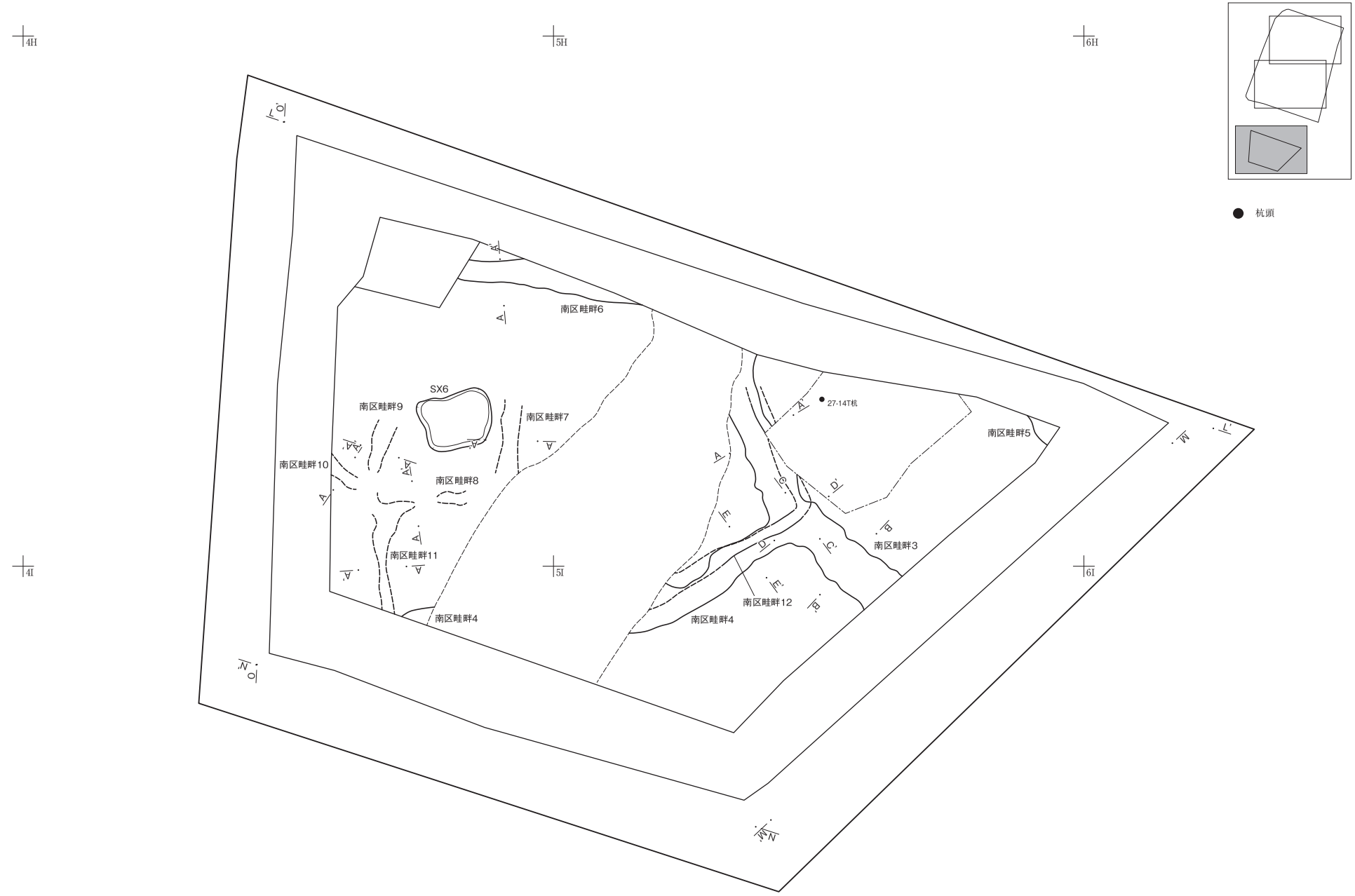
0　(その他)　15cm　(1:3)
0　(234)　25cm　(1:5)
0　(238・242)　20cm　(1:4)
0　(239・244～246)　30cm　(1:6)

下層全体図
4
5
6
7
8
9
C
D
E
F
G
H
I
J
調査北区
北区畦畔１盛土部分
国道17号線
三用川
0
(1:5,000)
200m
［国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所
平成27年作成地図を使用］
調査南区
0
(1:300)
15m
上層全体図
3
4
5
6
H
I
調査南区

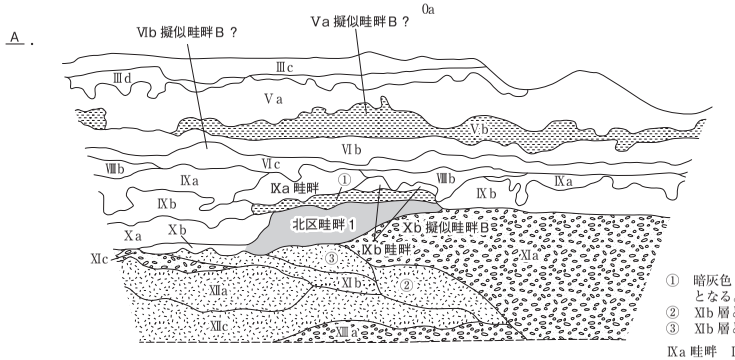

4H
5H
6H
4I
5I
6I
南区畦畔2
南区畦畔1
27-14T
A
A'
B
B'
南区畦畔1
Ⅵb畦畔・Va擬似畦畔B
A
Va
Va
A'
105.1m
Ⅵb
Ⅶ
自然堆積層（砂礫層）
Ⅵb畦畔・Va擬似畦畔B
B
Ⅵb
Va
B'
105.1m
Ⅶ
0
断面図（1:40）
2m
0
平面図（1:100）
5m

北区畦畔1盛土部分
杭頭
杭先
杭端（横位）
西杭列
北区畦畔1
中央杭列
東杭列
SD9
SD10
東西トレンチ4
東西トレンチ3
中央ベルト
水田8
水田1・2
6D
7D
6E
7E
0
(1:100)
5m

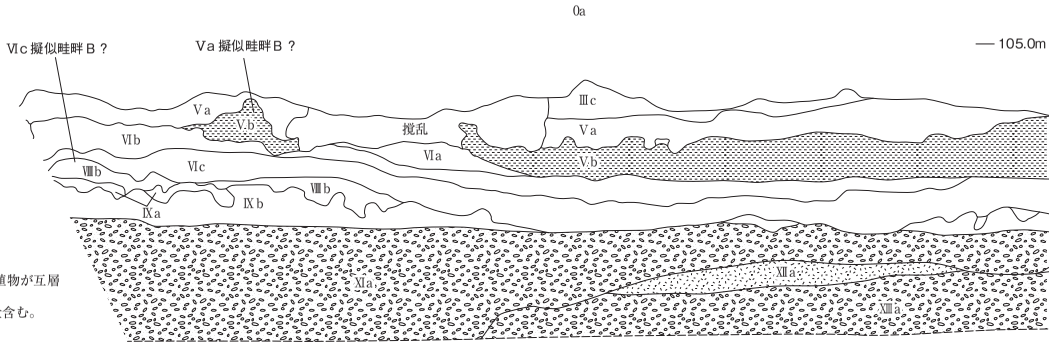
北区畦畔1盛土部分
杭頭
杭先
杭端（横位）
中央ベルト
東西トレンチ2
東西トレンチ1
東杭列
中央杭列
杭79
杭18
杭19
杭20
杭21
杭22
杭23
杭24
杭25
杭26
杭27
杭28
杭29
杭30
杭31
杭32
杭33
杭34
杭35
杭36
杭37
杭38
杭39
杭40
杭41
杭42
杭43
杭44
杭45
杭46
杭47
杭48
杭49
杭50
杭51
杭52
杭53
杭54
水田7
SD11
SX3
SD4
北区畦畔2
SD12
水田5
北区畦畔3
北区畦畔4
北区畦畔5
7F
7G
6F
6G
5F
5G
A
A'
J
J'
K
K'
0
5m
(1:100)


4H
5H
6H
4I
5I
6I
南区畦畔6
南区畦畔9
SX6
南区畦畔7
南区畦畔10
南区畦畔8
南区畦畔11
南区畦畔4
27-14T杭
南区畦畔5
南区畦畔3
南区畦畔12
南区畦畔4
杭頭
0
(1:100)
5m

北区　北西壁



北区　北壁１

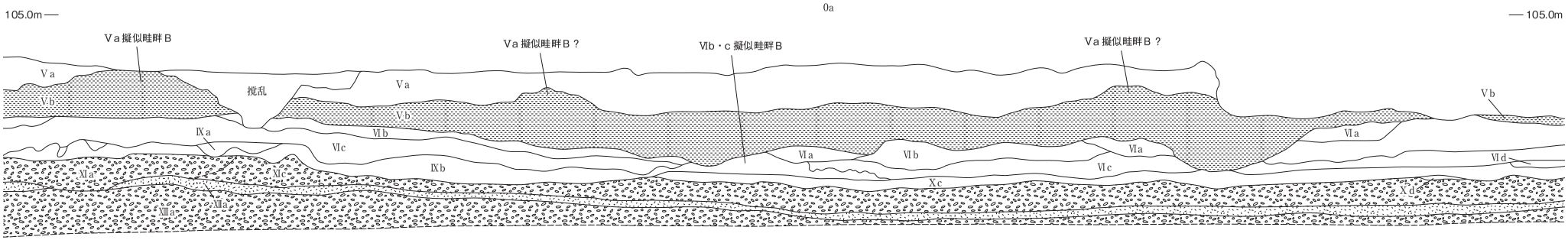


① 暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物が互層となる。Ⅸb 層の擬似畦畔Ｂ。
② Ⅺb 層と同質土で、最大 20mm の礫、腐植物を少量含む。
③ Ⅺb 層と同質土で、砂の混じりが多い。

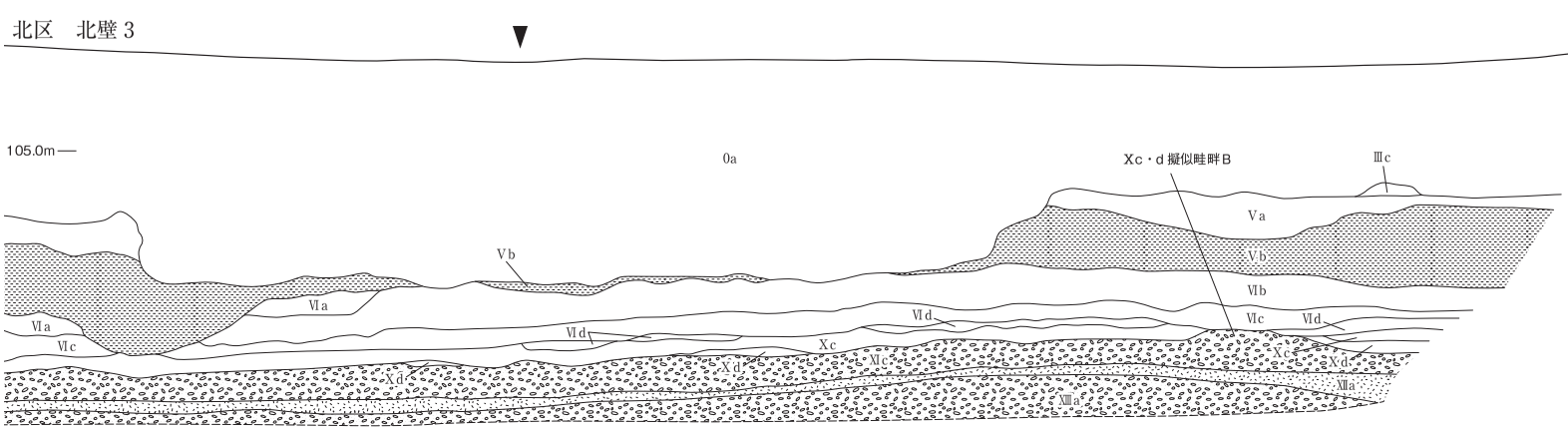
Ⅸa 畦畔　Ⅸa 層に比べ、Ⅸb 層ブロックの混じりが多い。
Ⅸb 畦畔　Ⅸb 層に比べあまり撹拌を受けていないか。下位に擬似畦畔Ｂが認められることから、Ⅸb 層に伴う畦畔とした。
北区畦畔１　Ⅹb 層と同質土で、最大径 10mm の礫を多量含む。水田耕作土部分に比べ酸化の度合いが強い。

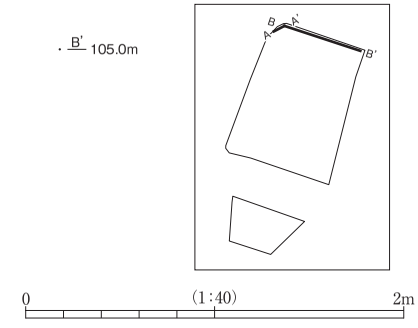
北区畦畔１盛土部分
自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

北区　北壁２

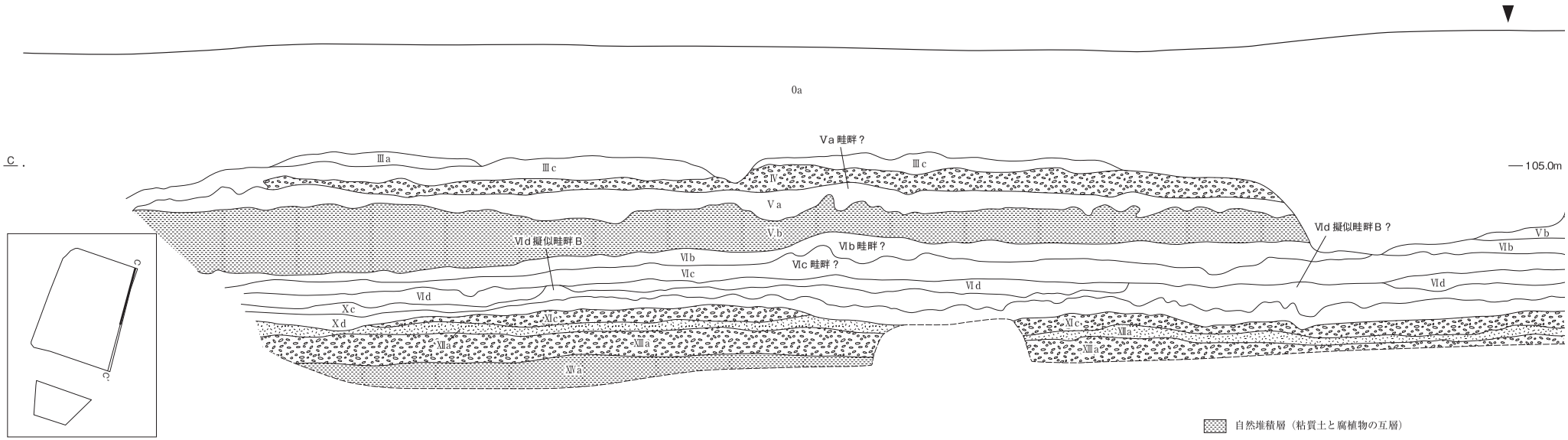


北区　北壁３

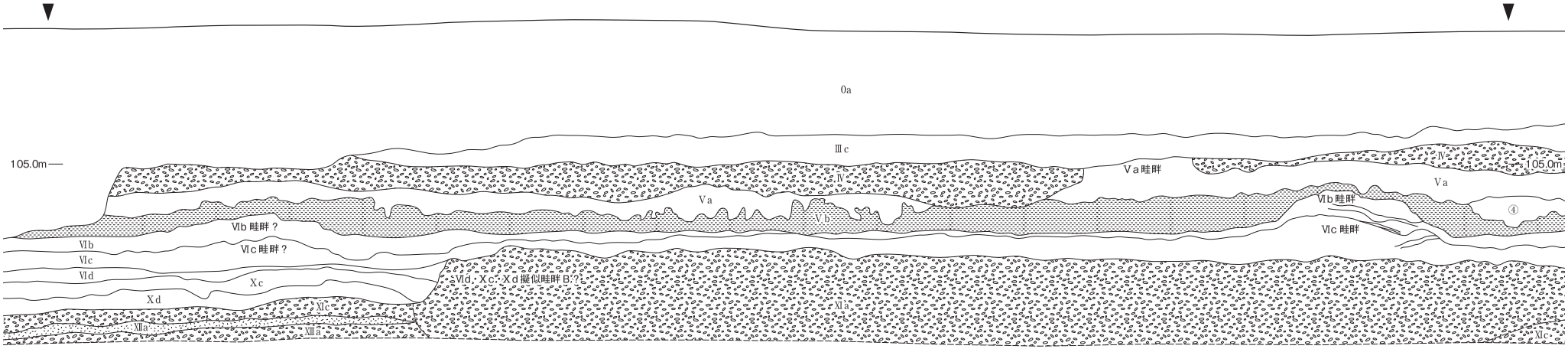




北区　東壁 1



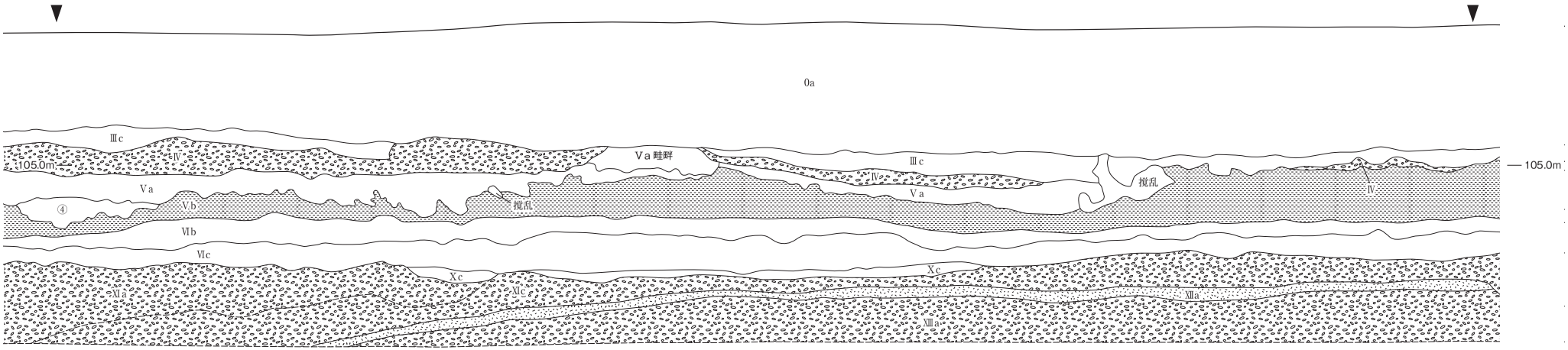
北区　東壁 2



④　Va 層と同質土で、径 10cm ほどの Vb 層土ブロックを多量に含む。Va 層に比べ撹拌度が弱い。水田掘方の埋土か。

0　(1:40)　2m

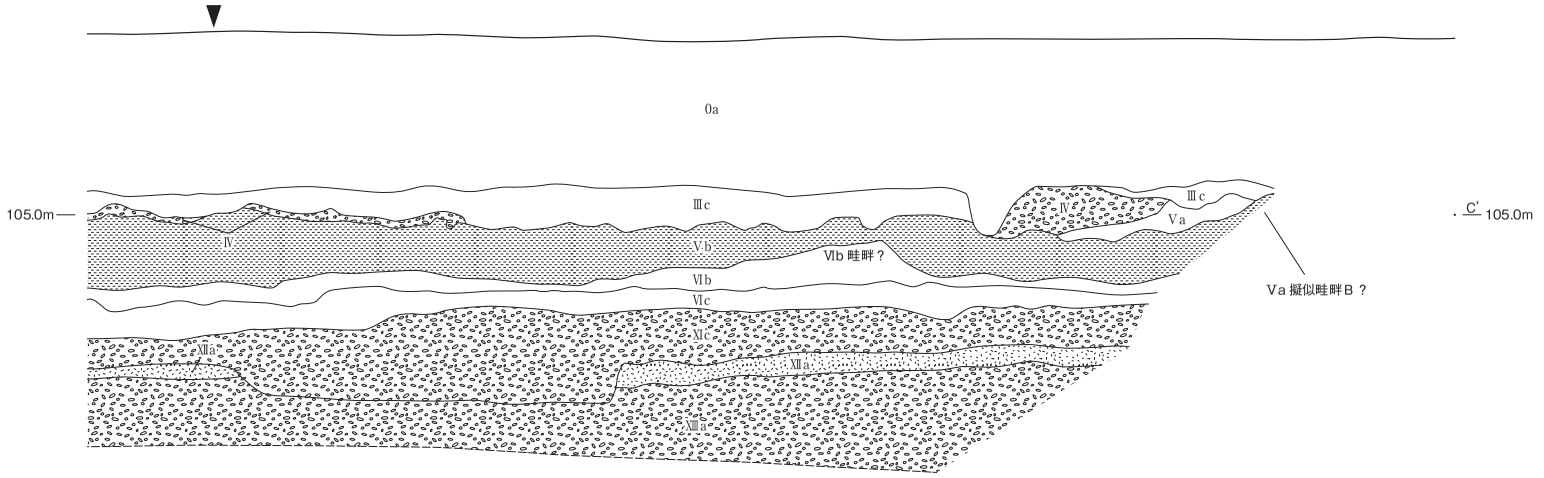
北区　東壁 3

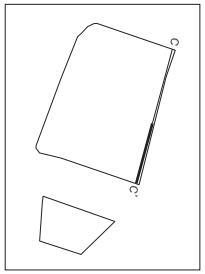


Va 畦畔　Va 層に比べ、径 15mm の礫を少量含む。Vb 層ブロックの混入は少なく、やや酸化度合いが強い。

自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

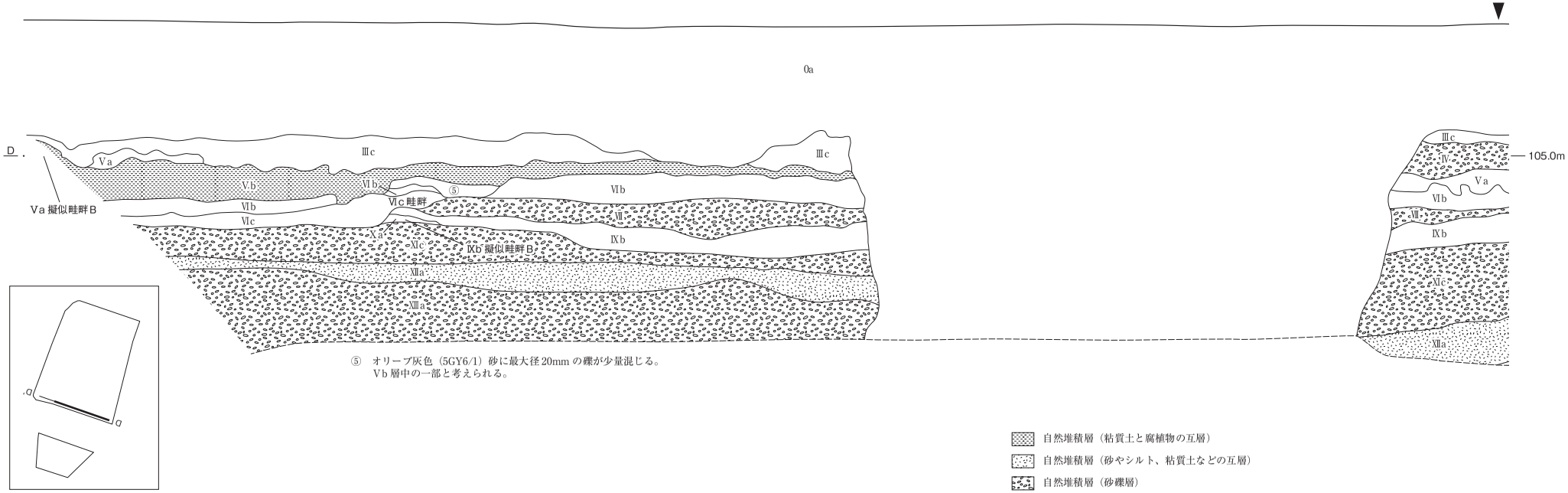
北区　東壁 4





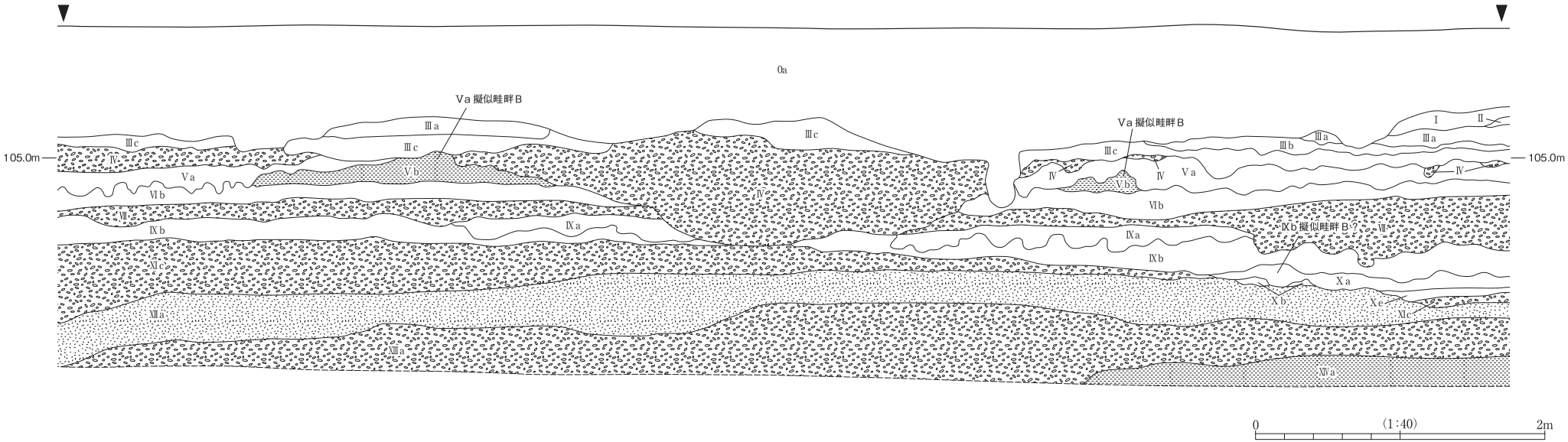
0　(1:40)　2m

北区　南壁 1

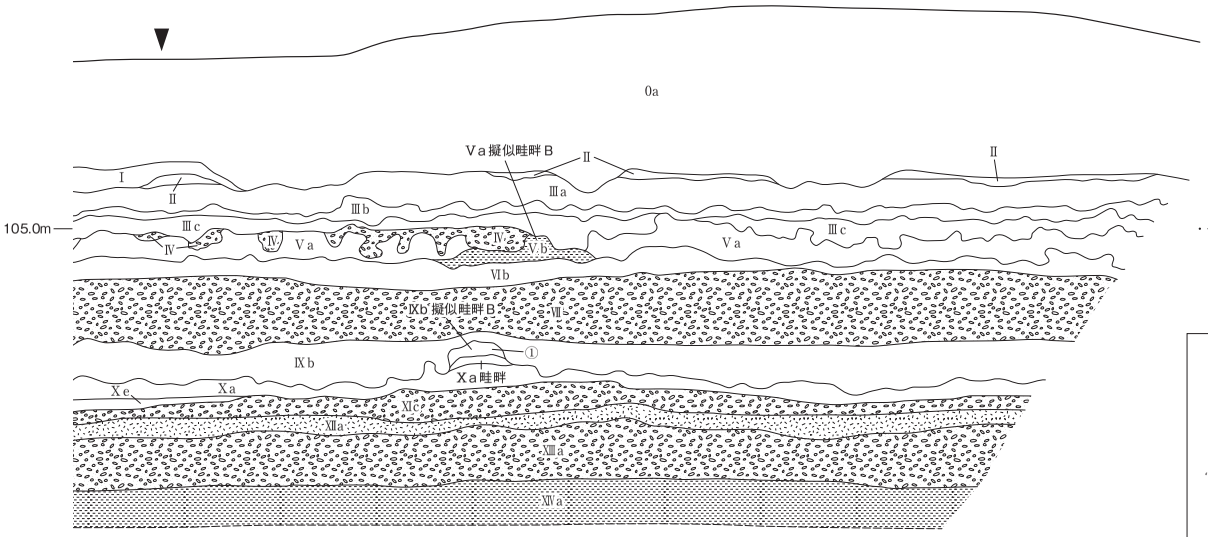


⑤　オリーブ灰色（5GY6/1）砂に最大径 20mm の礫が少量混じる。
Vb 層中の一部と考えられる。

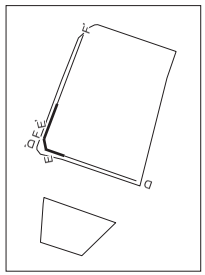
北区　南壁 2



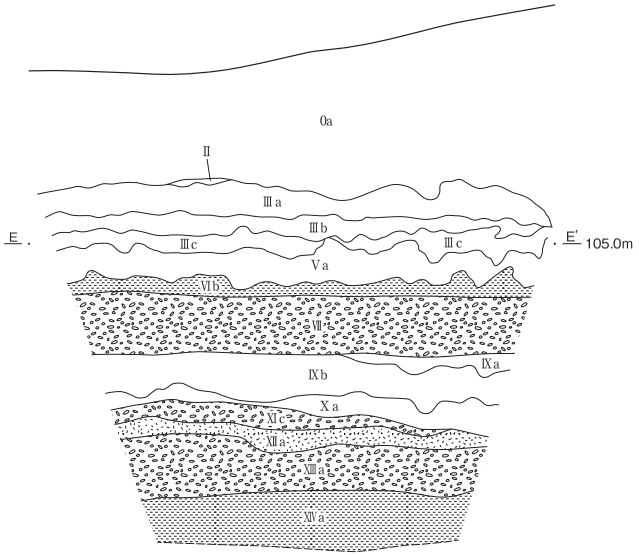
北区　南壁3



① 暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物が互層となる。Ⅸb層の擬似畦畔B。
Xa畦畔　Xa層に比べやや粘性が弱く、砂礫の混入が少ない。

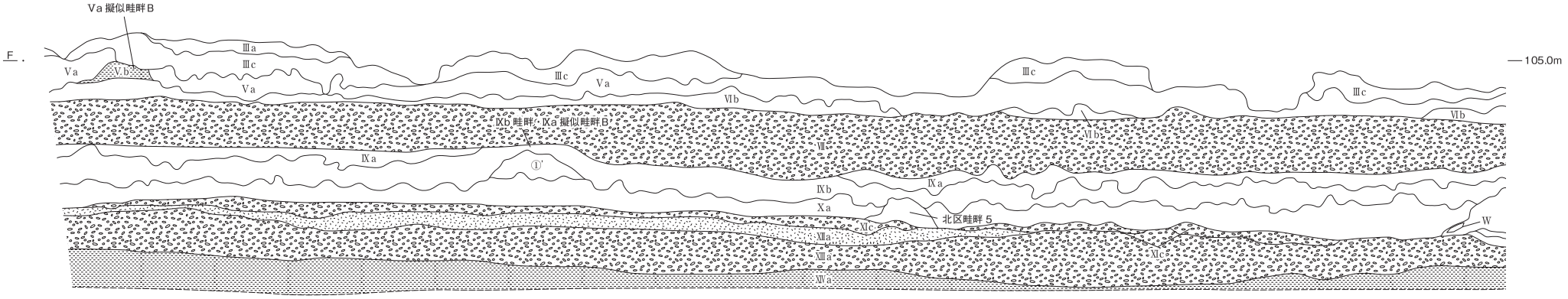


北区　南西壁



自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

北区　西壁1

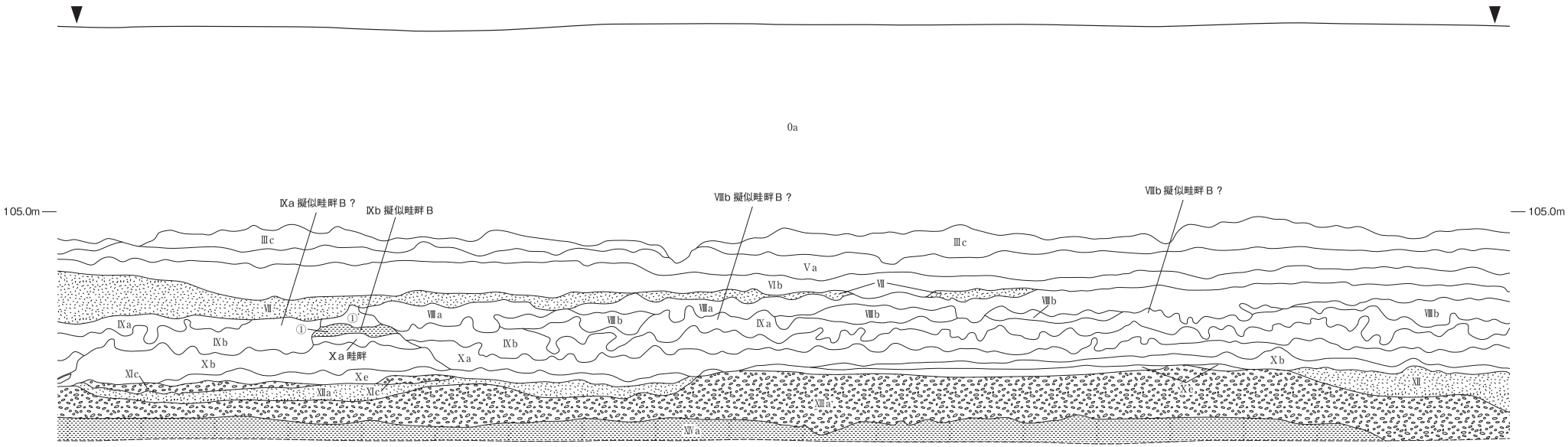


①' Ⅸb層の擬似畦畔Bで、①を撹拌した層だが、Ⅸb層ほどではない。

北区畦畔5　Xa層よりも灰白色ブロックと腐植物の混じりがやや多い。また、わずかに酸化度合いが強い。
Xb層が擬似畦畔Bとして残った部分。

0　(1:40)　2m

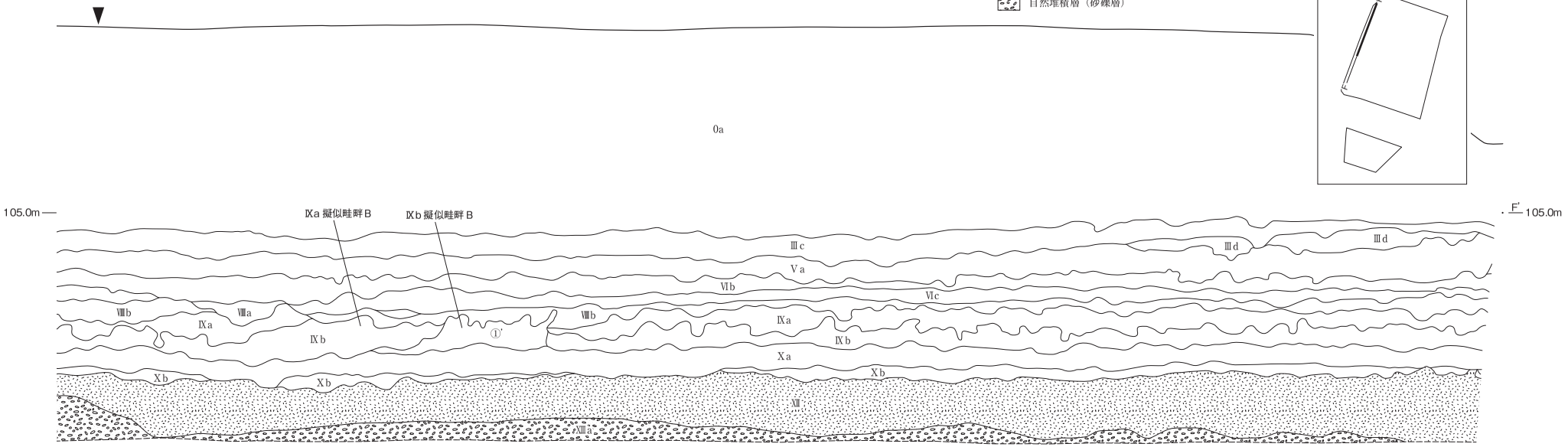
北区　西壁 2

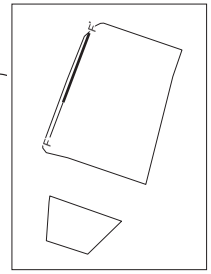


① 暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物が互層となる。Ⅸb 層の擬似畦畔Ｂ。
①' Ⅸb 層の擬似畦畔Ｂで、①よりは撹拌が進んでいるが、Ⅸb 層ほどではない。
Ⅹa 畦畔　Ⅹa 層よりも灰白色ブロックと腐植物の混じりがやや多い。また、わずかに酸化度合いが強い。

自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

北区　西壁 3

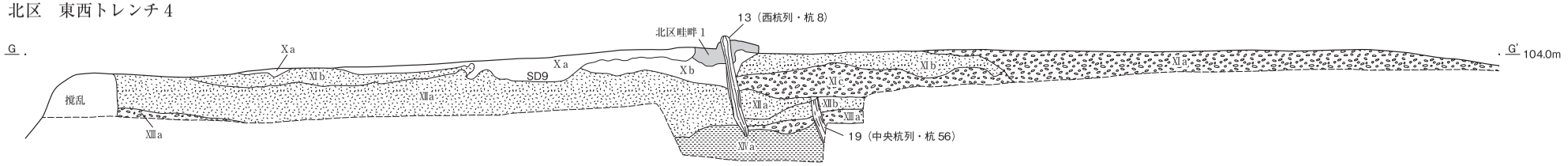




①' Ⅸb 層の擬似畦畔Ｂで、①よりは撹拌が進んでいるが、Ⅸb 層ほどではない。

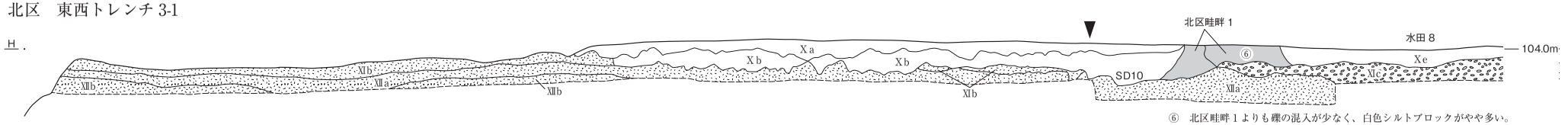
0　(1:40)　2m

北区　東西トレンチ 4



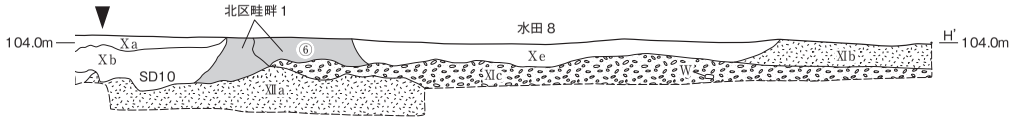
北区畦畔 1　Ⅹb 層と同質土で、最大径 10mm の礫を多量含む。水田耕作土部分に比べ酸化の度合いが強い。

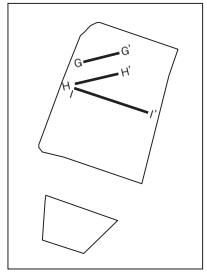
北区　東西トレンチ 3-1



⑥　北区畦畔 1 よりも礫の混入が少なく、白色シルトブロックがやや多い。

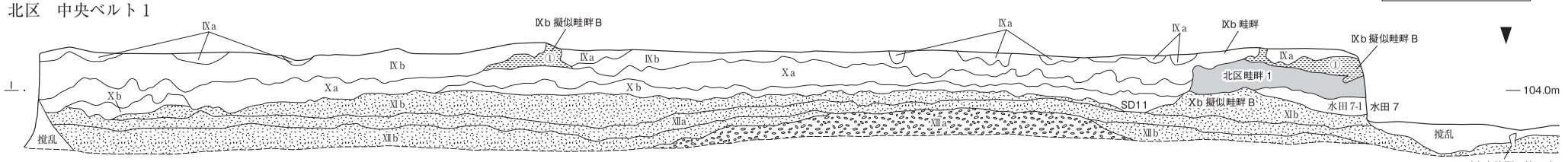
北区　東西トレンチ 3-2





北区畦畔 1 盛土部分
自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

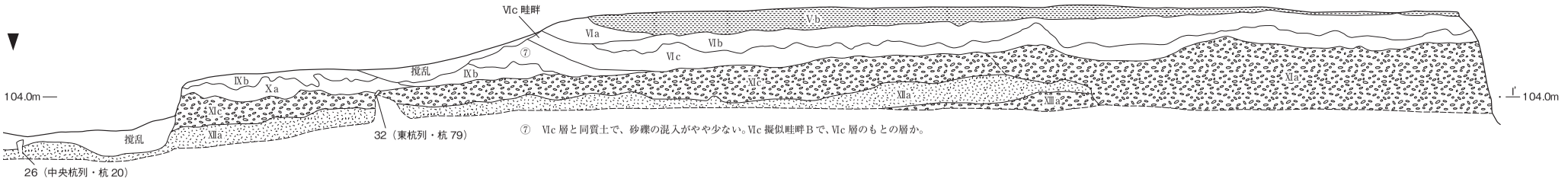
北区　中央ベルト 1



①　暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物が互層となる。Ⅸb 層の擬似畦畔 B。

水田 7
1　灰色（5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまりやや強。最大径 15mm の砂礫少量、径 5 ～ 10mm の白色シルトブロック少量、腐植物中量含む。Ⅹb 層に似る。

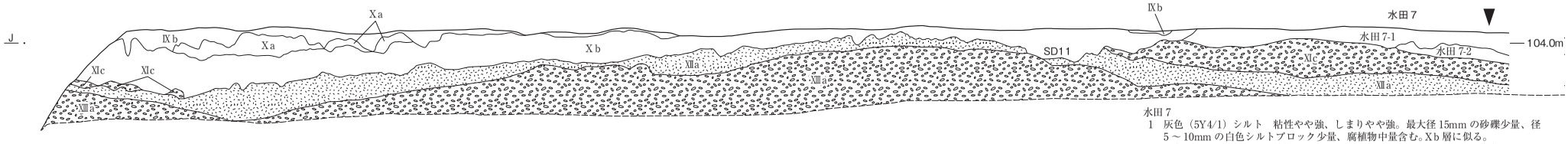
北区　中央ベルト 2



⑦　Ⅵc 層と同質土で、砂礫の混入がやや少ない。Ⅵc 擬似畦畔 B で、Ⅵc 層のもとの層か。

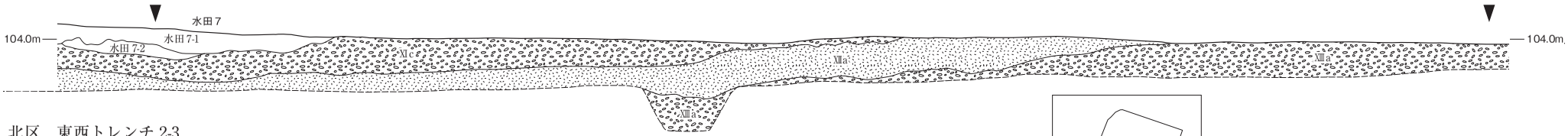
0　(1:40)　2m

北区　東西トレンチ 2-1

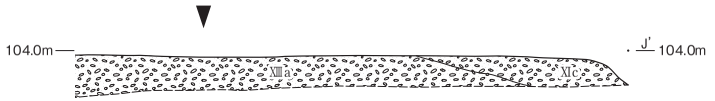


水田 7
1　灰色（5Y4/1）シルト　粘性やや強、しまりやや強。最大径 15mm の砂礫少量、径 5 ～ 10mm の白色シルトブロック少量、腐植物中量含む。Xb 層に似る。
2　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまりやや弱。径 5 ～ 20mm の白色シルトブロック中量、腐植物多量含む。掘方埋土か。

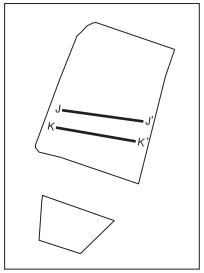
北区　東西トレンチ 2-2

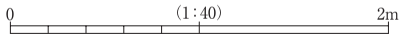


北区　東西トレンチ 2-3

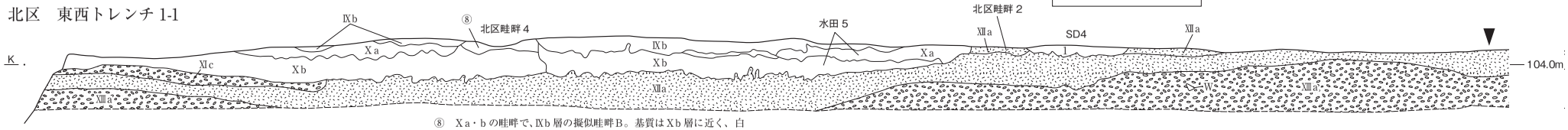


自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）



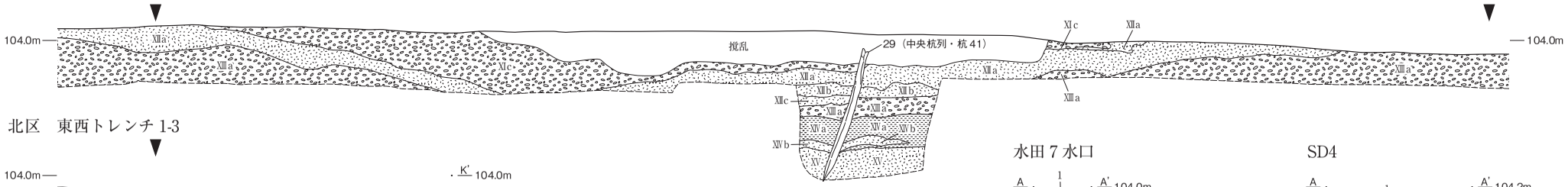


北区　東西トレンチ 1-1

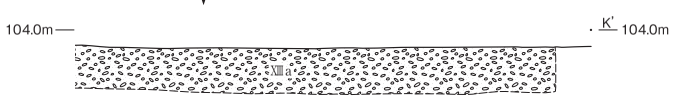


⑧　Xa・b の畦畔で、Ⅸb 層の擬似畦畔 B。基質は Xb 層に近く、白色シルトブロック少量、Ⅸb 層ブロック少量含む。

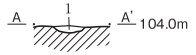
北区　東西トレンチ 1-2



北区　東西トレンチ 1-3

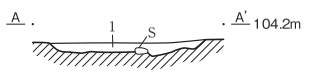


水田 7 水口



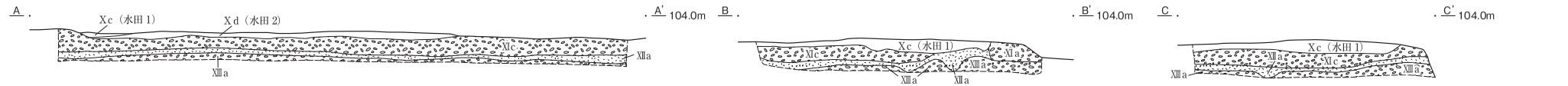
水田 7 水口
1　水田 7 の 1 層と同じ。

SD4

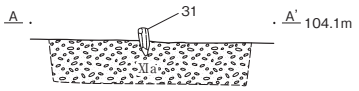


SD4
1　Xa 層と同質土。Ⅸb 層ブロックを微量含む。

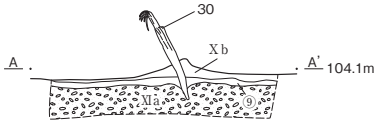
北区　水田 1・2



東杭列・杭 1

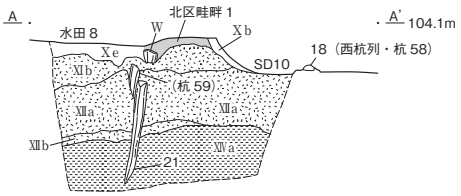


東杭列・杭 2



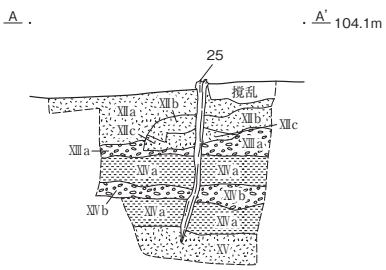
⑨　漸位層。XIa に Xb 層が混ざる。

中央杭列・杭 11・59



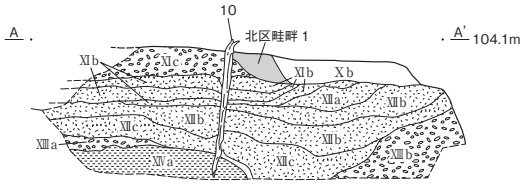
北区畦畔 1　Xb 層と同質土で、最大径 10mm の礫を多量含む。水田耕作土部分に比べ酸化の度合いが強い。

中央杭列・杭 19

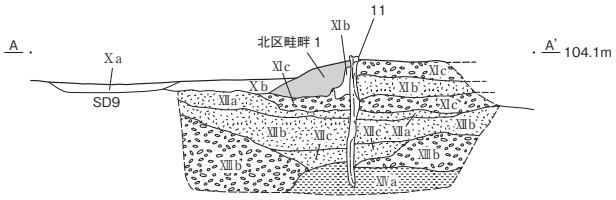


北区畦畔 1 盛土部分
自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

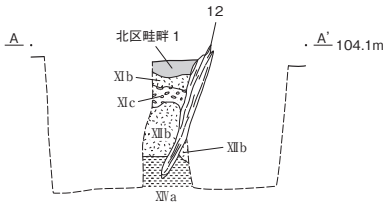
西杭列・杭 3



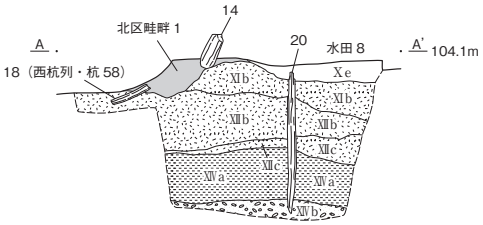
西杭列・杭 6



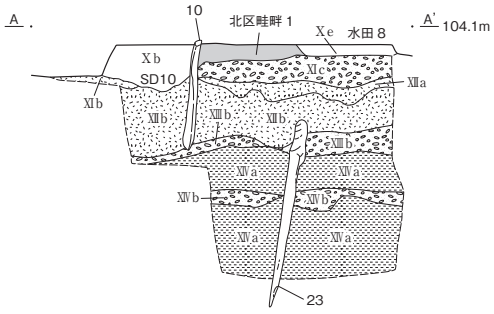
西杭列・杭 7



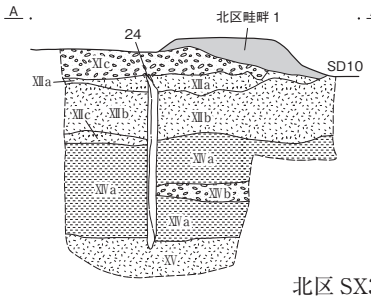
西杭列・杭 9　中央杭列・杭 10



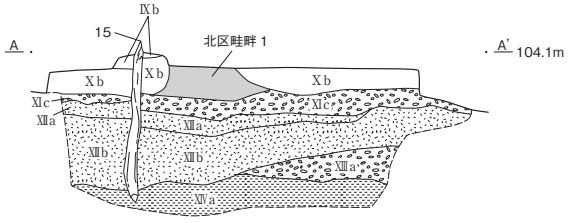
西杭列・杭 12　中央杭列・杭 13



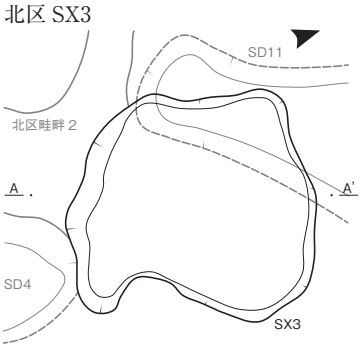
中央杭列・杭 14



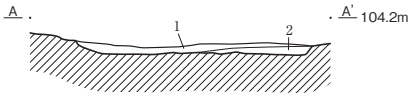
西杭列・杭 15

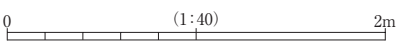


北区 SX3

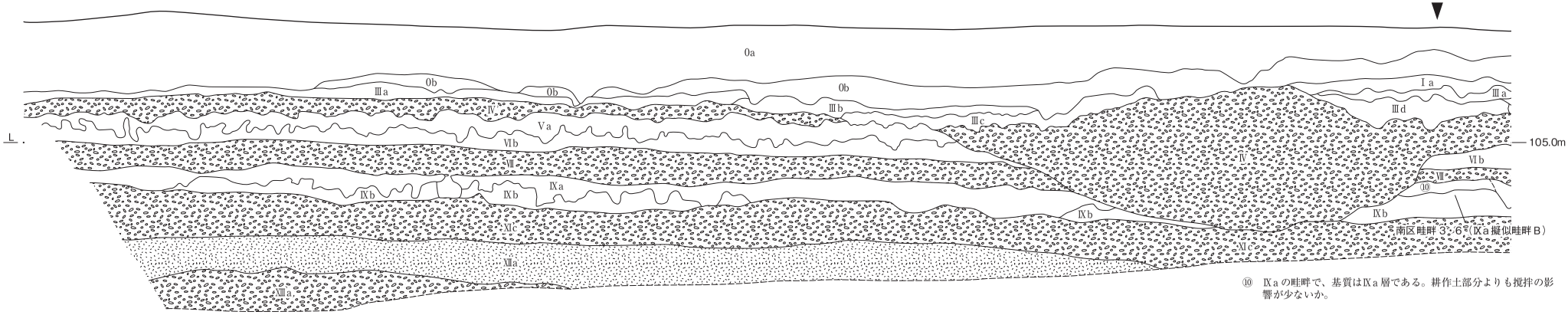


SX3
1　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまりやや強。拳大の礫や最大径 20mm の砂礫多量、黄褐色シルトブロック少量、腐植物少量含む。基質は Xa 層に近い。
2　灰色（5Y5/1）シルト　粘性やや強、しまりやや強。白色シルトブロック微量含む。基質は Xa 層に近い。





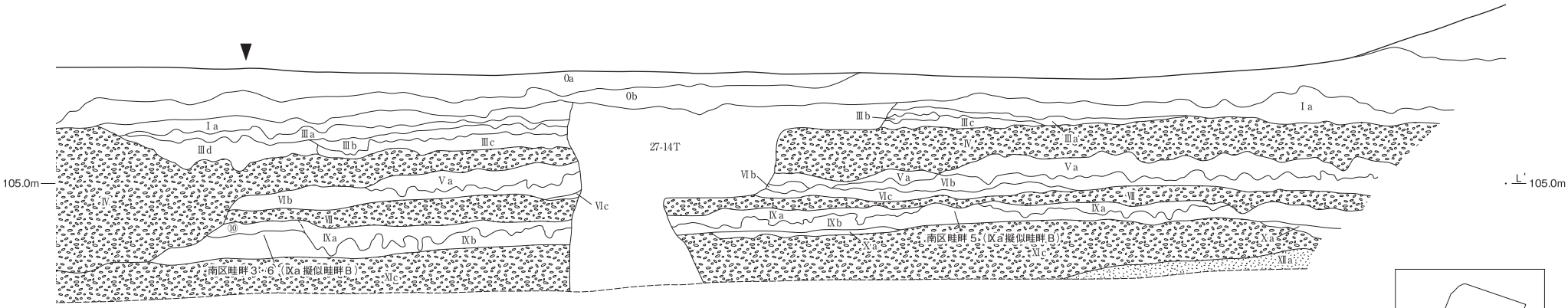
南区　北壁 1



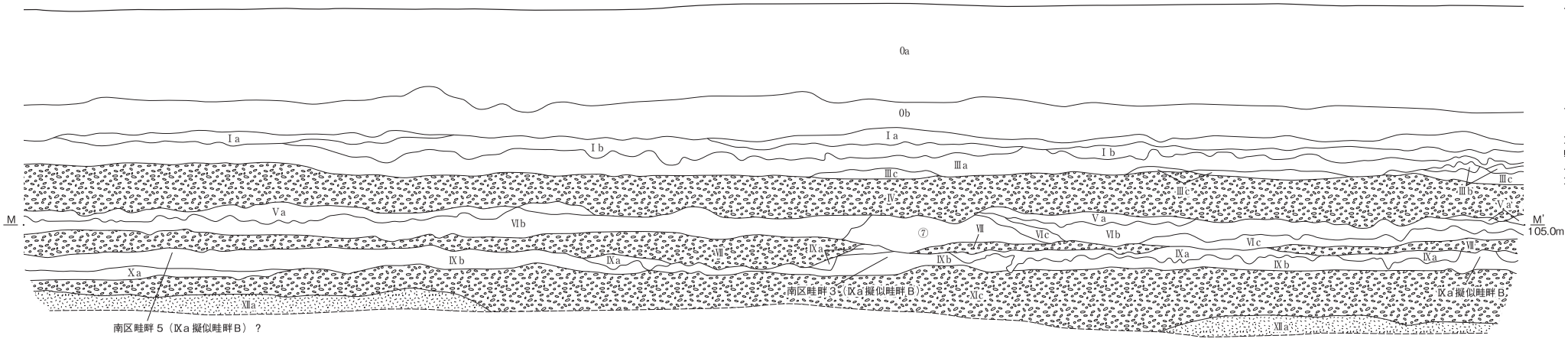
⑩　Ⅸａの畦畔で、基質はⅨａ層である。耕作土部分よりも撹拌の影響が少ないか。

自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

南区　北壁 2



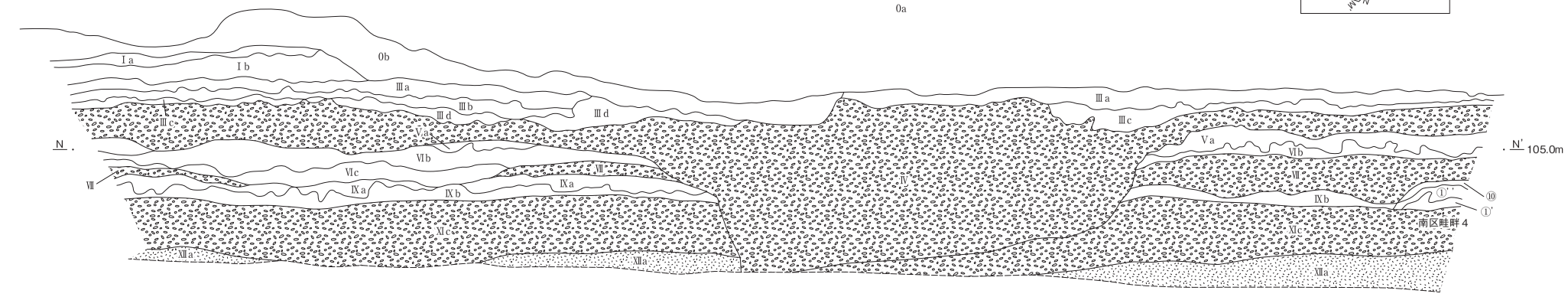
南区　東壁



⑦　Ⅵc 層と同質土で、砂礫の混入がやや少ない。Ⅵb・Ⅵc 擬似畦畔Ｂで、Ⅵc 層のもとの層か。

自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

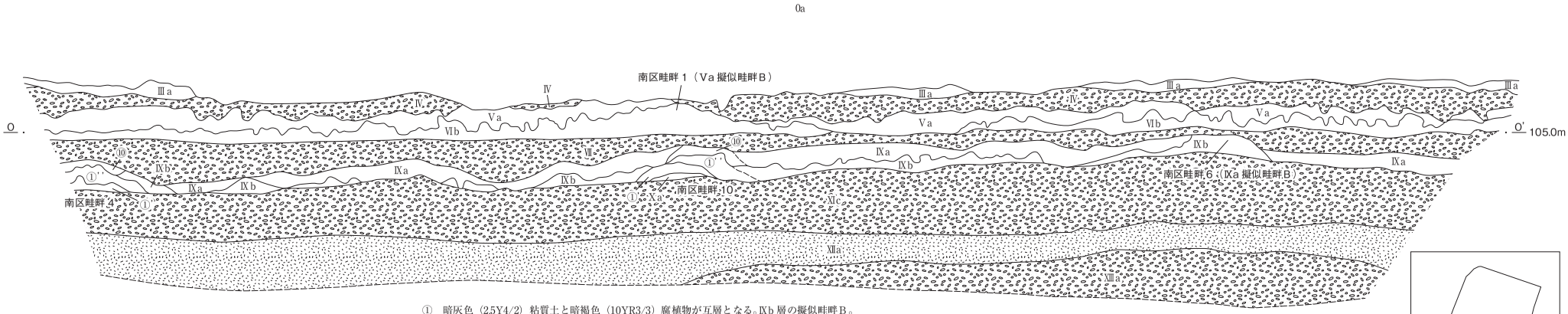
南区　南壁



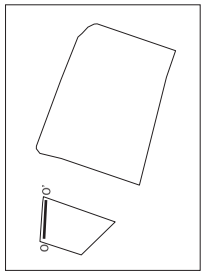
①'　Ⅸb 層の擬似畦畔Ｂで、①を撹拌した層だが、Ⅸb 層ほどではない。
①''　①'　よりも均質で、腐植物が細かく撹拌されている。Ⅸb の畦畔で、Ⅸa の擬似畦畔Ｂ。
⑩　Ⅸa の畦畔で、基質はⅨa 層である。耕作土部分よりも撹拌の影響が少ないか。

0　(1:40)　2m

南区　西壁

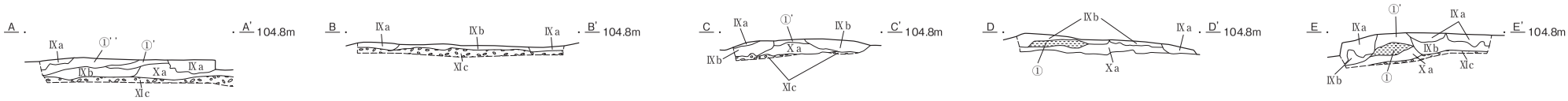


① 暗灰色（2.5Y4/2）粘質土と暗褐色（10YR3/3）腐植物が互層となる。IXb 層の擬似畦畔 B。
①' IXb 層の擬似畦畔 B で、①を攪拌した層だが、IXb 層ほどではない。
①''①' よりも均質で、腐植物が細かく攪拌されている。IXb の畦畔で、IXa の擬似畦畔 B。
⑩ IXa の畦畔で、基質は IXa 層である。耕作土部分よりも攪拌の影響が少ないか。

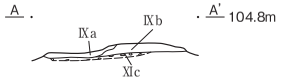


自然堆積層（粘質土と腐植物の互層）
自然堆積層（砂やシルト、粘質土などの互層）
自然堆積層（砂礫層）

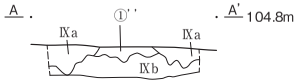
南区　畦畔 3・4・12



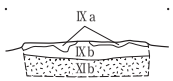
南区　畦畔 6



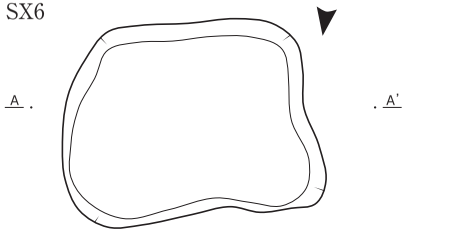
南区　畦畔 7



南区　畦畔 8

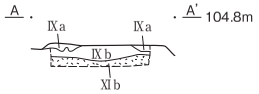


SX6

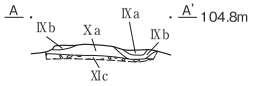


SX6
1 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　粘性やや強・しまりやや強。最大径 20mm の砂礫多量、腐植物少量含む。基質は IXb 層に近い。

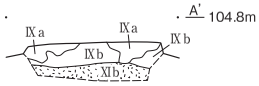
南区　畦畔 9

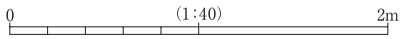


南区　畦畔 10



南区　畦畔 11

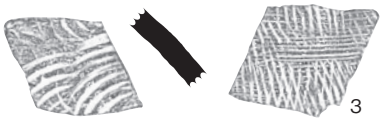




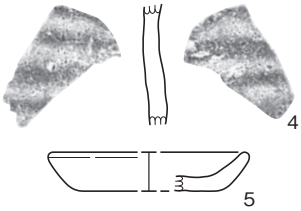
Ⅳ層（1）
1　写真掲載

水田（Va層）（2）

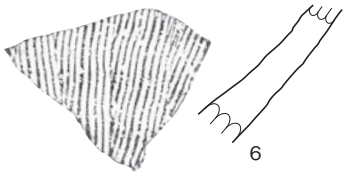
水田7（3）



XIc層（4・5）

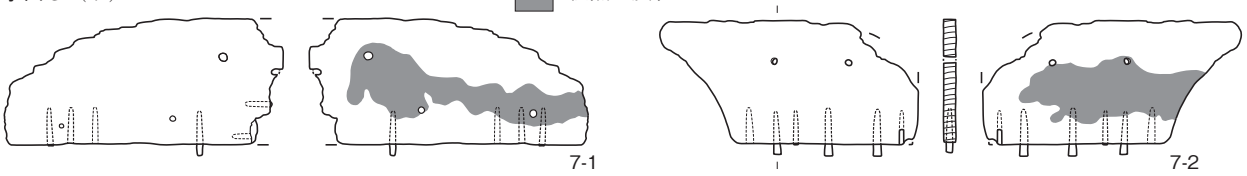


28-24T（Ⅸa層）（6）

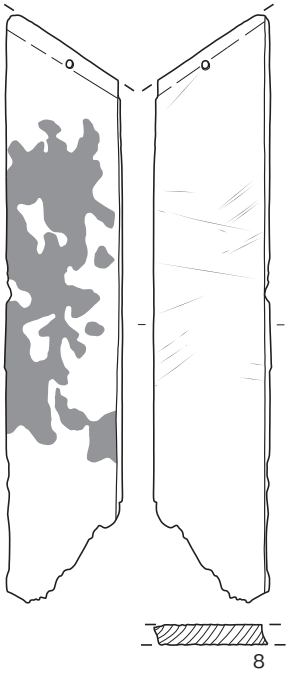


被熱・炭化

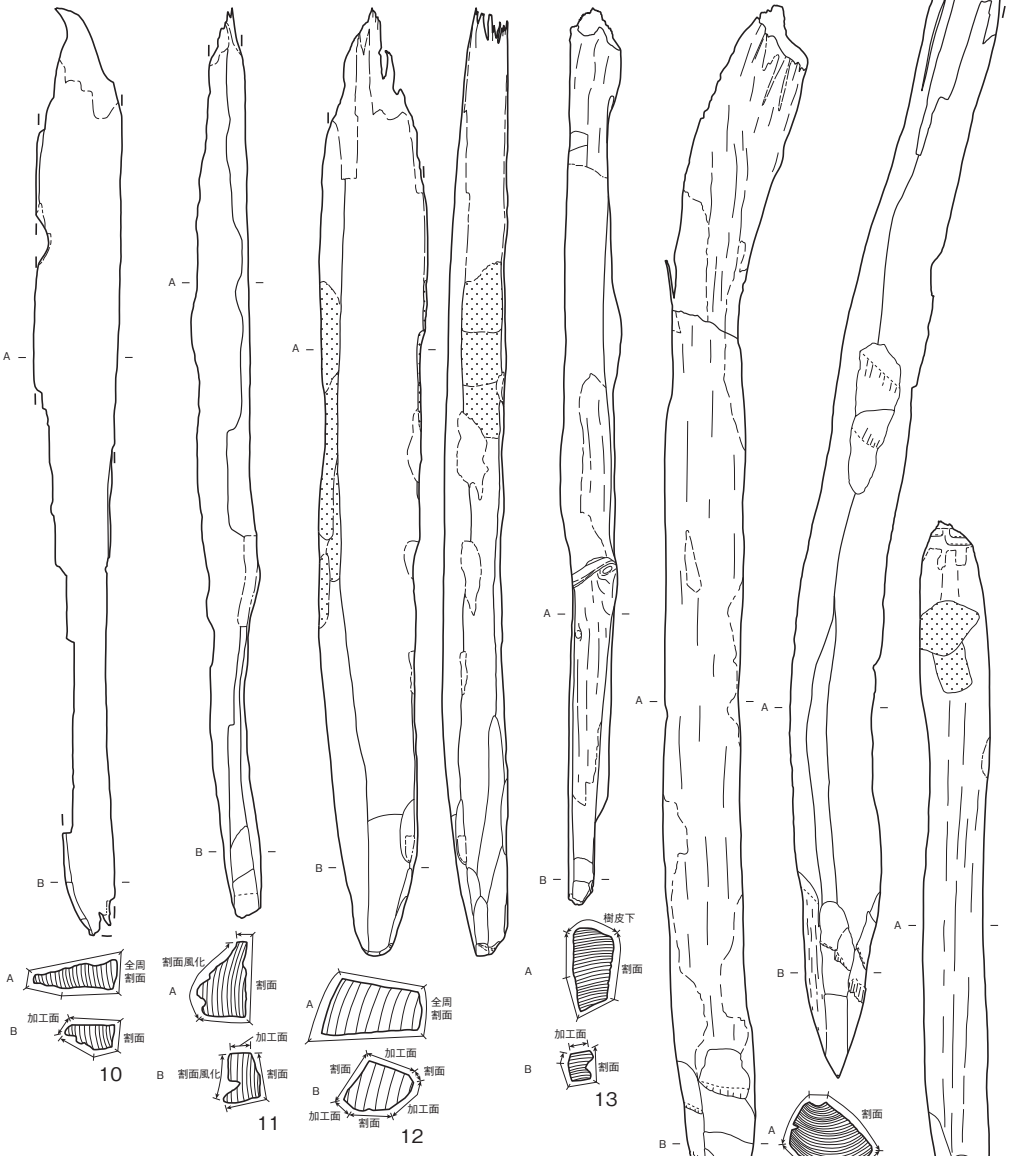
水田5（7）



SD4（8）

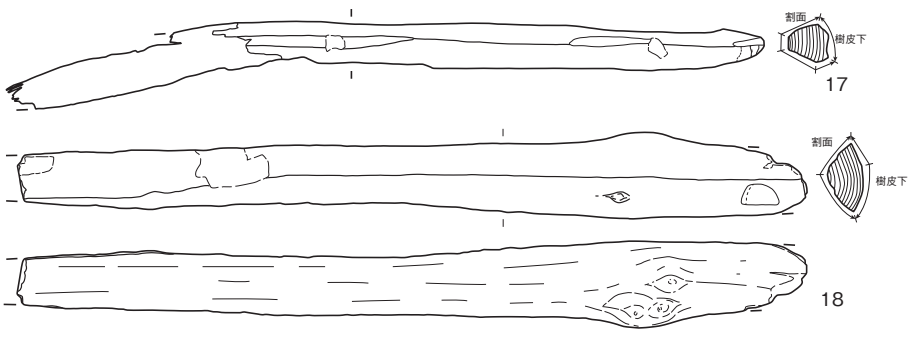


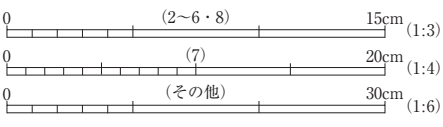
西杭列（10～18）



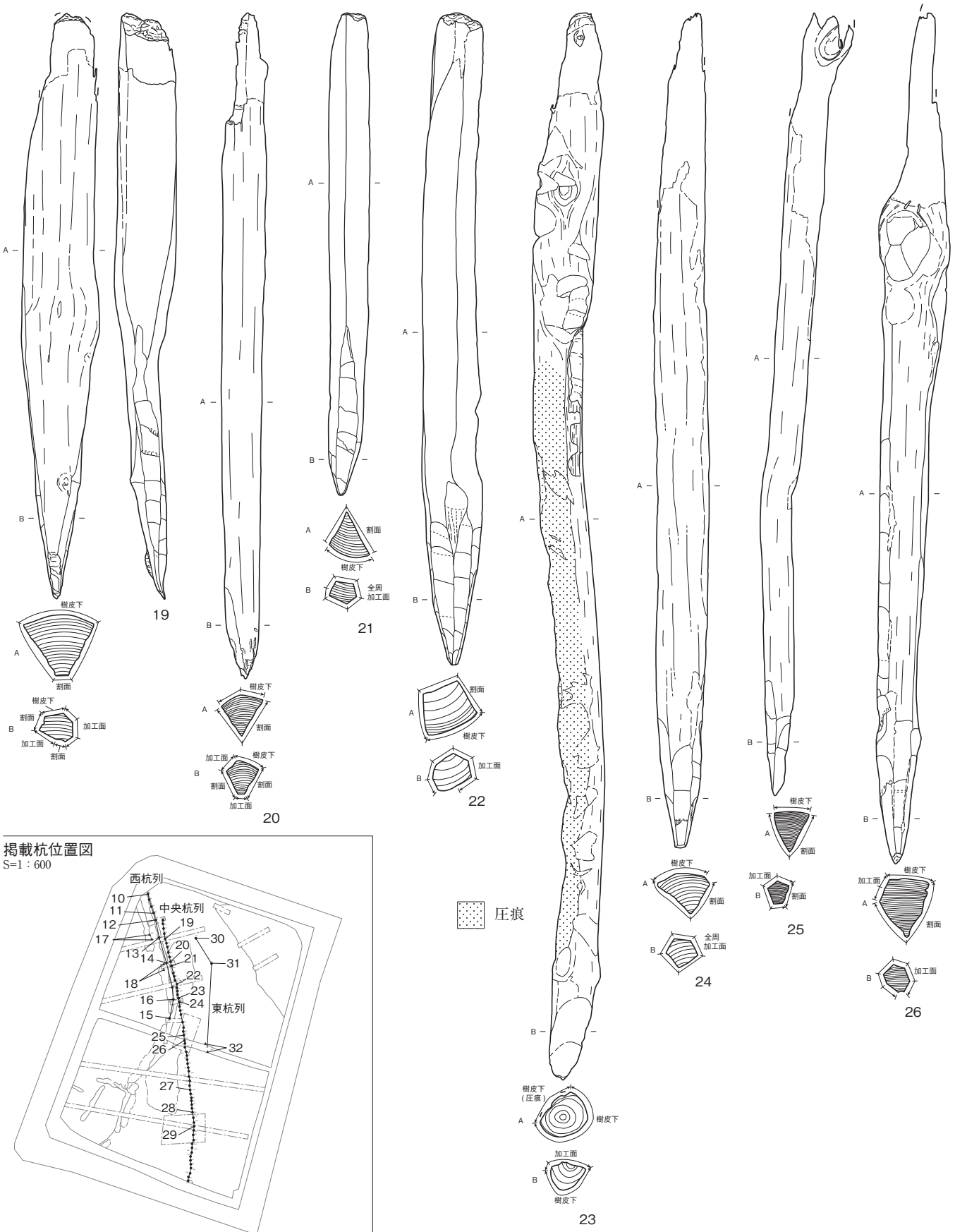
SX3（9）

圧痕

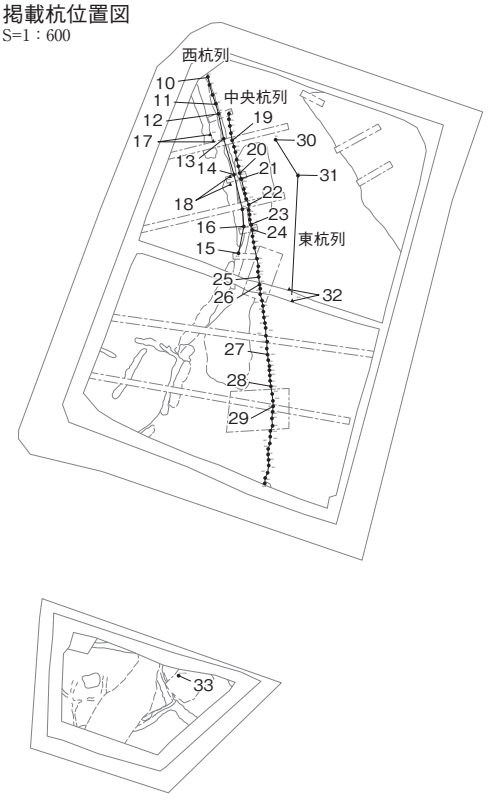




中央杭列（19～26）

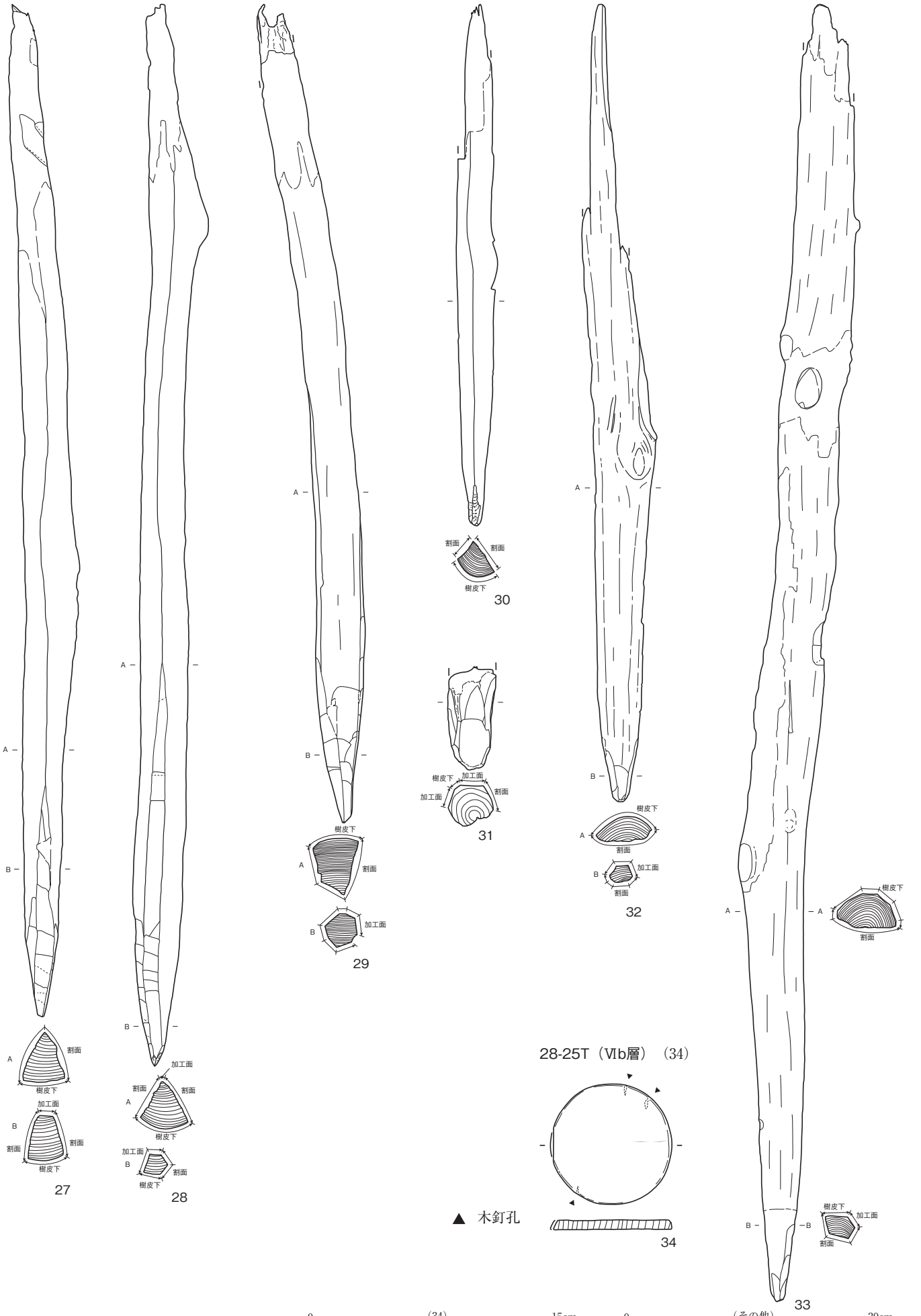


掲載杭位置図
S=1：600



0　30cm　(1:6)

中央杭列（27～29）　　東杭列（30～32）　　27-14T（33）



調査区遠景（北東から）

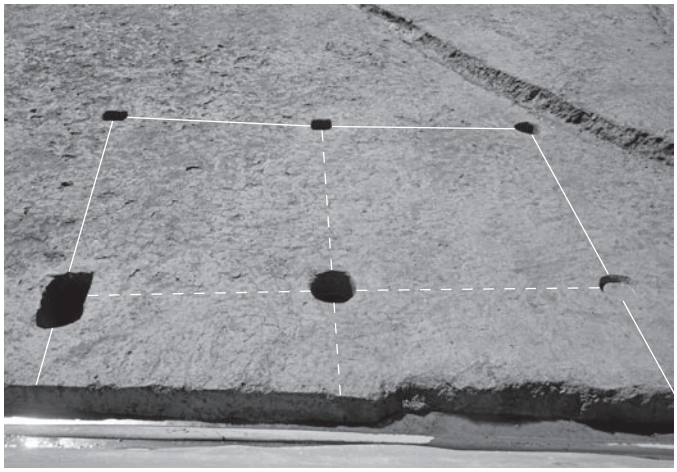
調査区遠景（南から）

調査区全景（左が北）

土塁検出状況（北東から）

土塁　断面（南から）

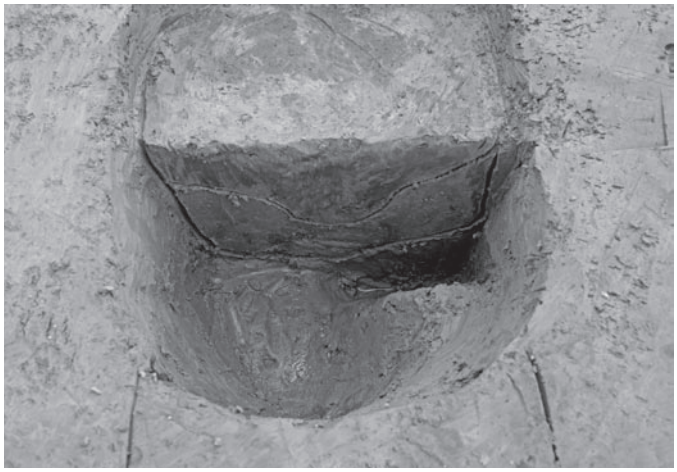
75K23　基本層序（南から）



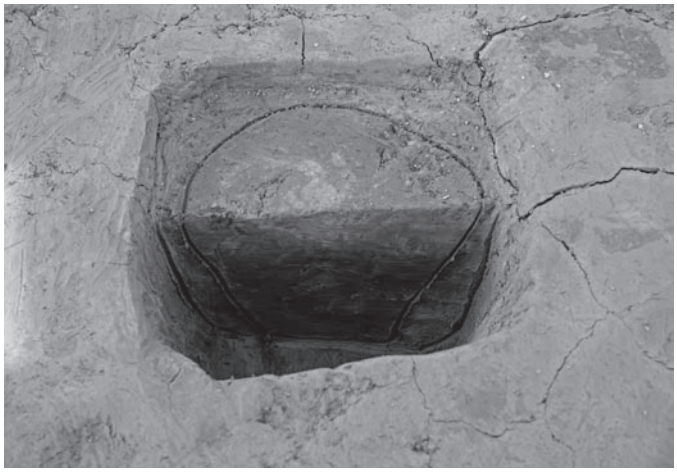
SB16670　完掘（北から）

SB16670-P16065　断面（北から）

SB16670-P16066　断面（北から）



SB16670-P16067　断面（北から）



SB16670-P16068　断面（西から）

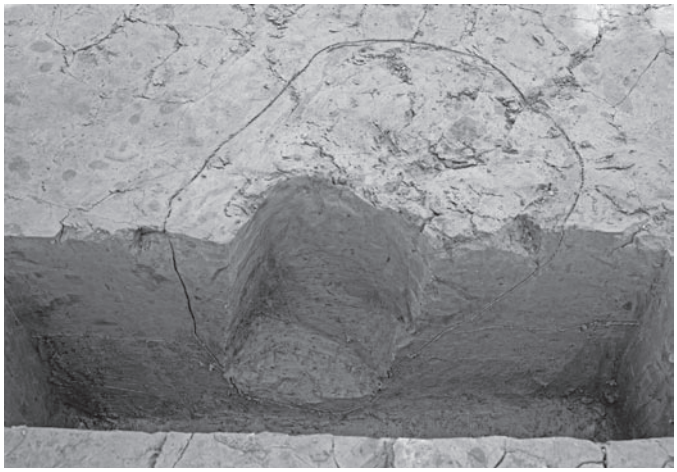
SB16670-P16069　断面（南から）

SB16670-P16070　断面（南から）

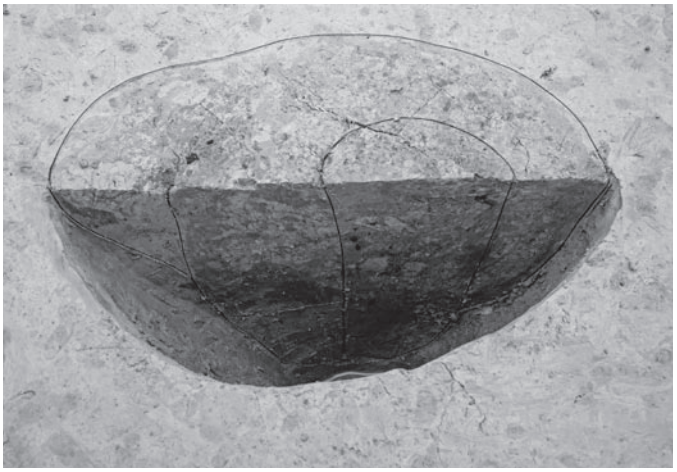
SB16671　完掘（東から）

SB16671-P16213　断面（西から）

SB16672　完掘（北から）



SB16672-P16006　断面（南から）

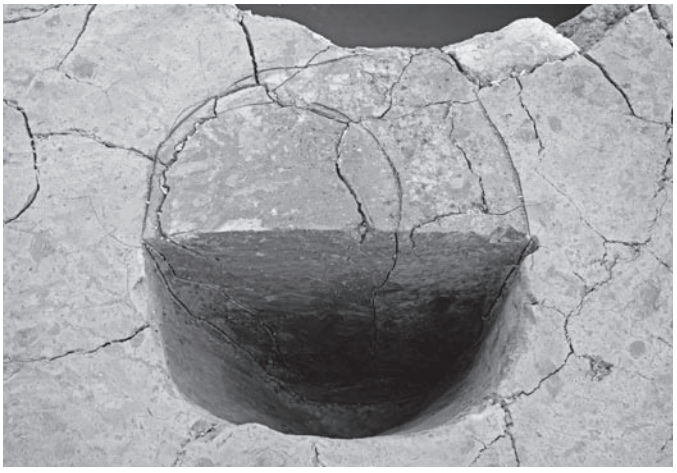


SB16672-P16012　断面（南西から）

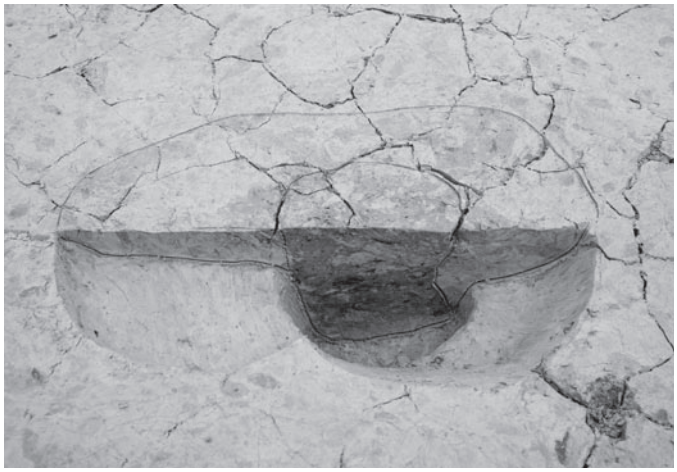
SB16672-P16013　断面（南から）

SB16672-P16014　断面（南から）

SB16672-P16027　断面（西から）

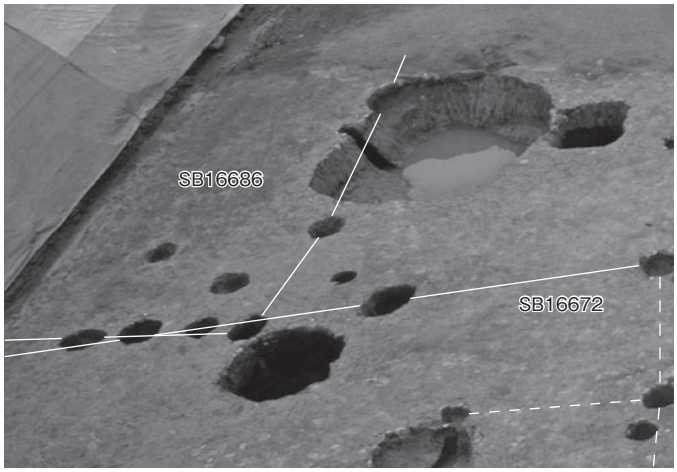


SB16672-P16040　断面（北から）



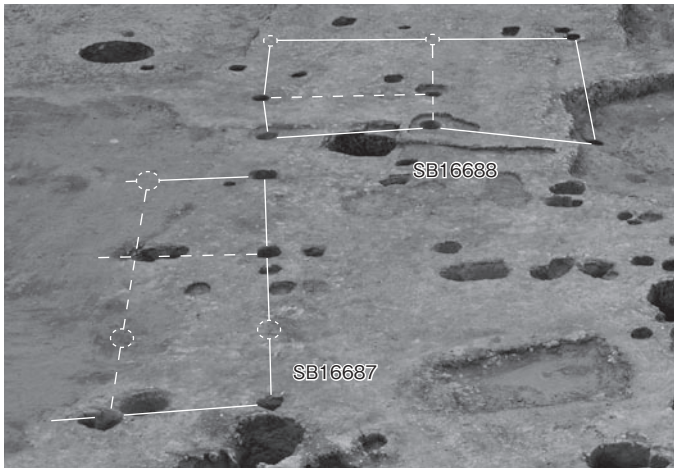
SB16672-P16042　断面（南西から）

SB16672-P16106　断面（北から）

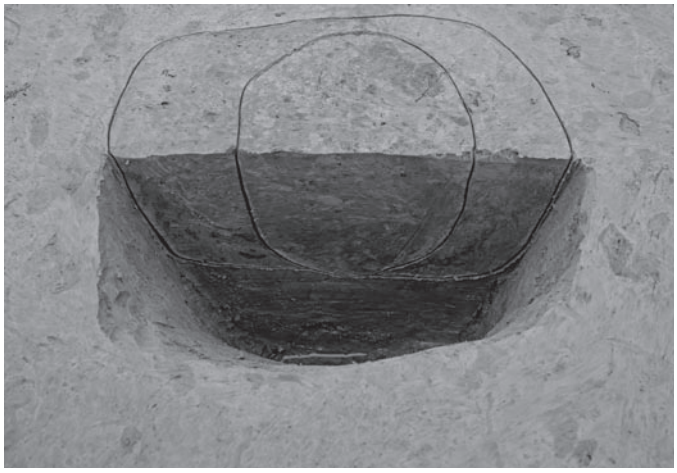


SB16686　完掘（西から）

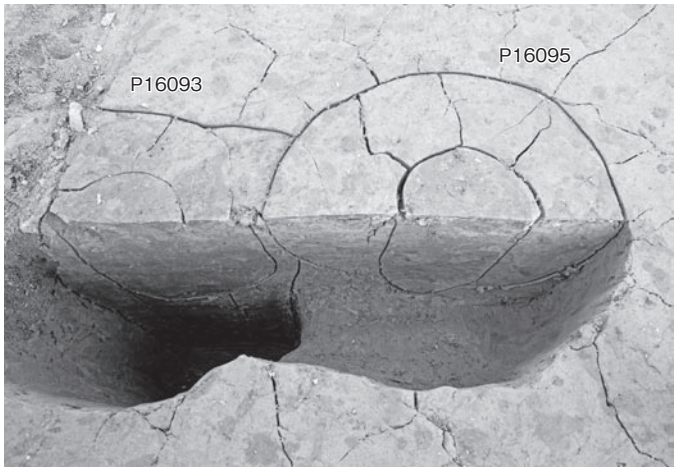
SB16686-P16115　断面（南から）



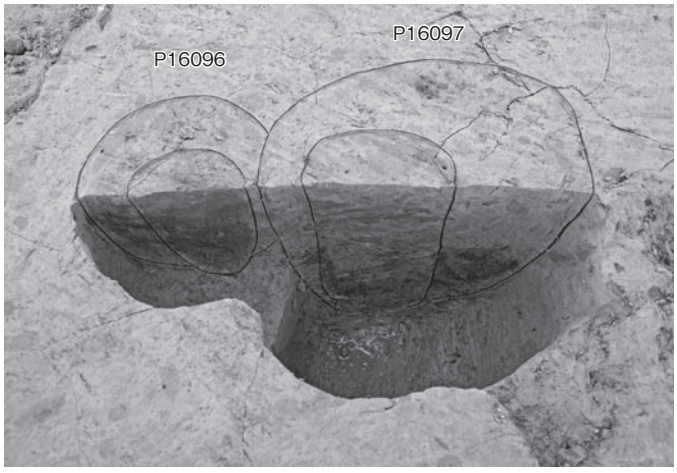
SB16687・16688　完掘（西から）



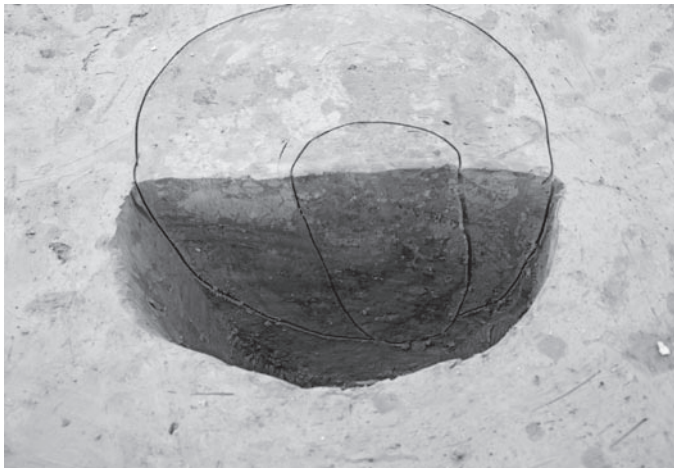
SB16687-P16091　断面（西から）



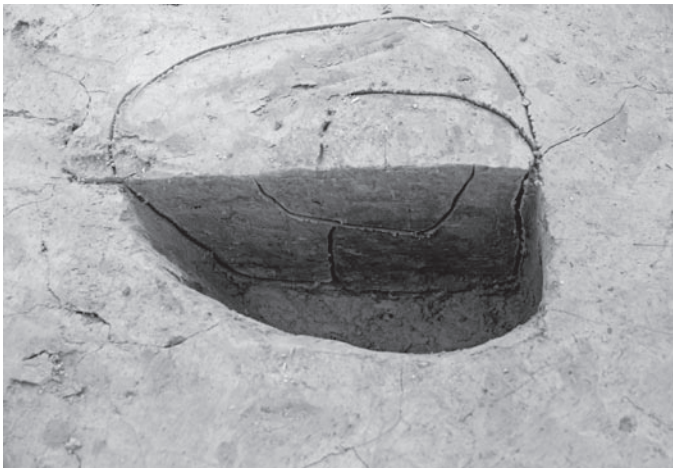
SB16687-P16093（左）　断面（西から）



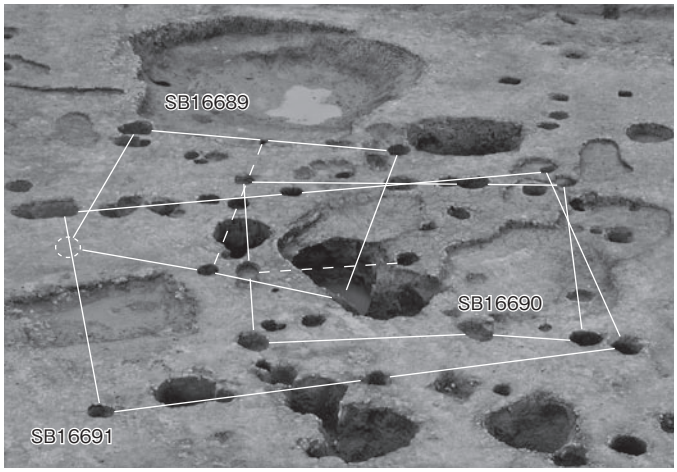
SB16687-P16097（右）　断面（西から）



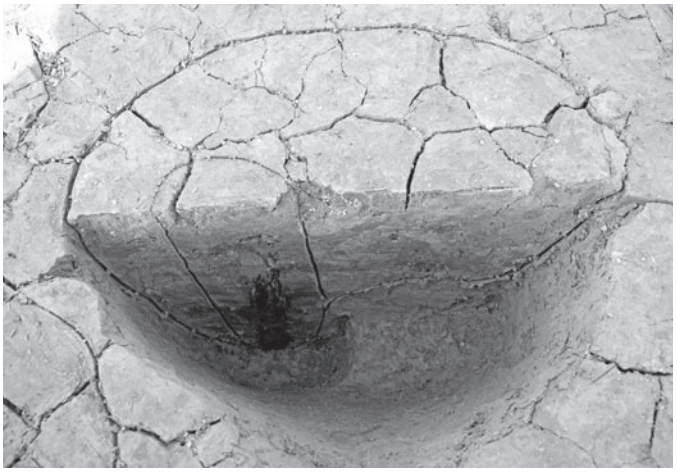
SB16687-P16098　断面（西から）



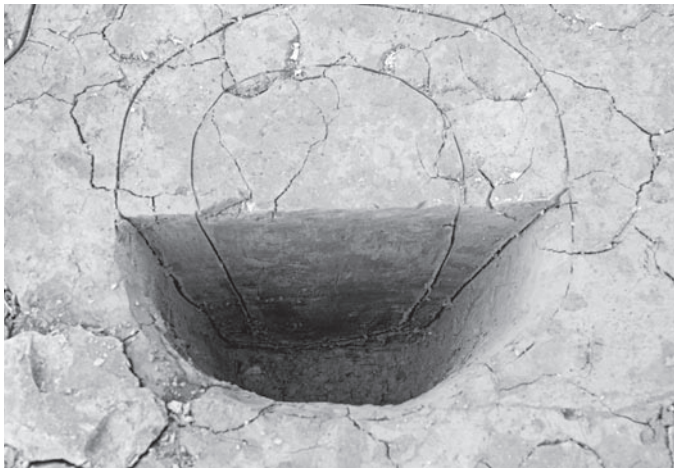
SB16687-P16184　断面（西から）



SB16689・16690・16691　完掘（西から）

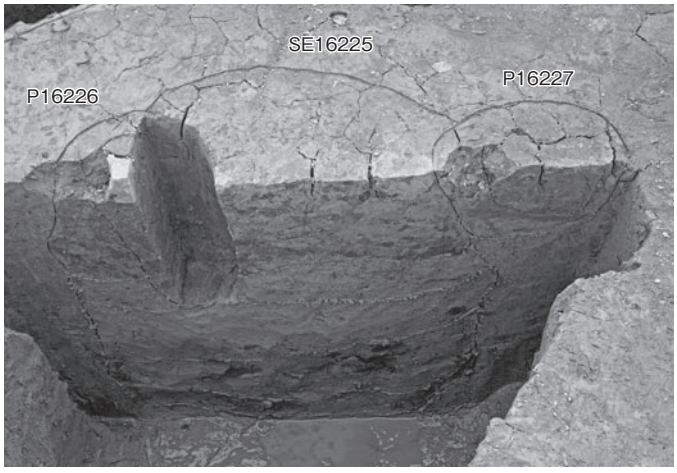


SB16689-P16149　断面（南西から）

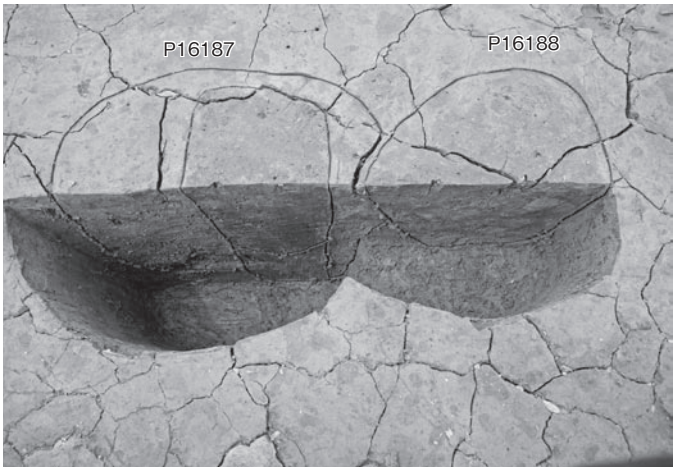


SB16689-P16177　断面（南から）

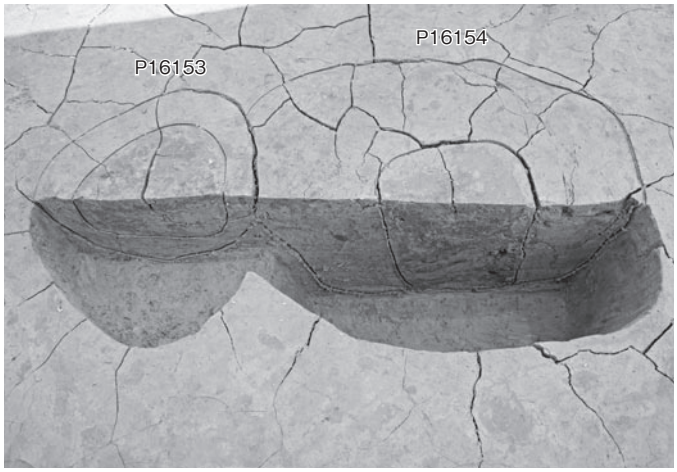
SB16689-P16181　断面（南から）



SB16689-P16226（左）・SE16225（中央）　断面（西から）

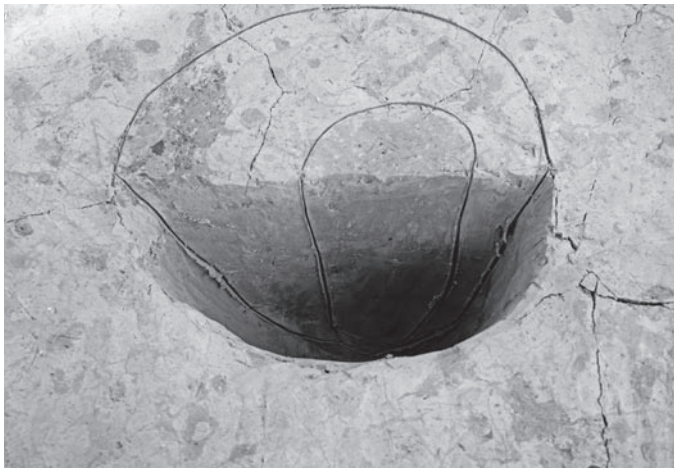


SB16690-P16187（左）　断面（東から）

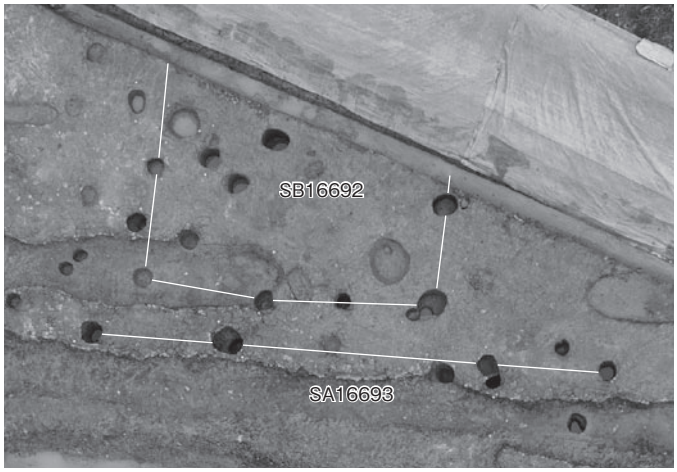


SB16691-P16154（右） 断面（西から）

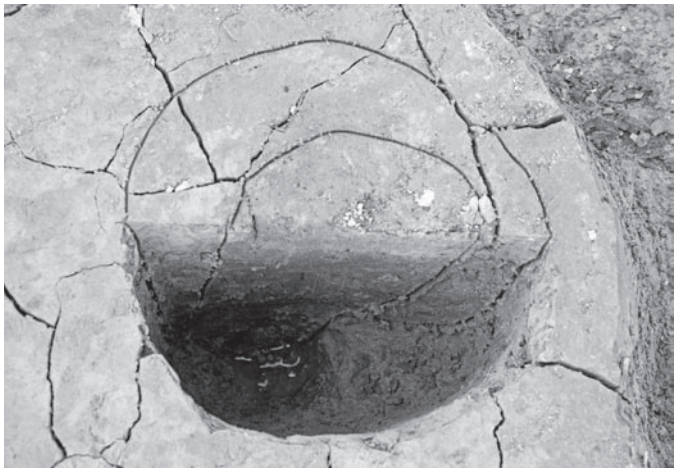
SB16691-P16155　断面（西から）



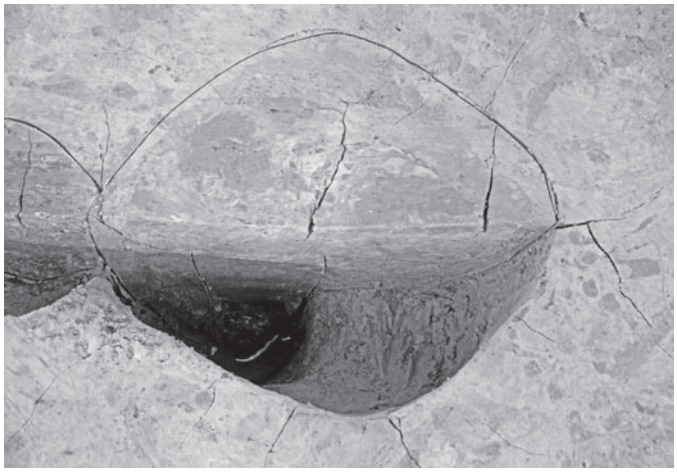
SB16691-P16168　断面（西から）



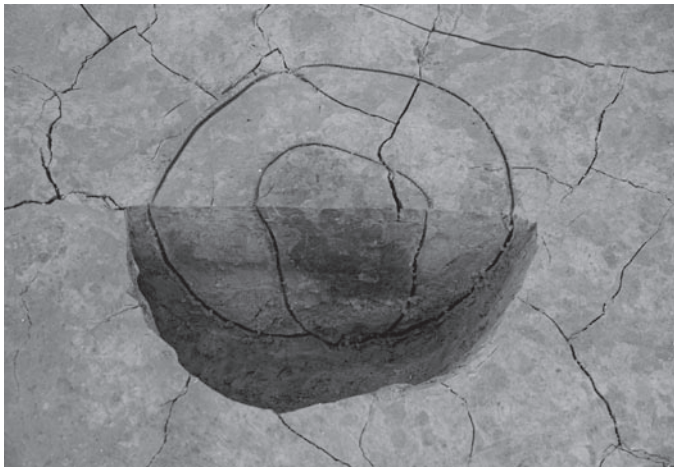
SB16692・SA16693　完掘（左が北）



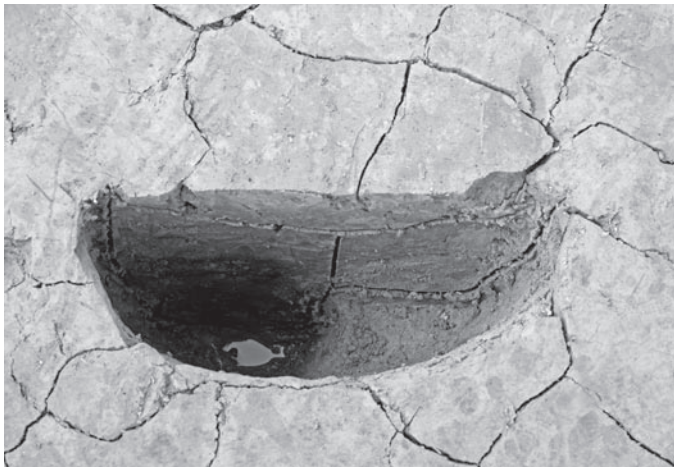
SB16692-P16252　断面（南から）



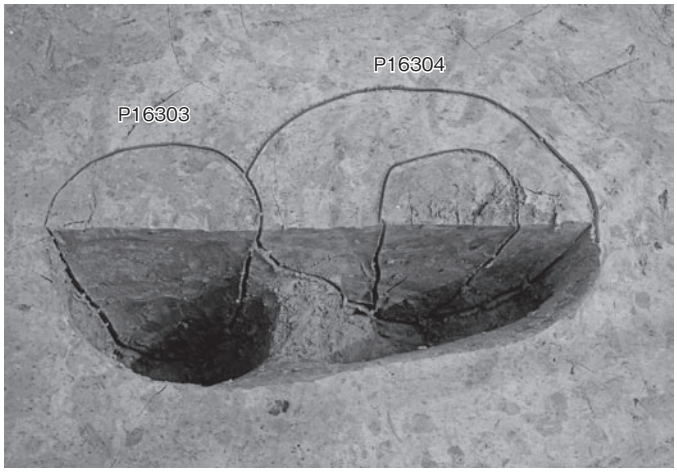
SB16692-P16265　断面（南から）



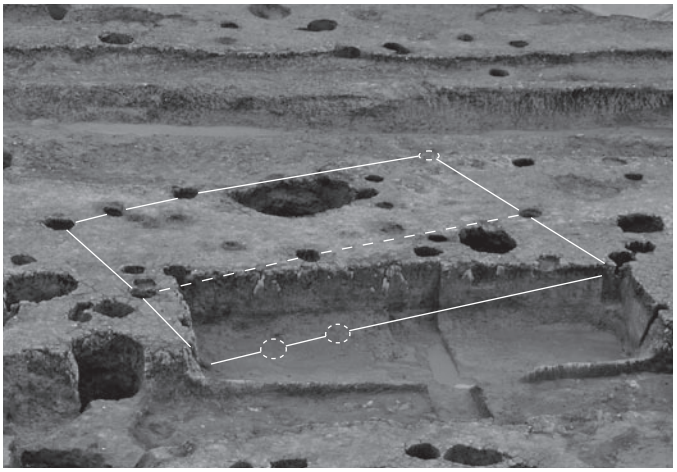
SA16693-P16232　断面（南西から）



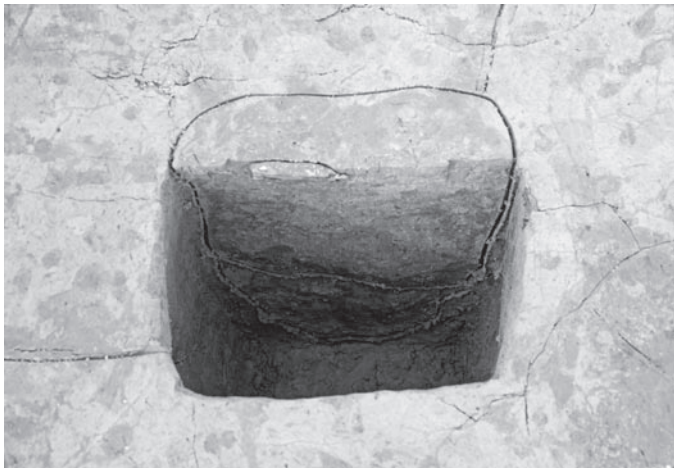
SA16693-P16250　断面（南西から）



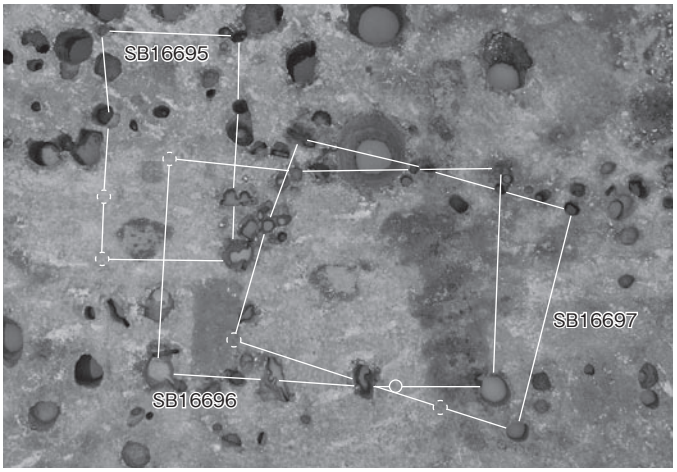
SA16693-P16304（右） 断面（南から）



SB16694　完掘（西から）

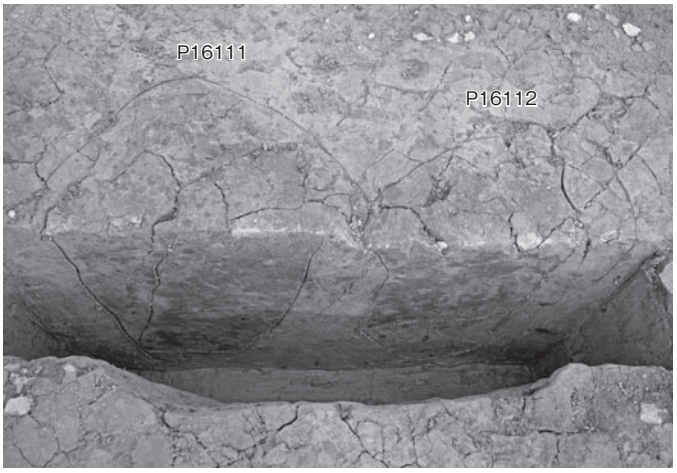


SB16694-P16320　断面（南から）

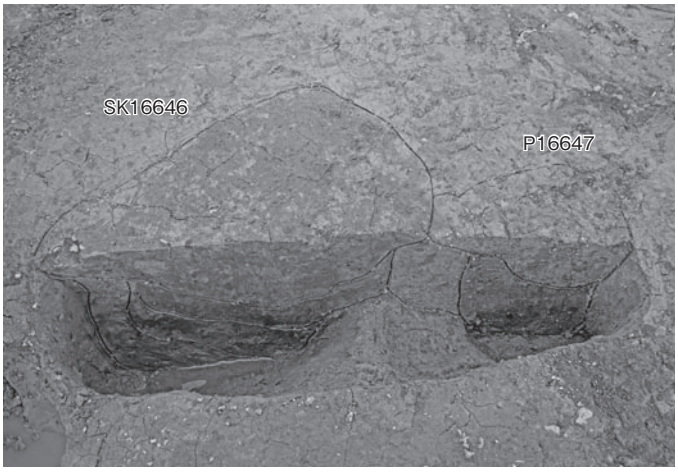


SB16695・16696・16697　完掘（左が北）

SB16695-P16109　断面（南から）

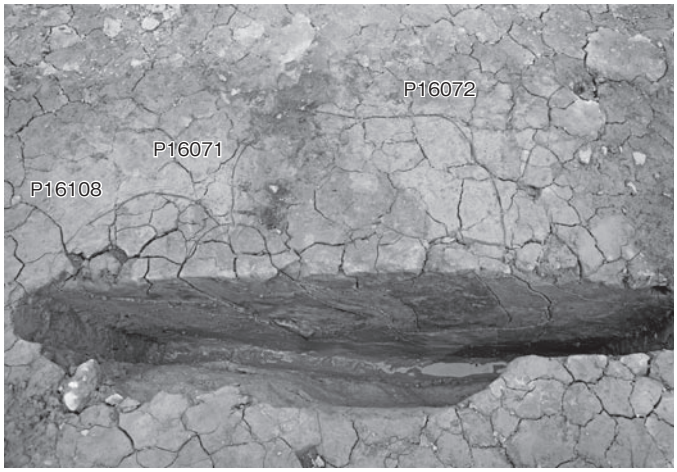


SB16695-P16111（左） 断面（西から）



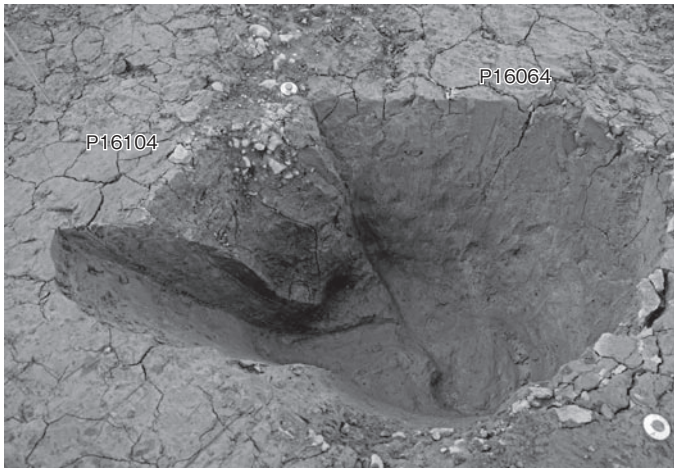
SB16695-P16647（右）・SK16646（左） 断面（南から）

SB16695-P16656（右） 断面（南東から）

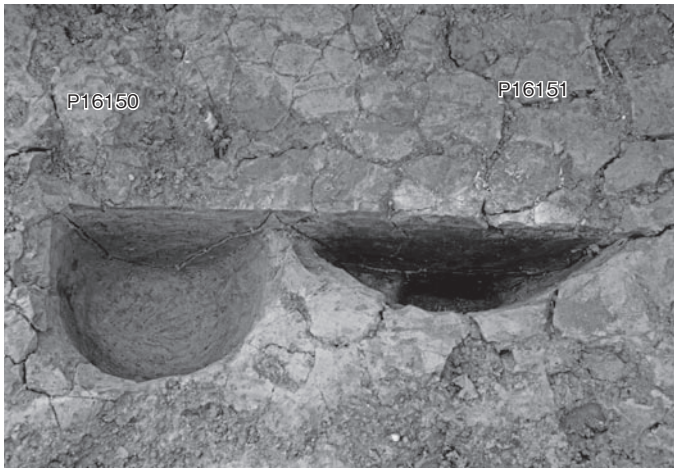


SB16696-P16072（右） 断面（南から）

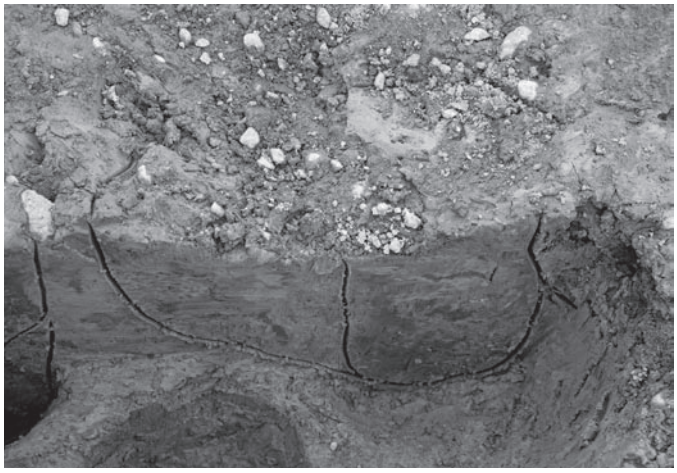
SB16696-P16088　断面（南東から）



SB16696-P16104　断面（南から）



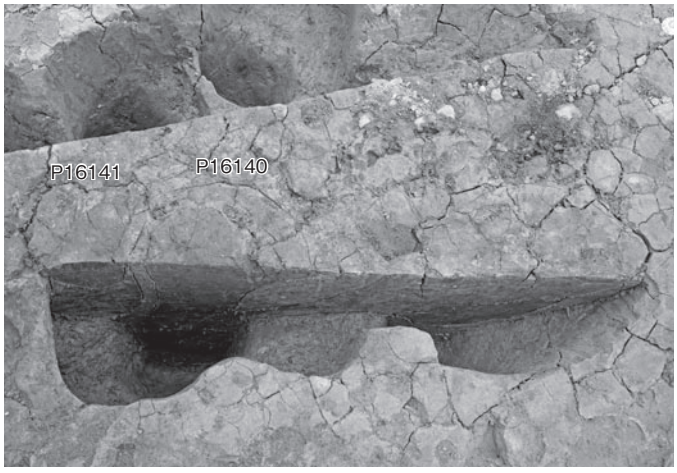
SB16696-P16150（左）・SB16697-P16151（右） 断面（西から）



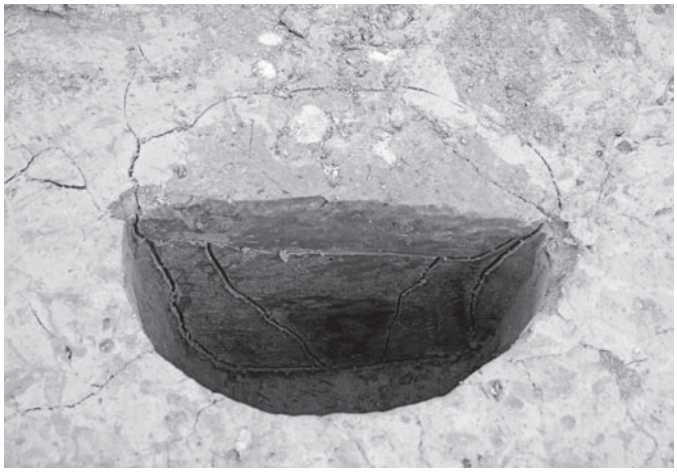
SB16696-P16362　断面（南から）

SB16697-P16064　断面（北東から）

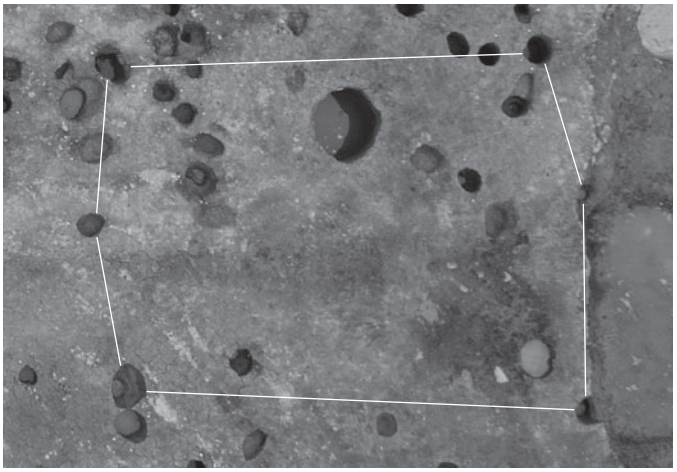
SB16697-P16121（左） 断面（北西から）



SB16697-P16140（右） 断面（西から）

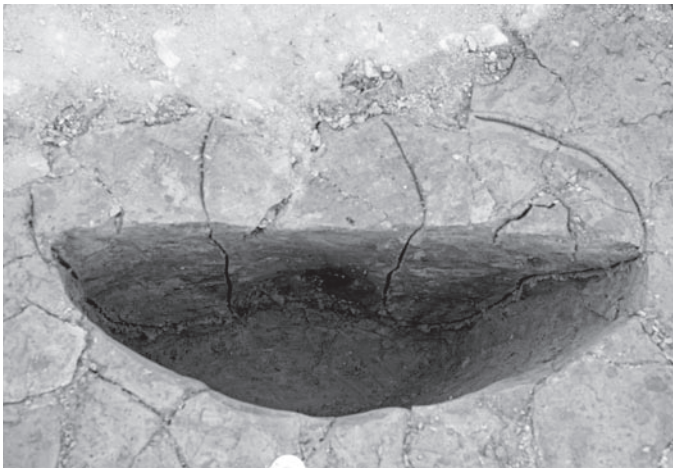


SB16697-P16375　断面（西から）

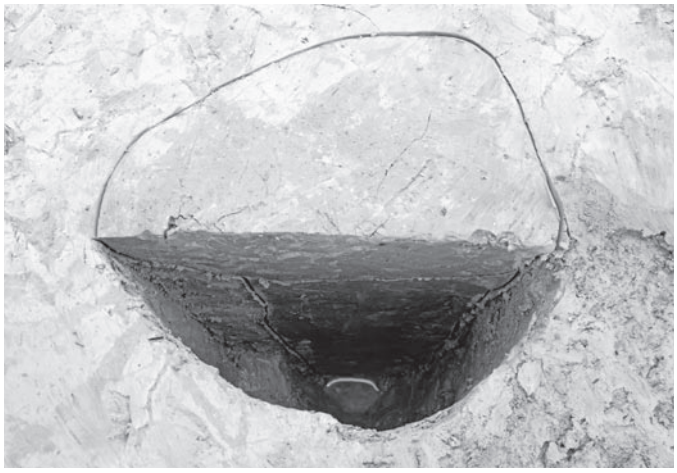


SB16698　完掘（左が北）

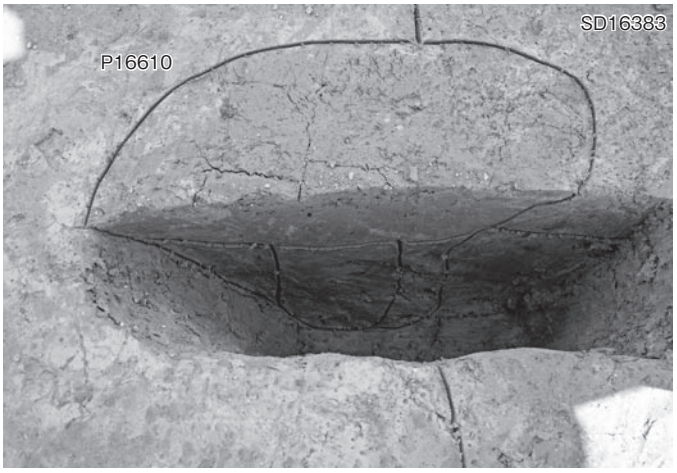
SB16698-P16358　断面（東から）



SB16698-P16386　断面（北西から）

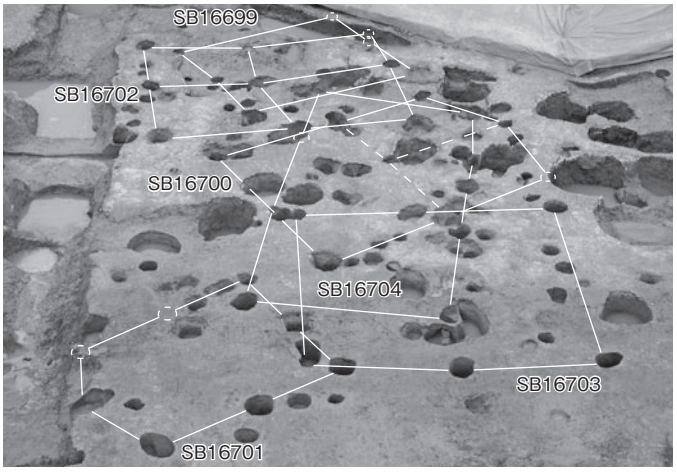


SB16698-P16390　断面（南西から）



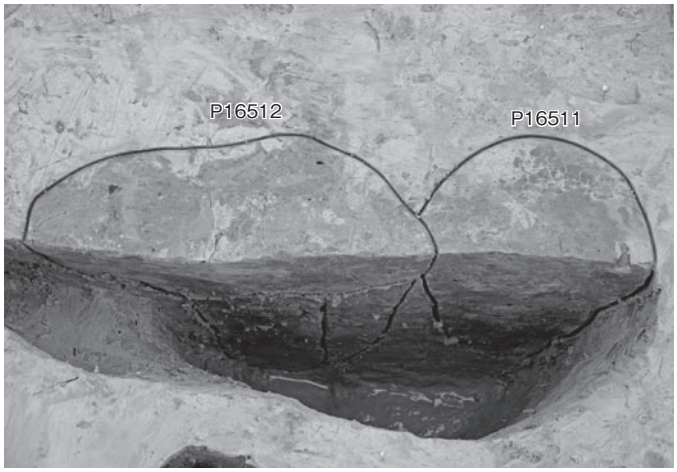
SB16698-P16610　断面（西から）

SB16698-P16622　断面（南から）

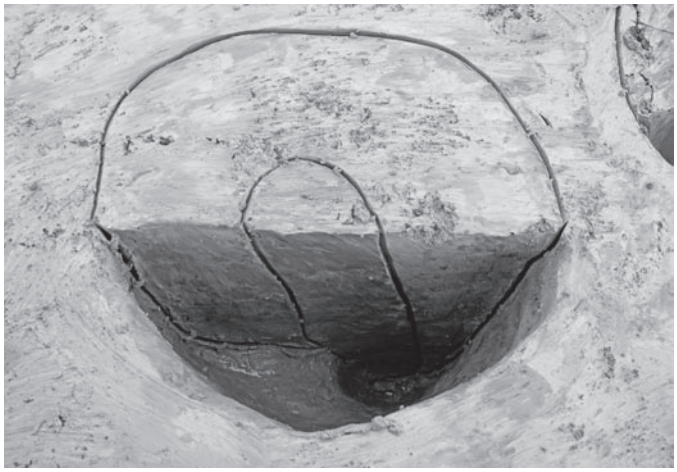


SB16699 ～ 16704　完掘（西から）

SB16699-P16434　断面（南から）



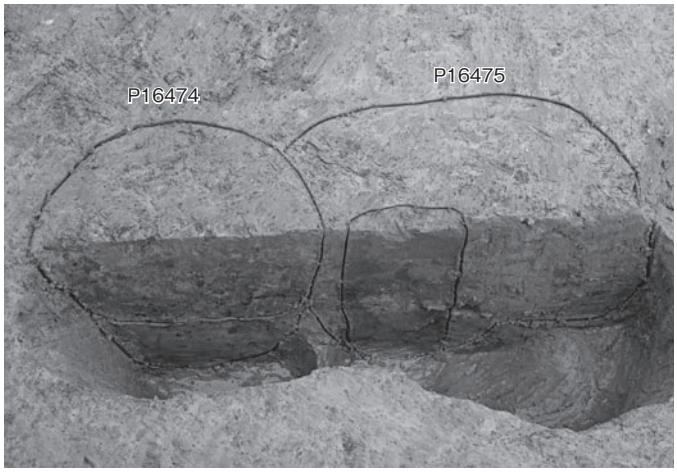
SB16699-P16512（左）　断面（西から）



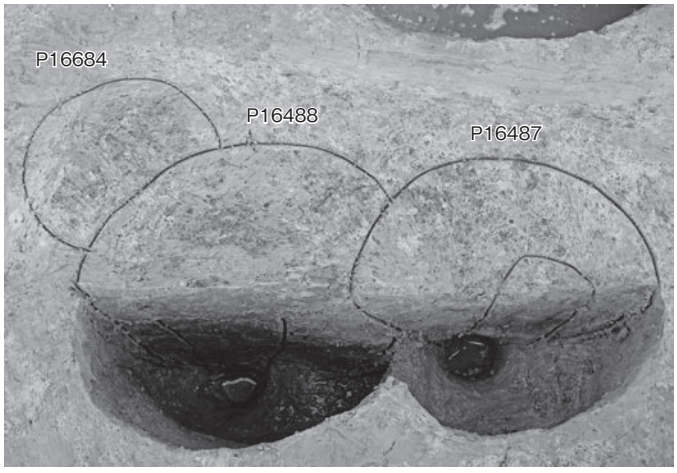
SB16699-P16554　断面（北から）

SB16700-P16435（左）・SE16436（右）　断面（西から）

SB16700-P16437　断面（西から）



SB16700-P16474（左）　断面（南西から）



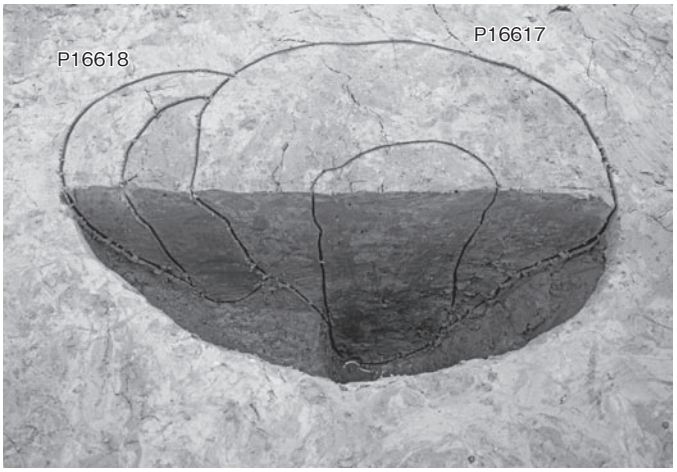
SB16700-P16488（左）・SB16703-P16487（右）　断面（西から）

SB16700-P16493　断面（南から）

SB16700-P16496　断面（南西から）

SB16700-P16513　断面（南から）

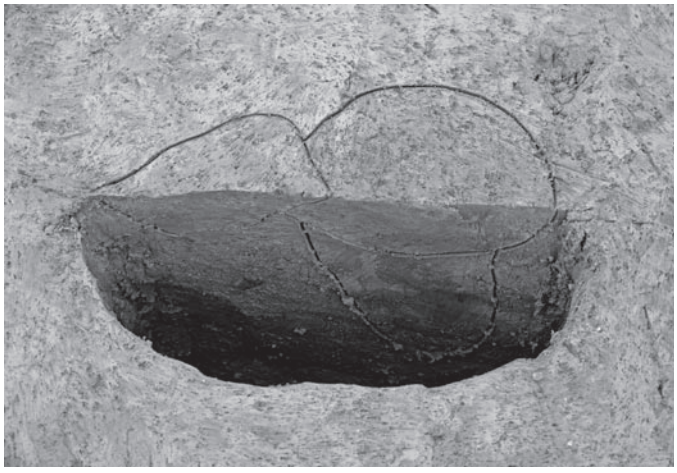
SB16701-P16451　断面（西から）



SB16701-P16617　断面（北西から）

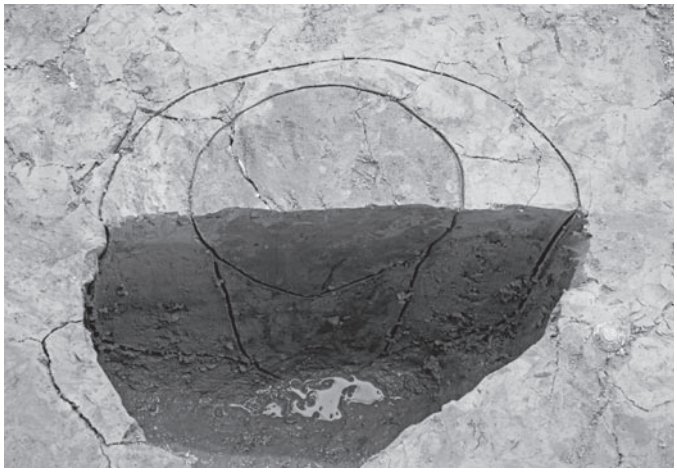
SB16701-P16636　断面（北から）

SB16701-P16638　断面（東から）



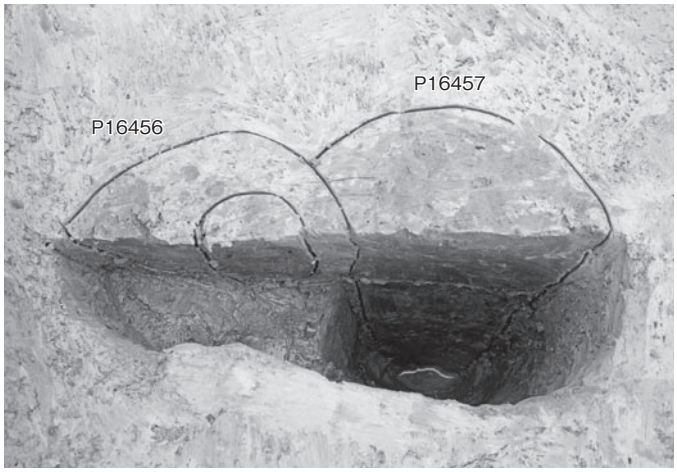
SB16702-P16411　断面（南西から）

SB16702-P16428　断面（北から）

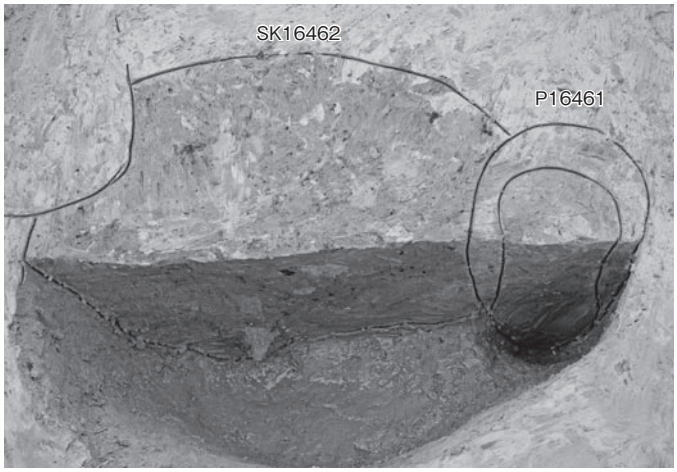


SB16702-P16438　断面（西から）

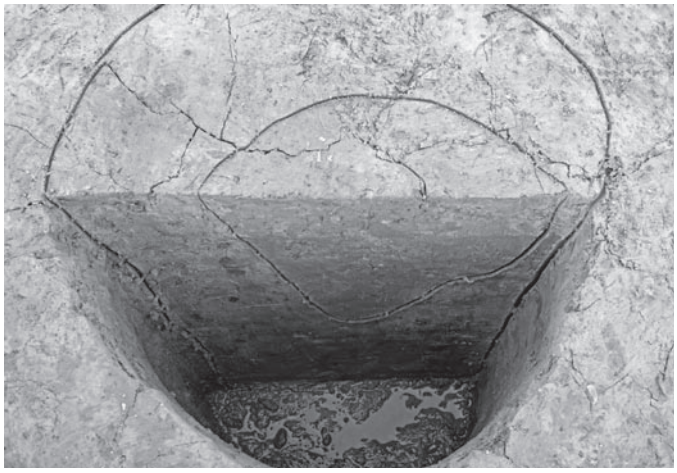
SB16702-P16447　断面（西から）



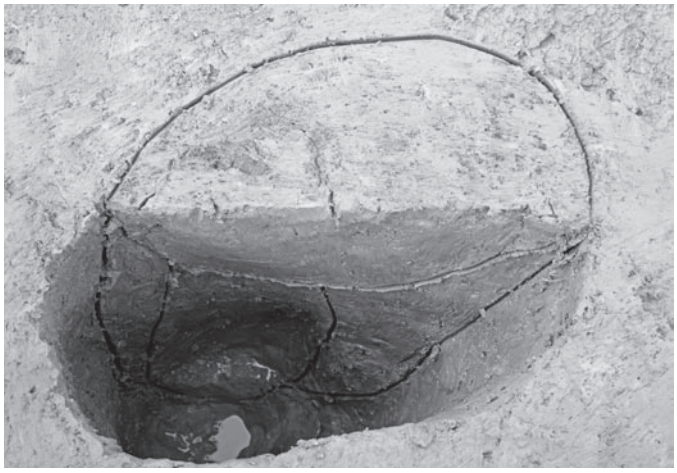
SB16702-P16456（左）　断面（西から）



SB16702-P16461（右）・SK16462（左）　断面（南から）



SB16703-P16535　断面（南から）

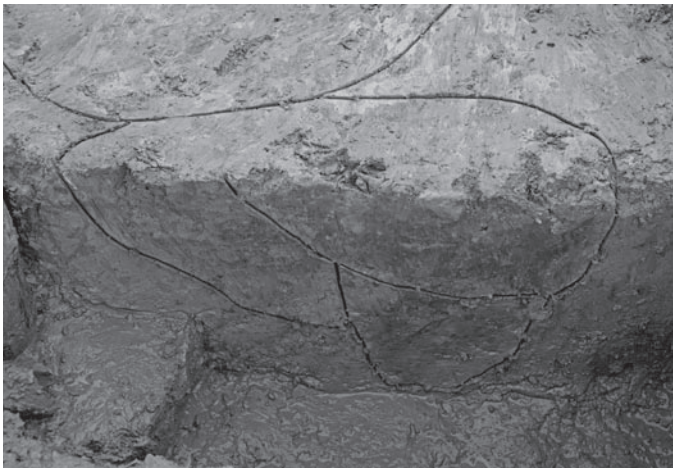


SB16703-P16627　断面（東から）

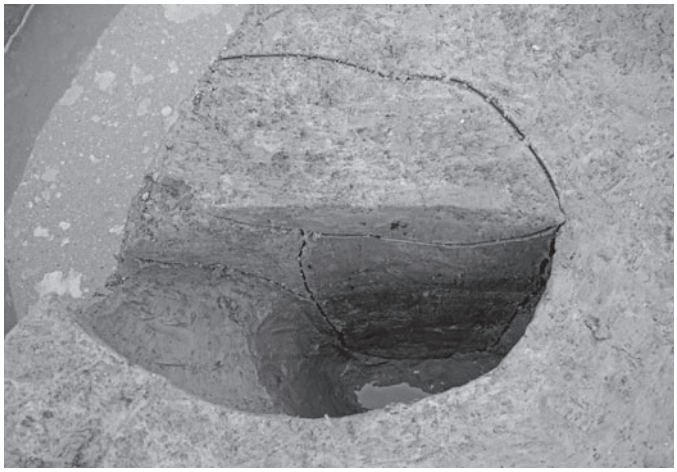
SB16703-P16669　断面（西から）

SB16704-P16433　断面（南から）

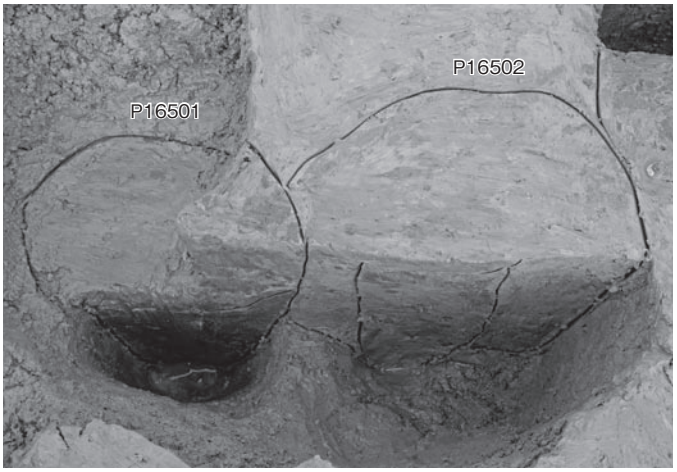
SB16704-P16476　断面（西から）



SB16704-P16482　断面（西から）

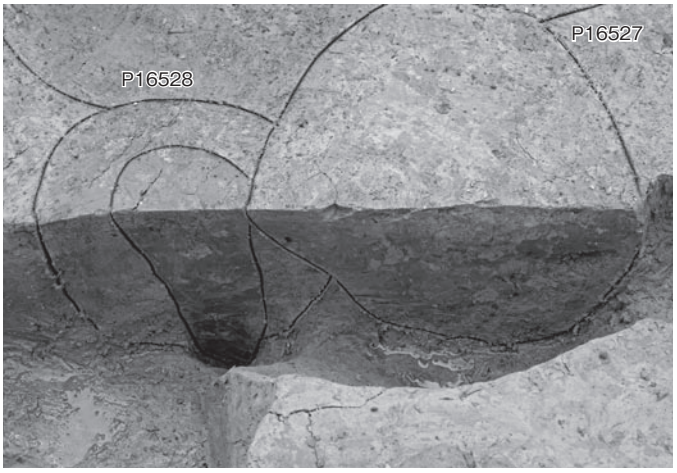


SB16704-P16498　断面（東から）

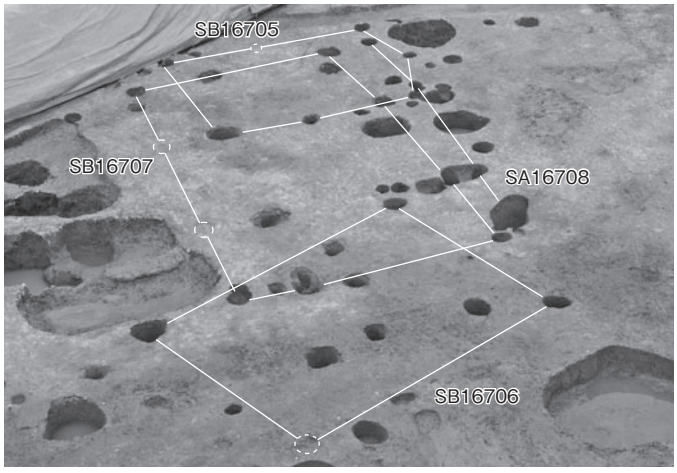


SB16704-P16502（右）　断面（西から）

SB16704-P16503　断面（西から）

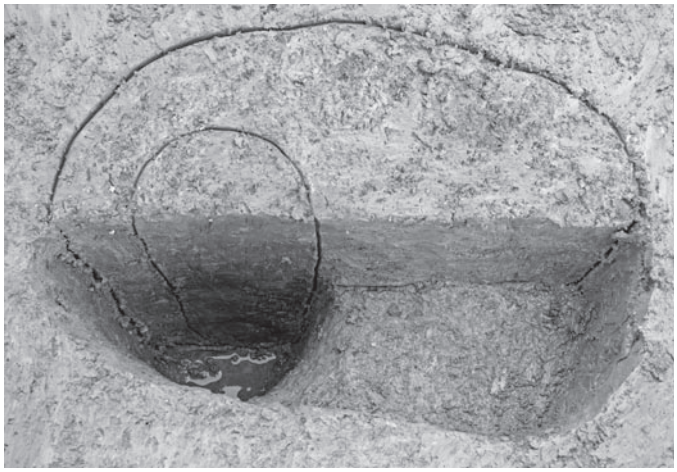


SB16704-P16528（左）　断面（北から）



SB16705 ～ 16707・SA16708　完掘（西から）

SB16705-P16531　断面（西から）

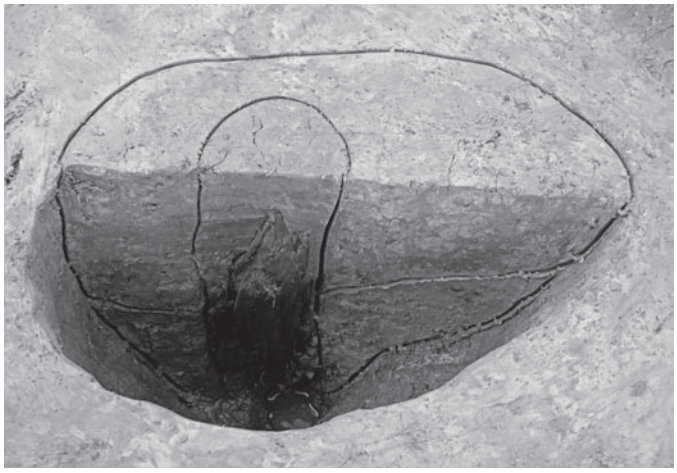


SB16705-P16544　断面（西から）

SB16705-P16551　断面（西から）

SB16705-P16630　断面（東から）

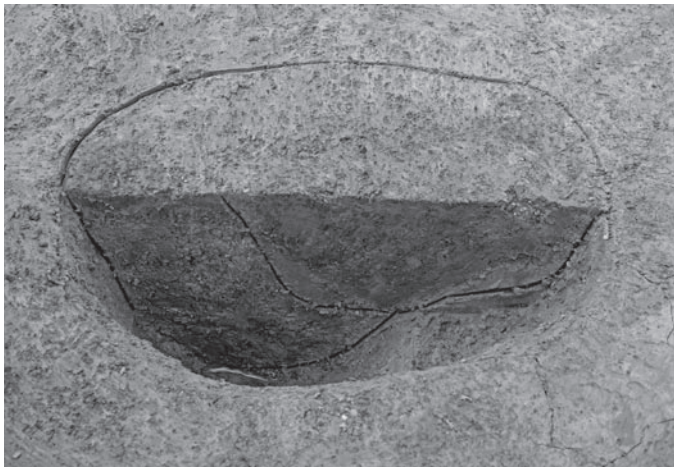
SB16705-P16657　断面（東から）



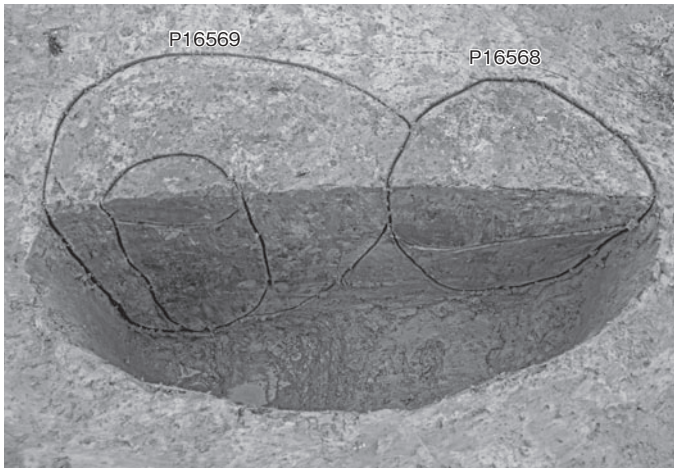
SB16706-P16543　断面（西から）

SB16706-P16574　断面（西から）

SB16706-P16579　断面（東から）



SB16707-P16526　断面（東から）



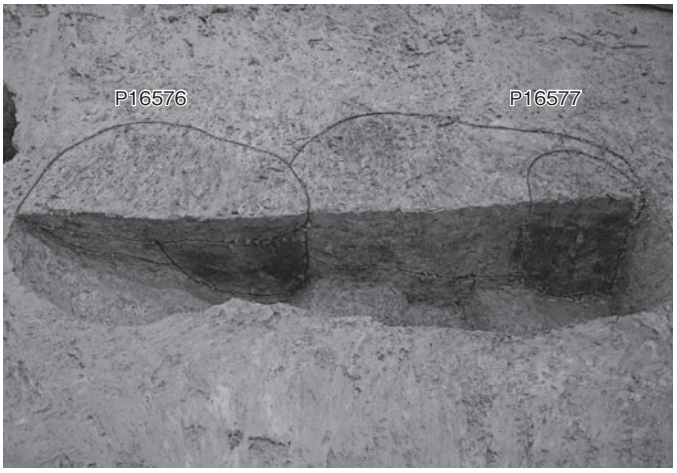
SB16707-P16569（左）　断面（南から）

SB16707-P16572　断面（西から）

SB16707-P16575　断面（南から）

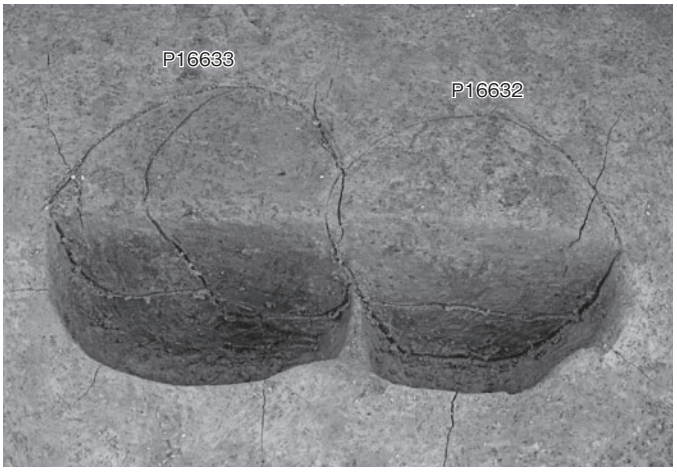
SB16707-P16588　断面（東から）

SA16708-P16533　断面（東から）



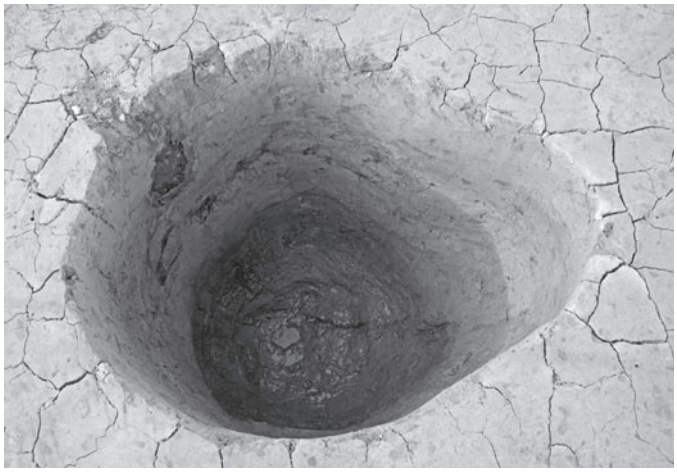
SA16708-P16577（右）　断面（西から）

SA16708-P16590　断面（西から）



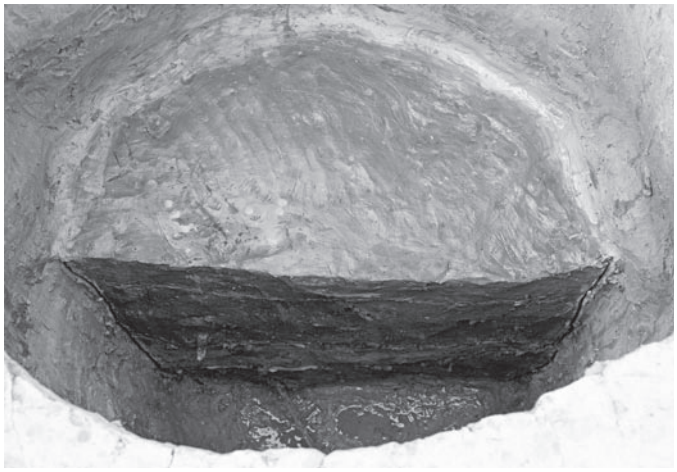
SA16708-P16633（左）　断面（北から）

SE16016　断面（南から）



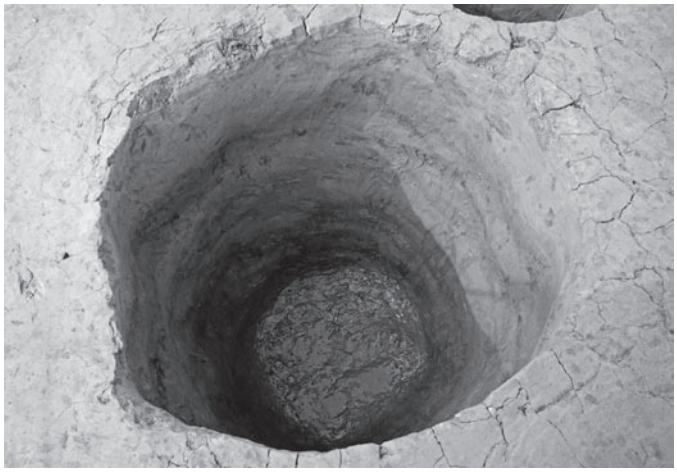
SE16016　完掘（南から）

SE16017（1～10層）　断面（南から）



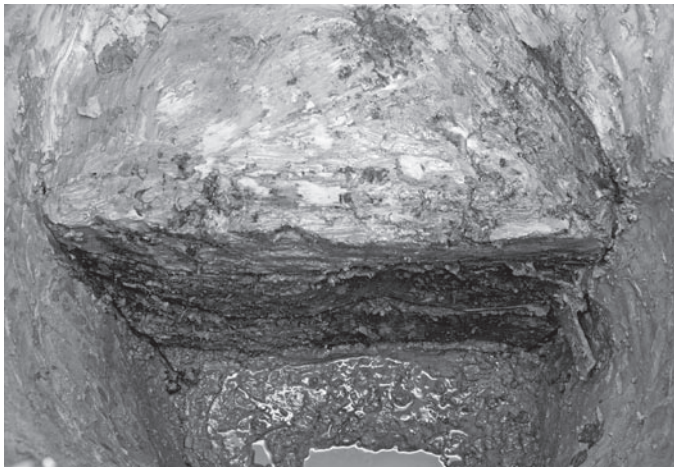
SE16017（8～12層）　断面（南から）

SE16017（9・10層）　出土状況（南から）



SE16017　完掘（南から）

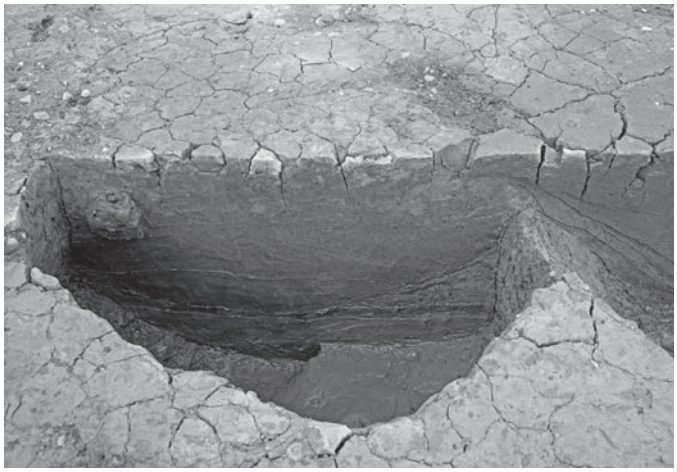
SE16028（1～9層）　断面（南東から）



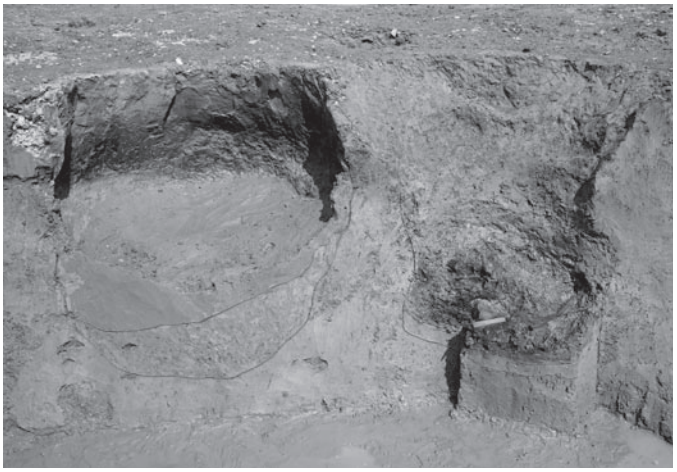
SE16028（8～11層）　断面（南東から）

SE16028　完掘（東から）

SE16031（１～７層）　断面（南から）



SE16051（１～６層）　断面（南から）



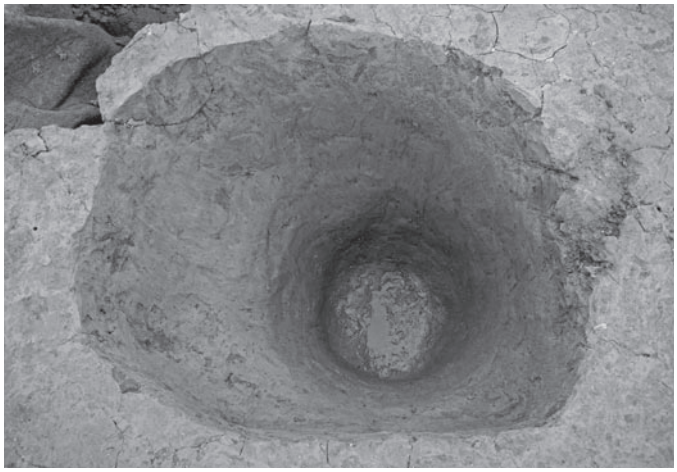
SE16031（８・９層）・16051（７・８層）　断面（南から）

SE16031（８層）　遺物出土状況（南から）

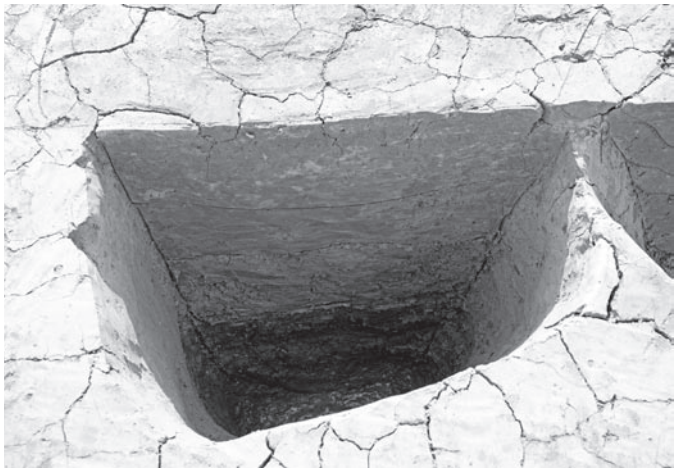
SE16031　完掘（南から）

SE16051　完掘（南から）

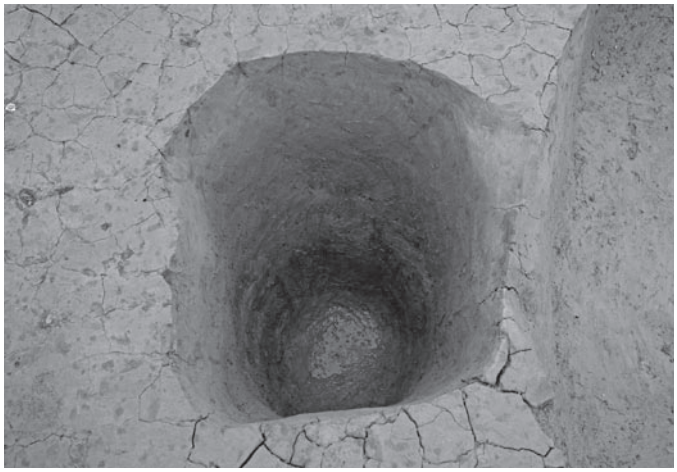
SE16037　断面（西から）



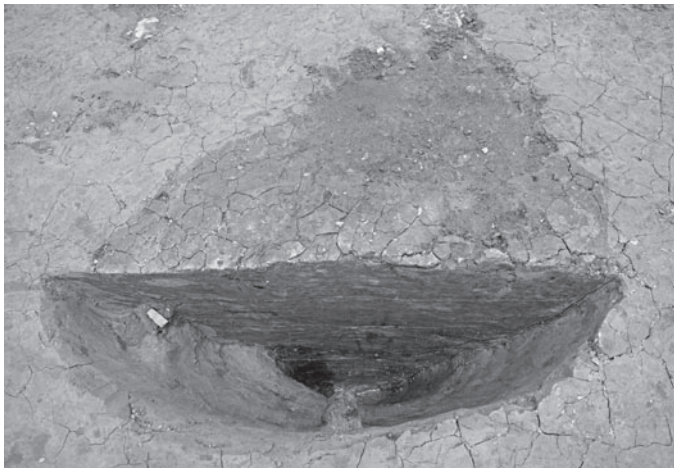
SE16037　完掘（東から）



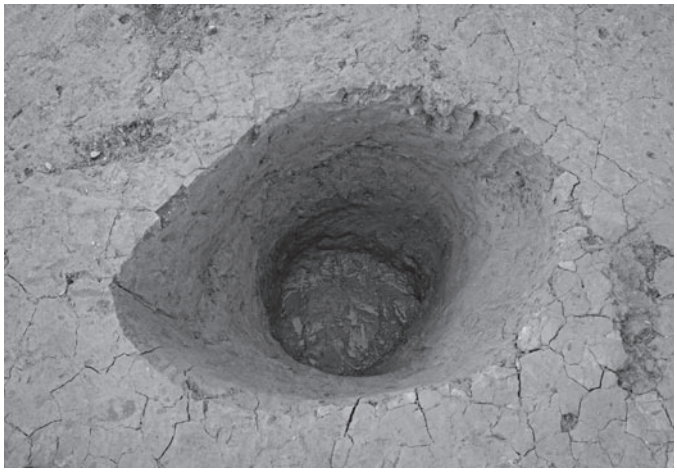
SE16044　断面（東から）



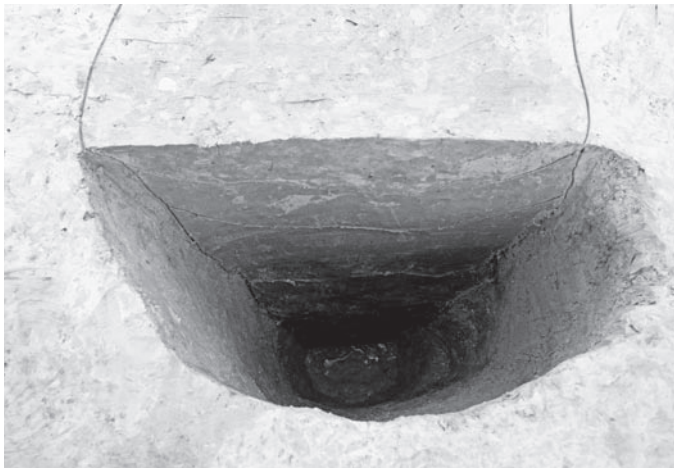
SE16044　完掘（東から）



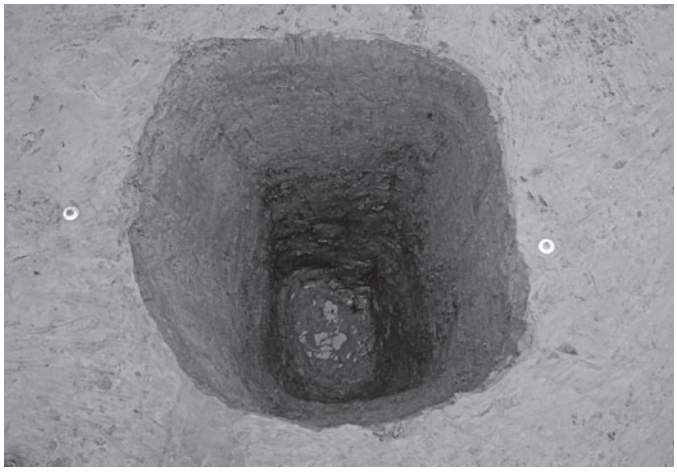
SE16060　断面（南から）



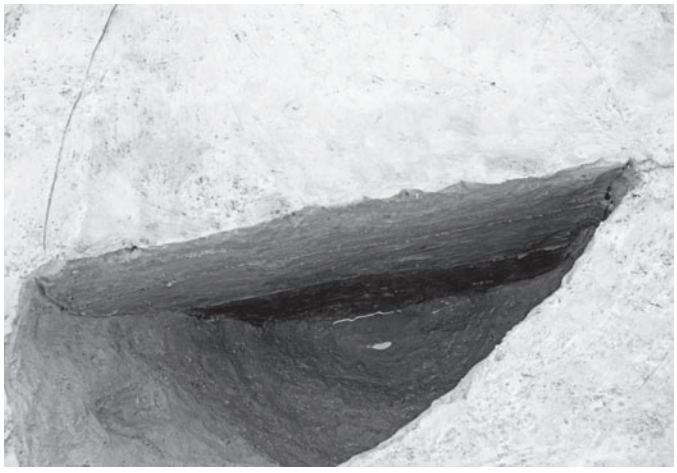
SE16060　完掘（南から）



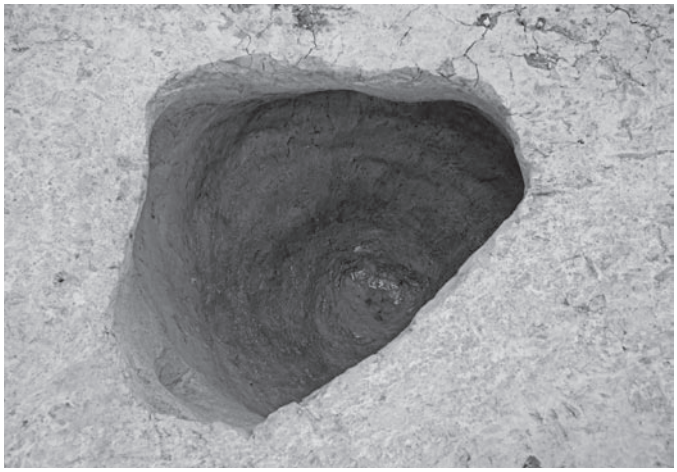
SE16079　断面（南から）



SE16079　完掘（南から）

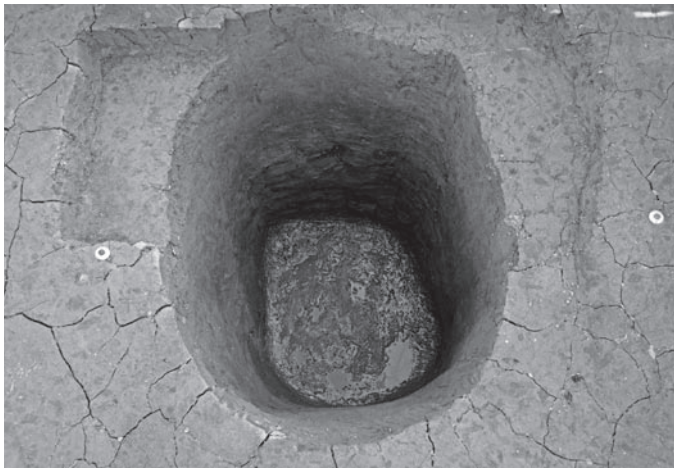


SE16087　断面（南から）



SE16087　完掘（南から）

SE16100　断面（北から）



SE16100　完掘（北から）

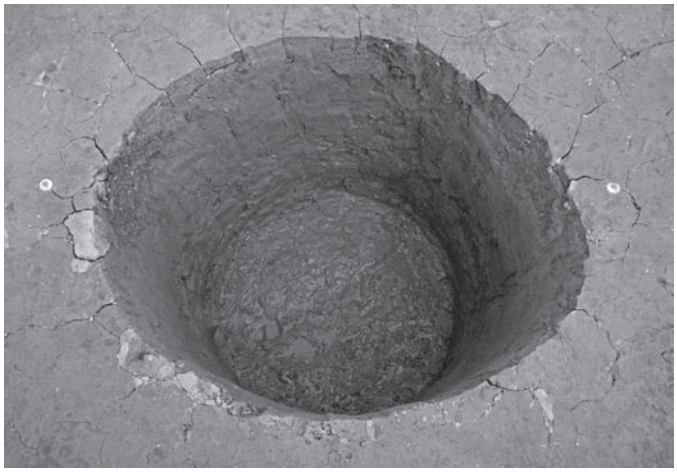
SE16103　断面（南から）

SE16103　断面（南から）

SE16110　断面（西から）

SE16110　完掘（西から）

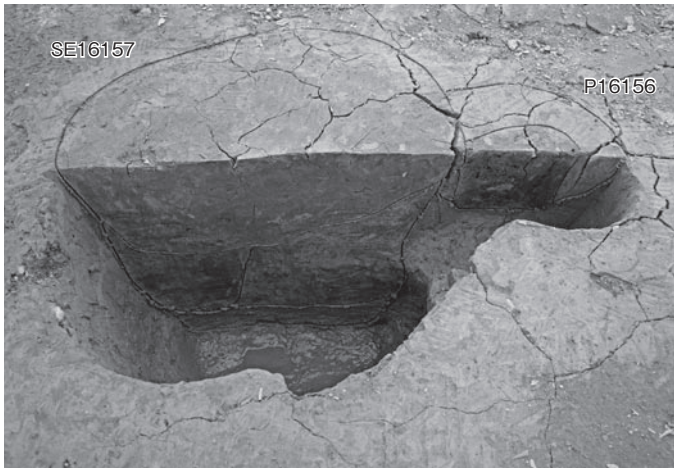
SE16127　断面（西から）



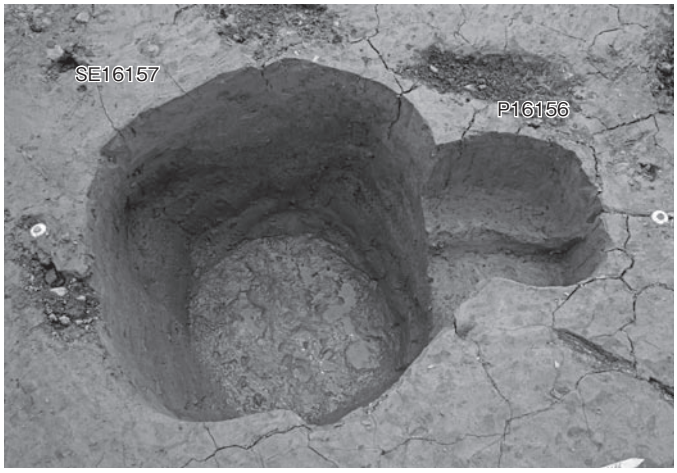
SE16127　完掘（西から）

SE16129　断面（南から）

SE16129　完掘（南から）

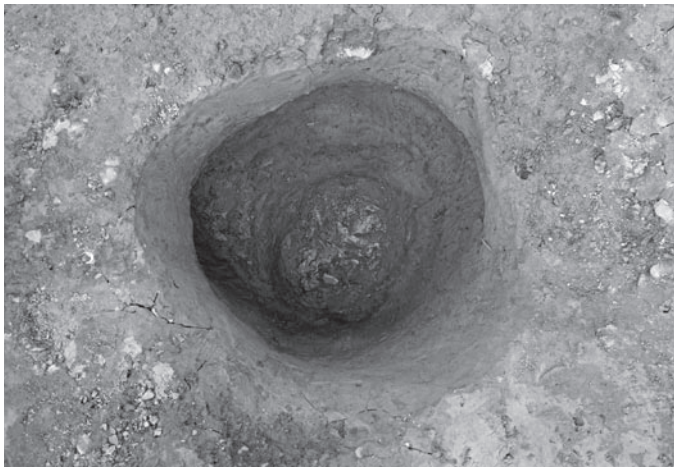


SE16157　断面（西から）

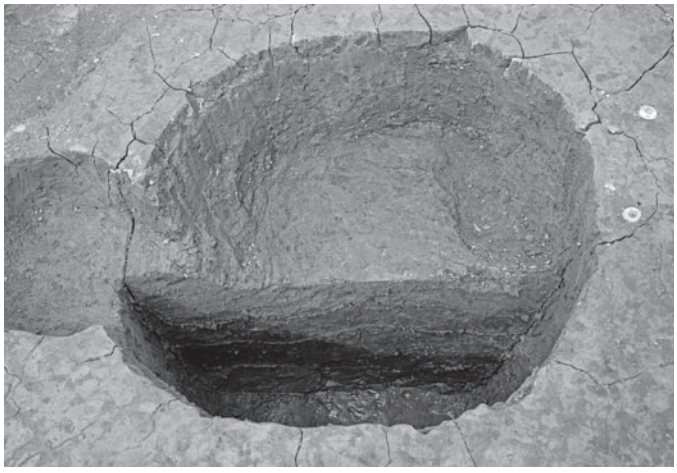


SE16157　完掘（西から）

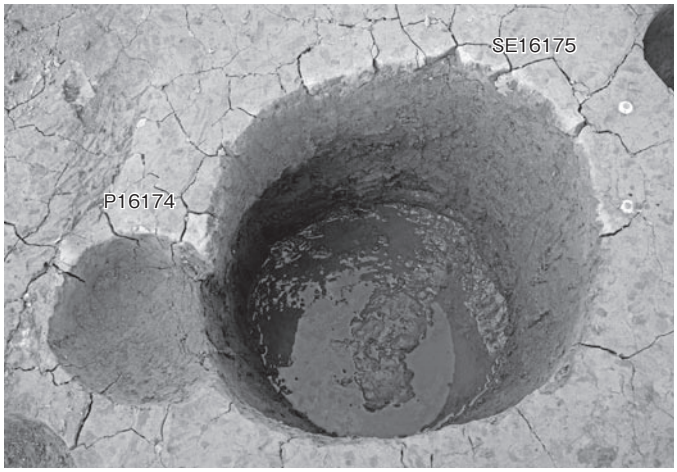
SE16164（１～３層）　断面（西から）



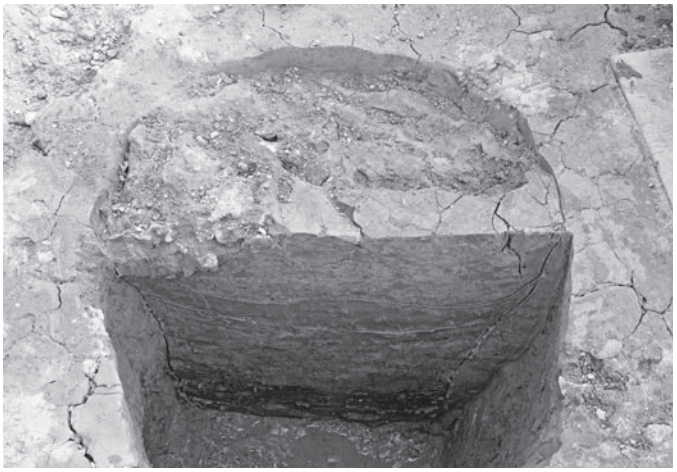
SE16164　完掘（南から）

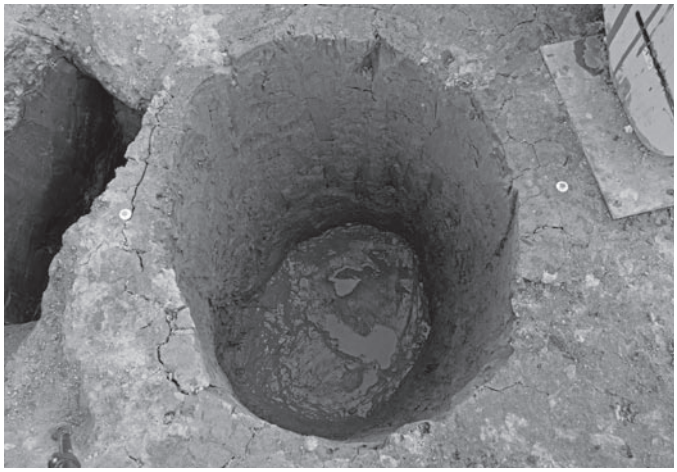


SE16175　断面（南から）

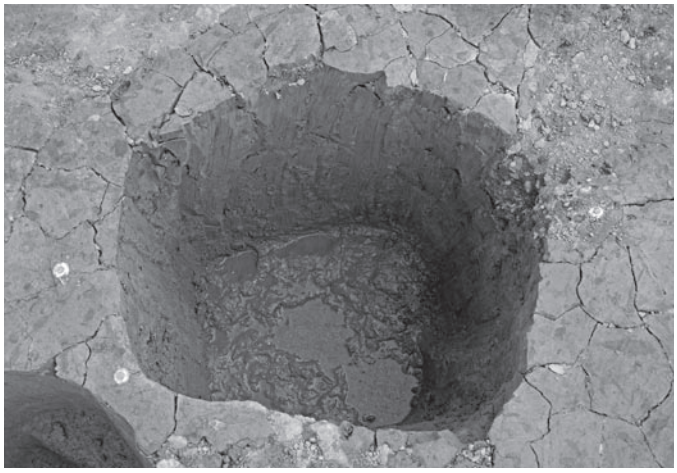


SE16175　完掘（南から）


SE16196　断面（北から）

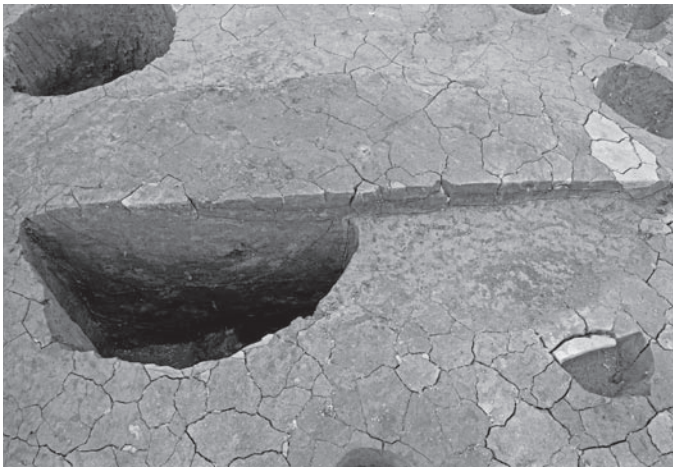

SE16196　完掘（北から）

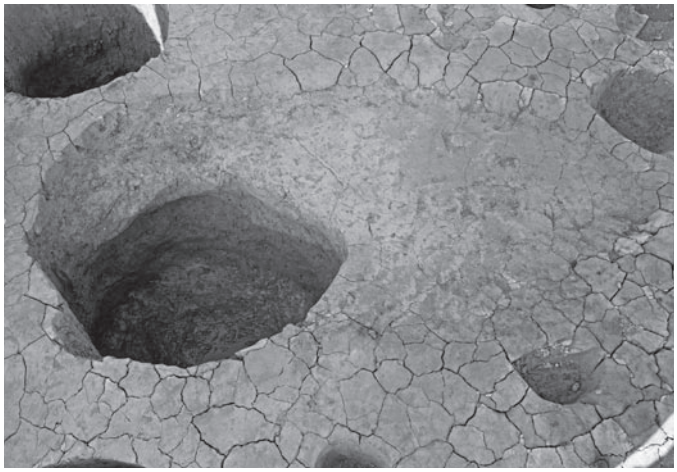
SE16199　断面（北から）


SE16199　完掘（北から）

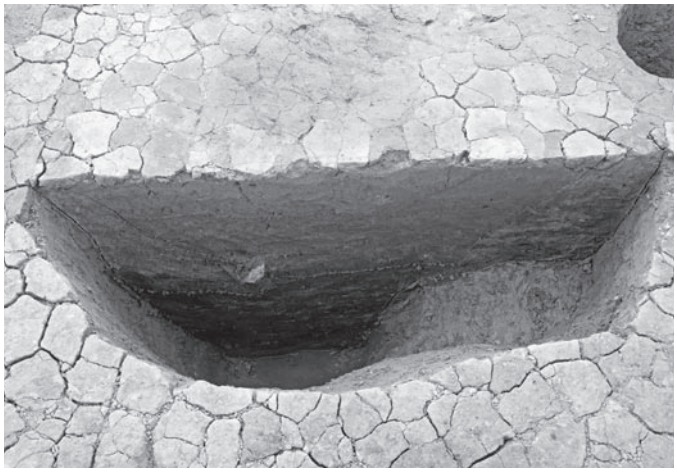
SE161201　断面（西から）

SE16201　完掘（西から）

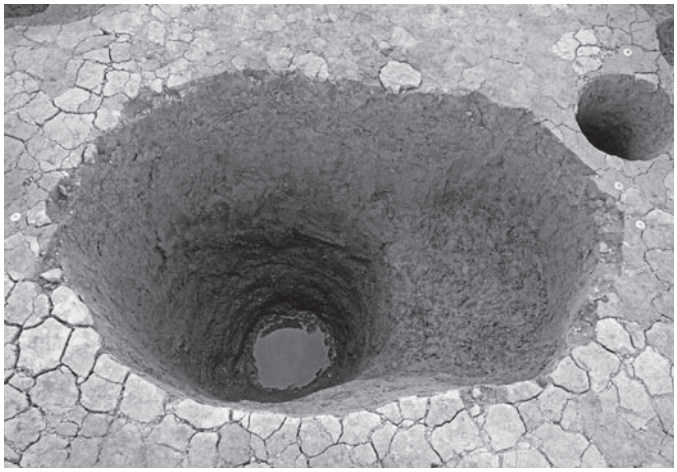

SE16202　断面（南西から）



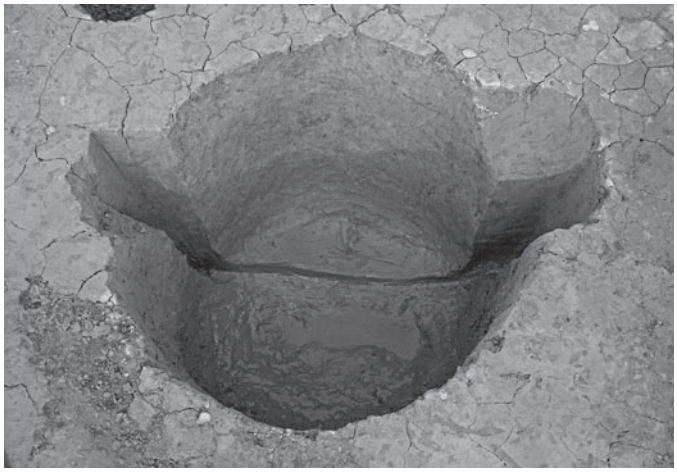
SE16202　完掘（南西から）



SE16216　断面（東から）



SE16216　完掘（東から）



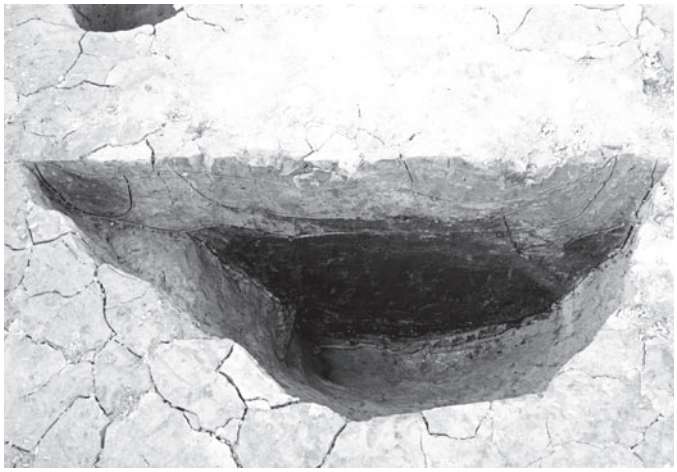
SE16225　完掘（西から）

SE16237　断面（北西から）

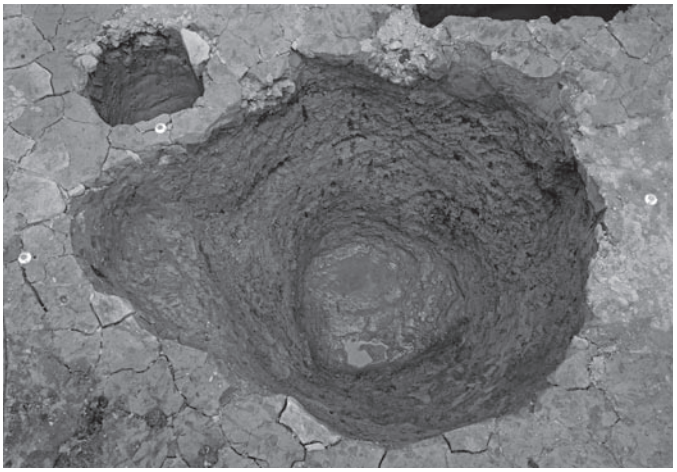
SE16237　完掘（北西から）

SE16261　断面（西から）

SE16261　完掘（西から）

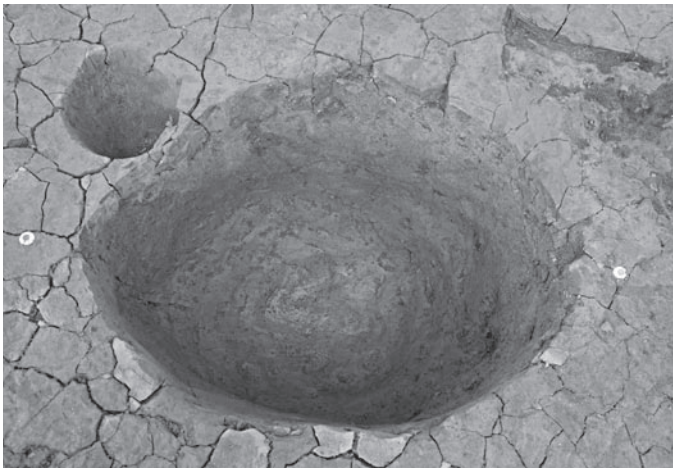


SE16264　断面（南から）

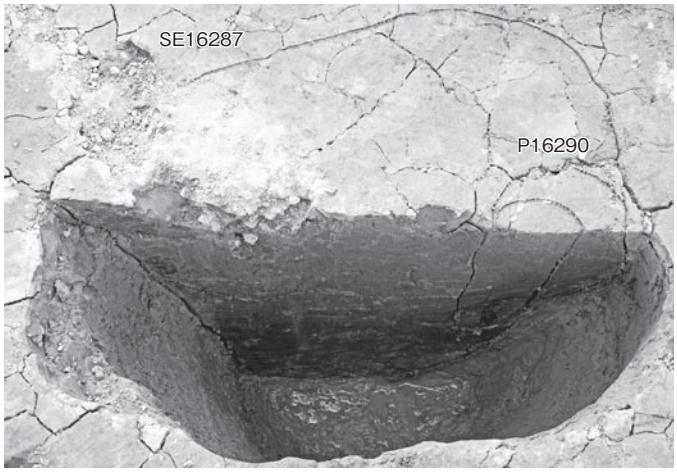


SE16264　完掘（南から）

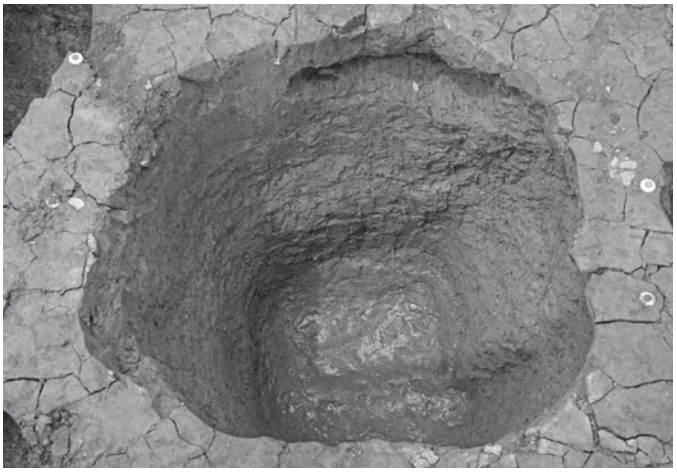
SE16272　断面（南西から）



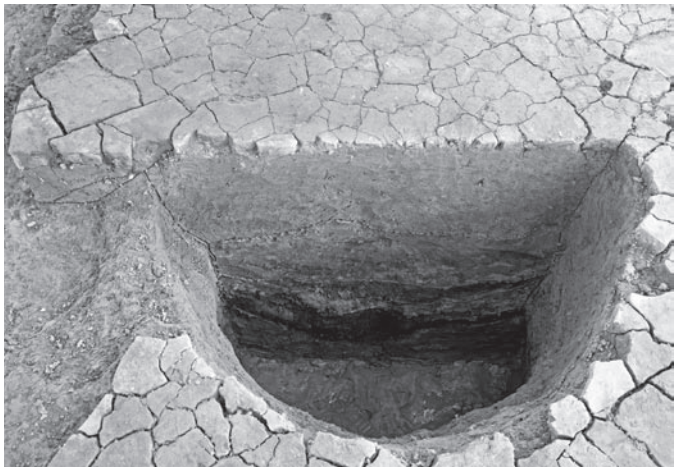
SE16272　完掘（西から）



SE16287　断面（東から）



SE16287　完掘（東から）



SE16295　断面（北から）

SE16295　完掘（北から）

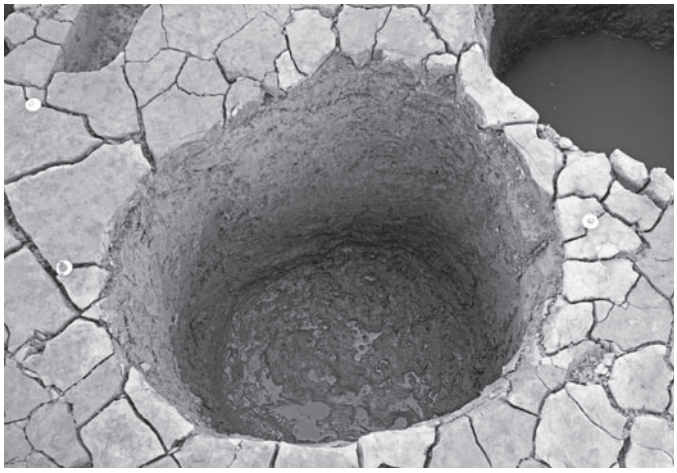
SE16296　断面（南から）

SE16296　完掘（南から）

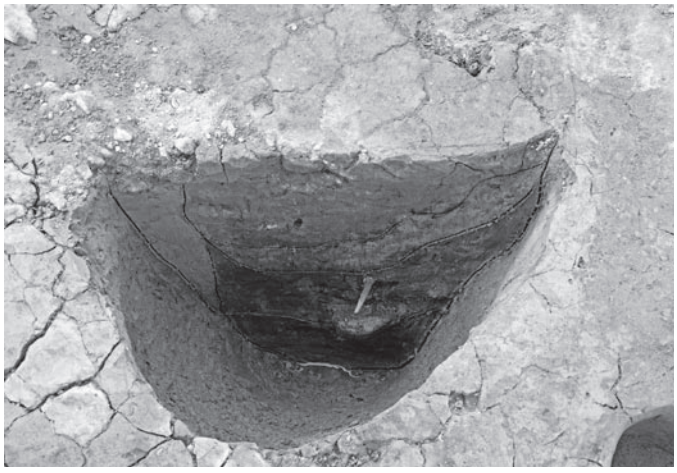
SE16299　断面（西から）

SE16299・SK16298　完掘（西から）

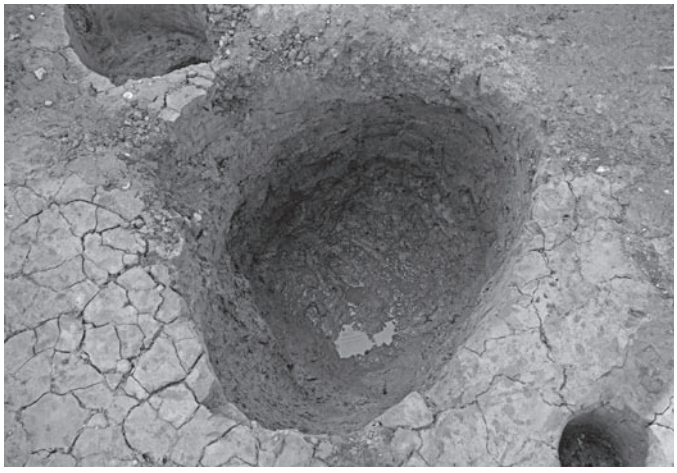
SE16301　断面（東から）



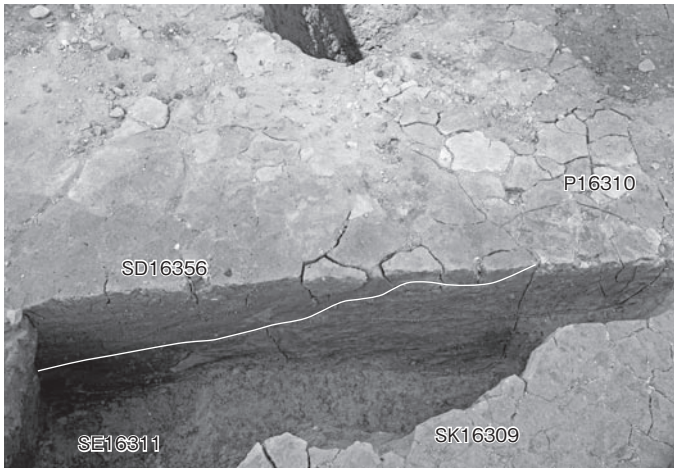
SE16301　完掘（東から）



SE16302　断面（東から）



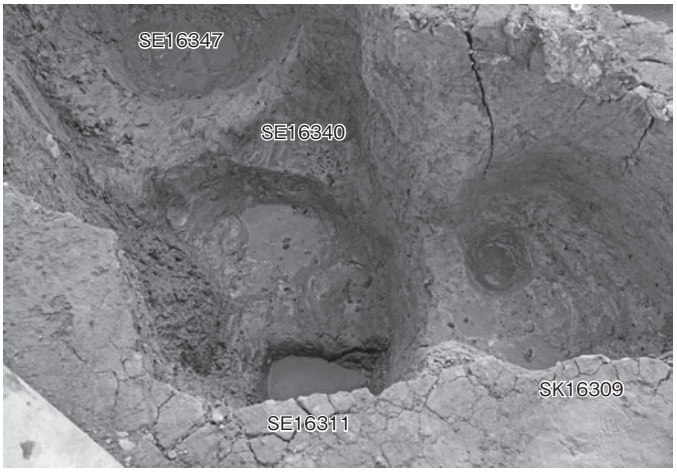
SE16302　完掘（東から）



SE16311・SK16309・SD16356　断面（東から）

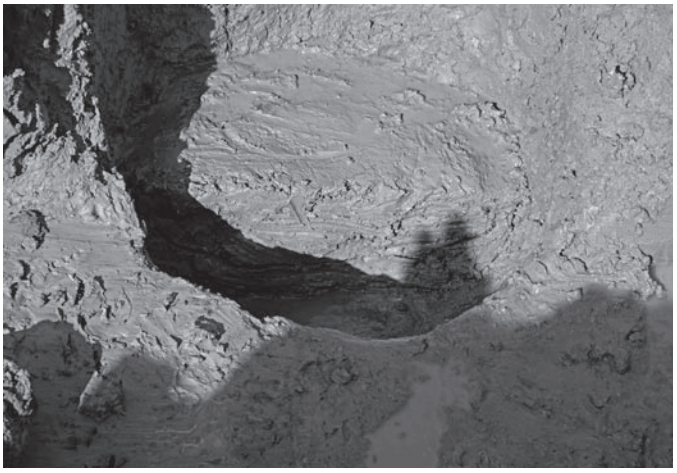
SE16311（3～7層）　断面（東から）

SE16311　漆器有台椀（218）・板材　出土状況（北西から）



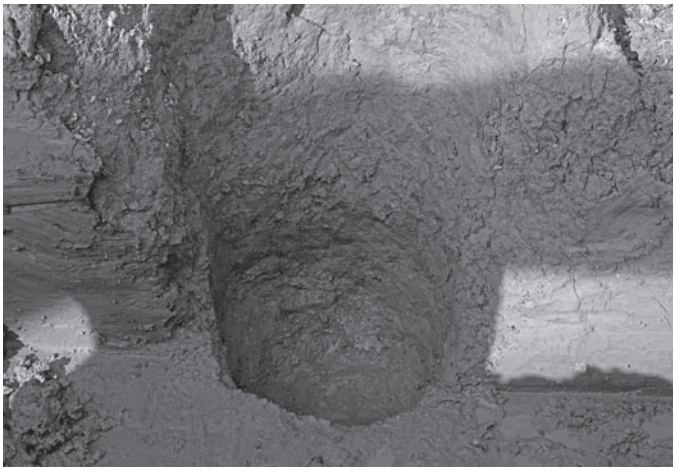
SE16311・SK16309　完掘（北東から）

SE16314（1～3層）　断面（南から）

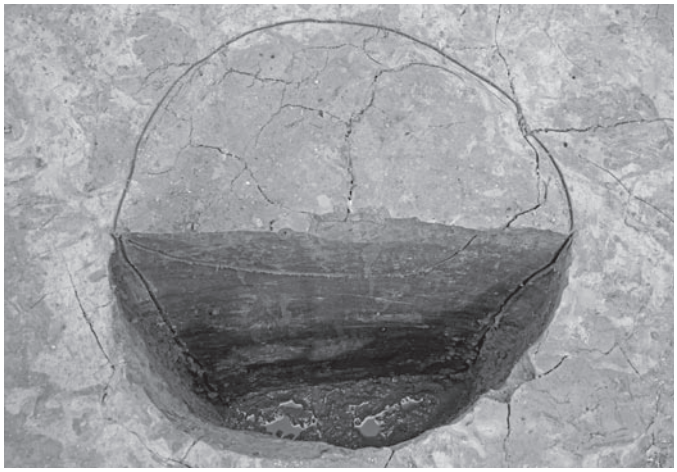


SE16314（4・5層）　断面（南から）

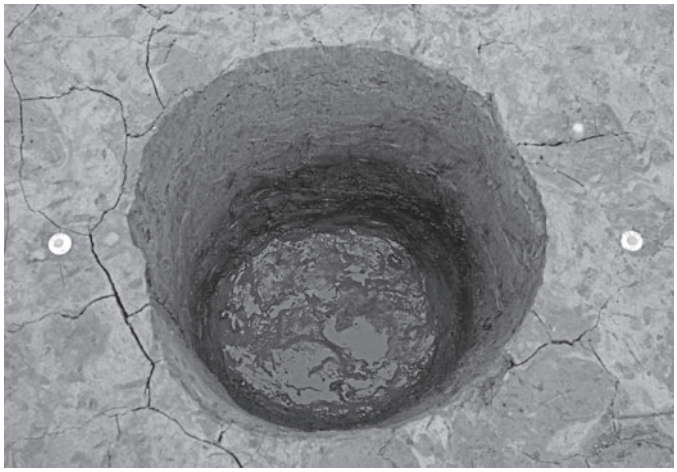
SE16314　完掘（3層まで）（南から）



SE16314　完掘（南から）



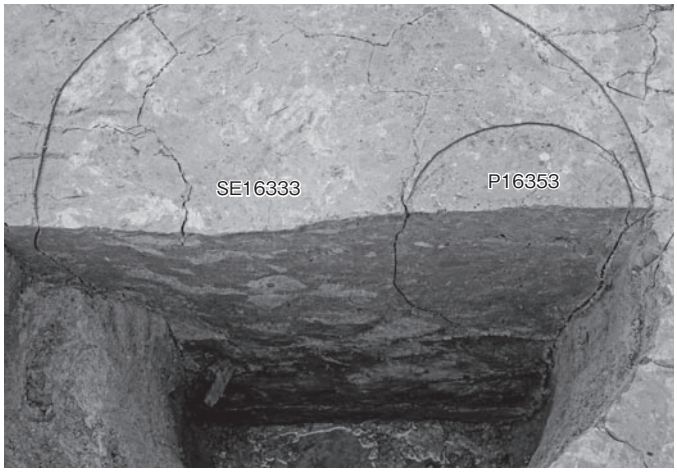
SE16315　断面（南から）



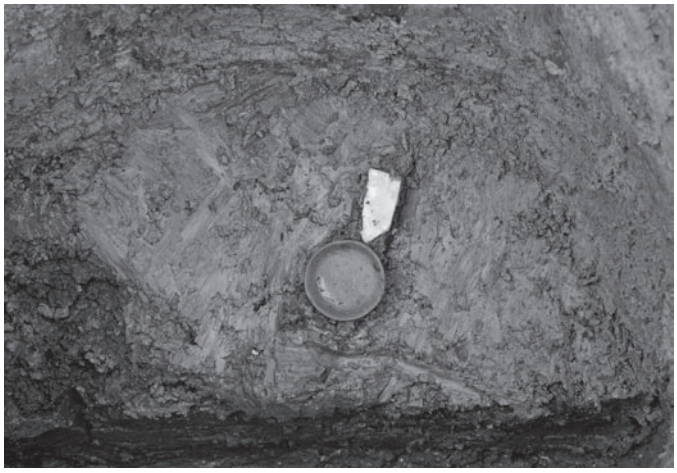
SE16315　完掘（南から）

SE16319　断面（南から）

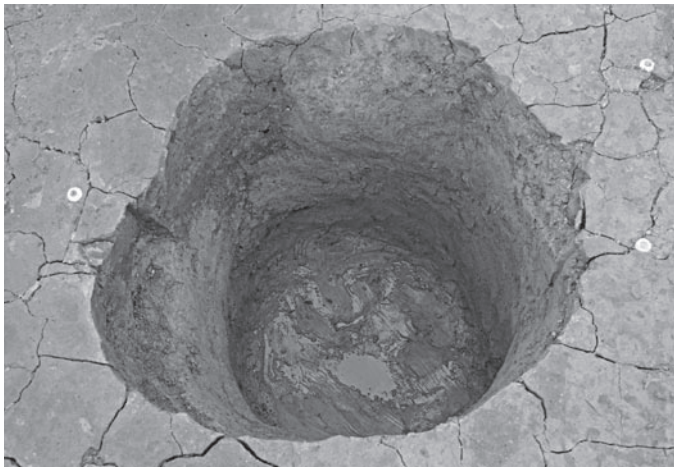
SE16319　完掘（南から）



SE16333　断面（南から）



SE16333　土師質土器小皿（30）・青磁皿（31）　出土状況（南から）

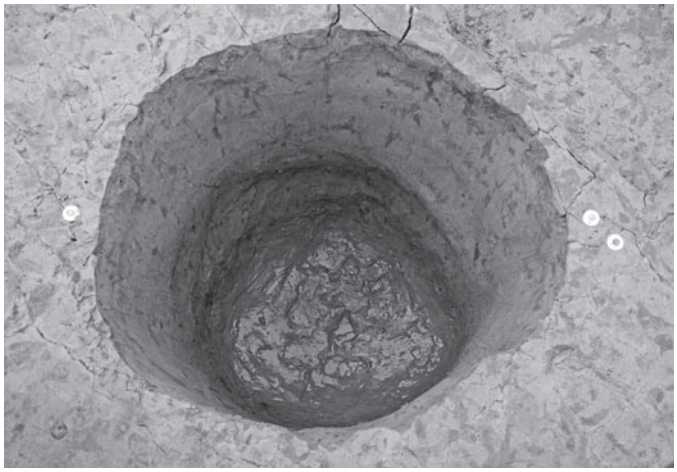


SE16333　完掘（南から）

SE16340　断面（北から）

SE16340　完掘（北東から）

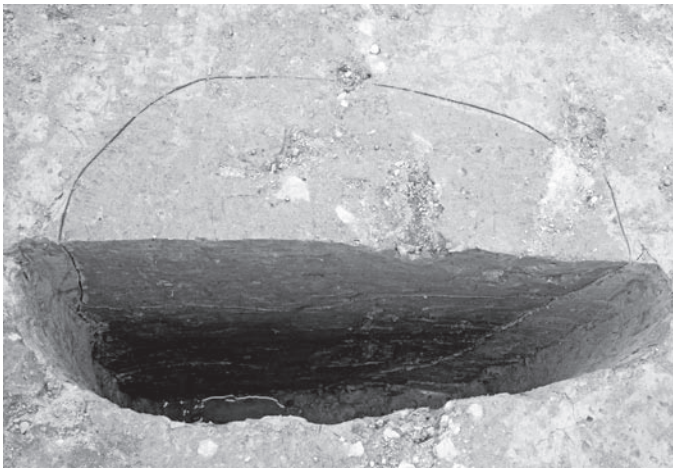
SE16341　断面（南東から）



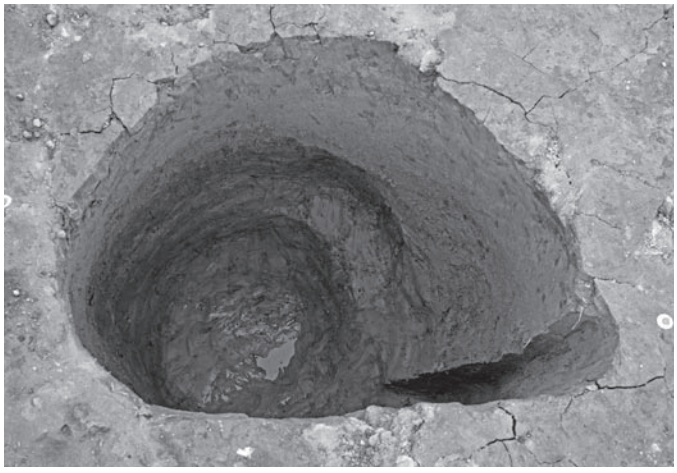
SE16341　完掘（南東から）

SE16347　断面（南から）

SE16347　完掘（南から）



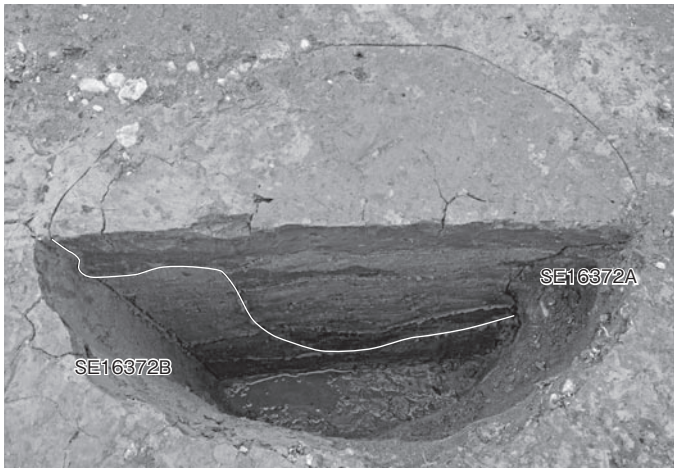
SE16348　断面（南から）



SE16348　完掘（南から）

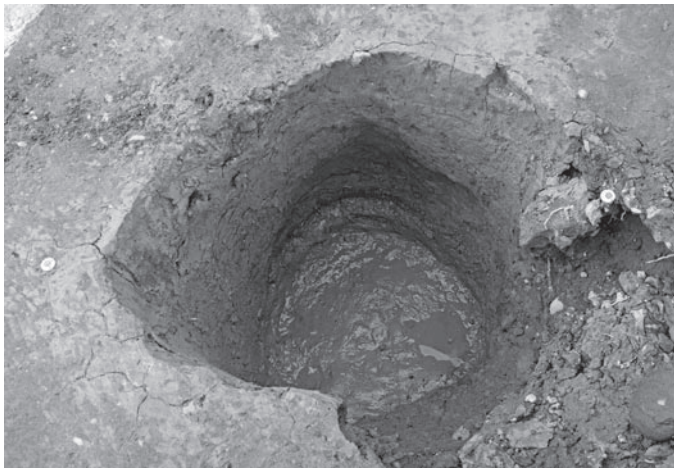
SE16357・SD16356　断面（南から）

SE16357　完掘（南から）

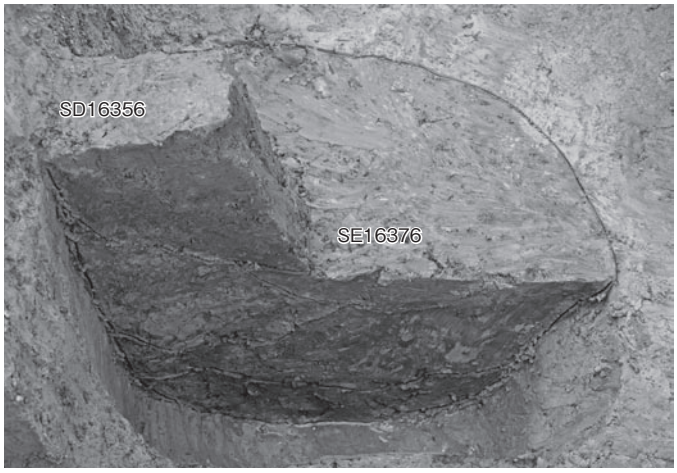


SE16372A・B　断面（南東から）

SE16372A　完掘（南東から）

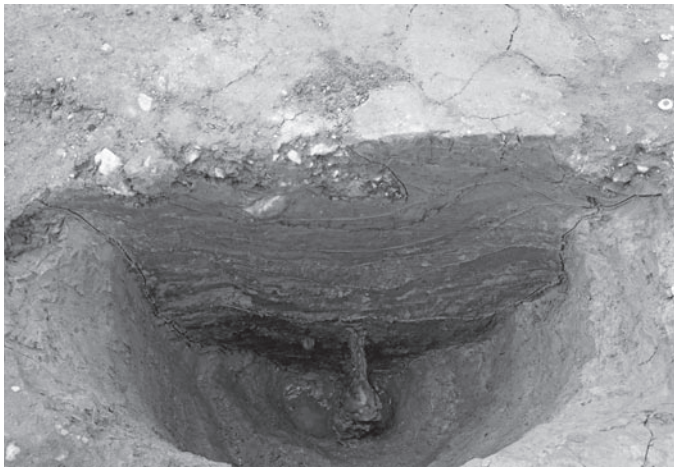


SE16372B　完掘（南東から）

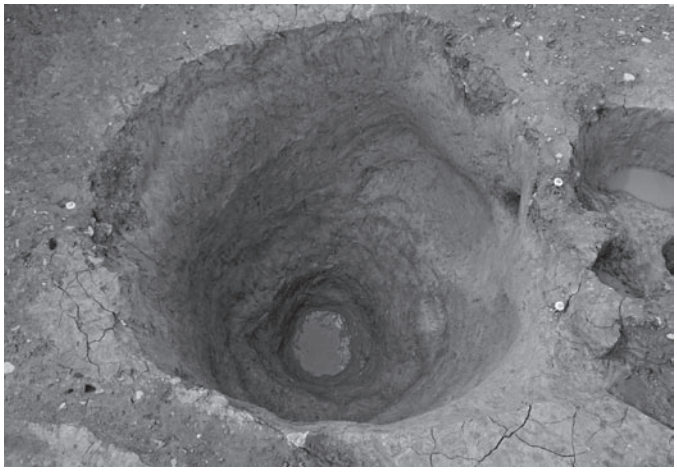


SE16376・SD16356　断面（南から）

SE16376　完掘（南から）

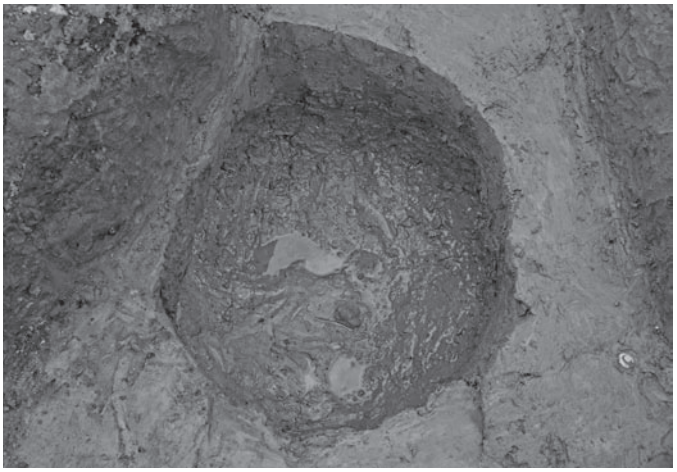


SE16396　断面（南東から）



SE16396　完掘（南東から）

SE16404　断面（南から）



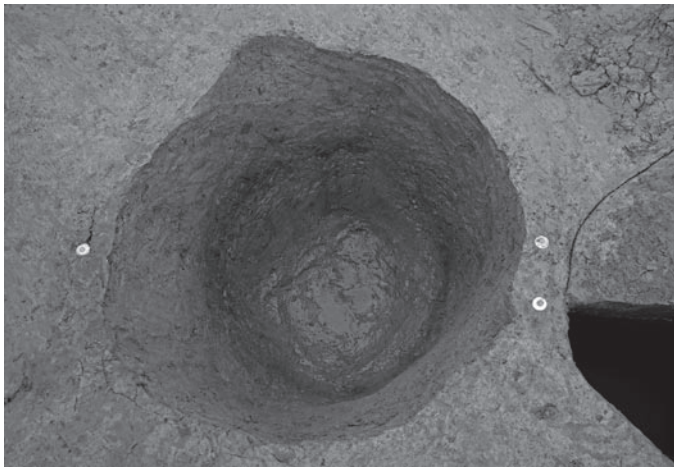
SE16404　完掘（南から）

SE16419　断面（南から）

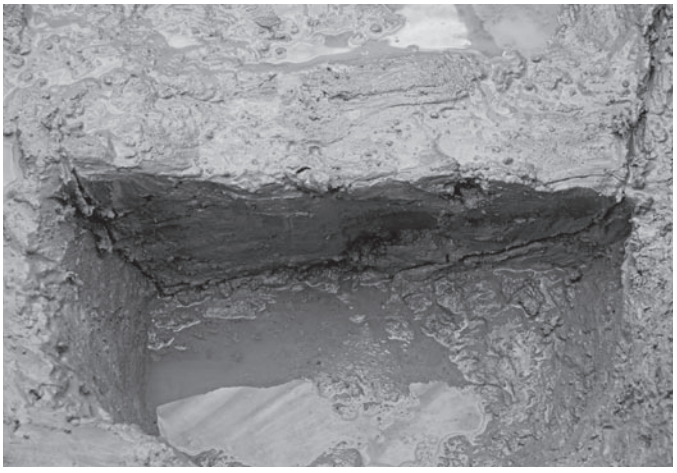
SE16419　完掘（南から）

SE16424　断面（南西から）

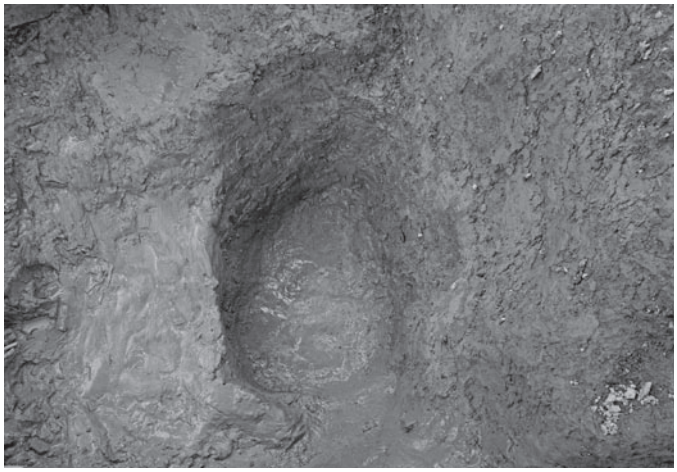
SE16424　完掘（南西から）



SE16436　完掘（西から）

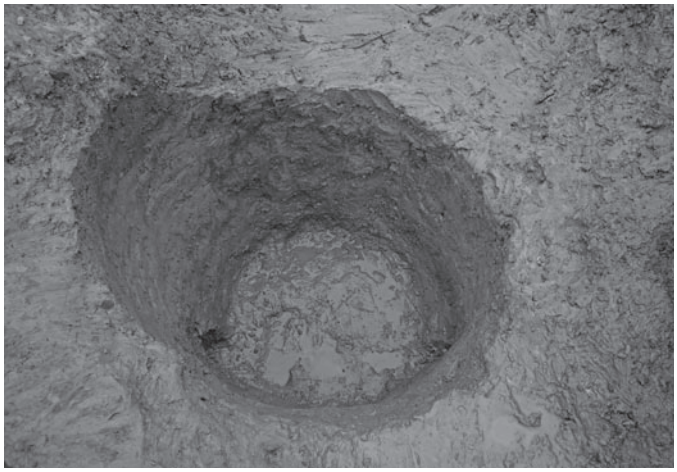


SE16440　断面（東から）



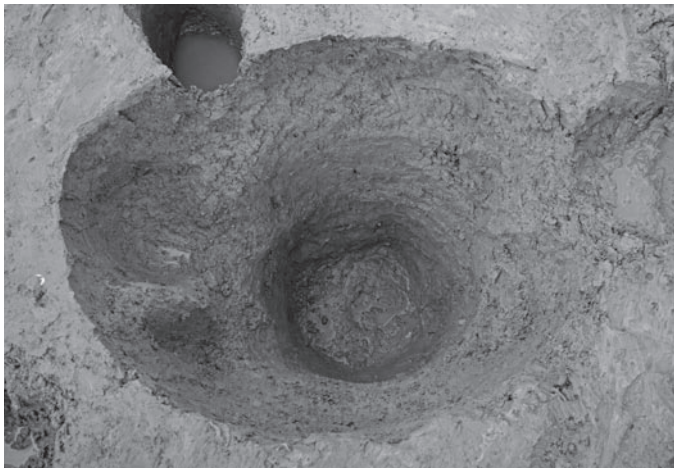
SE16440　完掘（東から）

SE16442　断面（西から）



SE16442　完掘（西から）

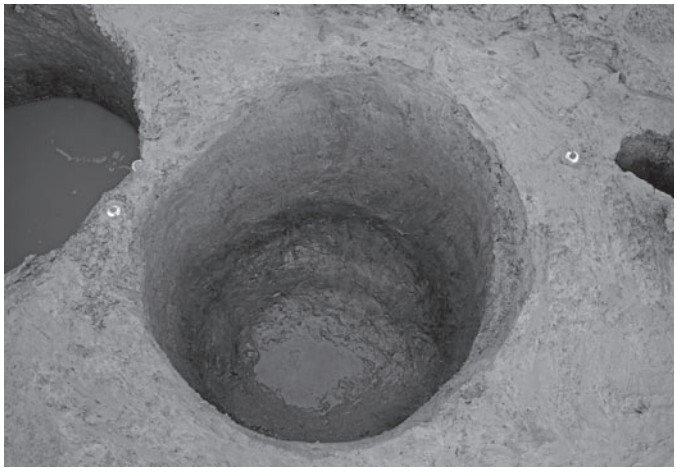
SE16443　断面（南から）



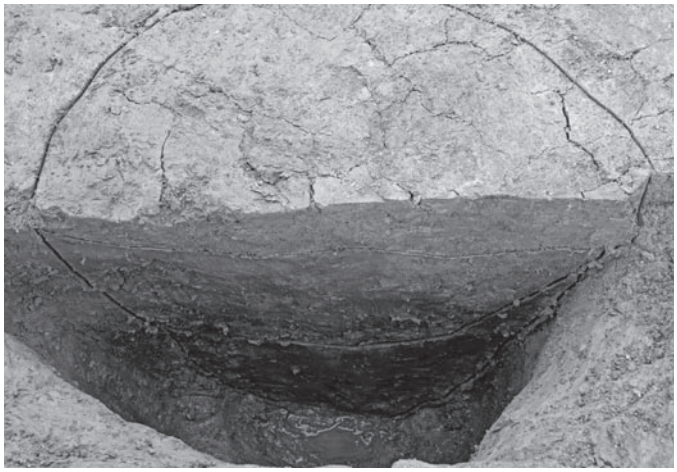
SE16443　完掘（南から）

SE16444　珠洲焼片口鉢（38）・砥石（127・128）　出土状況（西から）

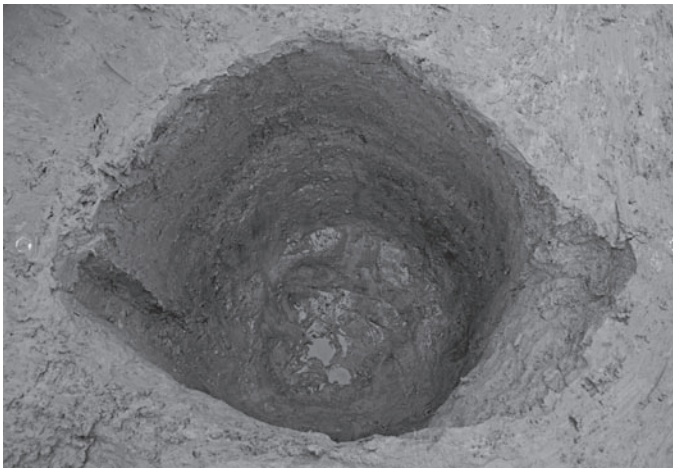
SE16444　断面（西から）



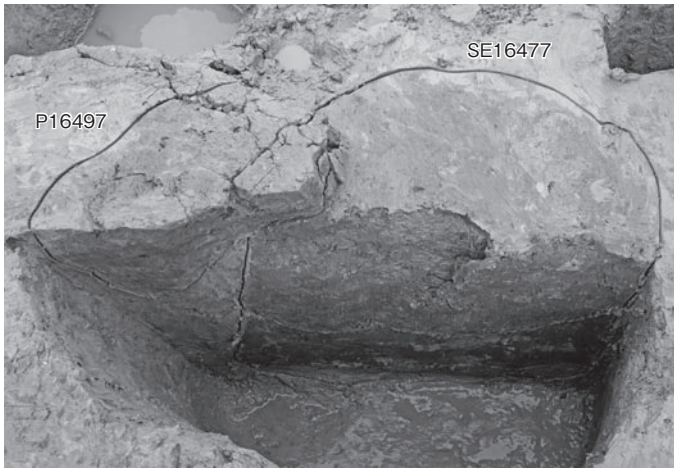
SE16444　完掘（西から）



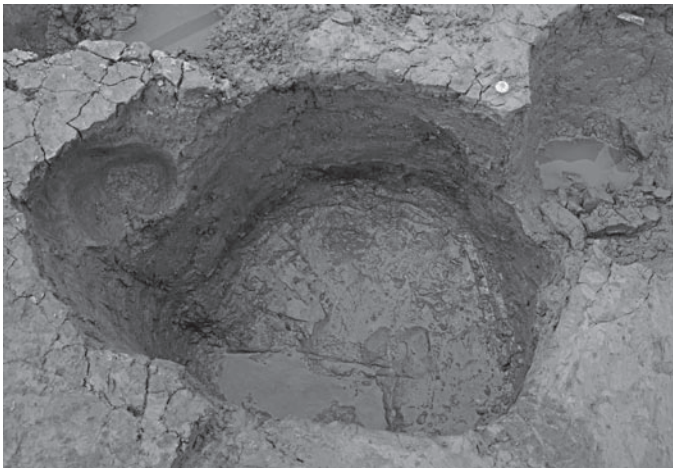
SE16469　断面（南から）



SE16469　完掘（南から）



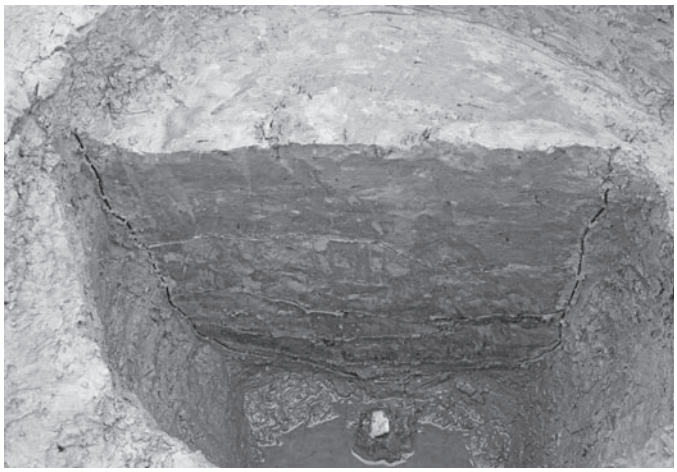
SE16477　断面（東から）



SE16477　完掘（東から）

SE16504　断面（南東から）

SE16504　完掘（南東から）

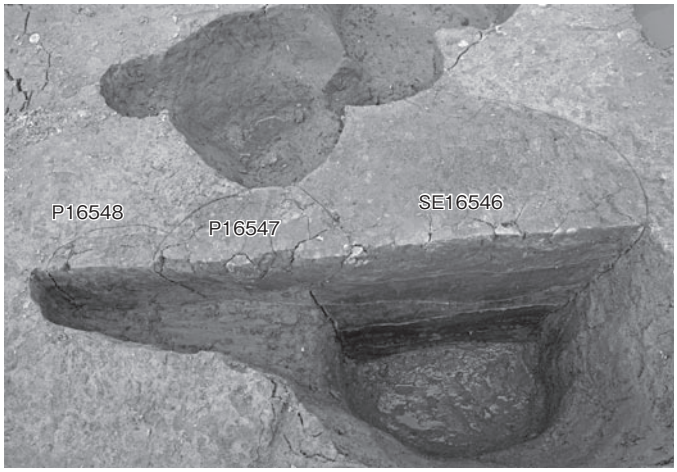


SE16517　断面　白磁杯（39）出土状況（北西から）

SE16517　完掘（北西から）

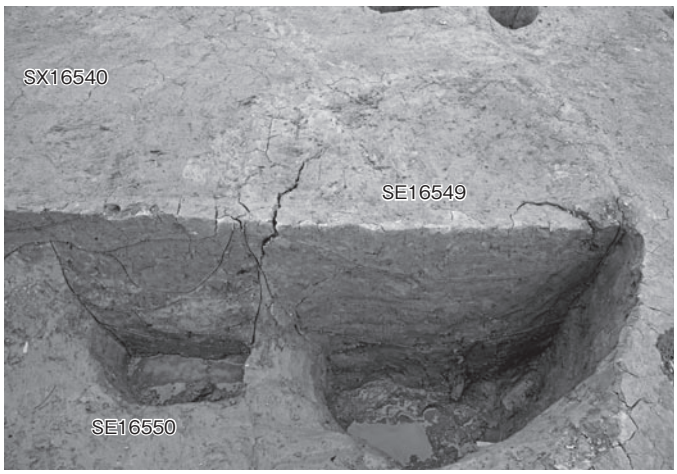
SE16537　断面（南から）

SE16537　完掘（南から）

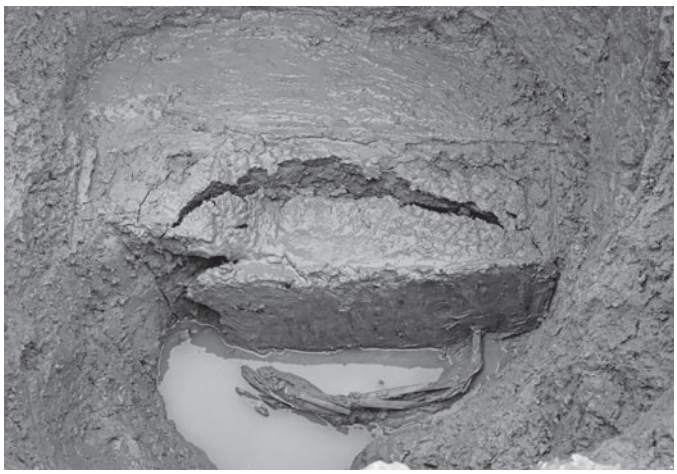


SE16546　断面（南から）

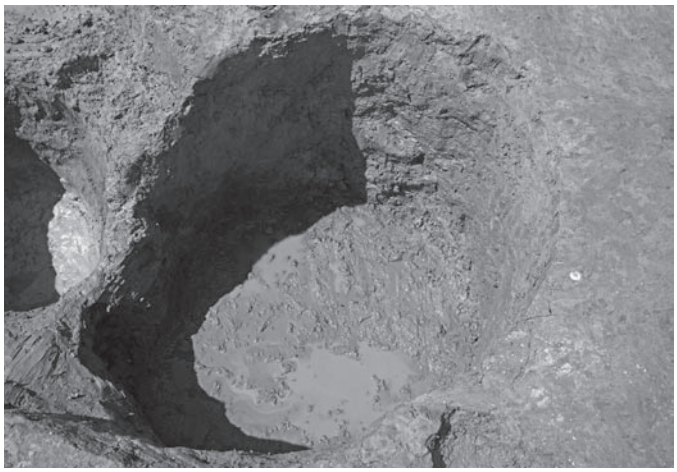
SE16546　完掘（南から）



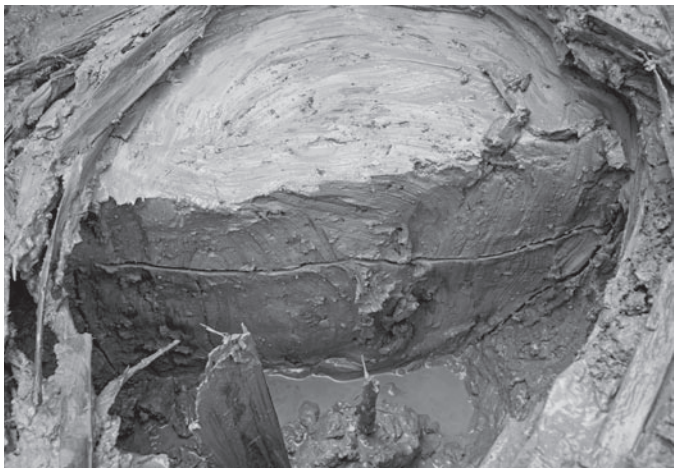
SE16549（1～3層）・16550　断面（東から）



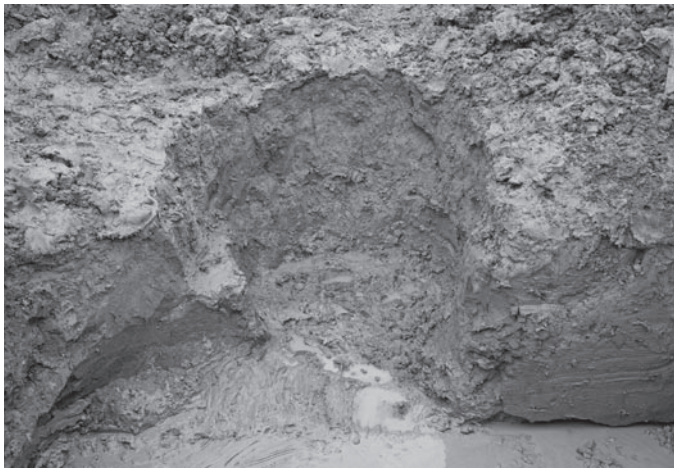
SE16549（3層）　断面（東から）



SE16549　完掘（3層まで）（東から）

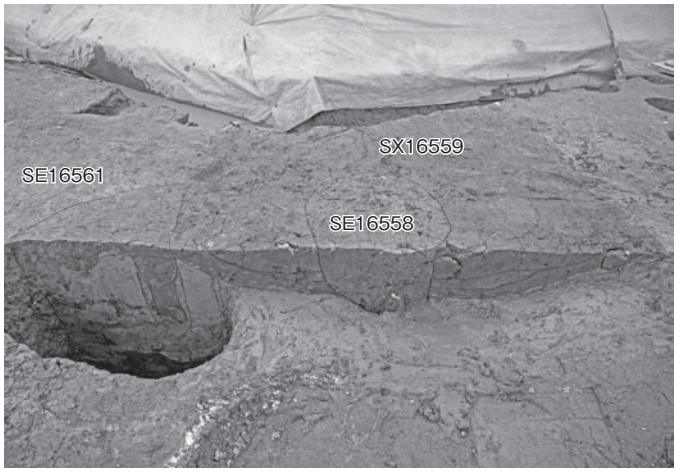


SE16549（4・5層）　断面（東から）



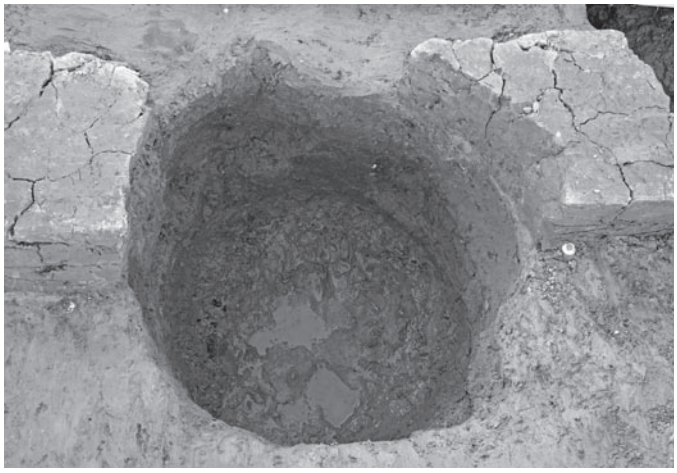
SE16549　完掘（東から）

SE16550　完掘（東から）

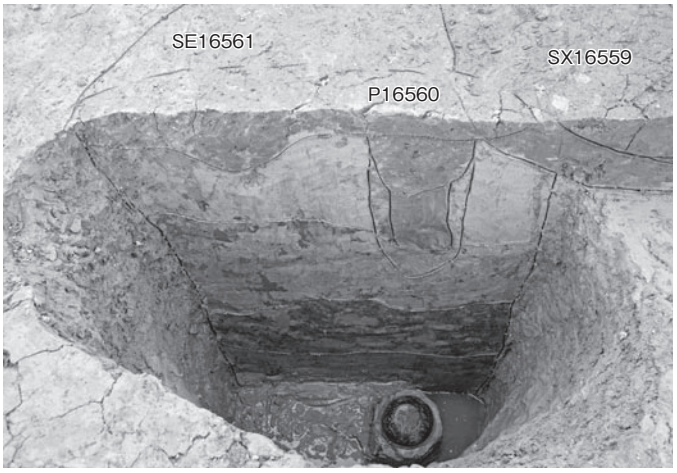


SE16558・16561・SX16559　断面（西から）

SE16558　断面（東から）



SE16558　完掘（東から）



SE16561　断面　漆器有台椀（230）出土状況（西から）

SE16561　完掘（西から）

SE16563　断面（東から）

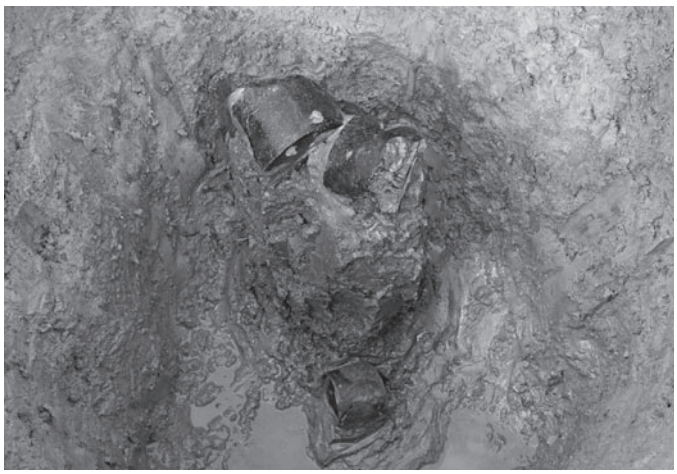
SE16563　完掘（東から）

SE16567　断面（西から）

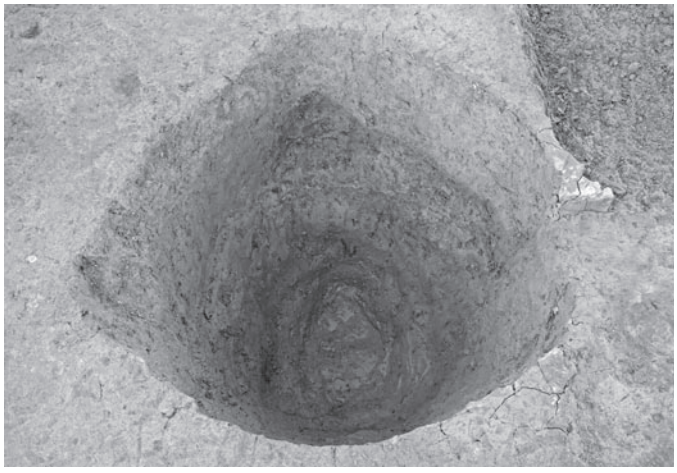
SE16567　完掘（西から）

SE16582・SD16586　断面（南から）

SE16582　茶臼下臼（129）・円形曲物底板（231）　出土状況（南から）



SE16582　茶臼上臼（130）・曲物柄杓（232）　出土状況（南から）

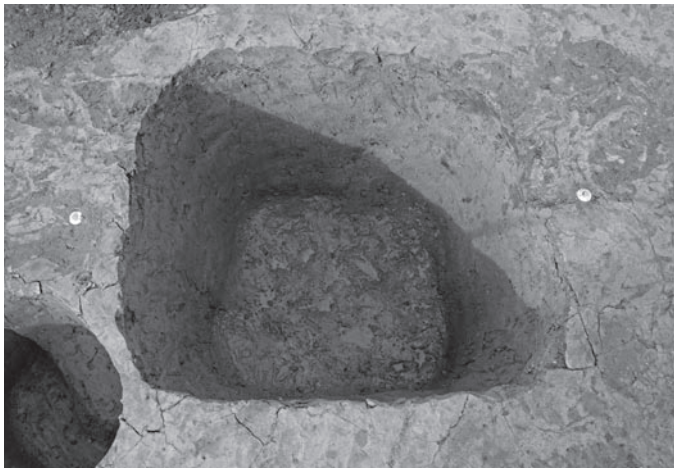


SE16582　完掘（南から）

SE16585　断面（西から）

SE16585　完掘（西から）

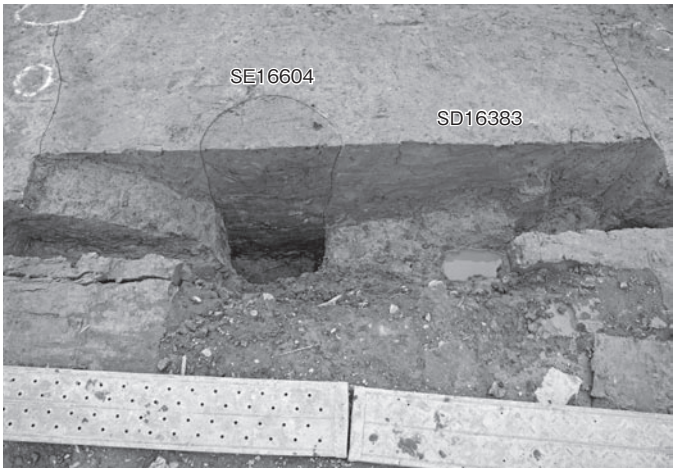
SE16592　断面（南から）



SE16592　完掘（南から）

SE16597（１～３層）　断面（東から）

SE16597　完掘（西から）



SE16604（１～５層）・SD16383　断面（西から）

SE16604（６・７層）　断面（西から）

SE16604　完掘（西から）

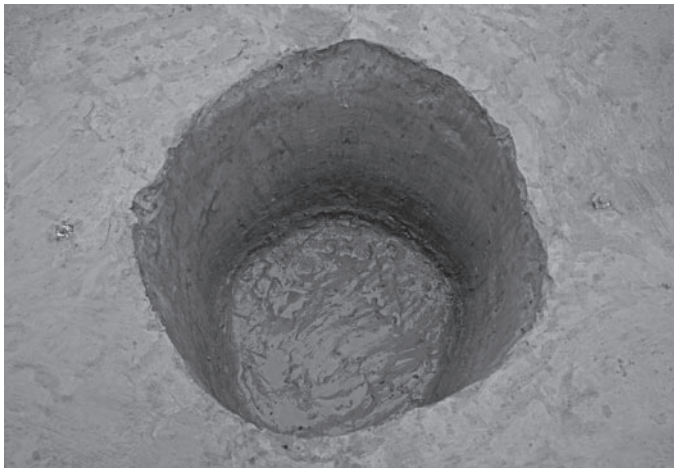
SE16608（1～5層） 断面（南から）

SE16608（6～8層） 断面（南から）

SE16608　完掘（南から）

SE16612（1～3・5層） 断面（北から）

SE16612（3・4層） 断面（北から）



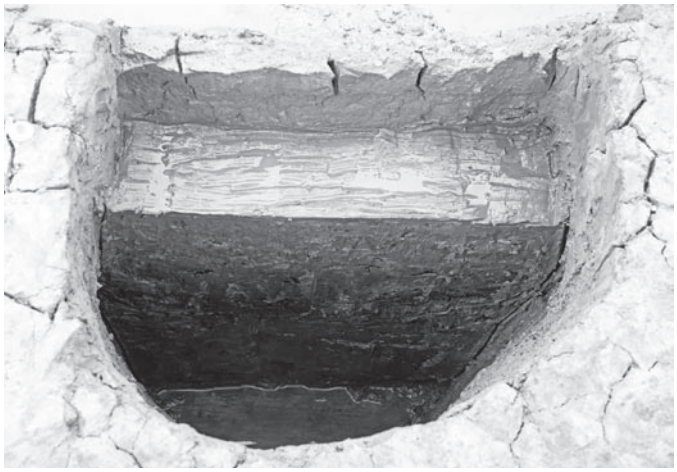
SE16612　完掘（南から）

SE16620（1・2層） 断面（南から）

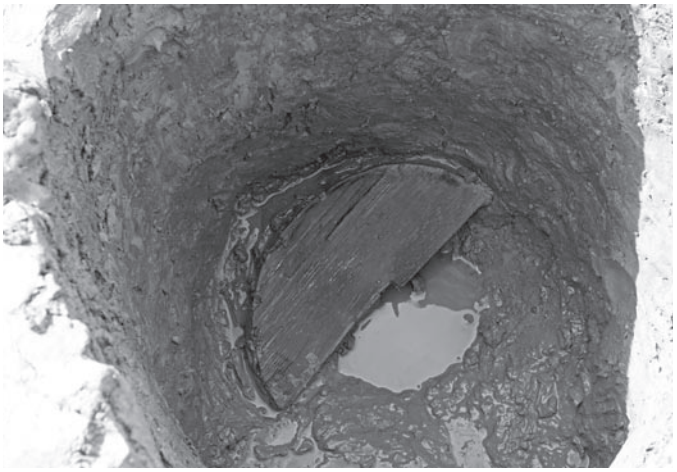
SE16620（2層） 断面（南から）

SE16620　完掘（南から）

SE16623（１層）　断面（東から）

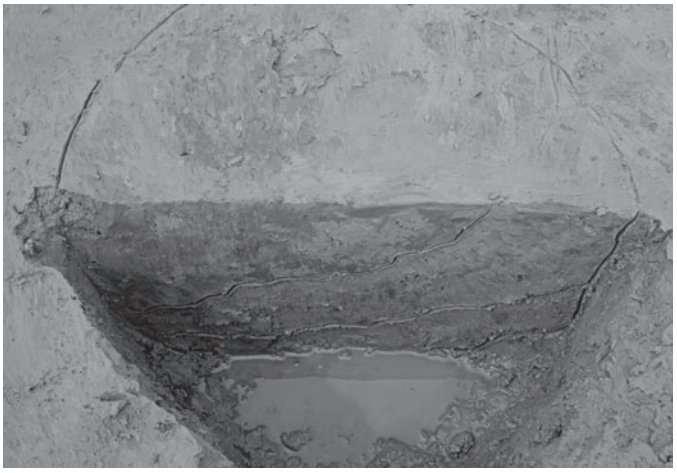


SE16623（１・２層）　断面（東から）

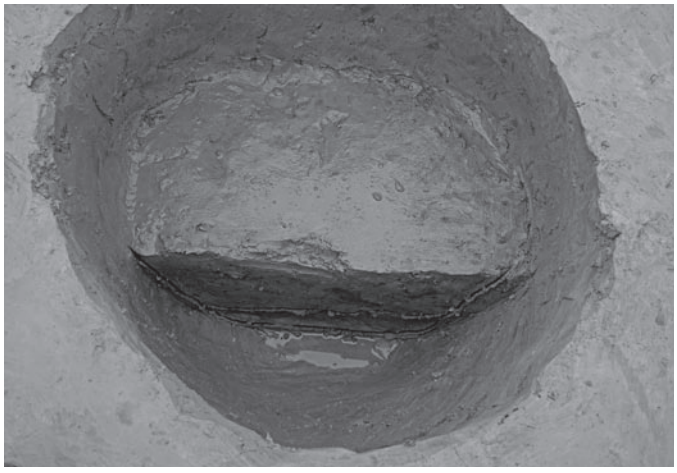


SE16623　円形曲物底板（234）　出土状況（東から）

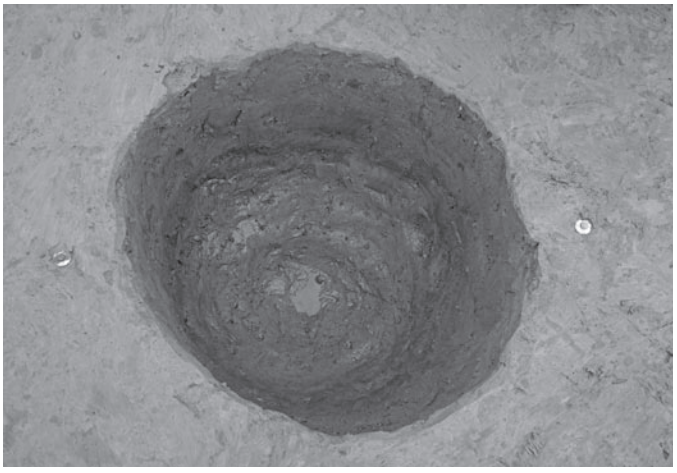
SE16623　完掘（東から）



SE16631（１～３層）　断面（南東から）



SE16631（３・４層）　断面（東から）

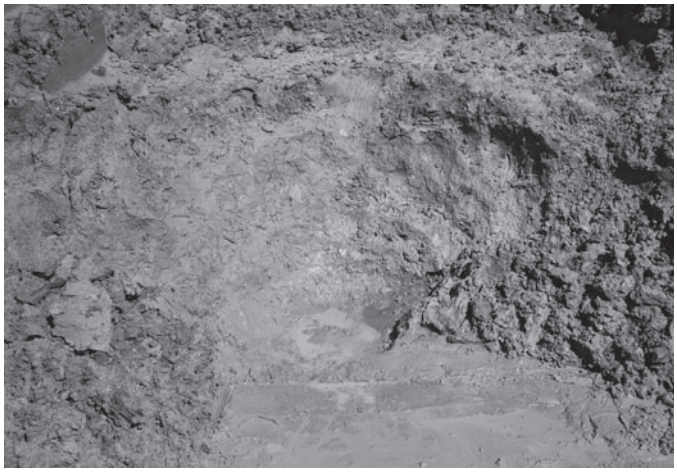


SE16631　完掘（東から）

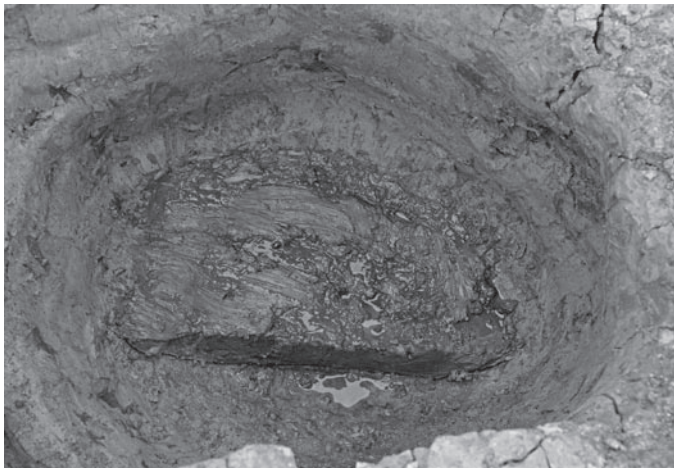
SE16644（1～4層） 断面（南から）

SE16644（4～9層） 断面（南から）

SE16644（9～13層） 断面（南から）


SE16644　完掘（南から）

SE16659（1～4層） 断面（東から）

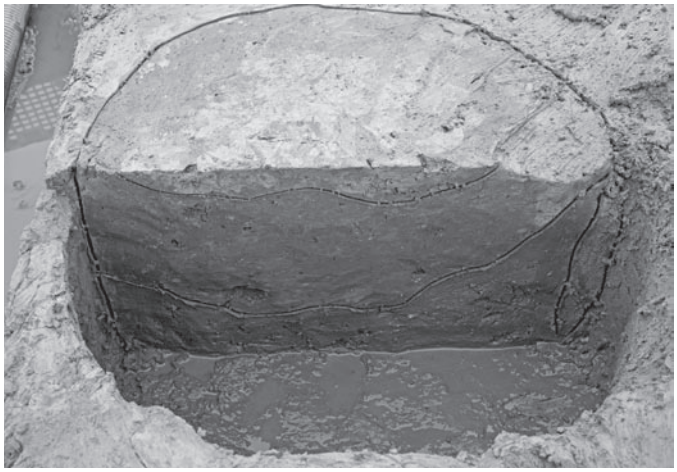

SE16659（5層） 断面（東から）

SE16659　完掘（東から）

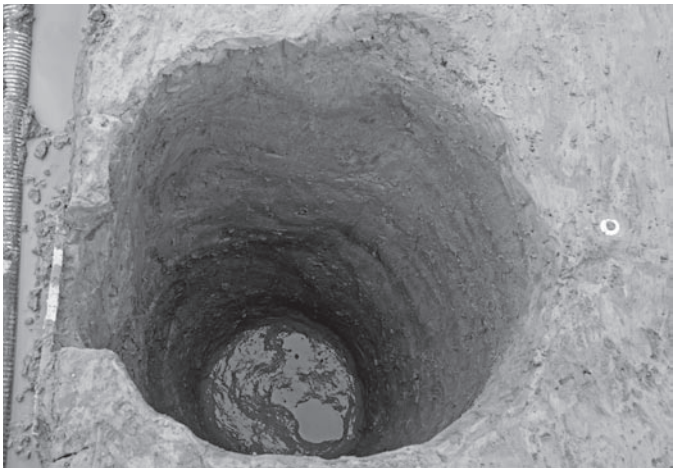
SE16660（1～4層） 断面（北から）

SE16660（５・６層） 断面（北から）

SE16660　完掘（北から）

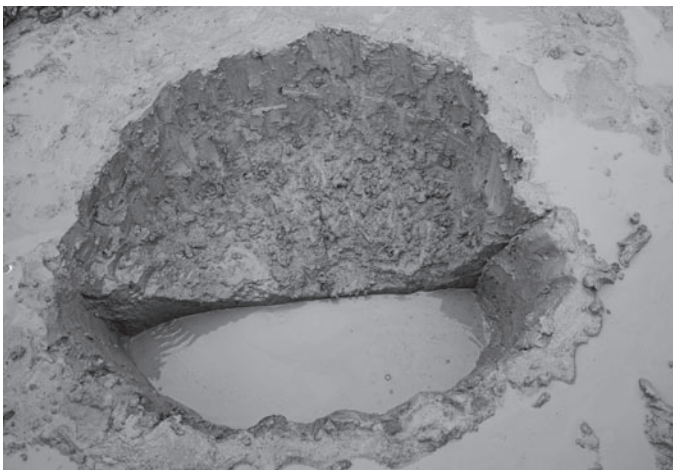


SE16661（１～４層） 断面（北から）

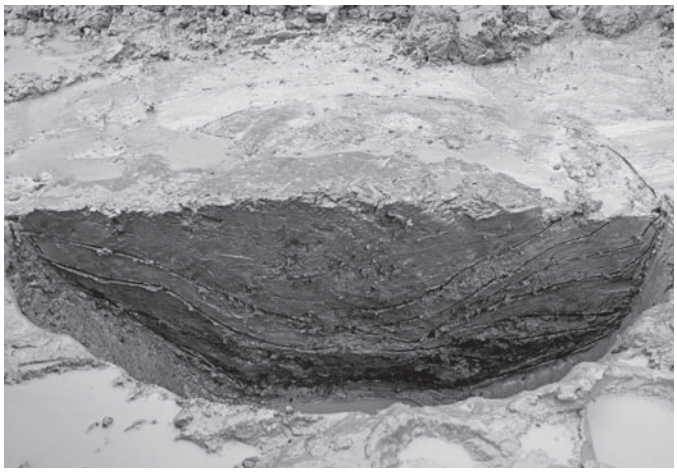


SE16661　完掘（北から）

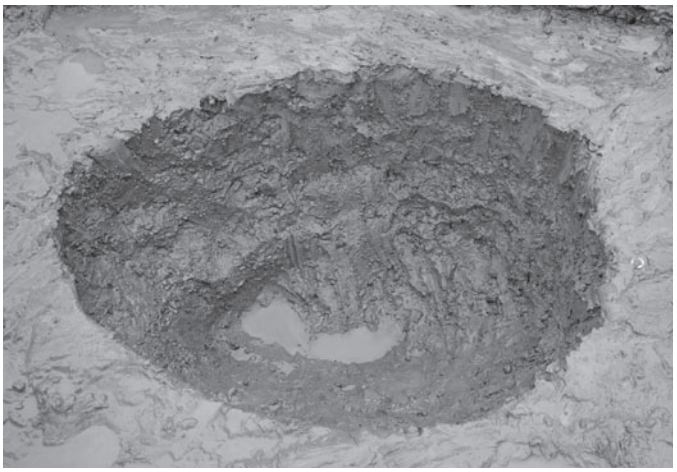
SE16676　断面（西から）



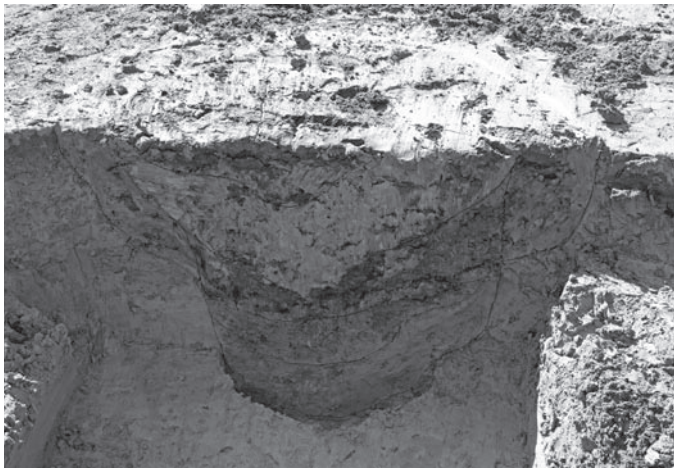
SE16676　完掘（西から）



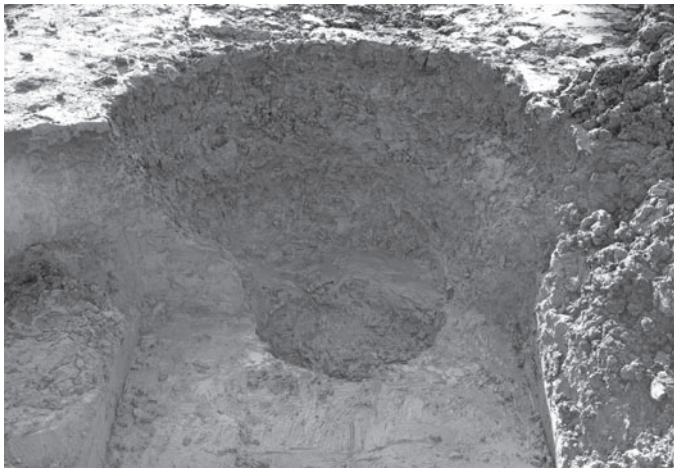
SE16677　断面（西から）



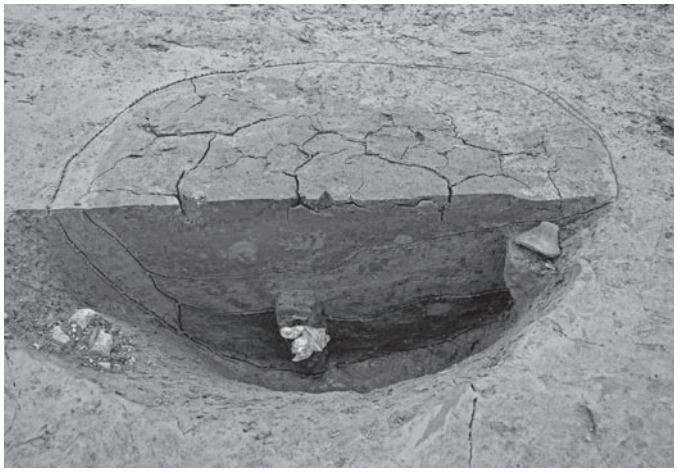
SE16677　完掘（西から）



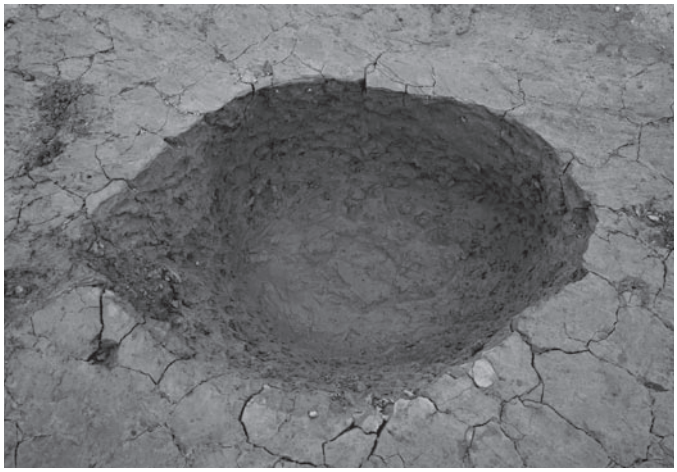
SE16682　断面（北東から）



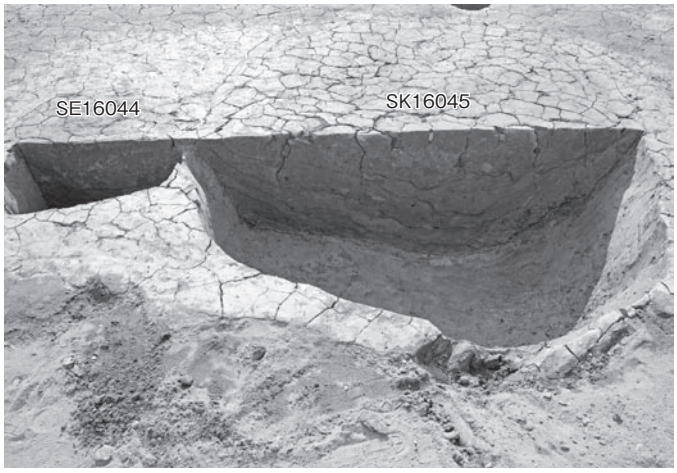
SE16682　完掘（北東から）



SK16033　断面（西から）



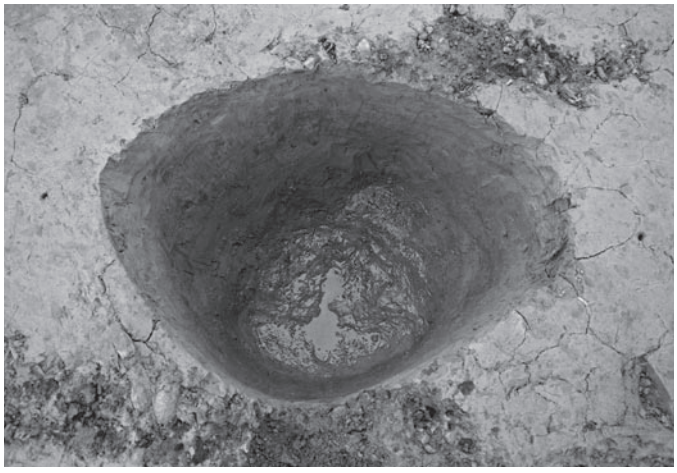
SK16033　完掘（西から）



SK16045　断面（東から）

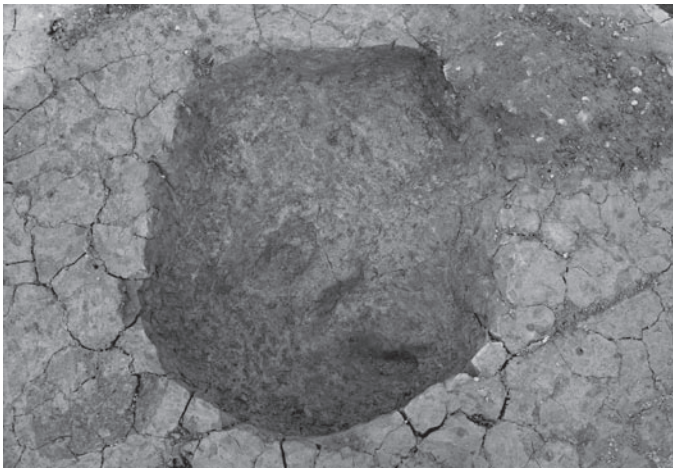
SK16045　完掘（東から）

SK16046　断面（西から）

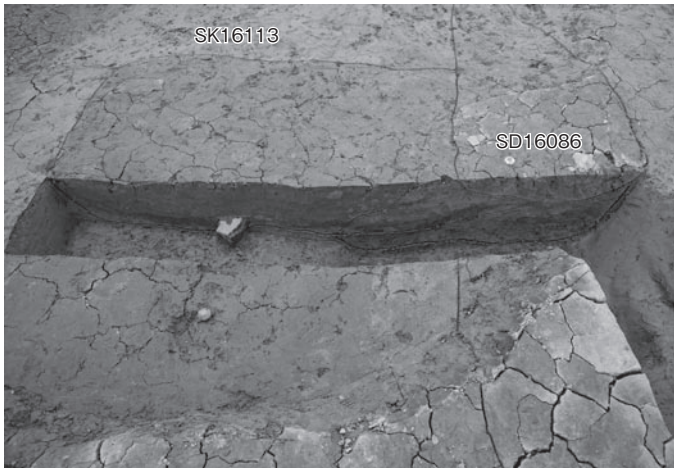


SK16046　完掘（西から）

SK16052　断面（東から）



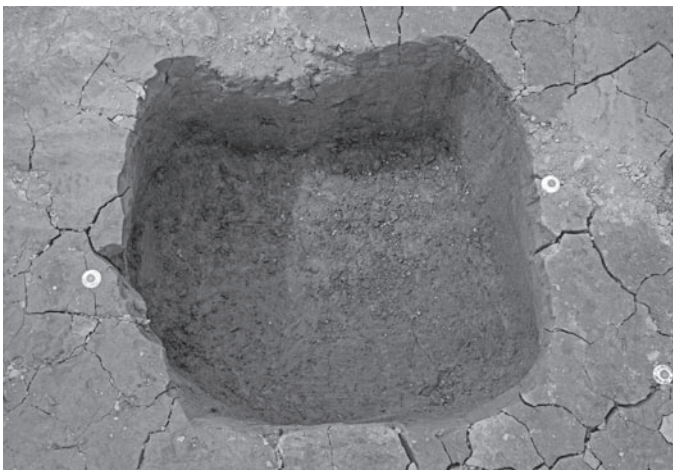
SK16052　完掘（東から）



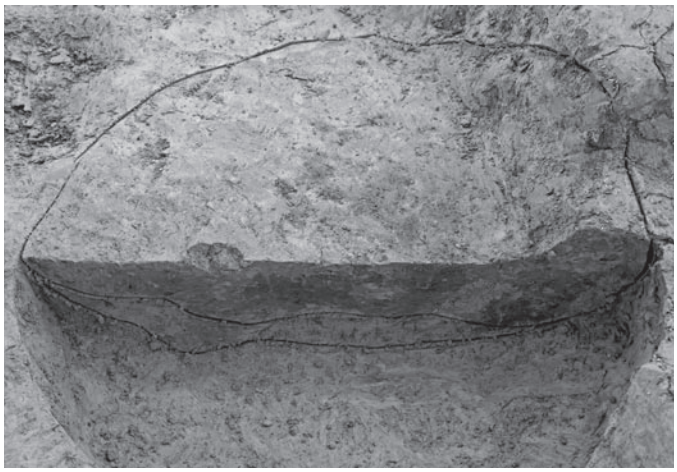
SK16113・SD16086　断面（南から）

SK16113　完掘（南から）

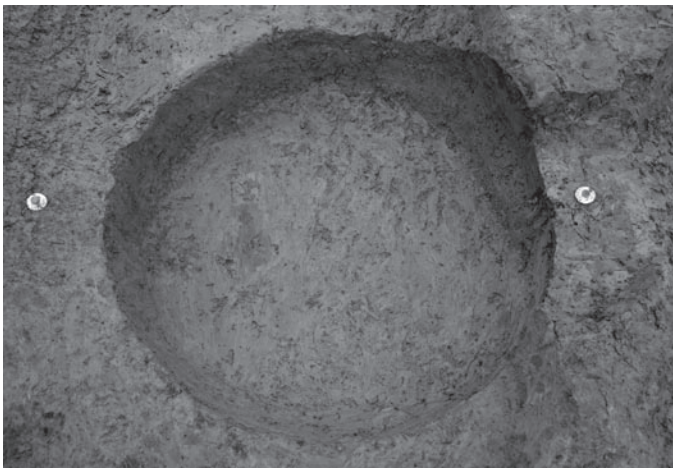
SK16278　断面（東から）



SK16278　完掘（東から）

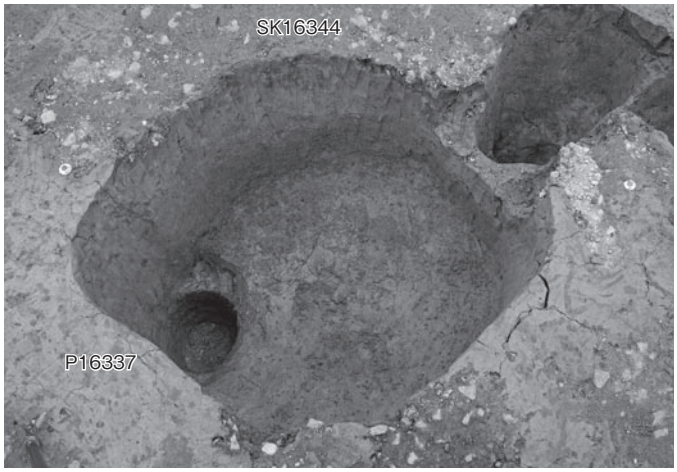


SK16343　断面（北から）

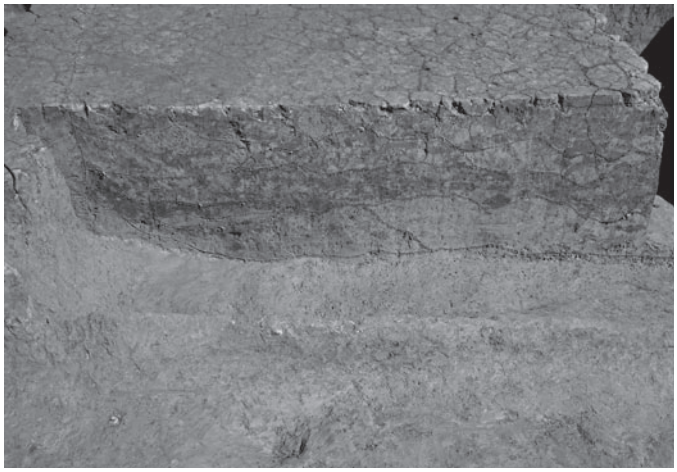


SK16343　完掘（北から）

SK16344　断面（東から）

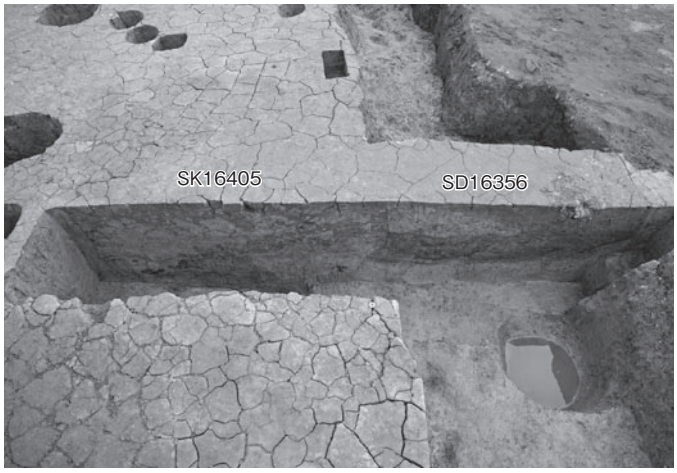


SK16344・P16337　完掘（東から）



SK16405A-A’（北側）　断面（西から）

SK16405A-A’（南側）　断面（西から）



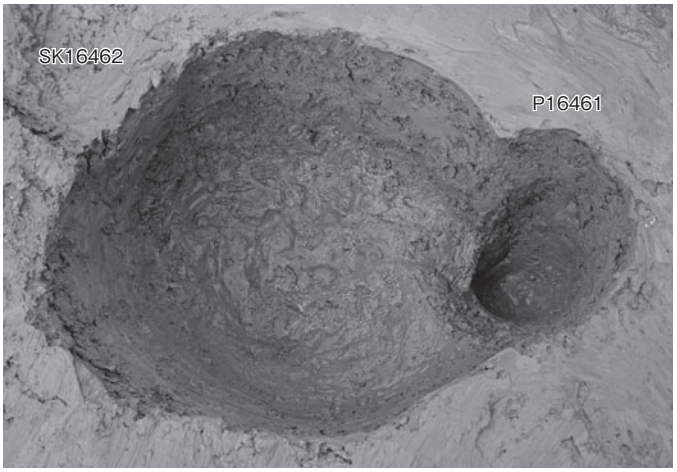
SK16405B-B’・SD16356　断面（北から）

SK16405　瀬戸美濃焼合子（54）出土状況（西から）

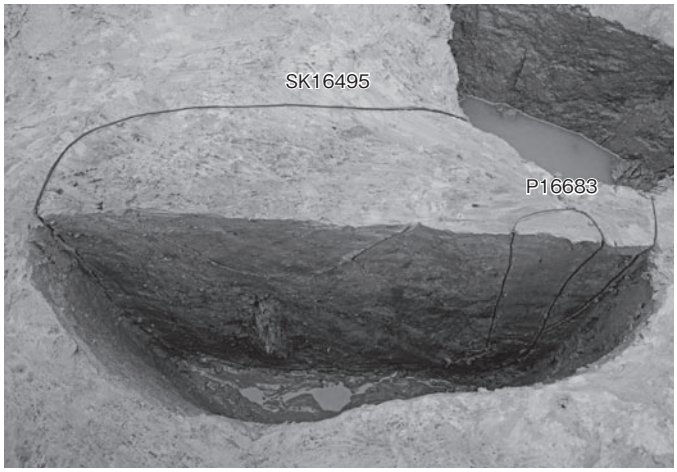
SK16405　完掘（北から）

SK16408　断面（北から）

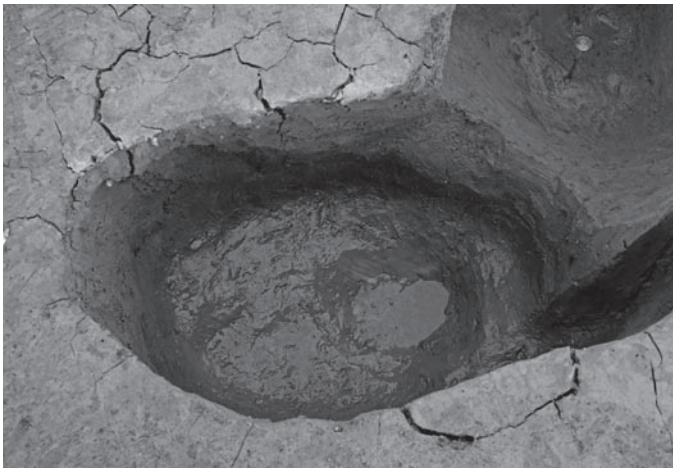
SK16408　完掘（北から）



SK16462（左）・SB16702-P16461（右）　完掘（南から）

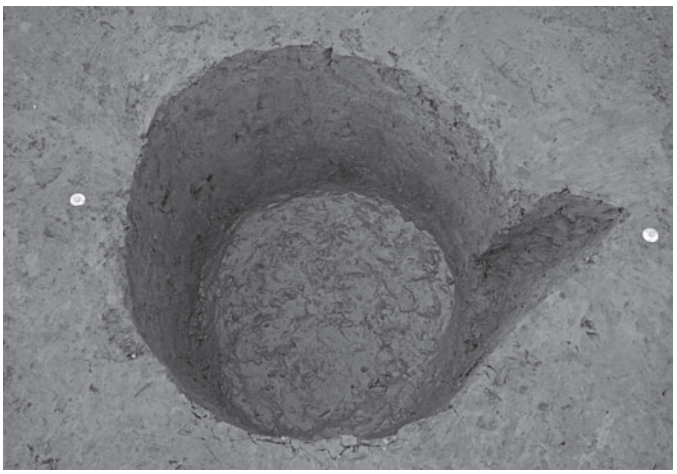


SK16495　断面（南西から）

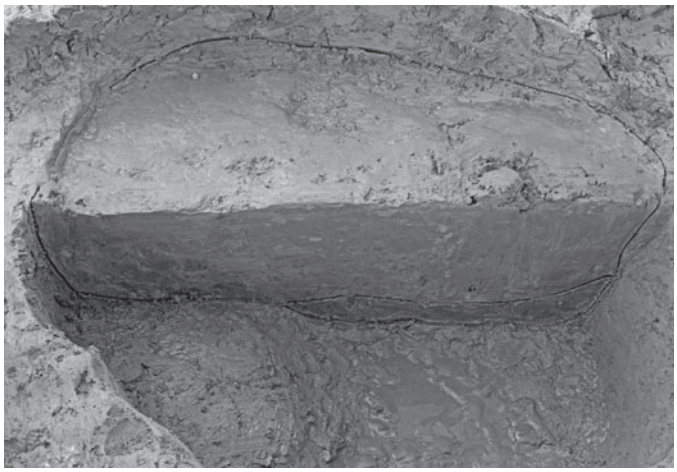


SK16495　完掘（南西から）

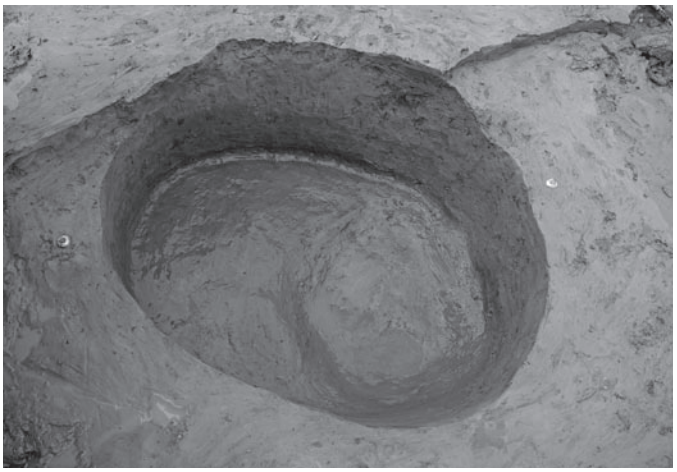
SK16542　断面（東から）



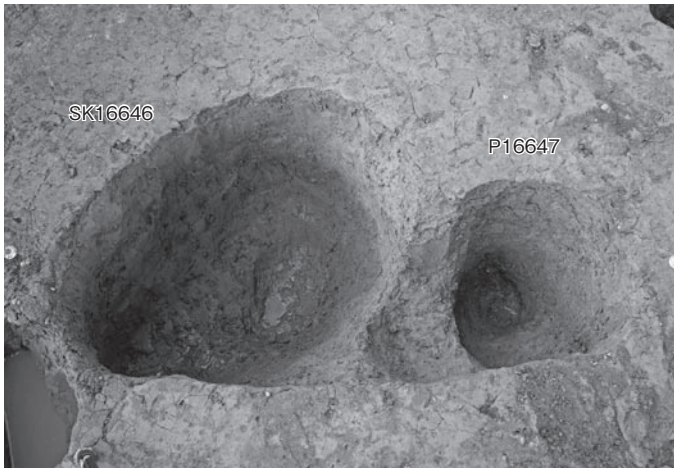
SK16542　完掘（東から）



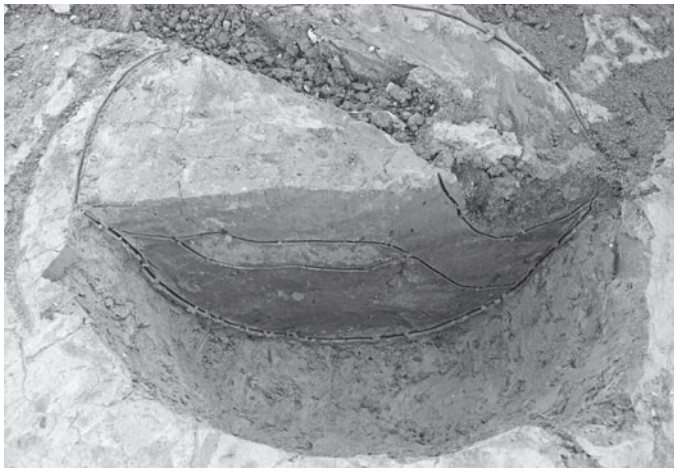
SK16591　断面（東から）

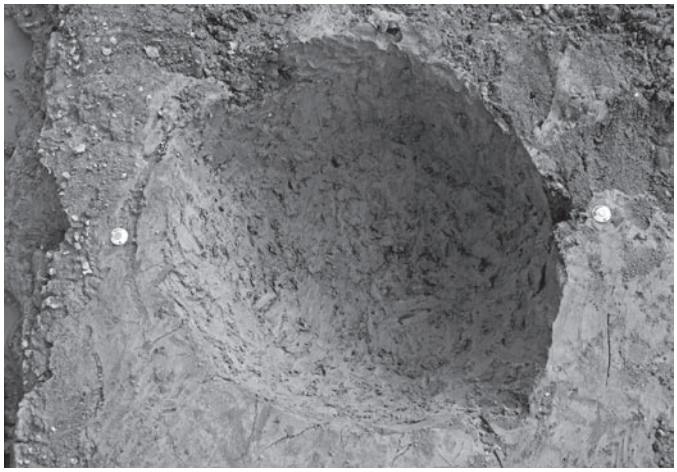


SK16591　完掘（東から）

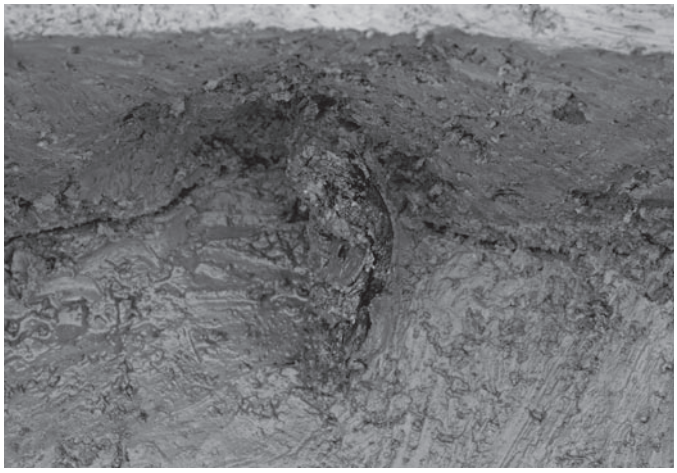


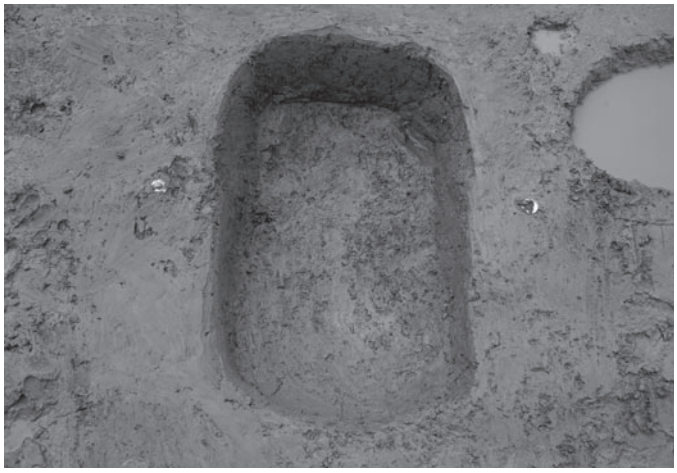
SK16646（左）・SB16695-P16647（右）　完掘（南から）


SK16663　断面（北から）


SK16663　完掘（北から）

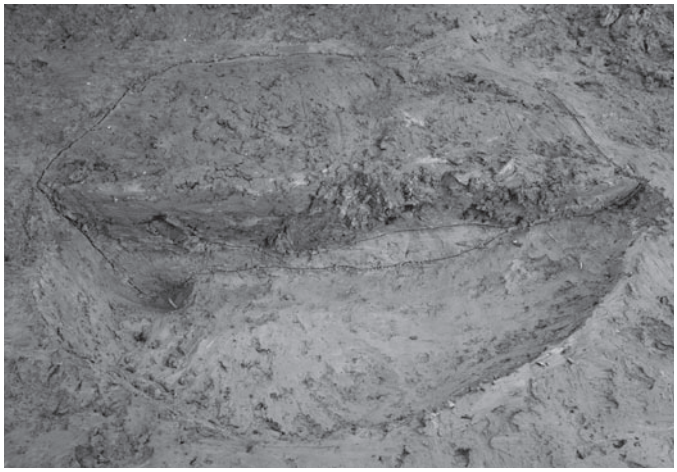
SK16667　断面（北から）


SK16667　漆器小椀（241）・銭貨（247 ～ 252）出土状況（北から）

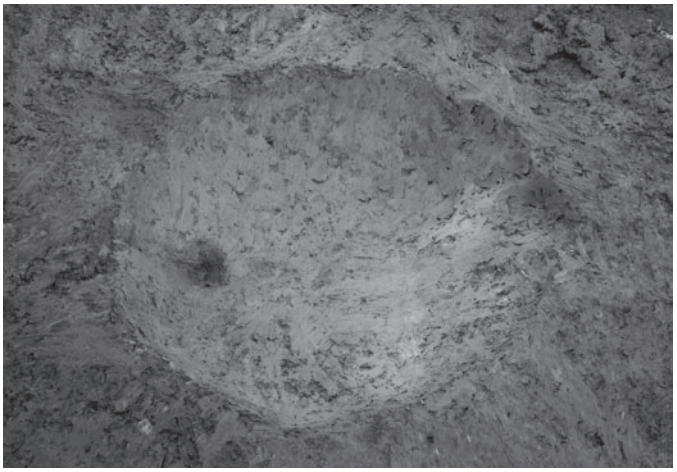

SK16667　完掘（北から）

SK16678　断面（南西から）

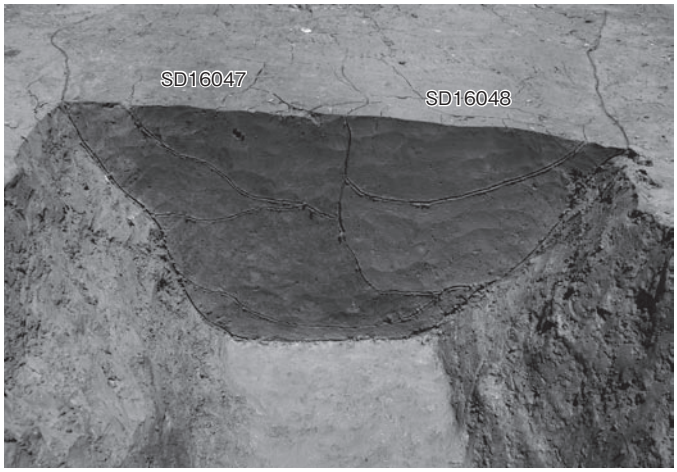
SK16678　完掘（南西から）



SK16681　断面（東から）



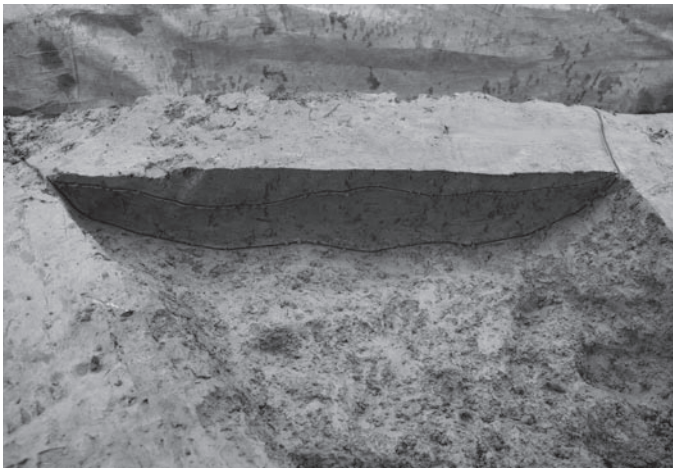
SK16681　完掘（東から）



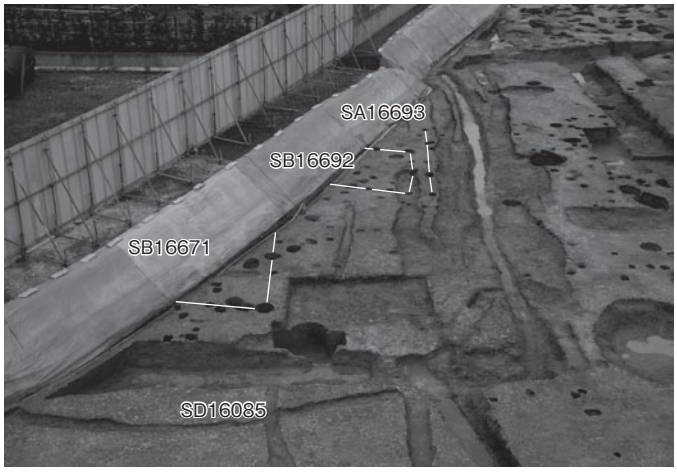
SD16047・16048　断面（南から）

SD16077A-A'　断面（北から）

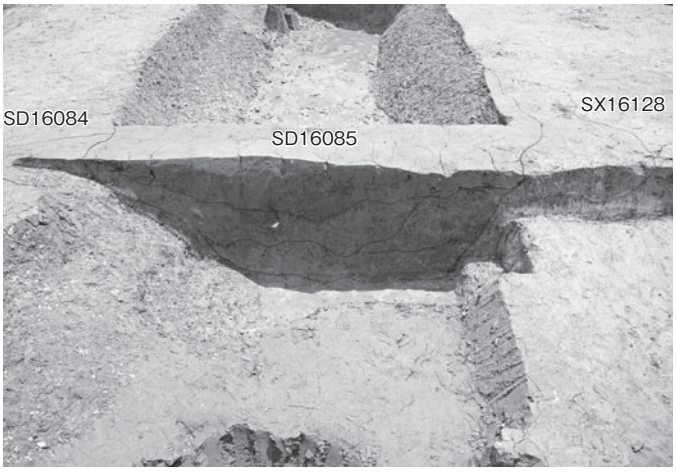
SD16077B-B'　断面（北から）



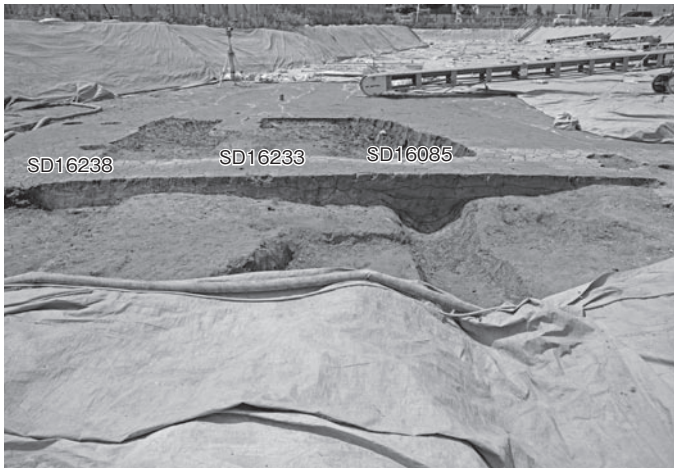
SD16078　断面（北から）



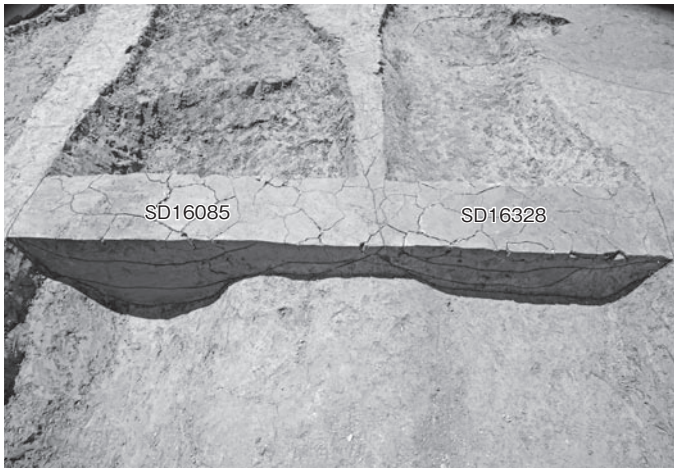
SD16085 近景（北から）



SD16084・16085・SX16128　断面（西から）

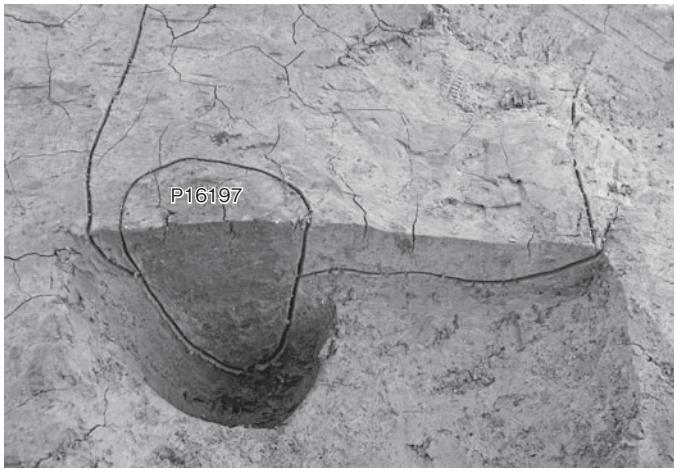


SD16085・16233・16238　断面（北から）



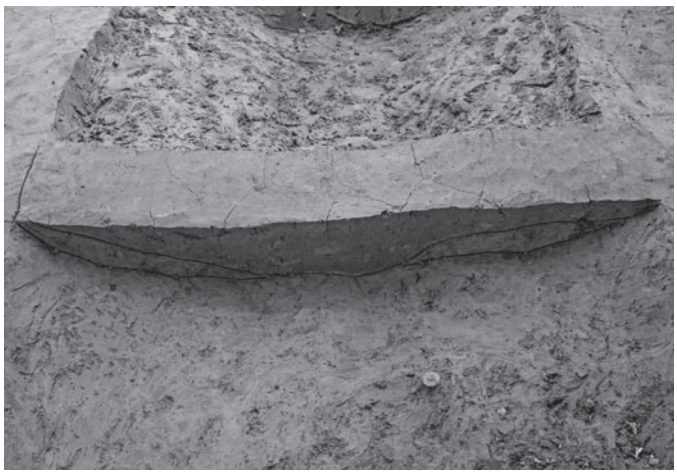
SD16085・162328　断面（北から）

SD16086　断面（南から）

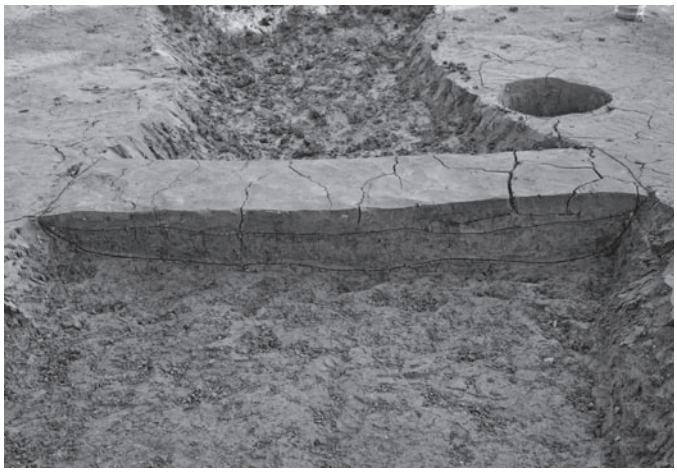


SD16198　断面（西から）

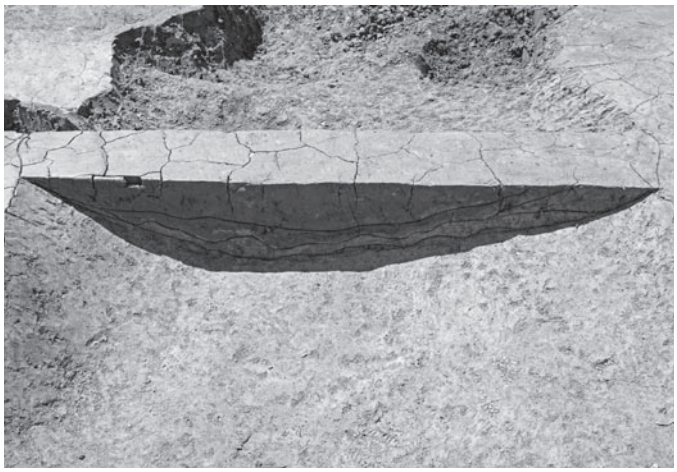
SD16215　断面（北東から）



SD16233　断面（北から）



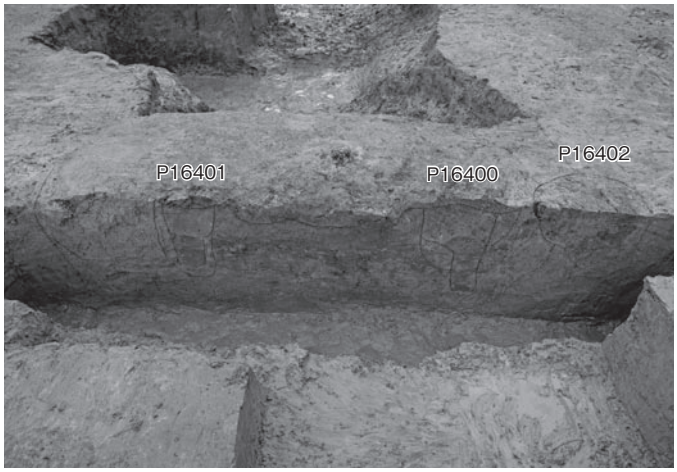
SD16238　断面（北から）



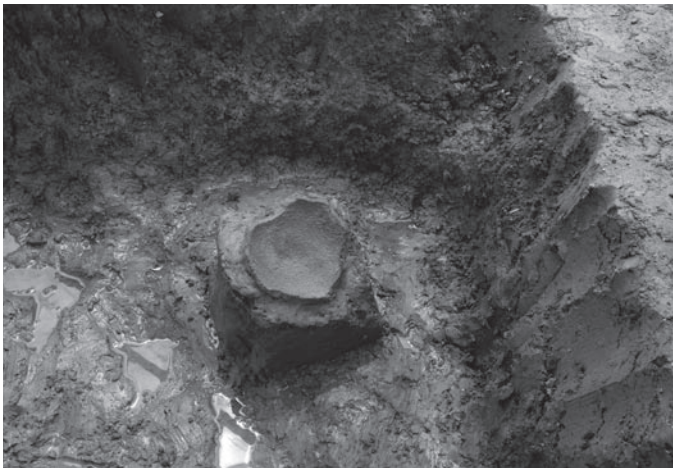
SD16242　断面（東から）

SD16356　断面（北から）

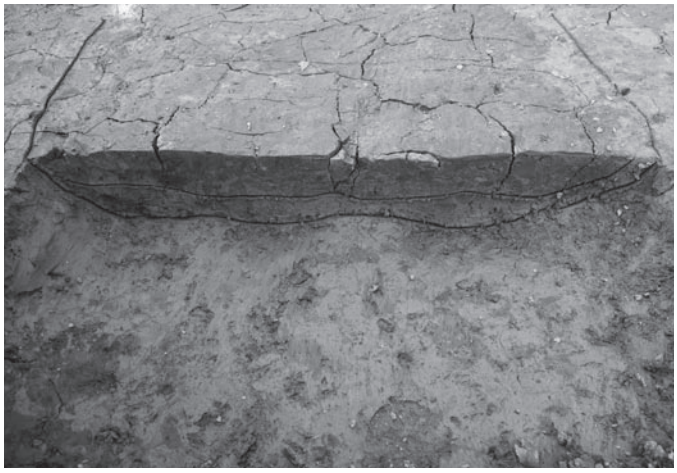
SD16383A-A'　断面（東から）



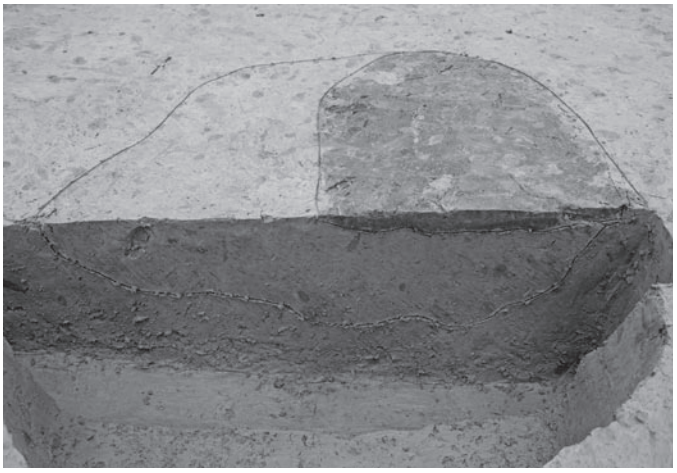
SD16383B-B'　断面（西から）



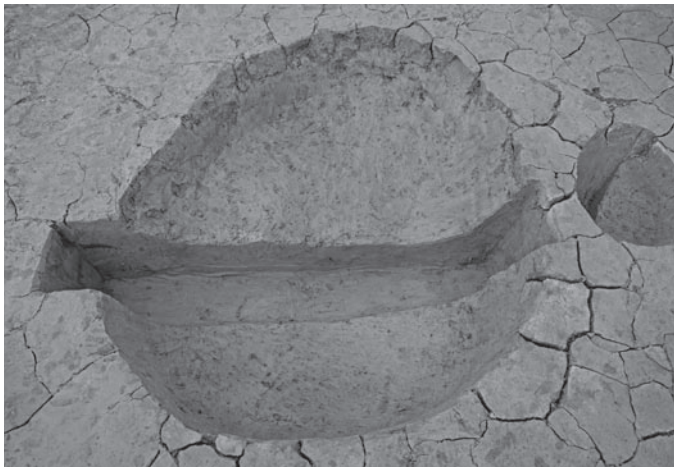
SD16383　珠洲焼片口鉢（87）出土状況（北から）



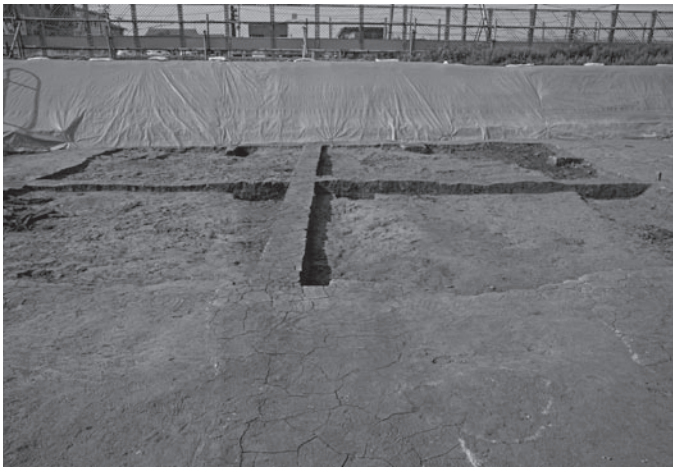
SD16587　断面（南から）



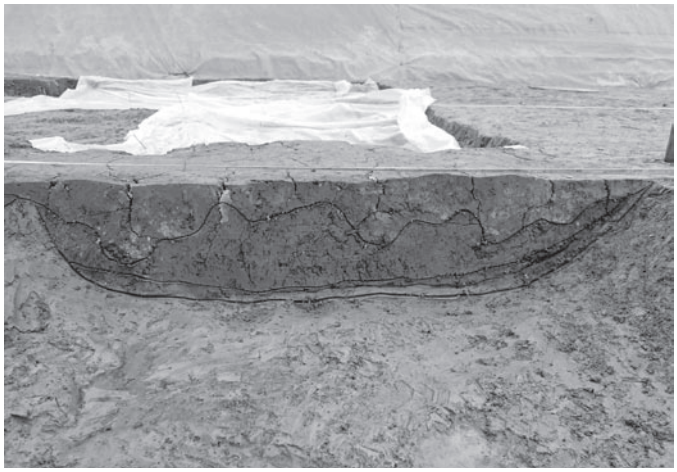
SX16015　断面（南から）



SX16015　完掘（南から）

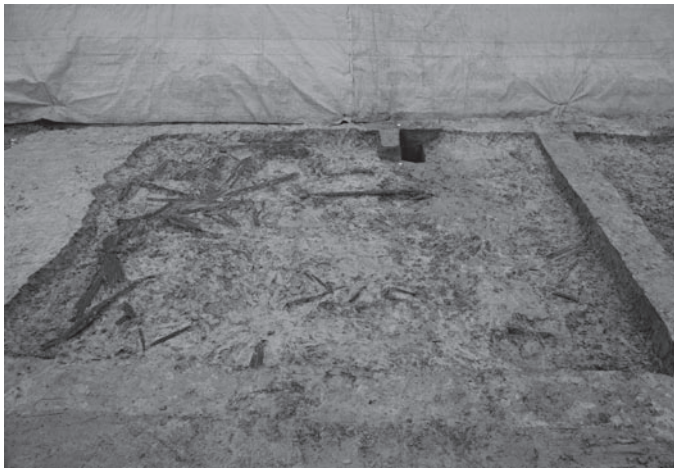


SX16050A-A'　断面（南から）



SX16050A-A'　断面（東側拡大）（南から）

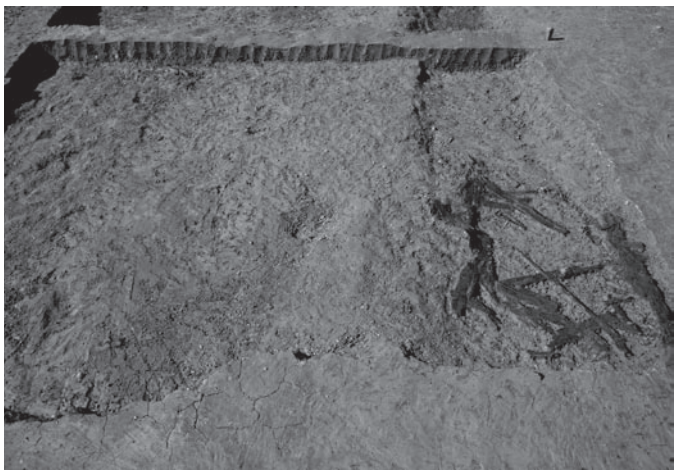
SX16050B-B'　断面（東から）



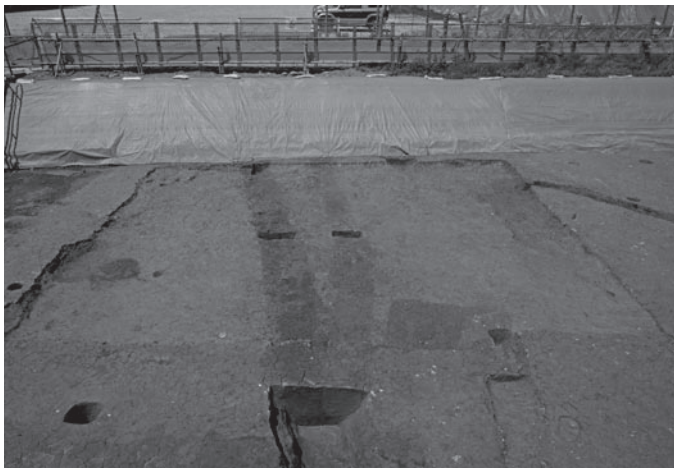
SX16050　北西ブロック樹皮出土状況（南から）

SX16050　北東ブロック樹皮出土状況（南から）

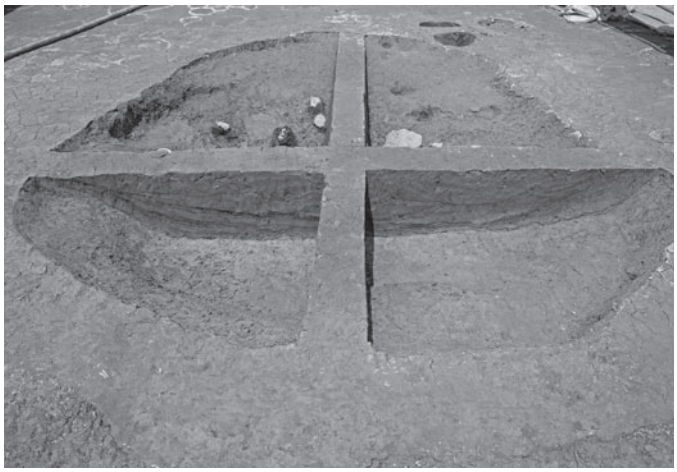
SX16050　南西ブロック樹皮出土状況（南から）



SX16050　南東ブロック樹皮出土状況（南から）

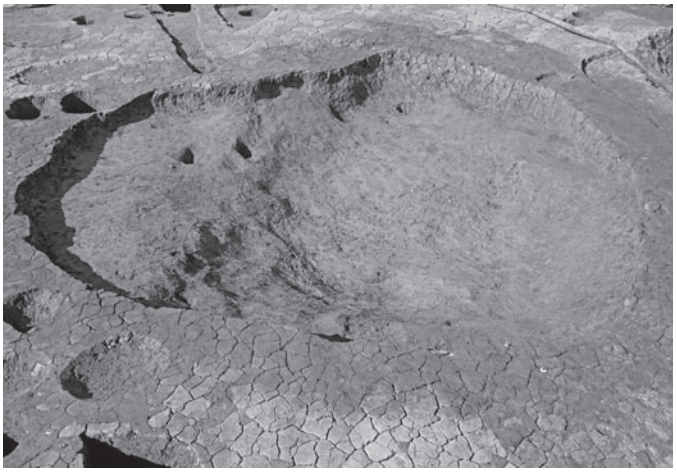


SX16050　完掘（南から）

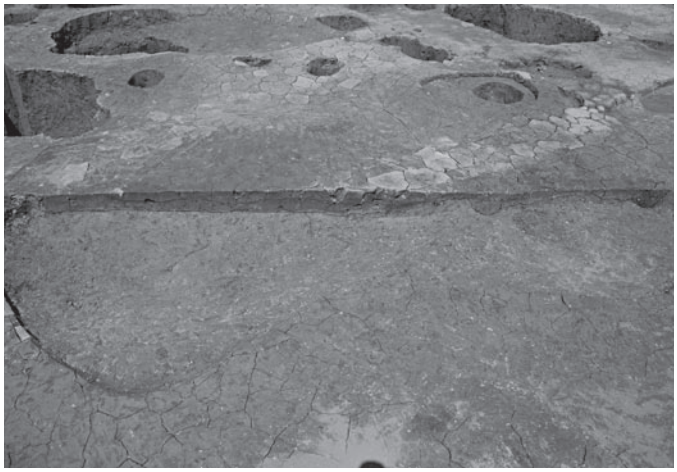


SX16136A-A'　断面（東から）

SX16136B-B' 断面（南から）



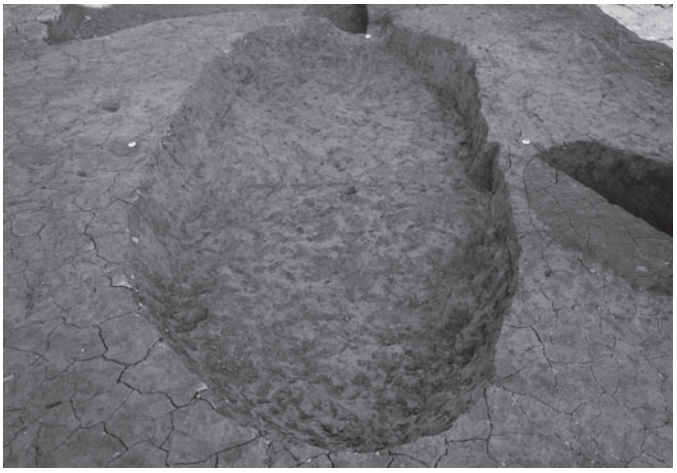
SX16136　完掘（南から）



SX16258　断面（南から）

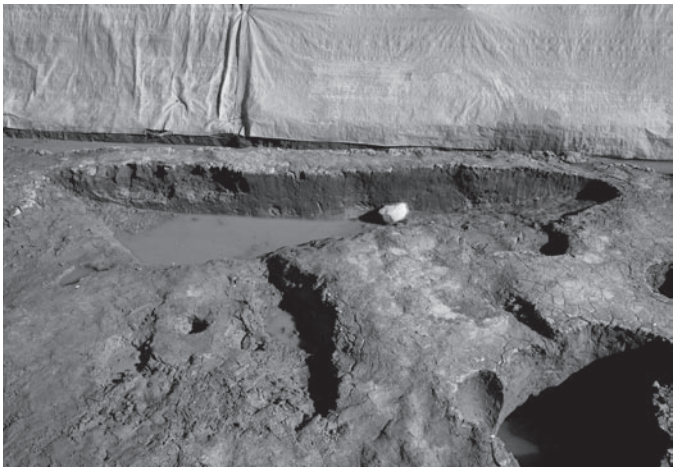
SX16258　完掘（南から）

SX16339　断面（西から）

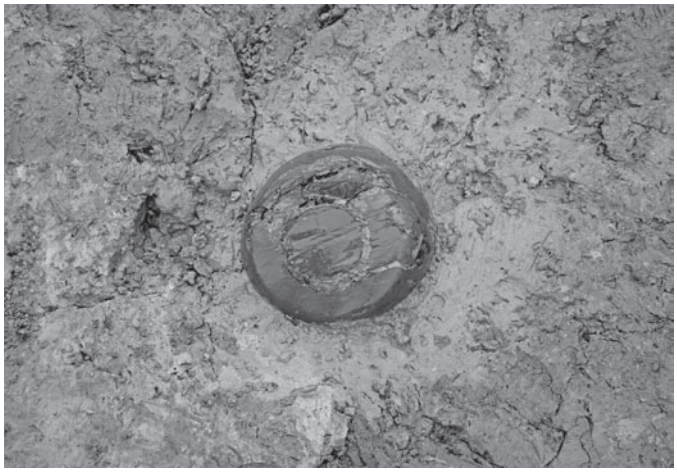


SX16339　完掘（西から）

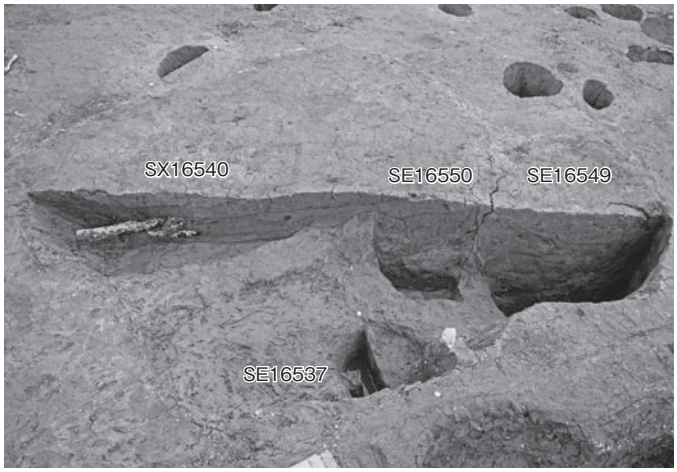
SX16458　断面（北から）



SX16458　完掘（西から）



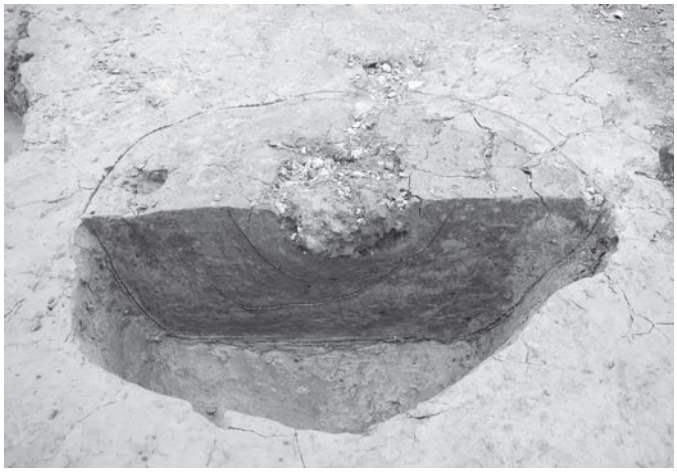
SX16540　漆器有台椀（243）出土状況（南から）



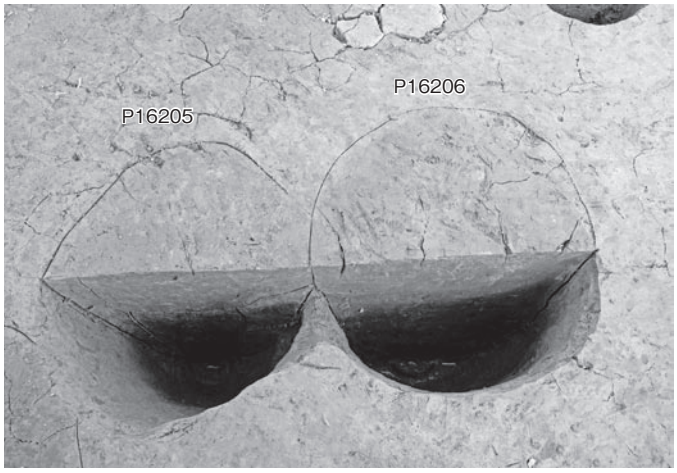
SX16540（左）　断面　（東から）

SX16540　完掘（東から）

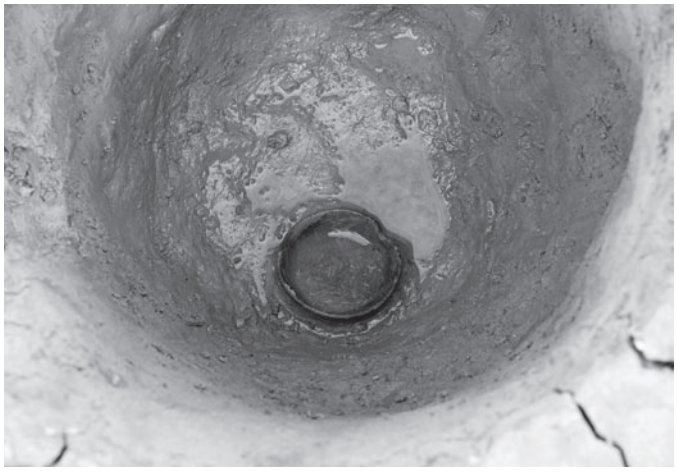
SX16559　完掘（西から）



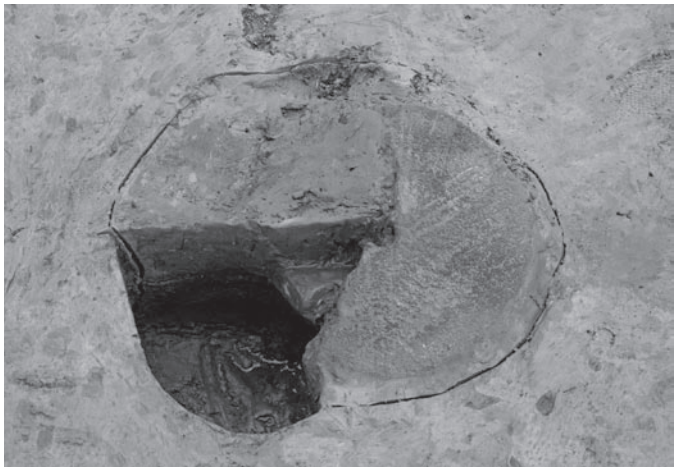
P16055　断面（南東から）



P16205（左）・P16206（右）　断面（南西から）

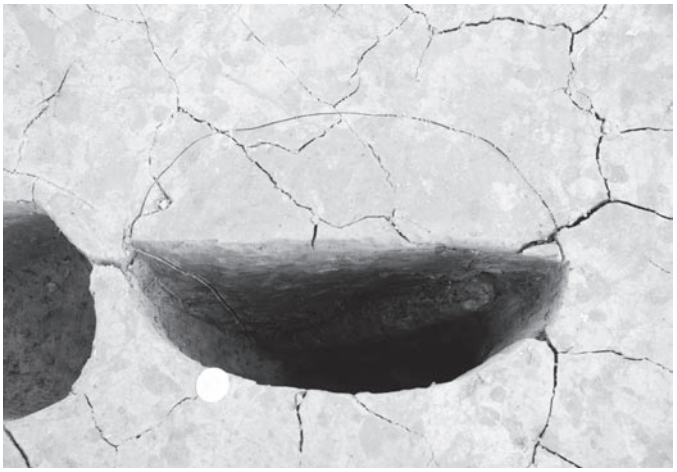


P16206　土師質土器皿（105）出土状況（南西から）



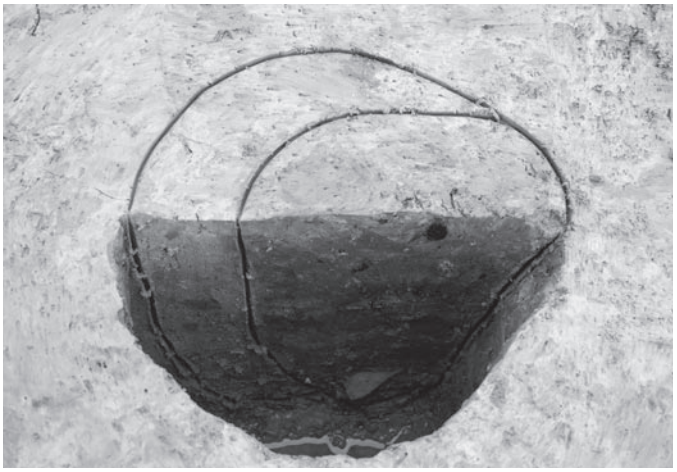
P16228　断面（西から）

P16228　石臼（158）・砥石（159）出土状況（西から）

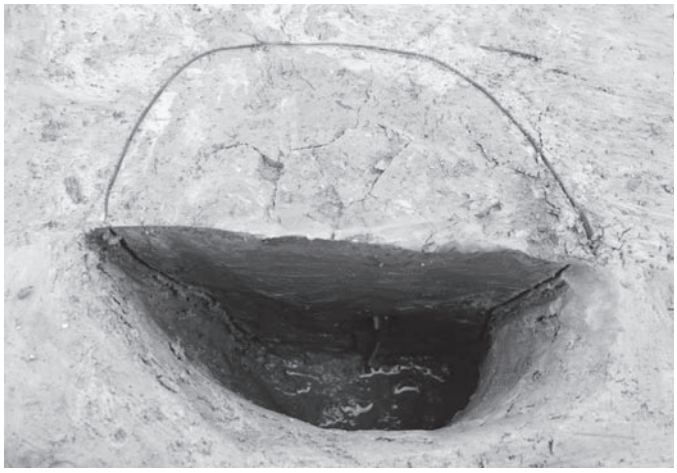


P16342　断面（西から）

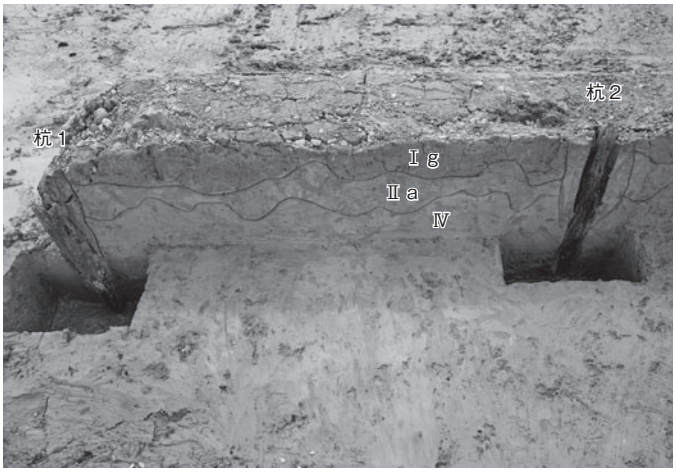
P16468　断面（東から）



P16519　断面（南から）



P16611　断面（西から）



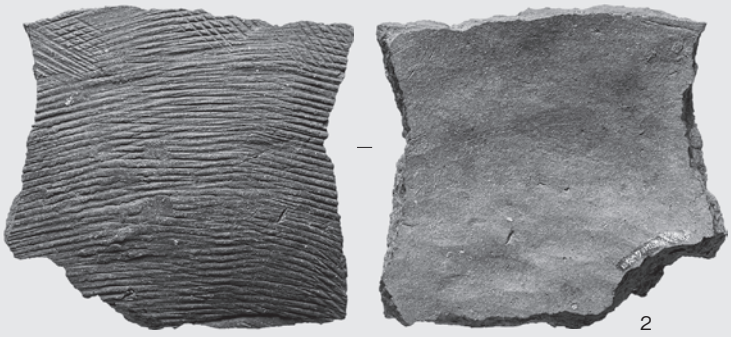
杭列　断面（東から）

遺構調査風景

遺構調査風景

SB16696-P16598（1・2）

1


2

SB16701-P16639（3・4）

3

4

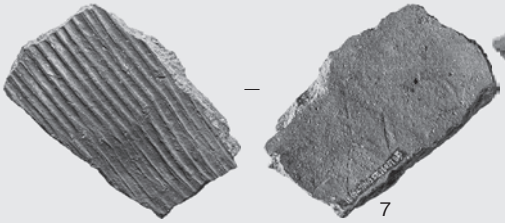
SE16017（5）

5

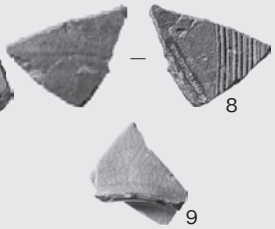
SE16028（6）

6

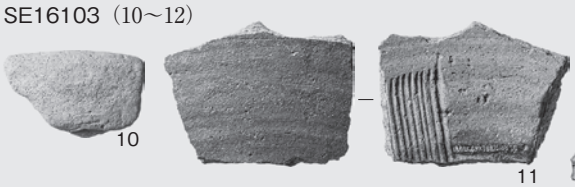
SE16051（7）

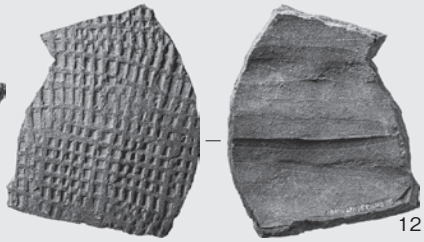

7

SE16060（8・9）

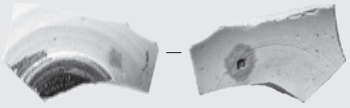

8 9

SE16103（10～12）


10 11


12

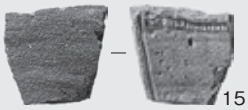
SE16110（13）


13

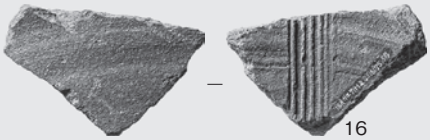
SE16129（14）

14

SE16164（15）

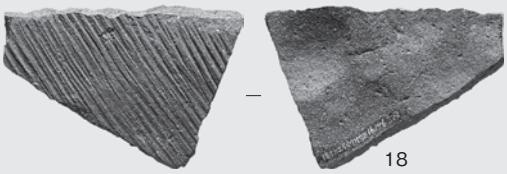

15

SE16175（16・17）

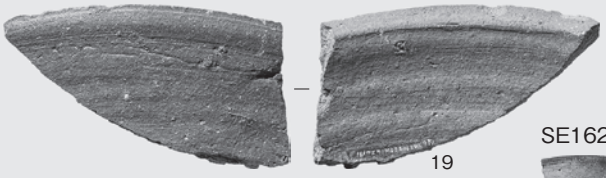

16

17

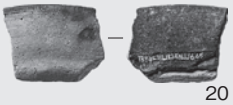
SE16196（18）

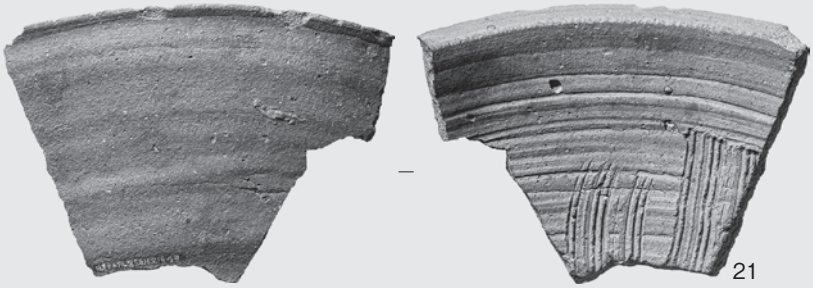

18

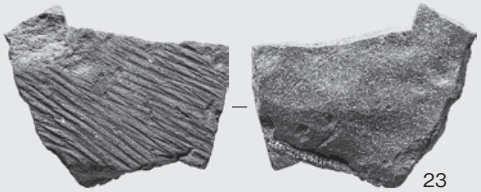
SE16202（19）

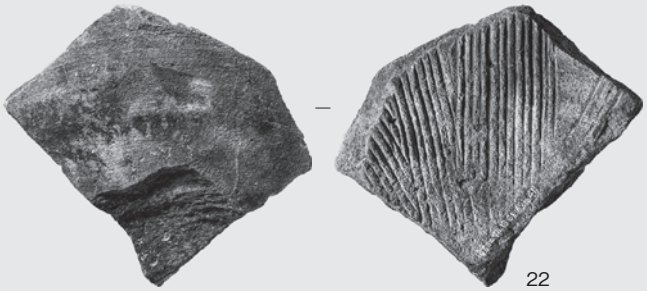

19

SE16216（20～23）

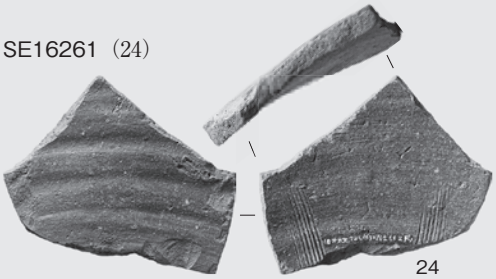

20


21

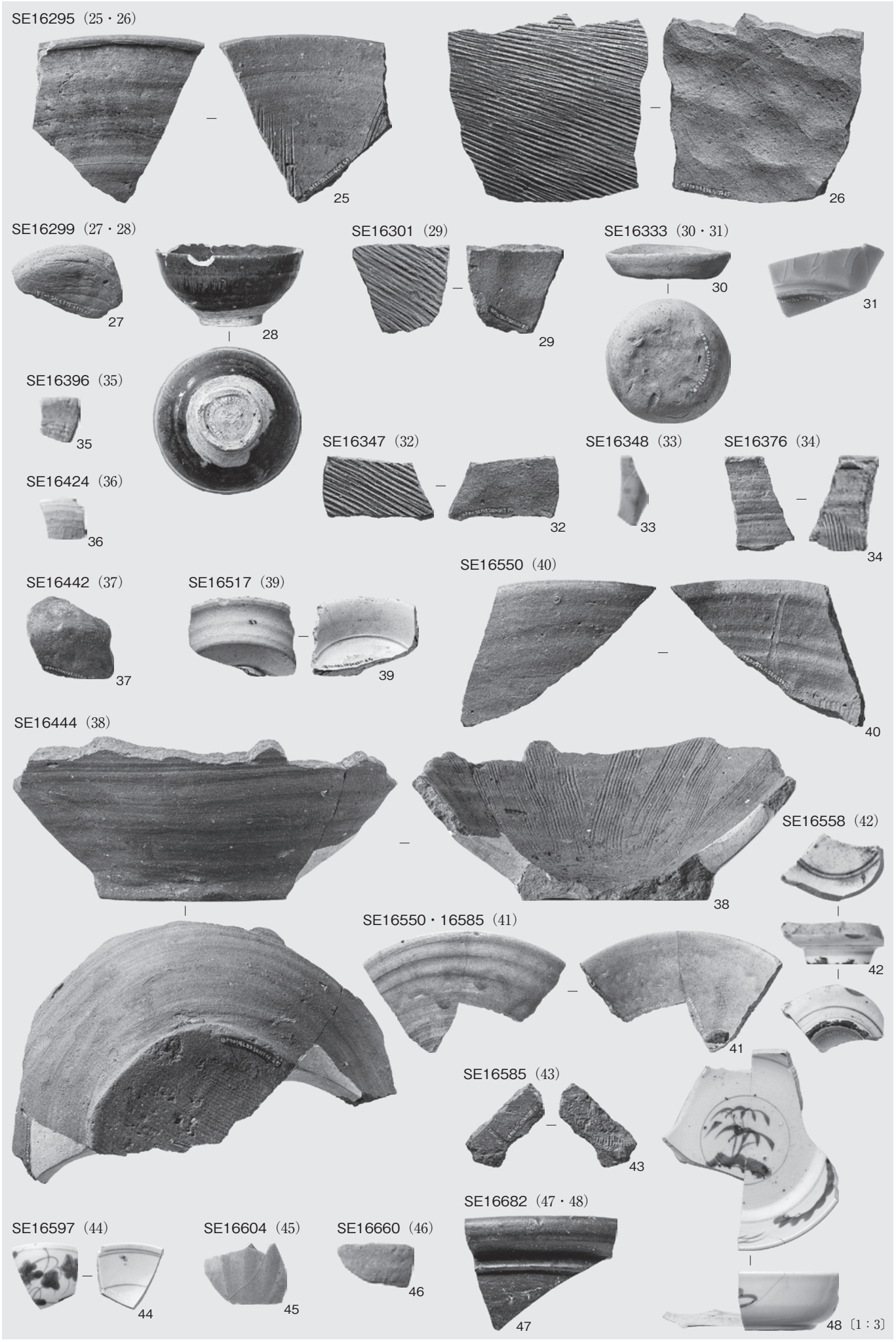

23


22

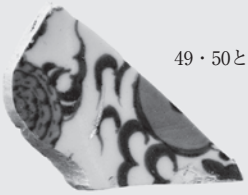
SE16261（24）


24

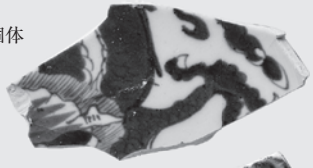
〔1：3〕

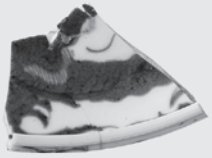

SE16295（25・26）
25
26
SE16299（27・28）
27
28
SE16301（29）
29
SE16333（30・31）
30
31
SE16396（35）
35
SE16347（32）
32
SE16348（33）
33
SE16376（34）
34
SE16424（36）
36
SE16550（40）
40
SE16442（37）
37
SE16517（39）
39
SE16444（38）
38
SE16558（42）
42
SE16550・16585（41）
41
SE16585（43）
43
SE16682（47・48）
47
48〔1：3〕
SE16597（44）
44
SE16604（45）
45
SE16660（46）
46

SE16682（49・50）



49・50と同一個体

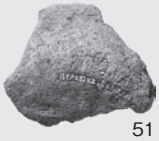




49

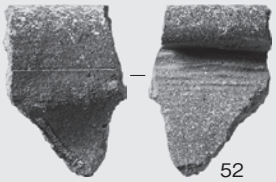
50

SK16033（51）



51

SK16045（52）



52

SK16405（54）

54

SK16052（53）

53

SD16047（56・57）

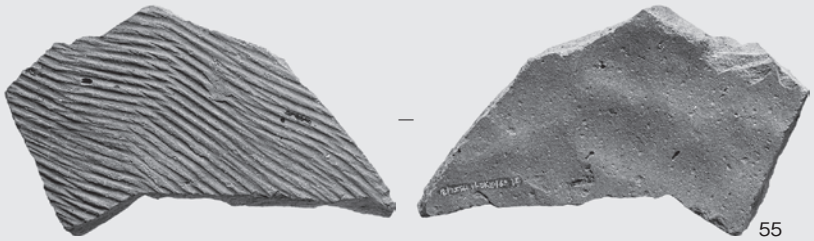
56

57

SD16077（58）

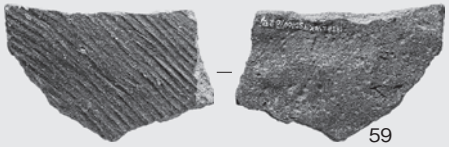
58

SK16462（55）



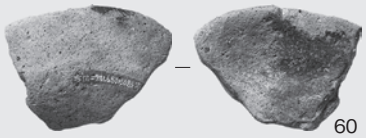
55

SD16078（59）



59

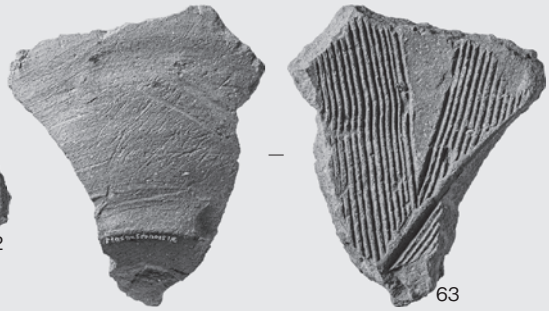
SD16085（60～70）



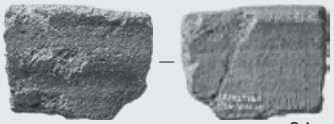
60

61

62

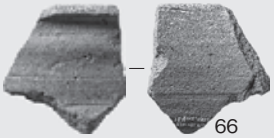


63

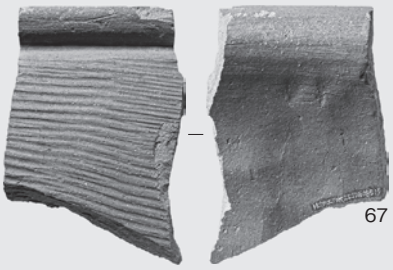


64

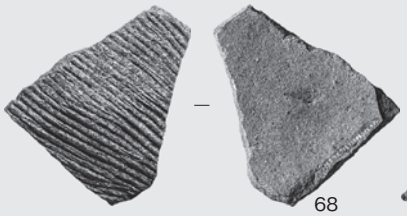
65



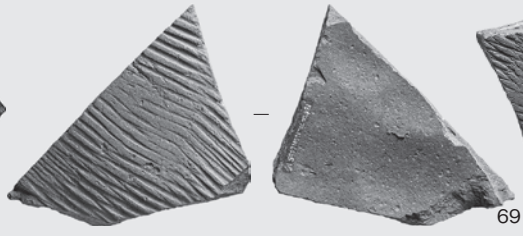
66



67



68

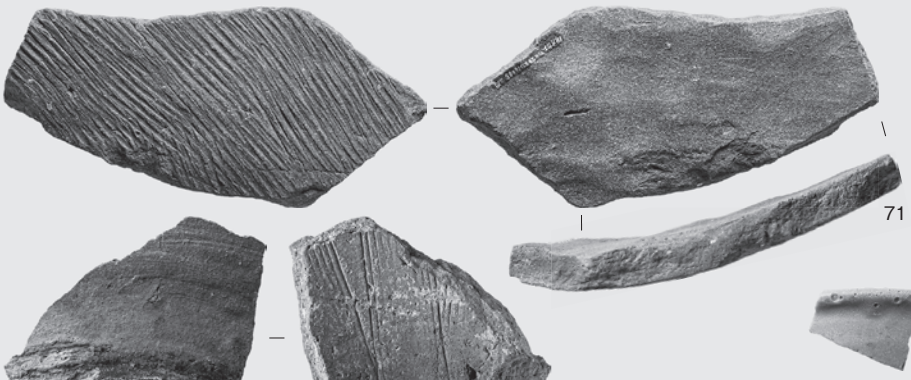


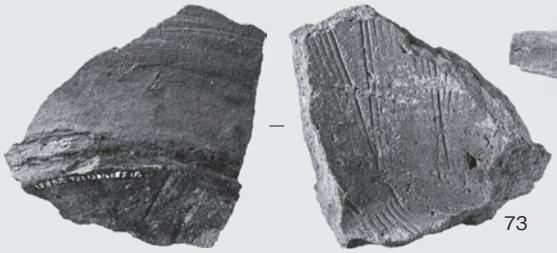
69

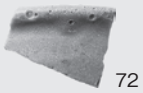
70

その他　〔1：3〕
53・54　〔1：2〕

SD16085（71～73）



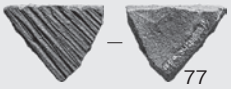




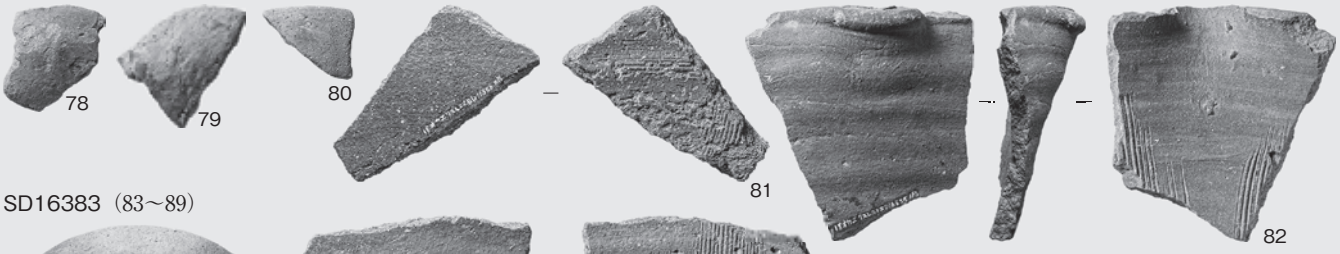
SD16233（74）

SD16242（75・76）

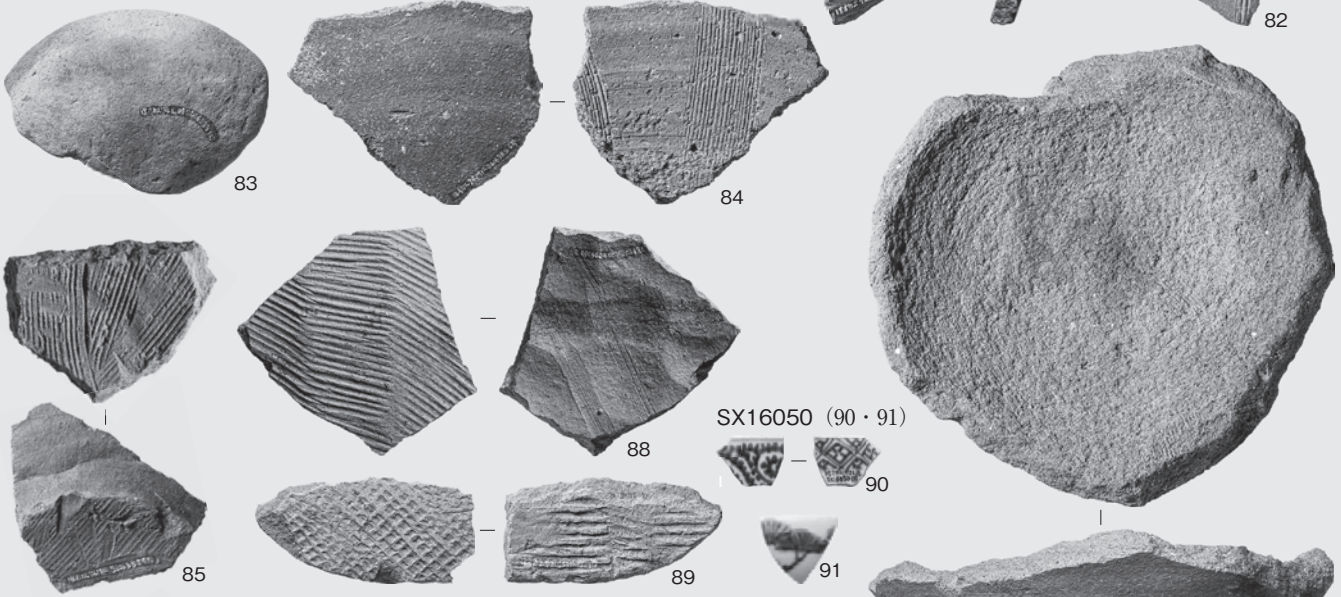
SD16328（77）



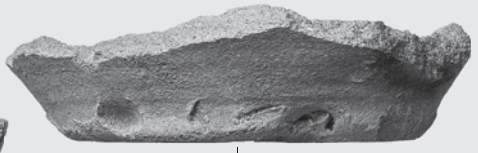
SD16356（78～82）



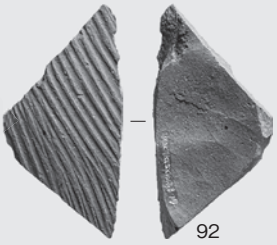
SD16383（83～89）



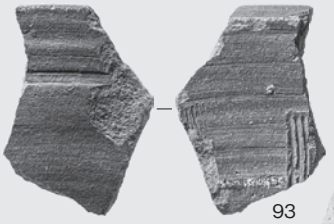
SX16050（90・91）



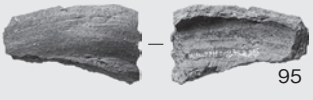
SX16128（92）



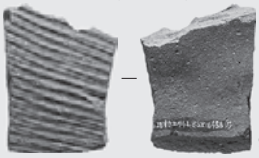
SX16136（93）

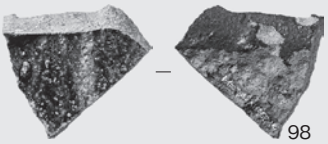


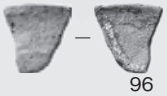
SX16258（94～96）



SX16458（97・98）

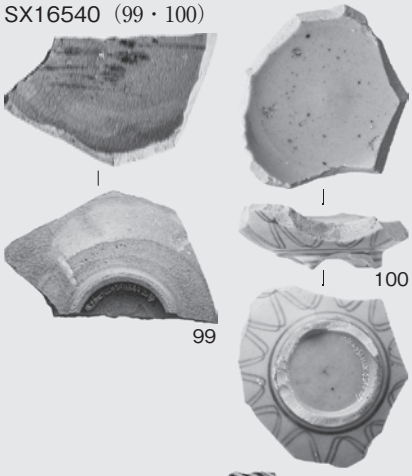






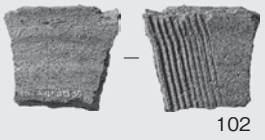
〔1：3〕

SX16540（99・100）



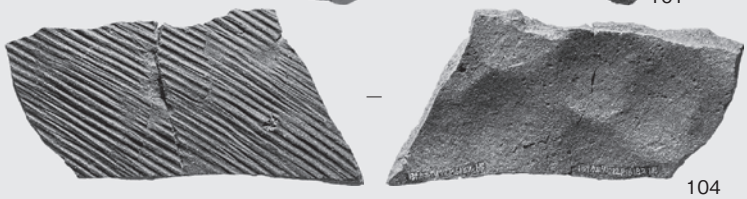
SX16559（101）

P16055（102）



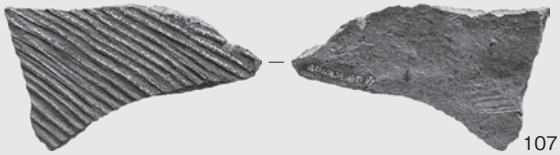
P16206（105）

P16182（103・104）



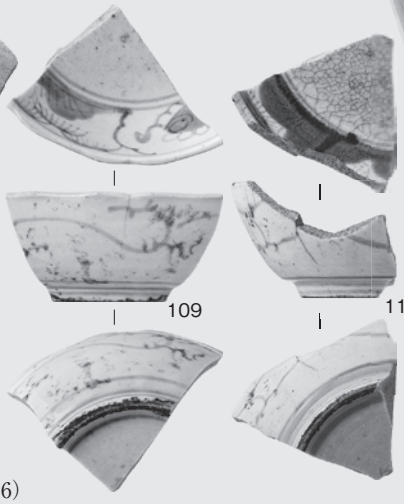
P16468（106）

P16490（107）

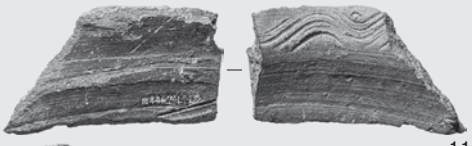


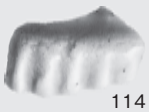
P16611（108）

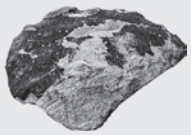
土塁下炭化物層（109・110）

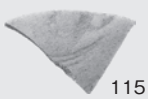


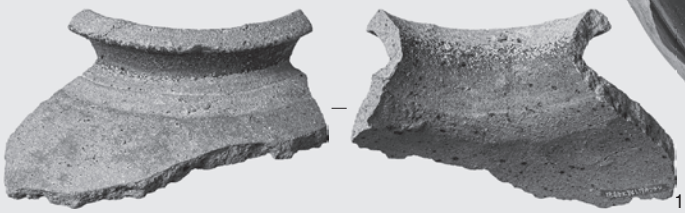
遺構外（111～116）

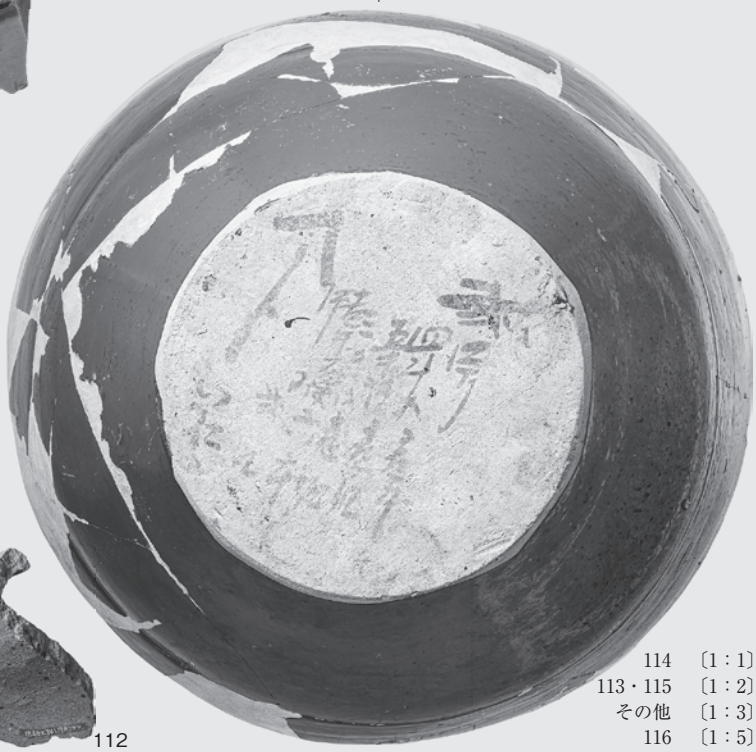












114　〔1：1〕
113・115　〔1：2〕
その他　〔1：3〕
116　〔1：5〕

SE16110（117）

117

119

SE16196（118・119）

118

SE16202（120・121）

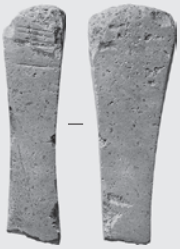
120

121

SE16261（122）

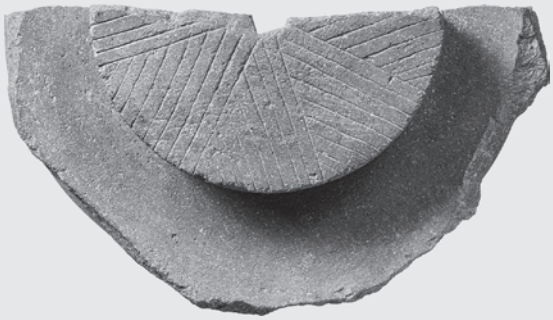
122

SE16348（123）



123

SE16582（129）



129

SE16357（124）

124

SE16396（125）

125

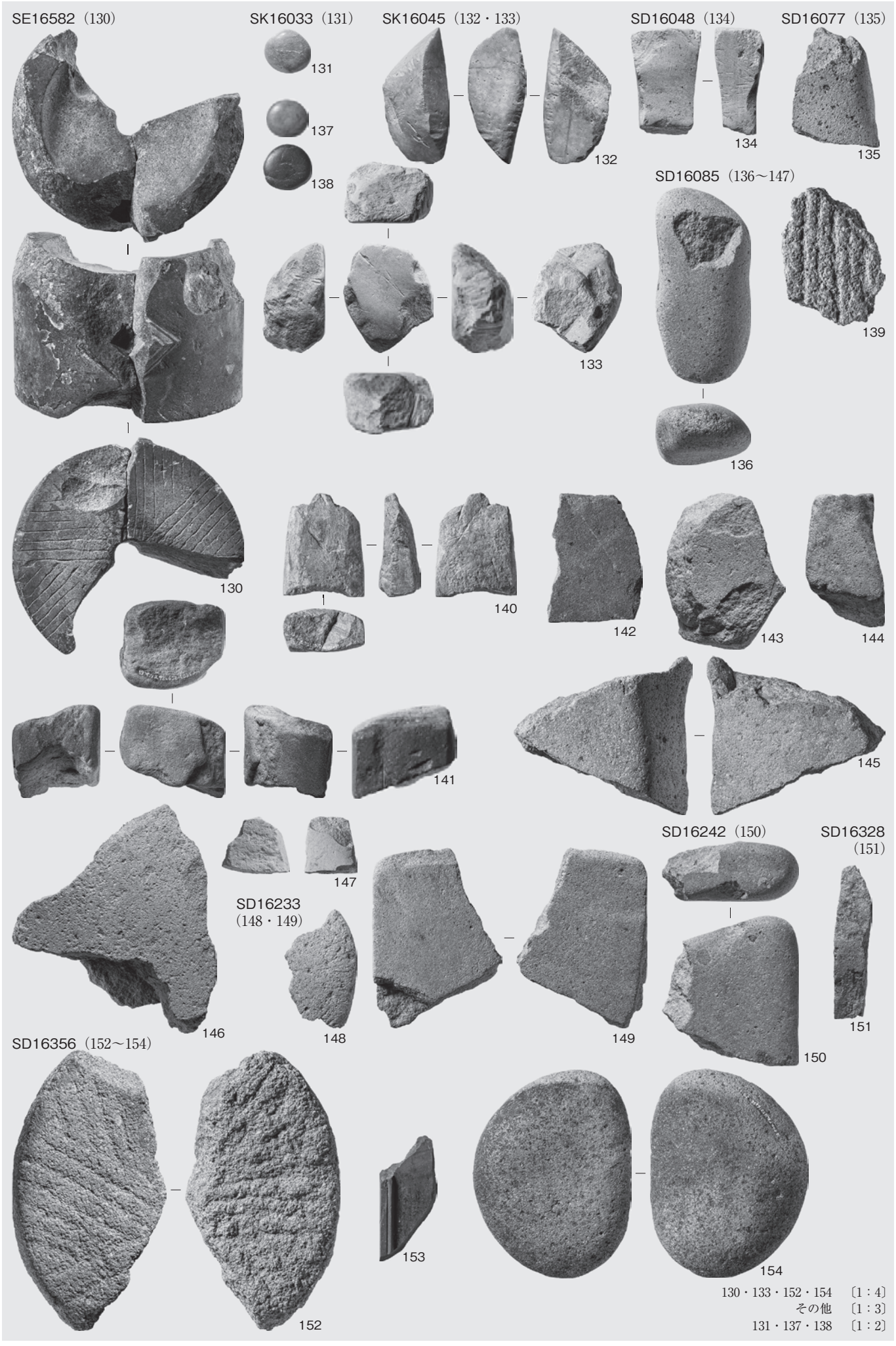
SE16444（126～128）

126

128

127

121・125・127・129　〔1：4〕
その他　〔1：3〕

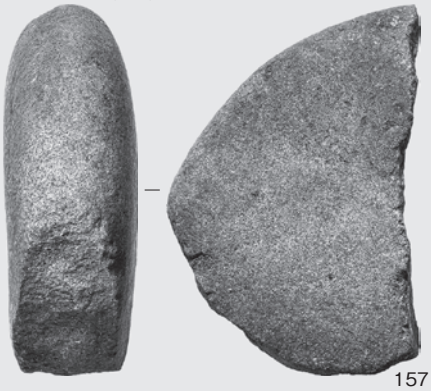

SE16582（130）
SK16033（131）
131
137
138
SK16045（132・133）
132
133
SD16048（134）
134
SD16077（135）
135
SD16085（136～147）
136
139
130
140
142
143
144
141
145
SD16242（150）
SD16328
（151）
147
SD16233
（148・149）
146
148
149
150
151
SD16356（152～154）
152
153
154
130・133・152・154　〔1：4〕
その他　〔1：3〕
131・137・138　〔1：2〕

SD16356
（155・156）

155

156

SD16383（157）



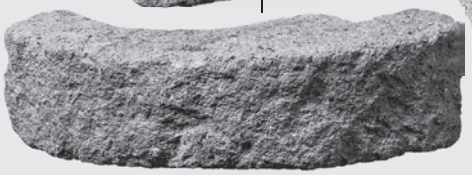
157

P16228（158・159）

159

158

遺構外（161・162）



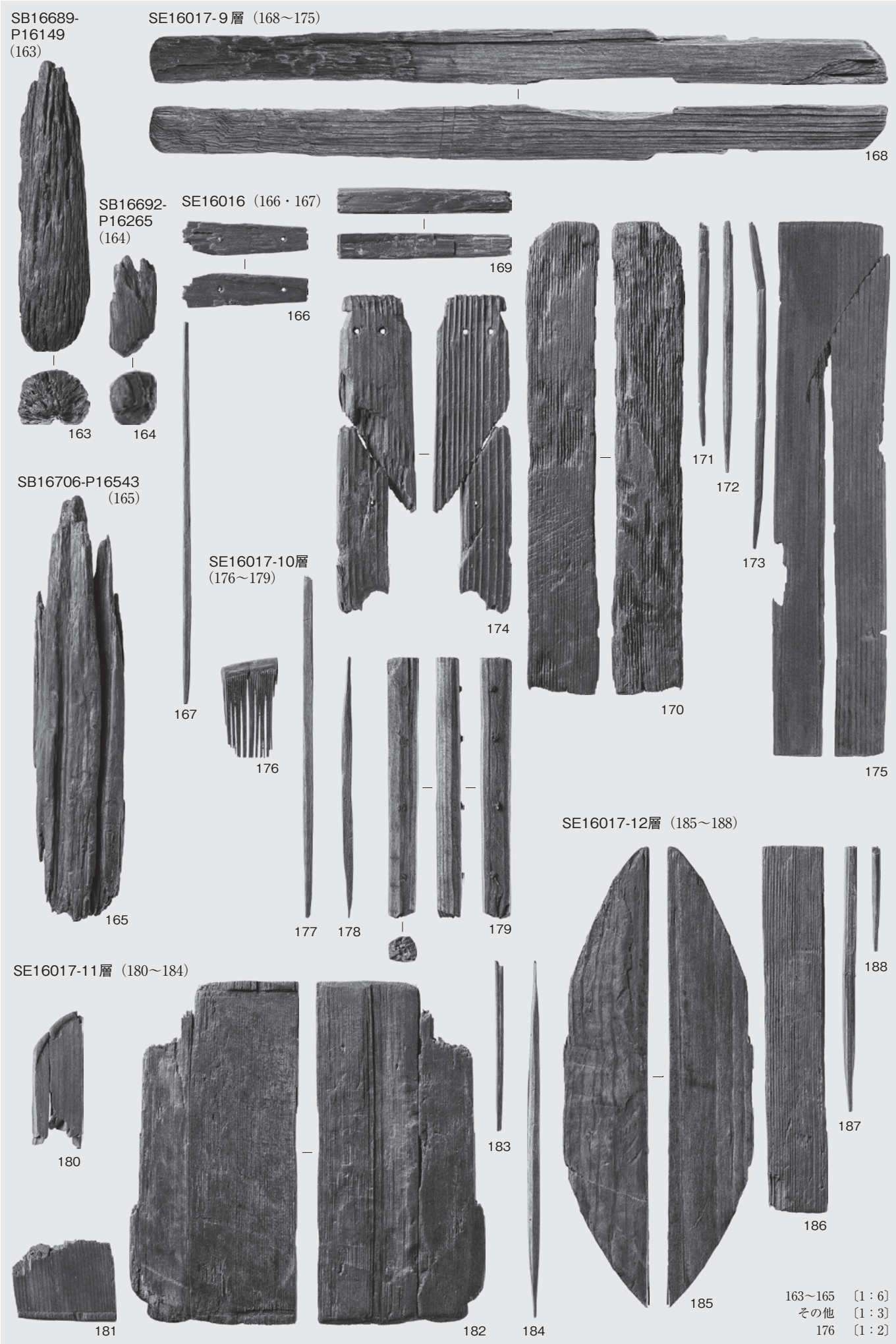
161

162

P16519（160）

160

155・158・161・162　〔1：4〕
その他　〔1：3〕


SB16689-P16149（163）
SE16017-9層（168～175）
168
SB16692-P16265（164）
SE16016（166・167）
169
166
163
164
SB16706-P16543（165）
SE16017-10層（176～179）
174
171
172
173
167
170
175
176
165
177
178
179
SE16017-12層（185～188）
188
SE16017-11層（180～184）
183
187
180
186
185
181
182
184
163～165　〔1：6〕
その他　〔1：3〕
176　〔1：2〕

SE16028（189～194）

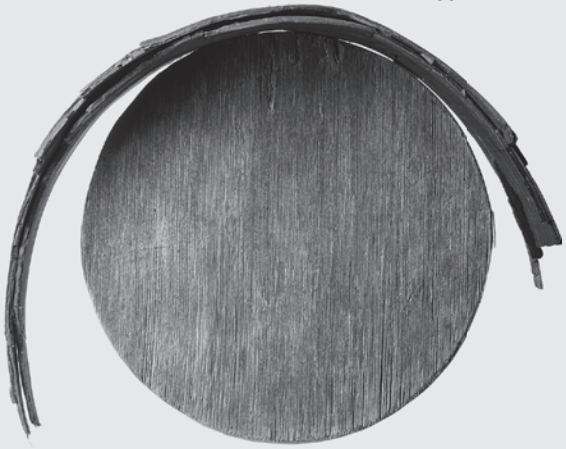
SE16031（195～204）

SE16037（205）

〔1：3〕

SE16103（206～210）

206


207

209

210

SE16202（212）

212

SE16295（215・216）

215

208

SE16264（213・214）

213

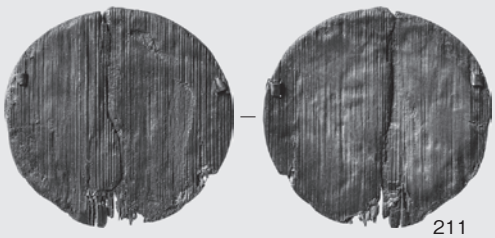
214

216

SE16296（217）

217

SE16110（211）


211

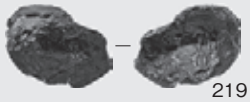
209・210　〔1：4〕
その他　〔1：3〕

SE16311（218）

〔1：10〕

218

SE16319（219・220）



219

220

SE16340（221）

221

SE16348（222・223）

222

223

SE16372B（224）

224

SE16396（225～227）

225

226

227

SE16443（228）

228

SE16477（229）

229

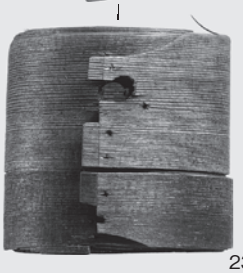
SE16561（230）

230

SE16567（231）

231

SE16582（232・233）



232

233

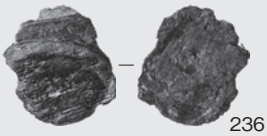
227　〔1：6〕
その他　〔1：3〕

SE16623（234・235）

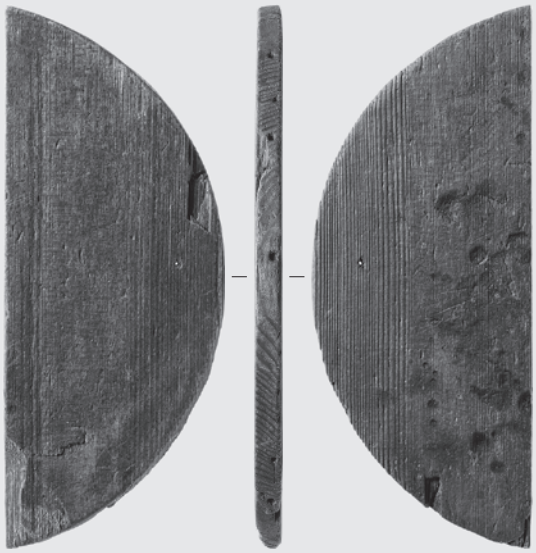
234

235

SE16644（236～239）



236



237

239

SX16050（242）

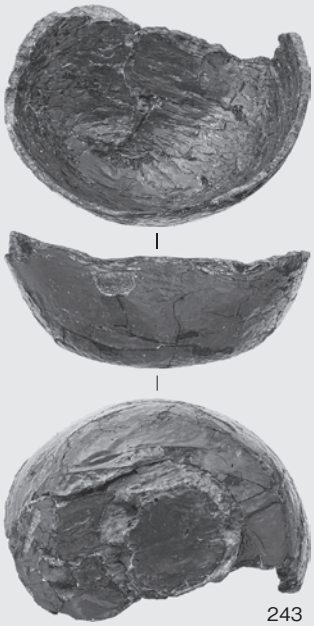
242

238

SE16677（240）

240

SX16540（243）



243

P16337（244）

244

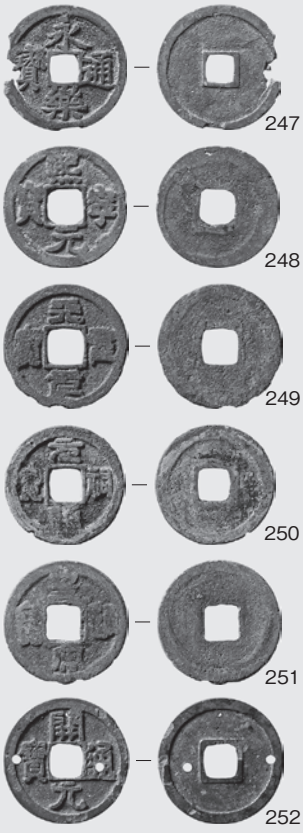
P16342（245）

245

杭列（246）

246

SK16667（247～252）



247

248

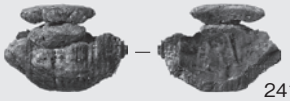
249

250

251

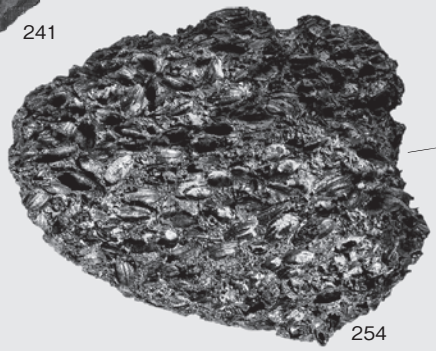
252

SK16667（241）

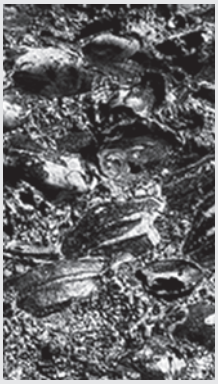


241

SE16295（254）



254



〔3：1〕

SX16050（253）

253

239・244～246　〔1：6〕
234　〔1：5〕
238・242　〔1：4〕
その他　〔1：3〕
247～253　〔2：3〕
254　〔1：1〕

北区北西壁面　層序（南東から）

北区北壁面（西側）　層序（南から）

北区北壁面（東側）　層序（南から）

北区東壁面（北側）　層序（西から）

北区東壁面（南側）　層序（西から）

北区南壁面（東側）　層序（北から）

北区南壁面（西側）　層序（北から）

北区南西壁面　層序（北東から）

北区西壁面（南側）　層序（東から）

北区西壁面（北側）　層序（東から）

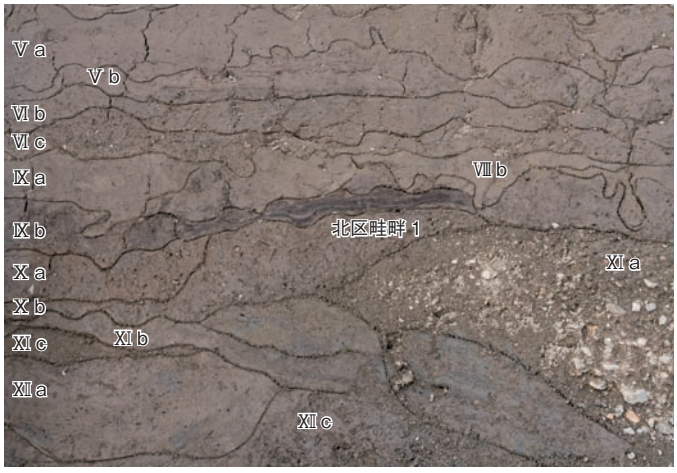
北区中央ベルト１（西→東）　層序（南から）

北区中央ベルト２（西→東）　層序（南から）

北区中央ベルト３（西→東）　層序（南から）

北区中央ベルト４（西→東）　層序（南から）

北区中央ベルト５（西→東）　層序（南から）



北区北西壁（5C19）　層序（南東から）

北区東壁（7E8）　層序（西から）

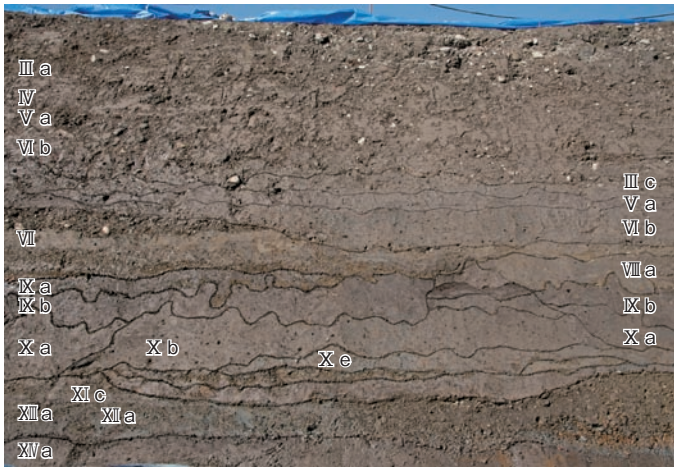
北区東壁（7F2）　層序（西から）

北区南壁（6G14）　層序（北から）

北区南壁（5F22・5G2）　層序（北から）

北区南壁（4F25）　層序（北から）

北区西壁（4F9・10）　層序（東から）



北区西壁（4E15）　層序（東から）

北区西壁（5D12）　層序（東から）

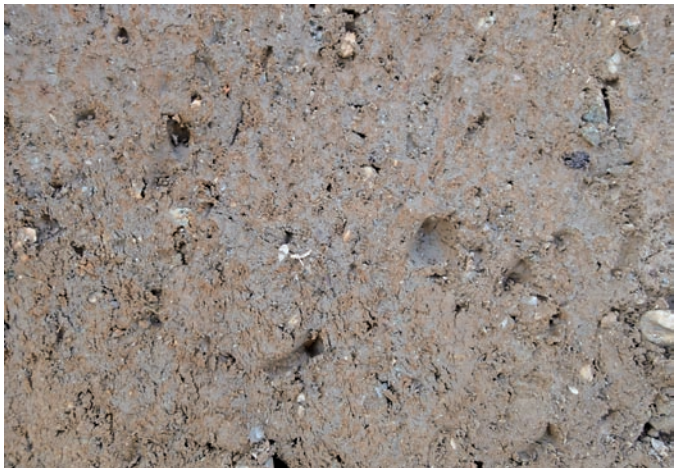
Ⅴａ層水田耕作土

Ⅴｂ層（自然堆積層）

Ⅵｂ層水田耕作土

Ⅸｂ層水田耕作土

Ⅸｂ層擬似畦畔Ｂ（自然堆積層）



Ⅹａ層水田耕作土

Ⅹｂ層（北区畦畔１）

北区中央杭列（5・6D、5E）　検出状況（南東から）

南区北壁面（西側）　層序（南から）

南区北壁面（東側）　層序（南から）

南区東壁面　層序（西から）

南区南壁面　層序（北から）

南区西壁面　層序（東から）

南区南・西壁（4I3・8）　南区畦畔４（北東から）

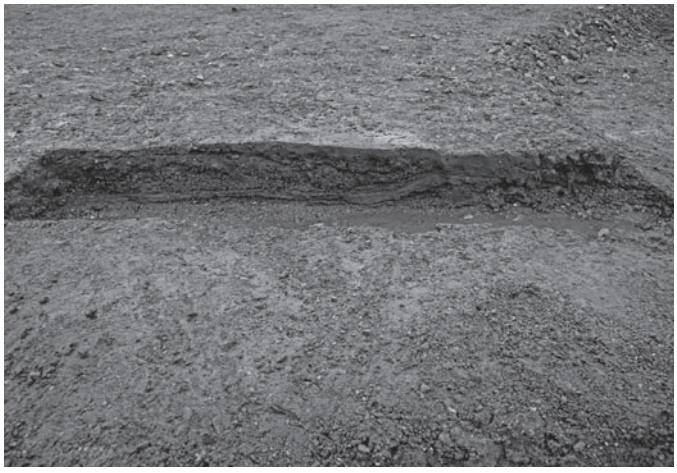
南区西壁（4H18・23）　南区畦畔１・10（東から）

南区西壁（4H8・13）　南区畦畔６（東から）

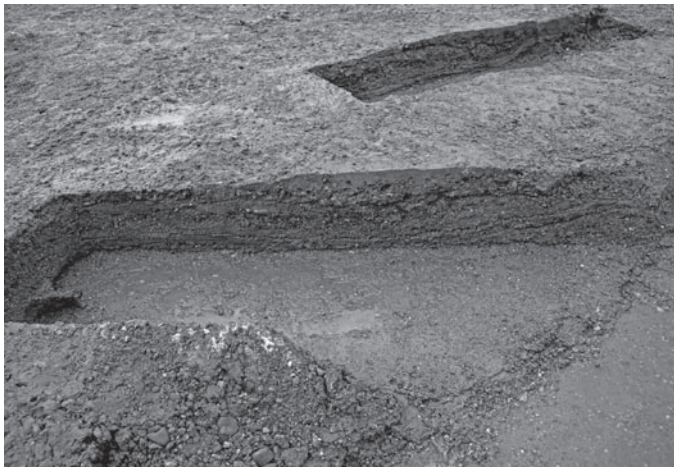
北区　Ｘａ層　検出状況（南西から）

北区　水田１・２　検出状況（南東から）

北区　水田１・２A-A'　断面（南東から）

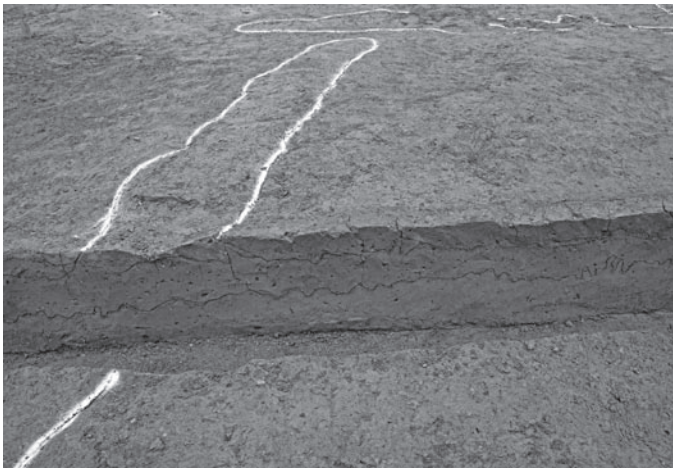


北区　水田１・２B-B'　断面（北から）

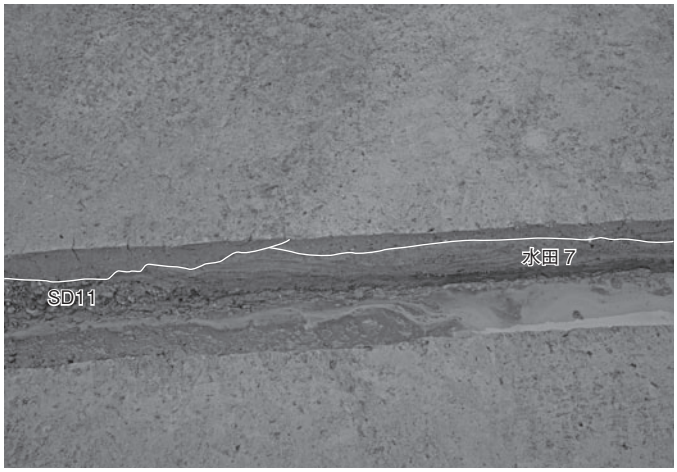


北区　水田１・２C-C'　断面（北東から）

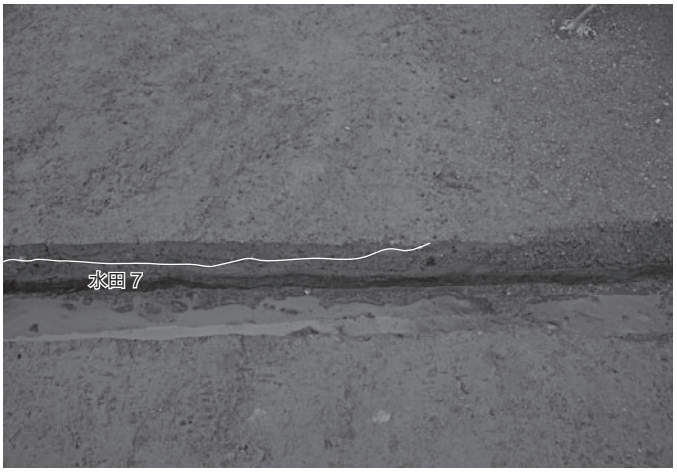
北区　水田５・北区畦畔２・SD4（東西トレンチ１）　断面（南から）



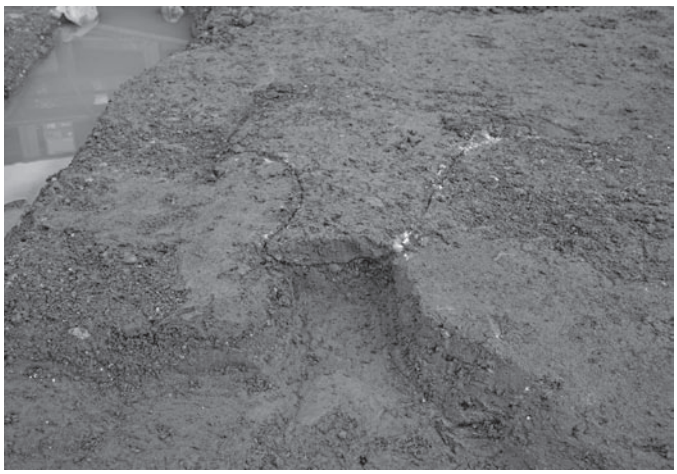
北区　水田５・北区畦畔４（東西トレンチ１）　断面（南から）



北区　水田７・SD11（東西トレンチ２）　断面（南から）



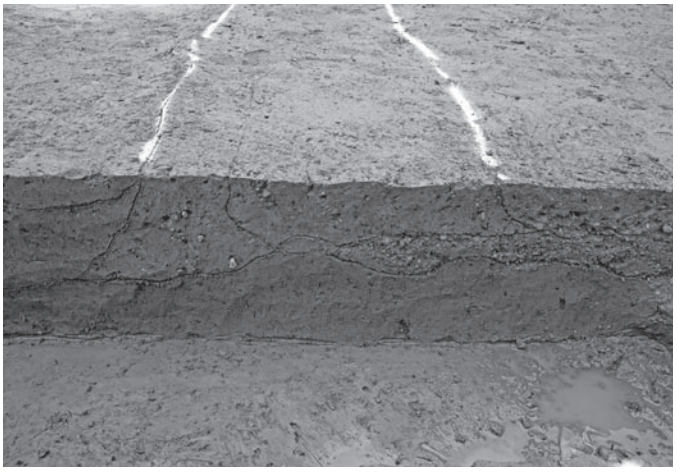
北区　水田７（東西トレンチ２）　断面（南から）



北区　水田７水口　断面（西から）

北区　水田７　須恵器（３）出土状況（東から）

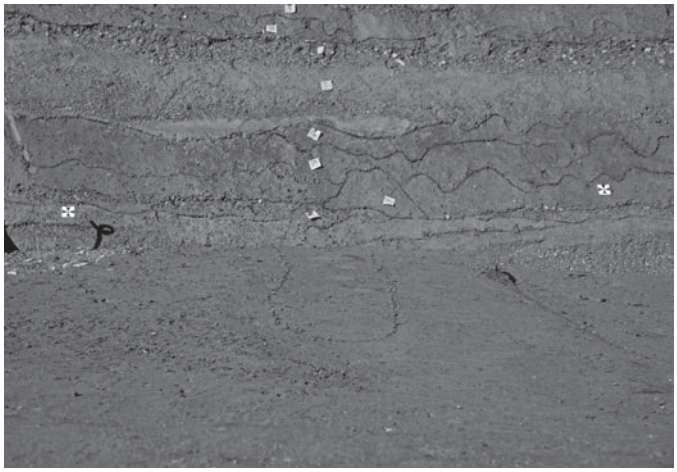
北区　水田７　完掘（南から）



北区　水田８・北区畦畔１（東西トレンチ３）　断面（南東から）

北区　水田８　完掘（東から）

北区　北区畦畔１（Ｘａ層）　検出状況（北西から）



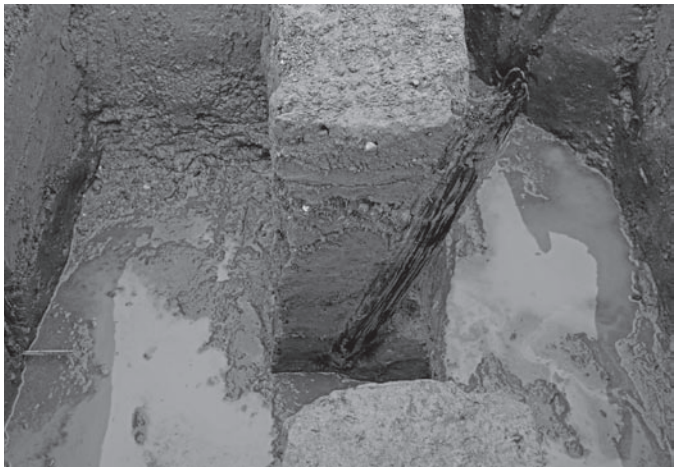
北区　北区畦畔５（Ｘａ層上面）　検出状況（東から）

北区　西杭列・杭３（10）　断面（北から）

北区　西杭列・杭４　断面（南東から）

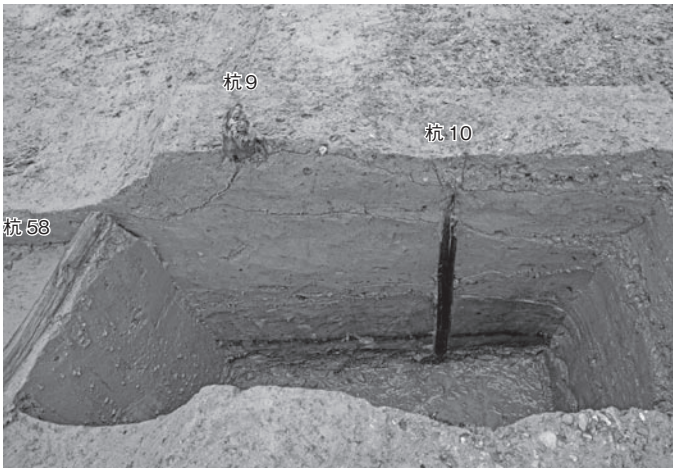
北区　西杭列・杭５　断面（南東から）

北区　西杭列・杭６（11）　断面（南東から）

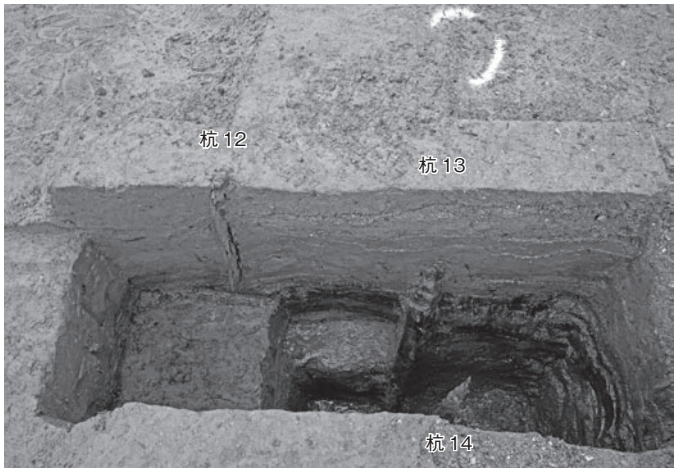


北区　西杭列・杭７（12）　断面（西から）

北区　西杭列・杭８（13）　断面（南東から）



北区　西杭列･杭９（14)･58（18)、中央杭列･杭 10（20）　断面（南から）

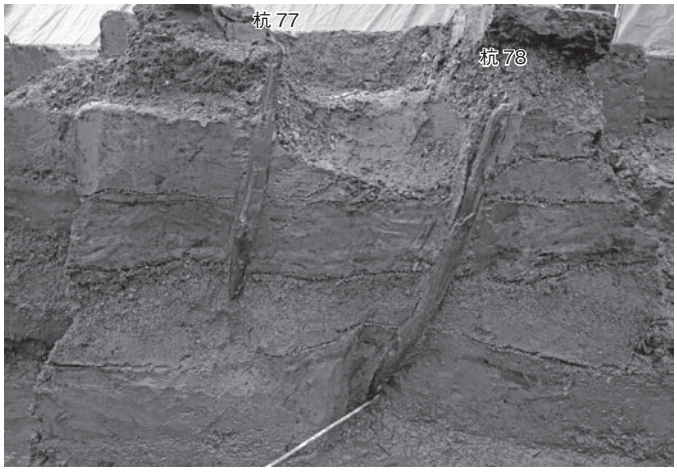


北区　西杭列・杭 12（16)、中央杭列・杭 13（23）　断面（南から）

北区　西杭列・杭 15（15）　断面（南から）

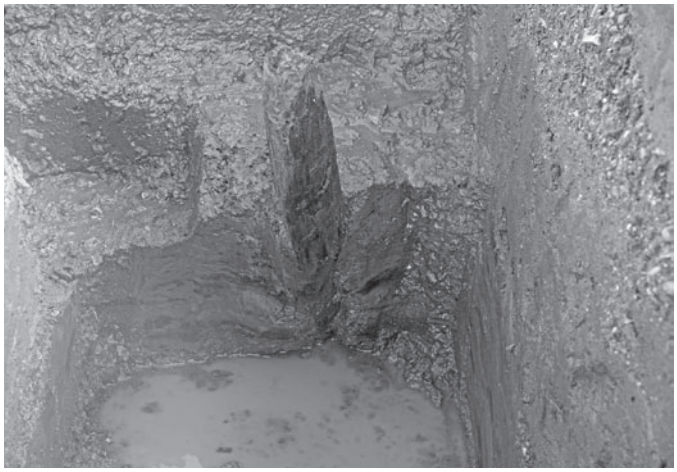
北区　西杭列・杭 60（17）　出土状況（西から）

北区　中央杭列・杭 55　断面（北から）



北区　中央杭列・杭 77・78　断面（東から）

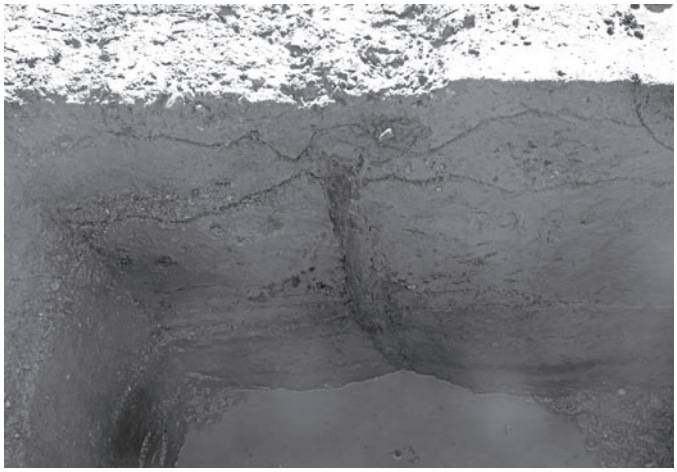
北区　中央杭列・杭 57　断面（南から）



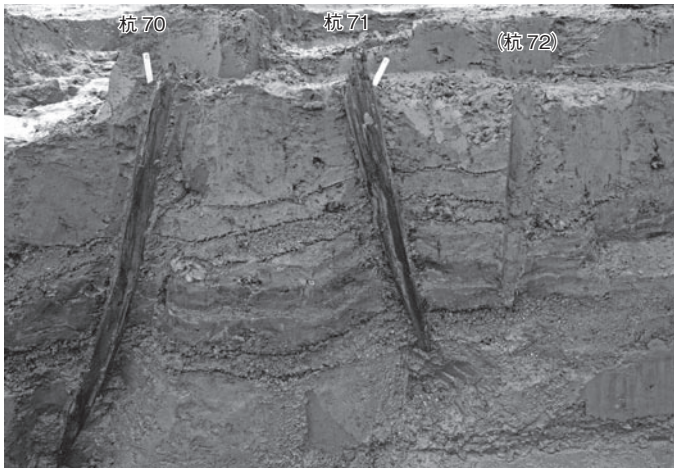
北区　中央杭列・杭 56（19）　断面（西から）

北区　中央杭列・杭 73 ～ 76　断面（東から）

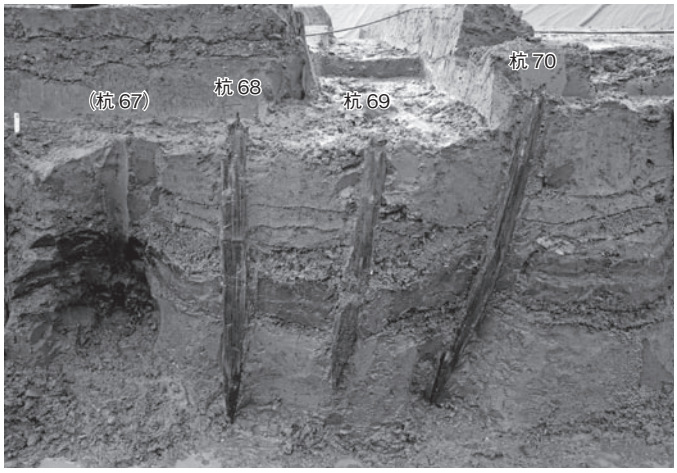
北区　中央杭列・杭 11（21）・59　断面（北から）



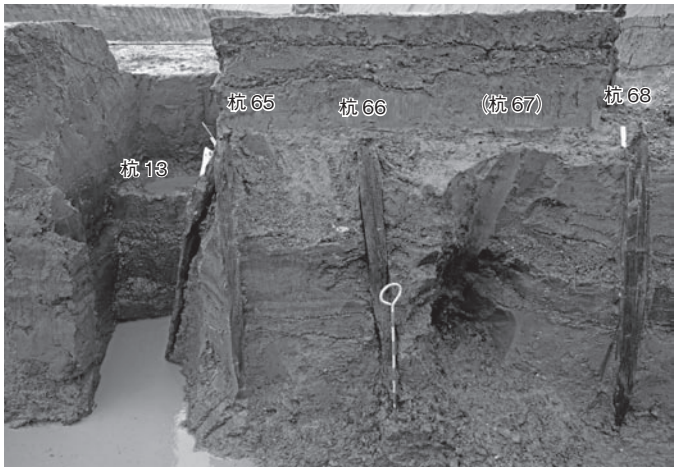
北区　中央杭列・杭 59　断面（北から）



北区　中央杭列・杭 70 ～ 72　断面（東から）

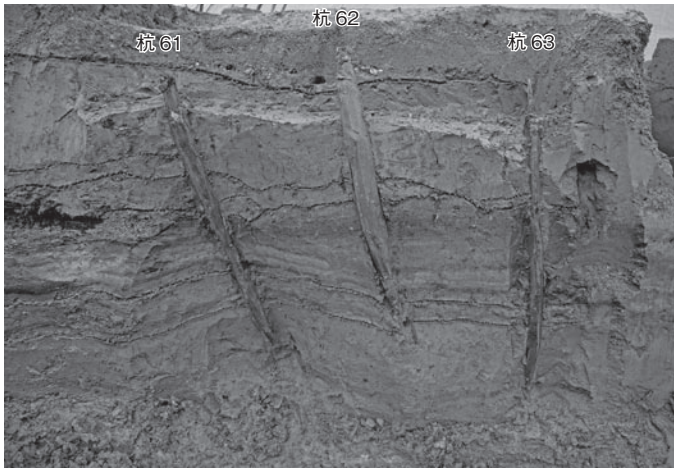


北区　中央杭列・杭 67・68・69（22）・70　断面（東から）

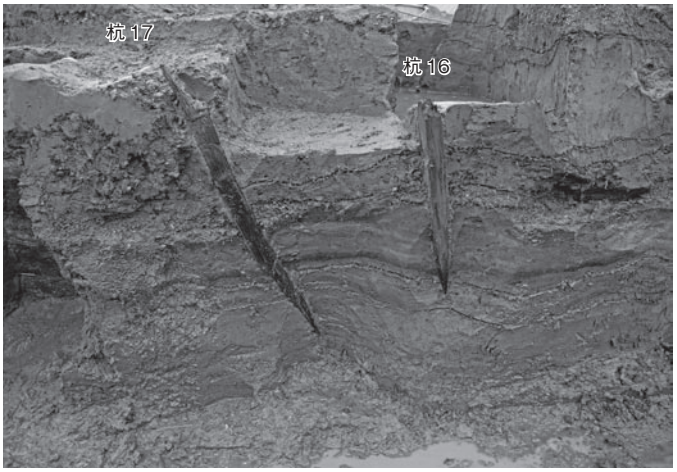


北区　中央杭列・杭 13（23）・65 ～ 68　断面（東から）

北区　中央杭列・杭 14（24）　断面（北から）



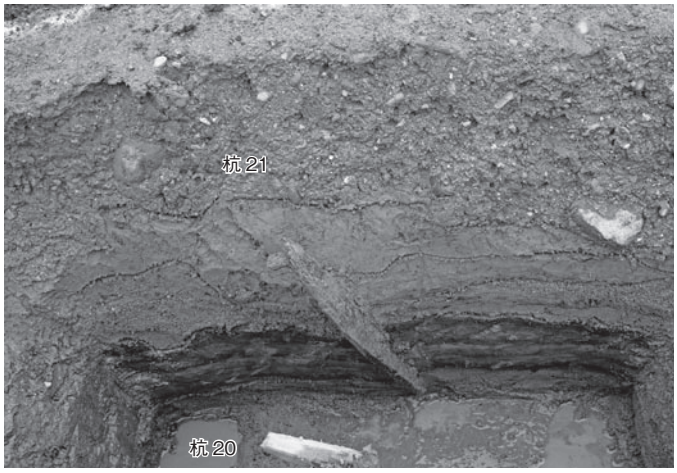
北区　中央杭列・杭 61 ～ 63　断面（東から）



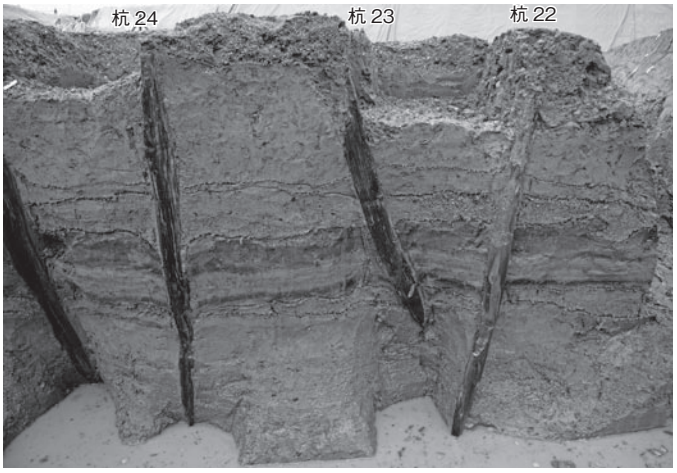
北区　中央杭列・杭 16・17　断面（東から）

北区　中央杭列・杭 18　断面（南から）

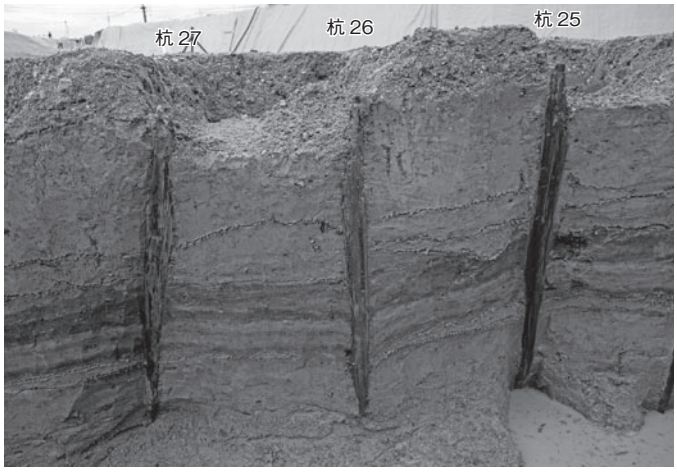
北区　中央杭列・杭 19（25）　断面（北から）



北区　中央杭列・杭 21　断面（北から）



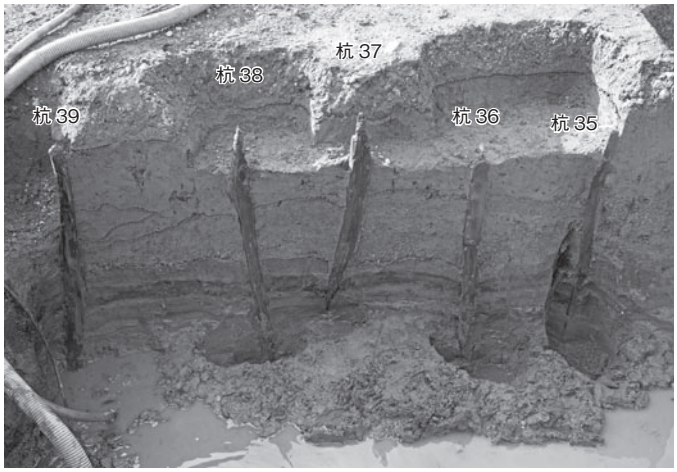
北区　中央杭列・杭 22 ～ 24　断面（東から）



北区　中央杭列・杭 25 ～ 27　断面（東から）

北区　中央杭列・杭 28・29　断面（東から）

北区　中央杭列・杭 30・31・32（27）　断面（東から）



北区　中央杭列・杭 35 ～ 37・38（28）・39　断面（東から）

北区　中央杭列・杭 41（29）　断面（南から）

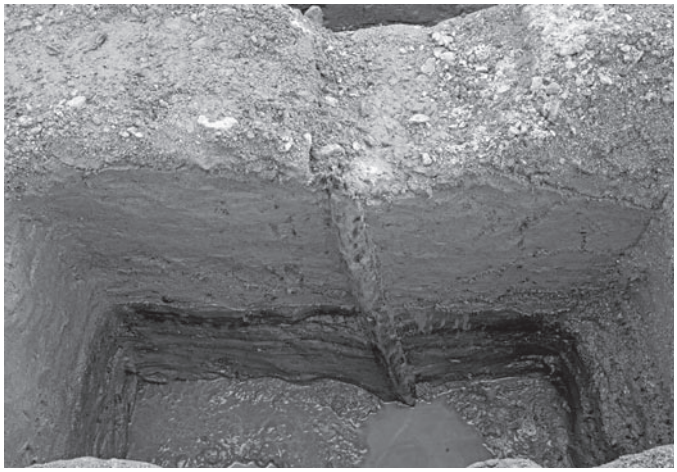
北区　中央杭列・杭 42　断面（北から）

北区　中央杭列・杭 43　断面（南から）

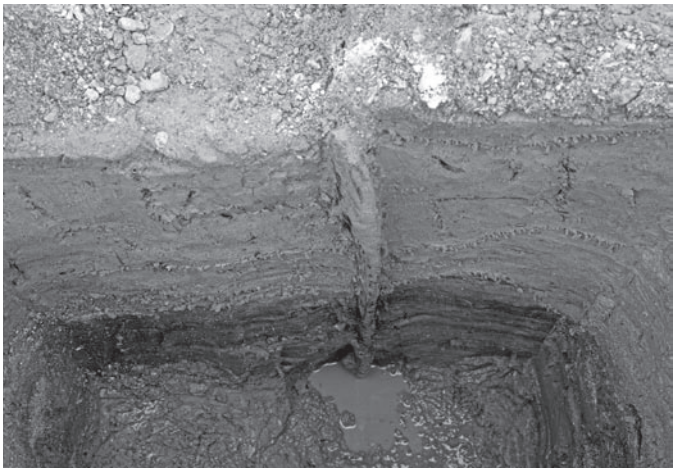
北区　中央杭列・杭 44　断面（北から）

北区　中央杭列・杭 45　断面（南から）

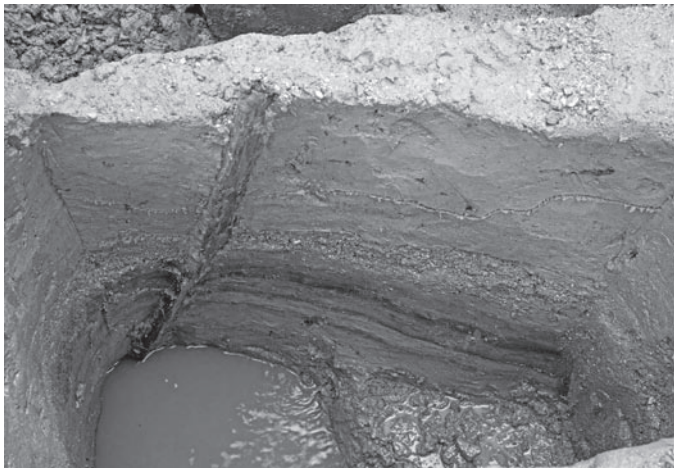
北区　中央杭列・杭 46　断面（北から）



北区　中央杭列・杭 48　断面（北から）



北区　中央杭列・杭 49　断面（南から）



北区　中央杭列・杭 50　断面（北から）

北区　中央杭列・杭 51・52　断面（東から）

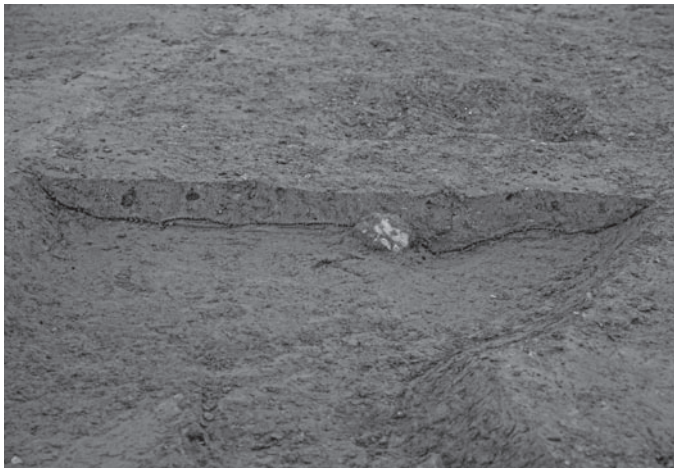
北区　中央杭列・杭 53　断面（北から）

北区　中央杭列・杭 54　断面（南から）

北区　東杭列・杭２（30）　断面（南から）

北区　東杭列・杭１（31）　断面（南から）

北区　東杭列・杭 79（32）　出土状況（南東から）

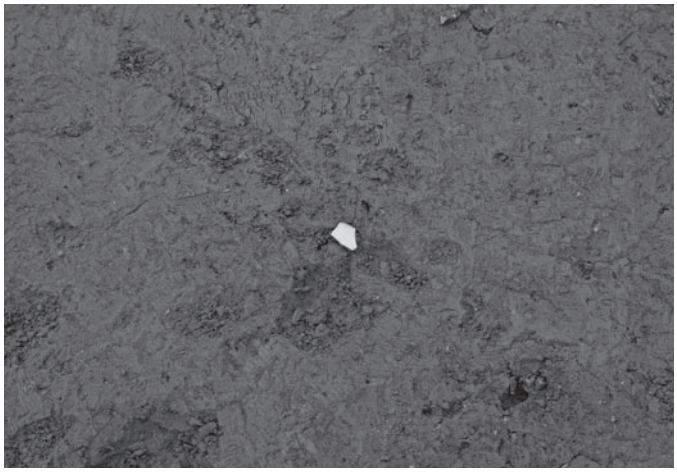


北区　SD4　断面（南から）

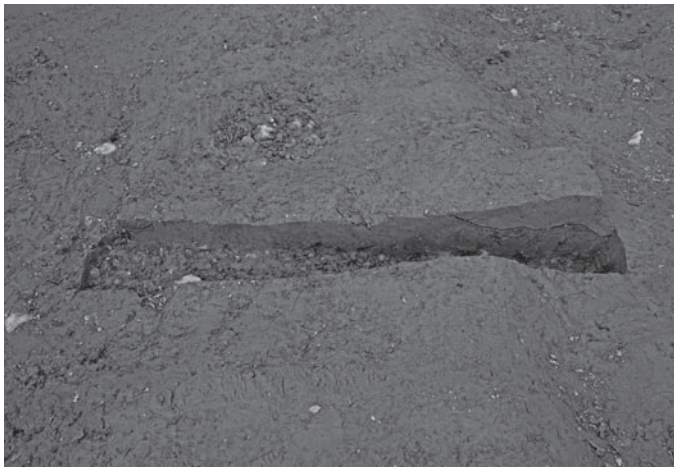
北区　SX3　断面（東から）

北区　SX3　完掘（東から）

南区　Ｖａ層上面　検出状況（南から）

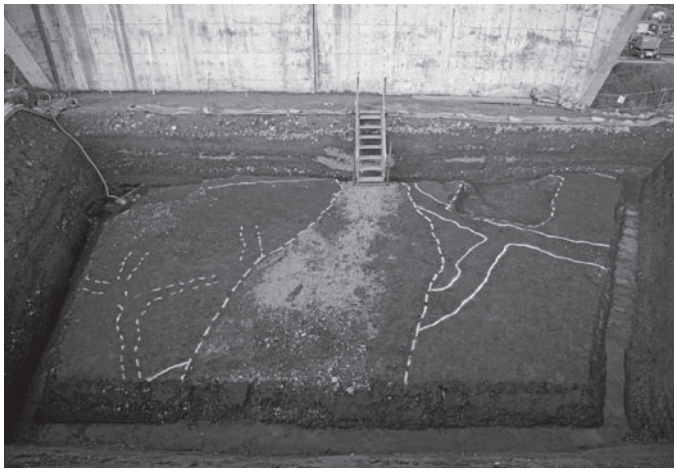


南区　Ｖａ層上面（4H14）　肥前磁器皿（２）出土状況（東から）



南区　南区畦畔１A-A'　断面（東から）

南区　南区畦畔１B-B'　断面（南から）



南区　Ⅸａ層上面　検出状況（南から）

南区　Ⅸａ層上面　遺構検出作業状況（南から）

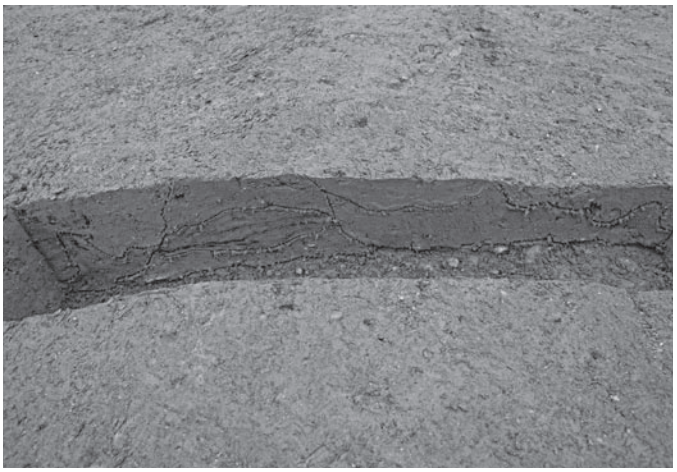
南区　Ⅸｂ層上面　検出状況（南から）

南区　南区畦畔３・４・12A-A'　断面（東から）

南区　南区畦畔３・４・12B-B'　断面（東から）

南区　南区畦畔３・４・12C-C'　断面（南西から）

南区　南区畦畔３・４・12D-D'　断面（南東から）



南区　南区畦畔３・４・12E-E'　断面（南から）

南区　南区畦畔６　断面（東から）

南区　南区畦畔７　断面（北から）

南区　南区畦畔８　断面（東から）

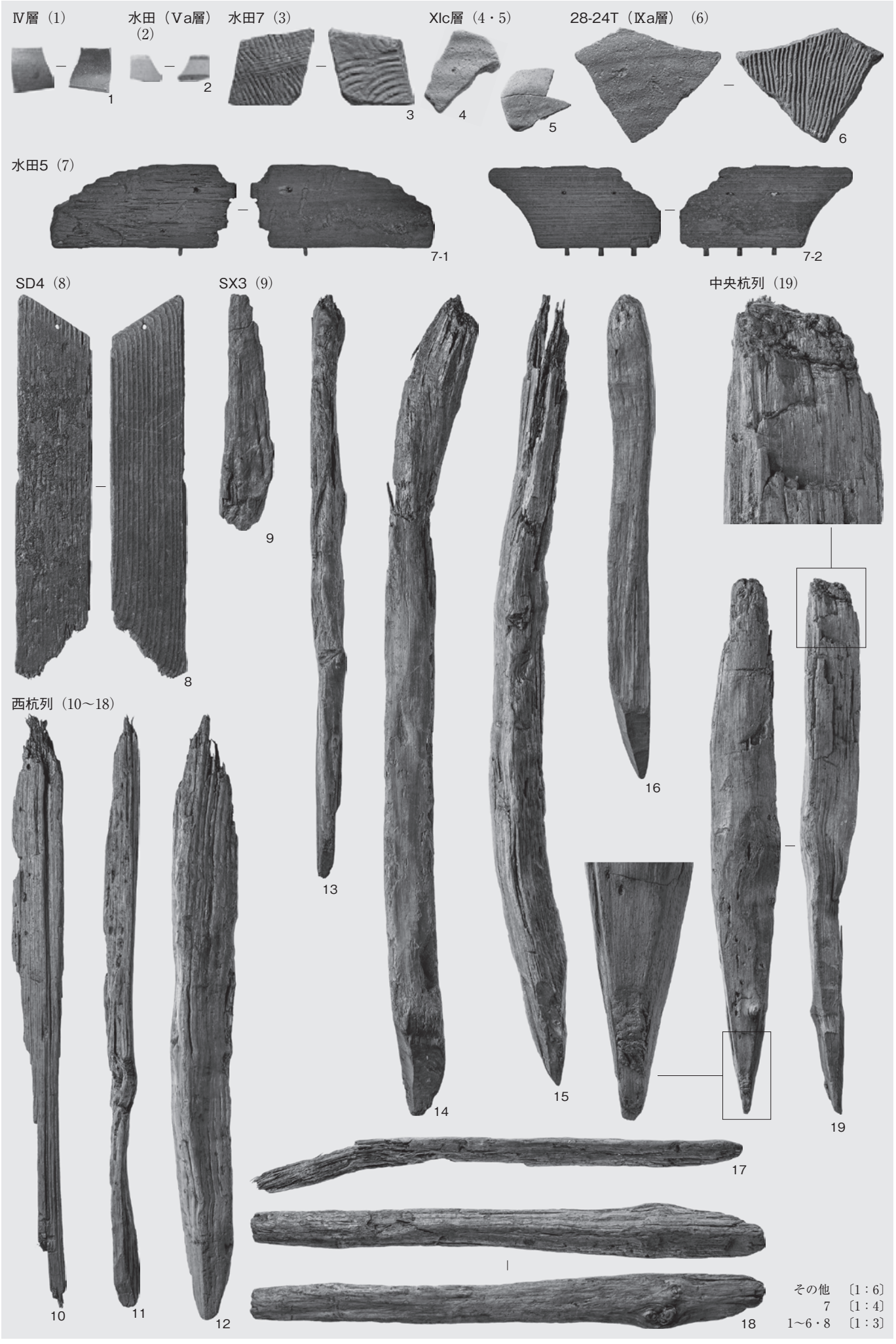
南区　南区畦畔９　断面（北から）

南区　南区畦畔 10　断面（東から）

南区　南区畦畔 11　断面（北から）

南区　SX ６　断面（北から）

南区　SX ６　完掘（北から）


Ⅳ層（1）
水田（Va層）（2）
水田7（3）
XIc層（4・5）
28-24T（Ⅸa層）（6）
水田5（7）
SD4（8）
SX3（9）
中央杭列（19）
西杭列（10～18）
1
2
3
4
5
6
7-1
7-2
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
その他　〔1：6〕
7　〔1：4〕
1～6・8　〔1：3〕

中央杭列（20～29）
東杭列（30～32）
27-14T（33）
21
20
22
24
23
25
26
27
28
29
30
31
32
33
28-25T（Ⅵb層）（34）
34
その他　〔1：6〕
34　〔1：3〕

報 告 書 抄 録

ふりがな	おかえいせきご　だいななじちょうさ・たくみだいせき
書名	丘江遺跡Ⅴ　第７次調査・工田遺跡
副書名	一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書 一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書
巻次	18・３
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第288集
編著者名	南波　守・松井奈緒子（株式会社大石組）、鈴木俊成（埋文事業団）、井上智仁・金井慎司・斉藤崇人・田中義文・馬場健司・松元美由紀（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 株式会社 大石組
所在地	〒956−0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地１　　TEL 0250（25）3981 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒940−8521　新潟県長岡市南町２丁目４番４号　　TEL 0258（35）5511 株式会社 大石組
発行年月日	2020（令和２）年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おかえいせき 丘江遺跡	にいがたけんかしわざきしいばらめ 新潟県柏崎市茨目 ３丁目	15205	1010	37° 21′ 49″	138° 34′ 55″	20180507 ～ 20181001	2,574㎡	一般国道８号 柏崎バイパス建設
たくみだいせき 工田遺跡	にいがたけんうおぬましおおうら 新潟県魚沼市大浦 あざたくみだ 字工田	15225	287	37° 11′ 42″	138° 57′ 06″	20181001 ～ 20181205	803㎡	一般国道 17 号 浦佐バイパス建設

所収遺跡名	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
丘江遺跡	集落跡	鎌倉～ 室町時代	掘立柱建物 24 棟、柵２基、井戸 81 基、土坑 21 基、溝 17 条、性格不明遺構７基、ピット	土器・陶磁器類（土師質土器、珠洲焼、瀬戸美濃焼、瓦器、青磁、白磁）、石製品（茶臼、石臼、砥石、硯、碁石もしくは双六子）、木製品（櫛、下駄、漆器、曲物、箸、筆、杭、柱根）、銭貨	瀬戸美濃焼小天目椀や茶臼などの茶道具が出土
	集落跡 生産遺跡	近世 ～近代	井戸４基、溝１条、性格不明遺構２基、杭列、ピット、土塁１基	陶磁器（肥前系）、木製品（漆器、棒状木製品）、銭貨	17 世紀末～ 18 世紀の居住域と 19 世紀以降に築造された土塁を検出
工田遺跡	生産遺跡	中世 ～近世	水田５（畦畔 17 条）、溝５条、性格不明遺構２基、杭列３	土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、陶磁器、木製品、杭	中世から近世にかけての水田遺構や杭列を検出

要約

丘江遺跡Ⅴ　柏崎平野を北流する鯖石川左岸の沖積微高地に立地する。

下層：13 世紀後半から 15 世紀後半の集落であるが 15 世紀前半に一時衰退する。集落の最盛期は 14 世紀後半である。13 世紀後半から続く区画溝で囲まれた屋敷地とその周辺から多くの小型掘立柱建物や井戸・土坑などを検出した。多数検出した井戸の一部は畑作用を想定した。出土品には希少な茶道具や識字者の存在を裏付ける筆・硯が含まれることから有力者の存在は否定できないが、農具や農業関連と推測した各種の砥石や井戸の存在からは農業を生産基盤とした生活がうかがえる。集落衰退後の 15 世紀後半以降のある時期に一帯は水田に変貌する。

上層：調査区南側で遅くとも 17 世紀末以降から近・現代に続く居住域が出現する。これが単体の屋敷なのか東側に広がる集落の端部なのかは不明。この地区は江戸時代末から明治時代にかけて土塁を伴う屋敷となり、その造成土から 19 世紀第４四半期の石見焼の甕が出土した。

工田遺跡　魚野川の支流の三用川右岸の氾濫原に立地する。遺跡の時期はわずかな出土品とその放射性炭素年代測定から 13 世紀後半～近世で、この間に複数枚の水田面を検出した。水田遺構としては平面で確認できたものは少なく、ほとんどが土層断面で検出した耕作土と畦畔及び疑似畦畔である。調査区は三用川に近く、洪水堆積土のシルトと腐植土の互層土や湿潤な環境で形成された腐葉土を人為的に撹拌し水田耕作土としている。また、水田域には勾配があり、水田造営に多少なりとも切り盛りが伴ったと推測され、水田区画も小さい。また、勾配を利用したおおよその水回りも復元できた。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第288集
一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書18
丘 江 遺 跡 Ⅴ　第７次調査
一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書３
工 田 遺 跡

2020(令和２)年３月31日印刷
2020(令和２)年３月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950−8570　新潟市中央区新光町４番地１
電話　025（285）5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956−0845　新潟市秋葉区金津93番地１
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社第一印刷所　中越支店
〒940−0864　新潟県長岡市川崎５丁目442－１
電話　0258（34）6300